
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①講義の目標

高崎健康福祉大学（健大）を知り、健大への理解と自身の所属学科以外の他学科の理解をもとに、多様な職種に対する理解や自校理解の礎を作る。

健大の精神「自利利他」は、「人の喜びを自分の喜びとする心」であり、学生生活から将来に至るまで様々な局面での行動・成長基盤となりうるものである。健大精神のあり方を考えるきっかけとなる講義を行い、成長につなげる。SDGs（Sustainable Development Goals）は、持続可能な未来を形成するために意識すべき目標である。SDGsを知り、また具体的な関わりの例などから考えることで、様々な局面で貢献する為の素養を身につける。

以上を通じて、Well-being社会に貢献する人材へ成長するための基盤構築を本講義の目標とする。

②講義の実施方法

全講義オンデマンド式とする。

1. 講義の開講について

講義は第1回から9回までの講義で構成される。原則として毎週水曜日15時に1講義分の動画が公開されるので、各自で受講時間を確保して学習を進める。公開から1週間以内にオンラインシステムのリンクからアクセスし、講義動画視聴を行い、その後、オンラインシステム内で小テストを実施すること。

なお、動画へのアクセスは、高崎健康福祉大学Googleアカウントにログインした状態でのアクセスが必要となる。第1回の講義前、各学科ガイダンス等の中で受講方法に関する説明があるのでその指示に従い、各自で受講準備を行う事。

2. 講義の出席について

原則、各学科が1回を担当し学科の理解、学科における自利利他・SDGsとの関わりについて例を含めながら講義を行う。講義動画へのアクセスと小テスト実施をもって出席とする。

3. 講義後の入力提出について

講義視聴後に自身が感じた自利利他やSDGsへの考え、講義の感想など思った事をオンラインシステム上からアンケートに回答すること。アンケートは自由記述とするが講義改善の指標とするので、積極的な参加を期待する。

到達目標



1. 健大の学部・学科について知り、理解を深める。
2. 健大精神「自利利他」を知り、理解を深める。
3. SDGsを知り、理解を深める。■

使用教材



各講義回で利用する資料・教材がある場合にはオンラインシステムを通じて電子ファイルで配布を行う。

評価方法



第1回の受講（4%）と各講義回の講義動画閲覧と小テスト：2～9回（各12%）の合計100%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



小テストは点数のみ公開する。不正解の問題があった場合には講義を再視聴し、公開期間内に小テストをやり直したのち、自身の考えを醸成させること。小テストは再解答を3回まで認めるので、各自で適宜復習を行い、考えを発展させてほしい。

オフィスアワー



質問はオンラインシステムの連絡機能やメールで受け付ける。対面による質問を希望する場合はメールで事前に相談すること。

情報：松尾（1号館607研究室）

福祉：出雲（1号館511研究室）

栄養：高梨（3号館研究室）

薬：松岡（7号館312研究室）

看護：吉田久（5号館410研究室）

理学：中川（4号館413研究室）

子ども：栗原（8号館 学部長室）

農：橋田（10号館604研究室）

メールアドレス（#→@）



情報：松尾

matsuo#takasaki-u.ac.jp

福祉：出雲

izumo-s#takasaki-u.ac.jp

栄養：高梨
 takanashi-m#takasaki-u.ac.jp
 薬：松岡
 isao#takasaki-u.ac.jp
 看護：吉田久
 yoshikumi#takasaki-u.ac.jp
 理学：中川
 nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp
 子ども：栗原
 kurihara-y#takasaki-u.ac.jp
 農：橋田
 hashida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	本学の歴史、大学としての自利利他、SDGsの考え（高崎健康福祉大学 学園長、学長）。	1, 2, 3	自利利他の意味、SDGsについて調べておく。 自身の端末で高崎健康福祉大学のアカウントにログオンできるようにしておく（各学科ガイダンス等で受講法の説明があるので、各自で第1回講義前までにオンライン受講準備を整え、ガイダンス動画を閲覧しておくこと）。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
2	医療情報学科（松尾）：情報技術が支える健康・医療	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
3	社会福祉学科（出雲）：誰も置き去りにしない社会	1, 2, 3	「誰も置き去りにしない社会」や「地域社会における支え合いの意義」について、調べておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。 講義で取り扱ったケースについて調べ、周囲と話しあってみる。	1h
4	健康栄養学科（高梨）：食と健康・福祉・医療	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
5	薬学部（松岡、須藤、高橋、田中）：Well-beingとクスリ	1, 2, 3	薬剤師の業務について調べておく。オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
6	看護学科（吉田、倉林、北原）	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
7	理学療法学科（中川）	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
8	子ども教育学科（栗原）：学校教育とLG	1, 2, 3	LGBTに関する新聞等の報道記事に目を通し、社会の動向を掴んでおく。	1h	講義動画での学びを基に、自身が今後どのような	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	BT ■				な行動をすべきかについて、身近な友人・知人との話し合いを通して明確にする。	
9	農学部（橋田、大政、吉積、石神、松岡、谷）	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h

合計時間（予習・復習）



18h

備考



授業の時間について

記載した予習復習時間で、講義内容の不明点が残る場合には各自で補完すること。

動画へのアクセスについて

各回講義動画の閲覧には、「高崎健康福祉大学のGoogleアカウント」にログオンした状態で端末でアクセスする事が必要です。講義動画にアクセスできない場合、アカウント設定やアクセス方法などを確認するようにして下さい。

質問などについて

各講義回で生じた内容に関する質問は講義回担当者へ、受講法に関する事は自学科担当教員に質問する事。

連絡をオンラインシステム経由で行う際には、「連絡・相談機能」を活用し、所属学科と学籍番号、氏名を記載の上、誰に対するどのような質問かを明記する事。返信がない場合にはE-mailで再度連絡を行う事。

成績評価について

講義回数は全9回で終了だが、成績付与は学期末に行われる。

本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。

なお、令和4年度以前の入学者が本講義を受講する場合は、単位認定時評価は「認定（N）」となり、GPA算出、卒業必要単位の対象外となる。また、履修登録時のCAPのカウントには含めない。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷 

基礎教養ゼミ

MYカモクに追加

英文名：Freshman Seminar (FYE)

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB001

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

町田 修三、長井 茂、小泉 英明

科目に関連した実務経験

小泉：人事、社員教育担当として企業にて勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

Think Pare & Share, Round Robin, 作文添削、個別指導など
小テスト等は採点后返却し解説する

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①充実して実り多い大学生活を送るには、どうしたらいいのだろうか？大学で失敗しないためには、初年時に学生生活の送り方を修得しておくことが極めて大切である。本講義では大学生活のキーとなる、学習方法やレポート執筆等にかかる「学習スキル」、コミュニケーション能力や主体性をはじめとした「ソーシャルスキル」、読み書きや数的能力などの「アカデミックスキル」など、学生にとって必要不可欠なスキルをしっかりと身につけていくことを講義の目標としている。また、

早期にキャリア意識を獲得することも併せて目指している。受講学生には、積極的に講義に参加する受講態度が求められる。

②本講義は複数の担当講師によるオムニバス形式での実施となる。授業では、ジェネリックスキルをつけるため、できる限りアクティブラーニングを取り入れる。日本語作文能力と数学基礎力は、学習支援センターとのコラボレーションで提出と添削を繰り返して涵養を目指す。

到達目標 ↑

- 1.大学での学習生活を確立する。
- 2.基礎学力を確認し、自己学習の方向性をつかむ。
- 3.社会人に必要とされる言葉使い・文章表現を習得する。■
- 4.総合適性検査（SPI）を意識し、対応するための基礎力を養成する。
- 5.キャリアデザインの構築を図るために、社会常識・マナー等を学び、自ら考え、自ら問える力を養う。■
- 6.効果的なアクティブラーニングを自ら体得し、実践できるようになる。

使用教材 ↑

資料、プリント

評価方法 ↑

参加貢献度50%、提出物50%で総合的に評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

提出物・レポート・小テストを返却し、解説をする。基礎力テストや実力テスト後に解説や結果を知らせる。

オフィスアワー ↑

学習支援センター（2号館2階）
月～金開室
以下の時間に質問を受け付ける。
●数的処理→常時
●言語関係・レポート等→木曜3時限

メールアドレス（#→@） ↑

町田：machida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	大学で何を学ぶか（意義と目的）	1	事前にシラバスを読み、目標を確認し、大学生活をプランニングする。	1h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。	1h
2	書くためのスキル（ノート、レポート・論文の書き方）	1,2,3	事前配布した資料に目を通しておく。	1h	ノートテキング、レポートの書き方をマスターする。	1h
3	基礎力テスト（計算／言葉）	1,2,3,4	言語・作文・計算や数式など基礎力を確認しておく。	1h	今までの学習を振り返り、復習する。	1h
4	解くためのワークⅠ（計算）	1,2,4	計算方法や文章題の復習をしておく。	1h	配布した問題の残りを解く。	1h
5	書くためのワークⅠ（文章表現、ライティングGW）■	1,2,3	事前配布した教材に目を通しておく。	1h	添削を受けた作文を書き直す。	1h
6	コミュニケーションスキルⅠ（アクティブラーニングGW）	1,2,6	事前配布した資料に目を通しておく。	1h	自己のコミュニケーションスキルを分析する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	キャリアデザイン I ■	1,2,3	事前配布した教材に目を通しておく。自らの人生設計について考えておく。	1h	自らのキャリアを考え、自己分析する。	1h
8	解くためのワークⅡ (数的処理①)	1,2,4	前回の問題を解いておく。	1h	配布した問題の残りを解く。	1h
9	キャリアデザイン II ■	1,2,5	自らの人生設計について考えておく。	1h	自らのキャリアを考え、自己分析する。	1h
10	書くためのワークⅡ (文章表現、ライティング) ■	1,2,3	事前配布した教材に目を通しておく。	1h	添削を受けた作文を書き直す。	1h
11	解くためのワークⅢ (数的処理②)	1,2,4	前回の問題を解いておく。	1h	配布した問題の残りを解く。	1h
12	読むためのワーク (新聞を読み説く)	1,2,3	事前配布した教材に目を通しておく。	1h	添削を受けた提出物を読み直す。配布した教材を読む。	1h
13	コミュニケーションスキルⅡ (プレゼンテーションGW)	1,2,6	事前配布した資料に目を通しておく。	1h	プレゼンテーション資料を作成してみる興味あるトピックについて発表できるようにする。	1h
14	実力テスト	1,2,3,4	今まで学習した内容を復習しておく。	1h	試験の内容を振り返り、学習する。	1h
15	シンポジウムーより充実した学生生活をめざして	1,2,3,4,5,6	これまでの講義内容を振り返り、どう活用するかを考えておく。	1h	興味あるトピックについて発表できるようにする。大学生活を有意義に過ごすための方策を考える。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

GW＝グループワーク

記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修や課題の作成等で各自必要な学習時間を補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

日本語表現法

MYカモクに追加

英文名：Japanese Expression Method

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB002

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

古澤 良文

科目に関連した実務経験

記者として上毛新聞社に勤務。記事全般、コラムを執筆、読者欄の投稿を添削。

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①日本人の極端な日本語能力低下が問題視される中で、「書き言葉」の表現力を向上させるために、まず自分の考えをまとめ、書くに至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と、生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、自分の考えをいかに文章化するかを修得する。同時に他者の考えを、発言や文面から把握するとともに、その内容に対する自分の意見を構築、交換、指摘する機会を設け、学士力向上を図る。

②現代人がよく間違える慣用句や文章表現について、毎回実例を示しながら説明する。また、高校までに学ぶ機会が少なかったと思われる四字熟語・ことわざなどを、講義時間の一部を使って説明する。小論文を「書く→添削→返却」を3回程度実施する。

到達目標

- 1.自分の「考え」をまとめ、意思表示できる。
- 2.日本語の基礎知識を表現・文法・語彙の三側面から確認し、理解できる。
- 3.日本語表現の基本的ミスを確認し、理解できる。■

- 4.文章の組み立て方を理解し、習得できる。
- 5.日本語表現的に正確な文章が書けるようにする。■

使用教材

^

担当教員作成のプリント。

評価方法

^

筆記試験（80％）・授業参加度（20％）によって総合的に評価する。評価方法の基準は講義時に通達する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

提出した文章の欠点・修正点を謙虚に捉え、新たな文章作成の場に生かし、文章力向上に挑戦する。

オフィスアワー

^

授業の前後1～2時間。

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は授業時に説明する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	原稿用紙の書き方（テーマに基づいて実際に執筆する）■	1	400字詰め原稿用紙の使い方	1.5h	カッコや句読点の書き方 その日の出来事を原稿用紙に書いてみる	1.5h
2	日常生活の心掛け 小テスト（漢字の特殊読み）■	1,4	社会の変動に関心を持つ	1.5h	活字を読む習慣を身に付けるにはどうすべきか考える	1.5h
3	三段論法と逆三角形 小テスト（書けそうで書けない漢字）■	2,4	新聞記事を段落ごとに考えながら読む（新聞は図書館にある）	1.5h	新聞記事を「逆三角形」を意識しながら熟読する	1.5h
4	文章をうまく見せる3カ条 小テスト（同音異義語）■	2,4	1回目にした文章を見直す	1.5h	1回目に書いた文章を書き直してみる	1.5h
5	主語と述語 小テスト（四字熟語ことわざ①）■	2,3	テキストをチェックしておく	1.5h	テキストの悪文例を正しく直す	1.5h
6	小論文執筆（複数のテーマから1つを選んで書く）	1,2,3	4回目のプリントチェック	1.5h	書き足りなかったことがないか	1.5h
7	修飾語 短歌・俳句 小テスト（間違い探し①）■	2,4	文章はリズムが大切 短歌・俳句を作ってみる	1.5h	プリントの悪文例を見直す	1.5h
8	話し言葉と書き言葉 小テスト（四字熟語ことわざ②）■	2,3	「ら」抜き言葉の長所短所	1.5h	話し言葉を書き言葉にしてみる	1.5h
9	「心ひかれる一曲」などテーマに応じてエッセイを書いてみる	1,4	その曲になぜ、心ひかれるのか。具体的な体験を交えて表現する	1.5h	授業で書いたほかにも書いてみる	1.5h
10	センテンスは短く 小テスト（同義語反対語）■	3,4	新聞のコラムを読む	1.5h	悪文例を直す	1.5h
11	小論文執筆（同じ形容詞や動詞を何度も使わないように）■	1,2,3	4回目、7回目のプリント見直し	1.5h	別のテーマで書いてみる	1.5h
12	敬語 小テスト（四字熟語ことわざ③）■	3,4	敬語の種類を調べる	1.5h	プリントの問題を解く	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	推敲 小テスト（間違い探し②） ■	2,4,5	書籍、新聞を声に出して読む	1.5h	自分の文章を直してみる	1.5h
14	覚えておきたい短詩と台詞	3,4,5	知っている俳句や短歌を思い出してみる	1.5h	声に出して読んでおく	1.5h
15	小論文執筆（小論文のテーマに沿ってタイトルを自分で書く） ■	1,2,3	社会問題を考える	1.5h	別のテーマで書いてみる	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す

読者投稿欄のデスクを長く務めた経験を生かして、「読みやすい文章とは何か」「人の心を捉える文章とは何か」を伝えていきたい。

印刷 

日本国憲法

MYカモクに追加

英文名 : Japanese Constitution

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB003

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

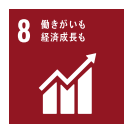
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

金井 洋行

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

テーマに関する課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①憲法の基本理念と日本国憲法に関する基礎的知識を習得することを第一義的な学習目標とする。第二に、社会人として要求される価値規範意識を、憲法学習を通して醸成することを目標とする。終局的に、身近な生活関係の中から人々の権利の保護や社会への参加の問題を探り出し、憲法上の課題の理解を深めることを目標とする。

②講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的あるいは国際的に大きな政治の動きがあった場合には、その話題を飛び入りのに割り込ませることはある。日々の社会や政治の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりに考えておくことを期待する。

到達目標

- 1.日本国憲法を貫いている思考や仕組みと日本国憲法の歴史的背景を理解することができる。
- 2.憲法が解決すべき紛争について、その歴史的、社会的背景を認識することができる。
- 3.市民相互間の法的関係や公的部門のそれに対する機能の関連性を考察することができる。
- 4.政治の世界で起きている出来事について、具体的な憲法規定と結びつけることができる。
- 5.主要な学説について、その対立の背景と主張のねらいを認識することができる。

使用教材

テーマ別レジюме、概要・事例資料、憲法条文注釈資料（テキストの代替）
 ＊テーマによってはDVDの視聴あり。

評価方法

平常の授業に対する姿勢・課題提出（35%）、中間小テスト（15%）、期末の定期試験（50%）
 課題提出は概ね4回のレポート、中間小テストは概ね3回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテスト

課題・評価に対するフィードバック方法

重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する（テーマについては適宜指示）

オフィスアワー

出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	憲法とは何か？－憲法学習の意義と憲法の本質－	1	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	2h	予備知識アンケート	0.5h
2	国家・国民・政府－憲法を構成する基本要素の内容－	1	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
3	日本国憲法の制定過程	1,4	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明、資料；「日本国憲法の有効性」	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
4	日本国憲法の基本構造と特色	1,2	資料「日本国憲法の体系」熟読と疑問点の究明	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
5	国民主権と天皇制	1,2,4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
6	平和主義と9条解釈の変遷	1,2,4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
7	基本的人権の沿革と観念	1,2,3	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
8	基本的人権規定の適用問題（範囲と限界）	2,3,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
9	日本国憲法上の諸権利の性格	1,2,3	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	国会の地位と国政選挙の仕組み	1,2,3	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
11	行政権の意義と内閣の組織・権限の特徴	4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
12	司法権の意義と法令審査権の性格	4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
13	財政処理の基本原則と予算の構造と機能	4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
14	権力分立制と地方自治・分権	1,4	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
15	憲法改正と憲法保障	1,2,4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

合計時間（予習・復習）



37.5h

備考



記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
当日に即答できない質問や要望についてはC-learning・連絡メールをもって応答することを原則とする。
日々の社会や政治の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりに考えておくことを期待する。

印刷



法学

MYカモクに追加

英文名 : Law

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB004

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

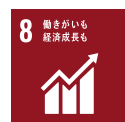
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

金井 洋行

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL (課題 解決型学 習)	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

テーマに関する課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①法の存在意義を人生の節目で生じる法律問題を通して理解することを基幹的目標とする。生活上生じる法律問題や法的処理事項の背景にある法社会学的意味を考える。法律関係は権利義務の変動の関係であるので、それぞれ権利義務とその変動要因にどのような種類があるかを知ることを目指す。法律関係の基本的システムを習得することによって、社会的生活者に要求される法規範意識を身につける。

②講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に大きな社会問題が発生した場合には、その話題あるいは関連する事項を飛び入りの割り込ませることがある。

到達目標

- 1.法の存在意義や社会的機能の全体的な姿を理解することができる。
- 2.法制度の社会的意義を理解することができる。
- 3.契約関係のシステムの意義と特色を理解することができる
- 4.家族関係の法的処理の方法を理解することができる。
- 5.法的紛争処理の限界を知り円滑な生活関係を維持する手法を考察することができる。

使用教材 ↑

テーマ別レジュメ、概要・事例資料（テキストに代替するプリント） ＊テーマによってはDVDの視聴あり。

評価方法 ↑

- ・ 平常の授業に対する姿勢・課題提出（35%）、中間テスト（15%）、期末の定期試験（50%）
- ・ 課題については概ね4回のレポート、中間小テストは概ね3回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテストを実施する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)

オフィスアワー ↑

出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。

メールアドレス（#→@） ↑

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	法の意義と機能	1,5	高校時の社会の教科書「法分野」の箇所を読んでおくこと	2h	予備知識アンケート	0.5h
2	成人と法－人の年齢と能力の法的意味	1,2,4	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
3	就職と法－採用の法的意味と選別の法的問題	2,3,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
4	労働と法－労働契約の内容と労働条件の保護	2,3	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
5	結婚と法－婚姻の要件と夫婦の法律関係	2,4,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
6	親子と法その1－出生をめぐる法律問題と親子関係の形成	1,2,4	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
7	親子と法その2－親権関係と扶養関係	2,4,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
8	教育と法－義務教育の意義と就学過程の法律問題	2,3	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
9	社会活動と法－団体の法律関係と団体生活の法律問題	1,2,3	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	社会負担と法－租税等の国民負担と公共生活上の法律問題	2,5	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
11	国際化と法－出入国管理の法律関係と渉外事件の処理	1,2,5	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
12	財産関係と法－取引の法律関係と契約締結上の法律問題	1,2,3	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
13	犯罪と法－犯罪・刑罰の法的意味と科罰手続の法律問題	1,2	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
14	争い事と法－紛争の法的処理方法と裁判の仕組み	1,2,5	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
15	老年期と法－介護・医療の法律問題と人の死の法的意味	1,2,4,5	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

合計時間（予習・復習）



37.5h

備考



記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
当日に即答できない質問や要望についてはC-learning・連絡メールをもって応答することを原則とする。
日々の社会の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりにその背景や解決策を考えておくことを期待する。

印刷 

経済学

MYカモクに追加

英文名：Economics

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB005

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

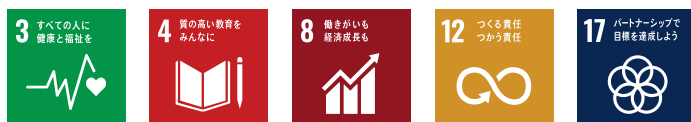
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

町田 修三

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業内での問いかけ、QUIZ、質疑応答（ミニツツペーパー上の質問を含む）などを用いた双方向性授業。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、多くの学生は十分な知識を持っていない。選挙権が与えられても経済知識なしで投票に行くのは危険である。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。レベルとしては、学生が新聞やテレビのニュースがしっかりと理解できるようになることを想定している。また、医療分野を専攻する学生にとっては、医療の経済面からの考察も講義に取り入れるので参考にして理解を深めてほしい。

②授業開始時に学生から出された質問・疑問に答えながら、前回の復習をする。授業中はクイズをはじめとした問いかけを多く出し、可能な限りアクティブラーニングの導入を試みる。

到達目標



- 1.日本の経済の現状を説明できる
- 2.需要と供給、市場メカニズムについて理解を深め、概説できる
- 3.景気やGDPについて理解を深め、概説できる
- 4.国の予算や税金制度について説明できる
- 5.お金の流れや物価変動について説明できる
- 6.経済政策について理解を深め、他者に説明できる
- 7.為替レートの変動と貿易の実態について概説できる
- 8.新聞やテレビのニュースが理解でき、他者に解説できる

使用教材



必修テキストはない。講義では毎回資料、データを配布する。

参考文献



推薦テキストは多数あるので、講義の中で必要に応じて紹介する。

評価方法



学期末試験80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物（クイズ、小レポートなど）20%

課題・評価に対するフィードバック方法



コメントカードに記載された質問事項、疑問点等に関しては、次回の講義で回答する。クイズについても次回の講義で解説する。小レポートにはコメントを付して返却する。

オフィスアワー



月曜日4限目、金曜日2限目
研究室：1号館6階603

メールアドレス（#→@）



machida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション（一部AL[アクティブラーニング]実施）	8	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく	1h	ニュースに触れる習慣（新聞、テレビ、ネット）を開始する	1h
2	日本経済の流れ（世界との比較のなかで）	1,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
3	経済政策の2大潮流—マーケットorケインズ（一部AL実施）	1,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
4	需要と供給（需要曲線の意味）	2,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
5	市場メカニズムと価格（どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう？）	2,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
6	価格の変動（どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう？）	2,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	国民所得Ⅰ（国の経済力はどう測るんだろう？GDPって何？）	1,3,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
8	国民所得Ⅱ（あなたが1万円使うとGDPはいくら増える？）（一部AL実施）	1,3,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
9	財政（日本の借金は大丈夫？消費税は何%に？）	1,4,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
10	景気と失業（不景気で学生の就職はどうなる？）（一部AL実施）	1,3,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
11	金融（日本銀行は何をすること？）（一部AL実施）	1,5,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
12	経済政策のしくみ（アベノミクスは何をした？トランプは何をする？）	1,6,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
13	為替レートメカニズム（円高、円安ってどうして起こるの？）	1,7,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
14	世界と日本（日本の貿易は黒字？赤字？）（一部AL実施）	1,7,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
15	まとめと確認のためのテスト	1,2,3,4,5,6,7,8	これまで学習した事項について目を通し、理解を深めておく	3h	期末試験の出題意図、講義の理解度の再確認と今後の学習の方向性を考える	1.5h

合計時間（予習・復習）

39h

備考

AL（アクティブラーニング）は、クローズドクエスション、オープンクエスション、ペアワーク、グループワークなど。記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修（推薦テキストの講読、新聞・雑誌の経済記事講読等）により、必要な学修時間を各自で補完すること。

印刷 

社会学

MYカモクに追加

英文名 : Sociology

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB006

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

安達 正嗣

科目に関連した実務経験

兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員ならびに主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施し調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。

履修を必須とする資格

社会福祉士、精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回の講義の冒頭で、小テストを実施し、次に採点した前回の小テストを返却する際に、前回の講義の振り返りをおこない、質疑応答を実施する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

本科目は、国家資格「社会福祉士」・「精神保健福祉士」の指定科目であり、社会福祉学科学生を受講する科目である。社会学とは、中間集団（家族、地域、企業など）を媒介として、社会と個人との関係を追究する学問である。社会学を学ぶことで、社会福祉分野に関わる者にとっては不可欠となる現代社会の理解力を身につけることができる。

講義の進め方としては、毎回、前回の講義内容に関する小テストをおこない、さらにその後に前回におこなった採点済みの小テストを返却して復習的な解説をおこなった後に、その回の講義をおこなうことを繰り返すことによって、受講生が講義内容の理解を深められるようにしている。

到達目標

- 1.大学生として社会学の基本的な考え方を身につけることができる。
- 2.社会学を通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。
- 3.日常の人間関係を理解することによって、コミュニケーション能力を身につける。
- 4.社会の仕組みを理解して、現代社会における自分自身の立ち位置を知ることができる。
- 5.現代社会の社会問題を認識して、その解決を探る能力を身につけることができる。■

使用教材

一般社会団法人・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会学と社会システム』中央法規出版。

参考文献

講義中に、適宜指示する。

評価方法

小テスト（毎回、講義時に講義の内容について数問のテスト（設問）をおこなう。遅刻は厳禁。）50%、学期末試験50%、合計100%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

各受講生は、小テスト（設問）で講義の理解度を把握し、復習に役立て、現代社会と福祉を理解できるようになる。

オフィスアワー

火曜日5限・6限
1号館5階510研究室

メールアドレス（#→@）

adachi-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	はじめに・第1章社会学の視点・第1節 社会学の意義と対象 （1～12頁）を解説する。講義に関する小テスト（設問）実施。	1,2,3,4	序章を読んでおくこと。	1.5h	序章の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5h
2	講義に関する小テスト（設問）実施。第1章社会学の視点・第2節 社会学の歴史 （13～26頁）を解説する。	1,2,3,4	第1章・第2節を読んでおくこと。	1.5h	第1章・第2節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5h
3	講義に関する小テスト（設問）実施。第2章 社会構造と変動 ・第1節 社会システム （27～39頁）を解説する。	1,2,3,4	第2章第1節を読んでおくこと。	1.5h	第2章第1節の内容、提示された概念や考	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					え方などを理解しておくこと。	
4	講義関する小テスト（設問）実施。第2章社会構造と変動・第2節 組織と集団 （40～50頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第2章第2節を読んでおくこと。	1.5h	第2章第2節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5h
5	講義関する小テスト（設問）実施。第2章社会構造と変動・第3節 人口 （51～64頁）・第4節 グローバルゼーション （65～76頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第2章・第3節・第4節を読んでおくこと。	1.5h	第2章・第3節・第4節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5h
6	講義関する小テスト（設問）実施。第2章社会構造と変動・第5節 社会変動 （77～87頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第2章・第5節を読んでおくこと。	1.5h	第2章・第5節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5h
7	講義に関する小テスト（設問）実施。第2章社会構造と変動・第6節 地域 （88～103頁）・第7節 環境 （104～110頁）を解説する。地域社会に関して実務で得た情報などを提示する。■	1,2,3,4,5	第2章第6節・第7節を読んでおくこと。	1.5h	第2章第6節・第7節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5h
8	講義に関する小テスト（設問）実施。第3章 市民社会と公共性 ・第1節 社会的格差 （112～122頁）・第2節 社会政策と社会問題 （123～133頁）を解説する。地方自治体の政策・対応に関して実務で得た情報などを提示する。■	1,2,3,4,5	第3章第1節・第2節を読んでおくこと。	1.5h	第3章第1節・第2節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5h
9	講義に関する小テスト（設問）実施。第3章 市民社会と公共性 ・第3節 差別と偏見 （134～145頁）・第4節 災害と復興 （146～152頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第3章第3節・第4節を読んでおくこと。	1.5h	第3章第3節・第4節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5h
10	講義に関する小テスト（設問）実施。第4章 生活と人生 ・第1節 家族とジェンダー （155～170頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第4章第1節を読んでおくこと。	1.5h	第4章第1節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5h
11	講義に関する小テスト（設問）実施。第4章生活と人生・第2節 健康 （171～182頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第4章第2節を読んでおくこと。	1.5h	第4章第2節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5h
12	講義に関する小テスト（設問）実施。第4章生活と人生・第3節 労働 （183～194頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第4章第3節を読んでおくこと。	1.5h	第4章第3節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5h
13	講義に関する小テスト（設問）実施。第4章生活と人生・第4節 世代 （194～206頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第4章第4節を読んでおくこと。	1.5h	第4章第4節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5h
14	講義に関する小テスト（設問）実施。第5章 自己と他者 ・第1節 自己と他者 （207～213頁）・第2節 社会性 （214～219頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第5章第1節・第2節を読んでおくこと。	1.5h	第5章・第1節・第2節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	講義に関する小テスト（設問）実施。終章 社会学と社会福祉学の連携・協働 （229～235頁）	1,2,3,4,5	終章を読んでおくこと。	3h	終章の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	3h

合計時間（予習・復習）

↑

48h

備考

↑

小テスト（設問）と学期末試験については、対面授業と遠隔授業でやり方等が異なることがある。
（重要）注意：本講義は、社会福祉学科の学生のみが受講できる社会福祉士、精神保健福祉士国家試験の指定科目である。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



生涯健康論

MYカモクに追加

英文名：Lifelong Health Theory

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB007

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

渡邊 秀臣、五十嵐 康、蒲 章則

科目に関連した実務経験

渡邊：非常勤医師（整形外科医）として病院に勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①生涯を幸せで豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約10年も短い。本講義では、健康寿命の延伸に向けて生涯にわたる健康維持・管理について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎知識を身に着けることを目的としている。

②講義においては、前半はテーマについて概要を説明し、後半は質疑応答する形式ですすめる。レポートについても発表する時間を持ちたい。

到達目標

- 1.健康の定義と集団の健康評価指標について理解できる。■
- 2.個体の健康を維持するため生体の調節機構について理解できる。■
- 3.環境・生活習慣の変容と疾病発症の関連について理解できる。■
- 4.健康寿命延伸にむけた取り組みについて理解できる。■

使用教材 ^

テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。

参考文献 ^

参考書として、厚生統計協会刊の「国民衛生の動向2020/2021」を利用する。

評価方法 ^

授業参加内容：40点、課題に対するレポート内容：60点　：総合60点以上を合格とする。（対面講義でもオンライン講義でも同様）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

レポートに対し必要なコメントをする。（対面講義でもオンライン講義でも同様）

オフィスアワー ^

渡邊：（金）13：00～14：30
研究室　4号館2階学部長室

メールアドレス（#→@） ^

渡邊：watanabe-h#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	健康の定義と健康評価指標（渡邊） WHOの提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、<平均寿命>、<平均余命>、<健康寿命>、<最長寿命>などの呼び方があり、現在の日本で重要なのは、健康寿命であることを理解する。■	1	「国民衛生の動向」より健康評価諸指標の年代推移を把握する。	1. 5h	健康の定義と健康評価指標の理解を深める。	1. 5h
2	健康を維持するための食物と物質代謝（五十嵐） 食物（栄養素）は健康に欠かすことのできないエネルギー源である。その物質代謝（同化・異化作用）に関わる体の構造とその働きを理解しながら健康維持について学習する。	2	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1. 5h	食物のエネルギー代謝と健康について理解する。	1. 5h
3	恒常性維持機構の役割と相互作用（五十嵐） 生体には様々な生理機能をバランスよく正常に機能・維持するための調節機構、すなわち「恒常性維持機構（ホメオスタシス）」が備わっている。このシステムは主に神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。また、食物の消化・吸収を担う腸管では細菌の侵入を防ぐ恒常性機構が働いている。これらの様々な維持機構の働きと相互作用について学習する	2	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1. 5h	生体の恒常性機構と健康維持の関係を理解する。	1. 5h
4	運動と健康（渡邊） 運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活	2, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で	1. 5h	健康維持における運動の生理学的意義と健康寿命延伸に向けた	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。する。また、運動による突然死防止のための運動前内科的メディカルチェックの重要性について理解する。■		該当部分を学習する。		運動について理解する。	
5	喫煙による健康障害（渡邊） たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの＜喫煙と健康障害＞のメカニズムについて理解する。＜受動喫煙の影響＞についても考える。■	2, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	喫煙とその健康障害及び健康障害の機序を理解する。	1. 5h
6	生活習慣病の起因となる肥満（五十嵐） 肥満は原因により原発性肥満（エネルギー摂取過多など）と二次性肥満（性腺機能低下など）に分けられるが、いずれも高血圧、糖代謝異常、脂質代謝異常などの代謝障害の基盤となり、虚血性心疾患や脳血管障害などの動脈硬化性疾患を発症する危険因子となる。それらの起因となる肥満の発症と予防について学習する。	2, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	肥満とメタボリックシンドロームの病態と対策を理解する。	1. 5h
7	生活習慣病の危険因子としての糖尿病（五十嵐） 2型糖尿病（インスリン抵抗性糖尿病）は、冠状動脈や脳動脈の動脈硬化、さらには腎障害、視力障害及び神経障害の3大合併症の誘発のみならず、健康寿命短縮の危険因子でもある。危険因子としての糖尿病とその予防法について学習する。	2, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	糖尿病の病態と対策を理解する。	1. 5h
8	生活習慣病(脳血管障害)と認知症（五十嵐） 血管性認知症はアルツハイマー病に次いで2番目に多い認知症である。脳は全身の20%近い血液を必要とする臓器であることから、その発症は循環器障害などの生活習慣病と密接に関係する。ここでは血管性認知症と他の認知症の病態を比較しながら、その予防と治療の現状について学習する。	1, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	認知症の病態と原因、予防、治療などの現状について理解する。	1. 5h
9	ロコモティブシンドローム（渡邊） 脳卒中と運動器障害は介護の主要原因となっている。骨粗鬆症・サルコペニア・運動器不安定を特徴とするロコモティブシンドローム対策が健康寿命の延伸に重要である。ロコモティブシンドロームの早期診断と予防の重要性について理解する。	3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	加齢に伴う運動器障害を理解し、早期診断と予防の重要性について理解する	1. 5h
10	生活習慣病(がん)と生活習慣（渡邊） 日本人の死亡原因の1位はがん、2位は心疾患、3位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣＜(がん発症危険因子)＞を知る。また、＜がん予防のための生活習慣＞及び早期発見・早期治療のための＜がん検診＞の重要性について理解する。■	3,4	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	生活習慣と発がんとの関係を理解し、がん対策基本計画などその対策について学習する。	1. 5h
11	WHOの歴史と活動内容（蒲） 第2次世界大戦後に設立された国際専門機関として、戦後から現代にいたるまでの活動変遷を検証する。WHOの取り組みを理解し、現在あるWHOの問題点、改善点を考察する。健康であることがいかにその国の活力（国力）に寄与するかを理解する。	1,4	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1. 5h	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1 2	WHOの戦略（蒲） アルマータ宣言で採択された「すべての人に健康を」スローガンのもとに、各国が公衆衛生の原点に立ち返り、保健行政戦略を作成、さらに現代進められている持続可能開発目標（SDGs）に向けたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）にいたることを検証する。	1,4	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1. 5h	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1. 5h
1 3	途上国の保健行政（蒲） 途上国の人種、風土、歴史的背景、宗教等を考察し、独自の保健行政戦略を実施しているが、その成果や反省点を検証し、日本における地域医療の課題を含めて、今後の対策を考察する	1, 3,4	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1. 5h	国際機関で発展途上国への保健戦略を学習する	1. 5h
1 4	日本の保健行政と世界の保健行政（蒲） 膨大な医療・介護予算をどのように有効に使うか、保健医療行政の立場から検証考察をする。各国の取り組みを比較検証し、今後の行政の取り組みを考える。	1, 3,4	厚生労働省のウェブサイトで該当部分を学習する。	1. 5h	日本における厚生労働省の保健戦略と動向を理解する。	1. 5h
1 5	地域における健康支援チーム構成員とその役割（チーム医療）（渡邊） これまで、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支えあいに重点を置くとされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる<健康支援チームによるチーム医療>が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する。■	4	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	地域包括ケアシステムを理解し、地域における健康づくりチームの構成員としての各人の役割を理解する。	1. 5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

レポートの提出をもって出席とする。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

生涯学習概論

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Lifelong Learning

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB008

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

平林 茂、三村 国宏

科目に関連した実務経験

(平林) 公立小学校・中学校の教員、校長(経験)。群馬県教育委員会(指導主事、所長)では生涯学習教育の推進業務、社会教育主事及び地域・学校ボランティア対象の生涯学習推進に関わる研修会講師(経験)。

(三村) 公立中学校の教員、高等学校、中等教育学校の校長(経験)。伊勢崎市教育委員会(指導主事、指導係長、教育プラン推進担当課長、学校教育課長)にてコミュニティ・スクール推進(経験)。大学・企業との教育連携協定推進等(経験)。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○						○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テスト等についてコメントを行い、授業中に振り返り質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人が学習する場は学校だけではなく、図書館・公民館等の社会教育施設やさまざまな団体での学習機会などがある。本授業では生涯学習を実践していく上で必要な基礎的知識や多様な生涯学習施設、学校の現状を学び、理解を深めていく。

②授業の進め方：各テーマの説明に加え、話し合い活動や調査活動などを通して課題に取り組み、その成果の発表などの学習活動を行います。今後、変化の激しい現代社会において重要になる「生涯学習」について学ぶことは、社会の一員としての自己の生き方を考える上で意義が大きいと思います。

到達目標 ↑

- 1.生涯学習の理念や学校や社会教育施設などで行われる学習について理解する。■
- 2.生涯学習に関わる様々な現代的課題の内容を把握しその解決に向けた考察をする。■
- 3.社会を構成する一員として自らの生き方を積極的に考える。

使用教材 ↑

『よくわかる生涯学習 改訂版』（香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編、ミネルヴァ書房、2024年2,500円（税別）

参考文献 ↑

講義中に適宜、紹介する。

評価方法 ↑

テストに50%、小テストの評価30%、日常点（授業への参加。授業態度。課題への取り組み、貢献度等）に20%を配分して総合評価をする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

授業中の貢献度や発表については、その都度評価する。

試験前後に出題の意図等を説明する。

オフィスアワー ↑

月曜・1限、水曜・1限、
教職支援センター

メールアドレス（#→@） ↑

平林 s-hirabayasi#takasaki-u.ac.jp
三村 k-mimura#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、生涯学習の定義、制度（平林、三村）	1,3	シラバスを読み、講義の概要及び、「生涯学習とは何か」を理解する。	1.5h	テキストをまとめ、生涯学習の定義や制度について理解する。	1.5h
2	生涯学習と人間形成■（三村）	3	生涯学習にわたる人間形成についてテキストなどで調べる。	1.5h	テキストや配布資料をまとめ、生涯学習について理解する。	1.5h
3	生涯学習を支える思想（三村）	1,3	「生涯学習を支える思想」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	生涯学習における「生きがい・健康づくり」についてまとめ、内容を理解する。	1.5h
4	生涯学習の現代的課題①■（三村）	2,3	「健康・高齢者等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
5	現代的課題②■（三村）	2,3	「高度情報化と人権等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料を読んで、内容を理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	現代的課題③ ■（三村）	2,3	「国際交流と人権尊重」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
7	現代的課題④ ■（三村）	2,3	「まちづくり等」についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
8	生涯学習の多様な学習方法 ■（三村）	1,2	学習方法の類型等について関連する図書などで調べる。	1.5h	学習方法及び、持続可能な社会づくりへの取組について理解する。	1.5h
9	行政による生涯学習の振興（前編）（平林）	1,2	国の行政による生涯学習支援策についてテキストなどで調べる。	1.5h	テキストや協議内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
10	行政による生涯学習の振興（後編） ■（平林）	1,2	都道府県レベルの生涯学習支援策についてテキストや図書などで調べる。	1.5h	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
11	民間団体・機関による生涯学習支援（前編） ■（平林）	1,2	それぞれの団体の活動内容について、テキストや図書などで調べる。	1.5h	テキストや協議・発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
12	民間団体・機関による生涯学習支援（後編） ■（平林）	1,2	NPO、カルチャーセンターやスポーツ施設について、図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
13	施設に基づいた生涯学習活動（前編）（平林）	1,2	社会教育施設についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
14	施設に基づいた生涯学習活動（後編） ■（平林）	1,3	博物館や青少年・女性教育施設についてテキストや図書などで調べる。	1.5h	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
15	生涯学習社会において、どう生きるか（職業能力開発の生涯学習）（平林）	1,2,3	講義内容に関連する項目について、図書などで調べておく。	1.5h	図書や資料を読んで、内容を理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

毎回小テストや資料の提示をC-learningで行いますので、パソコン等を持参してください。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

生命と環境の科学

MYカモクに追加

英文名 : Science of Environment and Life

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB009

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

奥 浩之

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL (課題 解決型学 習)	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・将来の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うことがあるので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。(パソコンは持参する必要はなく、自宅で使用できればよい。)

到達目標

- 1.地球環境について元素、物質循環、気候変動の観点から説明できる。
- 2.生命を構成する分子(核酸、タンパク質)について、分子構造、反応機構、応用の観点から説明できる。
- 3.私たちの生活に関連して、食品、バイオマス、プラスチックごみ、医薬品や医療機器、のトピックスについて説明できる。

- 4.グローバルな視点から、新しい感染症、ワクチン開発、などのトピックスについて説明できる。
- 5.様々な文献や資料を参照し、レポート形式または要約・箇条書きの形式でまとめられるようになる。

使用教材

使用しない（講義にて用いるスライドを配布予定）

評価方法

レポート課題50%、授業参加度50%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポート課題に対しては、コメントを付けて返却または講義時間内に課題の解説を行うことで受講学生へフィードバックする。

オフィスアワー

質問等は、授業中でもよく、授業開始前もしくは終了後にも応じる。

メールアドレス（#→@）

oku#gunma-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	生命と環境－自己紹介と研究について	1,5	(1) 免疫系と免疫グロブリンについて調べてみよう。 (2) DNA配列を測定する方法について調べてみよう。	1h	(1) 抗体医薬品について (2) 免疫グロブリンの分子構造と役割について（特にIgGを構成する重鎖と軽鎖はどのような結合で結びついているか？着目してみよう。） (3) 次世代シーケンサーについて	1.5h
2	生命と環境－地球における元素の循環	1,5	元素周期表（ http://stw.mext.go.jp/series.html ）を読んでみよう。	1h	(1) 人体を構成する元素の存在比 (2) 主要元素・微量・超微量元素の具体的な元素名 (3) 様々な元素の生体または医薬品における役割	1.5h
3	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化	1,5	(1) ヒトの活動による、水需要の増大、化石燃料の大量燃焼、窒素肥料の大量使用と地球環境への影響について調べてみよう。	1h	(1) 大気・土壌における物質循環 (2) 水循環、窒素循環、炭素循環、硫黄循環、リン循環の特徴 (3) 人類の活動による物質循環への影響	1.5h
4	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化	1,5	(1) 温室効果ガスとは？温室効果は何故起こるか？調べてみよう。	1h	(1) 地球上での物質循環は気候変動と密接に関連する （大気を暖める要因と冷やす要因） （物質循環の詳細な研究による、地球環境変化の予測） (2) IPCC第5次報告書（2014年）におけるRCPシナリオ （気候モデルによって予測された21世紀末の世界の気温） （世界全体のCO2累積排出量と気温上昇量は比例する）	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					(3) 国連気候変動枠組条約 (日本における温室効果ガス削減目標)	
5	生命と生体分子・・・DNA二重らせんとX線構造解析	2,5	ワトソンとクリックによるDNA二重らせんモデル (1) 当時用いられた分子モデル (ロンドン・サイエンスミュージアム) http://www.sciencemuseum.org.uk/broughttolife/objects/display?id=6145 (2) 1953年の論文 http://www.nature.com/nature/dna50/watsoncrick.pdf (3) DNA構造について (英文なので、最初は図を見るのがよい) 特にFigure 5を見て、3種類の二重らせん構造があることに注目しよう http://www.nature.com/scitable/topicpage/discovery-of-dna-structure-and-function-watson-397	1h	(1) DNAの分子構造はX線回折法によって求められる (2) ブラッグの回折条件式 (3) DNA繊維写真のX型パターン	1.5h
6	生命と生体分子・・・タンパク質の構造と機能	2,5	(1) タンパク質を構成する20種類のアミノ酸とは？ (2) アミノ酸の“光学活性”とは？	1h	(1) アミノ酸20種類の分子構造 (2) X線回折測定によるタンパク質の3次元構造解析 (3) NMR測定によるタンパク質の3次元構造解析	1.5h
7	生命と生体分子・・・さまざまなタンパク質	2,5	(1) 膜タンパク質とは？ (2) リボソームにおけるタンパク質合成 (3) アイスクリームの成分について。特に、低脂肪アイスクリームはなぜ低脂肪なのか？調べてみよう。	1h	(1) 70S リボソームとtRNAの分子構造 (PDB ID: 4v4j) (PDB ID: 2tra) (2) カルモデュリンの分子構造変化 (PDB ID: 3cln) (PDB entry 2bbm)	1.5h
8	生命と生体分子・・・ヘム蛋白 (Mb、Hb、Cyt c、CYP450)	2,5	(1) ヘムタンパク質とは？ (2) ミオグロビンとヘモグロビンの違いは？ (3) CYP3A4とは？	1h	(1) ミオグロビン (PDB ID, 1A6M) (2) チトクロームc (PDB ID, 2B4Z) (3) チトクロームP450 (PDB ID, 1W0E) (4) 医薬品の代謝におけるCYP3A4の影響について	1.5h
9	ヒトの活動と環境・・・さまざまな医薬品	2,5	(1) コレステロールと高コレステロール血症 (2) 認知症とコリン仮説について (3) ポリ乳酸とは？	1h	(1) スタチン (2) タクロリムス (3) ドネペジル (4) レボフロキサシン	1.5h
10	ヒトの活動と環境・・・バイオマスとバイオリファイナリー	3,5	(1) バイオマスとは？ (2) バイオエタノールとは？ (3) プラスチックゴミ問題とは？	1h	(1) バイオリファイナリーとは？ (2) バイオガソリンの成分は？	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					(3) バイオマスプラスチックの具体的な事例は？	
1 1	ヒトの活動と環境・・・食品の安全確保（加工食品の成分）	3,5	(1) アクリルアミドの分子構造、用途、注意点	1h	(1) 行政（農水省）では加工食品の安全確保についてどのような活動をおこなわれているか？	1.5 h
1 2	ヒトの活動と環境：食べると甘い香りが発散するお菓子について	3,5	(1) ワインやコーヒーの香りを分析する装置について調べてみよう（ヘッドスペース装置の付いたガスクロトグラフィー/質量分析計） (2) ヒトにおける薬物代謝のしくみ	1h	(1) ヒトの体の匂いに関与する成分はどのようにして分析されたか？ (2) お菓子を食べてから、体表面から香気成分が発散するまでの経路は？ (ヒトにおける薬物代謝から説明してみよう。)	1.5 h
1 3	生命と環境・・・さまざまな感染症（AIDS, 結核, マラリアなど）	4,5	(1) 感染症とは？	1h	(1) さまざまな感染症について (2) 薬剤耐性について	1.5 h
1 4	生命と環境・・・インフルエンザワクチンの成分	4,5	(1) ワクチンによる予防免疫のしくみ	1h	(1) 様々なインフルエンザの治療薬について (2) 様々なインフルエンザワクチンについて	1.5 h
1 5	生命と環境・・・グローバル化によって必要となる新しいワクチン	4,5	(1) 蚊によって媒介される感染症とは？ (2) グローバル化におけるヒトの移動や経済活動の活発化について	1h	(1) グローバル化と感染症の拡大はどのように関係するか？ (2) 新しいワクチンの開発例について	1.5 h

合計時間（予習・復習）

37.5h

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完してください。

印刷 

国際関係論

MYカモクに追加

英文名 : International Relations

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB010

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

片桐 庸夫

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回当日の講義内容に関する10-15分程度のレポートを課し、学んだ内容についての確認を求める。翌週に問題提起、結論、段落の付け方、使用すべき漢字、レポートの書き方、内容の評価、問題点を指導する。授業中に質問をすることによって学生との対話の機会を設け、参加意識を高める。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①新聞、テレビ、インターネット等のニュースを見て、世界の動きや日本の外交について理解出来るようになること。
- ②配布プリントを中心に、講義を行います。現代世界を象徴するドキュメントを収録したDVDを数回用います。また、授業

の最後に毎回レポートを実施する。指導方法は上記の通り。毎回課すレポートの評価を基に成績評価を行うので、前期試験は行わない。

到達目標

- 1.現代世界の理解
- 2.第2次世界大戦後の世界の基本構造の理解
- 3.国家間の対立要因の理解
- 4.国家間の相互理解の理解
- 5.自由主義イデオロギーと社会主義イデオロギーの理解
- 6.現代の戦争の特徴についての理解
- 7.国家の安全保障の理解
- 8.核の下での平和の理解
- 9.国際秩序概念の理解
- 10.国際秩序の喪失と国際テロ、難民、民族や宗教の違いに基づく紛争発生要因の理解
- 11.戦後日本の原型についての理解
- 12.戦後日本外交の歩み、「戦後」克服の意味の理解
- 13.日本の課題である国際貢献問題の理解

使用教材

配布するプリントを教材として用いる。

参考文献

細谷雄一『国際秩序』中公新書。高坂正堯『国際政治』中公新書

評価方法

講義の最後に毎回行うレポート評価試験（60％）、講義参加・貢献度（40％）等により総合評価を行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

原則としてレポートを課した翌週の講義の際に論文やレポートの書き方、文体、文の構成、意味の曖昧な表現、誤字脱字等について指導する。

オフィスアワー

- ・ 前期木曜日の昼休み
- ・ 非常勤講師控室

随時来てください。講義の後に直接訊ねることも可。

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義概要（講義の展開、出席の取り方、レポートの書き方、成績評価等）についての説明を行う。	1	シラバスを読んでおくこと。	0h	講義概要の確認を行いこと。	1h
2	世界の混迷した状況、中国の現状打破勢力としての台頭、米中の覇権争い等について理解する。	1,3,7,8,10	1週間分の新聞の1,2面の記事に目を通しておくこと。	2h	ノートテイキングした部分の加筆、整理、それに新聞記事の内容を付加すること。	2h
3	「冷戦の特異性」の意味と大規模な戦争の後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立を理解する。	1,2,3,9	プリントのウィーン会議の部分をよく読んでおくこと。	1.5h	細谷雄一『国際秩序』中公新書のp.115-120,282を読み、内容をノートにまと	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					めること。	
4	戦勝同盟国間の対立の典型的例であるウィーン会議について理解する。	2,4,7	ウィーン会議参加国の価値観の共有についてプリントを利用して予習すること。	1.5h	『国際秩序』のp.121-124を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
5	国際コミュニケーションにとって重要な価値観の共有の意味について理解する。	3,4,5	プリントの価値観の共有の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.128-130を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
6	ウィーン会議とは正反対に共通の価値観の欠如していた米ソ間の体制間対立について理解する。	2,3,4,5,8	プリントの体制間対立の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.237-241を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
7	米ソ間のイデオロギー対立について理解する。	3,5,7	プリントのイデオロギー対立の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.237-241を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
8	米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化（DVD画像による）について理解する。	6,7,8	プリントの安全保障観の相違と戦争の性格の変化の項を読んでおくこと。	2h	DVD画像を観ながらノートテイキングしたメモを参考にノートにまとめること。	2h
9	冷戦の定義、それに基づく冷戦の起源と終焉について理解する。	2,6,7,8	プリントの冷戦の定義とそれに基づく冷戦の起源と終焉についての項を読んでおくこと。	1.5h	永井陽之介『冷戦の起源』中央公論社のp.6-10を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
10	世界を滅ぼすことも可能な究極の兵器である核の下での平和について理解する。	1,6,7,8	究極の兵器がもたらした核の下での平和についての項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.253-255を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
11	冷戦の逆説である戦後の長い平和について理解する。	1,7,8,9	プリントのガディスの逆説論についての項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.256-260を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
12	冷戦の終焉と終焉後の世界の不安定化の理由・要因について理解する。	2,7,9	プリントの国際秩序維持勢力の喪失と国際秩序の喪失の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.281-285を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
13	冷戦後初の戦争「湾岸戦争」の意義、テロ・民族対立・宗教対立、難民の大量発生、冷戦と呼ばれた戦後の米ソ対立と今日の米中対立との違いについて理解する。	6,7,10	プリントの湾岸戦争、国際秩序なき時代についての項を読んでおくこと。	1.5h	『文明の衝突と21世紀の日本』集英社新書のP.21-36を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
14	終戦、米国の対日占領政策、天皇制存置、SF講和、憲法第9条、日米安保について理解する。	7,11,12	プリントの終戦からSF講和に至る項を読んでおくこと。	1.5h	小此木・赤木共編『冷戦期の国際政治』慶應義塾大学出版会のp.288-306を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
15	「戦後」の克服の意味、今日の日本が直面する外交の課題について理解する。	1,10,13	プリントの「戦後」の克服、国際貢献問題の項を読んでおくこと。	1.5h	講義中に配布する新聞の切り抜き記事を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



世界の動き、平和、戦争、日本の進路などについて関心のある学生の履修が望ましい。

「復習」に挙げられている本は、参考文献も兼ねている。随時利用すること。予習・復習の結果、不明な点、理解しにくい、または出来ない点などあれば、遠慮なく質問すること。

印刷



体育理論

MYカモクに追加

英文名：Physical Education: Theory

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB011

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大家 千枝子

科目に関連した実務経験

「元気に“動こう・歩こう”」実践リーダー養成講座の講師として、リーダー養成事業に従事している。
(群馬県健康長寿社会づくり推進課・2018年度～)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、生涯にわたり健康・体力づくりを実践するために必要な基礎知識を学ぶ。自らの健康・体力の現状を把握し、健康・体力づくりに適した身体活動について、その効果や実践方法を知り、実際の生活に活用する能力を養う。

②講義中心だが、自身の「体力を知る」ために体育館にて新体力テストを実施する。また新聞や文献を活用した課題を設定しているため、図書館も利用する。

到達目標

- 1.現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、具体的に述べることができる。
- 2.自身の健康・体力の状況とわが国の健康・体力の現状を把握し、問題点をあげることができる。■
- 3.健康の保持増進を図るためのアイデアを探り、方法を創造することができる。■
- 4.課題に積極的に取り組み、履修者同士でコミュニケーションをとることができる。
- 5.人間が創造した運動・スポーツの文化としての意味を考え、認識を深めることができる。

使用教材 ^

プリントを適宜配布する。

参考文献 ^

参考文献を適宜紹介する。

評価方法 ^

授業への取り組み実践点（講義後コメント、測定、コラボ企画、提出状況など）60%、
課題点（これまでの授業を踏まえた最終課題）40%

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

自分以外の履修者による課題（体力テストの結果など）や感想、評価を知ることが学生相互の刺激になるため、C-learning
を使ってフィードバックする。

オフィスアワー ^

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@） ^

oie#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、大学での学び・健康とは・上達の秘訣を考える	1,2,5	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	0.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	0.5h
2	A組：体力を知る（新体力テスト）・B組：図書館利用術（図書館コラボ企画）	2,4	体調を整えて授業に備える。配布された資料に目をとす。	0.5h	C-learningに測定結果と必要事項を入力する。	0.5h
3	A組：図書館利用術（図書館コラボ企画）・B組：体力を知る（新体力テスト）	2,4	体調を整えて授業に備える。配布された資料に目をとす。	0.5h	C-learningに測定結果と必要事項を入力する。	0.5h
4	体力を評価する（体力とは）	2,4	体調を整えて授業に備える。配布された資料に目をとす。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
5	運動・スポーツの実施状況、運動継続の仕組みづくり、問題解決のための作戦を立てる■	2,4	配布された資料に目をとす。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
6	体組成、体脂肪の測定方法、エネルギー消費量の算出方法、内臓脂肪について	1,2	配布された資料に目をとす。フィットネスルームで体組成を測定しておく。	0.5h	今後どのように身体活動・運動を取り入れるか検討する。	0.5h
7	トレーニングの原理・原則	1,2	配布された資料に目をとす。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	まとめ、到達度チェックと最終課題の発表	1,2,3,4,5	授業でとったノートを読み直し、最終課題に備える。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

^

8h

備考

^

【単位修得に必要な時間について】
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
※C-learning「出席管理」の不正行為はしないこと（発覚時には厳正に対処する）。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



体育実技

MYカモクに追加

英文名 : Physical Education: Sports & Physical Activities

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB012

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 実習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大家 千枝子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

さまざまな運動・スポーツの実践をとおして、体力の維持・向上をめざすとともに、運動・スポーツを楽しむ能力を身につける。また、運動・スポーツに関わる基礎知識を学び、健康的な生活を送るための自己管理能力を身につける。さらに、仲間や教員とのコミュニケーションを深める。

実技を中心に進める。授業開始時には整列し、出席をとる。授業終了時には、振り返りとして授業記録の提出がある。

到達目標

- 1.運動・スポーツの基礎知識、各スポーツ種目の歴史、ルール、マナーを理解し、説明できる。
- 2.自らコミュニケーションをとって意欲的に活発に動ける。
- 3.知識を実践に生かす健康保持増進のための自己管理能力を身につける。
- 4.技術の高低や得意・不得意にとらわれず、運動・スポーツそのものを楽しむ能力を身につける
- 5.種目特性によって異なる身体感覚、健康・体力に興味・関心をもち、簡潔に記録できる。

使用教材

↑

プリントを適宜配布する。

参考文献

↑

参考文献は適宜紹介する。

評価方法

↑

授業ごとの取り組みの評価70%、確認テストまたは課題15%、毎回のコメント記録15%

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

毎回の授業後に授業記録カードの提出を求める。授業記録カードに付したコメントやスタンプは必ずチェックすること。また最終日には、授業で学んだことの整理・課題・目標到達度の確認（ループリックにて自己評価）を行う。課題は返却しないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。

オフィスアワー

↑

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

↑

oie#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,3	シラバスを読んで講義目標などを理解する。要配慮の学生は申し出る。	0.5h	到達目標、学位記授与方針、成績評価方法などを確認する。	0.5h
2	筋トレ、ストレッチ	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。	0.5h
3	バレーボール（特有の体さばきの理解と気づき）	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。バレーボールのルールを事前に理解しておく。	0.5h	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5h
4	バレーボール（基本スキル習得とコミュニケーションスキルをあげる。ゲーム。）	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。バレーボールのルールを事前に理解しておく。	0.5h	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5h
5	テニス（基本スキルの習得・フォアとバックのフォームづくり）	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。テニスのルールを事前に理解しておく。	0.5h	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5h
6	テニス（基本スキルの習得・フォアハンドストロークとバックハンドストローク）	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。テニスのルールを事前に理解しておく。	0.5h	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5h
7	テニス（ローカルルール採用のゲーム）	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。テニスのルールを事前に理解しておく。	0.5h	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5h
8	フットサル（基本スキルの習得とコミュニケーションスキルをあげる・ゲーム）	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。フットサルのルールを事前に理解しておく。	0.5h	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	フットサル（基本スキルの習得とコミュニケーションスキルをあげる・ゲーム）	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。冬の始まりで屋外の寒さに慣れる。	0.5h	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5h
10	バスケットボール（基本スキルの習得・ボールハンドリング・ドリブル・シュート）	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。ルールを事前に理解しておく。	0.5h	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5h
11	バスケットボール（基本スキルの習得・パス・シュート・オフense・ディフェンス）	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。ルールを事前に理解しておく。	0.5h	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5h
12	バスケットボール（基本スキルの習得とコミュニケーションスキルをあげる・ゲーム）	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。ルールを事前に理解しておく。	0.5h	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5h
13	バドミントン（基本スキルの習得・簡易ゲーム）	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。バドミントンのルールを事前に理解しておく。	0.5h	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5h
14	バドミントン（簡易ゲーム）とフィットネス活動（フィットネスルーム体験）	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。バドミントンのルールを事前に理解しておく。	0.5h	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5h
15	まとめ、授業で学んだことの整理・確認テスト（または課題）・目標到達度の確認	1,2,3,4,5	これまで授業で学んだこと、自身の授業態度を振り返る。	0.5h	目標達成度の確認。今後どのように運動・スポーツを継続できるか検討する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

【単位修得に必要な時間について】

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

【受講上の注意】

- ①運動に適した服装（ジャージ、Tシャツなど）とシューズ（屋内外別）を着用すること。
（※ジーンズ・普段着での受講は不可。スマホや時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアスなどは外しておく。）
- ②原則として見学は認めない。配慮を必要とする学生は初回ガイダンス終了までに申し出ること。
- ③貴重品は各自で管理すること。
- ④天候による施設変更の可能性がある。C-learningで確認すること。
- ⑤フットサルコートの人混みがとれやすく、靴下やウエアに付着することがある。
- ⑥屋外でのウォーミングアップの際、グラウンドの砂などで汚れる可能性がある。※汚れてもよい服装を推奨。
- ⑦授業で使用する用具は大学側で用意しているが、個人所有のラケットなどがあれば持参を推奨する。

【履修条件】

準備・後片付けなどの授業運営は受講生の積極的な姿勢を求める。また、技術の高低や得意不得意、好き嫌い、勝ち負けにとらわれず、自分の持っている技術力をいかして、スポーツそのものを楽しむ能力や積極的に体を動かすことが求められる。

【ルール】

授業開始時には整列し、出席をとる。授業終了時には、振り返りとして授業記録カードの提出がある。次の行為は授業中にしないこと。①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホの使用。

印刷 

キャリア形成論

MYカモクに追加

英文名：Career Development

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB013

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

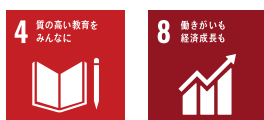
担当教員

小泉 英明

科目に関連した実務経験

社員研修・人材育成・能力開発・キャリア開発のコンサルタント、トレーナーとして各企業・自治体で指導

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○		○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テスト・レポートに対してコメントを付し返却、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

AI（人工知能）をはじめとする各種テクノロジーの進化や地球規模的な気候変動など、社会は今、大きな激動期を迎えています。そのような中で、私たちを取り巻く経済・雇用環境も目まぐるしく変わり、生活や仕事の内容までもが大きく変わつつあります。

本講座ではそのような社会の動きを見据え、私たちが近い将来に求められる『能力』について理解を深めるとともに、キャリア形成の基盤づくりを行います。

授業では社会で求められている高次元のコミュニケーション能力や思考力、さらには問題解決能力などの『社会人基礎力』を身につけるとともに、ケーススタディ等によって社会適応力を習得します。また本学卒業後、社会人として適切なスタートを切ることができるよう、“自身”の強化プラン策定と目標管理ができる自律的人材の養成を目指します。

【授業期間全体を通じた授業の進め方】

教員作成のレジュメを使い、要点をまとめていきます。授業では、ニュースで取り上げられる時事について考察しながら、卒業後における社会の中でどのように取り組んでいくべきか実体験を織り交ぜた説明を行います。また必要な箇所においてグループディスカッションを行うとともに、理解度を深めるための課題を課します。

到達目標

- 1.社会の出来事を理解し、社会に通用する就業観、勤労観を学ぶ。■
- 2.自己の成長に向けて、自己を正しく理解するとともに、自己効力感を養う。■
- 3.社会人基礎力を理解し、社会適応力を身につける。■
- 4.コミュニケーションの本質を理解し、高次元のコミュニケーション力を身につける。■
- 5.論理を組み合わせる手法を学び、論理的思考力を高める。■
- 6.アイデアの出し方を学び、創造的思考力を高める。■
- 7.気づく力を身につけ、問題発見能力を高める。■
- 8.問題解決のスキルと手法を学び、問題解決能力を高める。■
- 9.自己変革のために必要な自身の問題点を探る。■
- 10.自律型人材に向けての目標管理ができる。■
- 11.社会における人間関係を学び、社会適応力を高める。■

使用教材

C-learningを利用し、各学生に教員作成の教材データを授業前に配信します。

参考文献

授業内で提示します。

評価方法

ファイナルレポート60%、毎授業後の提出課題30%、授業参加度・授業態度10%
それぞれの評価基準については初回授業で説明します。総合評価60%以上を合格とします。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業後の課題レポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。
ファイナルレポートに関するフィードバックは、出題テーマの意図など掲示等によって示します。

オフィスアワー

木曜日（12～17時）

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示します。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス／キャリア形成のために必要なこと■	1	事前配信教材をはじめ、新聞、テレビ、ネットなどのニュースから、社会の出来事を理解して臨む。	1.5h	キャリア形成に必要なコアコンピタンスを理解する。	1.5h
2	先行きの予測が困難な時代／社会が求める人材■	1,3	事前に配信する第2回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	キャリア形成に必要な「社会人基礎力」について理解を深める。	1.5h
3	自己の理解■	2	事前に配信する第3回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自己理解を深め、自己効力感と自分のパーソナリティ	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					を理解する。	
4	コミュニケーション力 ■	3,4	事前に配信する第4回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	チェックシートによって自身のコミュニケーション力を客観的につかむ。	1.5h
5	実践コミュニケーション力 ■	3,4	事前に配信する第5回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	コミュニケーションの重要ポイントを理解し、自身の弱点と強化ポイントをつかむ。	1.5h
6	気づく力（問題発見能力） ■	3,7	事前に配信する第6回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究課題に取り組む。 ※問題解決に繋がることを理解する。	1.5h
7	考える力Ⅰ（ロジカルシンキング・クリティカルシンキング） ■	3,5	事前に配信する第7回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究によって論理的思考を理解する。	1.5h
8	考える力Ⅱ（クリエイティブシンキング） ■	3,6,7,8	事前に配信する第8回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究によって創造的思考の重要性を理解する。アイデア発想の演習を行う。	1.5h
9	創造力を伸ばす ■	3,6,7,8,9	事前に配信する第9回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究によって創造力の阻害要因を理解し、力を伸ばすポイントをつかむ。	1.5h
10	問題解決能力Ⅰ（問題点を探る・WHYツリー） ■	3,7,8,9	事前に配信する第10回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自身が抱える問題の「問題点」をWHYツリーで探る。	1.5h
11	働く意味／「仕事力」と「就業力」 ■	1,3	事前に配信する第11回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自身の「仕事観」「就業観」を見つめ、自身の将来について深く考える。	1.5h
12	問題解決能力Ⅱ（問題解決の手法・HOWツリー／課題発見・目標設定） ■	3,8,9,10	事前に配信する第12回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自身の課題をHOWツリーで探り、今後の目標・計画を設定する。	1.5h
13	社会における人間関係 ■	3,11	事前に配信する第13回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	人との接し方と、よりよい人間関係を築く方法を理解する。	1.5h
14	自己の確立（バリュープロポジションとキャリア自律） ■	3,10	事前に配信する第14回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	将来のキャリア形成に向けて、キャリア自律の重要性を理解する。	1.5h
15	ストレスマネジメント ■	3,11	事前に配信する第15回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	ストレス対処法と対人耐性力を理解し、社会進出後のストレスに対する耐性力を高める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

C-learningにて配信する教材をもとに予習し、授業に臨んでください。教材はファイリングし、いつでも内容を振り返ることができるようにしてください。また、毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。授業は積み上げ方式で進めていきますから、わからないことがないように授業後は必ず復習してください。新聞、テレビ、ネットなどのニュースには常に関心を持ち、社会の出来事を理解し授業に臨んでください。

〔健康福祉学部 of 学生に求められる基本的な資質〕

- ①人の役に立つという心構え
- ②生活者本位の視点
- ③コミュニケーション能力
- ④チームワーキングへの参画
- ⑤自己研鑽

※オンラインで授業を行う場合（※オンデマンド）

- ①教材のデータを授業日の3日前までに配信します。
- ②事前に配信された教材の内容を良く理解して講義に臨んでください。
- ③毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。（提出期限を厳守してください）
- ④提出されたレポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。
- ⑤授業への出席は、レポートの提出をもって「出席」とします。
- ⑥期末試験はレポート(ファイナルレポート)にて行い、第15回の授業後に提出の予定です。
- ⑦評価方法は以下の通りです。

ファイナルレポート60% 毎授業後の提出課題レポート30% 授業参加度10%

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

哲学

MYカモクに追加

英文名：Philosophy

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH001

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大石 桂子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①「他者とどう関わっていけばよいか」「絶対に正しいことはあるのか」、「病気や“弱さ”にどう向き合うか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち考えるのが哲学である。本講義では身近な題材をもとに医療・福祉・健康分野に関わる者として考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や、統計からみえる社会情勢などを手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。

②配布プリントを中心に講義を行い、定期的に課題を提示し、学生同士が意見交換する場を設ける。

到達目標

- 1.人與人、人と社会の関係、平等性、自由と責任などについて、多様な視点から説明できる。
- 2.共生の意義や、弱者の排除が社会にもたらす影響を説明できる。
- 3.各テーマについて、自分の意見をもつことができる。

- 4.課題やグループワークを通して、自分の考えを他者に伝わりやすく表現できる。
- 5.自分と異なる他者の考えを受け止め、そこから新たな発見ができる。

使用教材

講義中にプリントを配布する。

評価方法

定期試験（60％）、講義中に作成する課題（40％）に、参加態度を加えて総合的に評価する。
総合評価60％以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題の内容にコメントを付けて、授業中に紹介する。

オフィスアワー

水曜日の2時限、金曜日の2時限
（1号館6階601）

メールアドレス（#→@）

oishi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	シラバスの内容をよく読み、講義の目標や取り扱う内容を理解する。	1h	「哲学」の目標、学ぶ意義について理解する。	1.5h
2	自分と他者（1）「人に認められたい」のは本能？——ヘーゲル	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	ヘーゲルのいう「承認への欲求」を理解する。	1.5h
3	自分と他者（2）「本当の自分」とは何か——キルケゴール	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	キルケゴールの「大衆と実存」の違いを理解する。	1.5h
4	自分と他者（3）人と人の関係性——ブーバー、サルトル	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	第2回から第4回までの内容を整理する。	1.5h
5	ディスカッション——これからの自分に大切なこと	1,3,4,5	第2回から第4回までの内容について、自分の考えをまとめる。	1h	自分にとって大切なことを改めて熟考し、課題を仕上げる。	1.5h
6	平等と共生（1）誰もが信じられる正しさはあるか——ロールズ	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	「機会の平等」と「結果の平等」を理解する。	1.5h
7	平等と共生（2）環境は人の心にどう影響するのか	2,3,4	配布プリントに目を通す。	1h	「無知のヴェール」について理解する。平等について課題を仕上げる。	2h
8	自由・正しい自己決定のために——カント	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	「自律」の意義について理解する。	1.5h
9	心と身体（1）「私」を形づくるのは心か身体か——ニーチェ	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	身体がものの見方や価値観に影響する例を考える。	1.5h
10	心と身体（2）人間の中心は脳なのか	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	脳死の問題について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	エンハンスメント（1）変化する「病」の定義	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	エンハンスメントや「医療化」について理解する。	1.5h
12	エンハンスメント（2）「弱さ」を否定する社会——ハーバーマス、サンデル	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	弱さを排除した場合の社会的影響について理解する。	1.5h
13	ディスカッション——医療技術と自己決定	2,3,4,5	個人の欲求でどこまで医療技術を利用してよいか、自分の考えをまとめる。	1h	エンハンスメントについての自分の考えをまとめる。	1.5h
14	責任（1）責任の範囲はどこまで？——アリストテレスほか	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	責任が問われる基準について理解する。	1.5h
15	責任（2）「何もしなかった」ことに責任はあるのか——ヤスパース	1,3,4	配布プリントに目を通す。	1h	講義中にあげた事例について、自分の考えを課題にまとめる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

38h

備考

本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組むこと。

予習・復習については試験前の学習で補完すること。

*オンライン授業になった場合は、C-learning上で講義資料（PDFファイル等）を閲覧し、課題を提出する形式とする。

印刷



倫理学

MYカモクに追加

英文名: Ethics

科目区分: 人間理解

科目ナンバリング: LAH002

学年: 1年

開講期: 前期

選択・必修: 選択

単位数: 2単位

講義形態: 講義

学位授与方針との対応:

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

出雲春明

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL (課題 解決型学 習)	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義中にアンケートを実施し、その結果を共有、分析する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 現代の医療をめぐる問題をとりあげ、それぞれのトピックを通じて、倫理学の諸理論、人々の多様な価値観について学ぶ。なるべく平易な表現を用いて講義を行う。講義中、一つの問題をめぐる様々な、そしてしばしば対立する見解が示される。自分ならどの立場をとるか、対立する相手に対してどのように反論するか、常に考えながら講義に臨んでほしい。

② C-Learningの教材倉庫にアップした資料に基づいて講義を行い、毎回、ドリルと小テストを実施して知識の定着を図る。

到達目標

- 1. 医療に関連する倫理的諸問題について正確な知識を習得し、
- 2. 自分の考えを表現することができる。
- 3. また、自分と対立する考えについても理解を深める。

使用教材

^

講義中に資料を配布する。C-Learningの教材倉庫に毎回アップする。

参考文献

^

加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療—バイオ・エシックスの練習問題』、PHP新書、1999年。

小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理—「いのち」は誰が決めるのか』、筑摩書房、2011年。

評価方法

^

講義への参加態度（資料の閲覧、ドリルやアンケートの実施など）・・・30%

小テストなどの課題・確認テスト・期末レポート・・・70%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

講義中、C-Learning「アンケート」を通じて、意見などを提出してもらう場合がある。有意義な意見に関しては講義中に紹介する。

オフィスアワー

^

1号館511研究室

面談希望の場合はC-Learning「連絡・相談」あるいは下記メールアドレスまで。

メールアドレス（#→@）

^

izumo-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンスー生命倫理学について	1	・シラバスやC-learningのニューースを読み、講義の実施方法や目的を理解する。 ・予習資料を確認する。	1.5h	生命倫理学の成立事情について、技術の発展と人間観の変化から理解する。	1.5h
2	不妊治療（1）人工授精、体外受精	1,2,3	予習資料を確認し、人工授精（AI）の定義について知り、関連情報を取得しておく。	1.5h	人工授精の特徴とそこで生じる倫理的問題について理解する。	1.5h
3	不妊治療（2）代理母出産をめぐる議論	1,2,3	予習資料から、体外受精（IVF）とAIの差異、代理母について確認しておく。	1.5h	人工授精、体外受精、代理母の特徴とその倫理的問題について理解する。	1.5h
4	遺伝子操作（1）ヒトゲノム計画がもたらす未来	1,2,3	予習資料から、ヒトゲノム計画と現代におけるその活用について知る。	1.5h	遺伝情報が現在社会においてどのように利用されようとしているか理解する。	1.5h
5	遺伝子操作（2）遺伝子診断技術がもたらす未来	1,2,3	予習資料より遺伝子診断技術について確認する。	1.5h	遺伝子診断技術がこれから社会に及ぼす変化を考えてみる。	1.5h
6	人工妊娠中絶をめぐる問題	1,2,3	予習資料より日本における人工妊娠中絶の法的規定について調べておく。	1.5h	人工妊娠中絶をめぐる現在の状況、議論について理解する。	1.5h
7	優生思想をめぐる問題	1,2,3	予習資料より優生思想について知識を得ておく。	1.5h	これまでの議論を優生思想の問題と関連させて振り返っておく。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	インフォームド・コンセントと患者の権利	1,2	予習資料からインフォームド・コンセントが求められた歴史的な発端を読み解く。	1.5 h	患者を主役とする医療という考え方について確認しておく。	1.5 h
9	QOLの追求	1,2,3	予習資料からQOLとは何かについて知識を得る。	1.5 h	様々なQOLのあり方について考えてみる。	1.5 h
10	告知をめぐる問題	1,2	予習資料から告知をめぐる現状について知る。	1.5 h	告知について自分ならどのような選択をするか考えてみる。	1.5 h
11	延命医療について	1,2,3	予習資料をもとに延命医療について自分の考えをまとめてみる。	1.5 h	延命とQOLを関連させて考えてみる。	1.5 h
12	安楽死について	1,2	予習資料から安楽死の区分について知る。	1.5 h	安楽死の区分について理解し、自分の意見をまとめてみる。	1.5 h
13	臓器移植（1）生体臓器移植	1,2,3	予習資料から日本での生体臓器移植の位置づけについて知る。	1.5 h	生体臓器移植の特徴とその倫理的問題について理解する。	1.5 h
14	臓器移植（2）死後移植と臓器移植法改正	1,2,3	予習資料から日本における昨今の死後移植の位置づけについて知る。	1.5 h	改正臓器移植法について理解し、自分の意見をまとめてみる。	1.5 h
15	総括	1,2	これまでのトピックの中から特に関心を持ったものを確認してみる。	1.5 h	紹介した文献や映像資料などを参照しつつ、自分の考えをまとめてみる。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・C-learningの「教材倉庫」「ドリル」「小テスト」「アンケート」「レポート」機能を活用する。毎回、授業日の前週水曜日に予習用の教材をアップするのであらかじめ目を通しておくこと。授業終了後は復習用の資料をアップするので、よく確認し、ドリル・小テストで知識の定着を図ること。
- ・詳細な成績評価の方法や、期末レポートの課題や規定など連絡事項はC-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。
- ・「自分ならどう考え、行動するか」を自らに問いかける姿勢を大切にしてほしい。また、授業内容と関連する「報道」などがあった場合には、通常の予習・復習とあわせて確認しておくことが望ましい。

印刷 

心理学

MYカモクに追加

英文名：Psychology

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH003

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

角野 善司

科目に関連した実務経験

カウンセラーとして臨床心理センターに勤務（経験）

履修を必須とする資格

社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、支援に必要な基礎的知識の習得を目指す。こころのしくみに関して心理的諸機能を概観し、心の発達や健康について理解したうえで、心理的支援の方法と実際を学ぶ。

②授業期間全体を通じた授業の進め方： 毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、取り組んでもらいたい。対面授業は、難解な箇所に関する追加的な解説に重点を置く。また、理解を深めるために必要に応じて視聴覚教材を活用する。授業後には、復習課題に取り組むとともに、授業での学修を基に考察を深め、小レポートを作成し、提出することを求める。

到達目標

- 1.人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応について説明できる。
- 2.人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題について説明できる。■
- 3.日常生活と心の健康との関係について説明できる。■
- 4.心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について説明できる。■

使用教材

加藤伸司ほか「新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック 17 心理学と心理的支援」ミネルヴァ書房 2022年 2,800円+税

評価方法

毎回の課題・小レポート45%（3点×15回）、学期末筆記試験30%、学期末レポート25%

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回の課題・小レポートは授業時に、学期末筆記試験・レポートは事後に講評解説の機会を設ける。

オフィスアワー

初回授業時に告知するとともに、研究室ドアに掲出する（8号館405室）

メールアドレス（#→@）

zsumino#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	心理学の視点：心理学における主要な理論と研究法	1	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。	1. 5h	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末試験・レポートに向けた学修を始める。	1. 5h
2	人の心の基本的な仕組みと機能（こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解）（1）：心の生物学的基盤	1	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1. 5h	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末試験・レポートに向けた学修を重ねる。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	人の心の基本的な仕組みと機能（こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解）（2）：感情／欲求・動機づけと行動	1	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
4	人の心の基本的な仕組みと機能（こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解）（3）：感覚・知覚・認知	1	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
5	人の心の基本的な仕組みと機能（こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解）（4）：学習	1	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
6	人の心の基本的な仕組みと機能（こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解）（5）：記憶	1	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
7	人の心の基本的な仕組みと機能（こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解）（6）：人格・性格	1	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
8	人の心の基本的な仕組みと機能（こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解）（7）：他者と集団	1	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
9	人の心の発達過程：発達の概念■	2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
10	日常生活と心の健康：ストレスとストレッサ■	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
11	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本（1）：心理アセスメント■	4	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
12	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本（2）：心理的支援の基本的技法■	4	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
13	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本（3）：心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要■	4	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
14	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本（4）：心理の専門職■	4	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
15	まとめ	1, 2,	これまでの学修内容を振り返る。	1.5h	最終回授業も含め、これまでの学修内容を振り返る。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
		3,4				

合計時間（予習・復習）

↑

45h

備考

↑

- ・仮に諸事情により対面での学期末筆記試験の実施ができない場合には、成績評価にあたっての配点は以下のとおりとする： 毎回の課題・小レポート75%（5点×15回）、学期末レポート25%
- ・■：実務経験に基づく内容を示す。
- ・社会福祉学科専門展開科目「カウンセリング論」は、この科目を履修済であることを前提に授業を進める。

印刷



文学と人間

MYカモクに追加

英文名 : Literature and Humanity

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH004

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

菅野 陽太郎

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

近現代の文学作品を読み、文学が人間の営みや文化の形成にどのように関わっているかを考え、文学を今後の生活に役立てていけるようになるための素地を養うことを目標とする。

②講義の実施方法

各回の授業では、予習した教材についての解説や話題提供を行った後、ディスカッションやアンケート等による意見の交流を行う。

到達目標

- 1.文学を楽しみ、今後の生活に役立てていくことができる。
- 2.授業で取り上げる文学作品の内容や特徴等について考え、理解することができる。
- 3.授業で取り上げる文学作品について、オマージュやアダブテーションの見地から批評することができる。

使用教材

『伊豆の踊子』, 川端康成, 新潮社, 1950, 473円

参考文献

^

『〈転生〉する川端康成Ⅰ引用・オマージュの諸相』，仁平政人・原善，文学通信，2022，2700円
『〈転生〉する川端康成Ⅱアダプテーションの諸相』，仁平政人・原善，文学通信，2024，3500円

評価方法

^

・各回の課題（30％）・レポート（70％）

課題・評価に対するフィードバック方法

^

レポートは評価とコメントを付して返却する。

オフィスアワー

^

水曜2限、木曜2限（8号館508研究室）

メールアドレス（#→@）

^

kanno-y#@takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、「物語」とその効用	1	シラバスを読み、これまでに読んだ文学作品について振り返る。	1h	授業内容を振り返り、課題に取り組む。	2h
2	文学のジャンルと要素	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
3	作品構造の理解①	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
4	作品構造の理解②	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
5	比喩表現の理解と効用	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
6	アフォリズムの魅力	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
7	比べるという思考①（二つの文学作品）	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
8	比べるという思考②（J-POPと文学作品）	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
9	引用・オマージュ①	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
10	引用・オマージュ②	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
11	引用・オマージュ③	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
12	アダプテーション①	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
13	アダプテーション②	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
14	アダプテーション③	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	他学問との関わり	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h

合計時間（予習・復習）

↑

45h

備考

↑

授業時にC-learning等を使用した意見の交流を行うので、ノートPCやタブレット、スマートフォン等の情報端末を用意すること。

印刷



芸術論

MYカモクに追加

英文名 : Art Theory

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH005

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石原 綱成、志尾 睦子

科目に関連した実務経験

志尾 : 映画上映・宣伝・企画・製作、イベントプロデュース

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○					○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①この講義は芸術を通して、人間の営為の総体として芸術を学ぶ。それによって、豊かな人間性と教養を身につける。また、あらゆるジャンルの芸術（絵画、映像等）を深く理解する。

②講義は前半が石原による芸術史、後半は志尾による映画芸術論となる（オムニバス形式）となる。

到達目標

1. 視覚芸術の歴史を理解できる
2. 芸術を人間の営為の総体として理解できる。

- 3.映像芸術を通して、映画の文化史的意義を理解できる。■
- 4.様々な文化を理解することで、グローバルな教養が身につく■

使用教材

^

講義スライドの資料を配布する。

参考文献

^

担当教員が逐次紹介する。

評価方法

^

試験を実施する。（石原50点、志尾50点、計100点）

課題・評価に対するフィードバック方法

^

提出された感想シートやレポートについて逐一コメントなどを提示する。

オフィスアワー

^

石原：月曜3限、金曜2限、
志尾：火曜日2限

メールアドレス（#→@）

^

石原：ishihara#takasaki-u.ac.jp
志尾：m-shio#takasaki-cc.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス（石原・志尾）	2	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する	1.5h	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する	1.5h
2	芸術とは何かー芸術のイメージの調査ー	1,2,4	芸術における各自のイメージを箇条書きできるようにしておく	1.5h	配布したプリントをもとに芸術のジャンルを理解する	1.5h
3	芸術史概説	1,2,4	芸術史の流れを体系的に理解しておく	1.5h	配布した資料を基に芸術史の歴史を理解する	1.5h
4	宗教芸術とは何か	1,2,4	世界の主要な宗教の特色を理解する	1.5h	配布した資料を基にキリスト教の教義を理解する	1.5h
5	キリスト教美術とシンボル	1,2,4	シンボルの本質について理解する	1.5h	キリスト教のシンボルの法則性を理解する	1.5h
6	ルネサンス美術ー古典古代の芸術ー	1,2,4	配布したプリントをもとに遠近法とは何かを理解する	1.5h	遠近法と人間の「主体」への意識を考える	1.5h
7	ルネサンス美術ー図像解釈学と美術ー	1,2,4	配布したプリントをもとにプラトンとアリストテレスの相違を理解する	1.5h	アイデア論の違いが視覚芸術にいかに関与するかを理解する	1.5h
8	中間テスト	1,2,4	今まで学んだ内容を理解しておく	1.5h	試験内容を自分なりに再考する	1.5h
9	メディア芸術とは何か 映画芸術の入り口に立つ■	2,3,4	メディア と称されるもののイメージを箇条書きできるようにしておく	1.5h	配布した資料をもとに映画の成り立ちを理解する	1.5h
10	映画の誕生と変遷を辿る■	2,3,4	映画の仕組みを理解する	1.5h	配布した資料をもとに映画史を体系的に理解する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	映画の表現方法について学ぶ■	2,3,4	様々な映像ジャンルを箇条書きできるようにしておく	1.5h	配布した資料をもとに表現方法の多様性を理解する	1.5h
12	映画の構造を知る■	2,3,4	映画を組み立てているものの役割を理解する	1.5h	映画が総合芸術であるという本質を理解する	1.5h
13	演習1：見えるもの 見えないもの 映画が伝えることを意識する■	2,3,4	映画を観てみる	1.5h	感想を自分なりの言葉にしてみる	1.5h
14	演習2：演出とは何か■	2,3,4	課題のシナリオを読み、イメージを組み立ててみる	1.5h	映像表現の可能性と奥深さを楽しむ	1.5h
15	総論：映画は時代を映す鏡である 映画で世界を知る■	2,3,4	興味のある国について調べる	1.5h	映画が語る文化、時代性を考える	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



ボランティア・市民活動論

MYカモクに追加

英文名：Civil and Voluntary Activities

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH006

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

一柳 大輔

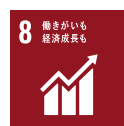
科目に関連した実務経験

前職でボランティア団体の運営支援に従事。災害ボランティアセンター職員として派遣経験も多数あり。また、様々なボランティア活動実践者と交流がある。

履修を必須とする資格

初級パラスポーツ指導員

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○			○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①ボランティア・市民活動は、手助けを求めている個人や団体に対して自主的に貢献する活動である。身近な地域や福祉、環境、情報、国際協力まで幅広く取り組まれ、今日の社会に不可欠な存在である。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践する力を養成する。
- ②毎回の授業は、ボランティアのテーマに基づく講義、ゲストスピーカー講義（予定）、振り返り、次週の予定、という流れで進める。
- ③1、2回目の講義は対面、3回目以降の講義はオンデマンド形式で進める。詳細は、初回ガイダンス時に説明する。

到達目標

- 1.ボランティア・市民活動の対象者のニーズを学び、ボランティア・市民活動の意義を説明できる。■
- 2.ボランティア・市民活動の多様な実践例を学ぶことにより、活動の実際の展開を説明できる。■
- 3.ボランティア・市民活動支援センターを活用して、自身の関心に即した活動に参加する。■
- 4.参加したボランティア・市民活動の実践を振り返り、成果や課題、次のチャレンジについて考察できる。■

使用教材

各講義に即したオリジナル・レジュメや関係資料は授業・c-learningにて配布する。テキストは使用しない。

参考文献

その他、講義に必要な教材・資料は適宜配付する。

評価方法

成績評価

- ①毎回の授業後に作成するリアクションペーパー(c-learning)による評価（84％）。
- ②ボランティア活動に参加して作成する実践レポートによる評価（16％）。評価方法は、ボランティア実践の回数や時間ではなく、ボランティア活動に参加することによる学びを評価する。
- ③追再試は実施しない。

その他の評価

- ①授業開講数の2/3以上を出席することにより、成績の評価対象とします。
- ②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出（要添付書類）を提出すれば出席扱いとする。なお、15分以上の遅刻は欠席とみなす。
- ③ボランティア実践の時間（1回当たり4時間×2回＝8時間相当）も本時の講義時間に含める。

課題・評価に対するフィードバック方法

質問や相談についてはC-learningで適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。

オフィスアワー

質問は授業の前後、またはC-learningでも受け付ける。

メールアドレス（#→@）

hitotsuyanagi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い■ ボランティア・市民活動支援センター（VSC）の活用方法、授業の進め	1,3	シラバスの内容をよく読んで、現時点でのボランティアの理解を把握する。	1. 5h	講義内容、学位授与方針、成績評価方法、VSC利用方法などを確認する。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	方を確認する。 (教室にて行う)					
2	ボランティアの力を活かす仕組み～ボランティアセンターの役割■ (教室にて行う)	1, 2, 3,4	自分の地元市町村のボランティアセンターの組織や活動内容を調べる。	1. 5h	ボランティアセンターの活用方法を理解する。	1. 5h
3	子どもの明日と子育てをサポートするボランティア活動■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	児童を対象としたボランティア活動を調べる。	1. 5h	児童を対象としたボランティアの意義や活動上の注意事項などを理解する。	1. 5h
4	人々はどのようにボランティアに取り組んできたか～欧米と日本の歴史(オンデマンド)	1, 2, 3,4	世界の国々でボランティア活動がどのように取り組まれているか調べる。	1. 5h	欧米と日本のボランティア活動の歴史の違いや長所を理解する。	1. 5h
5	障害者スポーツ・レクリエーションをサポートするボランティア活動■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	障害者を対象としたスポーツやレクリエーションについて調べる。	1. 5h	障害者との接し方や支援の内容や方法を理解する。	1. 5h
6	被災地に届け、災害支援ボランティア活動■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	我が国における災害ボランティア活動について調べる。	1. 5h	被災地におけるボランティア活動の内容や活動上の注意事項などを理解する。	1. 5h
7	ユニバーサルデザイン・バリアフリーとボランティア活動■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	バリアフリーに関わるボランティア活動を調べる。	1. 5h	バリアフリーをすすめるボランティア活動のあり方を理解する。	1. 5h
8	分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会～赤い羽根共同募金■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	赤い羽根共同募金の概要や寄付の実際について調べる。	1. 5h	赤い羽根共同募金のあり方や寄付の文化とは何かを理解する。	1. 5h
9	地域ささえあいのボランティア～ふれあい・いきいきサロン～■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	地域で取り組まれているふれあい・いきいきサロンについて調べる。	1. 5h	高齢者の介護予防や健康、子育て家庭を住民で支える活動について理解する。	1. 5h
10	生活課題を抱えた方への支援とボランティア活動について■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	福祉における"複合的な課題"、"重層的な課題"を調べる。	1. 5h	"複合的な課題"、"重層的な課題"等の生活課題を抱えている地域住民の事例紹介、そういった住民を対象とした居場所事業やコーディネート実践の紹介を通してボランティアとしてどう関われるかを考察する。	1. 5h
11	ボランティアとNPO法人■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	NPO法人とは何かについて調べる。	1. 5h	NPO法人の活動内容や設立の要件、ボランティアとの違いなどを理解する。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1 2	"ごみ屋敷"とボランティアについて■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	ごみ屋敷の住人に関する課題について調べる。	1. 5h	ごみ屋敷の住人の支援において、ボランティアがどのように関わるかという点を理解する。	1. 5h
1 3	行政に協力するボランティア ～民生委員・児童委員の活躍～■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	行政に協力するボランティアについて調べる。	1. 5h	民生委員・児童委員の活動を理解し、自分の地域の民生委員を確認する。	1. 5h
1 4	ボランティアに関する企業の取り組みについて(オンデマンド)	1, 2, 3,4	ボランティアに関する企業の取り組みについて調べる。	1. 5h	民間企業の社会貢献活動の取り組みを紹介し、卒後の専門職キャリアを歩むうえでのボランティア活動の捉え方を考察する。	1. 5h
1 5	まとめ～新しい支え合いと20年後の自分の生き方■(オンデマンド)	1, 3,4	さまざまなボランティア活動を通じて理解した人々の生活のしづらさや今後の課題について考える。 また、既に提出のあったボランティアレポートの紹介をする。	1. 5h	ボランティア活動の講義と実際の実践活動を踏まえて、ボランティア活動のあり方や自身の将来の役割について考察する。	1. 5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・ボランティア実践は、もちろん強制ではないので、自分の興味や関心のある分野や活動に参加する契機として設定している。大学生として様々な活動にチャレンジすること。授業の理解を深めるために現場で活躍するゲストスピーカーから実践を紹介してもらう（予定）。

・ボランティア・市民活動支援センター（VSC、9号館1階）を活用すること。活動を始める前には必ず、ボランティア活動保険に加入すること。そのほかボランティアの相談に何でも応じる。

VSC直通TEL：027-352-1108、VSCメールアドレス：vsc#takasaki-u.ac.jp（#→@）

・シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表す。

印刷 

人権論

MYカモクに追加

英文名：Theory of Human Right

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH007

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

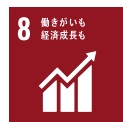
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

金井 洋行

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

テーマについての課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人権の観念について、他の観念－人道、倫理、文化規範、宗教的信念、条理原則等－との比較を通して分析し、人間の本性（human nature）との関係を理解する。日本国憲法に規定する「国民の権利」の内容を知り、その効力にどのような制約や限界があるかについて認識する。身近な生活体験から感得した権利侵害や不条理の発生について、人権の観点から考察する姿勢を身につける。

②講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的にあるいは国際的に大きな人権をめぐる事象があった場合には、その話題を飛び入りの的に割り込ませることがある。

到達目標

- 1.人権について特にヨーロッパの歴史的発展を背景に人道等の他の価値観との比較で観念できる。
- 2.人権の様々な観念から憲法の人権規定の適用関係を認識できる。
- 3.個々の人権の性格を、内面的と外面的、精神的と経済的、消極的と積極的、等の区分で理解できる。
- 4.人権の擁護がどのような考え方と仕組みによって行われるのかについて、憲法規定を通して認識できる。
- 5.人権に関する主要な争点について裁判所、特に最高裁判所の考え方を整理できる。

使用教材

テーマ別レジюме、基礎知識資料（テキストに代替するプリント） * テーマによってDVDの視聴あり

評価方法

- ・ 平常の授業に対する姿勢・課題提出（35%）、中間小テスト（15%）、期末の定期試験（50%）
- ・ 課題は概ね4回のレポート、中間小テストは概ね3回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテスト

課題・評価に対するフィードバック方法

重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する（テーマについては適宜指示）

オフィスアワー

出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	人権の観念と内容	1	日本国憲法における基本的人権の項目の資料等による再チェック	2h	予備知識アンケート	0.5h
2	人権の享有主体と人権規定の適用関係	1,2	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
3	人権の制約と限界	1,2,4	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
4	個人主義の観念と幸福追求権の意義	1,2,4	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
5	法の下での平等－平等権と平等原則－	1,2,5	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
6	人間の内心の価値と保護	1,3,5	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
7	自由と自由主義	1,3,5	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
8	表現の自由とその抑制	3,4,5	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
9	経済活動の自由と財産権	3,5	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	人身の自由と刑事手続の保障	3,4,5	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
11	政治活動の自由と参政権	3,5	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
12	生存権の意義と福祉国家の諸権利	3,4,5	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
13	教育を受ける権利と学習権	3,5	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
14	人権の国際化	3,5	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
15	世界の情勢と人権(A Iと人権、戦争と人権等)	1,4	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

合計時間（予習・復習）

37.5h

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
 当日に即答できない質問や要望についてはC-learning・連絡メールをもって応答することを原則とする。
 日常の身の回りに起こる権利侵害や条理違反に目を向け、人権擁護の観点から自分なりに考えておくことを期待する。

印刷 

人間関係論

MYカモクに追加

英文名：Theory of Human Relations

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH008

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

富田 純喜

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人間関係論という言葉は、大別すると二通りの意味がある。一つは、ホーソン実験を基盤として体系化された、主に経営学で用いられる理論のことである。もう一つは、人間の行為や生活上の諸現象を、人と人との関係において研究しようとする社会科学における研究アプローチのことである。本講義では本学の特性を考慮し、後者の観点から、生活上の人と人との関係を理解することを目的とする。ただし、本講義を受講することで、すぐに良好な人間関係を築けるようになるわけではない。人と人との関係とはいかなるものか、人との関係において喜びや苦しみが生まれるのはなぜか、といった根本的な問いを探ることが中心的な課題となる。

②授業は主に講義形式で進めるが、事前課題や授業内のワークを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。

到達目標

- 1.人間関係論の基礎的内容を理解している。
- 2.社会状況・生活形態と人間関係との関連を説明できる。
- 3.身の周りの人間関係を多角的な視点から説明できる。
- 4.現代社会で生じている人間関係に関する諸問題への対応について考察できる。

使用教材

菅野仁（2008）『友だち幻想―人と人の〈つながり〉を考える―（ちくまプリマー新書）』筑摩書房.

参考文献

授業内で適宜紹介する。

評価方法

レポート（50％）、試験（30％）、課題・参画度（20％）

課題・評価に対するフィードバック方法

試験前後に出題の意図等を説明する。

オフィスアワー

水曜5限、木曜5限（8号館406）

メールアドレス（#→@）

tomita-t#takasaki-u.ac.jp

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ホーソン実験と人間関係論	1	各回の授業内容を確認し、人間関係について考えてみる。	1h	人間関係論の成り立ちについて理解する。	1h
2	「友人重視指向」の日本の高校生（はじめに）	1	テキストの該当ページ（p.11-16）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
3	人は一人では生きられない？（第1章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.17-26）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
4	幸せも苦しみも他者がもたらす（第2章）①前半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.27-37）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
5	幸せも苦しみの他者がもたらす（第2章）②後半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.37-46）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
6	共同性の幻想（第3章）①前半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.47-55）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
7	共同性の幻想（第3章）②中盤	2,3,4	テキストの該当ページ（p.55-63）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
8	共同性の幻想（第3章）③後半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.63-79）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
9	「ルール関係」と「フィーリング共有関係」（第4章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.80-96）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
10	熱心さゆえの教育幻想（第5章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.97-105）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	家族との関係と、大人になること（第6章）①前半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.106-113）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
12	家族との関係と、大人になること（第6章）②後半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.113-120）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
13	「傷つきやすい私」と友だち幻想（第7章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.121-131）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
14	言葉によって自分を作り変える（第8章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.132-153）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
15	まとめ（これまでの授業の復習をとおして理解を深める）	4	第1～14回の内容を復習し、疑問点などを整理する。	2h	現代社会における人間関係について自身の考えをまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）



45h

印刷



ジェンダー論

MYカモクに追加

英文名 : Gender Theory

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH009

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

山田秀頌

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

教員が提示するトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

ジェンダーをめぐるさまざまな問題についての正しい知識と考え方を身につけることは、自分が生きていく上ではもちろんのこと、多様化する社会においてプロフェッショナルとして働いていく上でも重要なことがらとなっている。この授業では、主に女性やセクシュアルマイノリティに対する不利益がどのような社会的なしくみの下で生み出されているのか、そうしたしくみに対してどのような批判がなされてきたのかを学ぶことで、性にかかわる社会問題について多面的に考えるための方法を獲得する。

②実施方法

教科書および配布資料の内容をふまえながら、各回のテーマにおける主要な問題や概念について解説する。教員が提示す

るトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。現在の社会問題とのつながりを意識してもらうため、講義の内容に関連するニュース動画を流すことがある。

到達目標 ↑

- 1. ジェンダーやセクシュアリティにかかわる重要概念について説明できる。
- 2. ジェンダー論の基本概念や枠組みにもとづいて、性にかかわる社会問題について自分の考えを表現できる。
- 3. 性の多様性をはじめ、様々な社会的背景を持つ人々とともに性にかかわる社会問題に取り組むための視点を、自分の考えに反映させることができる。

使用教材 ↑

『フェミニズムってなんですか？』清水晶子著、文春新書、2022年。他に文献資料を適宜配布する。

評価方法 ↑

中間レポート（40％）および期末レポート（60％）で評価する。
総合評価60％以上で合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

中間レポートについては簡単な講評を行う。

オフィスアワー ↑

質問等は、授業中もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@） ↑

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義全体の説明		性にかかわる身近な問題について考える。	1.5h	講義内容、到達目標、成績評価法などを確認する。	1.5h
2	フェミニズムの歴史	1,2,3	教科書の「はじめに」、第1章、第2章を読む。	1.5h	フェミニズムの4つの波について再確認する。	1.5h
3	公的領域と私的領域	1,2,3	教科書第3章、第7章を読む。	1.5h	公的領域と私的領域の違いを確認し、なぜ私的領域の問題が重要なのかについて理解を深める。	1.5h
4	第三波フェミニズムと「ガールパワー」	1,2,3	教科書第4章、対談Iを読む。	1.5h	ジェンダーの自由を商業主義的な自由として考えることの問題を理解する。	1.5h
5	インターセクショナリティ	1,2,3	教科書第5章、第6章を読む。	1.5h	さまざまな差別の重なりについて考察を深める。	1.5h
6	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ①（性教育）	1,2,3	教科書第10章を読む。	1.5h	リプロダクティブ・ヘルス/ライツにおける性教育の重要性について理解する。	1.5h
7	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ②（中絶）	1,2,3	教科書第14章を読む。	1.5h	中絶をめぐる歴史と現代の状況について理解する。	1.5h
8	セクシュアル・ハラスメントと性暴力	1,2,3	教科書第8章を読む。	1.5h	権力関係の問題として理解する。	1.5h
9	結婚と家族	1,2,3	教科書第11章を読む。	1.5h	伝統的家族観と制度の問題について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	フェミニズムとケア	1,2,3	教科書第9章、第16章を読む。	1.5h	なぜケア労働は軽視されているのか、どのようにケアが重要なのかについて考える。	1.5h
11	セックスワーク	1,2,3	教科書第12章を読む。	1.5h	セックスワークという考え方について理解を深める。	1.5h
12	セックス／ジェンダー／セクシュアリティの概念	1,2,3	教科書第15章を読む。	1.5h	ジェンダー論の基本概念について再確認する。	1.5h
13	レズビアン、トランスジェンダーとフェミニズム	1,2,3	教科書「対談Ⅱ」「対談Ⅲ」を読む。	1.5h	インターセクショナリティの視点から理解する。	1.5h
14	トランスジェンダーと医療・法律をめぐる問題	1,2,3	指定する文献資料を読んでおく。	1.5h	トランスジェンダーに対するケアのあり方や、戸籍の性別変更をめぐる状況について理解を深める。	1.5h
15	大学教育とジェンダー／全体のまとめ	1,2,3	教科書第13章、「おわりに」を読む。	1.5h	講義で得た自分の問題関心について、考察を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



教科書と事前配布する資料を読み込み、授業での理解を深めるよう努力すること。
ジェンダー論では、自身の経験や価値観もふまえながら、自分なりの考えを深め、表現することにもっとも大切な意味がある。したがって、レポート課題で生成AI（chatGPT等）の文章をそのまま使うことは認めないので注意すること。AIの使用が強く疑われる場合は大幅な減点の対象となる。

印刷



共生の倫理

MYカモクに追加

英文名: Ethics of Symbiosis

科目区分: 人間理解

科目ナンバリング: LAH010

学年: 1年

開講期: 後期

選択・必修: 選択

単位数: 2単位

講義形態: 講義

学位授与方針との対応:

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大石 桂子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL(課題 解決型学 習)	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①現代では多様な価値観・文化をもつ人々が、性別や年齢、職業や病気・障がいの有無などを超えて「共生」することが求められている。誰もがもちやすい偏見や排除をのりこえ、共生を実現するためどのような取り組みができるか。多くの事例から基礎的な理論と方法の知識を習得し、今後の生活に生かす基盤を培うことを目標にする。

②授業ではパワーポイントを用いる。定期的に資料分析、考察する機会を設ける。

到達目標

- 1.現代社会での共生の意義について理解し、説明できる。
- 2.共生の歴史について理解し、説明できる。

- 3.共生を支える社会学、倫理学、心理学また教育的・臨床的なアプローチを理解し、説明できる。
- 4.共生の具体的なあり方や事例について理解し、説明できる。
- 5.各テーマについて自分の考えをもつことができる。

使用教材

講義中にプリントを配布する。

参考文献

講義中に指示する。

評価方法

定期試験（60％）、講義中に作成する課題（40％）に、参加態度を加えて総合的に評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出課題の内容にコメントを添えて、講義中に紹介する。

オフィスアワー

月曜日の3時限、金曜日の2時限。
（1号館6階601）

メールアドレス（#→@）

oishi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	シラバスの内容に目を通し、到達目標などを確認する。	1h	講義の目的や学ぶ意義を理解する。	1.5h
2	ノーマライゼーションから当事者主権へ	1,2	ノーマライゼーションの定義を調べる。	1h	障害者の権利をめぐる歴史を理解する。	1.5h
3	障害者権利条約と意思決定支援	1,3,5	配布プリントに目を通す。	1h	各国での意思決定支援の制度・取り組みを理解し、課題を作成する。	1.5h
4	ユニバーサルデザイン	1,3,5	配布プリントに目を通す。	1h	ユニバーサルデザインの意義を理解し、身近な実例を考える。	1.5h
5	優生思想	2,5	配布プリントに目を通す。	1h	20世紀初頭～現在の優生思想について、問題点を理解する。	1.5h
6	援助行為の動機とは	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	人がなぜ他者を援助できるのか、様々な理論を理解する。	1.5h
7	偏見といかに向き合うか	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	偏見が生じるメカニズムを理解し、その解消に向けた取り組みについて考える。	1.5h
8	認知症介護・ケアへの取り組み①社会制度の側面から	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	認知症介護をめぐる現代の課題を理解する。	1.5h
9	認知症介護・ケアへの取り組み②身体拘束を減らすために	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	拘束を減らす手法、コミュニケーション改善の取り組みを理解し、考察する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	いじめ問題にどう取り組むか①いじめが発生するメカニズム	3,5	配布プリントに目を通す。	1h	国内でのいじめの状況、発生メカニズムを理解する。	1.5h
11	いじめ問題にどう取り組むか②いじめへの対応策	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	国内外でのいじめ予防・対応の実践例を理解し、有効な手段を考察する。	1.5h
12	環境問題と世代間倫理①ヨナスの世代間倫理	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	現在世代が未来世代への責任をどのようにもつか、理解できる。	1.5h
13	環境問題と世代間倫理②環境問題をめぐる論争	1,2,3,5	配布プリントに目を通す。	1h	環境問題についての議論を理解し、みずからの考えをもつ。	1.5h
14	社会のレジリエンスを高める	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	災害復興支援、暴力犯罪の低減などの事例をもとに、有効な手段を考察する。	1.5h
15	まとめ・共生社会へ向けて	1,2,3,4,5	これまでのノート・資料に目を通す。	1h	共生の意義、方法について理解し、自分の考えをまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）



38h

備考



予習・復習については試験前の学習で補完すること。

*オンライン授業となった場合は、C-learning上で講義資料（PDFファイル等）を閲覧し、課題を提出する形式とする。

印刷



チーム医療アプローチ論

MYカモクに追加

英文名：Team Approach to Health Care

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH011

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大川喜代美、加藤大輔、竹内真理、梅原里実、渡邊秀臣、篠原智行、小竹利夫、高橋雄太

科目に関連した実務経験

大川（情報）：診療情報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務（経験）

加藤（福祉）：医療ソーシャルワーカーとしてケアミックス病院に勤務（経験）

竹内（栄養）：管理栄養士として国立病院機構に勤務（経験）。健大附属クリニック管理栄養士兼務

梅原（看護）：看護師として病院に勤務、病棟・外来・地域医療連携室の管理業務（経験）

渡邊（理学）：整形外科医として医療機関に勤務（非常勤）

篠原（理学）：急性期、回復期病院に勤務経験あり。現在は生活期病院に非常勤勤務

小竹（子ども）：障害児母子通所支援施設に勤務（経験）

高橋（薬学）：薬剤師として大学病院に勤務（経験）、調剤薬局に非常勤勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

より安全で質の高い医療の提供にはチーム医療が欠かせない。

①福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解す

る。

②各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。

到達目標



- 1.チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。■
- 2.各専門職の役割と活動について理解できる。■
- 3.チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。■

使用教材



講義のスライドのファイルおよび資料をC-learningに公開する。

評価方法



授業参加への積極性40%、レポート60%

課題・評価に対するフィードバック方法



- ・多学科の学生が参加していることからC-learningの協働板機能を用いてパソコン上での双方向の通信手段によって行い、学生の考えや意見を導入しながら講義を展開する。
- ・課題レポートや小テストの成果から感じた点や補正すべき点について文章化し、C-learningを用いて受講生にフィードバックする。

オフィスアワー



大川（情報）
木曜3限（1号館609研究室）
加藤（福祉）
火曜4限（1号館515研究室）
竹内（栄養）
金曜3限（1号館308研究室）
梅原（看護）
金曜1～2限（5号館502研究室）
渡邊（理学）
金曜3限（5号館1階学部長室）
篠原（理学）
水曜3限（4号館416研究室）
小竹（子ども）
水曜3時限（8号館403研究室）
高橋（薬学）
水曜2限、7号館323研究室

メールアドレス（#→@）



大川（情報）
okawa-ki#takasaki-u.ac.jp
加藤（福祉）
kato-d#takasaki-u.ac.jp
竹内（栄養）
mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp
梅原（看護）
umehara#takasaki-u.ac.jp
篠原（理学）
shinohara-t#takasaki-u.ac.jp
小竹（子ども）
kotake#takasaki-u.ac.jp
高橋（薬学）
takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp
※メールでの質問可の教員のみ掲載

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について■	1	チーム医療とはどのようなものなのか、学習する。	1.5h	21世紀の医療では、なぜ多職種協働のチーム医療が必須であるか理解する。	1.5h
2	チーム医療における看護師の役割と活動■	1,2,3	看護師の役割や業務について調べる	1.5h	看護師の役割・活動、チーム医療における看護職の役割について講義内容から復習しておく。	1.5h
3	チーム医療における理学療法士の役割と活動■	1,2,3	理学療法士の一般的な役割について調べる	1.5h	チームにおけるリハビリテーションの位置づけを復習し、チーム医療に求められる個人の資質について考察する。	1.5h
4	チーム医療における薬剤師の役割と活動■	1,2,3	チーム医療（病院・薬局）における薬剤師の役割と活動についてインターネット等の電子媒体を用いて調査する。	1.5h	医薬品が患者や社会に与える影響（メリットとデメリット）を考え、その上でチーム医療を行うことの有益性についてレポートにまとめる。	1.5h
5	チーム医療における管理栄養士の役割と活動■	1,2,3	今までに学習した1～4のコメディカルの役割と活動について復習し、一般的な管理栄養士の役割と活動について各自で調査する。	1.5h	管理栄養士と他のコメディカルとの関わりについて理解し、それぞれの立場においてチーム医療で求められる役割・活動と、多職種連携について考察する	1.5h
6	チーム医療における社会福祉士の役割と活動■	1,2,3	①高齢化社会の現状を調べる ②地域における医療・介護・福祉の連携、地域包括ケアシステムの進展を調べる。 ③医療ソーシャルワーカーについて調べる。	1.5h	地域での自立生活に必要となる、チーム医療における社会福祉士の役割を考察する。	1.5h
7	チーム医療における特別支援学校教諭の役割と活動■	1,2,3	乳幼児期・学齢期に罹患しやすい病気の概要や主要な障害について予習をすること。	1.5h	保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭と各種医療職との連携のあり方について復習をすること。	1.5h
8	チーム医療における診療情報士の役割と活動■	1,2,3	診療情報管理士と病院事務職について調べてみる。	1.5h	診療情報管理士と病院事務職について得た知識を整理する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

【キーワード】専門職、チーム医療、チームアプローチ、多職種連携
「チーム医療アプローチ演習」（3または4年次開講）履修には、原則として本科目の単位修得が必要となる。
本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



国際保健医療論

MYカモクに追加

英文名：Theory of International Health

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH012

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

李孟蓉, 町田修三

科目に関連した実務経験

開発途上国の健康支援（経験）

元JICA専門家をゲストスピーカーとして招く（第11回）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○		○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

クローズドクエスション、オープンクエスションなど、授業中に質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①世界における健康格差の実態を知り、医療従事者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ、新たな国連の目標であるSDGsを軸に、グローバルヘルスの基本理念と戦略を学び、国際保健医療の活動の場を地球的視野で認識できる。また、地球規模の健康課題やその影響要因、国際保健医療の関連分野の活動の理念と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得し、グローバル化の時代に活躍する医療職を目指すことができる。また本講義では、学生の国際化促進とグ

ローバル人材の養成を目的に、学生が実際に海外に赴き実体験として諸外国の医療事情を見聞することにより、単位を取得することができる。

②授業方法は講義内容の要点について説明し、質問などに対して具体的に説明する。到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう学習内容を体系的に提示し進めいく。また、学生が自律的に学習を進められるようグループワークを取り入れ、発表させる。

到達目標



1. 国際保健医療学、国際保健医療協力の概念と変遷を理解できる。
2. 保健医療分野での国際協力の必要性と意義を理解できる。
3. 諸外国の医療教育や医療の実態、医療制度、福祉を理解し、日本との違いを説明できる。
4. 国際保健医療協力の実際や実践手法を理解できる。■
5. 異文化を理解し、異文化適応のプロセスを理解できる。■
6. 日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる。（海外研修参加者）

使用教材



配布資料、各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと

参考文献



- ①「国際保健医療学」第3版 国際保健医療学会編 杏林書院
- ②「世界で一番いのちの短い国 シェアラレオネの国境なき医師団」 山本敏晴 小学館
- ③「国際協カ―その新しい潮流」 下村恭人 有斐閣
- ④ 世界の厚生労働2019 有限会社正陽文庫/
厚生労働省. 2023年海外情勢報告 https://www.mhlw.go.jp/stf/toukei_hakusho/kaigai23_00001.html
- ⑤「国民衛生の動向2024/2025」 厚生労働統計協会
- ⑥「SDG sを学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社」（電子ブック）
- ⑦「世界の貧国 1日1ドルで暮らす人びと」 ジェレミーシーブルック 青土社 適宜参考書を紹介する

評価方法



【学内授業の場合】

・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、授業、発表・討論の参加度30点（30%）（個人/グループワーク、プレゼンテーション）、期末レポート70点（70%）の配分で合計60点以上を合格とする。
海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス（30%）、研修レポート（30%）、研修中のパフォーマンス（40%）

【オンライン授業の場合】

・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、レポート10点（10%）、授業・参加度20点（20%）（個人/グループワーク、プレゼンテーション）、期末レポート70点（70%）の配分で合計60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



授業後にアンケートを行い、次回の授業初めに振り返りを行う。

発表や討論については、その都度コメントやアドバイスをする。レポートについては、コメントを付して返却する。（対面授業・オンライン授業とも共通）

オフィスアワー



李：木曜日2限目、金曜日3限目；研究室：5号館3階 302
町田：月曜日4限目、金曜日2限目；研究室：1号館 6階 603

メールアドレス（#→@）



ri#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義オリエンテーション、国際保健、国際保健医療学の定義、国際保健医療協力の概念（一部 AL 実施）	1,2	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく。国際保健医療協力に関する新聞・雑誌などの記事を読んでくこと。	1. 5h	配布資料を目を通し、国際保健協力の定義、世界や国内の国際協力の概念についてまとめ、理解を深めること。また、自分の興味のある国の医療事情リサーチを開始する。	1. 5h
2	グローバルヘルスと開発理念の変遷（プライマリーヘルスケア～SDGs）（一部 AL 実施）	1,2	参考文献①「国際保健医療学」第3版の第Ⅰ部1～4、10～11まで目を通しておくこと。	1. 5h	配布資料に目を通し、世界の歴史の中でのプライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション、MDGsの基本理念と変遷について理解を深め、SDGsの目標と活動について興味関心をまとめること。	1. 5h
3	国際保健医療関連の国際機関、NGOの取り組みと日本の国際協力（一部 AL 実施）	1,2	参考文献②「世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団」、③国際協力ーその新しい潮流に目を通しておくこと。	1. 5h	配布資料に目を通し、国際保健医療協力の仕組み、国際保健医療関連の国際機関やNGO団体、ODAの活動についてまとめ、理解を深めること。	1. 5h
4	日本の医療教育、医療制度、医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
5	諸外国（イギリス）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
6	諸外国（ヨーロッパ①）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
7	諸外国（ヨーロッパ②）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
8	諸外国（アメリカ）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
9	諸外国（発展途上国、インドネシア）における健康の格差①（保健指標、母子保健）（一部 AL 実施）	2, 3,4	参考文献④世界の厚生労働2019 p. 102-136、⑤「国民衛生の動向2024/2025」を参考し、日本における衛生の主要指標、保健と医療の動向（人口動態、生命表、母子保健など）について目を通しておくこと。	1. 5h	配布資料に目を通し、世界で生じている健康格差の実態とその原因についてまとめ、理解を深めること。	1. 5h
10	諸外国（発展途上国、タイ・ベトナム）における健康の格差②（感染症と非感染性疾	2, 3,4	参考文献⑥SDGsを学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社（電子ブック）第2章 保健・健康SDG3に目を通しておくこと。	1. 5h	開発途上国の保健医療課題とその原因についてまとめて、理解を深めること。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	患) (一部 AL 実施)					
1 1	国際保健医療協力と異文化理解 ■ (一部 AL 実施) 元JICA専門家を招き、異文化の中での国際協力活動について事例をもとに解説を加えて講義する	2, 3, 4,5	世界で行われてる国際保健医療協力を調べておくこと。	1. 5h	配布資料に目を通し、国際協力として行われている支援について、目的、実際の活動内容、異文化適応について考察したことをまとめ、理解を深めること。	1. 5h
1 2	訪日外国人・在日外国人の背景、医療における課題と健康支援	5	日本、群馬県内の在日外国人(人口、国籍、在留資格、居住地域、生活など)について調べ、体験、新聞等の媒体から実情に関心をもち把握しておくこと。	1. 5h	在日外国人が抱えている健康問題と健康支援について理解を深める。また、異文化に遭遇した際に求められる必要な対処について考え、今後学習や実践に活用できる資料をまとめておく。	1. 5h
1 3	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク① (一部 AL 実施)	2, 3, 4, 5,6	興味ある国の医療事情や興味関心のあるSDGの目標について調べておくこと。	1. 5h	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のあるSDGの目標やターゲットについてまとめて、発表の準備をすること。	1. 5h
1 4	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク② (一部 AL 実施)	2, 3, 4, 5,6	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のあるSDGにおける諸外国、国際機関や世界でのNGO、企業等の活動・取り組みを調べておくこと。	1. 5h	調べてまとめた興味関心のあるSDGについて、第12回講義と関連付けて自分たちが取り組めることをまとめて、発表の準備をすること。	1. 5h
1 5	学生プレゼンテーションとまとめ	2, 3, 4, 5,6	第13回～第14回の個人ワーク/グループワークの発表資料と発表の準備。	1. 5h	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入。	1. 5h

合計時間(予習・復習)

45h

備考

AL(アクティブラーニング)は、ペアワークを含むグループワーク、ディスカッション、リアクションペーパー、その他クローズドク

エスチョン、オープニングエスチョンなど、授業中に質疑応答の時間を設ける。

1. 単位修得に必要な時間を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

2. ルール

1) 能動的に、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨むこと。

2) 他学生の学習の妨げとなるような行為を慎むこと。

3. 出席登録の方法

出席の登録は、C-learningの下記1)～2)のいずれかの方法で行う。方法は授業、「ニュース」で確認すること。

1) 「レポート」の課題をする。

2) 「アンケート」を提出する。

4. グループワークとレポートの詳細については授業を進めながら提示する。

5. オンライン講義を実施する場合には、講義内容のワークショップを変更することがある。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

Introduction to Healthcare Sciences

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Healthcare Sciences

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH013

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

町田 修三、東福寺 幾夫、松尾 仁司、ターン・クリストファー、應本 真、今井 純、大石 時子、富田 洋介

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○					○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

QUIZ、問いかけ、授業内カンバセーション等による双方向性授業

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。

②数人の教員がオムニバス形式で英語にて、学生の理解度を確認しながら講義を展開する。英語を使用する授業であるの

で、予習用に授業で用いる教材・資料・データ等をあらかじめ配布する。授業にはこれらの資料を十分に下調べしたうえで臨むことが特に重要である。

到達目標

- 1.医療に関する基礎的な内容に関して，英語での説明を理解できる
- 2.理解した内容について，第三者に説明できる
- 3.医療に関するトピックに関して，英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる
- 4.医療に関するトピックについて，外国の学生と話をすることができる

使用教材

各教員が作成した資料やデータを用いて講義する

評価方法

担当各教員による評価を総合して決定する．各教員は，毎回の授業参加度（20%程度）や講義終了時に課す提出物または小レポート（80%程度）により，それぞれの持ち点に応じて学生を評価する

課題・評価に対するフィードバック方法

提出物や小レポートには，コメントを付して返却する

オフィスアワー

月曜日4限目、金曜日2限目
研究室：1号館6階603

メールアドレス（#→@）

machida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction of the course （町田）	1	シラバスを熟読し，講義の概要や目標を理解しておく	1h	講義内容の復習，特に専門用語（英語）を覚える	1h
2	Medical globalization and Japan's healthcare system （町田）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
3	Healthcare system of foreign countries （町田）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
4	Introduction of nursing education in Japan and other countries （大石）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
5	Introduction to telemedicine （東福寺）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
6	Methods for Obtaining Medical Information in English I （松尾）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			予習しておき、授業に参加する準備をしておく			
7	Methods for Obtaining Medical Information in English II (松尾)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語（英語）を予習しておき、授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
8	Immunity and diseases I (今井)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語（英語）を予習しておき、授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
9	Immunity and diseases II (今井)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語（英語）を予習しておき、授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
10	Medical information system (松尾)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語（英語）を予習しておき、授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
11	Introduction to sensory science (應本)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語（英語）を予習しておき、授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
12	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation I (富田)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語（英語）を予習しておき、授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
13	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation II (富田)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語（英語）を予習しておき、授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
14	Mental health and social skills (ターン)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語（英語）を予習しておき、授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
15	Summary and concluding remarks (ターン)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語（英語）を予習しておき、授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h

合計時間（予習・復習）

44h

備考

講義内容は学生の興味を持てそうな分野から、基礎的なものを選んでいる。学生の積極的な授業参加が求められる。記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修により医療の国際化に関する理解を深め、単位修得に必要な時間を各自確保すること。

囲碁の世界

MYカモクに追加

英文名：Introduction to Igo

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH014

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

三谷 哲也

科目に関連した実務経験

2002年に公益財団法人日本棋院に入段。囲碁教室や他大学の囲碁授業の講師（現在）

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○		○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

インターネット・携帯電話アプリケーションでの対局を指示する場合あり

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

近年、囲碁は脳を活性化し考える力を養うということで注目されている。囲碁を学ぶことで「考える力」と「集中力」を磨き、「先を読む力」を身につける。

また、日本の伝統文化である囲碁を体得することで、言葉と世代を超えたコミュニケーション力を身につけ、国際交流のコミュニケーション力を高める。

②実施方法

- 講義形式で打ち方の解説をした後、受講生同士で対局を行う。
- 囲碁の心得や法則「ナナメにご用心」等、言葉で表したものを積極的に使い上達を図る。

・決め打ち碁（模範的な碁を並べ、途中から打つ）で布石の考え方を身につけ、初心者でもすぐに終局まで打てるようになる。

到達目標 ^

- 1. 囲碁を全く知らない状態から囲碁の世界を知り、19路盤で最後まで打てるようになる。■
- 2. 「囲碁の心得、法則」の形を言葉で覚え、積極的に使い囲碁の考え方を身につける。■

使用教材 ^

光文社新書「東大教養囲碁講座」 （備考欄を要確認）

参考文献 ^

日本棋院「実践囲碁総合演習」

評価方法 ^

毎回の授業貢献度、コメントシート、技術の習熟度を総合的に判断する（60%）
試験（20%）×2回 ※対局結果は成績評価に含まない

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

試験後に解説を行う。

オフィスアワー ^

質問及び学習相談は授業の前後に応じる。状況により次回の授業での対応となる場合がある。

メールアドレス（#→@） ^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	囲碁の歴史と基本ルール■	1,2	教科書 第1章1～3に目を通し講義の目的を理解する。	1.5 h	囲碁の基本的なルールを理解する。	1.5 h
2	ルールの復習（1）■	1,2	教科書 第2章1-1～1-3に目を通し基本ルールを確認する。	1.5 h	囲碁の5つの基本ルールを理解する。	1.5 h
3	ルールの復習（2）■	1,2	教科書 第2章1-4～1-5に目を通し基本ルールを確認する。	1.5 h	打てない場所、打てる場所を理解する。インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 h
4	ルールの復習及び初歩技術（1）■	1,2	教科書 P97に目を通し、囲碁の打ち方のポイントを確認する。	1.5 h	基本的な3つの心得を理解する。	1.5 h
5	ルールの復習及び初歩技術（2）■	1,2	教科書 第3章2に目を通し、石の取り方を確認する。	1.5 h	取れている石、シチョウを理解する。	1.5 h
6	問題演習■	1,2	教科書 第2章1～2に目を通し基本的な考え方を理解する。	1.5 h	地の数え方、石のつながりを理解する。	1.5 h
7	技術の解説（1）■	1,2	教科書 P188～199に目を通し終盤の考え方を確認する。	1.5 h	19路盤の終盤の考え方を理解する。	1.5 h
8	技術の解説（2）■	1,2	教科書 P173～188に目を通し中盤の考え方を確認する。	1.5 h	19路盤の中盤の考え方を理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	技術の解説 (3) ■	1,2	教科書 P158～172に目を通し序盤の考え方を確認する。	1.5 h	19路盤の序盤の考え方を理解する。	1.5 h
10	9子局の解説・連碁（対局） ■	1,2	教科書 第5章1に目を通し9子局の打ち方を理解する。	1.5 h	9子局の打ち方を理解する。	1.5 h
11	技術の解説 (4) ■	1,2	教科書 P207～220に目を通し決め打ち碁のポイントを理解する。	1.5 h	隅の死活を理解する。	1.5 h
12	技術の解説 (5) とペア碁 ■	1,2	教科書 第4章に目を通し、19路盤の考え方を理解する。	1.5 h	19路盤の中盤の打ち方を理解する。	1.5 h
13	問題演習 ■	1,2	教科書 第2章4に目を通し、石の追い方を理解する。	1.5 h	石の取り方、死活、終局の仕方を理解する。	1.5 h
14	技術の解説 (6) ■	1,2	教科書 P259～267に目を通し、総合的な石の取り方を理解する。	1.5 h	19路盤の序盤～中盤の打ち方を理解する。	1.5 h
15	イベント対局とまとめ ■	1,2	教科書 第4章～5章に目を通し、これまで習ってきたことを確認する。	1.5 h	インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

●履修条件

- ・本講義は、囲碁を知らない状態から19路盤で最後まで打てるようになることが目標です。
- ・囲碁の未経験者や囲碁のルールを知らない者を強く求めます。

●その他、授業に関する事項

- ・第5回目の授業までは基本的なルールを学び復習します。欠席や遅刻などしないこと。
- ・使用教材（教科書）は、授業形態（オンラインや録画配信）への変更により使用しない場合があります。
- ・授業では毎回対局を行います。道具の準備や片づけも授業の一環であるため、積極的に関わること。
- ・PCや携帯端末で囲碁の対局ソフト（アプリ）を指示、使用する場合があります。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

英語IA

MYカモクに追加

英文名：English IA

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL001

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

Louise Arai

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。

授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

- 1.福祉を学ぶ学生にとって基本的な英語の語彙を獲得する。
- 2.福祉についての英語を読めるようになる。
- 3.福祉について英語で話せるようになる。

使用教材

Everything will be provided by the instructor

評価方法

Classroom participation and attitude 30%, Flipgrid videos 30%, Assignments 10%,
Final report 30%,

課題・評価に対するフィードバック方法

Most results from videos, assignments and reports will be returned to students after marking.

オフィスアワー

授業の前後に対応する。

メールアドレス（#→@）

louisebarnett75@yahoo.co.nz

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introductions, review course syllabus, general review and assessment, useful English	1,2,3	Look at syllabus and make name cards	0.5 h	Self introductions and read Useful Classroom/online English	0.5 h
2	Learn how to write an email	1,2,3	Read handout	0.5 h	Send email to teacher	0.5 h
3	Meeting people and Flipgrid introduction	1,2,3	Read handout	0.5 h	Submit video on Flipgrid	0.5 h
4	Restaurant English and Movies	1,2,3	Read handout	0.5 h	Introduce your favorite movie	0.5 h
5	Talking about events and festivals	1,2,3	Prepare to talk about your favorite festival	0.5 h	Introduce your favorite festival	0.5 h
6	Food Culture and Cooking in English	1,2,3	Be ready to talk about your favorite recipe	0.5 h	Introduce a healthy recipe	0.5 h
7	Emergencies	1,2,3	Think about emergency kit	0.5 h	Prepare an emergency kit	0.5 h
8	Useful travel English	1,2,3	Read handout. Be ready to talk about the best place you have visited	0.5 h	Write about your favorite place	0.5 h
9	Talking about pets	1,2,3	Be ready to talk about your pet or your favorite animal	0.5 h	Review the benefits of having pets	0.5 h
10	Online Friends	1,2,3	Be ready to talk about if you prefer online or in person communication	0.5 h	Write about the benefits of both	0.5 h
11	Corona Virus and stress	1,2,3	Read handout	0.5 h	Discuss in groups	0.5 h
12	A healthy lifestyle	1,2,3	Read handout	0.5 h	Discuss in groups	0.5 h
13	Make a blog	1,2,3	Prepare blog	0.5 h	Prepare blog	0.5 h
14	Blog presentation	1,2,3	Prepare blog	0.5 h	Review blogs in groups	0.5 h
15	Communication activities	1,2,3	Prepare for fun!	0.5 h	Review the activities	0.5 h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

Syllabus may change a little.

印刷 

英語IB

MYカモクに追加

英文名：English IB

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL001

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

姉崎 達夫

科目に関連した実務経験

姉崎：英語教師として中学校に勤務（経験）

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 日常的・社会的なトピックを扱ったテキストに触れ、大学生レベルの英文を読むために必要となる基礎的能力を身につける。また、基礎的な英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。
- ② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 日常的・社会的な話題に関する基礎的な語彙を身につける。■
2. 日常的・社会的な話題についての英文を読解できるようになる。■
3. 読解したことについて、自分の考えや意見を表現できるようになる。■

使用教材

AMBITIONS: Beginner：4 技能統合型で学ぶ英語コース（入門編）

参考文献

↑

授業内で紹介する。

評価方法

↑

授業への参加度、ミニテスト、レポート等（50％）、期末試験（50％）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

課題のフィードバックは翌週に提示する。

オフィスアワー

↑

火曜3限、水曜3限
（研究室：9号館3階303）

メールアドレス（#→@）

↑

anezaki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・Unit1 : Cross-Cultural Understanding ■	1,2,3	シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。教科書のはしがき、使い方のヒントを読んで理解しておく。	0.5 h	教科書Unit 1の内容を理解する。	0.5 h
2	Unit 2: Foods ■	1,2,3	教科書Unit 2の指定された練習問題を解く	0.5 h	教科書Unit 2の内容を理解する。	0.5 h
3	Unit 3: Foreign Language Learning ■	1,2,3	教科書Unit 3の指定された練習問題を解く。	0.5 h	教科書Unit 3の内容を理解する。	0.5 h
4	Unit 4: Sports ■	1,2,3	教科書Unit 4の指定された練習問題を解く。	0.5 h	教科書Unit 3の内容を理解する。	0.5 h
5	Unit 4: Fashion ■	1,2,3	教科書Unit 5の指定された練習問題を解く。	0.5 h	教科書Unit 4の内容を理解する。	0.5 h
6	Unit 6: Living Things ■	1,2,3	教科書Unit 6の指定された練習問題を解く。	0.5 h	教科書Unit 5の内容を理解する。	0.5 h
7	Unit 7: Art ■	1,2,3	教科書Unit 7の指定された練習問題を解く。	0.5 h	教科書Unit 6の内容を理解する。	0.5 h
8	Units 1-7のまとめ ■	1,2,3	教科書Units 1-7の苦手な部分復習をする。	0.5 h	教科書Units 1-6の内容を使って、音読、会話練習をする。	0.5 h
9	Unit 8: Global Issues ■	1,2,3	教科書Unit 8の指定された練習問題を解く。	0.5 h	教科書Unit 7の内容を理解する。	0.5 h
10	Unit 9: Japanese Culture ■	1,2,3	教科書Unit 9の指定された練習問題を解く。	0.5 h	教科書Unit 8の内容を理解する。	0.5 h
11	Unit 10: Human Rights ■	1,2,3	教科書Unit 10指定された練習問題を解く。	0.5 h	教科書Unit 9の内容を理解する。	0.5 h
12	Unit 11: Health & Medical Issues ■	1,2,3	教科書Unit 11の指定された練習問題を解く。	0.5 h	教科書Unit 10の内容を理解する。	0.5 h
13	Unit 12: Environment Issues ■	1,2,3	教科書Unit 12の指定された練習問題を解く。	0.5 h	教科書Unit 11の内容を理解する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	Unit 13: Economy & Industry■	1,2,3	教科書Unit 13の指定された練習問題を解く。	0.5h	教科書Unit 12の内容を理解する。	0.5h
15	Units 8-13のまとめ■	1,2,3	教科書Units 8-13の指定された練習問題を解く。	0.5h	教科書Units 7-12の内容を使って、音読、会話練習をする。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

^

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

^

印刷



英語IC

MYカモクに追加

英文名：English IC

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL001

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

Angela Marli Karsten Tsunoda

アンジェラ マルリ カルステン 角田

科目に関連した実務経験

Over 30 years of experience as an English language educator. Has taught from kindergarten to university students in Japan and abroad. 国内外で30年以上の英語指導経験（幼稚園から大学生まで）

履修を必須とする資格

Master's degree in International Communication国際コミュニケーション修士号

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

1.Course Objectives

実施概要 講義の目標

- Improve self-confidence and accurateness in English skills (writing, reading, speaking, listening)

英語の4技能と自信の向上

- Gain experience in making use of technology while using English.

デバイスや機器を利用した英語学習

- Gain a better understanding of oneself and of human life & culture related topics, while relating these to the use

of English language.

自己理解、人間関係、文化といったトピックスについて英語を通じて学ぶ

•Practice of interactions and presentations in English

英語での相互作用とプレゼンテーションの練習

2. Implementation Method

講義の実施方法

•Target topics will be discussed in class. English sentences related to the topics will be practiced, while enhancing vocabulary, grammar and communication skills.

授業では、目標とするトピックについて話し合います。トピックに関連する英語の文章を練習しながら、語彙、文法、コミュニケーションスキルを強化します。

•Students will also work in groups while researching, discussing and creating presentations to share what they have learned with the rest of the class.

生徒はグループで作業しながら、リサーチ、ディスカッション、プレゼンテーションの作成を行い、学んだ内容をクラスの他の生徒と共有します。

到達目標

Attainment Target

- Being able to understand English vocabulary related to daily life at university;
大学生活に関わる英語の語彙が理解できる。
- Being able to engage in simple English conversation related to common daily topics;
日常的な話題に関連した簡単な英会話ができる
- Being able to make effective use of online tools to improve English skills in general;
オンラインツールを効果的に活用して、英語力全般を向上させることができる。
- Being able to perform short presentations in English while using classroom tools;
教室のツールを使用しながら英語で短いプレゼンテーションを行うことができる。
- Being able to recognize and effectively write the parts of an English paragraph;
英語の段落の各部分を認識し、効果的に書くことができる。
- Being able to express opinions in simple English;
簡単な英語で意見を述べることができる。

使用教材

ワークシートは教師から提供されます。教科書を購入する必要はありません。

参考文献

<https://www.allthingstopics.com>

<https://www.allthingsgrammar.com>

Reference book 参考書籍: ※購入の必要はありません。

Topic Talk – David Martin

(No need to buy books. Material will be provided by the instructor).

評価方法

15% - Participation in online questionnaires (アンケートへの参加)

40% - Group Assignments & Presentations (2 X) 月次レポートとプレゼンテーション (2X)

20% - Homework (大学の宿題)

25% - Final Report & Presentation (once in the end of the term)

最終レポート、プレゼンテーション (学期末1回)

課題・評価に対するフィードバック方法

- Self-assessment 自己評価 and Peer assessmentピアアセスメント
- Instructor's comments 教員によるコメント
- Assignments/Final Report assessment 課題、最終レポート評価

オフィスアワー

Feel free to talk to the instructor every Tuesday, right after class.

毎週火曜日の授業終了後、インストラクターに気軽に相談してください。

メールアドレス (#→@)

Please use C-Learning - messages

C-Learning上（連絡・相談）を通して

More details will be provided on the first class. 詳細は初回授業時にお知らせします。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	TALKING ABOUT MYSELF 1	1,2,3	• Please read this syllabus carefully and send me any questions you may have. You can use C-learning messages for this. シラバスを読み、質問がある場合はC-ラーニング、Message(連絡・相談)から質問する。 • Please take a look at C-learning using the English display (Change display) C-learning上の英語ディスプレイを確認	1.5 h	• Reread this syllabus. シラバスの再確認 • Review vocabulary, phrases and sentences 単語、表現、文の復習 (check "Teaching Materials") C-learning⇒教材倉庫より • Please do your weekly homework 毎週宿題をしてください	1.5 h
2	TALKING ABOUT MYSELF 2	1,2,3,5,6	• Please answer the weekly questionnaire アンケート回答	1.5 h	• Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習 • Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる • Please work on your weekly homework. 宿題への取り組み	1.5 h
3	HUMAN RELATIONSHIPS 1	1,2,3,5,6	• Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5 h	• Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習 • Please work on your weekly homework. 宿題への取り組み • Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる	1.5 h
4	HUMAN RELATIONSHIPS 2	1,2,3,5,6	• Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5 h	• Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習 • Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	FIRST ASSIGNMENT PRESENTATION DAY レポート発表日	4,5,6	- First Assignment Deadline! Please send it to the instructor. - 課題提出期限！（教員へWeb上の提出） - Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ question naire)	1.5 h	- Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") - 単語、表現、文の復習 - Please work on your weekly homework. 宿題への取り組み	1.5 h
6	INTERESTS 1	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ question naire)	1.5 h	- Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 文、表現、文の復習 - Please work on your Mid-term Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーションへの取り組み - Please work on your weekly homework 宿題への取り組み	1.5 h
7	INTERESTS 2	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ question naire)	1.5 h	- Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") - 単語、表現、文の復習 - Please work on your Mid-term Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーションへの取り組み - Please work on your weekly homework 宿題への取り組み	1.5 h
8	INTERESTS 3	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ question naire)	1.5 h	- Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") - 単語、表現、文の復習 - Please work on your Mid-term Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーションへの取り組み	1.5 h
9	MID-TERM ASSIGNMENT PRESENTATION DAY レポート発表日	1,2,3,4	- MID-TERM Assignment Deadline! Please send it to the instructor. - 課題提出期限！（教員へWeb上の提出） - Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ question naire)	1.5 h	- Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") - 単語、表現、文の復習 - Please work on your weekly homework. 宿題への取り組み	1.5 h
10	HEALTH AND WELL-BEING 1 /FINAL REPORT INSTRUCTIONS最後のレポートの指示	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ question naire)	1.5 h	- Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") - 単語、表現、文の復習 - Please work on your weekly homework 宿題への取り組み - Please review the instructions for the FINAL REPORT and	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					start working on it 最終レポートについて内容確認し取り組み開始	
1 1	HEALTH AND WELL-BEING 2	1,2,3,6	・ Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ question naire)	1.5 h	・ Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ・ Please work on your FINAL REPORT 最終レポートへの取り組み	1.5 h
1 2	HEALTH AND WELL-BEING 3	1,2,3,6	・ Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ question naire)	1.5 h	・ Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ・ Please work on your weekly homework 宿題への取り組み ・ Please work on your FINAL REPORT 最終レポートへの取り組み	1.5 h
1 3	OPINIONS & REFLECTIONS 1	1,2,3,6	・ Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ question naire)	1.5 h	・ Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ・ Please work on your FINAL REPORT 最終レポートへの取り組み	1.5 h
1 4	FINAL REPORT PRESENTATION DAY ファイナルレポートプレゼンテーションデー	1,2,3,4,6	・ FINAL REPORT Deadline! Please send it to the instructor. 最終レポート提出期限！（教員へWeb上の提出） ・ Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ question naire)	1.5 h	・ Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ・ Please work on your weekly homework 宿題への取り組み	1.5 h
1 5	OPINIONS & REFLECTIONS 3	1,2,3,4,6	・ Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ question naire)	1.5 h	・ Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 

英語IIA

MYカモクに追加

英文名：English IIA

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL002

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

Tarn, Christopher

ターン・クリストファー

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○	○	○		○			

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ケーススタディ：福祉分野のシナリオを英語で分析する。

ロールプレイ：面接や紛争解決など、現実的な状況を練習する。

フィードバックセッション：コミュニケーションスキルの改善に向けた振り返りを行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

1.福祉分野における英語の基本的なコミュニケーションスキルを学びます。英語でのスピーキングの自信を高め、福祉用語を理解し、効果的なコミュニケーション戦略（アクティブリスニング、非言語コミュニケーション、紛争解決など）を習得することを目的としています。

2.グループディスカッション、ケーススタディ、プレゼンテーション、ロールプレイを中心としたアクティブラーニング

到達目標

- 英語でのコミュニケーションに自信を持てる。
- 福祉の現場で感情知能やアクティブリスニングを活用できる。
- 福祉に関する基本的な英語用語を効果的に使用できる。

- 4.構造化されたプレゼンテーションを準備し、グループディスカッションに参加できる。
- 5.グループでの課題解決やネットワーキングスキルを発揮できる。

使用教材 ^

授業中に配布されるハンドアウトおよびデジタルリソース

評価方法 ^

- 1.授業参加度: 30%
- 2.グループワークとプレゼンテーション: 40%
- 3.最終発表と振り返り: 30%

メールアドレス（#→@） ^

tarn#takasaki-u.ac.jp or C-Learning

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	福祉とコミュニケーションスキルのための英語の導入 アイスブレイク活動を通じた信頼関係の構築 グループディスカッション:「アクティブラーニングとは何か?」「なぜ日本の学生は英会話を敬遠するのか?」	1, 4,5	アクティブラーニングの基本情報を調査し、日本人が英会話を敬遠する理由を考察する。	1. 0h	授業内のグループディスカッションにおける自身の意見と他者の意見を整理する。	0. 5h
2	コミュニケーションスキル向上のための感情知能 感情知能（EI）の導入 感情や共感についてのグループディスカッション 自己制御スキルを練習する	1, 2,4	感情知能（EI）の基礎知識を学習し、感情と共感の具体例を検討する。	1. 0h	授業での感情や共感に関するグループディスカッションの内容を再考し、自己制御スキルの練習方法をまとめる。	0. 5h
3	英語コミュニケーションにおける自信の醸成と人見知りの克服 英語を話すことへの恐怖心を克服するためのディスカッション 自己肯定感を高めるグループ活動 少人数グループで英語を話す練習	1,2	英語を話すことへの不安や人見知りの原因を自己分析し、克服策を考案する。	1. 0h	授業中のディスカッションとグループ活動を振り返り、英語で話す自信を高める具体的な手順を明確にする。	0. 5h
4	効果的なバーバル、ノンバーバル、要約コミュニケーションスキル バーバルおよびノンバーバルコミュニケーションの技術を探る 会話の要点を要約するスキルの活動	1,2	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの基本要素を学習し、要約のポイントを調査する。	1. 0h	授業で扱われたコミュニケーションスキルについて、福祉分野での具体的な応用例を考察する。	0. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	福祉分野でのこれらのスキルを応用する練習					
5	アクティブリスニングスキル 福祉分野でのアクティブリスニングの重要性を学ぶ リスニングと対応の練習を行うロールプレイ リスニング戦略に関するピアフィードバック	1,2	アクティブリスニングの具体的方法と福祉分野における重要性を事前に調査する。	1. 0h	授業でのリスニングと対応の練習、ロールプレイの内容を振り返り、ピアフィードバックで得られたリスニング戦略の改善点を整理する。	0. 5h
6	対人コミュニケーションスキル ラポール形成と効果的な対話についての活動 福祉分野での対人コミュニケーション課題について議論 対人スキルをロールプレイで練習する	1,2	ラポール形成の基本テクニックと効果的な対話の進め方を調査し、福祉分野で生じる対人コミュニケーションの課題を検討する。	1. 0h	授業中のラポール形成や対話に関する活動、ロールプレイの内容を振り返り、自身の対人スキル向上のための課題を明確にする。	0. 5h
7	福祉の基本用語 福祉分野の基本用語を紹介 語彙を増やすための演習とグループ練習 文脈内で用語を使用するためのロールプレイ	3	福祉分野の基本的な英単語や専門用語をリストアップし、意味を調査する。	1. 0h	授業で学習した福祉の基本用語を再確認し、各用語の具体的な使用文脈を考察する。	0. 5h
8	エッセイとEメールの書き方、メディア英語の学習 エッセイとEメールの構成を学ぶ メディア関連英語の導入 エッセイとEメールの書き方を練習し編集する	3	英語のエッセイとEメールの基本構成と書き方を学習し、メディア英語の例を調査する。	1. 0h	授業で練習したエッセイやEメールを見直し、改善点を確認し、メディア英語の例をさらに調査し理解を深める。	0. 5h
9	パブリック・スピーキングとプレゼンテーション パブリック・スピーキングの基本（構造、内容、伝え方）を学ぶ プレゼンテーションスキルをグループで練習しフィードバックを受ける 短いプレゼンテーションを準備して発表する	1,4	果的なパブリック・スピーキングとプレゼンテーションの構成、内容、伝え方に関する情報を収集する。	1. 0h	授業でのプレゼンテーション練習とフィードバックの内容を振り返り、自身のプレゼンテーションスキル向上のための具体的な改善点を明確にする。	0. 5h
10	インタビューテクニック オープンエンドの質問の仕方を学ぶ アクティブリスニングと信頼構築に重点を置いた面接ロールプレイを行う	1, 2,3	オープンエンドの質問作成方法、アクティブリスニングのポイント、インタビューにおける信頼構築の重要性を学習する。	1. 0h	授業で行った面接ロールプレイの内容を振り返り、効果的なインタビュー戦略について分析した結果をまとめる。	0. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	効果的なインタビュー戦略を分析する					
1 1	ケースマネジメント用語 ●ケースマネジメントで使われる専門用語を紹介する ●用語を使ったシナリオ練習をグループで行う ●語彙の正確性と流暢さに関するピアフィードバックを受ける	3,5	ケースマネジメントで頻繁に使用される専門用語を調査し、各用語の意味を理解する。	1. 0h	授業で学習したケースマネジメント用語を用いて、グループで行ったシナリオ練習の内容を再検討し、ピアフィードバックで得られた語彙の正確性と流暢さに関する改善点を確認する。	0. 5h
1 2	通訳者との仕事の進め方 ●通訳者との効果的なコミュニケーション戦略を学ぶ ●通訳者を活用した状況を想定したロールプレイを行う ●倫理的配慮について議論する	1, 2,5	通訳者との連携における注意点や効果的なコミュニケーション戦略を事前に調査し、通訳が必要となる場面での倫理的配慮を検討する。	1. 0h	授業で行った通訳者を活用したロールプレイの内容を振り返り、通訳者とのより良い連携のためのポイントや倫理的な配慮について再考する。	0. 5h
1 3	紛争解決の戦略 ●紛争解決の基本戦略を学ぶ ●福祉関連の紛争解決を想定したロールプレイを行う ●紛争解決スキルに関するピア評価を受ける	1, 2,5	紛争解決の基本的な戦略を学習し、福祉の現場で起こりうる紛争事例を検討する。	1. 0h	授業で行った福祉関連の紛争解決を想定したロールプレイの内容を振り返り、ピア評価で得られた紛争解決スキルに関するフィードバックを整理する。	0. 5h
1 4	ネットワーキングとコラボレーション ●ネットワーキングの重要性について議論する ●コラボレーションとチームワークを練習する活動を行う ●ネットワーキングの機会を想定したグループプロジェクトを実施する	4,5	ネットワーキングの重要性と方法、効果的なコラボレーションとチームワークの要素を調査する。	1. 0h	授業でのネットワーキングに関する議論やコラボレーションの活動を振り返り、今後のネットワーキングの機会やグループプロジェクトに活かせる学びをまとめる。	0. 5h
1 5	最終発表とコースの振り返り ●最終発表を行い、これまで学んだ内容を示す ●クラス全体で成果を振り返るディスカッションを行う ●発表に対してピアおよび教員からフィードバックを受ける	1,4	これまでの授業で学習した内容を整理し、最終発表で強調する点を構想する。	1. 0h	最終発表の内容とクラス全体での振り返りディスカッションの内容を再検討し、ピアおよび教員からのフィードバックを参考に、この授業で得られた学びを具体的に記述する。	0. 5h



英語IIB

MYカモクに追加

英文名 : English IIB

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL002

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

Louise Arai

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。

②授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 情報医療を学ぶ学生にとって基本的な英語の語彙を獲得する。
2. 情報医療についての英語を読めるようになる。
3. 情報医療について英語で話せるようになる。

使用教材

Everything will be provided by the instructor

評価方法

Classroom participation and attitude 30%, Flipgrid videos 30%, Assignments 10%,
Final report 30%

課題・評価に対するフィードバック方法

Most results from videos, assignments and reports will be returned to students after marking.

オフィスアワー

授業の前後に対応する。

メールアドレス（#→@）

louisebarnett75@yahoo.co.nz

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introductions, review course syllabus, general review and assessment, useful English	1,2,3	Look at syllabus and make name cards	0.5 h	Self introductions and read Useful Classroom/online English	0.5 h
2	Learn how to write an email	1,2,3	Read handout	0.5 h	Send email to teacher	0.5 h
3	Meeting people and Flipgrid introduction	1,2,3	Read handout	0.5 h	Submit video on Flipgrid	0.5 h
4	Restaurant English and Movies	1,2,3	Read handout	0.5 h	Introduce your favorite movie	0.5 h
5	Talking about events and festivals	1,2,3	Prepare to talk about your favorite festival	0.5 h	Introduce your favorite festival	0.5 h
6	Food Culture and Cooking in English	1,2,3	Be ready to talk about your favorite recipe	0.5 h	Introduce a healthy recipe	0.5 h
7	Emergencies	1,2,3	Think about emergency kit	0.5 h	Prepare an emergency kit	0.5 h
8	Useful travel English	1,2,3	Read handout. Be ready to talk about the best place you have visited	0.5 h	Write about your favorite place	0.5 h
9	Talking about pets	1,2,3	Be ready to talk about your pet or your favorite animal	0.5 h	Review the benefits of having pets	0.5 h
10	Online Friends	1,2,3	Be ready to talk about if you prefer online or in person communication	0.5 h	Write about the benefits of both	0.5 h
11	Corona Virus and stress	1,2,3	Read handout	0.5 h	Discuss in groups	0.5 h
12	A healthy lifestyle	1,2,3	Read handout	0.5 h	Discuss in groups	0.5 h
13	Make a blog	1,2,3	Prepare blog	0.5 h	Prepare blog	0.5 h
14	Blog presentation	1,2,3	Prepare blog	0.5 h	Review blogs in groups	0.5 h
15	Communication activities	1,2,3	Prepare for fun!	0.5 h	Review the activities	0.5 h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

Syllabus may change a little.

印刷 

英語IIC

MYカモクに追加

英文名：English IIC

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL002

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

井之川 睦美

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 日常的・社会的なトピックを扱ったテキストに触れ、大学生レベルの英文を読むために必要となる基礎的能力を身につける。また、基礎的な英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。
- ② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

- 日常的・社会的な話題に関する基礎的な語彙を身につける。
- 日常的・社会的な話題についての英文を読解できるようになる。
- 読解したことについて、自分の考えや意見を簡単な英語で表現できるようになる。

使用教材

Ambitions: Beginner, 静哲人, 望月正道, 熊澤孝昭, 金星堂, 2024年, ￥2,200

評価方法

授業への積極的参加（10%）、小テスト／課題遂行度（60%）、試験（30%）から総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題提出後、C-Learning上で各自、あるいはクラス内でフィードバックする。

オフィスアワー

^

授業の前後で対応

メールアドレス（#→@）

^

初回授業で提示

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション：教科書・学習方法の確認、自己紹介	1,2,3	シラバスを読み学習方法を確認する	0.5h	学習方法、教科書の活用法の確認	0.5h
2	Unit 1 Cross-Cultural Understanding	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
3	Unit 2 Foods	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
4	Unit 3 Foreign Language Learning	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
5	Unit 4 Sports	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
6	課題 1	1,2,3	課題手順について確認する	0.5h	課題を復習し理解を確認する	0.5h
7	課題 1	1,2,3	課題手順について確認する	0.5h	課題を復習し理解を確認する	0.5h
8	Unit 5 Fashion	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
9	Unit 6 Living Things	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
10	Unit 8 Global Issues	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
11	Unit 10 Human Rights	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
12	課題 2	1,2,3	課題手順について確認する	0.5h	課題を復習し理解を確認する	0.5h
13	課題 2	1,2,3	課題手順について確認する	0.5h	課題を復習し理解を確認する	0.5h
14	Review	1,2,3	既習ユニットの復習	0.5h	復習事項の理解を確認する	0.5h
15	Review	1,2,3	既習ユニットの復習	0.5h	学習の振り返り	0.5h

合計時間（予習・復習）

^

15h

備考

^

教科書、パソコン必携。
講義予定は授業進行状況により多少の変更有

英語IIIA

MYカモクに追加

英文名：English IIIA

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL003

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

井之川 睦美

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 日常的・社会的なトピックを扱ったテキストに触れ、大学生レベルの英文を読むために必要となる基礎的能力を身につける。また、基礎的な英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。
- ② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

- 日常的・社会的な話題に関する基礎的な語彙を身につける。
- 日常的・社会的な話題についての英文を読解できるようになる。
- 読解したことについて、自分の考えや意見を簡単な英語で表現できるようになる。

使用教材

Ambitions: Elementary, 静哲人, 望月正道, 熊澤孝昭, 金星堂, 2024年, ￥2,200

評価方法

授業への積極的参加（10%）、小テスト／課題遂行度（60%）、試験（30%）から総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題提出後、C-Learning上で各自、あるいはクラス内でフィードバックする。

オフィスアワー

^

授業の前後で対応

メールアドレス（#→@）

^

初回授業で提示

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション：教科書・学習方法の確認、自己紹介	1,2,3	シラバスを読み学習方法を確認する	0.5h	学習方法、教科書の活用法の確認	0.5h
2	Unit 1 Cross-Cultural Understanding	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
3	Unit 2 Foods	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
4	Unit 3 Foreign Language Learning	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
5	Unit 4 Sports	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
6	課題 1	1,2,3	課題手順について確認する	0.5h	課題を復習し理解を確認する	0.5h
7	課題 1	1,2,3	課題手順について確認する	0.5h	課題を復習し理解を確認する	0.5h
8	Unit 5 Fashion	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
9	Unit 7 Art	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
10	Unit 9 Japanese Culture	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
11	Unit 10 Human Rights	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
12	課題 2	1,2,3	課題手順について確認する	0.5h	課題を復習し理解を確認する	0.5h
13	課題 2	1,2,3	課題手順について確認する	0.5h	課題を復習し理解を確認する	0.5h
14	Review	1,2,3	既習ユニットの復習	0.5h	復習事項の理解を確認する	0.5h
15	Review	1,2,3	既習ユニットの復習	0.5h	学習の振り返り	0.5h

合計時間（予習・復習）

^

15h

備考

^

教科書、パソコン必携。
講義予定は授業進行状況により多少の変更有

英語IIIB

MYカモクに追加

英文名：English IIIB

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL003

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

Tarn, Christopher

ターン・クリストファー

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○	○	○		○			

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ケーススタディ：福祉分野のシナリオを英語で分析する。

ロールプレイ：面接や紛争解決など、現実的な状況を練習する。

フィードバックセッション：コミュニケーションスキルの改善に向けた振り返りを行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

1.福祉分野における英語の基本的なコミュニケーションスキルを学びます。英語でのスピーキングの自信を高め、福祉用語を理解し、効果的なコミュニケーション戦略（アクティブリスニング、非言語コミュニケーション、紛争解決など）を習得することを目的としています。

2.グループディスカッション、ケーススタディ、プレゼンテーション、ロールプレイを中心としたアクティブラーニング

到達目標

- 英語でのコミュニケーションに自信を持てる。
- 福祉の現場で感情知能やアクティブリスニングを活用できる。
- 福祉に関する基本的な英語用語を効果的に使用できる。

- 4.構造化されたプレゼンテーションを準備し、グループディスカッションに参加できる。
- 5.グループでの課題解決やネットワーキングスキルを発揮できる。

使用教材

授業中に配布されるハンドアウトおよびデジタルリソース

評価方法

- 1.授業参加度: 30%
- 2.グループワークとプレゼンテーション: 40%
- 3.最終発表と振り返り: 30%

メールアドレス（#→@）

tarn#takasaki-u.ac.jp or C-Learning

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	福祉とコミュニケーションスキルのための英語の導入 アイスブレイク活動を通じた信頼関係の構築 グループディスカッション:「アクティブラーニングとは何か?」「なぜ日本の学生は英会話を敬遠するのか?」	1,4,5	アクティブラーニングに関する自身の考えを巡らせ、日本の学生が英会話を敬遠する理由について考察する。	1.0h	講義内容を振り返り、アクティブラーニングの定義と日本人が英会話を敬遠する理由に関する議論の要点を整理する。	0.5h
2	コミュニケーションスキル向上のための感情知能 感情知能（EI）の導入 感情や共感についてのグループディスカッション 自己制御スキルを練習する	1,2,4	感情知能の基本的な概念について資料等で予習する。	1.0h	感情知能の導入、感情や共感に関するグループディスカッション、自己制御スキルの練習内容を再考する。	0.5h
3	英語コミュニケーションにおける自信の醸成と人見知りの克服 英語を話すことへの恐怖心を克服するためのディスカッション 自己肯定感を高めるグループ活動 少人数グループで英語を話す練習	1	英語を話すことへの自身の心理的な障壁について内省する。	1.0h	英語でのコミュニケーションにおける自信醸成と人見知りの克服に関するディスカッションやグループ活動の内容を思い返す。	0.5h
4	効果的なバーバル、ノンバーバル、要約コミュニケーションスキル バーバルおよびノンバーバルコミュニケーションの技術を探る 会話の要点を要約するスキルの活動 福祉分野でのこれらのスキルを応用する練習	1,2	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの基本的な要素について調べる。	1.0h	講義で扱われたバーバルおよびノンバーバルコミュニケーションの技術、会話の要約スキル、福祉分野での応用について整理する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	アクティブリスニングスキル 福祉分野でのアクティブリスニングの重要性を学ぶ リスニングと対応の練習を行うロールプレイ リスニング戦略に関するピアフィードバック	1,2	アクティブリスニングの主要な要素や意義について予習する。	1. 0h	福祉分野でのアクティブリスニングの重要性、リスニングと応答の練習、ロールプレイ、ピアフィードバックの内容を再確認する。	0. 5h
6	対人コミュニケーションスキル ラポール形成と効果的な対話についての活動 福祉分野での対人コミュニケーション課題について議論 対人スキルをロールプレイで練習する	1,2	ラポール形成の基本的な方法について事前に検討する。	1. 0h	ラポール形成と効果的な対話に関する活動、福祉分野での対人コミュニケーション課題に関する議論、ロールプレイの内容を振り返る。	0. 5h
7	福祉の基本用語 福祉分野の基本用語を紹介 語彙を増やすための演習とグループ練習 文脈内で用語を使用するためのロールプレイ	3	福祉分野の基本的な英単語やフレーズを予習する。	1. 0h	福祉の基本用語、語彙を増やすための演習、グループ練習、ロールプレイで使用した用語を復習する。	0. 5h
8	エッセイとEメールの書き方、メディア英語の学習 エッセイとEメールの構成を学ぶ メディア関連英語の導入 エッセイとEメールの書き方を練習し編集する	3	英語のエッセイとEメールの基本的な構成について確認する。	1. 0h	エッセイとEメールの構成、メディア関連英語の導入、エッセイとEメールの作成練習と編集に関する内容を再度確認する。	0. 5h
9	パブリック・スピーキングとプレゼンテーション パブリック・スピーキングの基本（構造、内容、伝え方）を学ぶ プレゼンテーションスキルをグループで練習しフィードバックを受ける 短いプレゼンテーションを準備して発表する	1,4	効果的なパブリック・スピーキングやプレゼンテーションの構成要素について学習する。	1. 0h	パブリック・スピーキングの基本（構造、内容、伝え方）、プレゼンテーションスキルのグループ練習とフィードバック、短いプレゼンテーションの内容を思い出す。	0. 5h
10	インタビューテクニック オープンエンドの質問の仕方を学ぶ アクティブリスニングと信頼構築に重点を置いた面接ロールプレイを行う 効果的なインタビュー戦略を分析する	1,2,3	オープンエンドの質問の作成方法について検討する。	1. 0h	オープンエンドの質問の仕方、アクティブリスニングと信頼構築に重点を置いた面接ロールプレイ、効果的なインタビュー戦略の分析内容を整理する。	0. 5h
11	ケースマネジメント用語 ●ケースマネジメントで使われる専門用語を紹介する	1,3,5	ケースマネジメントで用いられる基本的な専門用語を予習する。	1. 0h	紹介されたケースマネジメントの専門用語、用語を使ったシナリオ練	0. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	- 用語を使ったシナリオ練習をグループで行う - 語彙の正確性と流暢さに関するピアフィードバックを受ける				習、ピアフィードバックの内容を復習する。	
1 2	通訳者との仕事の進め方 - 通訳者との効果的なコミュニケーション戦略を学ぶ - 通訳者を活用した状況を想定したロールプレイを行う - 倫理的配慮について議論する	1,2, 5	通訳者との連携における注意点や効果的なコミュニケーション方法について考える。	1. 0h	通訳者との効果的なコミュニケーション戦略、通訳者を活用したロールプレイ、倫理的配慮に関する議論の内容を再確認する。	0. 5h
1 3	紛争解決の戦略 - 紛争解決の基本戦略を学ぶ - 福祉関連の紛争解決を想定したロールプレイを行う - 紛争解決スキルに関するピア評価を受ける	1,2, 5	代表的な紛争解決戦略について調べる。	1. 0h	紛争解決の基本戦略、福祉関連の紛争解決を想定したロールプレイ、紛争解決スキルに関するピア評価の内容を振り返る。	0. 5h
1 4	ネットワーキングとコラボレーション - ネットワーキングの重要性について議論する - コラボレーションとチームワークを練習する活動を行う - ネットワーキングの機会を想定したグループプロジェクトを実施する	1,4, 5	ネットワーキングの意義やコラボレーションを成功させるための要素について考察する。	1. 0h	ネットワーキングの重要性に関する議論、コラボレーションとチームワークを練習する活動、グループプロジェクトの内容を再考する。	0. 5h
1 5	最終発表とコースの振り返り - 最終発表を行い、これまで学んだ内容を示す - クラス全体で成果を振り返るディスカッションを行う - 発表に対してピアおよび教員からフィードバックを受ける	1,4	これまでの講義内容を振り返り、最終発表で伝えたい内容の骨子をまとめる。	1. 0h	最終発表の内容、クラス全体での成果の振り返り、発表に対するフィードバックの内容を整理する。	0. 5h

合計時間（予習・復習）

22.5h



印刷

英語IIIC

MYカモクに追加

英文名：English IIIC

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL003

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

Louise Arai

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。

授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

- 1.福祉を学ぶ学生にとって基本的な英語の語彙を獲得する。
- 2.福祉についての英語を読めるようになる。
- 3.福祉について英語で話せるようになる。

使用教材

Everything will be provided by the instructor

評価方法

Classroom participation and attitude 30%, Flipgrid videos 30%, Assignments 10%,
Final report 30%

課題・評価に対するフィードバック方法

Most results from videos, assignments and reports will be returned to students after marking

オフィスアワー

授業の前後に対応する。

メールアドレス（#→@）

louisebarnett75@yahoo.co.nz

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introductions, review course syllabus, general review and assessment, useful English	1,2,3	Look at syllabus and make name cards	0.5 h	Self introductions and read Useful Classroom/online English	0.5 h
2	Learn how to write an email	1,2,3	Read handout	0.5 h	Send email to teacher	0.5 h
3	Meeting people and Flipgrid introduction	1,2,3	Read handout	0.5 h	Submit video on Flipgrid	0.5 h
4	Restaurant English and Movies	1,2,3	Read handout	0.5 h	Introduce your favorite movie	0.5 h
5	Talking about events and festivals	1,2,3	Prepare to talk about your favorite festival	0.5 h	Introduce your favorite festival	0.5 h
6	Food Culture and Cooking in English	1,2,3	Be ready to talk about your favorite recipe	0.5 h	Introduce a healthy recipe	0.5 h
7	Emergencies	1,2,3	Think about emergency kit	0.5 h	Prepare an emergency kit	0.5 h
8	Useful travel English	1,2,3	Read handout. Be ready to talk about the best place you have visited.	0.5 h	Write about your favorite place	0.5 h
9	Talking about pets	1,2,3	Be ready to talk about your pet or your favorite animal	0.5 h	Review the benefits of having pets	0.5 h
10	Online Friends	1,2,3	Be ready to talk about if you prefer online or in person communication	0.5 h	Write about the benefits of both	0.5 h
11	Corona Virus and stress	1,2,3	Read handout	0.5 h	Discuss in groups	0.5 h
12	A healthy lifestyle	1,2,3	Read handout	0.5 h	Discuss in groups	0.5 h
13	Make a blog	1,2,3	Prepare blog	0.5 h	Prepare blog	0.5 h
14	Blog presentation	1,2,3	Prepare blog	0.5 h	Review blogs in groups	0.5 h
15	Communication activities	1,2,3	Prepare for fun!	0.5 h	Review the activities	0.5 h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

Syllabus may change a little.

印刷 

英語IVA

MYカモクに追加

英文名：English IVA

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL004

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

柳澤順一

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①福祉・健康に関する英語表現に親しみ、専門的な内容を扱った基礎的なレベルの英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。

②授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

- 福祉・健康に関する基礎的な語彙を身につける。
- 福祉・健康についての英文を読解できるようになる。
- 読解したことについて、自分の考えや意見を表現できるようになる。

使用教材

Well-Being--English for Caregivers, Yukio Seya et al., Nan'un-Do (2005)

評価方法

平常点50%（受講態度、小テスト、課題の提出状況など）、定期試験50%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



レポートは評価またはショートコメントを付した後返却する（学期末課題については返却しないことがある）。

オフィスアワー



質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）



jyanagisawa555#gmail.com

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction, vocabulary quiz, DVD-watching with Q&A (1)	1,2,3	No preparations needed	0h	Review of the vocabulary quiz, working on exercises with the DVE scene	1.0h
2	Unit 1 Adult day service, DVD-watching with Q&A (2)	1,2,3	Working on pre-reading exercise, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, working on additional exercises	1.0h
3	Unit 2 Nutritional considerations for the elderly, DVD-watching with Q&A (3)	1,2,3	Working on pre-reading exercise, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, working on additional exercises	1.0h
4	Unit 3 Preventing patients from becoming permanently bedridden, DVD-watching with Q&A (4)	1,2,3	Working on pre-reading exercise, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, working on additional exercises	1.0h
5	Unit 4 Normalization, DVD-watching with Q&A (5)	1,2,3	Working on pre-reading exercise, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, working on additional exercises	1.0h
6	Unit 5 Group homes for the elderly with dementia, DVD-watching with Q&A (6)	1,2,3	Working on pre-reading exercise, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, working on additional exercises	1.0h
7	Unit 6 The way ahead--disability sports, DVD-watching with Q&A (7)	1,2,3	Working on pre-reading exercise, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, working on additional exercises	1.0h
8	The Mini Test, DVD-watching with Q&A (8)	1,2,3	Preparing for the Mini Test	1.0h	Review of the Mini Test, working on exercises with the DVD scene	1.0h
9	Unit 7 Child abuse, DVD-watching with Q&A (9)	1,2,3	Working on pre-reading exercise, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, working on additional exercises	1.0h
10	Unit 8 Animal assisted therapy, DVD-watching with Q&A (10)	1,2,3	Working on pre-reading exercise, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, working on additional exercises	1.0h
11	Unit 9 Care in the UK, DVD-watching with Q&A (11)	1,2,3	Working on pre-reading exercise, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, working on additional exercises	1.0h
12	Unit 10 Ethical considerations for social service workers, DVD-watching with Q&A (12)	1,2,3	Working on pre-reading exercise, listening to the sound file	1.0h	Review of the new vocabulary, working on additional exercises	1.0h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	Unit 11 Burnout, DVD-watching with Q&A (13)	1,2,3	Working on pre-reading exercise, listening to the sound file	1.0 h	Review of the new vocabulary, working on additional exercises	1.0 h
14	Unit12 Depression in the elderly, DVD-watching with Q&A (14)	1,2,3	Working on pre-reading exercise, listening to the sound file	1.0 h	Review of the new vocabulary, working on additional exercises	1.0 h
15	Review of all the units (Units 1-12)	1,2,3	Scanning all of the reading texts and dialog scripts	1.0 h	Preparing for the final exam	2.0 h

合計時間（予習・復習）



30h

印刷 

英語IVB

MYカモクに追加

英文名：English IVB

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL004

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

下田尾 誠

科目に関連した実務経験

なし

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○			○				

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中に振り返り、質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- 福祉・健康に関する英語表現に親しみ、専門的な内容を扱った基礎的なレベルの英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。
- 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

- 福祉・健康に関する基礎的な語彙を身につける。
- 福祉・健康についての英文を読解できるようになる。

3.読解したことについて、自分の考えや意見を表現できるようになる。

使用教材

瀬谷幸男他、WELL-BEING English for Caregivers (福祉系学生のための総合英語) (南雲堂、2005) 1,600円

評価方法

以下の基準により評価する。学期末テスト (70%)、授業への参加度 (質問に対する応答) (20%)、課題提出 (10%)

課題・評価に対するフィードバック方法

課題については、提出後に解説する。

オフィスアワー

質問および学習相談については、授業終了後に応じる。

メールアドレス (#→@)

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Care of the Elderly 成人向け通所サービス	1,2,3	テキストの該当箇所を 読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題 を行うこと。	0.5h
2	Care of the Elderly 高齢者の栄養摂取	1,2,3	テキストの該当箇所を 読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題 を行うこと。	0.5h
3	Care of the Elderly 寝たきり老人ゼロ作戦	1,2,3	テキストの該当箇所を 読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題 を行うこと。	0.5h
4	Normalization and Opportuniti es for the Handi-capped ノーマライゼーションを広める	1,2,3	テキストの該当箇所を 読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題 を行うこと。	0.5h
5	Normalization and Opportuniti es for the Handi-capped 認知症対応型共同生活介護	1,2,3	テキストの該当箇所を 読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題 を行うこと。	0.5h
6	Normalization and Opportuniti es for the Handi-capped 身障者とスポーツ	1,2,3	テキストの該当箇所を 読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題 を行うこと。	0.5h
7	Easing Suffering 虐待から子供を救う	1,2,3	テキストの該当箇所を 読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題 を行うこと。	0.5h
8	Easing Suffering 動物介在療法の効用	1,2,3	テキストの該当箇所を 読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題 を行うこと。	0.5h
9	Social Welfare in Foreign Coun tries イギリスにおける社会福祉ー アメリカとの対比	1,2,3	テキストの該当箇所を 読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題 を行うこと。	0.5h
10	Consideration for Caregivers and Social Workers ソーシャルワーカーと倫理	1,2,3	テキストの該当箇所を 読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題 を行うこと。	0.5h
11	Consideration for Caregivers and Social Workers バーンアウトにならないために	1,2,3	テキストの該当箇所を 読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題 を行うこと。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	Care of Diseases and Mental Problems 高齢者とうつ病	1,2,3	テキストの該当箇所を読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h
13	Care of Diseases and Mental Problems アルツハイマー病患者のケア	1,2,3	テキストの該当箇所を読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h
14	Care of Diseases and Mental Problems 床ずれの予防	1,2,3	テキストの該当箇所を読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h
15	End-of-Life Care ホスピスを希望の館に	1,2,3	テキストの該当箇所を読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

↑

備考

課題としてのレポートの提出がある場合は、ワープロ打ちとする。

↑

印刷



英語IVC

MYカモクに追加

英文名：English IVC

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL004

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

山田敏幸

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 福祉・健康に関する英語表現に親しみ、専門的な内容を扱った基礎的なレベルの英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。
- ② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

- 福祉・健康に関する基礎的な語彙を身につける。
- 福祉・健康についての英文を読解できるようになる。
- 読解したことについて、自分の考えや意見を表現できるようになる。

使用教材

瀬谷幸男他 (2005) Well-Being. 南雲堂. 1760円。

参考文献

授業中に随時提示する。

評価方法

授業への積極的な参加(発言、グループワークなど)20%、課題30%、中間・期末試験50%の割合で、上記「到達目標」を達成できたか総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

クラス全体へのフィードバックをととして、全体で問題解決する。

オフィスアワー

授業の前後で対応する。

メールアドレス（#→@）

初回に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,2,3	シラバスの確認	0.5h	学習内容の確認	0.5h
2	Unit 1. Adult Day Service	1,2,3	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5h	新出単語・表現の復習	0.5h
3	Unit 2. Nutritional Considerations for the Elderly	1,2,3	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5h	新出単語・表現の復習	0.5h
4	Unit 3. Preventing Patients from Becoming Permanently Bedridden	1,2,3	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5h	新出単語・表現の復習	0.5h
5	Unit 4. Normalization	1,2,3	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5h	新出単語・表現の復習	0.5h
6	Unit 5. Group Homes for the Elderly with Dementia	1,2,3	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5h	新出単語・表現の復習	0.5h
7	Unit 6. The Way Ahead-Disability Sports	1,2,3	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5h	新出単語・表現の復習	0.5h
8	Unit 7. Child Abuse	1,2,3	中間試験の準備	0.5h	新出単語・表現の復習	0.5h
9	Unit 8. Animal Assisted Therapy	1,2,3	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5h	新出単語・表現の復習	0.5h
10	Unit 9. Care in the UK	1,2,3	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5h	新出単語・表現の復習	0.5h
11	Unit 10. Ethical Considerations for Human Service Workers	1,2,3	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5h	新出単語・表現の復習	0.5h
12	Unit 12. Depression in the Elderly	1,2,3	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5h	新出単語・表現の復習	0.5h
13	Unit 13. Alzheimer's Disease	1,2,3	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5h	新出単語・表現の復習	0.5h
14	Unit 14. Prevention of Pressure Ulcers	1,2,3	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5h	新出単語・表現の復習	0.5h
15	Unit 15. Hospice Means Hope	1,2,3	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5h	新出単語・表現の復習	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考



テキストと辞書、およびPCを毎回必ず持参すること。

印刷



Integrated English I

MYカモクに追加

英文名 : Integrated English I

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL005

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

Tarn, Christopher

ターン・クリストファー

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○		○			○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ケーススタディ：福祉分野のシナリオを英語で分析する。

ロールプレイ：面接や紛争解決など、現実的な状況を練習する。

フィードバックセッション：コミュニケーションスキルの改善に向けた振り返りを行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

1. 学生がコミュニケーション能力を向上させ、感情知能（EQ）、異文化理解、実践的な英語の応用力を身につけることを目的としています。基礎的スキル、英語力、リーダーシップの開発を統合し、学生が多様な個人、学術、職業的な場面で自信を持って効果的にコミュニケーションできるよう準備します。

2. グループディスカッション、ケーススタディ、プレゼンテーション、ロールプレイを中心としたアクティブラーニング

到達目標

1. コミュニケーションの概念、自分自身の理解、マインドフルネスについて理解できる。

2. 異文化における言語および非言語的コミュニケーションの違いを理解できる。

3. 共感、ストレス管理、アサーティブネス、アクティブリスニングを活用できる。

4.リーダーシップのためのコミュニケーション能力を身につけ、効果的にソーシャルメディアとオンラインコミュニケーションを活用できる。

使用教材 ^

授業中に配布されるハンドアウトおよびデジタルリソース

評価方法 ^

- 1.授業参加: 30%
- 2.グループワークとプレゼンテーション: 40%
- 3.最終発表と振り返り: 30%

オフィスアワー ^

C-Learning + mail

メールアドレス（#→@） ^

tarn#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コミュニケーションとは何か？ ・コミュニケーションの定義（内的、外的、言語的、非言語的）。 ・現在のコミュニケーション習慣の自己評価。 ・コミュニケーションにおける文化的影響（日本の文脈）を探る。	1	コミュニケーションに関する自身の考えや経験を事前に整理する。	1.0 h	授業で提示されたコミュニケーションの定義や文化的影響の具体例をまとめる。	0.5 h
2	EQ（感情知能）と自己認識 ・感情知能（EQ）の導入。 ・自分の感情を認識し、理解する。 ・コミュニケーションにおける感情を管理するための戦略を学ぶ。	1,3	感情知能（EQ）に関する基本的な知識を事前に調査する。	1.0 h	自身の感情認識と管理の傾向について分析し、授業で学んだ戦略を適用する方法を考える。	0.5 h
3	マインドフルネスと内的対話 ・自己認識を高めるためのマインドフルネスを実践する。 ・否定的な自己対話を認識し、再構築する。 ・コミュニケーション経験を振り返るジャーナリングを行う。	1	自己認識を高めるためのマインドフルネスの実践方法を調べ、簡単なエクササイズを試みる。	1.0 h	授業で行ったマインドフルネスの体験を振り返り、自己対話のパターンに気づいた点を記録する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	コミュニケーションのための基本的な英語 ・日常の挨拶、自己紹介、質問を練習する。 ・発音とスピーキングの流暢さに焦点を当てる。 ・簡単なロールプレイシナリオを取り入れる。	1	基本的な英語の挨拶、自己紹介、質問の表現を練習する。	1.0 h	授業で学んだ発音や流暢さのポイントを意識しながら、自己紹介などのロールプレイを再度行う。	0.5 h
5	異文化における非言語コミュニケーション ・ジェスチャー、ボディランゲージ、表情を解読する。 ・日本と他文化の非言語的手がかりの違いを比較する。 ・感情を当てようなどのアクティビティを通じて練習する。	2	日本と異なる文化における非言語コミュニケーションの例をいくつか調査する。	1.0 h	授業で扱われた非言語的手がかりの違いを整理し、感情を当てるアクティビティでの気づきを考察する。	0.5 h
6	コミュニケーションスタイルと適応 ・直接的スタイルと間接的スタイル、形式性、礼儀正しさを探る。 ・対象者や状況に応じたコミュニケーションを調整する戦略を学ぶ。 ・異なるコミュニケーションスタイルのシナリオを用いたロールプレイを行う。	2	直接的および間接的なコミュニケーションスタイルについて考え、自身がどちらの傾向があるか分析する。	1.0 h	異なるコミュニケーションスタイルのロールプレイを振り返り、状況に応じたコミュニケーションの調整方法を検討する。	0.5 h
7	コミュニケーション障壁の克服 ・日本人学習者が直面する英語コミュニケーションの課題を特定する。 ・誤解や言語的な困難に対処する方法を学ぶ。 ・翻訳ツールや技術を利用してコミュニケーションを支援する。	2	自身が英語コミュニケーションで課題を感じる点を具体的な場面を想定して考える。	1.0 h	授業で学んだ課題への対処法や翻訳ツールの活用方法を、具体的な場面を想定して試す。	0.5 h
8	感情スキルと社会的コミュニケーション ●第2回で学んだ共感とアクティブリスニングを再確認する。	1,3	共感とアクティブリスニングが重要となる具体的な場面を想像する。	1.0 h	共感とアクティブリスニングを意識した会話を実践し、相手の反応や自身の気づきを記録する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	- 社会的なコミュニケーションにおけるストレス管理を学ぶ。 - 共感を実践するロールプレイとアクティブライスニングの練習を行う。					
9	実践的かつアサーティブなコミュニケーション - コミュニケーションの課題に対してクリティカルシンキングを応用する。 - アサーティブネス（要求を伝える、ニーズを表現する、境界を設定する）を練習する。 - 自信を高めるための言葉によるセルフディフェンスを探る。	1,3	アサーティブなコミュニケーションの具体的な表現例を調べ、練習する。	1.0 h	授業で行ったアサーティブネスのロールプレイを振り返り、より効果的な自己表現のための改善点を明確にする。	0.5 h
10	リーダーシップのためのコミュニケーション - 説得力のある技術と明確な指示の出し方を学ぶ。 - リーダーシップの「声」を発展させる。 - グループディスカッションをリードする練習を行う。	1,4	効果的なリーダーシップを発揮するためのコミュニケーション要素を考察する。	1.0 h	グループディスカッションをリードする練習を行い、参加者からのフィードバックを分析する。	0.5 h
11	ソーシャルメディアコミュニケーション - 英語で効果的なソーシャルメディア投稿を作成する方法を学ぶ。 - オンラインのエチケットと自分をポジティブに表現する方法を議論する。 - グループプロジェクトでシンプルなソーシャルメディアキャンペーンを作成する。	4	英語での効果的なソーシャルメディア投稿の例をいくつか分析し、自身の投稿のアイデアを考える。	1.0 h	授業で作成したソーシャルメディアキャンペーンの内容を改善するためのアイデアを考える。	0.5 h
12	プレゼンテーションと振り返り - 学んだコミュニケーションスキルを活用して短いプレゼンテーションを行う。 - コース全体の学習成	1,3,4	これまでの授業で学んだコミュニケーションスキルをどのように活用するかを具体的に考え、プレゼンテーションの構成を計画し、発表練習の準備をする。	1.0 h	自身のプレゼンテーションを振り返り、改善点と今後の学習目標を定める。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	果を振り返る。 ・実生活でのスキル活用について議論する。					
1 3	交渉と紛争解決 ・個人と職業的なコミュニケーションのための交渉戦略を学ぶ。 ・ロールプレイを通じて紛争解決技術を練習する。 ・紛争解決における文化的な違いを議論する。	2,3, 4	個人と職業的なコミュニケーションにおける交渉や紛争解決の基本的な戦略を調べる。	1.0 h	ロールプレイで行った交渉や紛争解決の場面を分析し、学んだ戦略がどのように適用できたか考察する。	0.5 h
1 4	協力的コミュニケーションとチームワーク ・効果的なコミュニケーションにおけるチームワークの重要性を探る。 ・グループ問題解決タスクなどの協力的な活動を実践する。 ・建設的なフィードバックの提供と受け取り方を学ぶ。	3,4	効果的なチームワークに貢献するために必要なコミュニケーションスキルを考える。	1.0 h	グループワークでの自身の役割とコミュニケーションを振り返り、建設的なフィードバックの提供と受け取り方について考察する。	0.5 h
1 5	実世界応用とキャリアコミュニケーション ・職場コミュニケーション技術（例：Eメールの書き方、ブリーフィングの実施）を学ぶ。 ・就職面接やキャリアに関する議論での英語コミュニケーションを練習する。 ・コミュニケーションスキルがキャリアの成功をサポートする方法を議論する。	3,4	職場やキャリアに関する英語コミュニケーションの具体的な場面（メール、面接など）を想定し、必要な表現やスキルを調べる。	1.0 h	模擬面接やキャリアに関する議論を振り返り、今後の学習課題を明確にする。	0.5 h

合計時間（予習・復習）

22.5h

印刷 

Integrated English II

MYカモクに追加

英文名：Integrated English II

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL006

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高橋栄作

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○								○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

英語の基礎文法事項を整理し、語彙力をつけながらTOEIC®テスト受験に必要なとされる基礎的な英語力養成を目指す。

②講義の実施方法

TOEIC®テスト形式の問題演習を中心に、英語の基礎力を主にリスニングとリーディングの面から強化する。練習問題の音声リピートしたり、スクリプトを音読したり、耳に英語が入った瞬間に理解できるようにインプットする。リーディングでは正解不正解の確認だけでなく、解答の根拠を理解し、応用可能な解法を身につける。

到達目標

1. TOEIC®テストの形式と内容を理解できる。
2. 語彙力が身につく。
3. 文法事項を理解できる。

- 4.リスニング力が身につく。
- 5.リーディング力が身につく。

使用教材

Ayako Yokogawa and Tony Cook. (2016). Level-up Trainer for the TOEIC® TEST. 東京：センゲージラーニング.

参考文献

授業内で紹介する。

評価方法

授業への参加度、発表、課題（40%）、期末試験（60%）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題は返却して解説する。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

eisaku#tcue.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・TOEICテストとは Pre-test	1, 2, 3, 4, 5	教科書の「はじめに」「目次」「本書の使い方」「シラバス」などの内容を読んで、講義の目標などを理解する。	0.4 5 h	Pre-testの誤りを復習する。	0.3 h
2	Unit 1: テスト形式を知る	1, 2, 3, 4, 5	Unit 1 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
3	Unit 2: 基本戦略 ①	1, 2, 3, 4, 5	Unit 2 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
4	Unit 3: 基本戦略 ②	1, 2, 3, 4, 5	Unit 3 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
5	Unit 4: 英文の基本構造を見抜く	1, 2, 3, 4, 5	Unit 4 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
6	Unit 5: 解答根拠の登場順	1, 2, 3, 4, 5	Unit 5 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	Unit 6: 正解の言い換えパターンを知る	1, 2, 3, 4, 5	Unit 6 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
8	Units 1-6のまとめ	1, 2, 3, 4, 5	指定されたリスニング・リーディングの問題を解く。	0.4 5 h	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.3 h
9	Unit 7: 機能疑問文を聞き取る	1, 2, 3, 4, 5	Unit 7 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
10	Unit 8: 動詞の時制を見極める	1, 2, 3, 4, 5	Unit 8 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
11	Unit 9: 接続詞 v s. 前置詞	1, 2, 3, 4, 5	Unit 9 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
12	Unit 10: 複数パッセージ問題の攻略	1, 2, 3, 4, 5	Unit 10 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
13	Unit 11: 接続副詞に強くなる	1, 2, 3, 4, 5	Unit 11 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
14	Unit 12: NOT型設問のコツ	1, 2, 3, 4, 5	Unit 12 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
15	まとめ Post-test	1, 2, 3, 4, 5	Post-testの問題を解く。	0.4 5 h	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.3 h

合計時間（予習・復習）

11.25 h

備考

予習をして授業に出席してください。
テキストは新しいものを購入してください。

ドイツ語

MYカモクに追加

英文名：German

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL007

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

出雲春明

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①ドイツの文化や取り組み、また基礎的な文法を知ることを通じて、多様な価値観への関心を深め、日本の文化と比較することで、自己理解の参照項とする。

②C-Learning「教材倉庫」に公開する資料などを用いて講義を実施する。文化などに関しては、学生による調査やそれにもとづいたディスカッションを組み込みながら行う。語学の部分に関しては、ドイツ語でのコミュニケーションに最低限必要な文法や挨拶などの定型表現を練習する。毎回、C-Learningの「ドリル」「小テスト」で知識の定着を図る。

到達目標

1. ドイツの文化や現代の取り組みを知り、自らと比較し、意見を述べることができる。
2. ドイツ語の初級文法を用いて挨拶や平易な表現をすることができる。

使用教材

C-Learning「教材倉庫」に予習・復習資料を公開する。

評価方法

授業への参加態度（資料の閲覧、ドリル・アンケートの実施状況など）・・・30%
小テストなどの課題、確認テスト・・・70%

課題・評価に対するフィードバック方法

C-Learning「ドリル」「小テスト」「アンケート」などに対して解説、コメントを行う。

オフィスアワー

1号館511研究室

面談希望の場合はC-Learning「連絡・相談」あるいは下記アドレスまで。

メールアドレス（#→@）

izumo-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンスー日本とドイツ、 外来語としてのドイツ語とその アルファベットー	1,2	シラバスを読み講義内容を 理解する。教材倉庫の予習 用資料に目を通しておく	1.5 h	ドリル、小テストで復習 する。 外来語としてのドイツ語 について調べてみる。	1.5 h
2	母音の発音①、あいさつ ドイツ人の精神における 「森」	1,2	教材倉庫の資料に目を通し ておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習 する。 ドイツの森林について調 べてみる	1.5 h
3	母音の発音②、お店での注文 ドイツの食事、料理	1,2	教材倉庫の資料に目を通し ておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習 する。 ドイツの料理について調 べてみる。	1.5 h
4	子音の発音① 首都ベルリン、ユダヤ人慰霊 碑、ベルリンの壁	1,2	教材倉庫の資料に目を通し ておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習 する。 現代ドイツが直面した歴 史について調べてみる。	1.5 h
5	子音の発音② オクトーバーフェスト	1,2	教材倉庫の資料に目を通し ておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習 する。 オクトーバーフェストと 日本のイベントについて 調べてみる。	1.5 h
6	子音の発音③ 第三の都市ミュンヘン	1,2	教材倉庫の資料に目を通し ておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習 する。 ミュンヘンについて調 べてみる。	1.5 h
7	ドイツ語の文の作り方（一般 動詞①） 第二の都市ハンブルク	1,2	教材倉庫の資料に目を通し ておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習 する。 ハンブルクについて調べ てみる。	1.5 h
8	ドイツ語の文の作り方（一般 動詞②） ドイツの気候・住居	1,2	教材倉庫の資料に目を通し ておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習 する。 ドイツの住居について調 べてみる。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	ドイツ語の文の作り方 (haben) ドイツの城・宮殿・美意識	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツの建築文化について調べてみる。	1.5 h
10	ドイツ語の文の作り方(sein 動詞①) ドイツの美術	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツにおけるアートについて調べてみる。	1.5 h
11	ドイツ語の文の作り方(sein 動詞②) ドイツの音楽 クラシック、テクノ、ラブパレード	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツの音楽について調べてみる。	1.5 h
12	ドイツ語で自己紹介① ドイツのビオ食品	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツのビオの認定基準について調べてみる。	1.5 h
13	ドイツの年末年始	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツの年末年始について調べてみる。	1.5 h
14	ドイツ語で自己紹介② ドイツにおけるエコ	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 環境先進国ドイツの取り組みを調べてみる。	1.5 h
15	まとめ	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	必要に応じて、補習課題を実施する。ドイツに対する関心を深める。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・毎回、授業の前週の水曜日に、C-Learning「教材倉庫」に予習用の教材をアップする。授業終了後は、復習用の教材やドリル・小テストを用いて知識の定着を図ること。
- ・詳細な成績評価の方法や、課題などについての連絡事項はC-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。

印刷 

フランス語

MYカモクに追加

英文名：French

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL008

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

松島 洋子

科目に関連した実務経験

医療通訳・翻訳（産婦人科、形成外科、外科）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

フランス語を通じて世界に関心を持ち、豊かな人間性を育む。

①フランスの文化や習慣に触れ、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。

②毎回1つのテーマを中心に、「伝わるフランス語」を学ぶ。文法は会話に取り入れ、生徒が楽しんで身に付けられるように進める。

到達目標

1. フランス語で簡単な会話ができる ■

2. フランス語検定4級相当の文法を理解する ■

使用教材



①新ゼロからスタート フランス語単語集 BASIC1000／Jリサーチ出版
ISBN-13 978-486392543-4
②フランス語をひとつひとつわかりやすく。一超基礎からの個人授業／学研教育出版
ISBN-13 978-4-05-303813-5

評価方法



授業内の課題及び期末テストにて文法理解度を確認60%、
授業内の発言・質問・ロールプレイ等40%

課題・評価に対するフィードバック方法



授業内で取り組んだ課題とテストをチェックして返却する。

オフィスアワー



質問等は、開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	フランス語の基本／アルファベの発音、発音記号、挨拶、仏語の特性や文化に触れる ■	1,2	第1回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第1回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
2	名詞／男性名詞と女性名詞の単数形、複数形 ■	1,2	第2回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第2回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
3	動詞の活用① ■ ・フランス語の基礎となる不規則動詞 ・名詞「性格」「国名」 ・自分のことを紹介する	1,2	第3回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第3回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
4	動詞の活用② ■ ・不規則動詞avoirの使い方 ・英語のhaveとの共通点	1,2	第4回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第4回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
5	動詞の活用③ ■ ・不規則動詞 aller ・英語のGoとの共通点 ・目的地の場所につける前置詞	1,2	第5回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第5回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
6	所有形容詞 ■ ・「私の」「彼の」 ・名詞「家族・友人・日用品」 ・名詞と冠詞の関係	1,2	第6回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第6回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
7	否定文の作り方 ■ ・動詞「話す」の活用 ・名詞「職業」	1,2	第7回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第7回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
8	動詞の活用④ ■ ・ER動詞の使い方 ・数えられる名詞と数えられない名詞	1,2	第8回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第8回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
9	疑問文① ■ ・答えが「はい・いいえ」になる疑問文と「具体的な答え」を求める疑問文	1,2	第9回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第9回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	動詞の活用⑤ ■ ・「faire～する」の使い方 ・日常生活での活用	1,2	第10回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第10回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
11	疑問文② ■ ・「どこですか？」 ・「誰ですか？」 ・友人や家族を紹介する	1,2	第11回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第11回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
12	疑問文③ ■ ・方向、位置を尋ねる ・「上下」「前後」「左右」	1,2	第12回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第12回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
13	動詞の活用⑥ ■ ・「faire」の応用 ・名詞「スポーツ」との活用	1,2	第13回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第13回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
14	時計の読み方 ■ ・時間、曜日、月、季節 ・「何時ですか」と質問する	1,2	第14回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第14回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
15	動詞の活用⑦ ■ ・「○○が欲しい」 ・「○○ができる」 ・ 基礎～応用まとめ	1,2	第15回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第15回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷 

ポルトガル語

MYカモクに追加

英文名：Portuguese

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL009

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

アンジェラ マルリ カルステン 角田

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○					○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ロールプレイングと教育的ゲーム

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

1. クラスでは、基本的なポルトガル語を紹介し、練習しながら、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング、および基本的な文法知識の習得と語学スキルの向上を目指す。
2. クラスは、ディスカッションやビデオ視聴による日常会話に役立つポルトガル語の導入と、練習で構成され、その後、ロールプレイ、教育的ゲーム、グループ活動を通じて実用性を高める。

到達目標

1. 初級レベルの日常会話
2. 各回に、ポルトガル文化に触れる時間を設け、自身の文化と比較し、多様な価値観への関心を深める。

使用教材

教材プリント

参考文献

ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語著者: Silvia Noriko Kaneyasu

評価方法

15% - アンケートへの参加

25% - 宿題

30% - 中間グループプレゼンテーション

30% - 最終グループプレゼンテーション

課題・評価に対するフィードバック方法

教員は学生の授業活動をチェックしながら、実践的な活動や内容についてアドバイスや指導を行う。

オフィスアワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じる。

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コースとクラスの紹介	1,2	シラバスを読み、疑問点があればメモしておく。	1.5 h	1. 授業で練習した自己紹介や挨拶を覚える。 2. ビデオを見てポルトガル語のアルファベットを覚える。	1.5 h
2	ブラジルについて。自分自身について話す。(ポルトガル語の“Be”動詞 – ser/estar)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	自己紹介文を見直す。	1.5 h
3	家族について。(私の、あなたの、彼女の、彼の... meu, seu, dele, dela...)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	家族についての話し、文を見直す。	1.5 h
4	数字、曜日、月、天気、について。	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語で曜日、1から10までの数字、月を学ぶ。	1.5 h
5	好き嫌いについて。動詞「gostar」（ポルトガル語で色、食べ物、飲み物など）	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	好きなことや嫌いなことについての話し方、文を見直す。	1.5 h
6	物事の説明。(形容詞、反対語)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語の便利な形容詞とその反対語を見直す。	1.5 h
7	日常の活動について。(よく使われる規則動詞)	1,2	宿題、アンケート実施。	1.5 h	動詞「comprar」、「estudar」、「trabalhar」、「comer」、「beber」、	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			質問があればメモしておく。		「escrever」、partir、abrir の活用と使い方の練習。	
8	これまでの内容の復習、中間グループ発表。	1,2	中間グループプレゼンテーション準備。	1.5 h	授業で示される重要語彙の復習。	1.5 h
9	疑問詞の使い方。(Como? Onde?, O que? Quem?...)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語での質問文を見直す。(どのように、いつ、どこで、誰...)	1.5 h
10	時間について。	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語で時間を言う練習をする。	1.5 h
11	ポルトガル語の動詞「estar」の使い方。 (前置詞、動詞の動名詞形)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	動詞の継続時制を使う練習をする。	1.5 h
12	私たちが持っているもの、欲しいもの、やっていること。 (不規則動詞「ter」、「querer」、「fazer」)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	あなたが持っているもの、欲しいもの、やっていることについて書き、話す練習をする。	1.5 h
13	予定について。(動詞「行く」と「来る」-「ir」と「vir」)	1,2	宿題、アンケートの実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	予定の短いリストを書き、読む練習をする。	1.5 h
14	知っていること、できることについて。(動詞「saber」と「conhecer」の使い方)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく	1.5 h	自分にできることについて書き、話す練習をする。	1.5 h
15	プレゼンテーション。クラス全体でのディスカッション。	1,2	グループプレゼンテーションの準備。	1.5 h	学習した動詞を使用しながら自分自身について話す練習をする。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 

中国語

MYカモクに追加

英文名：Chinese

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL010

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

渡邊 賢

履修を必須とする資格

無し

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼ ンテー ション	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な語彙と構文とを身に付け、簡単なコミュニケーションができる語学力の養成を目指す。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。

②1) 授業は全15回を通じて、音声および表記の反復学習を徹底する形で展開し、中国語基礎学力の定着を目指す。失敗を恐れず、積極的に楽しく学んでほしい。外国語学習には習慣性のある程度の忍耐が必要である。学生諸君には外国語の学習を通じて、習慣的学習や知的忍耐力を身に着けられたい。

2) 毎回、中国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。

到達目標

- 1.中国の地理、風俗および言語とその多様性を理解する。
- 2.中国語音を表記する音声記号を習得する。
- 3.中国語音を表記する音声記号を正確に発音する能力を育成する。
- 4.中国語音を聞いて、弁別する聴力を育成する。
- 5.日常会話に不自由しない程度の語彙と語法とを習得する。

使用教材 ^						
教科書『大学一年生のための合格る中国語』小幡敏行著（朝日出版社） ISBN97-4-255-45224-1C1087						
参考文献 ^						
講義中に適宜指示する。						
評価方法 ^						
毎回の小試験20%、発音中間試験30%、学期末筆記試験50%により評価する。 総合評価60%以上を合格とみなす。						
課題・評価に対するフィードバック方法 ^						
毎回の小試験は採点の上、返却する。各自、未熟な点をよく自覚し克服されたい。						
オフィスアワー ^						
授業開始前もしくは授業終了後に応じる。						
メールアドレス（#→@） ^						
公開しない。必要があれば適宜指示する。						
授業計画表 ^						
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	シラバス内容、教科書第8頁「中国語について」を読み、講義目標や中国語の特性などについて理解する。	1h	不要	0h
2	発音の基礎Ⅰ：ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。	2,3,4	不要	0h	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度一週間、発音の練習をする。	1h
3	発音の基礎Ⅱ：複合母音、「声（子音）」の唇音・舌先音・舌根音などを学習する。	2,3,4	不要	0h	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度一週間、発音の練習をする。	1h
4	発音の基礎Ⅲ：鼻母音、「声（子音）」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。	2,3,4	不要	0h	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度一週間、発音の練習をする。	1h
5	教科書第1課、名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習。	2,3,4,5	教科書第1課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
6	教科書第2課、指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習。	2,3,4,5	教科書第2課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
7	教科書第3課、形容詞述語文や数量表現などの学習。	2,3,4,5	教科書第3課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	教科書第4課、存在文や構造助詞「的」などの学習。	2,3,4,5	教科書第4課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
9	教科書第5課、介詞構造や方位詞などの学習。	2,3,4,5	教科書第5課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
10	教科書第6課、連動文や能願動詞などの学習。	2,3,4,5	教科書第6課、連動文や能願動詞などの学習。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
11	教科書第7課、数量補語や動態助詞の「了」と語気詞の「了」などの学習。	2,3,4,5	教科書第7課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
12	教科書第8課、動態助詞「過」や程度補語などについての学習。	2,3,4,5	教科書第8課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
13	教科書第9課、能願動詞「会」「能」「可以」などについての学習。	2,3,4,5	教科書第9課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
14	教科書第10課、方向補語や結果補語などについての学習。	2,3,4,5	教科書第10課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
15	教科書第11課、主述述語文や比較表現などについての学習。	2,3,4,5	教科書第11課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

26h

備考

復習は机に向かうには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10分程度で構わぬので、必ず毎日、口や舌を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。毎回の積み重ねが肝要。後刻、自力でマスターしようとしてもほとんど不可能と心得よ。記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

印刷 

ハングル語

MYカモクに追加

英文名：Korean

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL011

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

丁 美貞

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①はじめて韓国語をまなぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものについて覚える。

②ハングルの文字と単語の書き方、読み方から発音練習や会話表現の練習を行う。毎回、韓国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。

到達目標

1. 正確なハングル文字の表記及び発音を習得する。
2. 합니다体の叙述・疑問に関する表現を習得する。
3. 100語程度を用いた簡単な挨拶や自己紹介などの基本文型を習得する。
4. 日常生活でよく使われる基本的な表現や言い回しを理解し、簡単な会話ができる。

使用教材

朴庚卿, 仲島淳子, 金美順, 徐明煥（2023）『ワンアクション韓国語』朝日出版社

参考文献

評価方法

授業への参加度10%、課題・小テスト30%、定期試験60%

課題・評価に対するフィードバック方法

課題にはコメントを付けて返却する。小テストを毎回返却し解説する。

オフィスアワー

質問等がある場合は授業の前後に応じる。もしくはメールで連絡すること。

メールアドレス（#→@）

mjjeong621#gmail.com

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	授業概要、ハングルについて、基本母音	1	テキストを用意し、2頁～6頁を読んでくる。韓国語のノートを用意すること。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
2	基本子音（平音、激音、濃音）	1	7頁～17頁を読んでくる。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
3	複合母音	1	18頁～21頁を読んでくる。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
4	終声（パッチム）	1	22頁～25頁を読んでくる。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
5	発音の変化	1	26頁～30頁を読んでくる。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
6	基礎まとめ、日本語のハングル表記、ハングル入力（メール）	1	31頁～32頁を読んでくる。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
7	「挨拶をする」입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다	1,2, 3,4	32頁～35頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
8	「挨拶をする」입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다、作文練習	1,2, 3,4	34頁～43頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	「状況を説明する」합니다体、助詞「를/을」	1,2,3,4	44頁～47頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
10	「状況を説明する」助詞「에서」、助詞「에」（位置）、否定形「지 않다」、作文練習	1,2,3,4	48頁～53頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
11	「買い物をする」指示語、助詞「가/이」、助詞「와/과」	1,2,3,4	54頁～59頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
12	「買い物をする」漢数詞、가/이 아니다、作文練習	1,2,3,4	60頁～65頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
13	「予定を述べる」固有数詞、助詞「에」（時間）、助詞「에」（方向）	1,2,3,4	66頁～71頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
14	「予定を述べる」助詞「에서/부터～까지」、否定形「안」、를/을 좋아합니다、作文練習	1,2,3,4	72頁～77頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
15	総まとめ	1,2,3,4	今まで勉強した内容をもう一度、確認して理解しておく。	1.5h		1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

毎回課題や小テストを行うため必ず予習・復習を行うこと。音源を活用しテキストの読みを練習すること。メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハングル語：名前」を必ず記入すること。

印刷 

情報リテラシー I

MYカモクに追加

英文名 : Information Literacy I

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL012

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥 浩丈、檜府 憲太、木幡 直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○	○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

社会福祉学科の学生に求められる福祉現場での基礎的技能を紹介し、模擬的な課題に取り組み、本講義で得られた知見を復習し、総括する（対面授業日に実施予定）

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的技能を身につけることを目標とする。
- ②授業は基本的にオンライン・オンデマンドとし、対面授業日を設けて学習到達状況等を確認する。

到達目標

1. 書誌的事項を過不足なく記載でき、参考資料や引用文献を適切に取り扱い、レポートが作成できる。
2. メールやSNS を正しく扱うことができる。
3. 授業における調べものやレポート作成に使用するパソコンを適切に取り扱うことができる。

4. 大学のメールや学生ポータルサイト、学習支援サイトを適切に利用できる。
5. 情報倫理やアクセシビリティを理解し、パソコンや情報機器を利用できる。

使用教材

オンラインでPDF 資料を配布、動画閲覧

評価方法

各単元で実施する小テストの合計を100 点満点に換算し、60 点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点等を収集し、次回講義に回答する。

オフィスアワー

随時相談に応じる

メールアドレス（#→@）

白鳥：shiratori#takasaki-u.ac.jp

栖府：narafu#takasaki-u.ac.jp

木幡：kohata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	レポートの書き方 ①レポートの記載事項 ②参考文献・資料引用の注意点 ③知的財産権・著作権の取り扱い上の注意点	1	1回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5	1回目の講義内容を 復習する	1.5
2	メール・SNS 利用のマナーと注意点 ①メールの書き方(件名、本文の書き方、TO/CC/BCC の使い分け、署名) ②ファイルの添付/添付ファイルのダウンロード ③不審メールへの対処 ④SNS 利用上の注意（マナー、リスク、注意事項） ⑤クラウドサービス利用上の注意事項	2,4	2回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5	2回目の講義内容を 復習する	1.5
3	Widows PC の操作 1 (基本操作編) ①起動、シャットダウン、スリープ、ロック、サインアウト/サインイン ②文字入力とカナ漢字変換 ③ネットワークの接続設定(無線/有線)と Web サイトへの接続 ④Web ブラウザの便利機能とセキュリティ管理	3	3回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5	3回目の講義内容を 復習する	1.5
4	Widows PC の操作 2 (エクスプローラ操作編) ①各種表示機能のON/OFF ②フォルダ・ファイル操作に関する基本機能と応用機能 ③ファイル情報の表示と検索 ④ショートカットの作成	3	4回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5	4回目の講義内容を 復習する	1.5
5	Widows PC の操作 3 (実用操作編) ①画面キャプチャ、アプリ強制終了、スタートアップ設定	3	5回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5	5回目の講義内容を 復習する	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	②Windows の各種設定とメンテナンス ③アプリのインストール/アンインストール、関連付け、メニュー登録 ④パーティションの作成 ⑤クラウドの利用(OneDrive、GoogleDrive)					
6	Gメールの設定と利用（演習） ①本学メールシステムへのログイン・ログアウト ②画面構成（受信トレイ・送信済み・迷惑メール・ゴミ箱） ③メールの作成・送信(To/Cc/Bcc)・返信・転送 ④署名の設定、ファイルの添付 ⑤実践（履修者同士での練習）	2,4	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	6回目の講義内容を復習する	1.5
7	情報の倫理とモラル ①個人情報保護と情報倫理 ②情報利用のモラル	5	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	7回目の講義内容を復習する	1.5
8	情報通信のアクセシビリティ ①アクセシビリティについて ②キーボード補助機能・マウス補助機能・見やすさの機能・他機能 ③音声認識アプリ・会話補助装置・意思伝達装置・他	5	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	8回目の講義内容を復習する	1.5

合計時間（予習・復習）

24

備考

別途対面授業日を設けて授業を行う（日程は別途アナウンスする）。対面授業日にはPCを持参すること。

印刷 

情報リテラシー II

MYカモクに追加

英文名 : Information Literacy II

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL013

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥 浩丈、檜府 憲太、木幡 直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的スキルを身につけることを目標とする。
- ②授業は基本的にオンライン・オンデマンドとし、対面授業日を設けて学習到達状況等を確認する。

到達目標

1. 情報量の表示に関わる接頭語が理解でき、正しく使える。
2. 論理演算が理解でき、真理値表やベン図で説明できる。
3. コンピュータの5大要素を説明でき、主要な入出力装置やインターフェースを適切に利用できる。
4. OSの役割を説明できる。

使用教材

オンラインでPDF資料を配布、動画閲覧

評価方法

各単元で実施する小テストの合計を100 点満点に換算し、60 点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点等を収集し、次回講義時に回答する。

オフィスアワー

随時相談に応じる。

メールアドレス（#→@）

白鳥：shiratori#takasaki-u.ac.jp

梶府：narafu#takasaki-u.ac.jp

木幡：kohata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コンピュータの仕組み 1 ①情報量と補助単位（接頭語） ②2 進数、8 進数、16 進数	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	1回目の講義内容を復習する	1.5
2	コンピュータの仕組み 2 ①2 値論理 ②真理値表 ③ベン図	2	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	2回目の講義内容を復習する	1.5
3	コンピュータの仕組み 3 ①コンピュータの概要（5 大要素） ②コンピュータの種類	3	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	3回目の講義内容を復習する	1.5
4	コンピュータの仕組み 4 ①入力装置 ②出力装置 ③記憶装置 ④演算装置 ⑤制御装置	3	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	4回目の講義内容を復習する	1.5
5	コンピュータの仕組み 5 ① 周辺装置（入力装置・出力装置） ② 周辺装置（補助記憶装置） ③ ドライバ	3	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	5回目の講義内容を復習する	1.5
6	コンピュータの仕組み 6 ① OS の種類 ② OS の役割（ファイル管理） ③ OS の役割（タスク管理・メモリ 管理・デバイス管理） ④ OS とGUI インターフェイス	3	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	6回目の講義内容を復習する	1.5
7	コンピュータの仕組み 7 ① LAN とインターネット ② IP アドレスとルーティング ③ ファイヤーウォール ④ Web とWeb アプリ	3	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	7回目の講義内容を復習する	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	コンピュータの仕組み 8 ① パソコンの構造 ② 筐体 ③ マザーボード ④ 各種拡張ボード	4	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	8回目の講義内容を復習する	1.5

合計時間（予習・復習）

↑

24

備考

↑

別途対面授業日を設けて授業を行う（日程は別途アナウンスする）。対面授業日にはPC を持参すること。

印刷



情報リテラシーⅢ

MYカモクに追加

英文名：Information Literacy Ⅲ

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL014

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥 浩丈、檜府 憲太、木幡 直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○	○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

社会福祉学科の学生に求められる福祉現場での基礎的技能を紹介し、模擬的な課題に取り組み、本講義で得られた知見を復習し、総括する（対面授業日に実施予定）

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①大学での学習に必要な文書作成やプレゼンテーションの基礎的技能を身につけることを目標とする。
- ②授業は基本的にオンライン・オンデマンドとし、対面授業日を設けて学習到達状況等を確認する。

到達目標

1. Word を使って各種文書を作成できる。
2. PowerPoint を使ってスライドを作成でき、プレゼンテーションが出来る。

使用教材

30 時間でマスターOffice2021 実教出版

評価方法

単元毎のテストを行い、合計点を100 点に換算して、60 点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点等を収集し、次回講義時に回答する。

オフィスアワー

随時相談に応じる

メールアドレス（#→@）

白鳥：shiratori#takasaki-u.ac.jp

樫府：narafu#takasaki-u.ac.jp

木幡：kohata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Word 利用の基礎（演習） 1 ①Word の起動と画面構成 ②文書の入力と編集 ③ページ設定	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5
2	Word 利用の基礎（演習） 2 ①文書の作成 ②文字の配置 ③文字の修飾	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5
3	Word 利用の基礎（演習） 3 ①表の作成 ②表のレイアウトの変更 ③表の編集	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5
4	Word 利用の基礎（演習） 4 ①ページの色や罫線 ②ワードアートの利用 ③図形の挿入 ④テキストボックスの挿入	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5
5	Word 利用の基礎（演習） 5 ①文書作成のまとめ（文書資料の作成）	1	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	1.5	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5
6	PowerPoint 利用の基礎（演習） 1 ①PowerPoint の画面構成 ②プレゼンテーションの作成 ③文字修飾と図形の活用	2	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5
7	PowerPoint 利用の基礎（演習） 2 ①グラフの活用 ②スマートアートの活用 ③アニメーション効果 ④その他の機能	2	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	PowerPoint 利用の基礎（演習）3 ①プレゼンテーション資料作成のまとめ（プレゼンテーション資料の作成）	2	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	1.5	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5

合計時間（予習・復習）



24

備考



講義での演習は、大学から推奨された性能のPC で進めること。なお、講義ではoffice 系ソフト（Word、PowerPoint）を使用するものとする。
別途対面授業日を設けて授業を行う（日程は別途アナウンスする）。対面授業日にはPC を持参すること。

印刷



情報リテラシーⅣ

MYカモクに追加

英文名：Information Literacy Ⅳ

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL015

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥 浩丈、檜府 憲太、木幡 直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○	○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

社会福祉学科の学生に求められる福祉現場での基礎的技能を紹介し、模擬的な課題に取り組み、本講義で得られた知見を復習し、総括する（対面授業日に実施予定）

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①大学での学習に必要な表計算処理の基礎的技能を身につけることを目標とする。
- ②授業は基本的にオンライン・オンデマンドとし、対面授業日を設けて学習到達状況等を確認する。

到達目標

1. Excel を使って基本的な集計ができる。
2. Excel の簡単な関数機能が利用できる。

3. Excel の表データからグラフを作成できる。
4. Excel でデータの検索や並べ替えができる。

使用教材

30 時間でマスターOffice2021 実教出版

評価方法

単元毎のテストを行い、合計点を100 点に換算して、60 点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点等を収集し、次回講義時に回答する。

オフィスアワー

随時相談に応じる

メールアドレス（#→@）

白鳥：shiratori#takasaki-u.ac.jp

栖府：narafu#takasaki-u.ac.jp

木幡：kohata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Excel 利用の基礎（演習） 1 ①Excel の画面構成 ②ブックの操作 ③データの入力と編集 ④オートフィル	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	1回目の講義内容を復習する	1.5
2	Excel 利用の基礎（演習） 2 ①計算式の入力 ②表示形式の変更 ③書式の変更	1	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	2回目の講義内容を復習する	1.5
3	Excel 利用の基礎（演習） 3 ①合計（SUM）関数 ②平均（AVERAGE）関数 ③最大（MAX）最小（MIN）	2	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	3回目の講義内容を復習する	1.5
4	Excel 利用の基礎（演習） 4 ①グラフの作成	3	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	4回目の講義内容を復習する	1.5
5	Excel 利用の基礎（演習） 5 ①条件判定（IF 関数）と順位付け（RANK.EQ 関数） I	3	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	5回目の講義内容を復習する	1.5
6	Excel 利用の基礎（演習） 6 ①条件判定（IF 関数）と順位付け（RANK.EQ 関数） II ②検索関数の利用	4	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	6回目の講義内容を復習する	1.5
7	Excel 利用の基礎（演習） 7 ①セルの参照機能 ②文字列の結合 ③セルの条件付き書式 ④並び替え	4	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	7回目の講義内容を復習する	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	Excel 利用の基礎（演習）8 ① フィルター ② 文字の結合 ③ Word とExcel の活用	4	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	8回目の講義内容を復習する	1.5

合計時間（予習・復習）



24

備考



講義での演習は、大学から推奨された性能のPC で進めること。なお、講義ではoffice 系ソフト(Excel)を使用するものとする。
別途対面授業日を設けて授業を行う（日程は別途アナウンスする）。対面授業日にはPC を持参すること。

印刷 

情報リテラシーV

MYカモクに追加

英文名：Information Literacy V

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL016

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥 浩丈、檜府 憲太、木幡 直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① ネットワークに情報機器を接続し、安全かつ適切に利用できる基礎的知識と技能を身につけることを目標とする。
- ② 授業は基本的にオンライン・オンデマンドとし、対面授業日を設けて学習到達状況等を確認する。

到達目標

1. ネットワーク利用に必要な基礎知識があり、利用できる。
2. 情報セキュリティに関する基礎知識があり、安全に気を配り情報機器やシステムを利用できる。
3. 専攻領域におけるICT の利用事例や先進的利用について、説明できる。

使用教材

配布資料

評価方法

単元毎のテストを行い、合計点を100 点に換算して、60 点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点等を収集し、次回講義時に回答する。

オフィスアワー

随時相談に応じる

メールアドレス（#→@）

白鳥：shiratori#takasaki-u.ac.jp

梶府：narafu#takasaki-u.ac.jp

木幡：kohata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ネットワークの基礎知識 1 ①DHCP(IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS) ②ブラウザ ③プロバイダと回線接続業者	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	1回目の講義内容を復習する	1.5
2	ネットワークの基礎知識 2 ①Wi-Fi によるネットワーク接続（SSID とパスワード、接続周波数） ②4G と5G・無線LAN 規格、テザリング ③セキュリティの選択、トラブル対策	1	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	2回目の講義内容を復習する	1.5
3	情報セキュリティの基礎 1 ①情報資産の脅威・脆弱性とリスク ②サイバー攻撃 ③マルウェア対策	2	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	3回目の講義内容を復習する	1.5
4	情報セキュリティの基礎 2 ①アクセス管理と認証 ②不正アクセス対策 ③暗号とデジタル署名	2	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	4回目の講義内容を復習する	1.5
5	情報セキュリティの基礎 3 ① 組織のセキュリティ対策 ② 情報セキュリティ関連の法規と制度 ③知的財産保護と個人情報保護	2	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	5回目の講義内容を復習する	1.5
6	社会とICT 活用 1 ① 医療・健康分野でのICT の活用 ② 社会福祉分野でのICT の活用 「※健康・医療・福祉分野のICT 活用」	3	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	6回目の講義内容を復習する	1.5
7	社会とICT 活用2 ① 教育分野でのICT の活用	3	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	7回目の講義内容を復習する	1.5
8	社会とICT 活用 3 ① 農業・食糧生産分野でのICT の活用 ② 食品産業分野でのICT の活用 「※食品・農業分野のICT の活用」	3	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5	8回目の講義内容を復習する	1.5

合計時間（予習・復習）

別途対面授業日を設定して授業を行う（日程は別途アナウンスする）。対面授業日にはPC を持参すること。

印刷 

情報リテラシーVI

MYカモクに追加

英文名：Information Literacy VI

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL017

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性

2 基礎的知識力

2 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥 浩丈、檜府 憲太、木幡 直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○	○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

社会福祉学科の学生に求められる福祉現場での基礎的技能を紹介し、模擬的な課題に取り組み、本講義で得られた知見を復習し、総括する（対面授業日に実施予定）

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①情報数理統計・データサイエンスの基礎的知識と処理の技能を身につけることを目標とする。
- ②授業は基本的にオンライン・オンデマンドとし、対面授業日を設けて学習到達状況等を確認する。

到達目標

1. 度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理ができ、ヒストグラムによるデータの可視化ができる。
2. 最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法が説明できる。

3. 四分位数、5 数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法を理解し、説明できる。
4. 分散と標準偏差の意味、定義、計算方法を理解し、説明できる。

使用教材

オンラインでPDF 資料を配布、動画閲覧

評価方法

各単元で実施する小テストの合計を100 点満点に換算し、60 点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点等を収集し、次回講義時に回答する。

オフィスアワー

随時相談に応じる

メールアドレス（#→@）

白鳥：shiratori#takasaki-u.ac.jp

榎府：narafu#takasaki-u.ac.jp

木幡：kohata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	データサイエンスの基礎 1 ①データサイエンスとは何か、 ②度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理 ③ヒストグラムによるデータの可視化 ④ヒストグラムから読み取るデータの特徴	1	1回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5	1回目の講義内容を復習する	1.5
2	データサイエンスの基礎 2 ①Excel を使った度数分布とヒストグラムの作成	1	2回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5	2回目の講義内容を復習する	1.5
3	データサイエンスの基礎 3 ①最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法 ②最頻値、中央値、平均値と度数分布、累積度数分布、ヒストグラムの関係	2	3回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5	3回目の講義内容を復習する	1.5
4	データサイエンスの基礎 4 ①Excel を使った代表値の算出	2	4回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5	4回目の講義内容を復習する	1.5
5	データサイエンスの基礎 5 ①分位数の考え方 ②四分位数、5 数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法 ③箱ひげ図による5 数要約の可視化 ④箱ひげ図とヒストグラムの形状との関係	3	5回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5	5回目の講義内容を復習する	1.5
6	データサイエンスの基礎 6 ①Excel を使った5 数要約の算出、箱ひげ図の作成	3	6回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5	6回目の講義内容を復習する	1.5
7	データサイエンスの基礎 7 ①Σ記号の定義と性質 ②分散と標準偏差の意味、定義、計算方法 ③データの一次変換と平均、分散、標準偏差 ④変動係数の定義と性質	4	7回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5	7回目の講義内容を復習する	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	データサイエンスの基礎 8 ①Excel を使った分散、標準偏差、変動係数の算出	4	8回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5	8回目の講義内容を復習する	1.5

合計時間（予習・復習）

24

^

備考

別途対面授業日を設けて授業を行う（日程は別途アナウンスする）。対面授業日にはPC を持参すること。
情報リテラシーⅣにおいて、情報リテラシーⅥで扱う課題を課すことがある。

^

印刷



情報化社会を生きる ～疑う力・創る力～

MYカモクに追加

英文名 : Confronting the Information Oriented Society : The Power of Doubt and the Power of Creation

科目区分 : 専門教養科目

科目ナンバリング : LSH001

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

岡田 豊

科目に関連した実務経験

日本経済新聞記者 共同通信記者

テレビ朝日(経済部記者・外報部デスク・災害報道統括・報道番組プロデューサー・ニューヨーク支局長・アメリカ総局長・コメンテーター)

新聞協会委員、民放連災害放送専門部会委員

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

フェイク情報・フェイク映像が世界中で氾濫する今の情報社会において、正確な情報は、水や空気のように欠かせない存在になった。正確な情報を見極められなければ、的確な判断ができないからだ。何も考えず、ただ情報の渦に身を委ねているとすれば、かけがえのない自分の人生の選択を見誤ることになりかねない。まず、この基本的な認識を自覚したい。

講義の最大の目標は、情報の「受け手」として、情報をきちんと疑い、正確な事実をしっかりと見極める力を修養することにある。同時に、情報の「送り手」として、正確な事実、的確な見識や、社会創生につながるアイデアを発信する力を修養する。つまり、情報の「受け手」「送り手」双方の立場において、質の高いリテラシーを身に付ける。この2つのリテラ

シーを「ジャーナリズム・リテラシー」と称する。この「ジャーナリズム・リテラシー」は、学問のみならず、日常生活、仕事など、人間のあらゆる活動において基本素養に位置付けられるであろう。

この際、古びた常識に流されずに、自分の心で自由に感じ、自分の頭で自分のオリジナルな考え方、やり方を見いだす、つまり自考（じこう）をベースにしていく。自考は、日本人にとって、実に苦手な行為だったのではなかろうか。自考は、これからの日本人にとって必要不可欠な思考法だと考える。

授業は、時事問題や身近な社会的課題、もしくはみなさんが抱える課題や疑問などを題材にする。みなさんが感じていること、考えていることを遠慮なく口に出し合い、自由に論考していきたい。予習・復習で求める課題は、授業の前提であり、こなしていくことで、目的とする力を確実に修養することにつながる。適宜実施するグループ討論やミニレポートなどでは、みなさんのオリジナルで、大胆なアイデア、考え方を遠慮なく表現してほしい。素敵な考えを持っていても、うまく表現できなければ、宝の持ち腐れになってしまうので、表現する力も修養していきたい。定期試験も実施する。素の自分をさらけ出し、楽しみながら、本授業がみなさんの成長のきっかけになることを期待している。

到達目標

- 1.時代が大きく変容し日本の衰退が加速している実状を踏まえ、情報化社会の諸課題を理解したうえで、それらの解決策を提案し、実践できる。■
- 2.「世のため人のために」機能するジャーナリズムの意義を理解し、自らが「市民ジャーナリスト」として実践できるリテラシーを身に付ける。■
- 3.情報の「受け手」として、情報を疑い、正確な事実を見極めるリテラシーを身に付ける。■
- 4.情報の「送り手」として、正確な事実、的確な見識、「社会創生」につながる情報やアイデアを発信できるリテラシーと志を身に付ける。■
- 5.自分の心で自由に感じ、自分の頭で自由に大胆に考える「自考」の意義を理解し、実践できる。■

使用教材

「ジャーナリズム・リテラシー 疑う力と創る力」（岡田豊著、彩流社、2024年10月）＝第1回講義ガイダンスなどにおいて割引で販売予定。

その他、映像、ニュース記事などを適宜講義で活用する。

参考文献

- ・「自考 日本人の最後の切り札」（岡田豊著、プレジデント社、2022年2月）
 - ・「あいまいさに耐える ネガティブリテラシーのすすめ」（佐藤卓己著、岩波新書、2024年8月）
- 理解が深まるので、もし経済的な余裕があれば、購入して読むことをお勧めする。

評価方法

定期試験40%、レポート30%、発言・プレゼンなど授業中のアクション30%、で評価する。

総合評価65%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートにはコメントを付けて返却する。授業での発言・プレゼンにはその場で必要に応じて適宜コメントする。

オフィスアワー

授業後の1時間

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,2, 3,4, 5	シラバス全体を読み、講義の目標を理解し、講義をどう活用するか考える	1.5 h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する	1.5 h
2	日本人に必要な思考法「自考」■	2,5	自分の心や自分の考え方を大切にしてきたかどうか、これ	1.5 h	自考について3回目の授業以降に実践できるよう深く理解する	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			までの生き方を振り返っておく			
3	フェイク情報があふれる社会 ■	1,2,3	フェイクの実例を見つけ、それがどんな支障を招いたか、自分の体験の中から見つけておく	1.5 h	フェイクの影響に伴う社会の諸課題を理解し、解決策を見いだす	1.5 h
4	SNSの功罪 AIの功罪 ■	1,2,3	SNSのメリットとデメリット、AIのメリットとデメリットを自らの体験から実例をピックアップする	1.5 h	SNSのメリットとデメリット、AIのメリットとデメリットを整理して理解する	1.5 h
5	事実にたどり着く難しさ ■	1,2,3	事実と思っていたのに事実でなかったケースを自らの経験から見つけておく	1.5 h	事実を得ることは簡単ではないということを理解し、どうやって事実にたどり着けるか具体的な技術を理解する	1.5 h
6	「新聞・テレビ」依存の終焉 マスゴミの姿 ■	1,2,3,4,5	新聞・テレビの報道の具体的な事例を自由に拾い、その評価を発表できるようにしておく	1.5 h	新聞、テレビが抱える課題を理解し、解決策を見いだす	1.5 h
7	ジャーナリズムという重要な社会機能 ■	1,2,3,5	「世のため人のため」になったジャーナリズムのケースを自分なりに見つけておく	1.5 h	ジャーナリズムという社会機能がいかに重要かということを理解する	1.5 h
8	他国のジャーナリズム ■	1,2,3,4,5	アメリカと中国のニュースをインターネットで拾って見て、感想をまとめておく	1.5 h	他国のジャーナリズムのレベルや質について、日本との違いを理解する	1.5 h
9	企業広報とメディア ■	1,2,3,4	トヨタ自動車の独自メディア「トヨタタイムズ」のHPを見ておく	1.5 h	自分が組織の広報担当となった場合に、情報をどう発信すればよいのか整理しておく	1.5 h
10	大きく立ち遅れた日本の「リテラシー教育」 ■	1,2,3,4,5	情報やメディアをめぐるリテラシー教育を自ら受けた経験について整理しておく	1.5 h	情報やメディアをめぐる日本のリテラシー教育の遅れによる弊害を理解する	1.5 h
11	情報の「受け手」と「送り手」の機能 ジャーナリズム・リテラシーの意義 ■	1,2,3,4,5	情報の「送り手」と「送り手」の2つの立場が、自らにもあるということに気付く	1.5 h	特に、情報の「送り手」としての社会的使命や意義を理解する	1.5 h
12	「疑う力」 情報をどう見極めるか ■	1,2,3,4,5	情報の疑い方、見極め方について、自分がこれまでどうしてきたか、整理しておく	1.5 h	情報を疑い、見極めるための基礎的なリテラシーを理解する	1.5 h
13	「疑う力」 市民の自己責任 ■	1,2,3,4,5	前回12回の講義を振り返り、「疑う力」の意義を自分なりに深めるよう考察しておく	1.5 h	情報は自己責任で見極めるしかないという基本姿勢を理解する	1.5 h
14	「創る力」 市民が社会を変える ■	1,2,3,4,5	自らが発信する情報が、社会課題をどう解決できるのか、自分のアイデアを自由にかつ大胆に考えておく	1.5 h	自分をはじめとする市民一人ひとりの健全な情報発信が、社会課題の解決につながるということを理解する	1.5 h
15	「創る力」 市民が社会を創る ■	1,2,3,4,5	自らが発信する情報で、どう社会創生に取り組みたいか、自由かつ大胆にアイデアを考えておく	1.5 h	自分をはじめとする市民一人ひとりの志ある情報発信が、社会創生につながるということを理解する	1.5 h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



次の3点を抱いて授業に臨んでいただきたい。

1. 「自分の心で自由に感じ、自分の頭で自由かつ大胆に考え、楽しむ」というマインド。
2. 「自分の人生を切り拓くのは自分以外にいない」という自覚。
3. 「自分が生きるこの社会を良くするのは自分だ」という志。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



人間行動学

MYカモクに追加

英文名：Theory of Human Behavior

科目区分：専門教養科目

科目ナンバリング：LSH002

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

上原 徹、服部 卓

科目に関連した実務経験

精神科医として大学病院等で勤務経験35年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている（上原）。臨床心理士として大学病院等で勤務経験は約35年、現在に至る（服部）。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

前半の授業で、一部実技や演習を取り入れる

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学生が行動科学の基礎と応用を学ぶことで、臨床や対人支援の場面におけるクライアントの行動や、支援者である自らの行動との相互作用を理解することができる。前半を服部、後半を上原が担当する。

②前半授業では配布資料も使って要点をまとめ、後半ではDVDを視聴しつつ進める。

到達目標

- 1.医療などの対人支援における基本的姿勢を身につける
- 2.ケアを受ける人の心理や行動を理解できる
- 3.適切な対人的交流のための知識と技術が説明できる
- 4.他職種と機能的に連携する視点を持てる■
- 5.行動科学や心理学の初級知識を解説できる

使用教材

特定の教科書は指定しない。服部担当授業では、印刷プリントを配布する。上原担当授業では、おもにDVD教材を用いるが、補助的にC-learning上に資料をアップする。

参考文献

福村出版「行動科学への招待〔改訂版〕 現代心理学のアプローチ」など

評価方法

レポートを90%とし、授業中の態度を10%程度参考にして総合評価する。授業態度（不適切な授業態度、不必要な私語など）に問題がある場合は、個別に減点する。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートについては、事前に課題内容を告知し、記載方法や出題意図、評価の目安を伝える。

オフィスアワー

月4 金3 研究室:1号館5階512（上原）

メールアドレス（#→@）

授業で提示する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	青年期の心理と性格	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	0.5h	ノートを読むこと。	2.5h
2	ノンバーバルコミュニケーション	1,2	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
3	人と人との関係■	2,3,4	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
4	集団■	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
5	見る・感じる・考える	1,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
6	ポジティブサイコロジー■	2,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
7	生涯発達心理学	2,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
8	行動と錯覚	1,2,3	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
9	発達	1,2,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
10	記憶	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	睡眠■	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
12	ストレス■	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
13	音楽と脳	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
14	傾聴とカウンセリングマインド■	4,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
15	まとめ（レポート準備）	1,2,3,4,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



複数の学科学生が多数で聴講し、非常勤講師を迎え行うので、静粛に臨むこと。授業中の不必要な私語や不謹慎な態度は、厳に慎むこと（成績評価に影響する）。DVD上映による映像授業を多用する。場合によって代替えとなるパワーポイントおよびウェブサイト動画の紹介を行う。

予習・復習については、試験前後の学習などで各自補完すること。オフィスアワーや連絡先は、主任講師の上原がオリエンテーション時に案内する。■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



健康運動実技

MYカモクに追加

英文名 : Health Exercise Skills

科目区分 : 専門教養科目

科目ナンバリング : LSH003

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 実習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大家 千枝子

科目に関連した実務経験

「元気に“動こう・歩こう”」実践リーダー養成講座の講師として、リーダー養成事業に従事している。（群馬県健康長寿社会づくり推進課・2018年度～）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①健康保持増進のための運動実践力育成と体力の向上を図り、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質と能力を身につける。

②実技を中心に授業を進めていく。

到達目標

- 1.運動に対する欲求や運動が好きであることを感じることができる。
- 2.運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。■

- 3.公正・協力・責任・参画・勇気などに対する意欲をもつことができる。
- 4.仲間や教員と積極的にコミュニケーションを図ることができる。
- 5.健康・安全を確保して、運動を継続するための工夫や仕組みを創造することができる。■

使用教材 ^

プリントを適宜配布する。

参考文献 ^

参考文献を適宜紹介する。

評価方法 ^

授業ごとの取り組みの評価点85%、記録（提出物・コメント）15%

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

毎回の授業後に授業記録カードの提出を求める。授業記録カードに付したコメントやスタンプは必ずチェックすること。また最終日には、授業で学んだことの整理・課題・目標到達度の確認（ループリックにて自己評価）を行う。課題は返却しないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。

オフィスアワー ^

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@） ^

oie#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・履修者からの需要調査 ■	3,4,5	シラバスを読んで講義目標などを理解する。要配慮の場合は申告する。	0.5h	到達目標、学位記授与方針、成績評価方法などを確認する。	0.5h
2	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
3	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
4	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
5	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
6	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
7	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
8	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
10	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
11	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
12	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
13	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
14	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施	1,2,3,4,5	体調を整えて授業に備える。	0.5h	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5h
15	まとめ、授業で学んだことの整理・確認テスト（または課題）・目標到達度の確認 ■	1,2,3,4,5	これまで授業で学んだこと、自身の授業態度を振り返る。	0.5h	目標達成度の確認。今後どのように運動を継続できるか検討する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

【単位修得に必要な時間について】

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

【受講上の注意】

- ①運動に適した服装（ジャージ、Tシャツなど）とシューズ（屋内外別）を着用すること。（※ジーンズ・普段着での受講は不可。スマホや時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアスなどは外しておく。）
- ②原則として見学は認めない。配慮を必要とする学生は初回ガイダンス終了までに申し出ること。
- ③貴重品は各自で管理すること。
- ④授業で使用する用具は基本的に大学側で用意するが、個人所有のラケットなどがあれば持参を推奨する。
- ⑤天候による施設変更がある。C-learningで確認すること。
- ⑥フットサルコートの人混みがとれやすく、靴下やウエアに付着することがある。
- ⑦屋外でウォーミングアップの際、グラウンドの砂で汚れることがある。※屋外の際は、汚れてもよい服装を推奨。

【履修条件】

準備・後片付けなどの授業運営は受講生の積極的な姿勢を求める。また、技術の高低や得意不得意、好き嫌い、勝ち負けにとらわれず、自分の持っている技術力をいかして、スポーツそのものを楽しむ能力や積極的に体を動かすことが求められる。

【ルール】

授業開始時には整列し、出席をとる。授業終了時には、振り返りとして授業記録カードの提出がある。次の行為は授業中にしないこと。①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホ使用。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



宗教と倫理

MYカモクに追加

英文名 : Religion and Ethics

科目区分 : 専門教養科目

科目ナンバリング : LSH004

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

出雲春明

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義中にアンケートを実施し、その結果と分析を共有する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 東西の代表的な宗教・倫理思想に触れることで、世の多様な価値観への理解を養うことを目的とする。また、それによって自己の在り方に対する客観的・批判的な視座を養う。なるべく平易な表現を用いて講義を行う。「宗教」は「非日常的なもの」として敬遠されることも多い。しかし、だからこそ、そこで語られる教えや物語は、しばしば漠然と過ごされている私たちの日常を省みる絶好の機会を提供してくれる。自分が普段どのような判断や行動をしているか常に考えつつ、講義に臨んでほしい。

② C-Learningの教材倉庫にアップした資料に基づいて講義を行い、毎回アンケートに意見を記述してもらう。また、定期的にドリルと小テストを実施して知識の定着を図る。新型コロナの感染状況によってはオンデマンド形式に移行する。

到達目標

1. 講義で取り扱った諸宗教・倫理思想の基本について説明することができる。
2. そして、それを自己理解、他者理解に役立てることができる。

使用教材

C-Learningの教材倉庫に資料をアップする。

参考文献

関根正雄（訳）『旧約聖書 ヨブ記』、岩波文庫、1971年。
金子大栄『歎異抄』、岩波文庫、改版、1981年。

評価方法

授業への取り組み（資料の閲覧、アンケートの実施状況など）・・・30%
課題（小テスト、期末レポート）・・・70%

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回、授業終了時に意見や質問などをC-Learning「アンケート」に記述してもらい、それらに対してコメントを返す。有意義な意見に関しても紹介の時間を設ける。

オフィスアワー

1号館511研究室
面談希望の場合はC-Learning「連絡・相談」あるいは下記アドレスまで。

メールアドレス（#→@）

izumo-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス:宗教と文化、常識	1	シラバスやC-learningのニュース、予習資料を読み、授業のアウトラインや成績評価の方法について理解しておく。	1.5 h	自分自身の内にある「思い込み」について考えてみる。	1.5 h
2	『聖書』の思想：一神教の系譜	1,2	予習資料から一神教について知識を得ておく。	1.5 h	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、それぞれの特徴について確認しておく。	1.5 h
3	善人とは何か:『旧約聖書』『ヨブ記』より (1)「契約」について	1,2	予習資料から、「契約」について知識を得ておく。	1.5 h	「旧約」、「新約」とは何か、「応報主義」とは何か理解する。	1.5 h
4	善人とは何か 「ヨブ記」より (2) 生誕の災い	1,2	予習資料から『ヨブ記』のプロローグを確認しておく。	1.5 h	ヨブ記、ギリシア神話、仏教などにおけるペシミスティックな人間観を理解する。	1.5 h
5	善人とは何か：「ヨブ記」より (3) 自己の在り方を省みる	1,2	予習資料をもとに『ヨブ記』の登場人物の関係性について考えておく。	1.5 h	自己と他者の間にある鏡像的な相互関係について理解する。	1.5 h
6	善人とは何か：「ヨブ記」より (4) 現代の事例から考える	1,2	予習資料からヨブと彼の友人たちの議論を確認しておく。	1.5 h	自己批判の欠如がもたらす事態について歴史的事件を通じて理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	善人とは何か：「ヨブ記」より（5）「懺悔」ということ	1,2	予習資料から『ヨブ記』エピローグについて確認しておく。	1.5h	聖書の思想における「懺悔」の位置づけについて理解する。	1.5h
8	旧約から新約へ：イエスの教え	1,2	予習資料よりイエスの教えについて知識を得ておく。	1.5h	イエスの教えが登場してくる背景とその意義について理解する。	1.5h
9	悪人とは何か：『歎異抄』より（1）『歎異抄』について	1,2	予習資料から『歎異抄』という書について知識を得ておく。	1.5h	『歎異抄』第三条の特異性について理解する。	1.5h
10	悪人とは何か：『歎異抄』より（2）罪の意識	1,2	予習資料から『歎異抄』第三条に関する様々な見解を確認しておく。	1.5h	親鸞の内面を支配していた深い罪の意識を理解する。	1.5h
11	悪人とは何か：『歎異抄』より（3）浄土思想の展開（1）	1,2	予習資料から親鸞の師である法然が登場してきた時代背景について知る。	1.5h	当時の人々の心に去来していた思いについて理解する。	1.5h
12	悪人とは何か：『歎異抄』より（4）浄土思想の展開（2）	1,2	予習資料から親鸞の生涯について知る。	1.5h	親鸞の罪の意識の由来について理解し、自らに引きつけて考える。	1.5h
13	悪人とは何か：『歎異抄』より（5）「悪人正機説」	1,2	予習資料とあわせてこれまでの議論を確認しておく。	1.5h	『歎異抄』第三条の悪人正機説の意味を理解する。	1.5h
14	悪人とは何か：『歎異抄』より（6）悪の不可避性とそれゆえの無力	1,2	予習資料をもとに親鸞における悪について自らに引きつけて考えておく。	1.5h	我々が気づかず捕らわれている自己中心的な考え方について理解する。	1.5h
15	総括：東西の宗教	1,2	聖書の思想と浄土思想の核心部分について確認しておく。	1.5h	東西の宗教、倫理思想の共通点について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・C-learningの「教材倉庫」「ドリル」「小テスト」「アンケート」「レポート」機能を活用する。毎回、授業日の前週木曜日に予習用の教材をアップするのであらかじめ目を通しておくこと。授業終了後は復習用の資料をアップするので、よく確認し、アンケートにコメントを記入すること。
- ・詳細な成績評価の方法や、期末レポートの課題や規定など連絡事項はC-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。
- ・「自分ならどう考え、行動するか」を自らに問いかける姿勢を大切にしてほしい。

印刷 

レクリエーション論

MYカモクに追加

英文名 : Recreation Theory

科目区分 : 専門教養科目

科目ナンバリング : LSH005

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大家 千枝子

科目に関連した実務経験

レクリエーション・インストラクター養成講習会講師として、公認指導者養成に従事（現在）。
（公益財団法人日本レクリエーション協会公認・群馬県レクリエーション協会主催、2015年度～）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人びとの「心を元気にする」ための手助けができるレクリエーション支援の強み（専門性）を理解する。支援の目的とそれを達成するための方法の裏付けとなる人の心の仕組みを学ぶ。

②教員による講義がベースとなるが、グループワークによるテーマに沿った共同作業も予定している。「心を元気にする」ための理論をその実践へと結び付けるため、各グループによるレクリエーション活動を用いた短時間のレクリエーション支援を行い、「集団をリードする」、「コミュニケーションを促進する」、「楽しい空間をつくる」という感覚を養う。

到達目標

- 1.レクリエーション支援の目的と手段について、理解し、説明できる。■
- 2.レクリエーション活動の楽しさが心を元気にすることについて、理解できる。■
- 3.コミュニケーションの促進がレクリエーション支援の基盤であることを理解し、説明できる。■
- 4.授業の性質やグループ内での個人の役割について、理解し、行動することができる。
- 5.必要な資料や情報を収集し、意見をまとめ、期日を守って提出できる（C-learningも含む）。

使用教材 ↑

「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」、公益財団法人日本レクリエーション協会、1,800円+税 ISBN978-4-931180-95-6

参考文献 ↑

「基本のアイスブレーキング・ゲーム」、公益財団法人日本レクリエーション協会、2,530円（税込）ISBN978-4-931180-92-5 C2076

評価方法 ↑

授業の取り組み実践点30%、
課題点（小テスト、確認テスト、レク支援経験）70%

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

自分以外の履修者による課題や感想、評価を知ることが学生相互の刺激になるため、C-learningを使ってフィードバックする。また紙媒体の提出課題は、適宜返却を予定している。ただし最終日の確認テストは返却予定がないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。

オフィスアワー ↑

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@） ↑

oie#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、さまざまな現場でのレク支援について理解を深める（視聴覚教材使用）■	1,2,3,4,5	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	0.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	0.5h
2	レクリエーション支援の方法（アイスブレーキングのプログラムを体験する）■、グループわけ	1,2,3,4,5	自身がこれまで体験したレクリエーション活動について振り返る。	0.5h	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。	0.5h
3	レクリエーション概論（レクリエーションの主旨と手段を理解する）■、レク支援の説明と日程抽選	1,2,3,4,5	テキスト第1章（p.9～17）を読んでおくこと。	0.5h	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。	0.5h
4	楽しさと心の元気づくりの理論（楽しさをとおした心の元気づくりを理解する）①	1,2,3,4,5	テキスト第2章（p.19～32）を読んでおくこと。	0.5h	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。	0.5h
5	楽しさと心の元気づくりの理論（楽しさをとおした心の元気づくりを理解する）②	1,2,3,4,5	テキスト第2章（p.33～36）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
6	レクリエーション支援の理論（コミュニケーションと信頼関係づくりの理論）	1,2,3,4,5	テキスト第3章（p.37～43）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	レクリエーション支援の理論（良好な集団づくりの理論）	1,2,3,4,5	テキスト第3章（p.44～49）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
8	レクリエーション支援の理論（自主的、主体的に楽しむ力を高める理論）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.50～55）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
9	レクリエーション支援の方法（信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.57～65）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
10	レクリエーション支援の方法（ホスピタリティの体験的理解 その1・その）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.66～69）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
11	レクリエーション支援の方法（ハードル設定の習得）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.70～82）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
12	レクリエーション支援の方法（アレンジ方法の習得）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.70～82）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
13	レクリエーション支援の方法（CSプロセスの習得）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.70～82）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
14	安全管理の方法■	1,2,3,4,5	これまでの自身のレク活動における安全管理について振り返る。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
15	授業で学んだことの整理・確認テスト（または課題）・目標到達度の確認	1,2,3,4,5	これまでの授業を振り返る。	0.5h	確認テストについて、授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

【単位修得に必要な時間について】

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

【履修条件】

- ・心を元気にする知識と技術を習得して人前に立つことを目指すため、積極的に参加する学生を求める。
- ・学内外のレクリエーション活動に関心をもち、問題意識をもつことや自らすすんで支援に関わる姿勢を求める。

【ルール】

レクリエーション論を学ぶうえで、信頼関係づくりの方法における「あたたかくもてなす意識と配慮」の観点より、次の行為は授業中にしないこと。①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホ使用、③私語、わがまま、ふざけた態度をとる、④C-learning「出席管理」の不正行為（発覚時には厳正に対処する）

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

社会福祉の原理と政策 I

MYカモクに追加

英文名 : The Principle and Policy of Social Welfare I

科目区分 : 専門導入科目

科目ナンバリング : SWI101

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

安達 正嗣

科目に関連した実務経験

兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員ならびに主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施し調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。

履修を必須とする資格

社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回の講義の冒頭で、小テストを実施し、次に採点した前回の小テストを返却する際に、前回の講義の振り返りをおこない、質疑応答を実施する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①現代社会と福祉との関係を具体的に明らかにするなかで、社会と生活のしくみならびに生活と福祉（具体的には家族、地域、社会組織、社会構造の変容などとの関連）について解説することによって、社会福祉や福祉政策について包括的かつ体系的に身につける。
- ②毎回、講義内容に関する小テスト（設問）をおこない、受講生が講義内容に対する理解を深めるようにする。

到達目標

- 1.現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。
- 2.現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、社会福祉に関する基本的な知識力を身につけることができる。
- 3.現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、社会福祉問題の解決能力や対人間コミュニケーション能力を身につけることができる。
- 4.現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、多分野との連携を考える学際的な視点から取り組む力を身につけることができる。
- 5.現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、その解決を探るための応用・実践的な能力を身につけることができる。■
- 6.現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、福祉専門家としての倫理性を会得して、社会福祉への貢献力を身につけることができる。

使用教材

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉の原理と政策』中央法規

参考文献

講義中に、適宜指示する。

評価方法

小テスト（毎回、講義時に講義内容について数問のテスト（設問）をおこなう。遅刻は厳禁。）50%、学期末試験50%、合計100%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

各受講生は、小テスト（設問）で講義の理解度を自分自身で把握し、質疑応答をおこない、復習に役立てれば、現代社会と福祉について理解できるようになる。

オフィスアワー

火曜日5限・6限
1号館5階510研究室

メールアドレス（#→@）

adachi-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	教科書の序章「社会福祉の原理－その意味と展開」（1～14頁）を解説する（社会と生活のしくみを含む）。講義に関する小テスト（設問）実施。	1,2,6	序章を読んでおくこと。	1.5h	序章の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5h
2	講義に関する小テスト（設問）実施。第1章社会福祉の歴史・第1節社会福祉の歴史を学ぶ視点（15～21頁）を解説する。	2,3,6	第1章・第1節を読んでおくこと。	1.5h	第1章・第1節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	講義に関する小テスト（設問）実施。第1章社会福祉の歴史・第2節 欧米の社会福祉の歴史的展開 （22～33頁）を解説する。	2,3,6	第1章・第2節を読んでおくこと。	1.5h	第1章・第2節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5h
4	講義に関する小テスト（設問）実施。第1章社会福祉の歴史・第3節 日本の社会福祉の歴史的展開 （34～45頁）を解説する。	2,3,6	第2章・第3節を読んでおくこと。	1.5h	第2章・第3節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5h
5	講義に関する小テスト（設問）実施。第2章 社会福祉の思想・哲学・理論 ・第1節 社会福祉の思想・哲学 （47～59頁）を解説する。	2,3,6	第2章・第1節を読んでおくこと。	1.5h	第2章・第1節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5h
6	講義に関する小テスト（設問）実施。第2章社会福祉の思想・哲学・理論・第2節 社会福祉の理論 （60～69頁）を解説する。	1,2,4,6	第2章・第2節を読んでおくこと。	1.5h	第2章・第2節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5h
7	講義に関する小テスト（設問）実施。第2章社会福祉の思想・哲学・理論・第3節 社会福祉の論点 （70～79頁）を解説する。	1,2,4,6	第2章・第3節を読んでおくこと。	1.5h	第3章・第3節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5h
8	講義に関する小テスト（設問）実施。第2章社会福祉の思想・哲学・理論・第4節 社会福祉の対象とニーズ （80～88頁）を解説する。	2,3,4,6	第2章・第4節を読んでおくこと。	1.5h	第2章・第4節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5h
9	講義に関する小テスト（設問）実施。第3章 社会問題と社会構造 ・第1節 現代における社会問題 （89～99頁）を解説する。実務経験で得た地域社会に関する調査の経験などを提示する。■	2,3,4,5,6	第3章・第1節を読んでおくこと。	1.5h	第3章・第1節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5h
10	講義に関する小テスト（設問）実施。第3章社会問題と社会構造・第2節 社会問題の構造的背景 （100～108頁）を解説する。実務経験で得た地域社会に関する調査の経験などを提示する。■	2,3,4,5,6	第3章・第2節を読んでおくこと。	1.5h	第3章・第2節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5h
11	講義に関する小テスト（設問）実施。第4章 福祉政策の基本的な視点 ・第1節 福祉政策とは何か （109～118頁）を解説する。	2,3,4,6	第4章・第1節を読んでおくこと。	1.5h	第4章・第1節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5h
12	講義に関する小テスト（設問）実施。第4章福祉政策の基本的な視点・第2節 福祉政策において重要な概念・理念 （119～131頁）を解説する。	1,2,3,4,5,6	第4章・第2節を読んでおくこと。	1.5h	第4章・第2節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5h
13	講義に関する小テスト（設問）実施。第5章 福祉政策におけるニーズと資源 ・第1節 ニーズ（必要） ・前半（133～144頁）を解説する。	1,2,3,4,5,6	第5章・第1節・前半を読んでおくこと。	1.5h	第5章・第1節・前半の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5h
14	講義に関する小テスト（設問）実施。第5章 福祉政策におけるニーズと資源 ・第1節 ニーズ（必要） ・後半（179～202頁）を解説する。	1,2,3,4,5,6	第5章・第1節・後半を読んでおくこと。	1.5h	第5章・第1節・後半の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5h
15	講義に関する小テスト（設問）実施。第5章福祉政策におけるニーズと資源・第2節 資源（リソース）	1,2,3,4,	第5章・第2節を読んで	3h	第5章・第2節の内容。提示された概念や	3h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	(152~163頁)	5,6	おくこと。		制度などを理解しておくこと。	

合計時間（予習・復習）

48h

^

備考

小テスト（設問）と学期末試験については、対面授業と遠隔授業でやり方等が異なることがある。
■：実務経験に基づく内容を示す。

^

印刷



社会福祉の原理と政策Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：The Principle and Policy of Social Welfare Ⅱ

科目区分：専門導入科目

科目ナンバリング：SWI102

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

安達 正嗣

科目に関連した実務経験

兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員ならびに主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施し調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。

履修を必須とする資格

社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回の講義の冒頭で、小テストを実施し、次に採点した前回の小テストを返却する際に、前回の講義の振り返りをおこない、質疑応答を実施する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

現代社会と福祉との関係を具体的に明らかにするなかで、社会と生活のしくみならびに生活と福祉（具体的には家族、地域、社会組織、社会構造の変容などとの関連）について解説することによって、社会福祉や福祉政策について包括的かつ体系的に身につける。

毎回、講義内容に関する小テスト（設問）をおこない、受講生が講義内容に対する理解を深めるようにする。

到達目標

- 1.現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。
- 2.現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、社会福祉に関する基本的な知識力を身につけることができる。
- 3.現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、社会福祉問題の解決能力や対人間コミュニケーション能力を身につけることができる。
- 4.現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、多分野との連携を考える学際的な視点から取り組む力を身につけることができる。
- 5.現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、その解決を探るための応用・実践的な能力を身につけることができる。■
- 6.現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、福祉専門家としての倫理性を会得して、社会福祉への貢献力を身につけることができる。

使用教材

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉の原理と政策』中央法規

参考文献

講義中に、適宜指示する。

評価方法

小テスト（毎回、講義時に講義内容について数問のテスト（設問）をおこなう。遅刻は厳禁。）50%、学期末試験50%、合計100%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

各受講生は、小テスト（設問）で講義の理解度を自分自身で把握し、質疑応答をおこない、復習に役立てれば、現代社会と福祉について理解できるようになる。

オフィスアワー

火曜日5限・6限
1号館5階510研究室

メールアドレス（#→@）

adachi-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	第6章福祉政策の構成要素と過程・第1節福祉政策の構成要素（165～177頁）を解説する。講義に関する小テスト（設問）実施。	1, 2, 3, 4, 5,6	第6章・第1節を読んでおくこと。	1. 5h	第6章・第1節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
2	講義に関する小テスト（設問）実施。第6章福祉政策の構成要素と過程・第2節 福祉政策の過程と評価 （178～192頁）を解説する。	1, 2, 3, 4, 5,6	第6章・第2節を読んでおくこと。	1. 5h	第6章・第2節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1. 5h
3	講義に関する小テスト（設問）実施。第7章 福祉政策の動向と課題 ・第1節 福祉政策と包括的支援の現状 （194～213頁）を解説する。地域共生社会の実現に向けた制度や施策、介護実践に関連する諸制度を含む。	1, 2, 3, 4, 5,6	第7章・第1節を読んでおくこと。	1. 5h	第7章・第1節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1. 5h
4	講義に関する小テスト（設問）実施。第7章福祉政策の動向と課題・第2節 福祉政策と包括的支援の課題 （214～221頁）を解説する。地域共生社会の実現に向けた制度や施策、介護実践に関連する諸制度を含む。	1, 2, 3, 4, 5,6	第7章・第2節を読んでおくこと。	1. 5h	第7章・第2節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1. 5h
5	講義に関する小テスト（設問）実施。第8章 福祉政策と関連施策 ・第1節 保健医療政策 （223～227頁）を解説する。	4, 5,6	第8章・第1節を読んでおくこと。	1. 5h	第8章・第1節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1. 5h
6	講義に関する小テスト（設問）実施。第8章福祉政策と関連施策・第2節 教育政策 （228～232頁）を解説する。	4, 5,6	第8章・第2節を読んでおくこと。	1. 5h	第8章・第2節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1. 5h
7	講義に関する小テスト（設問）実施。第8章福祉政策の関連領域・第3節 住宅政策 （233～238頁）を解説する。	4, 5,6	第8章・第3節を読んでおくこと。	1. 5h	第8章・第3節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1. 5h
8	講義に関する小テスト（設問）実施。第8章福祉政策の関連領域・第4節 労働政策 （239～244頁）を解説する。	4, 5,6	第8章・第4節を読んでおくこと。	1. 5h	第8章・第4節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1. 5h
9	講義に関する小テスト（設問）実施。第8章福祉政策と関連領域・第5節 災害政策 （245～251頁）を解説する。実務経験で得た地域社会の災害に関する調査の経験などを提示する。■	4, 5,6	第8章・第5節を読んでおくこと。	1. 5h	第8章・第5節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1. 5h
10	講義に関する小テスト（設問）実施。第9章 福祉サービスの供給と利用の過程 ・第1節 福祉供給部門 （253～262頁）を解説する。 社会保障制度、高齢者福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度 を含む。実務経験で得た行政機関の福祉部門などに関する情報などを提示する。■	1, 2, 3, 4, 5,6	第9章・第1節を読んでおくこと。	1. 5h	第9章・第1節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1. 5h
11	講義に関する小テスト（設問）実施。第9章福祉サービスの供給と利用の過程・第2節 福祉供給過程 （253～262頁）を解説する。社会保障制度、高齢者福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度を含む。実務	1, 2, 3,	第9章・第1節を読んでおくこと。	1. 5h	第9章・第1節の内容、提示された概念や制度などを	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	経験で得た行政機関の福祉部門などに関する情報などを提示する。■	4, 5, 6			理解しておくこと。	
1 2	講義に関する小テスト（設問）実施。第9章福祉サービスの供給と利用の過程・第3節 福祉利用過程 （272～280頁）を解説する。社会保障制度、高齢者福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度を含む。実務経験で得た行政機関の福祉部門などに関する情報などを提示する。■	1, 2, 3, 4, 5, 6	第9章・第3節を読んでおくこと。	1. 5h	第9章・第3節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1. 5h
1 3	講義に関する小テスト実施。第10章 福祉政策の国際比較 ・第1節 国際比較の視点 （281～288頁）・第2節 福祉政策の動向：欧米 （289～295頁）を解説する。	2, 4, 5, 6	第10章・第1節・第2節を読んでおくこと。	1. 5h	第10章・第1節・第2節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1. 5h
1 4	講義に関する小テスト実施。第10章福祉政策の国際比較・第3節 福祉政策の動向：東アジア （296～300頁）・第4節 福祉政策の新しい潮流と国際比較の新しい課題 （301～303頁）を解説する。 日本と韓国の高齢者福祉と介護保険制度 を含む。	2, 4, 5, 6	第10章・第3節・第4節を読んでおくこと。	1. 5h	第10章・第3節・第4節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1. 5h
1 5	講義に関する小テスト実施。終章 これからの社会福祉－出発点・到達点・展望－ （305～325頁）を解説する。	1, 2, 3, 4, 5, 6	終章を読んでおくこと。後期の講義内容を復習しておくこと。	3h	終章、後期全体の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	3h

合計時間（予習・復習）

48h

備考

小テスト（設問）と学期末試験については、対面授業と遠隔授業でやり方等が異なることがある。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

ソーシャルワークの基盤と専門職

MYカモクに追加

英文名 : Basic Social Work Theory

科目区分 : 専門導入科目

科目ナンバリング : SWI103

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

青木 尚人

科目に関連した実務経験

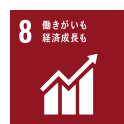
政令指定都市自治体職員(社会福祉職)として生活保護現業員、知的障害者生活支援施設生活支援員、精神保健福祉相談員の3か所計9年従事。

(社会福祉士、精神保健福祉士取得済み)

履修を必須とする資格

社会福祉士 精神保健福祉士 介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①**社会福祉士・精神保健福祉士、介護福祉士の法的な位置づけ**とその社会的意義について学ぶ。■

また、ソーシャルワークのグローバル定義を基本とした、**ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程**について理解を深める。

さらに、**ソーシャルワーク実践における価値規範と倫理**について学ぶ。■

②授業は、指定した教科書の中から重要な部分を抜粋し、ソーシャルワークの具体例を示しながら、専門職としてのあり方を教授する。また、本科目は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験指定科目であるため、国家試験で頻出する内容についても、整理して説明する。

到達目標



1. **社会福祉士及び精神保健福祉士、介護福祉士の法的な位置づけ**について説明できる。■
2. **ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程**について説明できる。
3. **ソーシャルワークの価値規範と倫理**について説明できる。

使用教材



岩崎晋也・白澤政和・和気純子監修 空閑浩人・白澤政和・和気純子 編著『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック4 ソーシャルワークの基盤と専門職』ミネルヴァ書房

*レジュメを毎回配布し、必要に応じて資料を提供する。

参考文献



参考文献等は随時紹介する。

評価方法



期末試験60% 出席点(リアクションペーパー)40%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



毎回の授業で、前回のリアクションペーパーを確認しつつ、扱った項目の確認を行う。

オフィスアワー



オフィスアワーは随時設ける(研究室に訪問するときは必ずメールで日程調整すること)。

質問や意見はメールでも随時受け付ける。

メールアドレス(＃→@)



aoki-n#takasaki-u.ac.jp

メールを送る場合は表題に「面談希望 学籍番号 氏名」とし、面談の日程を調整すること。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士、介護福祉士の役割と機能	1	カリキュラムにおける本科目の位置づけ及び、講義目標、到達目標等を把握する。該当する教科書(事前配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	当日の講義内容から、本科目の講義目標、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士、介護福祉士の役割と機能の内容を理解する。	1. 5h
2	社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性 ■	1,2	該当する教科書の箇所(事前配布資料)を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性とコンピテンシーについて授業内容を復習し、内容を理解する。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	ソーシャルワークの定義	2	該当する教科書(事前配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	ソーシャルワークの定義について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1. 5h
4	ソーシャルワークの基本構造	2	該当する教科書(事前配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	ソーシャルワークの構成要素について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1. 5h
5	ソーシャルワークの原理	2	該当する教科書(事前配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	ソーシャルワークの原理について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1. 5h
6	ソーシャルワーク実践を支える理念	2,3	該当する教科書(事前配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	ソーシャルワークの理念、人間の尊厳と自立について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1. 5h
7	ソーシャルワークの源流と基礎確立期	2,3	該当する教科書(事前配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	ソーシャルワークの源流と基礎確立期について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1. 5h
8	ソーシャルワークの発展期	2,3	該当する教科書(事前配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	ソーシャルワークの発展期について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1. 5h
9	ソーシャルワークの展開期と統合化	2,3	該当する教科書(事前配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	ソーシャルワークの展開期と統合化について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1. 5h
10	日本におけるソーシャルワークの形成過程	2,3	該当する教科書(事前配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	日本におけるソーシャルワークの形成過程について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1. 5h
11	ソーシャルワークの基盤としての地域社会	2,3	該当する教科書(事前配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	ソーシャルワークの基盤としての地域社会について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1. 5h
12	専門職倫理の概念と倫理綱領 ■	3	該当する教科書(事前配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	専門職倫理の概念と倫理綱領について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1. 5h
13	倫理的ジレンマ ■	3	該当する教科書(事前配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	倫理的ジレンマについて授業範囲を復習し、内容を理解する。	1. 5h
14	ソーシャルワーカーに求められる基本的態度と自己覚知	3	該当する教科書(事前配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	ソーシャルワーカーに求められる基本的態度と自己覚知について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1. 5h
15	試験・振り返り	1, 2,3	今までの学習内容を振り返り、知識の定着度を確認する。	1. 5h	後日発表される回答で、問題を復習する。	1. 5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンラインで実施する場合は、別途Cラーニング等で学習方法を周知する。

■は実務経験に基づく授業内容であることを示す。

ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）

MYカモクに追加

英文名：Basic Social Work Theory (advanced)

科目区分：専門導入科目

科目ナンバリング：SWI104

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

青木 尚人

科目に関連した実務経験

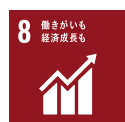
政令指定都市自治体職員(社会福祉職)として生活保護現業員、知的障害者支援施設生活支援員、精神保健福祉相談員の3か所計9年従事。

(社会福祉士、精神保健福祉士取得済)

履修を必須とする資格

社会福祉士、介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①ジェネラリスト・ソーシャルワークの概要を理解することを目標に、**社会福祉士や介護福祉士としての職域と求められる役割や機能、倫理、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と関連性、総合的かつ包括的な支援と多職種連携のあり方**について学修する。

②授業は、指定した教科書の中から重要な部分を抜粋して講義し、ソーシャルワークの具体例を示しながら、社会福祉士としてのあり方を教授する。また、本科目は社会福祉士国家試験指定科目であるため、国家試験で頻出する内容についても、整理して説明する。

到達目標



- 1.社会福祉士と介護福祉士の職域と求められる役割や機能、倫理などについて説明できる。■
- 2.ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について説明できる。■
- 3.ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と関連性について説明できる。■
- 4.総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について説明できる。■

使用教材



岩崎晋也・白澤政和・和気純子 監修 空閑浩人・白澤政和・和気純子 編著(2021)『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック4 ソーシャルワークの基盤と専門職』ミネルヴァ書房
レジュメを毎回配布し、必要に応じ資料を提供する。

参考文献



参考文献等は随時紹介する。

評価方法



期末試験60%、課題提出(リアクションペーパー)40%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



毎回の授業で、リアクションペーパーを読み上げることで前回の授業のフィードバックを行う。

オフィスアワー



随時受け付ける。
面談の場合は事前にアポイントを取ること。

メールアドレス（#→@）



aoki-n#takasaki-u.ac.jp
(件名に「学籍番号 氏名」を記入した上で連絡すること)

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、ソーシャルワーク専門職の概念と範囲	1,2	カリキュラムにおける本科目の位置づけ及び、講義目標、到達目標等を把握する。該当する教科書(配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	当日の講義内容から、本科目の講義目標、到達目標、成績評価方法を確認する。ソーシャルワーク専門職の概念と範囲について授業内容を復習し、内容を理解する。	1. 5h
2	社会福祉士、介護福祉士の職域と役割、倫理	1,2	該当する教科書(配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	社会福祉士と介護福祉士の職域と役割、倫理について授業内容を復習し、内容を理解する。	1. 5h
3	諸外国の動向	1,2	該当する教科書(配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	諸外国の動向について授業内容を復習し、内容を理解する。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	多様な組織・機関・団体における専門職	1,2	該当する教科書(配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	多様な組織・機関・団体における専門職について授業内容を復習し、内容を理解する。	1. 5h
5	様々な構造に働きかけるソーシャルワーク	3	該当する教科書(配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	ソーシャルワークの対象について授業内容を復習し、内容を理解する。	1. 5h
6	ミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク	3	該当する教科書(配布資料)の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	ミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワークについて授業内容を復習し、内容を理解する。	1. 5h
7	総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点	3,4	該当する教科書の箇所(配布資料)を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点について授業内容を復習し、内容を理解する。	1. 5h
8	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容	3,4	該当する教科書の箇所(配布資料)を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容、その際に求められる人間関係の形成とコミュニケーションの基礎について授業内容を復習し、内容を理解する。	1. 5h
9	多職種連携の意義と内容	4	該当する教科書の箇所(配布資料)を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	多職種連携およびチームアプローチ、チームマネジメントの意義と内容について授業内容を復習し、内容を理解する。	1. 5h
10	ソーシャルサポートネットワークの意義と内容	4	該当する教科書の箇所(配布資料)を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	ソーシャルサポートネットワークの意義と内容について授業内容を復習し、内容を理解する。	1. 5h
11	エンパワメントとセルフヘルプ	4	該当する教科書の箇所(配布資料)を読み、分からない用語を調べる。	1. 5h	エンパワメントとセルフヘルプについて授業内容を復習し、内容を理解する。	1. 5h
12	総合的かつ包括的な支援の具体的な展開	3,4	総合的かつ包括的な支援の具体的な展開例(配布資料)について調べる。	1. 5h	総合的かつ包括的な支援の具体的な展開について授業内容を復習し、内容を理解する。	1. 5h
13	これからのソーシャルワークと社会福祉	3,4	専門職としてのソーシャルワーカーに求められるものを確認する。	1. 5h	専門職としてのソーシャルワーカーに求められるものについて復習し、内容を理解する。	1. 5h
14	これまでの確認	1,2,3,4	これまでの学習内容を振り返り、言語化する。	1. 5h	授業内容全体を復習し、内容を理解する。	1. 5h
15	期末試験・まとめ	1,2,3,4	今までの学習内容を振り返り、知識の定着度を確認する。	1. 5h	期末試験において間違えた箇所を復習する。	1. 5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンラインで実施する場合は、別途Cラーニング等で学習方法を周知する。

■は実務経験に基づく授業内容であることを示す。

高齢者福祉

MYカモクに追加

英文名 : Social Welfare for the Elderly

科目区分 : 専門導入科目

科目ナンバリング : SWI105

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

原田 欣宏

科目に関連した実務経験

介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務

履修を必須とする資格

社会福祉士、介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①高齢者の生活を理解するために、高齢者に特徴的な健康に関する基礎的知識を理解する。そのうえで、専門職がどのような視点で支援を行うべきか、対象者や場面による違いをふまえた支援の方法について理解する。

②各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。

到達目標

- 1.高齢者の身体的特徴と、その介護方法について説明することができる■
- 2.高齢者に関する社会問題への福祉専門職としての役割を説明することができる■
- 3.高齢者福祉制度の発展過程の概要について説明することができる■
- 4.介護の概要と専門職としての対応方法を説明することができる■

使用教材

↑

「新エッセンシャル高齢者福祉論」田中康雄編著 みらい

参考文献

↑

授業時に紹介する

評価方法

↑

期末テスト80%、レポートなどの課題20%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

レポートなどの課題は提出後の授業で出題の意図と解答例を提示して説明する。
期末試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。

オフィスアワー

↑

火曜日3時限
質問はメールでも受け付ける。
(1号館5階506研究室)

メールアドレス（#→@）

↑

harada#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス／少子高齢社会の到来	1,2	教科書「第1章」に目を通す。シラバスを読んで講義の目標などを理解する。	1.5h	人口動向、世帯動向，人口減少社会と課題を理解する。	1.5h
2	高齢者の定義と特性	1,2	教科書「第2章」に目を通す。	1.5h	高齢者支援の基本的支援を理解する。	1.5h
3	高齢者の生活 老化に伴うところとからだの変化と生活	1,2	教科書「第3章」に目を通す。	1.5h	地域社会の変化と少子高齢化問題の関係、社会参加と就労を理解する。	1.5h
4	高齢者を取り巻く社会環境	1,2	教科書「第4章」に目を通す。	1.5h	高齢者の世帯状況について整理する。	1.5h
5	高齢者福祉の歴史と理念	1,2	教科書「第5章」に目を通す。	1.5h	高齢者福祉の歴史的展開から制度発達の過程を整理する。	1.5h
6	老人福祉法	2,3	教科書「第6章」に目を通す。	1.5h	高齢者保健福祉の法体系、老人福祉法の制度移行過程を理解する。	1.5h
7	介護保険制度	2,3	教科書「第7章」に目を通す。	1.5h	介護保険制度の概要を理解する。	1.5h
8	介護保険サービス：居宅・予防・地域支援■	2,3	教科書「第8章」に目を通す。	1.5h	介護保険サービスの内容と地域包括支援センターの役割を理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	介護保険サービス：施設サービス	3	教科書「第9章」に目を通す。	1.5h	施設サービスが目指す地域社会、専門職の役割を整理する。	1.5h
10	高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法	3	教科書「第10章」に目を通す。	1.5h	高齢者の医療と福祉の連携方法を整理する。	1.5h
11	高齢者の権利擁護 バリアフリー法、高齢者住まい法、高齢者雇用安定法	1,4	教科書「第11章」に目を通す。	1.5h	高齢者の住居を安定的に確保する方法について整理する。	1.5h
12	高齢者のための様々な環境の整備 育児・介護休業法、市町村独自の高齢者支援	1,4	教科書「第12章」に目を通す。	1.5h	企業、地域の取り組みと制度の連携について整理する。	1.5h
13	高齢者の雇用安定と家族の就労上の介護休業支援	1,4	教科書「第13章」に目を通す。	1.5h	高齢者と家族等に対する支援の実際を整理する。	1.5h
14	高齢者と家族を支援する組織と専門職、市民の役割と連携	1,4	教科書「第14章」に目を通す。	1.5h	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割■	1.5h
15	高齢者と家族等への相談援助	1,2,3,4	教科書「第15章」に目を通す。	1.5h	地域包括ケアシステムの概要を整理する■。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

「予習」欄にある「目を通す」とは、「通読し不明な語句を事前に調べることを指す。

■：実務経験に基づく内容を示す。

太字は、社会福祉士および介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

印刷 

児童・家庭福祉

MYカモクに追加

英文名：Welfare Services for Children and Their Families

科目区分：専門導入科目

科目ナンバリング：SWI106

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大川 健次郎

科目に関連した実務経験

市区町村社会福祉協議会に勤務（経験）

履修を必須とする資格

社会福祉士、介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境、福祉需要（子育て・ひとり親家庭、児童虐待及びDVの実態を含む）について理解できるようにする。児童・家庭福祉制度の発展過程について理解できるようにする。児童の権利について理解できるようにする。相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉に関わる法制度について理解できるようにする。支援を必要とする子ども・家族に対する援助についても学習する。

②授業は、教科書とパワーポイントを使用して要点をまとめて進めていく。スライドは随時プリントして配布するので、必要に応じてこれに記入して学習を進めること。支援を必要とする子ども・家族に対する援助についても学習する。

到達目標

- 1.児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解できる。
- 2.児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解できる。
- 3.児童や家庭福祉に係る法制度について理解できる。
- 4.児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解できる。
- 5.児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解できる。■

使用教材

教科書「社会福祉学習双書 5 児童・家庭福祉」 全国社会福祉協議会

参考文献

授業内で指示する

評価方法

定期試験80% 授業参加度20%

課題・評価に対するフィードバック方法

授業参加度をミニレポートで測る。ミニレポートにコメントをつけて返却し学生にフィードバックする。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。研究室508号室

メールアドレス（#→@）

okawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境	1	教科書の「児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境」部分を熟読する	1.5h	ひとり親家庭、児童虐待、DV地域における子育て支援、青少年の実態を理解する	1.5h
2	児童・家庭福祉の歴史と児童・家庭の定義と権利	1,2,3	教科書の「子どもの人権・権利保障」・「児童家庭福祉の理念と基本的理解」部分を熟読する	1.5h	児童と家庭の権利保障、児童・家庭福祉の歴史を理解する	1.5h
3	児童福祉法の理念と概要・子ども基本法の目的・定義・基本理念等	1,2	教科書「児童家庭福祉の理念と基本的理解」の「児童家庭福祉の理念」部分を熟読する	1.5h	児童福祉法の理念、児童憲章の理念、児童の権利に関する条約を理解する	1.5h
4	児童・家庭福祉の相談機関（児童相談所の役割と実際）	1,4	教科書「児童家庭福祉制度における関係機関と専門職の役割」の「児童相談所役割」部分を熟読する	1.5h	児童・家庭福祉制度における相談体制、主に児童相談所の枠割と組織を理解する	1.5h
5	児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際	1,2,4	教科書「児童家庭福祉制度における関係機関と専門職の役割」部分を熟読する	1.5h	児童・家庭福祉制度に関わる行政、NPOなどの役割を理解する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	児童・家庭に対する法制度① 児童虐待対策（児童虐待の防止等に関する法律を中心に）	4	教科書「児童虐待への対応」部分を熟読する	1.5h	児童虐待の現状、それに対応する児童虐待の防止等に関する法律を理解する	1.5h
7	児童・家庭に対する法制度② ひとり親家庭に関する福祉（母子及び父子並びに寡婦福祉法・児童扶養手当法を中心に）	4	教科書「子どもと家庭にかかわる貧困、女性の福祉」部分を熟読する	1.5h	母子及び父子並びに寡婦福祉法、児童扶養手当法、売春防止法を理解する	1.5h
8	児童・家庭に対する法制度③ 子ども・子育て制度	4	教科書「子育て支援・保育・児童健全育成」部分を熟読する	1.5h	保育をめぐる制度の流れ・概要、地域子育て支援の意味と歴史的経緯、地域子ども・子育て支援事業を理解する	1.5h
9	児童・家庭に対する法制度④ ドメスティック・バイオレンスへの対応（DV法・女性支援法等を中心に）	4	教科書「子どもと家庭にかかわる貧困、女性の福祉」の「DV防止の支援」部分を熟読する	1.5h	女性福祉の歴史的経緯、DV防止法、女性支援法について理解する	1.5h
10	児童・家庭に対する法制度⑤ 母子保健（母子保健法を中心に）	4	教科書「母子保健」部分を熟読する	1.5h	母子保健の目的と趣旨、母子保健施策の現状と今後の課題について理解する	1.5h
11	児童・家庭に対する法制度⑥ 健全育成（児童手当法を中心に）	4	教科書「子育て支援・保育・児童健全育成」の「児童健全育成」部分を熟読する	1.5h	少子化対策の流れ、児童手当法について理解する。	1.5h
12	児童・家庭に対する法制度⑦ 子育て支援（次世代育成支援対策推進法、少子化社会対策基本法を中心に）	4	教科書「子育て支援・保育・児童健全育成」の「子育て支援」部分を熟読する	1.5h	次世代育成支援対策推進法、少子化社会対策基本法について理解する	1.5h
13	児童・家庭に対する法制度⑧ 障害児に関する福祉（特別児童扶養手当等の支給に関する法律を中心に）	4	教科書「障害児支援」部分を熟読する	1.5h	特別児童扶養手当について理解する	1.5h
14	児童・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割	4	教科書「児童家庭福祉制度における関係機関と専門職の枠割」の「関連する専門職等の役割」部分を熟読する	1.5h	児童・家庭福祉に関わる行政機関と専門職、児童福祉施設の専門職員と資格、その他の専門職員と資格について理解する	1.5h
15	児童・家庭に対する支援の実際■	4.5	教科書「児童家庭福祉の支援の実際」部分を熟読する	1.5h	相談援助活動の必要性、基本的視点、方法、他専門実践について理解する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



障害者福祉

MYカモクに追加

英文名：Welfare for Persons with Disabilities

科目区分：専門導入科目

科目ナンバリング：SWI107

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

根岸 洋人

科目に関連した実務経験

高崎市障害者虐待防対策協議会会長（現在）

高崎市社会福祉審議会委員（現在）

履修を必須とする資格

社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、初級パラスポーツ指導員

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①障害を持つ人々の存在は太古の昔から知られている。そしてその処遇は、その時代背景とともに変化してきている。現代を生きる我々には何が必要とされ、どんな課題が積み上げられているのだろうか。本講義では障害者福祉に関する基本的事項を理解し、歴史的背景にたつ現代の問題点を学修していく。

②授業は講義形式で行う。授業内容によってはパワーポイントや映像資料を活用することもある。毎回授業終了後にC-learningを利用したリアクションペーパーの作成を課す。授業の復習も含めて期限までの提出を求めます。

到達目標 ↑

- 1.障害のある人の暮らしを理解し、現代社会の問題点と関連づけ説明することができる
- 2.障害者福祉の制度を理解し、その意義、問題点を指摘できる ■
- 3.歴史や制度を関連づけて障害のある人の自立とその支援方法を説明できる ■

使用教材 ↑

最新社会福祉士養成講座 障害者福祉 中央法規

参考文献 ↑

授業中に指示する

評価方法 ↑

- 期末試験を実施し評価を行う。配分は以下の通りとする。
- 1.授業時のリアクションペーパーによる参加20%（C-learningを使用）
 - 2.期末試験80%

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

授業中に行う。さらに質問等がある場合はオフィスアワーを活用すること

オフィスアワー ↑

金曜日5限 507研究室

メールアドレス（#→@） ↑

negishi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（障害者の生活実態とこれを取り巻く環境・社会情勢・介護需要）	1,3	1年次に履修した障害に関する科目内容を確認する	1h	インターネット等を使用し、授業で取り上げた歴史上の事項を復習しておく	1h
2	障害概念と特性・定義・理念（障害者基本法を含む）	1,3	ノーマライゼーションの理念について確認する	1h	ICFの概念について整理する	1h
3	知的障害者福祉法とその関連制度（障害者に対する法制度）	1,2,3	知的障害者福祉法について教科書を読む	1h	知的障害の障害特性や統計などを確認する	1h
4	身体障害者福祉法とその関連制度（バリアフリー法を含む）	1,2,3	身体障害者福祉法について教科書を読む	1h	身体障害の特性や手帳制度などを整理し確認する	1h
5	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の理解（医療観察法を含む）	1,2,3	精神保健福祉法について教科書を読む	1h	精神障害の特性や医療との関わりについて整理する	1h
6	発達障害者支援法とその関連制度	1,2,3	発達障害者支援法について教科書を読む	1h	発達障害の特性や近年の状況についてインターネットで調べる	1h
7	障害者福祉の歴史	1,2,3	戦後の法制定の過程について教科書を読む	1h	インターネット等を使い、障害者自立支援法反対運動などを調べる	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	障害者総合支援法について（相談支援事業所及び専門職の役割と実際を含む）■	1,2,3	障害者総合支援法について教科書を読む	1h	総合支援法の規定するサービスについて整理する	1h
9	障害のある人の所得保障	1,2,3	障害のない人の社会保障について学ぶ	1h	自分の住んでいる自治体の実施している障害者優遇について調べる	1h
10	障害者の雇用・就労（地域移行や就労の実態を含む）	1,2,3	障害者雇用促進法について教科書を読む	1h	インターネット等を使用し、障害者の雇用の先進事例を調べる	1h
11	障害のある人の教育	1,2,3	特別支援教育について学ぶ	1h	学校の種類や問題点等について整理する	1h
12	障害者虐待防止法とその対策■	1,2,3	障害者虐待防止法について教科書を読む	1h	過去の虐待事件などを新聞記事やインターネットを通じて調べる	1h
13	障害者の地域生活（障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割）■	1,2,3	生活のしづらさに関する調査を確認する	1h	地域生活を進めるための制度、相談員の役割について確認する	1h
14	障害者と家族（障害者と家族等に対する支援の実際）	1,2,3	地域生活の実態について家族との同居の視点で統計を見る	1h	障害者家族の手記などを読む	1h
15	まとめ	3	これまでの授業を振り返り整理しておく	1h	定期試験に向けて学習を行う	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

夏休み等の期間を利用して実際に障害のある人と接する機会（ボランティア活動等）をもつこと。ボランティア等の活動によってこの授業の内容は深まります。最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完してください。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



医学概論

MYカモクに追加

英文名：Introduction to Medicine

科目区分：専門導入科目

科目ナンバリング：SWI108

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

上原 徹

科目に関連した実務経験

精神科医として大学病院等で勤務経験35年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている

履修を必須とする資格

社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回国家試験形式の小テストを複数問開示し、提出者には正解を教示する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学生が、ライフステージにおける心身の変化と健康課題、健康及び疾病の捉え方、身体構造と心身機能、疾病障害の成り立ちと回復過程、公衆衛生について理解する。人の成長と発達、解剖生理学の基礎、主な疾病や障害の概要、リハビリテー

ションやICF・健康の概念、関連職種の業務、障害者総合支援法等の改正など、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士として必要な医学・保健知識を学ぶ。

②授業は教科書（電子版）を上映しつつ要点を解説指示し、資料で補足する。適宜追加資料などで知識のまとめ解説を導入する。

到達目標

- 1.人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。
- 2.健康・疾病の捉え方について理解する。
- 3.人の身体構造と心身機能について理解する。■
- 4.疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。■
- 5.公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。■

使用教材

最新・社会福祉士養成講座1 医学概論 中央法規（冊子版）、を教科書に用いる

評価方法

期末筆記試験90%、Cラーニングによる小テスト提出10%で評価するが、授業態度（不必要な私語、真摯な姿勢など）に問題がある場合は個別に減点する。

課題・評価に対するフィードバック方法

必要に応じて、国家試験問題の解説やフィードバックを行う。

オフィスアワー

月3 金3
研究室:1号館5階512研究室

メールアドレス（#→@）

授業で提示する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	健康に関するイントロダクション■	3,5	関心のあるテーマを調べておく	1h	授業の内容をまとめる	2h
2	ライフステージにおける心身の変化と健康課題■	1,3,5	講義担当部分をノートにまとめること。	1h	小テストを参考に復習を徹底すること	2h
3	健康及び疾病の概念■	1,3,5	講義担当部分をノートにまとめること。	1h	小テストを参考に復習を徹底すること	2h
4	身体構造と心身機能①■	1,3,5	講義担当部分をノートにまとめること。	1h	小テストを参考に復習を徹底すること	2h
5	身体構造と心身機能②	2,5	講義担当部分をノートにまとめること。	1h	小テストを参考に復習を徹底すること	2h
6	人体部位の名称■	2,5	講義担当部分をノートにまとめること。	1h	小テストを参考に復習を徹底すること	2h
7	疾病と障害の成立および回復■	2,5	講義担当部分をノートにまとめること。	1h	小テストを参考に復習を徹底すること	2h
8	リハビリテーション■	2,5	講義担当部分をノートにまとめること。	1h	小テストを参考に復習を徹底すること	2h
9	各論：感染症・脳神経系■	2,5	講義担当部分をノートにまとめること。	1h	小テストを参考に復習を徹底すること	2h
10	脳血管・心血管系■	2,5	講義担当部分をノートにまとめること。	1h	小テストを参考に復習を徹底すること	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	内分泌代謝・呼吸器 ■	4,5	講義担当部分をノートにまとめること。	1h	小テストを参考に復習を徹底すること	2h
12	腎泌尿器・消化器肝胆脾 ■	4,5	講義担当部分をノートにまとめること。	1h	小テストを参考に復習を徹底すること	2h
13	産科婦人科・精神・小児 ■	3,4,5	講義担当部分をノートにまとめること。	1h	小テストを参考に復習を徹底すること	2h
14	高齢者の疾患・悪性腫瘍 ■	3,4,5	講義担当部分をノートにまとめること。	1h	小テストを参考に復習を徹底すること	2h
15	公衆衛生	1,2,3,4,5	講義担当部分をノートにまとめること。	1h	小テストを参考に復習を徹底すること	2h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



予習・復習については、試験前後の学習などで補完すること。一部オンラインで行う可能性があるが、電子版教科書と資料画像などを用いた動画および音声により要点を追加講義する。不必要な私語や不適切な授業態度は、厳格に対処し、個別に減点する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



社会福祉調査の基礎

MYカモクに追加

英文名 : Social Welfare Research: Basic Level

科目区分 : 専門導入科目

科目ナンバリング : SWI109

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

安達 正嗣

科目に関連した実務経験

兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。

履修を必須とする資格

社会福祉士、精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回の講義の冒頭で、小テストを実施し、次に採点した前回の小テストを返却する際に、前回の講義の振り返りをおこない、質疑応答を実施する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①社会調査の基本的な知識や技法について解説することによって、現代の社会福祉の業務における社会調査の大きな意義を理解する。
- ②毎回、講義内容に関する小テスト（設問）をおこない、受講生が講義内容の理解を深められるようにしている。

到達目標

- 1.大学生としての基礎的な知識力として、社会調査の基本を身につけることができる。
- 2.社会調査を学ぶことを通じて、豊かな人間性と倫理性を身につけることができる。
- 3.社会調査の技法を学ぶことで、問題解決能力やコミュニケーション能力を身につけることができる。
- 4.社会調査を学ぶことで、他分野との連携に役立ち、学際的な視点を身につけることができる。
- 5.社会調査の技法を会得することで、社会福祉現場での応用・実践力を身につけることができる。■
- 6.社会調査の基礎を身につけることで、専門家としての倫理性を持って、社会福祉への貢献力を身につけることができる。

使用教材

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『社会福祉調査の基礎』中央法規出版。

参考文献

講義中、適宜指示する。

評価方法

小テスト（毎回、講義後に講義内容について数問のテスト（設問）をおこなう。遅刻は厳禁。）50%、学期末試験50%、合計100%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

各受講生は、小テストで講義の理解度を把握し、次回の講義時に返却された答案に関する解説を通じて、復習に役立て、現代社会と福祉を理解できるようになる。

オフィスアワー

火曜日5限・6限
1号館5階510研究室

メールアドレス（#→@）

adachi-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	はじめに、第1章 社会福祉調査の意義と目的 ・第1節社会福祉調査の意義と目的（1～6頁）・第2節 福祉サービスと社会福祉調査 （7～9頁）を解説する。講義に関する小テスト（設問）実施。	1,2,3,6	はじめに、第1章・第1節・第2節を読んでおくこと。	1.5h	はじめに、第1章・第1節・第2節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5h
2	講義に関する小テスト（設問）実施。第1章社会福祉調査の意義と目的・第3節 社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係 （10～14頁）・第4節 統計法 （15～20頁）を解説する。	1,2,3,6	第1章・第3節・第4節を読んでおくこと。	1.5h	第1章・第3節・第4節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	講義に関する小テスト（設問）実施。第2章 社会福祉における倫理と個人情報保護 ・第1節 社会福祉調査における倫理と個人情報保護 （21～26頁）を解説する。	1,2, 3,4, 5,6	第2章・第1節を読んでおくこと。	1.5h	第2章・第1節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5h
4	講義に関する小テスト（設問）実施。第3章 社会福祉調査のデザイン ・第1節 調査における考え方・論理 （29～34頁）・第2節 社会福祉調査のプロセス （35～40頁）を解説する。	1,2, 3,4, 5,6	第3章・第1節・第2節を読んでおくこと。	1.5h	第3章・第1節・第2節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5h
5	講義に関する小テスト（設問）実施。第3章社会福祉調査のデザイン・第3節 社会福祉調査の目的と対象 （41～46頁）・第4節 社会福祉調査でのデータ収集・分析 （47～54頁）を解説する。	1,2, 3,4, 5,6	第3章・第3節・第4節を読んでおくこと。	1.5h	第3章・第3節・第4節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5h
6	講義に関する小テスト（設問）実施。第4章 量的調査の方法 ・第1節 量的調査の概要 （55～62頁）・第2節 量的調査の種類と方法 （63～71頁）を解説する。	1,2, 3,4, 5,6	第4章・第1節・第2節を読んでおくこと。	1.5h	第4章・第1節・第2節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5h
7	講義に関する小テスト（設問）実施。第4章量的調査の方法・第3節 質問紙の作成方法と留意点 （72～86頁）を解説する。	2,3, 4,5, 6	第4章・第3節を読んでおくこと。	1.5h	第4章・第3節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5h
8	講義に関する小テスト（設問）実施。第4章量的調査の方法・第4節 質問紙の配布（配付）と回収 （87～93頁）を解説する。	2,3, 4,5, 6	第4章・第3節を読んでおくこと。	1.5h	第4章・第3節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5h
9	講義に関する小テスト（設問）実施。第4章量的調査の方法・第5節 量的調査の集計と分析 （94～128頁）を解説する。	2,3, 4,5, 6	第4章・第5節を読んでおくこと。	1.5h	第4章・第5節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5h
10	講義に関する小テスト（設問）実施。第5章 質的調査の方法 ・第1節 質的調査の概要と方法 （129～134頁）・第2節 質的調査のサンプリング （135～138頁）を解説する。	1,2, 3,4, 5,6	第5章・第1節・第2節を読んでおくこと。	1.5h	第5章・第1節・第2節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5h
11	講義に関する小テスト（設問）実施。第5章質的調査の方法・第3節 質的調査のデータ収集法 （139～154頁）を解説する。	1,2, 3,4, 5,6	第5章・第3節を読んでおくこと。	1.5h	第5章・第3節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5h
12	講義に関する小テスト（設問）実施。第5章質的調査の方法・第4節 質的調査における記録の方法と留意点 （155～165頁）を解説する。	1,2, 3,4, 5,6	第5章・第4節を読んでおくこと。	1.5h	第5章・第4節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5h
13	講義に関する小テスト（設問）実施。第5章質的調査の方法・第5節 質的調査のデータの分析方法 （166～198頁）を解説する。	1,2, 3,4, 5,6	第5章・第5節を読んでおくこと。	1.5h	第5章・第5節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5h
14	講義に関する小テスト（設問）実施。第6章 ソーシャルワークにおける評価 ・第1節 ソーシャルワークにおける評価の意義 （199～209頁）を解説する。	1,2, 3,4, 5,6	第6章・第1節を読んでおくこと。	1.5h	第6章・第1節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5h
15	講義に関する小テスト（設問）実施。第6章ソーシャルワークにおける評価・第2節 ソーシャルワ	1,2, 3,4,	第6章・第1節・第2節を読	3h	第6章・第1節・第2節の内容、提示された概	3h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	ークにおける評価対象（210～219頁）・第3節 ソーシャルワークにおける評価方法（220～229頁）を解説する。	5,6	んでおくこと。		念や技法などを理解しておくこと。	

合計時間（予習・復習）

↑

48h

備考

↑

小テスト（設問）と学期末試験については、対面授業と遠隔授業でやり方等が異なることがある。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



認知症の理解

MYカモクに追加

英文名：Study of Dementia

科目区分：専門導入科目

科目ナンバリング：SWI110

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

松沼 記代

科目に関連した実務経験

社会福祉士として、デイサービスセンターで3年6か月経験

社会福祉士及び管理者として、グループホームで1年間経験

社会福祉士として、大学在職中に介護予防教室の運営8年間経験

社会福祉法人理事長として、高齢者介護サービスの運営に11年間従事（現在）

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

近年増加する認知症に関する基礎知識やコミュニケーション及びケアの方法について学修する。福祉サービスに従事する者として、実践での対応方法や家族・地域市民への指導方法を修得する。

授業は、指定したテキストの中から重要な部分をテーマごとに抜粋し、介護現場やソーシャルワーク機関におけるケアや支援の方法について、実践例を示しながら教授する。

到達目標

- 1.認知症の定義や要因、症状等について説明できる。■
- 2.認知症状やBOSDのケアの方法について説明できる。■
- 3.認知症高齢者の思いや置かれている状況について説明できる。■
- 4.認知症の予防方法について説明できる。■

使用教材

「認知症の理解」(介護福祉士養成講座13介護福祉士養成講座編集委員会編集、中央法規、2022)を中心に進めるが、毎回レジメと資料を配布する。

評価方法

筆記試験（80％）、レポート（10％）、授業参加度（10％）で評価する。総合評価60％以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートにはコメントを付けて返却する。定期試験の前に出題の範囲や意図を提示する。

オフィスアワー

授業の前後の時間。質問や意見はメールからも、随時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

k-matsunuma#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	認知症に伴うところとからだの変化と日常生活（ビデオ“ボケなんか恐くない”視聴）■	1,2	認知症高齢者の人の特徴や現状について調べる。	1h	講義内容とビデオの感想をまとめる。到達目標、成績評価方法を確認する。	1h
2	認知症の定義と特徴■	1,3	テキスト第1章第1節-第3節を読んで、定義や特徴を把握する。	1h	授業範囲を復習し、内容を理解する。	1h
3	認知症の原因疾患と症状（アルツハイマー型認知症を中心に）■	1,3	テキスト第1章3節と2章第5節を読んで、認知症の原因疾患と症状について把握する。	1h	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1h
4	中核症状：記憶障害の理解とケアの原則■	1,2,3	テキスト第2章第1節を読んで、中核症状と記憶障害について把握する。	1h	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1h
5	中核症状：見当識障害の理解とケアの原則■	1,2,3	テキスト第2章第1節を読んで、見当識障害について把握する。	1h	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1h
6	中核症状：遂行機能障害等の理解とケアの原則■	2,3	テキスト第2章第1節を読んで、遂行機能障害や注意障害等について把握する。	1h	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1h
7	BPSD：心理症状の理解とケアの方法■	1,2,3	テキスト第2章第3節を読んで、心理症状の特徴とケアについて把握する。	1h	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	BPSD：行動症状の理解とケアの方法 ■	1,2,3	テキスト第2章第3節を読んで、行動症状の特徴とケアについて把握する。	1h	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1h
9	生活障害の理解とケアの原則 ■	1,2,4	テキスト第2章第2節を読んで、生活障害の特徴とケアの原則を把握する。	1h	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1h
10	認知症の原因疾患別症状・ケアの原則 ■	1,2	テキスト第2章第5節を読んで、概要を把握する。	1h	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1h
11	認知症ケアの実際－近年のケアの動向 ■	2,3	テキスト第4章を読んで、近年の認知症のアプローチの概要を把握する。	1h	ボランティア先や実習先でのケアのあり方と比較する。	1h
12	認知症の評価尺度とアセスメント ■	2,3	テキスト第2章第4節・第6節・第7節を読んで、概要を把握する。。	1h	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1h
13	施設職員と家族への支援 ■	2,3	テキスト第5章第1・2節を読んで、概要を把握する。	1h	施設職員や認知症の人の家族から話を聴いて、現状やニーズを理解する。	1h
14	認知症を取り巻く状況－ケアの歴史と地域生活支援 ■	4	テキスト第3・4・6章を読んで、認知症の概念の変遷や近年の施策について把握する。	1h	福祉専門職として認知症ケアや予防対策にどのように関わるか考える。	1h
15	まとめ	1,2,3,4	これまで学んだ認知症ケアの内容と課題について確認する。	1h	認知症の概要やケアの方法を実践で活かせるように整理する。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

予習・復習の時間については、試験前の学習で補填すること。

■：講師の実務経験や執筆した認知症に関する検証に基づく内容を示す。

印刷 

障害の理解

MYカモクに追加

英文名 : Methodology of People with Disabilities Support

科目区分 : 専門導入科目

科目ナンバリング : SWI111

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大塚 光彦

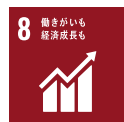
科目に関連した実務経験

- ・実務者として、県立身体障害者リハビリテーションセンター（旧称）、県立点字図書館、県立ふれあいスポーツプラザ、県立ゆうあいピック記念温水プールに勤務（経験）
- ・指導員（実習生担当・就労支援担当）として、作業所（就労支援B型）及び地域活動支援センターに勤務（経験）
- ・長野冬季パラリンピック日本代表アルペンスキーチーム技術スタッフとして参加（経験）
- ・日本代表スタッフとして、カナダ国際身体障害者スキー大会に参加（経験）
- ・身体障がい者野球「群馬アトム」チームとして「24時間テレビ」に出演（経験）
- ・高崎市スポーツ推進審議会公募委員（現在）

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



講義の目標

1.三障がい（身体・知的・精神）について■

- ①三障がいの定義・基本法を含めた基礎知識を習得する。
- ②三障がいを心理的・社会的側面から理解する。
- ③三障がいを多角的・多面的に捉えて理解する。

2.障がいの受容について■

- ①「後天性障がい」と「先天性障がい」の違いについて理解する。
- ②ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザイン等について現状と課題を理解し、共生社会の実現に向けての意識づけをする。

講義の実施方法

教本に基づき、三障がいの基礎的理解を深めることが出来るように、身体障がいに重点をおき、かつ知的障がい、精神障がいについても各2回の講義を行い、総理解を深め知識を習得出来るように進行します。

ゲストスピーカー（3名予定）の都合により、講義の順番に変更が生じる場合があります。なお、ゲストスピーカーは身体障がい（先天性・後天性）の方々（元パラリンピック選手等）をお呼びする予定です。

到達目標



- 1.総合的に三障がいを理解し、障がいの特性を説明できる。
- 2.三障がいに対する基本的な専門用語を理解し、種類・原因と特徴について説明できる。
- 3.「ゲストスピーカー」の講義内容を十分に理解し、積極的に質疑することにより、その障がいについて多角的・多面的に捉えて、総合的にミニレポートを書くことが出来る。
- 4.身体障がいを中心に三障がいの基礎的知識を深めることにより、障がいへの理解に繋げる。

使用教材



- ・公益財団法人 日本パラスポーツ協会[編]
改訂版 障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2020年改訂カリキュラム対応
- ・講義時に関係資料（PP補足資料等）及び新聞等関係記事のコピー等を配布

参考文献



- ・著者：栢森 良二 「サリドマイド」
- ・編著者：石川 准・長瀬 修 「障害学への招待」
- ・介護福祉士養成講座編集委員会 介護福祉養成講座14 障害の理解

評価方法



成績評価

- 1.講義毎及びミニレポート（C-learningの「レポート」に記述する方法）による評価（40%）
- 2.ゲストスピーカー（3回）ミニレポート（C-learningの「レポート」に記述する方法）による評価（30%）
- 3.筆記試験（30%）

その他の評価

実習や忌引き等による欠席は届け出（場合により要添付書類）を提出すれば出席扱いとします。

なお、15分以上の遅刻は欠席とみなします。

課題・評価に対するフィードバック方法



「授業ミニレポート」及び「アンケート」・「一言コメント」にある質問や意見については、次回の講義の中で随時取り上げて、学生にフィードバックします。

オフィスアワー



講義前後の教室及び非常勤講師控室で対応します。

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示します。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション他（シラバス等）・障がいの概念・障がいの定義について	1,2	障がいの概念・障がいの定義について確認する。	2h	講義内容・到達目標を確認し、障がいの概念・障がいの定義を理解する。	2h
2	身体の仕組みと障がいの理解（障がいの医学的側面の基礎的知識）について	1,2,4	教本（P54～57、P162・163）により、身体の仕組みにより医学的側面の基礎的知識を確認する。	2h	講義内容・到達目標を確認し、障がいに伴う機能の変化及び日常生活にどのような影響を与えているのか考え理解する。	2h
3	視覚障がい（点字含）の種類・原因と特徴について■	1,2,4	教本（P75～80）により、構造と機能を確認する。障がいの状態や原因となる疾患等を調べ、併せて日常生活での不便さ、注意すべき点、点字についても確認する。	2h	講義内容・到達目標を確認し、接し方やどのような支援が必要なのかを理解する。また点字についても理解する。	2h
4	知的障がい（発達障がい含）の種類・原因と特徴について	1,2,4	教本（P89～97）を判読し、基本的な考え方、診断基準等について確認する。（参考：P118～123）	2h	講義内容・到達目標等を確認し、知的障がいと発達障がいの相互関係を理解する。	2h
5	知的障がい・重度知的障がい者とそのあり方について	1,2,4	教本（P91・92）により、原因別分類・障害の程度を確認する。	2h	講義内容・到達目標等を確認し、特徴に応じた支援を理解する。	2h
6	切断・離断（大腿・上下肢等・義肢・装具含）について■	1,2,4	教本（P74・75・102・104～106）により、切断者の日常生活への影響、補装具等の特徴についても調べる。	2h	講義内容・到達目標等を確認し、装具の扱い方と日常生活の注意点を理解する。	2h
7	膝関節離断者（大腿義足使用）の実態について（後天性障がい・ゲストスピーカー）■	1,2,3,4	障がいのある人の心理的影響及び注意すべき点等について確認する。	2h	講義内容・到達目標等を確認し、障がいの受容について、また注意すべき点を理解する。	2h
8	聴覚・音声言語障がい（手話含）の種類・原因と特徴について■	1,2,4	教本（P81～84）を判読し、構造と働き、原因と特徴について確認する。また手話についても確認する。	2h	講義内容・到達目標等を確認し、接し方、注意すべき点について理解する。また手話についても理解する。	2h
9	催奇形性の原因と特徴について	1,2,4	サリドマイド薬害の原因と特徴、また現状と課題について調べる。	2h	講義内容・到達目標等を確認し、薬害について理解する。	2h
10	サリドマイド胎芽症について（先天性障がい・ゲストスピーカー）■	1,2,3,4	薬害当事者とその家族への支援について考える。	2h	講義内容・到達目標等を確認し、障がい受容での過程での支援、日常生活における支援について理解する。	2h
11	精神障がいの種類・原因・誘因、特殊性について（パラスポーツの効用）■	1,2,4	教本（P97～101）により、特殊性を確認する。（参考：P124～127、P216～219）	2h	講義内容・到達目標等を確認し、リハビリテーション・スポーツの効用を理解する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1 2	精神障がい（知的障がい含）の地域移行・就労支援への行政と関係機関との連携について ■	1,2,4	地域移行及び就労支援について行政と関係機関との連携について調べる。	2h	講義内容・到達目標等を確認し、地域移行・就労支援の現状と課題を理解する。	2h
1 3	脊椎損傷・脊髄損傷の種類・原因と特徴について	1,2,4	教本（P70～72）により、医学的側面の基礎的知識により脊椎・脊髄の損傷部位の違いについて調べる。	2h	講義内容・到達目標等を確認し、損傷部位により違いや注意すべき点を理解する。	2h
1 4	脊髄損傷者の実態について（後天性障がい・ゲストスピーカー） ■	1,2,3,4	後天性障がい者の社会生活・日常生活の不便さについて、また障がいが及ぼす心理的影響は何か、注意すべき点について確認する。	2h	講義内容・到達目標等を確認し、受傷後、どのようにして全てを克服して社会復帰したかの過程を理解する。	2h
1 5	その他の障がい（脳血管障がい・脳性麻痺・内部障がい等）の種類・原因と特徴について	1,2,4	教本（P72・73・P85～P88）により、脳血管障がい・脳原性麻痺・内部障がいについて日常生活等の注意点を確認する。	2h	講義内容・到達目標等を確認し、脳血管障がい・脳原性麻痺・内部障がいの日常生活の注意点や特徴を理解する。	2h

合計時間（予習・復習）

60h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

発達と老化の理解

MYカモクに追加

英文名 : Development and Aging

科目区分 : 専門導入科目

科目ナンバリング : SWI112

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

角野 善司

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①生涯にわたる心理・身体的機能の発達に伴う変化と、それを踏まえた援助に必要な基礎的知識を修得する。とりわけ、発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を修得することを目指す。

②授業期間全体を通じた授業の進め方：毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、取り組んでもらいたい。対面授業は、難解な箇所に関する追加的な解説に重点を置く。また、理解を深めるために必要に応じて視聴覚教材を活用する。授業後には、復習課題に取り組むとともに、授業での学修を基に考察を深め、小レポートを作成し、提出することを求める。

到達目標

- 1.主要な発達理論について説明できる。
- 2.生涯発達および各発達段階の概要と課題を説明できる。
- 3.老化が及ぼす心理的影響について説明できる。
- 4.高齢者の心理への対応を説明できる。

使用教材

^

介護福祉士養成講座編集委員会 「最新 介護福祉士養成講座 1 2 発達と老化の理解 第2版」 中央法規出版
2022年 2200円＋税

評価方法

^

毎回の課題・小レポート45%（3点×15回）、学期末筆記試験30%、学期末レポート25%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

毎回の課題・小レポートは授業時に、学期末筆記試験・レポートは事後に講評解説の機会を設ける。

オフィスアワー

^

初回授業時に告知するとともに、研究室ドアに掲出する（8号館405室）

メールアドレス（#→@）

^

zsumino#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	人間の成長と発達の基礎的理解（1）発達の概念と主要な理論	1	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。	1.5h	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末試験・レポートに向けた学修を始める。	1.5h
2	人間の成長と発達の基礎的理解（2）生涯発達	1,2	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5h	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末試験・レポートに向けた学修を重ねる。	1.5h
3	人間の成長と発達の基礎的理解（3）発達段階と発達課題	1,2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
4	人間の成長と発達の基礎的理解（4）胎児期・乳児期の発達	2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
5	人間の成長と発達の基礎的理解（5）幼児期の発達	2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
6	人間の成長と発達の基礎的理解（6）児童期の発達	2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
7	人間の成長と発達の基礎的理解（7）青年期の発達	2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	人間の成長と発達の基礎的理解 (8) 成人期の発達	2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
9	老年期の発達と成熟 (1) 老年期の定義	2,3,4	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
10	老年期の発達と成熟 (2) 老年期の発達課題	2,3,4	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
11	老化に伴うこととからだの変化と生活 (1) 老化に伴う心身の変化の特徴	2,3,4	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
12	老化に伴うこととからだの変化と生活 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響	2,3,4	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
13	老化に伴うこととからだの変化と生活 (3) 高齢者の心理 (1) 記憶・知能	2,3,4	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
14	老化に伴うこととからだの変化と生活 (4) 高齢者の心理 (2) パーソナリティと適応	2,3,4	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
15	高齢者の医療制度および保健医療職との連携	2,3,4	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h

合計時間 (予習・復習)

45h

備考

仮に諸事情により対面での学期末筆記試験の実施ができない場合には、成績評価にあたっての配点は以下のとおりとする：
毎回の課題・小レポート75% (5点×15回)、学期末レポート25%

印刷 

精神医学と精神医療 I

MYカモクに追加

英文名: Psychiatry I

科目区分: 専門導入科目

科目ナンバリング: SWI113

学年: 3年

開講期: 前期

選択・必修: 必修

単位数: 2単位

講義形態: 講義

学位授与方針との対応:

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

上原 徹

科目に関連した実務経験

精神科医として大学病院等で勤務経験35年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている

履修を必須とする資格

精神保健福祉士、介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

各回で国家試験形式の小テストを開示し、正解を教示する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学生が、支援専門職である社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士として必要となる、精神医学や精神医療に関する基本的な知識（成因、症状、診断、治療、経過、支援、動向）を身につけることができる。精神医療機関と治療構造について

習得し、チーム医療の視点を生かした援助方法を理解できる。精神保健医療福祉における関連機関の連繋と、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の役割を身につける。

②授業は、専門業者によるDVD視聴とポイント解説、パワーポイントファイル上映による解説、のハイブリッドで進める。授業の最後に理解度確認のためのC-Learningによる小テストを行う。休講や実習スケジュールにあわせた開講期間の調整等による補講実施に関しては、オンデマンド動画ファイルで代替える。

到達目標

^

- 1.精神機能や心理社会的問題の概要を説明できる
- 2.代表的な疾患や障害の基本的概要を理解し解説できる
- 3.精神科医療機関における治療構造や治療の内容特性を解説できる
- 4.精神障害を援助するために必要な精神保健福祉の知識を整理できる
- 5.チーム医療の担う専門職の役割と医療福祉連携を理解できる ■

使用教材

^

教科書は特に指定しない。DVD教材を視聴する。

参考文献

^

参考書は、精神保健福祉士養成講座第1巻「精神医学と精神医療」中央法規出版

評価方法

^

期末筆記試験90%、C-Learningによる小テスト提出10%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

専門職としての必要な課題をフィードバックする。必要に応じて、国家試験問題等の解説を行う。

オフィスアワー

^

月3 金3 研究室:1号館5階512

メールアドレス（#→@）

^

授業で提示する

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	精神医学や精神医療のイントロダクション（総論、歴史、診断分類、検査、動向）	1,2	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	0.5h	資料を用いて自習する。	2.5h
2	統合失調症	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
3	双極症（躁うつ病）	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
4	うつ病	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
5	不安症・強迫症など	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
6	摂食症特論	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	PTSDやストレスに関連する疾病	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
8	アルコールや物質依存症	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
9	睡眠障害	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
10	認知症	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
11	小児期の精神疾患	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
12	外因性・器質性・症状性疾患など	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
13	精神科の治療法や支援①	3,4	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
14	精神科の治療法や支援② ■	3,4,5	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
15	リハビリテーションと家族心理教育 ■	1,2,3,4,5	資料を用いて自習する。	2h	試験問題を復習する。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習・復習に活用できる映像教材やPDFなどを随時公開する。予習復習に関しては、試験前後の学習などで補完すること。不必要な私語や不適切な授業態度は、厳格に対処し、個別に減点する

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

現代の精神保健の課題と支援 I

MYカモクに追加

英文名 : Issues in Mental Health and Support System I

科目区分 : 専門導入科目

科目ナンバリング : SWI114

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

3 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

3 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

横澤 岳志

科目に関連した実務経験

精神保健福祉士として精神科病院及び併設する相談支援事業所に勤務（現在）

履修を必須とする資格

精神保健福祉士、介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

精神疾患が国民の5大疾病のひとつとして数えられる現代社会において、精神保健への取り組みがますます重要視されている。本講義では、精神保健福祉士を目指す学生が様々な精神保健についての基本的な知識を習得し、様々な課題解決に向けた実践の基礎となることを目指す。精神保健の概要や現代の精神保健分野の動向、基本的な考え方、精神保健の視点から見た家族や学校教育、勤労者の課題とアプローチなどを学ぶ。

講義は、教科書の重要項目をパワーポイントで整理しながら進めていく。

到達目標



- 1.精神保健の概要を理解する
- 2.現代の精神保健分野の動向と基本的考え方を理解する ■
- 3.家族に関連する精神保健の課題と支援について理解する ■
- 4.精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチについて理解する
- 5.精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチについて理解する

使用教材



最新・精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援（中央法規出版）

評価方法



授業態度を30%、定期試験を70%の比重で評価し、合計で60%以上を合格とする。なお、レポートにより評価に加点する場合あり。

課題・評価に対するフィードバック方法



定期試験後に解答を提示する。
レポートに対して、必要に応じてコメントを提示する。

オフィスアワー



質問等には授業の開始前もしくは終了後にも教室や講師控室で応じる。

メールアドレス（#→@）



tak.yoyo0120#gmail.com

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	精神保健の概要	1	教科書の第1章に目を通す	2h	精神保健の概要について理解する	2h
2	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方（精神保健の動向） ■	2	教科書の第2章第1節に目を通す	2h	精神医療の現状と課題、地域精神保健福祉活動について理解する	2h
3	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方（三つの対象、心的態度） ■	2	教科書の第2章第2節～第3節に目を通す	2h	精神保健活動の三つの対象と精神の健康に関する心的態度について理解する	2h
4	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方（生活と嗜癖） ■	2	教科書の第2章第4節に目を通す	2h	生活と嗜癖について理解する	2h
5	家族に関連する精神保健の課題と支援（家族関係における暴力、出産・育児） ■	3	教科書の第3章第1節～第2節に目を通す	2h	家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健について理解する	2h
6	家族に関連する精神保健の課題と支援（介護、社会的ひきこもり） ■	3	教科書の第3章第3節～第4節に目を通す	2h	介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健について理解する	2h
7	家族に関連する精神保健の課題と支援（家族関係の課題） ■	3	教科書の第3章第5節に目を通す	2h	家族関係の課題について理解する	2h
8	家族に関連する精神保健の課題と支援（グリーフケア）	3	教科書の第3章第6節に目を通す	2h	グリーフケアについて理解する	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	家族に関連する精神保健の課題と支援（精神保健支援を担う機関） ■	3	教科書の第3章第7節に目を通す	2h	精神保健支援を担う機関について理解する	2h
10	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ（学校教育における課題、教員の精神保健）	4	教科書の第4章第1節～第2節に目を通す	2h	学校教育における精神保健的課題と教員の精神保健について理解する	2h
11	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ（専門職と関係法規、スクールソーシャルワーカー）	4	教科書の第4章第3節～第4節に目を通す	2h	関与する専門職と関係法規、スクールソーシャルワーカーの役割について理解する	2h
12	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ（社会資源）	4	教科書の第4章第5節に目を通す	2h	学校精神保健にかかわる社会資源について理解する	2h
13	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ（労働環境、産業精神保健）	5	教科書の第5章第1節～第2節に目を通す	2h	現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策について理解する	2h
14	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ（職場のメンタルヘルス）	5	教科書の第5章第3節に目を通す	2h	職場のメンタルヘルスのための相談について理解する	2h
15	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ（問題解決のための機関および関係法規）	5	教科書の第5章第4節に目を通す	2h	職場内の問題を解決するための機関および関係法規について理解する	2h

合計時間（予習・復習）



60h

備考



質問等にはメールでも応じる（上記メールアドレスを参照）。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



ソーシャルワーク基礎講座

MYカモクに追加

英文名 : Introduction of Field Study in Social Work

科目区分 : 専門基幹科目

科目ナンバリング : SWC201

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 社会福祉コース必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

5 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

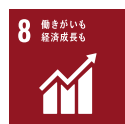
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

永田 理香、池田 朋広、根岸 洋人、一柳 大輔

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○	○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

- ・ソーシャルワークの知識と技術が、社会福祉士及び精神保健福祉士、介護福祉士の各資格において、どのように発揮されているのかを学び、専門職としての使命や役割、仕事内容の理解を深める。
- ・教員の専門性を活かした講義、資格を活かした卒業生の活躍、資格取得に向けた在校生の熱意、ボランティア活動を通じた現場体験など、多角的に学ぶことで、資格取得を目指す気持ちを育む。

②講義の実施方法

- ・前半は関連する教員がオムニバス形式で授業を行う。
- ・後半は社会福祉士及び精神保健福祉士、介護福祉士として働く卒業生のシンポジウム、資格取得のために勉学や実習に励

む在校生との交流（グループワーク）等による授業を行う。
・長期休暇を活かし、ボランティア活動に参加し、現場体験を行う。

到達目標 ^

- 1.社会福祉士及び精神保健福祉士、介護福祉士の国家資格取得を目指す者として、それぞれの専門職の使命や役割、仕事内容を説明できる。
2.大学での資格取得に向けた授業や実習、国家試験対策等の意義を理解し、卒業後の進路も含めて、自身の将来展望を模索することができる。

使用教材 ^

必要な教材は、毎回配布する

参考文献 ^

授業中に随時提示する

評価方法 ^

授業態度20%、レポートなどの課題80%

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

授業中に解説を行う。

オフィスアワー ^

備考参照

メールアドレス（#→@） ^

備考参照

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	前半授業オリエンテーション	1,2	シラバス等を読み、授業のねらいを知る	0.5h	オリエンテーション内容を振り返り、前半の授業の全体像を把握する。	1h
2	オムニバス講義① 教員の専門性を活かした講義（1）	1,2	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5h	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1h
3	オムニバス講義② 教員の専門性を活かした講義（2）	1,2	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5h	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1h
4	オムニバス講義③ 教員の専門性を活かした講義（3）	1,2	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5h	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1h
5	オムニバス講義④ 教員の専門性を活かした講義（4）	1,2	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5h	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1h
6	オムニバス講義⑤ 教員の専門性を活かした講義（5）	1,2	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5h	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1h
7	オムニバス講義⑥ 教員の専門性を活かした講義（6）	1,2	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5h	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	オムニバス講義⑦ 教員の専門性を活かした講義(7)	1,2	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5h	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1h
9	オムニバス講義⑧ 教員の専門性を活かした講義(8)	1,2	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5h	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1h
10	オムニバス講義⑨ 教員の専門性を活かした講義(9)	1,2	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5h	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1h
11	在校生が語る就職と大学生活①	1,2	福祉分野の就職先について概要を調べ、事前学習する	0.5h	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1h
12	在校生が語る就職と大学生活②	1,2	福祉分野の就職先について概要を調べ、事前学習する	0.5h	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1h
13	授業のまとめとボランティア活動オリエンテーション	1,2	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5h	オリエンテーションを踏まえて、ボランティア活動の調整を行う	1h
14	ボランティア活動による現場体験	1,2	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5h	ボランティア活動の内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1h
15	まとめ	1,2	これまでの学習を振り返る	0.5h	レポート課題に取り組む	1.5h

合計時間（予習・復習）



23h

備考



最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。
 不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、まずは担当教員にメールで連絡すること。
 担当教員のメールアドレスやオフィスアワーについては、オリエンテーションで配布して周知する。

印刷



ソーシャルワーク演習

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in Social Work Practice

科目区分 : 専門基幹科目

科目ナンバリング : SWC202

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

5 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

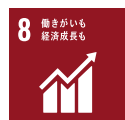
担当教員

永田 理香、根岸 洋人、一柳 大輔、戸澤 由美恵

履修を必須とする資格

社会福祉士、精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ・ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。
- ・グループダイナミックスを活用した授業展開により、基本的なコミュニケーション能力の習得を目指し、

援助関係形成に向けた基礎力を培う。
・学習プロセスを振り返ることにより、自己理解及び他者理解への視点を獲得することを目指す。

到達目標 ^

- 1.ソーシャルワーク演習が社会福祉士養成（科目）の中でどのような位置づけを持っているのかを理解し、学ぶ意義を説明できる。
- 2.ソーシャルワークの価値と倫理を実践的に理解することができる。
- 3.ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することができる。
- 4.ソーシャルワーク実践において求められるプレゼンテーションの技術を習得することができる。
- 5.演習を通して学んだ知識・技術を活用し、ソーシャルワークの展開過程を実践的に理解することができる。

使用教材 ^

演習に必要な教材は、毎回配布する

参考文献 ^

授業中に随時提示する

評価方法 ^

担当教員が、演習への取組状況（グループワークやロールプレイへの取組姿勢、提出物、課題作成等）により総合的に評価する。なお、演習課題に対し、主体的に判断し、積極的に参加・発言する姿勢を心がけること。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

学生からの意見や提出物等について、担当教員がコメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。履修者は返却された提出物等を必ず確認し、復習すること。

オフィスアワー ^

担当教員のオフィスアワーについては5階実習指導室前の掲示板に掲示する

メールアドレス（#→@） ^

授業時に教員から周知する

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション・レクリエーション（グループダイナミックスの活用）	1	シラバス等を読み、演習のねらいを知る	0.5h	配布資料等を基にオリエンテーション内容を確認し演習の全体像を把握する。グループメンバーとの関係性を理解し、今後の学びを考える。	1h
2	レクリエーション（グループダイナミックスの活用）	1,2,3,4,5	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1h
3	レクリエーション（グループダイナミックスの活用）	1,2,3,4,5	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1h
4	自己覚知（自己理解と他者理解）、ソーシャルワークの価値と倫理①	1,2,3,4,5	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	自己覚知（自己理解と他者理解）、ソーシャルワークの価値と倫理②	1,2,3,4,5	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1h
6	自己覚知（自己理解と他者理解）、ソーシャルワークの価値と倫理③	1,2,3,4,5	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1h
7	基本的なコミュニケーション技術と面接技術①	1,2,3,4,5	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1h
8	基本的なコミュニケーション技術と面接技術②	1,2,3,4,5	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1h
9	基本的なコミュニケーション技術と面接技術③	1,2,3,4,5	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1h
10	プレゼーション技術①（グループダイナミックスの活用含む）	1,2,3,4,5	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1h
11	プレゼーション技術②（グループダイナミックスの活用含む）	1,2,3,4,5	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1h
12	プレゼーション技術③（グループダイナミックスの活用含む）	1,2,3,4,5	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1h
13	ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見・インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・支援の終結と事後評価・アフターケア）と記録①	1,2,3,4,5	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1h
14	ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見・インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・支援の終結と事後評価・アフターケア）と記録②	1,2,3,4,5	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1h
15	ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見・インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・支援の終結と事後評価・アフターケア）と記録③	1,2,3,4,5	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	1h	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1h

合計時間（予習・復習）

23h



備考



グループワークを中心に行うので遅刻、欠席には注意すること。
最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。
不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、担当教員にメール連絡すること。

印刷



ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Social Work Practice (advanced) Ⅰ

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：SWC203

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

5 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

根岸 洋人、池田 朋広、永田 理香、一柳 大輔、戸澤 由美恵

履修を必須とする資格

社会福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化体系立てて行くことができる能力を習得する。社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。具体的な事例等（集団に対する事例を含む）を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。その方法として、①個別指導並びに集団指導を通して、実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと、②事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技

指導を行うことで、主体的に活用できることを目標とする。
授業期間全体を通じて、グループワークを中心に学ぶ。

到達目標

- 1.ソーシャルワーク演習が社会福祉士養成（科目）の中でどのような位置づけを持っているのかを理解し、学ぶ意義が説明できる。
- 2.事例等を題材にして、ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア）を理解し、活用できる。
- 3.事例等を題材にして、ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術（アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション）を理解し、活用できる。
- 4.演習全体を通して、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程，実践モデルとアプローチを理解し，活用できる。

使用教材

演習に必要な教材は、毎回配布する

参考文献

授業中に随時提示する

評価方法

担当教員が、演習への取組状況（グループワークやロールプレーイングへの取組姿勢、提出物、課題作成等）により総合的に評価する。なお、演習課題に対し、主体的に判断し、積極的に参加・発言する姿勢を心がけること。

課題・評価に対するフィードバック方法

学生からの意見や提出物等について、担当教員がコメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。履修者は返却された提出物等を必ず確認し、復習すること。

オフィスアワー

担当教員のオフィスアワーは5階実習指導室前の掲示板に掲示する

メールアドレス（#→@）

授業時に教員から周知する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、ガイダンス	1,4	シラバス等を読み、授業のねらいと手順を理解する	1h	配布資料等を元に、半期の全体像を理解する	1h
2	ソーシャルワーカーとしての課題や実践目標を探る	1,2,3,4	ソーシャルワーカーが所属する機関や施設について事前学習を行う	0.5h	演習から学んだことをレポートにまとめて提出する	1h
3	地域福祉の基盤整備と開発① 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント	1,2,3,4	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
4	地域福祉の基盤整備と開発② 社会資源の活用・調整・開発、組織化	1,2,3,4	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料や演習を振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
5	地域福祉の基盤整備と開発③ 地域福祉の計画、サービスの評価	1,2,3,4	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			解する		する内容を抽出・整理する	
6	チームアプローチ・ネゴシエーション①	1,2,3,4	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
7	チームアプローチ・ネゴシエーション②	1,2,3,4	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
8	チームアプローチ・ネゴシエーション③	1,2,3,4	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
9	スーパービジョン・ソーシャルアクション①	1,2,3,4	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
10	スーパービジョン・ソーシャルアクション②	1,2,3,4	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
11	スーパービジョン・ソーシャルアクション③	1,2,3,4	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
12	ファシリテーション・ネットワーキング①	1,2,3,4	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
13	ファシリテーション・ネットワーキング②	1,2,3,4	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
14	コーディネーション・プレゼンテーション	1,2,3,4	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
15	まとめ、ガイダンス	1,2,3,4	配布資料等を読み、半期の内容・全体像を再確認する	0.5h	自己の成長や変化、課題を自己評価する	1h

合計時間（予習・復習）

23h

備考

最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。
 不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、まずは担当教員にメールで連絡してください。
 担当教員のオフィスアワーについては5階実習指導室前の掲示板に掲示します。

印刷 

ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Social Work Practice (advanced) Ⅱ

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：SWC204

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

5 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

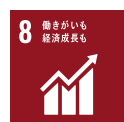
担当教員

根岸 洋人、池田 朋広、永田 理香、一柳 大輔

履修を必須とする資格

社会福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化体系立てて行くことができる能力を習得する。社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。具体的な事例等（集団に対する事例を含む）を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。その方法として、①個別指導並びに集団指導を通して、実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと、②事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技

指導を行うことで、主体的に活用できることを目標とする。
授業期間全体を通じて、グループワークを中心に学ぶ。

- 到達目標**
- 1.取り上げる事例等において、具体的なソーシャルワークの場面及び過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア）を説明できる。
 - 2.具体的なソーシャルワークの場面及び過程で、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションを含めた各技術を理解し、活用できる。
 - 3.支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解し、活用できる。
 - 4.ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に説明できる。
 - 5.個人と専門職との価値観の違いについて考察し、自己の成長や変化、課題を明確化することができる

使用教材

演習に必要な教材は、毎回配布する

参考文献

授業中に随時提示する

評価方法

演習への取組状況（事例シートの作成，事例の発表・ディスカッション，提出物，課題作成等）により総合的に評価する。
なお，演習への参加姿勢やゼミへの貢献度も評価の要素として想定している。

課題・評価に対するフィードバック方法

学生からの意見や提出物等について、担当教員がコメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。履修者は返却された提出物等を必ず確認し、復習すること。

オフィスアワー

担当教員のオフィスアワーは5階実習指導室前の掲示板に掲示する

メールアドレス（#→@）

授業時に教員から周知する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、ソーシャルワーク演習における事例検討の意味と方法	1,2,3,4	シラバス等を読み，事例検討の内容を理解する。	0.5h	配布資料を元に、半期の全体像を理解する。	1h
2	事例検討（ゲストスピーカー：高齢者分野等）	1,2,3,4	配布資料を読み，ゲストスピーカーの職場での仕事と事例をイメージする。	0.5h	事例を振り返り、ソーシャルワークの場面及び過程を整理する	1h
3	事例検討（認知症）による総合的かつ包括的な支援の習得	1,2,3,4	配布資料をもとに、複合的な課題についてアセスメントを行う	0.5h	事例検討で学んだことを振り返り、実習で活かしていくことをまとめる	1h
4	事例検討（ゲストスピーカー：障害分野）	1,2,3,4	配布資料を読み，ゲストスピーカーの職場での仕事と事例をイメージする。	0.5h	事例を振り返り、ソーシャルワークの場面及び過程を整理する	1h
5	事例検討（ひきこもり，虐待）による総合的かつ包括的な支援の習得	1,2,3,4	配布資料をもとに、複合的な課題についてアセスメントを行う	0.5h	事例検討で学んだことを振り返り、実習で活かしていくことをまとめる	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	事例検討（ゲストスピーカー：児童分野）	1,2,3,4	配布資料を読み、ゲストスピーカーの職場での仕事と事例をイメージする。	0.5h	事例を振り返り、ソーシャルワークの場面及び過程を整理する	1h
7	事例検討（虐待、貧困）による総合的かつ包括的な支援の習得	1,2,3,4	配布資料をもとに、複合的な課題についてアセスメントを行う	0.5h	事例検討で学んだことを振り返り、実習で活かしていくことをまとめる	1h
8	事例検討（ゲストスピーカー：社会福祉協議会分野）	1,2,3,4	配布資料を読み、ゲストスピーカーの職場での仕事と事例をイメージする。	0.5h	事例を振り返り、ソーシャルワークの場面及び過程を整理する	1h
9	事例検討（災害時、その他の危機状態にある事例）による総合的かつ包括的な支援の習得	1,2,3,4	配布資料をもとに、複合的な課題についてアセスメントを行う	0.5h	事例検討で学んだことを振り返り、実習で活かしていくことをまとめる	1h
10	事例検討（ゲストスピーカー：医療分野）	1,2,3,4	配布資料を読み、ゲストスピーカーの職場での仕事と事例をイメージする。	0.5h	事例を振り返り、ソーシャルワークの場面及び過程を整理する	1h
11	事例検討（終末期ケア）による総合的かつ包括的な支援の習得	1,2,3,4	配布資料をもとに、複合的な課題についてアセスメントを行う	0.5h	事例検討で学んだことを振り返り、実習で活かしていくことをまとめる	1h
12	事例検討（ゲストスピーカー：地域包括支援センター分野）	1,2,3,4,5	配布資料を読み、ゲストスピーカーの職場での仕事と事例をイメージする。	0.5h	事例を振り返り、ソーシャルワークの場面及び過程を整理する	1h
13	事例検討（終末期ケア）による総合的かつ包括的な支援の習得	1,2,3,4,5	配布資料をもとに、複合的な課題についてアセスメントを行う	0.5h	事例検討で学んだことを振り返り、実習で活かしていくことをまとめる	1h
14	ソーシャルワーク実習Ⅱ実習報告会参加	1,2,3,4,5	配布資料を読み、実習先施設の概要等を調べる	0.5h	実習報告会で学んだことを振り返り、レポートを提出する	1h
15	まとめ、オリエンテーション	1,2,3,4,5	半期の事例検討の内容を振り返る。	1h	社会福祉士の実践的な支援を理解し、実習時に活用できるようまとめる	1h

合計時間（予習・復習）

23h

備考

最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完してください。
 不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、まずは担当教員にメールで連絡してください。
 担当教員のオフィスアワーについては5階実習指導室前の掲示板に掲示します。

印刷 

ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Social Work Practice (advanced) Ⅲ

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：SWC205

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

5 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

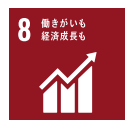
担当教員

青木 尚人、石坂 公俊、大川 健次郎、加藤 大輔、檜府 憲太

履修を必須とする資格

社会福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化体系立てて行くことができる能力を習得する。具体的な事例等（集団に対する事例を含む。）を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。その方法として①個別指導並びに集団指導を通して、実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと、②事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技指導を行うこと、③地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、実技指導を行うことで、主体的に活用できることを目標とする。

本科目は実習指導ゼミと並行して進める。実習計画書づくりと連動していることに留意すること。実習指導ゼミと同じメンバーで進める。

到達目標

- 1.社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を持つことができる。
- 2.支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解することができる。
- 3.地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解することができる。
- 4.ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象、展開過程、実践モデル、アプローチ、様々な実践スキル（アウトリーチ、ネットワーキング、**コーディネート**、ネゴシエーション、ファシリテーション、**プレゼンテーション**、ソーシャルアクション等）について実践的に理解することができる。

使用教材

演習に必要な教材は、毎回配布する

参考文献

授業中に随時提示する

評価方法

担当教員が、出欠や演習への取組状況（グループワークやロールプレイへの取組姿勢、提出物、課題作成等）により総合的に評価する。なお、演習課題に対し、主体的に判断し、積極的に参加・発言する姿勢を心がけること。

課題・評価に対するフィードバック方法

学生からの意見や提出物等について、担当教員がコメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。履修者は返却された提出物等を必ず確認し、復習すること。

オフィスアワー

授業時に教員から周知する

メールアドレス（#→@）

授業時に教員から周知する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1,2,3,4	シラバス等を読み、授業のねらいと手順を理解する	1h	配布資料等を元に、半期の全体像を理解する	1h
2	地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握①）	1,2,3,4	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
3	地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握②）	1,2,3,4	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
4	地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例（地域アセスメント①）	1,2,3,4	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
5	地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例（地域アセスメント②）	1,2,3,4	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
6	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（地域福祉の計画①）	1,2,3,4	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（地域福祉の計画②）	1,2,3,4	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
8	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（組織化①）	1,2,3,4	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
9	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（組織化②）	1,2,3,4	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
10	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（社会資源の活用・調整・開発①）	1,2,3,4	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
11	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（社会資源の活用・調整・開発②）	1,2,3,4	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
12	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（サービスの評価①）	1,2,3,4	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
13	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（サービスの評価②）	1,2,3,4	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1h
14	ソーシャルワークの視点	1,2,3,4	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5h	グループ討議を元に振り返り、個人と専門職との価値観の違いについて考察する。	1h
15	まとめ	1,2,3,4	配布資料等を読み、半期の内容・全体像を再確認する	0.5h	ゼミのメンバーと行った振り返りで、半期の学びを整理する。自己の成長や変化、社会福祉士としての課題を自己評価する。	1h

合計時間（予習・復習）

23h

備考

最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。
不明な点、疑問点、連絡事項等がある場合は、担当教員にメール等で連絡すること。

印刷 

ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Social Work Practice (advanced) Ⅳ

科目区分：専門基幹科目

科目ナンバリング：SWC206

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

5 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

青木 尚人、石坂 公俊、大川 健次郎、加藤 大輔、檜府 憲太

履修を必須とする資格

社会福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。その方法として、**ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行うこととする。**また、社会福祉士として、ソーシャルワークの価値と倫理、専門性の確立、卒業後のキャリア像形成の一助となるように展開する。

②本科目は実習指導ゼミと並行して進める。実習計画書づくりと連動していることに留意すること。実習指導ゼミと同じメンバーで進める。

到達目標

- 1.ソーシャルワーク実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解することができる。
- 2.スーパービジョンを受けることで体験的に理解し、実践の質の向上を図ることができる。
- 3.社会福祉士としての価値と倫理を自分自身の中で確立することができる

使用教材

↑

演習に必要な教材は、毎回配布する

参考文献

↑

授業中に随時提示する

評価方法

↑

担当教員が、出欠や演習への取組状況（グループワークやロールプレイへの取組姿勢、提出物、課題作成等）により総合的に評価する。なお、演習課題に対し、主体的に判断し、積極的に参加・発言する姿勢を心がけること。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

学生からの意見や提出物等について、担当教員がコメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。履修者は返却された提出物等を必ず確認し、復習すること。

オフィスアワー

↑

授業時に教員から周知する

メールアドレス（#→@）

↑

授業時に教員から周知する

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1,2,3	実習ノート等の必要資料を整理し揃え、その実践内容を振り返る	1h	事例研究、事例検討、スーパービジョンのルールを確認する	1h
2	ソーシャルワーク実習の振り返り	1,2	実習経験をもとに、ソーシャルワーク演習・ソーシャルワーク演習（専門）で学んだ内容と関連付けて考える	1h	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1h
3	事例研究、事例検討、スーパービジョン	1,2,3	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1h	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1h
4	事例研究、事例検討、スーパービジョン	1,2,3	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1h	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1h
5	事例研究、事例検討、スーパービジョン	1,2,3	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1h	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1h
6	事例研究、事例検討、スーパービジョン	1,2,3	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1h	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1h
7	事例研究、事例検討、スーパービジョン	1,2,3	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1h	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1h
8	事例研究、事例検討、スーパービジョン	1,2,3	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、	1h	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	パービジョン		アプローチ等を確認しておく			
9	事例研究、事例検討、スーパービジョン	1,2,3	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1h	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1h
10	事例研究、事例検討、スーパービジョン	1,2,3	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1h	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1h
11	事例研究、事例検討、スーパービジョン	1,2,3	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1h	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1h
12	事例研究、事例検討、スーパービジョン	1,2,3	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1h	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1h
13	事例研究、事例検討、スーパービジョン	1,2,3	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1h	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1h
14	事例研究、事例検討、スーパービジョン	1,2,3	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1h	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1h
15	まとめ	1,2,3	これまでに発表された資料やグループ討議、スーパービジョンの内容をまとめる	1h	社会福祉士として必要な価値と倫理、専門性、将来像について自分自身の経験と重ねて考える	1h

合計時間（予習・復習）



30h

備考



最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完してください。
不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、まずは担当教員にメール等で連絡すること。

印刷

特別講座 I

MYカモクに追加

英文名: Special Lectureship I

科目区分: 専門基幹科目

科目ナンバリング: SWC207

学年: 4年

開講期: 前期

選択・必修: 必修

単位数: 1単位

講義形態: 演習

学位授与方針との対応:

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

5 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

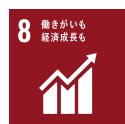
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

学科教員

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①福祉・介護ニーズは多様化・複雑化しており、質の高いサービスを確保するためには、従事者の確保と共に、専門性の向上を図ることが求められてきている。そこで本科目では、高い倫理性に基づき福祉社会の発展に積極的に関わることができる専門職の育成を目指し、福祉実践に活かせる知識・技術の体系的理解及び応用力の形成を目的とする。

②段階的に設定した課題への取り組みを中心に学習を進める。単元の終わりには小テスト、期末には総合試験を行い、学習課題の定着度を測定する。

到達目標

- 1.福祉・介護ニーズの多様化・複雑化に伴い求められる福祉の専門性について説明することができる。
- 2.福祉専門職に求められる価値・倫理に基づき、利用者理解の視点を言語化することができる。
- 3.対人援助に関する理論と実践を統合し、福祉現場で応用する力を身につけることができる。

使用教材

適宜参考資料等を配布する。

参考文献

適宜参考資料等を配布する。

評価方法

定期試験60%、課題提出40%で評価する。総合評価60%以上で合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題については、担当教員が内容を確認しフィードバックを行なう。返却された課題は必ず復習を行なうこと。

オフィスアワー

授業時にアナウンスする。

メールアドレス（#→@）

授業時にアナウンスする。

授業計画表

アクティブラーニングの手法を用い、現在の福祉専門職に求められる能力について多面的な考察を行なう。また、学生が学習過程を省察してまとめるプロセスを通して、将来に向けた自己の課題を明確化できるよう支援する。

【予習】学習課題における重要語句を調べ、考察の視点を明確化する。

【予習時間】 毎1.5h

【復習】学習過程を省察し、自己の課題を明確化する。

【復習時間】 毎1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習・復習については、試験前の学習で補完すること。

オンラインで実施する場合は、別途Cラーニング等で周知する。

印刷



特別講座Ⅱ

MYカモクに追加

英文名: Special Lectureship Ⅱ

科目区分: 専門基幹科目

科目ナンバリング: SWC208

学年: 4年

開講期: 後期

選択・必修: 必修

単位数: 1単位

講義形態: 演習

学位授与方針との対応:

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

5 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

1 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

学科教員

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL(課題 解決型学 習)	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

福祉・介護ニーズは多様化・複雑化しており、質の高いサービスを確保するためには、従事者の確保と共に、専門性の向上を図ることが求められてきている。そこで本科目では、高い倫理性に基づき福祉社会の発展に積極的に関わることができる専門職の育成を目指し、福祉実践に活かせる知識・技術の体系的理解及び応用力の形成を目的とする。

段階的に設定した課題への取り組みを中心に学習を進める。単元の終わりには小テスト、期末には総合試験を行い、学習課題の定着度を測定する。

到達目標

- 1.福祉専門職としてのキャリアを主体的にデザインできる力を身につける。
- 2.国家資格取得の意味とキャリア形成との関わりについて説明することができる。
- 3.福祉専門職に求められる社会人基礎力について説明することができる。

使用教材

適宜参考資料等を配布する。

参考文献

適宜参考資料等を配布する。

評価方法

定期試験60%、課題提出40%で評価する。総合評価60%以上で合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題については、担当教員が内容を確認しフィードバックを行なう。返却された課題は必ず復習を行なうこと。

オフィスアワー

授業時にアナウンスする。

メールアドレス（#→@）

授業時にアナウンスする。

授業計画表

アクティブラーニングの手法を用い、現在の福祉専門職に求められる能力について多面的な考察を行なう。また、学生が学習過程を省察してまとめるプロセスを通して、将来に向けた自己の課題を明確化できるよう支援する。

【予習】学習課題における重要語句を調べ、考察の視点を明確化する。

【予習時間】 毎1.5h

【復習】学習過程を省察し、自己の課題を明確化する。

【復習時間】 毎1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習・復習については、試験前の学習で補完すること。

オンラインで実施する場合は、別途Cラーニング等で周知する。

印刷



社会保障 I

MYカモクに追加

英文名 : Social Security I

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWS301

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

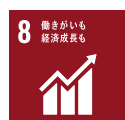
担当教員

石坂 公俊

履修を必須とする資格

社会福祉士、精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

1. 社会保障の概念や理念について理解する。
2. 現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。
3. 社会保障制度の財政について理解する。
4. 社会保障制度の体系と概要について理解する。（公的年金制度・医療保険制度）

5.社会福祉士・精神保健福祉士等の業務を遂行するのに必要な社会保障制度の知識の修得を図る。
基本的に講義形式で行うが、講義の中ではVTR等も援用する。

到達目標 ^

- 1.社会保障制度の概要を他の制度と関連付けて有機的に理解できる。
- 2.社会保障関連項目の財源構成等を諸外国の比較的視点を併せて理解できる。
- 3.公的年金制度を理解できる。
- 4.医療保険制度を理解できる。

使用教材 ^

『社会保障』中央法規出版

参考文献 ^

特記事項なし

評価方法 ^

学修意欲（10％），リアクションペーパー（10％），中間試験（30％），期末試験（50％）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

授業時に実施する国家試験過去問題は解説を行う
提出されたリアクションペーパーに対してコメントを付けて返却する

オフィスアワー ^

水曜日4時限
質問はメールでも受け付ける。
（1号館5階503研究室）

メールアドレス（#→@） ^

kimi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	シラバスを読み、講義目標、到達目標、講義計画などを理解する。	1.5h	オリエンテーションで説明した講義目標、到達目標、講義計画、成績評価方法などを確認する。	1h
2	現代社会と社会保障	1,2	テキスト第1章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
3	社会保障の概念や対象およびその理念①	1,2	テキスト第2章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
4	社会保障の概念や対象およびその理念②	1,2	テキスト第2章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
5	社会保障の財政	1,2	テキスト第3章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
6	社会保障の概要（中間まとめ）	1,2	これまで配付した資料を精読し、要点をまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
7	年金保険制度①沿革と概要	3	テキスト第5章第3節を精読し、疑問点、確認したい事項	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			などをまとめておく。			
8	年金保険制度②国民年金制度と厚生年金制度	3	テキスト第5章第3節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
9	年金保険制度③年金保険制度をめぐる諸動向	3	テキスト第5章第3節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
10	年金保険制度④年金制度まとめ	3	これまで配付した資料を精読し、要点をまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
11	医療保険制度①医療保険制度の沿革と概要	4	テキスト第5章第1節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
12	医療保険制度②健康保険制度と国民健康保険制度	4	テキスト第5章第1節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
13	医療保険制度③国民医療費と医療をめぐる動向	4	テキスト第5章第1節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
14	医療保険制度④医療保険制度まとめ	1,2,4	これまで配付した資料を精読し、要点をまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
15	講義のまとめ、試験対策など	1,2,3,4	これまでの学修内容を整理し、疑問点、確認したいことなどをまとめておく。	1.5h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。定期テストの準備を行う。	1.5h

合計時間（予習・復習）

38h

備考

指定した教科書の該当頁は事前に通読しておくこと。またリアクションペーパーを課すことがあるが、提出されたものを受講者で情報共有するケースもあるのでそのつもりで提出すること。

予習・復習については、試験前の学習で補完すること。

印刷 

社会保障Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Social SecurityⅡ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWS302

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

常数 英昭

科目に関連した実務経験

大田区（東京都）に36年間勤務（地方公務員）。その間、福祉事務所にて生活保護ケースワーカー・面接員・査察指導員、また、老人福祉指導主事、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司、児童福祉担当に従事。また、介護保険課、福祉部管理課（民生委員・児童委員担当）、国民健康保険課に従事。現在、大田区生活福祉課にて生活福祉業務支援アドバイザーとして勤務（会計年度任用職員）。

履修を必須とする資格

社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○								○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業で扱う社会保障の現在の課題について記載がある新聞記事等を各自取り上げて、その記事についての自身の見方、考察をレポートする。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



- ①1. 社会保障の概念や理念について理解する。
2. 現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。
3. 社会保障制度の財政について理解する。
4. 社会保障制度の体系と概要について理解する。（介護保険制度・労災保険制度、雇用保険制度、公的扶助制度、社会福祉制度）
5. 社会福祉士・精神保健福祉士等の業務を遂行するのに必要な社会保障制度の知識の修得を図る。
②基本的に講義形式で行うが、講義の中ではVTR等も援用する。

到達目標



1. 社会保障制度の概要を他の制度と関連付けて有機的に理解できる。
2. 社会保障関連項目の財源構成等を諸外国の比較の視点を併せて理解できる。
3. 介護保険制度を理解できる。
4. 労災保険制度を理解できる。
5. 雇用保険制度を理解できる。
6. 公的扶助（生活保護、社会手当）、生活困窮者自立支援制度を理解できる。
7. 社会福祉制度の概要を理解できる。

使用教材



一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 7 社会保障 第2版 中央法規出版 2025年1月1日発行 2025年1月1日発行の第2版を用意すること

参考文献



授業にて適宜紹介する。

評価方法



リアクションペーパー（10%）、課題（レポートなど）（20%）、期末試験（70%）

課題・評価に対するフィードバック方法



課題は、提出期限後に授業内にて解説を行う。
期末試験は、試験終了後に模範解答・出題意図を記載した解説を配布する。

オフィスアワー



初回授業時に提示する

メールアドレス（#→@）



初回授業時に提示する

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション／憲法第25条の生存権保障 社会保障制度の体系	1	シラバスを読み、講義目標、到達目標、講義計画などを理解する。	1. 5h	ガイダンスで説明した内容を確認する。 憲法第25条の生存権保障の意義を理解する。 社会保障制度の体系を整理してまとめる。	1h
2	保険の成り立ちと意義 社会扶助と社会保険の違いと財	1,2	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1h	保険の仕組みを理解する。 財源としての公費（税）と保険料の違いを理解する。 民間保険の種類についてまとめる。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	政 社会保険と民間保険の違いと現状					
3	介護保険制度（その1）	1,2	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1h	介護保険制度の沿革と概要をまとめる。	1.5h
4	介護保険制度（その2）	1,2	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1h	介護保険制度の仕組みを理解してまとめる。地域包括支援センターの役割を理解する。	1.5h
5	労働者災害補償保険制度	1,2	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1h	労災保険制度の概要をまとめて理解する。	1.5h
6	雇用保険制度	1,2	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1h	雇用保険制度の概要をまとめて理解する。	1.5h
7	公的扶助 生活保護制度（その1）	3	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1h	公的扶助の意義を理解してまとめる。セーフティーネットとしての生活保護制度の意義と仕組みをまとめて理解する。	1.5h
8	生活保護制度（その2） 生活困窮者自立支援制度	3	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1h	生活保護の現状と課題をまとめて理解する。生活困窮者自立支援制度の成り立ちと仕組み、課題を理解してまとめる。	1.5h
9	社会手当（児童手当・児童扶養手当・障害児者に対する社会手当等）	3	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1h	社会保障全体の中で社会手当制度の意義をまとめる。それぞれの社会手当制度の特徴を理解する。	1.5h
10	社会福祉制度の概要 高齢者福祉制度	3	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1h	社会福祉制度全体の概要を理解してまとめる。高齢者福祉制度の概要をまとめて理解する。	1.5h
11	障害者福祉制度	4	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1h	障害者福祉制度の概要をまとめて理解する。	1.5h
12	児童福祉 家庭福祉 ひとり親福祉 女性福祉	4	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1h	児童福祉、家庭福祉、ひとり親福祉、女性福祉の概要をまとめて理解する。	1.5h
13	諸外国の社会保障 国際比較	4	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1h	各国の特徴と共通点、相違点をまとめる。各国の教科書に挙げた諸国の歴史的背景と社会保障政策のつながりを整理する。各国の人口構成の変化、国民負担率、社会支出、社会保障給付の構成の違いを整理してまとめる。	1.5h
14	社会保障の国際化 講義のまとめ（その1）	1, 2,4	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。疑問点を授業中またはリアクションペーパーで質問する。	1h	人の国際移動と社会保障、社会保障の国際化対応について理解してまとめる。授業全体の内容を整理してまとめる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1 5	講義のまとめ (その2) 試験範囲など	1, 2, 3,4	授業全体の内容を整理してまとめる。	1. 5h	第14回で質問した内容の回答を理解してまとめる。 定期試験に向けて各回のポイントを再確認して、整理してまとめる。	1. 5h

合計時間（予習・復習）



38h

備考



指定した教科書の該当頁は事前に通読しておくこと。
授業で毎回、レジュメと資料を配付します。
リアクションペーパー（授業アンケート）は毎回必ず提出すること。提出された内容を受講者で情報共有することがあるので、その前提で提出すること。
予習・復習については、試験前の学習で補完すること。

印刷



地域福祉と包括的支援体制 I

MYカモクに追加

英文名 : Community care and Comprehensive support system I

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWS303

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

一柳 大輔

科目に関連した実務経験

地域福祉の実践主体である社会福祉協議会に勤務し、地区社会福祉協議会やボランティアセンター、社会福祉法人・施設、民生委員・児童委員などの支援業務に従事していました。またコミュニティソーシャルワーカーとして個別支援、地域支援や生活支援体制整備事業を担っていました。現在、行政の福祉計画づくりや包括的支援体制整備事業など実務に携わっています。

履修を必須とする資格

社会福祉士、精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



地域福祉の推進は、今後の社会福祉実践や政策を展開するうえで基調的なものであり、メインストリームとなっている。この講義では、地域福祉の理念や歴史、基盤となる行政組織や計画、地域生活課題の現状、地域共生社会に向けた包括的支援体制、災害時支援体制などを学ぶ。日々変化する地域福祉の実相をリアルに捉え、将来のソーシャルワーカーとして地域福祉を活用できる力を養う。さらに、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に合格する学習水準を獲得することを目標とする。

毎回の授業は、前回の振り返りまたは地域福祉に関する映像資料の視聴、テーマに基づく講義、ディスカッション、小テストまたは小レポート、次週の予定、という流れで進める。

到達目標



- 1.地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について説明できる。■
- 2.地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を説明できる。■
- 3.地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について説明できる。■
- 4.地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を説明できる。■
- 5.包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について説明できる。■
- 6.地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を説明できる。■

使用教材



「最新社会福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制」 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規出版） ISBN 978-4-8058-8236-8

参考文献



その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付する。

評価方法



成績評価

①期末試験による評価70%

②毎回の授業時に課す小テストまたはレポート等による評価30%

その他の評価

①授業開講数の2/3以上を出席することにより、成績の評価対象とする。

②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出（要添付書類）を提出すれば出席扱いとする。なお、15分以上の遅刻は欠席とみなす。

課題・評価に対するフィードバック方法



質問や相談についてはClearingで適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。

オフィスアワー



質問や相談はClearing等で随時受け付ける。

メールアドレス（#→@）



hitotsuyanagi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	地域社会の概念と理論 【ねらい】 地域福祉の基本的な考え方を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	2h	講義を振り返り、自身で考察する。質問や意見をc-learning上で提出する。	1.5 h
2	地域社会の変化 ■ 【ねらい】 地域社会の変化を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	1h	講義を振り返り、自身で考察する。質問や意見をc-learning上で提出する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ ■ 【ねらい】 多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズを理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	1h	講義を振り返り、自身で考察する。質問や意見をc-learning上で提出する。	1.5h
4	地域福祉と社会的孤立 ■ 【ねらい】 地域福祉と社会的孤立を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	2.5h	講義を振り返り、自身で考察する。質問や意見をc-learning上で提出する。	1.5h
5	地域共生社会の実現に向けた包括支援体制 地域包括ケアシステム ■ 【ねらい】 地域共生社会の実現に向けた包括支援体制を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	1h	講義を振り返り、自身で考察する。質問や意見をc-learning上で提出する。	1.5h
6	生活困窮者自立支援の考え方 ■ 【ねらい】 生活困窮者自立支援を通して地域社会の変化と多様性・複雑化した地域生活課題を知る。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	3h	講義を振り返り、自身で考察する。質問や意見をc-learning上で提出する。	1.5h
7	包括的支援体制・地域共生社会の構築とは ■ 【ねらい】 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	1h	講義を振り返り、自身で考察する。質問や意見をc-learning上で提出する。	1.5h
8	地域共生社会の実現に向けた各種施策 ■ 【ねらい】 地域共生社会の実現に向けた各種施策を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	3h	講義を振り返り、自身で考察する。質問や意見をc-learning上で提出する。	1.5h
9	地域福祉ガバナンス ■ 【ねらい】 地域福祉ガバナンスを理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	2h	講義を振り返り、自身で考察する。質問や意見をc-learning上で提出する。	1.5h
10	多機関協働を促進する仕組み ■ 【ねらい】 地域共生の実現に向けた多機関協働を促進する仕組みを理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	2h	講義を振り返り、自身で考察する。質問や意見をc-learning上で提出する。	1.5h
11	多職種連携・福祉以外の分野との機関協働の実際 ■ 【ねらい】 多職種連携・福祉以外の分野との機関協働の実際を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	2h	講義を振り返り、自身で考察する。質問や意見をc-learning上で提出する。	1.5h
12	地域福祉の概念と理論 【ねらい】 地域福祉の概念と理論を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	1h	講義を振り返り、自身で考察する。質問や意見をc-learning上で提出する。	1.5h
13	地域福祉の歴史 【ねらい】 地域福祉の歴史を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	1h	講義を振り返り、自身で考察する。質問や意見をc-learning上で提出する。	1.5h
14	地域福祉の動向・推進主体 ■ 【ねらい】 地域福祉と包括的支援体制の課題と展望を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	2h	講義を振り返り、自身で考察する。質問や意見をc-learning上で提出する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	地域福祉の主体と福祉教育 ■ 【ねらい】 地域福祉の主体と福祉教育を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	1h	講義を振り返り、自身で考察する。質問や意見をc-learning上で提出する。	1.5h

合計時間（予習・復習）



48h

備考



- 期末試験の準備として8時間以上の復習時間を確保すること。授業の理解を深めるために現場で活躍するゲストスピーカーから実践を紹介してもらう。学生の地元市町村の福祉の実態を調べるなど予習を課す。また、日ごろから新聞を読む、地域の情報を調べる、ボランティア活動に参加するなど、地域福祉について関心を高めておくこと。
- シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表す。

印刷 

地域福祉と包括的支援体制Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Community care and Comprehensive support systemⅡ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWS304

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

一柳 大輔

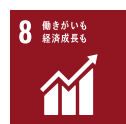
科目に関連した実務経験

地域福祉の実践主体である社会福祉協議会に勤務し、地区社会福祉協議会やボランティアセンター、社会福祉法人・施設、民生委員・児童委員などの支援業務に従事していました。またコミュニティソーシャルワーカーとして個別支援、地域支援や生活支援体制整備事業を担っていました。現在、行政の福祉計画づくりや包括的支援体制整備事業など実務に携わっています。

履修を必須とする資格

社会福祉士、精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



地域福祉の推進は、今後の社会福祉実践や政策を展開するうえで基調的なものであり、メインストリームとなっている。この講義では、地域福祉の理念や歴史、基盤となる行政組織や計画、地域生活課題の現状、地域共生社会に向けた包括的支援体制、災害時支援体制などを学ぶ。日々変化する地域福祉の実相をリアルに捉え、将来のソーシャルワーカーとして地域福祉を活用できる力を養う。さらに、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に合格する学習水準を獲得することを目標とする。

毎回の授業は、前回の振り返りまたは地域福祉に関する映像資料の視聴、テーマに基づく講義、ディスカッション、小テストまたは小レポート、次週の予定、という流れで進める。

到達目標



- 1.地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について説明できる。■
- 2.地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を説明できる。■
- 3.地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について説明できる。■
- 4.地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を説明できる。■
- 5.包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について説明できる。■
- 6.地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を説明できる。■

使用教材



「最新社会福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制」 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規出版） ISBN 978-4-8058-8236-8

参考文献



その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付します。

評価方法



成績評価

- ①期末試験による評価70%
 - ②毎回の授業時に課す小テストまたはレポート等による評価30%
- その他の評価
- ①授業開講数の2/3以上を出席することにより、成績の評価対象とします。
 - ②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出（要添付書類）を提出すれば出席扱いとします。なお、15分以上の遅刻は欠席とみなします。

課題・評価に対するフィードバック方法



質問や相談についてはClearningで適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。

オフィスアワー



質問や相談はClearning等で随時受け付けます。

メールアドレス（#→@）



hitotsuyanagi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	地域を基盤としたソーシャルワークの方法 ■ 【ねらい】 地域を基盤としたソーシャルワークの方法を理解する。	1,2,3,4	教科書の該当部分を読む。	2h	授業を振り返り、自分なりに考察する。質問や意見があればc-learning上でコメントする。	1.5h
2	住民の主体形成に向けたアプローチ ■ 【ねらい】	,1,2,3,4,5,6	教科書の該当部分を読む。	1h	授業を振り返り、自分なりに考察する。質問や意見があればc-learning上でコメントする。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	住民の主体形成に向けたアプローチを理解する。					
3	具体的な展開 ■ 【ねらい】 具体的な展開を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	1h	授業を振り返り、自分なりに考察する。質問や意見があればc-learning上でコメントする。	1.5h
4	非常時や災害時における法制度 【ねらい】 災害時における総合的かつ包括的な支援体制 を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	2.5h	授業を振り返り、自分なりに考察する。質問や意見があればc-learning上でコメントする。	1.5h
5	非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援 ■ 【ねらい】 非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	1h	授業を振り返り、自分なりに考察する。質問や意見があればc-learning上でコメントする。	1.5h
6	福祉計画の提議、目的、機能と歴史的展開 ■ 【ねらい】 福祉計画の意義と種類、策定と運用 、目的、機能と歴史的展開を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	3h	授業を振り返り、自分なりに考察する。質問や意見があればc-learning上でコメントする。	1.5h
7	市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容 ■ 【ねらい】 市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	1h	授業を振り返り、自分なりに考察する。質問や意見があればc-learning上でコメントする。	1.5h
8	福祉計画の策定過程と方法 ■ 【ねらい】 福祉計画の策定過程と方法を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	3h	授業を振り返り、自分なりに考察する。質問や意見があればc-learning上でコメントする。	1.5h
9	福祉計画におけるニーズ把握の方法・技術 ■ 【ねらい】 福祉計画におけるニーズ把握の方法・技術を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	2h	授業を振り返り、自分なりに考察する。質問や意見があればc-learning上でコメントする。	1.5h
10	福祉計画における評価 ■ 【ねらい】 福祉計画における評価を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	2h	授業を振り返り、自分なりに考察する。質問や意見があればc-learning上でコメントする。	1.5h
11	国・都道府県の役割 【ねらい】 国・都道府県の役割を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	2h	授業を振り返り、自分なりに考察する。質問や意見があればc-learning上でコメントする。	1.5h
12	市町村の役割 ■ 【ねらい】 市町村の役割を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	1h	授業を振り返り、自分なりに考察する。質問や意見があればc-learning上でコメントする。	1.5h
13	国と地方の関係 【ねらい】 国と地方の関係を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	1h	授業を振り返り、自分なりに考察する。質問や意見があればc-learning上でコメントする。	1.5h
14	福祉行政の組織および専門職の役割 ■	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	2h	授業を振り返り、自分なりに考察する。質問や意見があればc-learning上でコメントする。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	【ねらい】 福祉行財政システム、福祉行政の組織および専門職の役割を理解する。		む。		でコメントする。	
15	福祉における財源 ■ 【ねらい】 福祉における財源を理解する。	1,2,3, 4,5,6	教科書の該当部分を読む。	1h	授業を振り返り、自分なりに考察する。質問や意見があればc-learning上でコメントする。	1.5h

合計時間（予習・復習）



48h

備考



- 期末試験の準備として8時間以上の復習時間を確保すること。授業の理解を深めるために現場で活躍するゲストスピーカーから実践を紹介してもらう（3回予定）。学生の地元市町村の福祉の実態を調べるなど予習を課す。また、日ごろから新聞を読む、地域の情報を調べる、ボランティア活動に参加するなど、地域福祉について関心を高めておくこと。
- シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表す。

印刷

貧困に対する支援

MYカモクに追加

英文名：Social Support for Poverty

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWS305

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

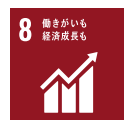
担当教員

石坂 公俊

履修を必須とする資格

社会福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

1. 貧困や公的扶助の概念を踏まえ生活に困窮している人びとの生活実態と課題、さらにこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。

2. 貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。

3. 生活保護制度や貧困に関連する他の法制度及び支援の仕組みについて理解する。

4. 貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士として果たすべき役割を理解する。

基本的に講義形式で行うが、講義の中ではVTR等も援用する。

到達目標

- 1.生活に困窮している人びとの生活課題や福祉需要について理解できる。
- 2.生活保護制度や関連する制度・対策等を理解できる。
- 3.福祉専門職としての役割、他職種との連携等について理解できる。

使用教材

『貧困に対する支援』中央法規出版

参考文献

特記事項なし

評価方法

学修意欲（10%），リアクションペーパー（20%），期末試験（70%）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業時に実施する国家試験過去問題は解説を行う
提出されたリアクションペーパーに対してコメントを付けて返却する

オフィスアワー

水曜日4時限
質問はメールでも受け付ける。
（1号館5階503研究室）

メールアドレス（#→@）

kimi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	シラバスを読み、講義目標、到達目標、講義計画などを理解する。	1.5h	オリエンテーションで説明した講義目標、到達目標、講義計画、成績評価方法などを確認する。	1h
2	公的扶助の概念	1,2	テキスト第1章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
3	貧困の概念及び社会環境① 貧困の概念	1,2	テキスト第2章第1節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
4	貧困の概念及び社会環境② 貧困状態にある人の生活実態	1,2	テキスト第2章第2節及び第3節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
5	貧困の歴史	1,2	テキスト第3章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
6	生活保護制度の仕組み① 生活保護法の目的、原理、原則	2,3	テキスト第4章第1節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
7	生活保護制度の仕組み② 生活保護の種類と内容	2,3	テキスト第4章第1節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	生活保護制度の仕組み ③ 保護施設、被保護者の権利と義務など	2,3	テキスト第4章第1節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
9	最低生活保障と生活保護基準	2,3	テキスト第4章第1節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
10	生活保護の動向	2,3	テキスト第4章第2節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
11	低所得者に対する法制度①	2,3	テキスト第5章第1節及び第2節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
12	低所得者に対する法制度②	2,3	テキスト第5章第3節及び第4節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
13	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割	2	テキスト第6章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
14	貧困に対する支援の実際	2	テキスト第7章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5h
15	講義のまとめ、試験対策など	1,2,3	これまでの学修内容を整理し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1.5h	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。定期テストの準備を行う。	1.5h

合計時間（予習・復習）

38h

備考

指定した教科書の該当頁は事前に精読しておくこと。またリアクションペーパーを課すことがあるが、提出されたものを受講者で情報共有するケースもあるのでそのつもりで提出すること。

予習・復習については、試験前の学習で補完すること。

印刷 

ソーシャルワークの理論と方法 I

MYカモクに追加

英文名 : Theory and Method of Social Work I

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWS306

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 1 豊かな人間性
- 1 基礎的知識力
- 1 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 2 学際的な視点から取り組む力
- 2 応用・実践する能力
- 3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

永田 理香

科目に関連した実務経験

群馬県スクールソーシャルワーカーとして中学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するために必要な、ソーシャルワークの展開過程に関する理論と方法について学習することを目的とする。また、支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、コミュニケーションの基礎について実践的に学ぶ。

- ・基本的なソーシャルワークの過程が理解できるよう、事例を交え解説を行う。
- ・授業の最後に過去問等の確認問題を課し、講義内容の定着を促す。
- ・国家試験で問われるポイントを解説し、受験対策につながる学習方法の習得を目指す。
- ・Cラーニングのドリルで学習単元の復習及び知識の補完を行う。

到達目標

^

- 1.援助関係形成に向けたコミュニケーションについて理解し説明することができる。■
- 2.人と環境との交互作用に関する理論について理解し説明することができる。
- 3.ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解し説明することができる。
- 4.ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解し説明することができる。■
- 5.チームマネジメントと人材育成の基礎的内容について理解し説明することができる。

使用教材

^

『最新 社会福祉士養成講座12ソーシャルワークの理論と方法〔共通科目〕』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（中央法規出版）
ISBN978-4-8058-8242-9
教科書の他、レジュメ・資料等を配布する。

参考文献

^

参考文献等は随時紹介する

評価方法

^

定期試験60%、課題提出40%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

毎回の授業で、予習・復習の状況及び授業内容の理解度、感想、質問について確認しフィードバックを行う。授業の感想については、次の授業の冒頭で紹介し振り返りを行う。

オフィスアワー

^

火曜日3時限と水曜日2時限
（1号館3階309）

メールアドレス（#→@）

^

メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、ソーシャルワークのための理論	1,4	カリキュラムにおける本科目の位置づけ及び、講義目標・到達目標を理解する。該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	詳細シラバスにおける講義内容、ソーシャルワーク理論の全体像について理解する。	1.5h
2	システム理論	2	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	ソーシャルワーク分野におけるシステム理論を理解する。	1.5h
3	人と環境との交互作用に関する理論—生態学理論とバイオ・サイ	2,4	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	ソーシャルワーク分野における生態学理論及びバイオ・サイコ・ソーシャルモデルについて理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	コ・ソーシャルモデルー					
4	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークと展開過程	3,4	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークと目標設定・展開過程について理解する。	1.5h
5	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎■	1	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	援助関係形成に向けたコミュニケーションの実際について理解する。	1.5h
6	ソーシャルワークの過程①ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）■	1,4	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）について理解する。	1.5h
7	ソーシャルワークの過程②-1アセスメントの意義と目的■	2,4	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	アセスメントの意義と目的について理解する。	1.5h
8	ソーシャルワークの過程②-2アセスメント■	2,4	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	アセスメントの方法、留意点について理解する。	1.5h
9	ソーシャルワークの過程③-1プランニング■	3,4	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	プランニングの意義と目的について理解する。	1.5h
10	ソーシャルワークの過程③-2プランニング■	3,4	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	プランニングの方法、留意点について理解する。	1.5h
11	ソーシャルワークの過程④支援の実施とモニタリング■	3,4	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	支援の実施とモニタリングについて理解する。	1.5h
12	ソーシャルワークの過程⑤効果測定■	3,4	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	効果測定について理解する。	1.5h
13	ソーシャルワークの過程⑥支援の終結と結果評価、アフターケア■	3,4	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	支援の終結と結果評価、アフターケアについて理解する。	1.5h
14	チームマネジメントの基礎と人材育成	5	該当する教科書・資料の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	リーダーシップ・フォローシップや人材育成マネジメントの実際について理解する。	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4,5	今までの学習内容を振り返り、知識の定着度を確認する。	1.5h	期末試験において間違えた箇所を復習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンラインで実施する場合は、別途Cラーニング等で学習方法を周知する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Theory and Method of Social Work Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWS307

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

永田 理香

科目に関連した実務経験

県スクールソーシャルワーカーとして中学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

社会福祉士、精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するために必要な、ソーシャルワークの実践モデル及びアプローチ等について学び、支援プロセスの実際について理解を深める。また、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションの手法について実践的に学ぶ。

- ・ソーシャルワークの展開において求められる様々な実践モデルや面接技法等が習得できるよう、事例を交え解説を行う。
- ・授業の最後に過去問等の確認問題を課し、講義内容の定着を促す。
- ・国家試験で問われるポイントを解説し、受験対策につながる学習方法の習得を目指す。
- ・Cラーニングのドリルで学習単元の復習及び知識の補完を行う。

到達目標

^

- 1.ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解し説明することができる。■
- 2.ソーシャルワークにおける面接技法について理解し説明することができる。■
- 3.ケアマネジメントの意義と方法について理解し説明することができる。
- 4.グループワーク及びコミュニティワークの意義と展開過程について理解し説明することができる。
- 5.ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発について理解し説明することができる。

使用教材

^

『最新 社会福祉士養成講座12ソーシャルワークの理論と方法〔共通科目〕』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（中央法規出版）
ISBN978-4-8058-8242-9
教科書の他、レジュメ・資料等を随時配布する。

参考文献

^

参考文献等は随時紹介する

評価方法

^

定期試験60%、課題提出40%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

毎回の授業で、予習・復習の状況及び授業内容の理解度、感想、質問について確認しフィードバックを行う。授業の感想については、次の授業の冒頭で紹介し振り返りを行う。

オフィスアワー

^

火曜日3時限と水曜日2時限
（1号館3階309）

メールアドレス（#→@）

^

メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①治療モデル、ストレングスモデル、生活モデル	1	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	治療モデル、ストレングスモデル、生活モデルについて理解する。	1.5h
2	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ	1	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチについて理解する。	1.5h
3	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③課題中心アプローチ、行動変容アプローチ、認知アプローチ	1	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	課題中心アプローチ、行動変容アプローチ、認知アプローチについて理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④危機介入アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ	1	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	危機介入アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチについて理解する。	1.5h
5	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑤解決指向アプローチ、さまざまなアプローチ	1	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	解決指向アプローチ、さまざまなアプローチについて理解する。	1.5h
6	ソーシャルワークの面接■	1,2	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	面接の意義と目的、方法について理解する。	1.5h
7	ソーシャルワークの記録■	1,2	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	記録の意義と目的、内容について理解する。	1.5h
8	まとめ（中間）	1,2	今までの学習範囲を振り返る。	1.5h	今までの学習内容に関する国家試験問題を解き、間違えた箇所を復習する。	1.5h
9	ケアマネジメント（ケースマネジメント）	3	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	ケアマネジメント（ケースマネジメント）の原則、意義と方法について理解する。	1.5h
10	グループを活用した支援	4	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	グループワークの意義と目的、展開過程等について理解する。	1.5h
11	コミュニティワーク	4	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	コミュニティワークの意義と目的、展開過程等について理解する。	1.5h
12	ソーシャルアドミニストレーション	5	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義、実践モデル等について理解する。	1.5h
13	ソーシャルアクション	5	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	ソーシャルアクションの概念と意義、コミュニティ・オーガナイズングについて理解する。	1.5h
14	スーパービジョンとコンサルテーション	1,2,3,4,5	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5h	スーパービジョンとコンサルテーションの意義、目的、方法等について理解する。	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4,5	今までの学習範囲を振り返る。	1.5h	期末試験において間違えた箇所を復習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h



オンラインで実施する場合は、別途Cラーニング等で学習方法を周知する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ

MYカモクに追加

英文名：Social Work Theory and Methods(Advanced)Ⅰ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWS308

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

檜府 憲太

科目に関連した実務経験

社会福祉士（専門職採用）として生活保護、高齢者福祉、障害者福祉の部署に勤務（合計13年）

履修を必須とする資格

社会福祉士、介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①社会福祉士として必要なソーシャルワークの理論と方法を、価値、援助関係、援助技術等の様々な側面から学び、習得する。
- ②予習を前提に講義を行う。毎回授業後にアンケートを実施し、知識の定着をはかる。

到達目標 ↑

1. 社会福祉士に必要なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解し、自らの言葉で説明することができる。
2. 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解し説明することができる。■
3. ソーシャルワーク演習やソーシャルワーク実習指導との関連性を意識し、ソーシャルワーク実習と結びつけて考えることができる。■

使用教材 ↑

- ・『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』
空閑浩人・白澤政和・和気純子編著（ISBN 978-4-623-09696-9）
- ・適宜教員が資料を作成して配布する。

参考文献 ↑

- 授業内に適宜提示するが、以下の3冊を読んでおくにより理解が深まる。
- ・山下英三郎（2006）『相談援助』学苑社
 - ・北川清一・久保美紀編著（2017）『ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房
 - ・奥川幸子（1997）『未知との遭遇 癒しとしての面接』三輪書店

評価方法 ↑

期末試験または期末レポート55%・課題提出（毎回のアンケート提出）45%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

各回における質問や提出されたアンケートの内容を確認し、適宜フィードバックする。
定期試験後には内容の解説を提示する。

オフィスアワー ↑

- ・質問及び学習相談には適宜応じる。

メールアドレス（#→@） ↑

narafu#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1,2,3	教科書全体に目を通して今後の流れを把握しておく。また、不明な言葉があった場合には意味を調べておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
2	ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割①	1,2,3	教科書第1章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
3	ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割②	1,2,3	教科書第1章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
4	ソーシャルワークにおける面接①■	1	教科書第2章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理してお	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			く。		等を通して理解度を振り返る。	
5	ソーシャルワークにおける面接②■	1	教科書第2章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
6	ソーシャルワークと援助関係①■	2,3	教科書第3章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
7	ソーシャルワークと援助関係②■	2,3	教科書第3章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
8	前半のまとめ	1,2,3	教科書第1～3章を読んで改めて不明な語句や疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
9	社会資源の開発とソーシャルアクション①■	2,3	教科書第4章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
10	社会資源の開発とソーシャルアクション②■	2,3	教科書第4章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
11	ソーシャルワークの関連技術・方法①～ネットワーキング、コーディネーション等■	1,3	教科書第5章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
12	ソーシャルワークの関連技術・方法②～ネゴシエーション、ファシリテーション等■	1,3	教科書第5章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
13	カンファレンスと事例分析①■	1	教科書第6章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
14	カンファレンスと事例分析②■	1	教科書第6章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
15	後半のまとめ	1,2,3	教科書第4～6章を読んで改めて不明な語句や疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h



備考



- ・教科書と配布資料を用いながら講義を行うので、教科書は毎回必ず持参してください。
 - ・講義内では適宜教員から学生に対して質問をしながら進めます。
 - ・質問等は講義前・講義中・講義後いずれのタイミングでも適宜受け付けます。小さなことでも構いませんので、何かありましたら積極的に質問してください。
- は実務経験に基づく授業内容であることを示す。

印刷 

ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Social Work Theory and Methods(Advanced)Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWS309

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性
- 1 基礎的知識力
- 1 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 2 学際的な視点から取り組む力
- 2 応用・実践する能力
- 3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

樫府 憲太

科目に関連した実務経験

社会福祉士（専門職採用）として生活保護、高齢者福祉、障害者福祉の部署に勤務（合計13年）

履修を必須とする資格

社会福祉士、介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①社会福祉士として必要なソーシャルワークの理論と方法を、価値、援助関係、援助技術等の様々な側面から学び、習得する。
- ②予習を前提に講義を行う。毎回授業後にアンケートを実施し、知識の定着をはかる。

到達目標

1. 社会福祉士に必要なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解し、自らの言葉で説明することができる。
2. 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解し説明することができる。■
3. ソーシャルワーク演習やソーシャルワーク実習指導との関連性を意識し、ソーシャルワーク実習と結びつけて考えることができる。■

使用教材

- ・『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』
空閑浩人・白澤政和・和気純子編著（ISBN 978-4-623-09696-9）
- ・適宜教員が資料を作成して配布する。

参考文献

- 授業内に適宜提示するが、以下の3冊を読んでおくにより理解が深まる。
- ・山下英三郎（2006）『相談援助』学苑社
 - ・北川清一・久保美紀編著（2017）『ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房
 - ・サラ・バンクス著、石倉康次・児島亜紀子・伊藤文人監訳（2016）『ソーシャルワークの倫理と価値』法律文化社

評価方法

期末試験または期末レポート55%・課題提出（毎回のアンケート提出）45%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

各回における質問や提出されたアンケートの内容を確認し、適宜フィードバックする。
定期試験後には内容の解説を提示する。

オフィスアワー

- ・質問及び学習相談には適宜応じる。

メールアドレス（#→@）

narafu#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ソーシャルワークにおけるICTと個人情報①■	2	教科書第7章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
2	ソーシャルワークにおけるICTと個人情報②■	2	教科書第7章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
3	家族支援のソーシャルワーク①■	1,2,3	教科書第8章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
4	家族支援のソーシャルワーク②■	1,2,3	教科書第8章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					通して理解度を振り返る。	
5	災害とソーシャルワーク①■	1,2,3	教科書第9章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
6	災害とソーシャルワーク②■	1,2,3	教科書第9章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
7	前半のまとめ	1,2,3	教科書第7～9章を読んで改めて不明な語句や疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
8	スピリチュアリティとソーシャルワーク①	2	教科書第10章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
9	スピリチュアリティとソーシャルワーク②	2	教科書第10章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
10	多文化主義とソーシャルワーク①	1,2,3	教科書第11章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
11	多文化主義とソーシャルワーク②	1,2,3	教科書第11章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
12	ソーシャルワークにおける総合的・包括的支援の実践■	1,2,3	教科書第12章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
13	ソーシャルワークの動向と課題	3	教科書第終章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
14	これからのソーシャルワークの学び方	2	4年生あるいは社会人になった後にどのようにソーシャルワークを学び続けていくのか、その方法や展望を考えておく。	1.5h	配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h
15	後半のまとめ	1,2,3	教科書第10～終章を読んで改めて不明な語句や疑問点等を整理しておく。	1.5h	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h



備考



- ・教科書と配布資料を用いながら講義を行うので、教科書は毎回必ず持参してください。
 - ・講義内では適宜教員から学生に対して質問をしながら進めます。
 - ・質問等は講義前・講義中・講義後いずれのタイミングでも適宜受け付けます。小さなことでも構いませんので、何かありましたら積極的に質問してください。
- は実務経験に基づく授業内容であることを示す。

印刷 

福祉サービスの組織と経営

MYカモクに追加

英文名 : Organization and Management of the Welfare Service

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWS310

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 1 豊かな人間性
- 1 基礎的知識力
- 1 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 2 学際的な視点から取り組む力
- 2 応用・実践する能力
- 3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

北川 公啓

科目に関連した実務経験

社会福祉協議会において法人運営に関する部門に従事している。また、管理職として社会福祉法人の経営に携わっている。社会福祉事業、公益事業、収益事業等幅広い事業領域での従事経験がある。

履修を必須とする資格

社会福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、特定非営利活動法人、医療法人、営利法人など）、福祉サービスの組織と経営、管理運営に関する基本的事項について理解する。

②授業は講義形式で行う。国家試験科目であるため、テキストの重点事項を中心に進めていく。同時に、社会福祉法人の経営等について、学問的アプローチを試みる。

到達目標



- 1.ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要について説明できる。
- 2.社会福祉士に求められる福祉サービスの組織と沿革、経営の視点と方法を説明できる。
- 3.福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論、労働者の権利等について説明できる。
- 4.福祉サービスに求められる福祉人材マネジメントについて説明できる。

使用教材



「最新 社会福祉士養成講座1 福祉サービスの組織と経営」一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟／ISBN 978-4-8058-8244-3

評価方法



レポート課題又は小テスト30% 期末試験70%
総合評価60%以上で合格とする

課題・評価に対するフィードバック方法



レポート課題又は小テスト、質問方法等は講義中に回答及び説明する。

オフィスアワー



授業の前後、非常勤講師室にて

メールアドレス（#→@）



メールアドレスは初回授業時に提示する

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、福祉サービス提供組織の存在理由、種類と特徴（第1章第1節）	1,2,3	教科書の第1章第1節に目を通す。	1.5h	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割 経営の概念等を理解する。	1.5h
2	社会福祉構造改革の経緯と概要（第1章第2節）	1,2,3	教科書の第1章第2節に目を通す。	1.5h	社会福祉構造改革や公益法人制度改革について理解する。	1.5h
3	組織間連携の必要性（第1章第3節）	1,2,3	教科書の第1章第3節に目を通す。	1.5h	なぜ組織間連携が必要なのか等について理解する。	1.5h
4	組織運営に関する基礎理論（第2章第1節）	1,2,3	教科書の第2章第1節に目を通す。	1.5h	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 について理解する。	1.5h
5	集団の力学理論（第2章第2節）	1,2,3	教科書の第2章第2節に目を通す。	1.5h	様々な集団の力学について理解する。	1.5h
6	リーダーシップ理論（第2章第3節）	1,2,3	教科書の第2章第3節に目を通す。	1.5h	様々なリーダーシップ理論について理解する。	1.5h
7	経営体制（第3章第1節）	1,2,3	教科書の第3章第1節に目を通す。	1.5h	福祉サービス提供組織の経営と実際 について理解する。	1.5h
8	福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス（第3章第2節）	1,2,3	教科書の第3章第2節に目を通す。	1.5h	福祉経営のコンプライアンスとガバナンスについて理解する。	1.5h
9	適切な福祉サービスの経営管理前半（第3章第3節）	1,2,3	教科書の第3章第3節に目を通す。	1.5h	実際の社会福祉法人の経営内容を理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			す。			
10	適切な福祉サービスの経営管理後半（第3章第3節）	1,2,3	教科書の第3章第3節に目を通す。	1.5h	実際の社会福祉法人の経営内容を理解する。	1.5h
11	情報管理（第3章第4節）	1,2,3	教科書の第3章第4節に目を通す。	1.5h	福祉経営における情報管理について理解する。	1.5h
12	会計管理と財務管理（第3章第5節）	1,2,3	教科書の第3章第5節に目を通す。	1.5h	決算書の読み方と財務分析の方法について理解する。	1.5h
13	福祉人材のマネジメント（第4章第1節）	1,2,3	教科書の第4章第1節に目を通す。	1.5h	福祉人材マネジメント について理解する。	1.5h
14	福祉人材の育成（第4章第2節）	1,2,3	教科書の第4章第2節に目を通す。	1.5h	福祉人材の育成について理解する。	1.5h
15	働きやすい労働環境の整備（第4章第3節）	1,2,3	教科書の第4章第3節に目を通す。	1.5h	働きやすい労働環境の整備について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

印刷



保健医療と福祉

MYカモクに追加

英文名：Health Care and Welfare

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWS311

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

加藤 大輔

科目に関連した実務経験

医療ソーシャルワーカーとして病院に勤務（経験）

履修を必須とする資格

社会福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

学生が医療と福祉の関係性を理解し、相談援助場面で必要となる医療保険制度や保健医療システムの基本を学ぶ。現場で的確に専門職と連携をするための基本的な知識を獲得する。

基本的に講義形式で行うが、映像教材等も援用する。具体的な事例や現状の課題などを含め、専門職倫理に基づく実際の支援における視点などを踏まえて進めていく。

到達目標



- 1.ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を説明できる。■
- 2.保健医療に係る政策、制度、サービスを説明できる。■
- 3.保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働を説明できる。■
- 4.保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を説明できる。■

使用教材



ミネルヴァ書房 新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック〈14〉「保健医療と福祉」（第2版）を使用。その他資料などを配布。必要に応じ映像教材を使用。

評価方法



授業態度10%、小レポート20%、中間レポート10%、筆記試験60%で総合的評価し、60%以上を合格とする。過去問にもとづく小テストを実施する場合、小レポートから5%、筆記試験から10%の合計15%を割り当てる。

課題・評価に対するフィードバック方法



授業の中で質問時間を設けるなど、随時フィードバックを行う。

オフィスアワー



火曜4限1号館5階515研究室

メールアドレス（#→@）



kato-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・序章 保健医療の動向 と社会福祉	1	テキスト序章やシラバスの内容をよく読んで、講義目標と全体概要を確認する。	1.5h	講義の内容、進め方、授業に臨む態度、成績評価などについて確認する。科目の全体概要を確認する。	1.5h
2	保健医療に係る政策・制度・サービスの概要① 医療保険制度・公費負担医療制度 ■	1,2	テキスト第1・2章に目を通す。社会保障制度の概要を事前に調べておく。	1.5h	医療保険制度、公費負担医療制度のしくみを理解する。	1.5h
3	保健医療に係る政策・制度・サービスの概要② 医療費に関する政策動向・診療報酬 ■	4	テキスト第3・4章に目を通す。	1.5h	医療費政策の動向、診療報酬のしくみを理解する。	1.5h
4	保健医療に係る政策・制度・サービスの概要③ 保健医療サービスと医療施設 ■	1,2	テキスト第5章に目を通す。	1.5h	保健医療サービス体系と、種類や内容を理解する。	1.5h
5	保健医療に係る政策・制度・サービスの概要④ 保健医療サービスと保健医療対策 ■	3,4	テキスト第6章に目を通す。	1.5h	医療法と改正の変遷医療計画を理解する。	1.5h
6	保健医療にかかる倫理 ■	1,2	テキスト第7章に目を通す。	1.5h	医療現場における倫理と課題、意思決定支援を理解する。	1.5h
7	保健医療領域における専門職の役割と連携① 保健医療サービスにおける専門職の役割 ■	1,3,4	テキスト第8章に目を通す、	1.5h	保健医療従事者の専門職倫理、身分法、役割を理解する。	1.5h
8	保健医療領域における支援の実践① 疾病にともなう生活課題	2	テキスト第9・10章に目を通す。	1.5h	医療ソーシャルワークとその歴史について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	と医療ソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカーの歴史■					
9	保健医療領域における支援の実際② 医療ソーシャルワーカー業務指針とソーシャルワーク実践■	2	テキスト第11章に目を通す。	1.5h	医療ソーシャルワークの定義と保健医療の場における役割を理解する。	1.5h
10	保健医療領域における支援の実際③ 医療ソーシャルワーカー業務指針とソーシャルワーク実践■	3,4	テキスト第11章に目を通す。	1.5h	医療ソーシャルワーカーによる実際の支援について、事例をもとに理解する。	1.5h
11	保健医療領域における専門職の役割と連携① 保健医療関係者との連携と実際■	3,4	テキスト第12章に目を通す。	1.5h	保健医療の場における多職種連携の意義や類型について理解する。	1.5h
12	保健医療領域における専門職の役割と連携② 保健医療関係者との連携と実際■	3,4	テキスト第12章に目を通す。	1.5h	終末期、救急、災害など、様々な場面における連携の方法を実際を理解する。	1.5h
13	保健医療における福祉の未来と展望① ■	2,3,4	テキスト第終章に目を通す。	1.5h	医療ソーシャルワーカーを取り巻く環境、実践スキルと現任人材育成、期待される役割を理解する。	1.5h
14	保健医療における福祉の未来と展望② ■	2,3,4	テキスト第終章に目を通す。	1.5h	先行研究や実践事例、職能団体の取り組みから、医療ソーシャルワーカーの専門性、独自性、今後の展望を理解する。	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4	これまでの授業内容、テキスト、配布資料に目を通しておく。	1.5h	授業と別で実施する試験の自己採点、解答に悩んだ問題などに再度取り組む。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

視聴覚教材を使用する。質問にはメールでも応じる。

本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は「認定（N）」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には対象者に別途案内する。また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

権利擁護を支える法制度

MYカモクに追加

英文名 : Laws and systems for Protection of Human Rights

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWS312

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 1 豊かな人間性
- 1 基礎的知識力
- 1 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 2 学際的な視点から取り組む力
- 2 応用・実践する能力
- 3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小此木清・金井健

科目に関連した実務経験

【小此木清】

高齢者、障がい者福祉全般及び、成年後見に関する実務経験を有する。

一般社団法人日本成年後見法学会理事

日本弁護士連合会高齢者・障害者委員会委員

日本弁護士連合会副会長

群馬弁護士会会長など

【金井健】

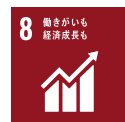
高崎市社会福祉協議会法人後見運営委員

群馬弁護士会高齢者・障害者支援センター委員など

履修を必須とする資格

社会福祉士、精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○			○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



高齢社会における喫緊の課題は、認知症、知的障害者その他の精神上の障害があることにより財産管理や日常生活等に支障のある人たちを社会全体が如何に支え合い、共生社会の実現に資するかである。これに伴って、平成28年5月に「成年後見制度の利用の促進に関する法律」が施行され、社会福祉士が成年後見制度や任意後見制度を理解し、法律等に基づきながら権利擁護実践を行うことが、社会から強く求められている。社会の期待に応えられる社会福祉士を養成するために、法律や制度、権利擁護の意義と支える仕組みを理解し、実践的な知識を修得することを目指す。

また、本講義では、成年後見などの実務経験を有する弁護士の立場から、高齢者を支える者に必要とされる基礎的な法的思考（リーガルマインド）を伝えたとともに、受講生は事例に応じて、法の適用の判断に必要な柔軟な思考力を涵養することを目指す。

講義では、適宜、講義内容にかかわる社会問題にも触れ、受講生の現代社会の課題に対する感度を促します。

※ 初回講義のみを小此木が担当し、その後の講義は金井が担当します。また、講義内容については、授業の進度や学生の理解状況に応じて変更する場合があります。

到達目標



- 1.基礎的な法的思考（リーガルマインド）の習得
- 2.社会福祉士・精神保健福祉士が憲法、民法、行政法等を学ぶ必要性について事例を挙げて説明できる。
- 3.成年後見制度や任意後見制度、日常生活自立支援事業等をわかりやすく説明できる。
- 4.権利擁護にかかわる組織・団体・専門職と社会福祉士がどのように関わるべきか説明できる。
- 5.社会福祉士の権利擁護実践における対応上のポイントや基本的視点を説明できる。

使用教材



最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座9「権利擁護を支える法制度」中央法規

参考文献



授業内で随時紹介する。

評価方法



【評価点】（100点満点）

(1) 期末試験(80点)

(2) アクティブラーニング等への取組状況(20点)

課題・評価に対するフィードバック方法



授業課題については、提出された課題について授業時にフィードバックを行う。実践的な知識の定着化のために、講義では随時アクティブラーニングによる課題を提示する。課題への取組結果は、その場で教員からフィードバックする。

オフィスアワー



初回授業時に提示する

メールアドレス（#→@）



初回授業時に提示する

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーションー講義の到達目標、内容、進め方、成績評価等の説明	1,2,3,4, 5	シラバスを読み、講義の目標や内容等を確認する。	1.5h	講義で教員が提示した授業課題に回答する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
2	ソーシャルワークと法のかかわり・リーガルマインド	1,2	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h
3	法の基礎	1,2	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h
4	憲法	1,2	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h
5	民法①（財産法）	1,2	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h
6	民法②（親族法）	1,2	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h
7	民法③（相続法）	1,2	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h
8	行政法	1,2	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h
9	成年後見制度①	2,3,4	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h
10	成年後見制度②	2,3,4	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h
11	任意後見と日常生活自立支援事業	2,3,4,5	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h
12	権利擁護の意義と支える仕組みづくり	2,3,4,5	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h
13	権利擁護と意思決定支援	2,3,4,5	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h
14	社会福祉士の権利擁護実践（虐待対応・権利擁護に係る組織、団体、専門職等の役割と実際）	2,3,4,5	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h
15	社会福祉士に求められる権利擁護実践（権利擁護活動で直面しうる法的諸問題への対応）	2,3,4,5	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業内容や課題について不明点があれば、教員に確認してください。



HOME > 刑事司法と福祉

刑事司法と福祉

MYカモクに追加

英文名 : Criminal justice and Social Welfare
 科目区分 : 専門展開科目
 科目ナンバリング : SWS313
 学年 : 2年
 開講期 : 後期
 選択・必修 : 選択
 単位数 : 2単位
 講義形態 : 講義
 学位授与方針との対応 :
 比重 DP
 1 豊かな人間性
 1 基礎的知識力
 1 問題解決能力・コミュニケーション能力
 2 学際的な視点から取り組む力
 2 応用・実践する能力
 3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

廣川 洋一

科目に関連した実務経験

保護観察所保護観察官30年、少年院法務教官2年、地方更生保護委員会委員4年、保護司7年

履修を必須とする資格

社会福祉士、精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

「その他」のアクティブラーニング実施方法

C-Learning のアンケートフォームなどを用いて、毎授業後学生の理解度や、反応、感想を書かせる方法

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

近年、刑事司法とかわかる人に様々な支援ニーズがあることが広く認識されるようになった。本講義では、刑事司法制度及び刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境について理解し、「司法と福祉の連携」の必要性和実際の支援を

学ぶ。

授業の進め方は講義中心で、第2回以降は、前回までの授業を復習し、次の講義につなげていく形式です。毎回、教科書の該当部分を読み、配布する資料では過去の国家試験問題も全問を10回以上にわたり解いていきます。授業の理解度等を把握するため、毎授業終了後、C-Learning のアンケートフォームなどを用いて、質疑と簡単なアンケートを行う。授業では、毎回、教科書の該当ページを示すので、予習・復習を続けること。期末にレポートの提出を求める。

到達目標

1.刑事司法制度の基礎知識を習得し、同制度の仕組みと流れ、近年の動向について説明できる。■
2.刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について説明できる。■
3.刑事司法の制度に関わる関係機関等の基礎知識を習得し、その役割について説明できる。■
4.国家試験問題を解くための知識を学び、問題を読み解けるようになる。■

使用教材

「刑事司法と福祉 第2版」(中央法規出版株式会社) 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集(2025年1月1日発行) 定価(本体2700円+税)
毎回、犯罪白書や該当する法令、関連する統計や図表、国家試験問題全問と解説を記したプリント(14~18頁)を配布する。毎回、学習内容が教科書のどの頁に該当するか明確に示す。

参考文献

適宜紹介する

評価方法

平素の授業に対する姿勢とアンケート等への提出(70%)、期末レポート(30%)で評価し、総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回の授業で簡単なアンケートを行い、質疑があればその回答も含めて、次の授業で全員にフィードバックします。期末レポートは個別に評価とコメントを連絡します。

オフィスアワー

授業日は午後1時から非常勤講師室にいます。

メールアドレス(#→@)

nra25159#nifty.com

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、「刑事司法と福祉」総論。教科書第1章 「刑事司法と福祉」総論 ■ 講師自己紹介。社会福祉士養成課程カリキュラムの「刑事司法と福祉」の教育目標を確認し、社会福祉系の学生が刑事司法制度を学ぶ意義と重要性を理解する。この教科書で使用される用語や、刑事司法制度の基本的な考え方について学ぶ。後半部分では、江戸時代、明治時代の刑罰制度と現在を比較する。	1, 2, 3	教科書「はじめに」、第1章第1節 「刑事司法と福祉」を学ぶにあたって、第2節 刑事司法とかわかった人とのソーシャルワークを読む。	1h	配布資料と教科書を復習し、刑事司法とソーシャルワークの関係を理解する。	1. 5h
2	教科書第2章「社会と犯罪」 第1節 犯罪とは何か、第2節 刑務所からみた日本の犯罪。■ 刑事司法と福祉の関係を復習し、犯罪とは何か、社会復帰とはどういうことか考え直す。特に、犯罪や非行	1, 2, 3	教科書第2章を読む。教科書67頁の刑事手続の流れ	1. 5h	配布資料と教科書を復習し、日本の犯罪状況、刑務所	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	の暗数（犯罪被害者実態調査）の問題を解説し、犯罪の認知、検挙、刑事司法制度の流れを理解していく。後半では、「令和6年版犯罪白書の概要」を配布し、犯罪や非行、刑事司法の近年の動向と課題、成人に対する司法制度の概要を理解する。日本と外国の刑務所について理解を深める。		（令和4年）を読む。		について理解する。	
3	教科書第3章「犯罪原因論と対策」 第1節 犯罪原因論の展開、第2節 犯罪原因論に基づく犯罪対応とその限界。教科書第4章 「刑罰とは何か」 その①（第1節 刑罰制度の歴史、第2節 刑罰の本質と機能、第3節 刑罰の種類と適用の状況） ■教科書が説明する犯罪原因論を概観し、それぞれの理論の独自性と問題点を学ぶ。合わせて、刑罰に関する基本的で重要な学説を学ぶ。社会問題となった裁判事例から刑事司法制度及びそこに関わる人々の特性、問題点を探る。刑事施設における処遇と改善指導、福祉専門職の関与について学ぶ。刑務所の生活について紹介し、刑務所職員の生活を理解する。	1, 2, 3	教科書第3章、第4章を読む。	1. 5h	配布資料と教科書を復習し、犯罪対策について考える。	1. 5h
4	教科書第4章 「刑罰とは何か」 その②（第1節 刑罰制度の歴史、第2節 刑罰の本質と機能、第3節 刑罰の種類と適用の状況）、教科書第5章 「刑事司法」 第1節 刑事手続の概要、第2節 刑事手続と重要な原則、第3節 犯罪の成立要件と責任能力判断 ■人間社会のルールや歴史を踏まえて、刑罰制度を考え直す。罪刑法定主義、犯罪の3要件と責任能力、検察官の役割、刑罰法令があることの意味を考える。著名な裁判事例やいわゆる冤罪事件などを紹介し、捜査や取調べの問題を考える。	1, 2, 3	教科書第4章と第5章を読む。	1. 5h	配布資料と教科書を復習し、刑罰の本質を考える。	1. 5h
5	教科書第5章 「刑事司法」 第1節 刑事手続の概要、第2節 刑事手続と重要な原則、第3節 犯罪の成立要件と責任能力判断 ■引き続き、刑罰の本質と目的、刑罰に関する学説を考え直す。責任能力、故意又は過失、検察官の役割等について復習し、事例を紹介する。成人の刑事司法手続、執行猶予、刑務所の処遇と福祉専門職の関与について理解する。警察署の留置場、刑事施設の処遇、刑事施設での就労支援と福祉的支援について具体的に理解する。	1, 2, 3	教科書第5章を読む。	1. 5h	配布資料と教科書を復習し、刑事司法制度の手続を理解する。	1. 5h
6	教科書第6章 「少年司法」 第1節 少年法は何のためにあるのか、第2節 少年保護手続の流れ、第3節 少年司法制度上の処分 ■少年司法制度の本質（触法少年、ぐ犯少年、犯罪少年、要保護児童）、家庭裁判所、少年鑑別所、少年院、児童相談所、試験観察と補導委託、改正少年法と特定少年、少年法の特則、不定期刑について理解する。少年院送致になった事例、逆送されて少年刑務所に収容された事例を紹介する。少年法と児童福祉法、児童自立支援施設と少年院を比較する。児童自立支援施設、少年院、少年鑑別所、少年刑務所の役割と職員について理解する。「平成6年版犯罪白書の概要」の「非行少年処遇の概要」を読みながら少年事件の手続	1, 2, 3	教科書第6章を読む。	1. 5h	配布資料と教科書を復習し、少年保護制度と実情について理解する。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	と処分状況について学ぶ。 (この授業時間で説明が足りない場合、他の回でも説明します。)					
7	第7章「施設内処遇① 成人」 第1節 日本の施設内処遇の歴史と制度、第2節 矯正処遇の現状と課題、第3節 地域生活に向けた支援のあり方 ■ 刑務所の懲役と拘禁刑について具体的に学ぶ。刑期満了前に釈放される仮釈放制度については、教科書164頁で説明されるが、刑務所からの仮釈放の意義と仮釈放許可の基準、その手続について説明する。また、教科書149頁で説明される生活環境調整と特別調整についても説明する。	1, 2, 3	教科書第7章を読む。	1. 5h	配布資料と教科書(第7章及び第9章の149頁及び164頁)を復習し、処遇のあり方と福祉的視点、福祉専門職の業務内容を理解する。	1. 5h
8	教科書第8章「施設内処遇② 少年」 第1節 少年に対する施設内処遇(少年院)の特徴、第2節 少年に対する施設処遇(少年院)の実態、第3節 少年院在院者への社会復帰支援のあり方 ■ 少年院の生活、矯正教育の実例を紹介する。少年院、少年鑑別所、児童自立支援施設の違いと特徴について、少年法、児童福祉法、少年保護の視点から捉え直す。 今回以降、国家試験問題の過去問を解き、解説していく。	1, 2, 3, 4	教科書第8章を読む。	1. 5h	配布資料と教科書を復習する。	1. 5h
9	教科書第9章「社会内処遇の理論と実践」 第1節 更生保護の意義と歴史、第2節 更生保護制度の概要と実態、第3節 更生保護におけるネットワーク構築とソーシャルワーカーの役割 ■ 更生保護の機構、保護観察官と保護司、それぞれの採用方法、就労支援について学ぶ。更生保護法、保護観察の目的、種類と期間、特定少年の保護処分、遵守事項について学ぶ。保護観察の良好措置、不良措置を理解する。類型別処遇、CFP(保護観察における事例の公式化)の導入、RNRモデル、ストレングスモデルなど処遇の各論を学ぶ。保護観察の専門的処遇プログラム、しよく罪指導としよく罪指導プログラムについて学ぶ。更生保護事業と更生保護施設について学ぶ。第9章第2節5「恩赦」は次回説明します。 (この授業時間では足りない場合、他の回でも説明します。) 国家試験問題の過去問を解き、解説する。	1, 2, 3, 4	教科書第9章を読む。(第9章第2節5「恩赦」は除く。)	1. 5h	配布資料と教科書を復習し、過去問から理解を深める。	1. 5h
10	教科書第11章「多様なニーズを有する犯罪行為者② 高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉」 第1節 「司法と福祉の連携」の展開、第2節 地域生活定着支援センターの役割と機能、第3節 犯罪・非行に至った高齢者や障害者の理解、第4節 犯罪・非行のあった高齢者・障害者への支援の実態と課題 ■ 入口支援、生活環境調整の課題、満期釈放者対策、特別調整について学ぶ。入口支援と満期釈放者対策ガイドラインについて学び、息の長い社会復帰支援の推進について学ぶ。薬物依存からの離脱について具体例を紹介する。更生保護と関わりが深い恩赦制度の意義と歴史について学ぶ。国家試験問題の過去問を解き、解説する。	1, 2, 3	教科書第11章を読む。第9章第2節5「恩赦」を読む。	1. 5h	配布資料と教科書を復習し、恩赦について正しく理解する。過去問から、仮釈放専門的処遇プログラムについて理解を深める。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1 1	教科書第10章 「多様なニーズを有する犯罪行為者① 精神障害者を対象とした医療観察制度」 「心神喪失者等医療観察制度の概要」 その① ■ 責任能力がないこと、心神喪失とはどういうことか、精神障害者と刑事司法制度の歴史を振り返り、心神喪失者等医療観察制度の意義と目的、制度の流れを理解する。入院医療、通院医療、症状悪化への対応、処遇終了について学ぶ。国家試験問題の過去問を解き、解説する。	1, 2, 3	教科書第10章を読む。	1. 5h	配布資料と教科書を復習し、医療観察制度の概要と社会復帰調整官・地域のソーシャルワーカーの役割を理解する。過去問から、更生保護施設等について理解を深める。	1. 5h
1 2	教科書第10章「多様なニーズを有する犯罪行為者① 精神障害者を対象とした医療観察制度」 「心神喪失者等医療観察制度の概要」その② ■ 保護観察所における医療観察制度の運用状況を法務省の資料で確認する。精神保健福祉法による対応、社会復帰調整官の業務、生活環境の調査、調整、精神保健観察、ケア会議、関係機関との連携について学ぶ。医療観察制度の精神保健観察と更生保護の保護観察の違いを確認する。 医療観察制度を取り上げた国家試験問題の過去問を解き、解説する。	1, 2, 3, 4	教科書第10章を読む。	1. 5h	配布資料と教科書を復習し、社会復帰調整官の業務を理解する。過去問から、医療観察制度について理解を深める。	1. 5h
1 3	教科書第13章 「犯罪被害者等支援」 第1節 犯罪被害者等支援に関する制度の概要、第2節 犯罪被害者等支援にあたっての考え方、第3節 犯罪被害者等支援の実態 ■ 犯罪被害者等基本法と基本計画、加害者のしよく罪指導と犯罪被害者等支援について理解する。刑事和解、損害賠償命令制度、再被害防止策を理解する。更生保護における4つの制度を理解し、その手続を学ぶ。国家試験問題の過去問を解き、解説する。	1, 2, 3	教科書第13章を読む。	1. 5h	配布資料と教科書を復習し、犯罪被害者等施策の重要性を理解する。過去問から理解を深める。	1. 5h
1 4	教科書第14章 「コミュニティと刑事司法」 第1節 刑事司法への市民参加、第2節 犯罪から学ぶ社会のあり方、第3節 対話による問題解決、第4節 犯罪と私 ■ 保護観察における面接技法について学ぶ。刑事司法制度の流れと犯罪被害者等が利用可能な制度を確認する。再犯防止推進法等について理解し、再犯防止推進法と再犯防止推進計画を理解する。国家試験問題の過去問を解き、解説する。	1, 2, 3, 4	教科書第13章を読む。	1. 5h	配布資料と教科書を復習し、過去問から理解を深める。	1. 5h
1 5	教科書第12章「多様なニーズを有する犯罪行為者③ アディクションを抱える人と刑事司法」第1節 アディクションとは何か、第2節 回復のために必要なものは何か、第3節 刑事司法におけるアディクション ■ 刑事司法と福祉の総まとめ。「令和7年版犯罪白書の概要」 刑務所及び保護観察での薬物再乱用防止プログラム、性犯罪再犯防止指導の有効性についての検証、刑事施設における被害者の視点を取り入れた教育について理解する。年末に公表される「令和7年版犯罪白書の概要」でこれまで学んだことを再確認する。レポートのテーマを示す。	1, 2, 3	教科書第12章及びこれまでの資料を読む。	1. 5h	配布資料と教科書を復習し、これまでの学びを振り返り、各自が課題を決めて、期末レポートにまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業では、犯罪白書をはじめ、犯罪や非行、刑事司法に関する報道、重要な事例を取り上げ、刑事司法と福祉の重要性を説明します。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

ソーシャルワーク実習指導 I

MYカモクに追加

英文名 : Guidance to Social Work Practicum I

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWS314

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

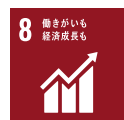
担当教員

池田 朋広、永田 理香、根岸 洋人、一柳 大輔

履修を必須とする資格

社会福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①社会福祉士として求められる役割への理解を深め、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。個別指導と集団指導による実習分野（利用者理解含む）及び実習先に関する基本的理解を通し、ソーシャルワーク展開過程において必要な基礎力の習得を目指す。

②

- ・実習計画の作成プロセスにおいて、社会福祉士として求められる役割への理解を促し、実習に向けての動機づけを行う。
- ・実習を振り返り、ソーシャルワーク機能を発揮するために必要な自己の課題を整理する。

到達目標

1. ソーシャルワーク実習及び実習指導の意義について理解し説明できる。
2. 実際に実習を行う分野と施設・機関、地域社会等に関する基本的な内容を理解し説明できる。
3. 実習先で必要とされる基本的なソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術について説明できる。
4. 事前学習の内容を踏まえ課題を明確化し、実習計画書を作成することができる。
5. 実習を振り返り、ソーシャルワーク機能の視点に基づき自らの課題を明確化することができる。

使用教材

演習に必要な教材は、毎回配布する。

参考文献

その他、適宜必要な資料を配布する。

評価方法

授業への取組状況を勘案し総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

実習担当教員が提出物について、コメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。
修正・改善等の指示を受けた提出物は、実習担当教員の指示に従って再提出すること。

オフィスアワー

担当教員のオフィスアワーは5階実習指導室前の掲示板に掲示する。

メールアドレス（#→@）

授業にて担当教員から個別に周知する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	全体オリエンテーション（実習と実習指導の意義）、ゼミ別オリエンテーション	1	実習先について情報収集し、個人票を作成する	4h	配布物や実習の手引きの内容を再確認する	1h
2	実習ゼミ別に示された課題に取り組む	1,2,3	オリエンテーション内容を再確認する。	1.5h	実習ゼミ別に示された課題に取り組む	1h
3	実習先概要表の作成等を通した実習先に関する基本的な理解① 実習先の根拠となる法制度、組織の理念・目的、役割・機能、計画、事業・業務等の情報整理	1,2,3	実習ゼミ別に示された課題に取り組む	1.5h	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1h
4	実習先概要表の作成等を通した実習先に関する基本的な理解② 実習先の利用者、一日の流れ、月間・年間スケジュール、行事の意義、地域特性等の情報整理	1,2,3	実習ゼミ別に示された課題に取り組む	1.5h	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1h
5	実習先の関連業務（介護、保育、看護、医療等）に関する基本的な理解	1,2,3	実習ゼミ別に示された課題に取り組む	1.5h	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	実習先の相談援助に係る専門的な知識や技術に関する理解① 実習指導者の主な業務内容や専門的技術、利用者（対象者）との関わり方、自己覚知等	1,2,3	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。	1.5h	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1h
7	実習先の相談援助に係る専門的な知識や技術に関する理解② 実践力（コミュニケーション、情報収集、ネットワーク、チームアプローチ）や専門職の倫理等	1,2,3	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。	1.5h	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1h
8	実習先の相談援助に係る専門的な知識や技術に関する理解③ プロセスレコードの作成方法、評価の方法、スーパービジョン等	1,2,3	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。	1.5h	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1h
9	実習計画書の作成指導① 実習計画書の概要、実習プログラムについての理解	1,2,3,4	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。	1.5h	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1h
10	実習計画書の作成指導② 実習目標、実習テーマの設定	1,2,3,4	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。	1h	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1.5h
11	実習先事前訪問（実習計画書の三者協議を含む）	1,2,3,4	実習先と事前訪問の日程調整を行う。事前訪問の準備。	1h	実習中の服装や持ち物等を点検し、事前準備を行う	1.5h
12	実習直前オリエンテーション	1,2,3,4	『実習の手引き』の内容確認。	1h	オリエンテーションの内容を踏まえ、実習前の準備状況を再確認する。	1.5h
13	実習後指導（実習報告①）	1,2,3,4,5	実習報告の準備（情報の整理、資料作成等）	1h	実習報告の振り返りをレポートにまとめ提出する	1.5h
14	実習後指導（実習報告②）	1,2,3,4,5	実習報告の準備（情報の整理、資料作成等）	1h	実習報告の振り返りをレポートにまとめ提出する	1.5h
15	実習後指導（実習報告②）	1,2,3,4,5	実習報告の準備（情報の整理、資料作成等）	1h	実習報告の振り返りをレポートにまとめ提出する	1.5h

合計時間（予習・復習）

40h

備考

この科目はソーシャルワーク実習Ⅰに行く学生を対象としている。科目の履修にあたってはさまざまなルールが存在する。詳細はガイダンス等で伝えるので、ガイダンスには必ず出席すること。出席できない場合は実習指導室に事前に連絡すること。

その他、実習にかかわる実習事務等は、実習指導室が担当する。

実習事務に関して、不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、必ず来室して確認すること。

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自補完すること。

実習指導室：大学1号館5階 TEL：027-352-1292（直通）

利用時間：実習期間外9時00分～17時00分（月～金）、実習期間中9時00分～18時00分（月～金※原則）

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

MYカモクに追加

英文名 : Guidance to Social Work Practicum Ⅱ

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWS315

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

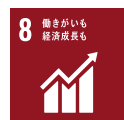
担当教員

青木 尚人、石坂 公俊、大川 健次郎、加藤 大輔、檜府 憲太

履修を必須とする資格

社会福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ・ソーシャルワーク実習に係る個別指導および集団指導を通して、専門的な知識や実践的な技術等を体得する。
- ・社会福祉士に求められる倫理観や課題把握能力、相談対応力を修得し、専門職としての資質を高める。
- ・授業期間全体を通じて、ソーシャルワーク実習に必要な知識・技術をグループワーク形式中心に学ぶ。実習指導は実習担当教員がゼミ別に行う。

到達目標

- 1.利用者（対象者）の生活と現在の状況、これまでの経験と今後のこと、抱えている課題等を多くの角度から捉え考察を深めることができる。

- 2.社会資源や他の機関（組織）との連携を軸にした問題解決の基礎的な手順や方法を学び、利用者（対象者）の具体的なニーズを発見し、アセスメントを行うことができる。
- 3.実習先の法制度上の設置目的や役割を知り、それぞれの援助現場が、歴史の流れの中で法制度とともに存在してきたことの意味を説明できるようになる。
- 4.実習指導職員による助言や指導から、社会福祉士に求められる倫理観、価値、行動基準を学び、自らの感情の表出、言動のあり方について考察を深められ、自己覚知できるようになる。

使用教材

ソーシャルワーク実習の『実習手引き』等、実習指導に必要な共通教材は開講時指示する。

参考文献

その他、実習ゼミ別に必要な教材を指示・配布する。

評価方法

出欠や事前学習を含めた実習状況を勘案し総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

実習担当教員が提出物について、コメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。
修正・改善等の指示を受けた提出物は、実習担当教員の指示に従って再提出すること。

オフィスアワー

授業時に教員から周知する

メールアドレス（#→@）

授業時に教員から周知する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	全体オリエンテーション (実習と実習指導の意義：スーパービジョン含む)	1,2	ボランティア実施、ボランティア学習報告書作成、個人票作成、実習先情報収集	4h	配布物や実習の手引きの内容を再確認する。	1h
2	実習ゼミ別に示された課題（個人票修正、概要表作成等）に取り組む。	1,2,3	実習ゼミ別に示された課題（個人票修正、概要表作成等）に取り組む。	1.5h	オリエンテーション内容を再確認する。ボランティア学習報告書のフィードバックがあった場合には、実習に活かせるように気づきを整理する。	1h
3	実習先概要表の作成等を通じた実習先に関する基本的な理解 ①実習先の根拠となる法制度、組織の理念・目的、役割・機能、計画、事業・業務等の情報整理	2,3	実習ゼミ別に示された課題（個人票修正、概要表作成等）に取り組む。	1.5h	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1h
4	実習先概要表の作成等を通じた実習先に関する基本的な理解 ②実習先の利用者、一日の流れ、月間・年間スケジュール、行事の意義、地域特性等の情報整理	1,2,3	実習ゼミ別に示された課題（個人票修正、概要表作成等）に取り組む。	1.5h	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	実習先の関連業務（ 実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解 ）	1,2,3	実習ゼミ別に示された課題（個人票修正、概要表作成等）に取り組む	1.5h	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1h
6	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ①実習指導者の主な業務内容や専門的技術、利用者（対象者）との関わり方、自己覚知等	1,2,3,4	実習ゼミ別に示された課題（実習計画書下案作成等）に取り組む。	1.5h	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1h
7	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ②実践力（コミュニケーション、情報収集、ネットワーク、チームアプローチ）や専門職の倫理等	1,2,4	実習ゼミ別に示された課題（実習計画書下案作成等）に取り組む。	1.5h	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1h
8	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ③支援計画の策定やモニタリング、評価の方法、スーパービジョン等	1,2,4	実習ゼミ別に示された課題（実習計画書下案作成等）に取り組む。	1.5h	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1h
9	実習計画書の作成指導① 実習計画書の概要、実習プログラムについての理解	1,2,3	実習ゼミ別に示された課題（実習計画書下案作成等）に取り組む。	1.5h	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1h
10	実習計画書の作成指導② 実習プログラムに基づいた実習目標、実習テーマの設定	1,2,3,4	実習ゼミ別に示された課題（実習計画書作成等）に取り組む。	1.5h	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1h
11	実習計画書の作成指導③ 実習テーマに基づいた達成課題・方法の設定	1,2,3	実習ゼミ別に示された課題（実習計画書作成等）に取り組む。	1.5h	実習計画書を完成させる	1h
12	実習先事前訪問（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を含む）	1,2,3	実習先と事前訪問の日程調整を行う。事前訪問の準備。	1h	事前訪問を振り返り、気づきや反省点を整理する。	1.5h
13	実習先事前訪問の振り返り（ 三者協議を踏まえた実習計画書の作成 ）	1,2,3,4	事前訪問の気づきや反省点を、課題（実習計画書等）に反映させる。	1.5h	講義中に教員から指導があった事項を、課題（実習計画書等）に反映させる。	1h
14	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解	1,2,3,4	『実習の手引き』の「実習記録ノート」の内容確認。	1.5h	実習中の服装や持ち物等を点検し、事前準備を行う。	1h
15	実習直前オリエンテーション	4	『実習の手引き』の「実習が始まったら」	1h	オリエンテーションの内容を踏まえ、実習前の準備状況を再確認す	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			「事務手続き・事後対応」の内容確認。		る。	

合計時間（予習・復習）



40h

備考



実習にかかわる実習事務等は、実習指導室が担当します。
実習事務に関して、不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、必ず来室して確認してください。
実習指導室：大学1号館5階 TEL：027-352-1292（直通）
利用時間：実習期間外9時00分～17時00分（月～金）、実習期間中9時00分～18時00分（月～金※原則）

印刷



ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

MYカモクに追加

英文名 : Guidance to Social Work Practicum Ⅲ

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWS316

学年 : 3年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

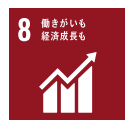
担当教員

青木 尚人、石坂 公俊、大川 健次郎、加藤 大輔、檜府 憲太

履修を必須とする資格

社会福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ・実習で経験した援助活動を専門的援助技術として概念化・理念化し、体系立てる力を涵養する。
- ・実習記録や実習経験を共有し、課題整理を通じて、社会福祉士としての専門的な技術を修得する。
- ・ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等を通して実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。
- ・グループワークを中心にソーシャルワーク実習の振り返りを行い、実習報告会の発表に向けて準備する。実習指導は実習担当教員がゼミ別に行う。

到達目標

- 1.実習先の業務内容、仕事の流れ、チームワーク、利用者との関わり方等を学び、業務に必要な知識や技術および組織人、個人としての従事者のあり方や役割を説明できるようになる。
- 2.利用者との関わり、実習指導職員による助言や指導から、社会福祉士に求められる倫理観、価値、行動基準を学び、自らの感情の表出、言動のあり方について考察を深められ、自己覚知できるようになる。
- 3.利用者（対象者）の生活と現在の状況、これまでの経験と今後のこと、抱えている課題等を多くの角度から捉え考察を深めることができる。
- 4.社会資源や他の機関（組織）との連携を軸にした問題解決の基礎的な手順や方法を学び、利用者（対象者）の具体的なニーズを発見し、アセスメントを行うことができる。
- 5.実習先の法制度上の設置目的や役割を知り、それぞれの援助現場が、歴史の流れの中で法制度とともに存在してきたことの意味を説明できるようになる。
- 6.実習全体を通して、新たな学習意欲・目標等を発見し、将来的に社会福祉士として現場に従事することへの希望と展望を見出すことができる。

使用教材

↑

実習指導に必要な共通教材は開講時指示する。

参考文献

↑

その他、実習ゼミ別に必要な教材を指示・配布する。

評価方法

↑

出欠や事後学習を含めた実習状況を勘案し総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

実習担当教員が提出物について、コメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。
修正・改善等の指示を受けた提出物は、実習担当教員の指示に従って再提出すること。

オフィスアワー

↑

授業時に教員から周知する

メールアドレス（#→@）

↑

授業時に教員から周知する

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	実習巡回指導① 前半 実習の振りかえり、実習上の課題についての個別指導	1,2,3,4,5	実習記録の振りかえり、巡回指導時のゼミ別課題への取組、実習指導教員や実習指導者への質問事項等検討。	2h	実習巡回指導の記録作成。 実習巡回指導を踏まえた実習課題・内容の見直し、実習指導者との調整等。	2h
2	実習巡回指導② 後半 実習の振りかえり、実習上の課題についての個別指導	1,2,3,4,5,6	実習記録の振りかえり、巡回指導時のゼミ別課題への取組、実習指導教員や実習指導者への質問事項等検討。	2h	実習巡回指導の記録作成。 実習巡回指導を踏まえた実習課題・内容の見直し、実習指導者との調整等。	2h
3	全体オリエンテーション	1,2,3,4,5,6	提出物（実習内容（概要）、実習後の自己評価、実習終了届）の作成および実習指導室への提出。実習先へのお礼状の作成・郵送。	2h	オリエンテーション内容を再確認する。	0.5h
4	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理① 実習経験の共有と分かち合い	1,2,3,4,5,6	実習ゼミ別に示された課題（発表準備等）に取り組む。	1.5h	実習報告書及び報告に向けて、共有・分かち合いで得た気づきを整理する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理② 分かち合いによる自己覚知の促し	1,2,3,4,5,6	実習ゼミ別に示された課題（発表準備等）に取り組む。	1.5h	実習報告書及び報告に向けて、自己覚知の内容を整理する。	1h
6	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理③ 実習テーマ、実習計画書の評価	1,2,3,4,5,6	実習ゼミ別に示された課題（発表準備等）に取り組む。	1.5h	実習報告書及び報告に向けて、課題の達成、未達成を再整理する。	1h
7	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理④ 実習テーマ、達成課題の振り返り	1,2,3,4,5,6	実習ゼミ別に示された課題（発表準備等）に取り組む。	1.5h	実習報告書及び報告に向けて、実習プログラム別に気づきを整理する。	1h
8	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理⑤ 事例検討等を通じた振り返り	1,2,3,4,5,6	実習ゼミ別に示された課題（発表準備等）に取り組む。	1.5h	講実習報告書及び報告に向けて、事例検討等のポイントを整理する。	1h
9	実習報告書の作成指導 ① 実習の目的と課題、実習内容について	1,2,3,4,5,6	実習ゼミ別に示された課題（実習報告書下案作成等）に取り組む。	2h	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1h
10	実習報告書の作成指導 ② 援助者としての自己理解と課題について	1,2,3,4,5,6	実習ゼミ別に示された課題（実習報告書下案作成等）に取り組む。	2h	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1h
11	実習報告書の作成指導 ③ （実習総括レポートの作成及び提出）	1,2,3,4,5,6	実習ゼミ別に示された課題（実習報告書作成等）に取り組む。	2h	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	2h
12	実習報告会の準備① 実習報告会の役割分担・発表内容の検討等	1,2,3,4,5,6	実習ゼミ別に示された課題（発表資料作成、内容検討等）に取り組む。	2h	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1h
13	実習報告会の準備② 実習報告会の発表内容の共有、改善点の検討等	1,2,3,4,5,6	実習ゼミ別に示された課題（発表資料作成、内容検討等）に取り組む。	2h	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1h
14	実習報告会の準備③ 実習報告会の発表内容の共有、リハーサル等	1,2,3,4,5,6	実習ゼミ別に示された課題（発表資料作成、内容検討等）に取り組む。	2h	発表資料の最終的な見直しを行い、代表者が資料を提出する。	1h
15	実習報告会 （実習の評価及び全体総括会）	1,2,3,4,5,6	実習報告会の準備、リハーサル等。	3h	実習報告会での気づきを踏まえ、実習後の目標等を考える。	1h

合計時間（予習・復習）

46h

備考

実習にかかわる実習事務等は、実習指導室が担当します。

実習事務に関して、不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、必ず来室して確認してください。

実習指導室：大学1号館5階 TEL：027-352-1292（直通）

利用時間：実習期間外9時00分～17時00分（月～金）、実習期間中9時00分～18時00分（月～金※原則）

ソーシャルワーク実習 I

MYカモクに追加

英文名 : Social Work Practicum I

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWS317

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 実習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

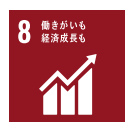
担当教員

池田 朋広、永田 理香、根岸 洋人、一柳 大輔

履修を必須とする資格

社会福祉士（介護福祉コースを除く）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

・ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。

・実習は春季休業中に行われる。各自に指導担当教員が割り振られ、実習巡回指導や帰校日指導を通して学生と実習先と連携し十分な個別指導を行う。

到達目標

1. 実習先の業務内容を理解し実習生として適切に行動できる
2. 実習計画書に従い、目標変更、課題設定をすることができる

- 3.実習指導者及び担当教員のスーパービジョンを受け、主体的に実習に取り組むことができる
- 4.社会福祉士として必要となる技術を習得し、実践できる

使用教材

実習の手引き他

評価方法

実習状況を勘案し総合的に評価する

課題・評価に対するフィードバック方法

実習巡回指導や帰校日の指導、実習ノートや実習報告会等を通じて行う
実習先の指導者からもフィードバックを受ける

オフィスアワー

担当教員のオフィスアワーは5階実習指導室の掲示板に掲示する。

メールアドレス（#→@）

担当教員のメールアドレスは5階実習指導室の掲示板に掲示する。

授業計画表

実習生は次に掲げる事項について実習指導者による指導を受ける。

- 1.利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成。
- 2.利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成。
- 3.利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価
- 4.多職種連携及びチームアプローチの実践的理解。
- 5.当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ。
- 6.地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源活用・調整・開発に関する理解
- 7.施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）。
- 8.社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解。
- 9.ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解（アウトリーチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション）。

【予習】実習の準備をしっかりと行うこと

【予習時間】適宜実施

【復習】実習ノートの作成及び整理

【復習時間】適宜実施

合計時間（予習・復習）

-

備考

この科目を履修するためにはソーシャルワーク実習指導Ⅰを履修済であること。
実習ガイダンスにて詳細を説明するので必ず参加すること。

印刷 

ソーシャルワーク実習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Social Work Practicum Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWS318

学年：3年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：4単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性
- 1 基礎的知識力
- 1 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 2 学際的な視点から取り組む力
- 2 応用・実践する能力
- 3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

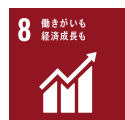
担当教員

青木 尚人、石坂 公俊、大川 健次郎、加藤 大輔、樫府 憲太

履修を必須とする資格

社会福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

・ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。

・実習は原則夏季休業中に行われる。各自に指導担当教員が割り振られ、**実習巡回指導や帰校日指導を通して学生と実習先と連携し十分な個別指導を行う。**

到達目標

- 1.実習先の業務内容を理解し実習生として適切に行動できる
- 2.実習計画書に従い、目標変更、課題設定をすることができる

- 3.実習指導者及び担当教員のスーパービジョンを受け、主体的に実習に取り組むことができる
- 4.社会福祉士として必要となる技術を習得し、実践できる

使用教材

実習の手引き他

評価方法

実習状況を勘案し総合的に評価する

課題・評価に対するフィードバック方法

実習巡回指導や帰校日の指導、実習ノートや実習報告会等を通じて行う
実習先の指導者からもフィードバックを受ける

オフィスアワー

授業時に教員から周知する

メールアドレス（#→@）

授業時に教員から周知する

授業計画表

ソーシャルワーク実習Ⅰで学んだ内容に加えて本実習では以下の点について学びを深める。

10.利用者やその関係者（家族・親族・友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成。

11.利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成。

12.利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価

13.利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価

14.多職種連携及びチームアプローチの実践的理解。

15.当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ。

16.地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源活用・調整・開発に関する理解

17.施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実践（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）。

18.社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解。

19.ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解（アウトリーチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション）。

ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等を通して実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。

【予習】実習の準備をしっかりと行うこと

【予習時間】適宜実施

【復習】実習ノートの作成及び整理

【復習時間】適宜実施

合計時間（予習・復習）

-

備考

この科目を履修するためにはソーシャルワーク実習指導Ⅰを履修済であること。また、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ・Ⅳを同時期に履修する必要がある。
実習ガイダンスにて詳細を説明するので必ず参加すること。なおガイダンス類を無断で欠席した場合には単位を認めないことがある。

印刷



精神医学と精神医療Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Psychiatry Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWP301

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：社会福祉コース選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

上原 徹

科目に関連した実務経験

精神科医として大学病院等で勤務経験35年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている

履修を必須とする資格

精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

必要に応じて、社会的課題の討議を行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学生が、「精神医学や精神医療Ⅰ」や「現代の精神保健の課題と支援」で学習した総論内容を基盤に、各論として精神保健福祉の知識を深め、精神保健福祉士として必要な知識を高め、真摯な態度を養うことができる。精神医療と人権擁護の歴

史を学ぶとともに、精神保健福祉法における精神科病院の入院形態や医療観察法について、法制度の課題を理解する。こうしたチーム医療の一員として、また予防や地域生活の支援等において、精神保健福祉士の役割と専門性を理解する。
②授業は教科書を使って、要点を解説していく。国家試験に準じたドリルと解説を公開する。参考資料PDFや、授業時間内では十分解説できなかった内容を追加動画で補講する。

到達目標

- 1.精神疾患の分類を把握するとともに、主な疾患の症状、経過、治療方法などについて適切に説明できる
- 2.精神医療と人権擁護の歴史を学ぶとともに、精神保健福祉法における精神科病院の入院形態や医療観察法について理解し、その中での精神保健福祉士の役割と法制度の課題を適切に説明できる
- 3.精神科病院 等においてチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割を説明できる ■
- 4.早期介入、再発予防や地域生活の支援等における地域の多職種連携・多機関連携における精神保健福祉士の役割について説明できる ■
- 5.医療福祉連携に関わる誠実な支援姿勢を培うことができる ■

使用教材

最新・精神保健福祉士養成講座 第1巻「精神医学と精神医療」中央法規出版（2021年度版）、を教科書として用いるので必携。

参考文献

適宜プリント資料や補講動画を用いる

評価方法

国家試験形式に準じた筆記試験90%で評価するが、授業態度（静粛さや不必要な私語など）に問題がある場合は個別に厳しく減点する。残り10%は、授業内外での自主的積極的な学習姿勢（対面での質問、メール等での質疑応答など）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

過去の国家試験や模擬問題などの解説を行い、専門職としての必要な課題をフィードバックする。

オフィスアワー

月3 金2 研究室:1号館5階501

メールアドレス（#→@）

授業で提示する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	精神医学・医療の歴史	1	「精神医学・精神医療Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	0.5h	別途準備する資料を用いて復習する。	2.5h
2	精神疾患や障害の成因と分類、状態と診断 ■	1	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1h	別途準備する資料を用いて復習する。	2h
3	代表的な疾患とその症状、経過、予後①器質性 ■	1,2,3,4	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1h	別途準備する資料を用いて復習する。	2h
4	同②精神作用物質使用症 ■	1,2,3,4	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1h	別途準備する資料を用いて復習する。	2h
5	同③統合失調症 ■	1,2,3,4	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1h	別途準備する資料を用いて復習する。	2h
6	同④気分症 ■	1,2,3,4	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1h	別途準備する資料を用いて復習する。	2h
7	同⑤神経症など ■	1,2,3,4	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1h	別途準備する資料を用いて復習する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	同⑥睡眠、人格、知能 ■	1,2,3,4	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1h	別途準備する資料を用いて復習する。	2h
9	同⑦発達と児童期 ■	1,2,3,4	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1h	別途準備する資料を用いて復習する。	2h
10	治療総論と生物薬理療法 ■	1,2,3,4	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1h	別途準備する資料を用いて復習する。	2h
11	精神療法とリハビリテーション ■	1,2,3,4	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1h	別途準備する資料を用いて復習する。	2h
12	外来と入院治療 ■	1,2,3,4	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1h	別途準備する資料を用いて復習する。	2h
13	精神保健福祉士の役割・医療観察法	2,3,4,5	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1h	別途準備する資料を用いて復習する。	2h
14	医療と福祉及び関連機関専門職との連携 ■	2,3,4,5	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1h	別途準備する資料を用いて復習する。	2h
15	精神医療や精神保健の動向 ■	1,2,3,4,5	資料を用いて自習する。	2h	試験問題を復習する。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

精神保健福祉士養成コース履修学生は必修である。「精神医学と精神医療Ⅰ」の履修を済ませていることがのぞましい。予習復習は各自試験前などに補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

現代の精神保健の課題と支援Ⅱ

MYカモクに追加

英文名 : Issues in Mental Health and Support System Ⅱ

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWP302

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 社会福祉コース選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

横澤 岳志

科目に関連した実務経験

精神保健福祉士として精神科病院及び併設する相談支援事業所に勤務（現在）

履修を必須とする資格

精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

精神疾患が国民の5大疾病のひとつとして数えられる現代社会において、精神保健への取り組みがますます重要視されている。本講義では、精神保健福祉士を目指す学生が様々な精神保健についての基本的な知識を習得し、様々な課題解決に向けた実践の基礎となることを目指す。同科目Ⅰに引き続き、現代社会の課題とアプローチ、発生予防と対策、地域精神保健に関する偏見・差別、専門職種と国や地方自治体等の役割や連携、諸外国の精神保健活動の現状や対策などを学ぶ。

講義は教科書の重要項目をパワーポイントで整理しながら進めていく。

到達目標

^

- 1.精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチについて理解する■
- 2.精神保健に関する発生予防と対策について理解する■
- 3.地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について理解する■
- 4.精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携について理解する■
- 5.諸外国の精神保健活動の現状および対策について理解する

使用教材

^

最新・精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援（中央法規出版）

評価方法

^

出席率を30%、定期試験を70%の比重で評価し、合計で60%以上を合格とする。なお、レポートにより、評価に加点する場合あり。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

定期試験後に解答を提示する。

レポートに対して、必要に応じてコメントを提示する。

オフィスアワー

^

質問等には、授業の開始前もしくは終了後にも教室や講師控室で応じる。

メールアドレス（#→@）

^

tak.yoyo0120#gmail.com

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（災害被災者、犯罪被害者等）	1	教科書の第6章第1節～第2節に目を通す	2h	災害被災者の精神保健や犯罪被害者等の支援について理解する	2h
2	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（自殺予防、身体疾患）■	1	教科書の第6章第3節～第4節に目を通す	2h	自殺予防や身体疾患に伴う精神保健について理解する	2h
3	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（貧困問題、社会的孤立）■	1	教科書の第6章第5節～第6節に目を通す	2h	貧困問題と精神保健、社会的孤立について理解する	2h
4	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（性的マイノリティ、多文化）	1	教科書の第6章第7節～第8節に目を通す	2h	性的マイノリティと精神保健および多文化に接することで生じる精神保健上の問題について理解する	2h
5	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（反復違法行為、高齢化）■	1	教科書の第6章第9節～第10節に目を通す	2h	反復違法行為と精神保健および高齢化と精神保健について理解する	2h
6	精神保健に関する発生予防と対策（予防の考え方、アルコール関連問題）■	2	教科書の第7章第1節～第	2h	精神保健における予防の考え方およびアルコール	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			2節に目を通す		関連問題に対する対策について理解する	
7	精神保健に関する発生予防と対策（薬物依存、ギャンブル等依存） ■	2	教科書の第7章第3節～第4節に目を通す	2h	薬物依存対策やギャンブル等依存対策について理解する	2h
8	精神保健に関する発生予防と対策（うつ病、子育て支援） ■	2	教科書の第7章第5節～第6節に目を通す	2h	うつ病と自殺防止対策および子育て支援と暴力、虐待予防について理解する	2h
9	精神保健に関する発生予防と対策（認知症高齢者、発達障害者） ■	2	教科書の第7章第7節～第8節に目を通す	2h	認知症高齢者や発達障害者に対する対策について理解する	2h
10	精神保健に関する発生予防と対策（社会的ひきこもり、災害時の精神保健） ■	2	教科書の第7章第9節～第10節に目を通す	2h	社会的ひきこもりや災害時の精神保健に対する対策について理解する	2h
11	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題（関連法規、人材育成、偏見・差別） ■	3	教科書の第8章第1節～第3節に目を通す	2h	精神保健に関わる関連法規、人材育成、偏見・差別について理解する	2h
12	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携（国の機関、法規、多職種の連携） ■	4	教科書の第9章第1節～第3節に目を通す	2h	国の機関、精神保健に関する法規、多職種の連携について理解する	2h
13	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携（行政機関、学会や啓発団体） ■	4	教科書の第9章第4節～第5節に目を通す	2h	地域精神保健に関わる行政機関の役割や学会、啓発団体について理解する	2h
14	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携（セルフヘルプグループと市民団体）、諸外国の精神保健活動の現状および対策（世界の精神保健） ■	4,5	教科書の第9章第6節および第10章第1節に目を通す	2h	セルフヘルプグループと市民団体および世界の精神保健の実情について理解する	2h
15	諸外国の精神保健活動の現状および対策（WHOなどの活動、諸外国の精神保健医療）	5	教科書の第10章第2節～第3節に目を通す	2h	WHOなどの国際機関の活動や諸外国の精神保健医療の実情について理解する	2h

合計時間（予習・復習）

60h

備考

質問等にはメールでも応じる。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

精神保健福祉の原理 I

MYカモクに追加

英文名 : Principles of Mental Health Social Work I

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWP303

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 社会福祉コース選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

池田 朋広

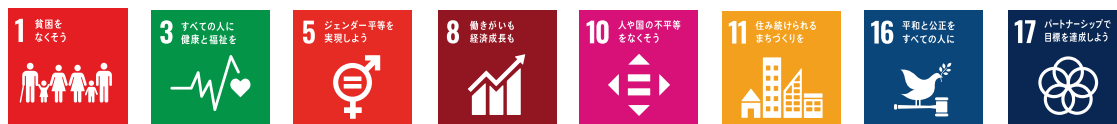
科目に関連した実務経験

- ①精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として大学病院において21年勤務（経験）
- ②非常勤として精神科クリニックデイケアに4年勤務（経験）
- ③外部講師（精神保健福祉士）として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加（現在）
- ④薬物依存症回復支援施設にて、非常勤プログラム講師（現在）

履修を必須とする資格

精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①「障害」への理解を深め、「精神障害者」の定義と、その障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活について、その対応の歴史を振り返りながら学びを深める。精神疾患・精神障害を多角的に理解し、当事

者の社会におけるあるべき姿と、その支援における本来のあり方に目を向ける。

②精神保健福祉に関するニュースやトピック等がある場合にはそれに言及することもある。また、視聴覚教材を使って、実際の現場で何が生じ、何が行われているのかについても適宜紹介していく。

到達目標 ↑

- 1.「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。
- 2.精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。
- 3.精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷を踏まえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。■

使用教材 ↑

最新 精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理 中法法規

参考文献 ↑

適宜参考書を推薦する

評価方法 ↑

出席回数と授業の終わりに行なうリアクションペーパーの割合を40%、期末試験の成績が60%で総合評価する

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

リアクションペーパーの内容について、翌週の授業の冒頭にまとめてフィードバックする。

オフィスアワー ↑

火曜日3, 4時限 312研究室

メールアドレス（#→@） ↑

ikedata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	精神障害とはどのような状態か	1	不要	0h	教科書序章を読み、今の自分が考える精神障害についてまとめる。	1.5h
2	障害者福祉の理念	1	教科書の該当ページに目を通す	2h	障害福祉の変遷を整理する。	1.5h
3	障害者福祉の歴史的展開	1	教科書の該当ページに目を通す	2h	障害福祉の発展の歴史を振り返って、時系列にまとめる	1.5h
4	制度における「精神障害者」の定義	2	精神保健福祉法の対象者について、事前に調べる	1.5h	精神保健福祉法も含めた各制度における精神障害者の定義をまとめる	1.5h
5	国際障害者分類（ICF）	2	ICFについて、事前に調べる	2h	ICFについて整理して理解し、簡単にまとめる	1.5h
6	精神障害者の障害特性	2	他の障害と精神障害の違いについて教科書を参考に調べる	1.5h	精神障害の特性を表にまとめる	1.5h
7	支援にかかわる新たな潮流	3	WRAPについて調べる	1.5h	和訳されているSAMHSAのEBPツールキットの概要を整理する	1.5h
8	「リカバリー」の概念について考える	3	リカバリーとは何かについて調べる	1.5h	自身の考えるリカバリーの在り方についてまとめる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	諸外国における排除の歴史とその後の展開	3	ピネルについて調べる	1.5 h	バザーリアの精神医療改革についてまとめる	1.5 h
10	日本における排除の歴史と構造	3	相模原障害者施設殺傷事件についてまとめる	1.5 h	精神保健福祉士が持つべき視点について考察する	1.5 h
11	日本の社会的防壁	3	教科書の該当ページに目を通す	1.5 h	偏見について、自分の考えをまとめる	1.5 h
12	精神科医療の特異性と生活への影響 ■	2,3	精神科病院の長期入院の歴史と現状について調べる	1.5 h	隔離拘束の是非について、自身の考えをまとめる	1.5 h
13	精神疾患・精神障害を抱える者の家族について ■	2,3	全国精神障害者家族会連合会の歴史について調べる	1.5 h	共依存症について調べて理解する	1.5 h
14	精神疾患・精神障害を抱える者の社会生活 ■	2,3	就労状況や経済状況について、教科書から調べる	1.5 h	精神疾患・精神障害を抱える者の望ましい社会生活について自身の考えをまとめる	1.5 h
15	メンタルヘルスをめぐる新たな課題	1,2,3	自分が思いつくメンタルヘルスに関する課題を箇条書きで列挙する	1.5 h	精神保健福祉士としての課題解決の方策についてまとめる	1.5 h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



視聴覚教材を使用する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



精神保健福祉の原理Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Principles of Mental Health Social Work Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWP304

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：社会福祉コース選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

池田 朋広

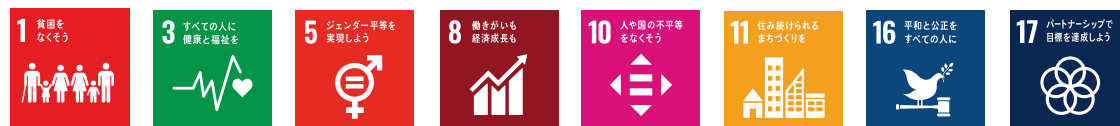
科目に関連した実務経験

- ①精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として大学病院において21年勤務（経験）
- ②非常勤として精神科クリニックデイケアに4年勤務（経験）
- ③外部講師（精神保健福祉士）として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加（現在）
- ④薬物依存症回復支援施設にて、非常勤プログラム講師（現在）

履修を必須とする資格

精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①精神保健福祉士とは、どのような立場で何を行うべき専門職であるかを知る。
精神障害者福祉に関する専門職としての独自の価値観・倫理観を体得する。

精神保健福祉士の業務特性を理解し、存在意義と職業アイデンティティの基礎を築く。

②精神保健福祉に関するニュースやトピック等がある場合にはそれに言及することもある。また、視聴覚教材を使って、実際の現場で何が生じ、何が行われているのかについても適宜紹介していく。

到達目標

1.精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く

2.現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する

3.精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する■

4.近年の精神保健福祉士の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する■

使用教材

最新 精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理 中法法規

参考文献

適宜参考書を推薦する

評価方法

出席回数と授業の終わりに行なうリアクションペーパーの割合を40%、期末試験の成績が60%で総合評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

リアクションペーパーの内容について、翌週の授業の冒頭にまとめてフィードバックする。

オフィスアワー

火曜日3, 4時限 312研究室

メールアドレス（#→@）

ikedat#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	精神保健福祉の原理が培われた足跡・過程	1	「Y問題」について調べる	0h	教科書を読み、我が国における精神科ソーシャルワーカーの歴史を知る	1.5h
2	精神保健福祉士による実践の価値・原理	1,2	「自己決定」について調べる	2h	精神保健福祉士が大切にしてきたものをまとめる	1.5h
3	精神保健福祉士による実践の視点	1,4	ソーシャルワーカーに共通して求められる役割をおさらいする	2h	リカバリーに関する、今の自分の考えをまとめる	1.5h
4	援助における関係性	1,4	援助における関係性について調べる	1.5h	共働創造についての自分の考えをまとめる	1.5h
5	パターナリズムと代理行為の諸問題について	1,2,3,4	ソーシャルワークにおける権利擁護の国際的な流れを調べる	2h	パターナリズムについて調べてまとめる	1.5h
6	意思決定支援にかかわる精神保健福祉士の専門性	2,3	意思決定支援について調べる	1.5h	意思決定支援における精神保健福祉士の支援方法についてまとめる	1.5h
7	精神保健福祉士法の理解■	2,3	精神保健福祉士が国家資格であることの意義について調べる	1.5h	精神保健福祉士が社会福祉の専門職であることへの矛盾についてまとめる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	精神保健福祉士の職業倫理 ■	3,4	ソーシャルワーカーの倫理綱領全文を読む	1.5h	バーンアウトについて調べて理解する	1.5h
9	精神障害者の人権擁護と精神保健福祉士の役割について理解する ■	3,4	障害者権利条約における理念と意義についてまとめる	1.5h	精神科医療における精神保健福祉士の位置付の現状と問題点を整理する	1.5h
10	精神保健福祉士の職場・領域	1,2,3	精神保健福祉士が働くフィールドを思いっただけ挙げる	1.5h	自身が興味を持った精神保健福祉士の仕事についてまとめる	1.5h
11	精神保健福祉活動における包括的な援助を行うための多職種連携について理解する ■	2,3	多職種連携における各職種の役割についてまとめる	1.5h	多職種連携の種類、チームビルディングについてまとめる	1.5h
12	精神保健福祉活動における包括的な援助について理解する ■	2,3,4	ソーシャルワーク理論からみて「総合的かつ包括的」援助の意味するところを理解する	1.5h	地域を基盤としてクライアントのニーズに基づく支援のアクセスメントについて事例からまとめる	1.5h
13	ソーシャルワーカーにおけるアプローチの具体例① ■	2,3,4	ストレングス視点による支援の長所を調べる	1.5h	エンパワメントされたクライアントの変化を調べる	1.5h
14	ソーシャルワーカーにおけるアプローチの具体例② ■	2,3,4	ナラティブアプローチについてまとめる	1.5h	グループ活動を通じた支援の在り方のモデルを調べる	1.5h
15	ソーシャルワーカーにおけるアプローチの具体例③ ■	2,3,4	ピアサポート活動とフェロウシップについて調べる	1.5h	当事者と精神保健福祉士との共働創造についてまとめる	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

視聴覚教材を使用する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



ソーシャルワークの理論と方法（精神）Ⅰ

MYカモクに追加

英文名：Theory and Method of Social Work（in Mental Health）Ⅰ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWP305

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：社会福祉コース選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥 浩文

科目に関連した実務経験

精神保健福祉士として精神科病院勤務、就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務、（現在、非常勤として）臨床心理オフィスのスタッフ、産業保健総合支援センターでのメンタルヘルス対策・両立支援促進員、等

履修を必須とする資格

精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①第一に、精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人の困難や希望などを的確に把握し、取り巻く状況や環境を含めて理解する。第二に、ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性の基礎について理解する。第三に、精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人のための諸制度、福祉サービスについて、その概念と利用要件や手続きを学び、現場で求められる価値・知識・技法の理解を目標とする。

②授業は講義形式で行い、授業毎にリアクションペーパーを提出してもらう。復習は、資料を必ず確認し、現場で求められる価値、知識、技法を説明できるようにすること。

到達目標 ↑

- 1 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。■
- 2 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。■

使用教材 ↑

最新・精神保健福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法〔精神専門〕日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（中央法規出版） ISBN978-4-8058-8257-3
テーマに合わせて、視聴覚教材の活用を行う場合がある。

参考文献 ↑

テーマに合わせて、文献等の紹介を予定している。

評価方法 ↑

定期試験80%、その他（出席＋リアクションペーパー席）20%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

質問事項、疑問点等に関しては、次回の授業で回答する。

オフィスアワー ↑

火曜2 時限 （303 研究室）

メールアドレス（#→@） ↑

連絡手段は初回授業時に提示する

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（方針等説明）		不要	0	教員から説明があった点や、今後の授業方針を確認する。	1
2	ソーシャルワークの概要① 「ソーシャルワークの構成要素」 ■	1	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	教科書や配布資料を再読し、理解を深める。	1.5
3	ソーシャルワークの概要② 「ソーシャルワークの展開過程」 ■	1	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	教科書や配布資料を再読し、理解を深める。	1.5
4	ソーシャルワークの概要③ 「基本視点、ミクロ・メゾ・マクロにおけるソーシャルワークの展開」 ■	1	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	教科書や配布資料を再読し、理解を深める。	1.5
5	ソーシャルワークの展開技法①「援助関係の形成技法」 ■	1	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	教科書や配布資料を再読し、理解を深める。	1.5
6	ソーシャルワークの展開技法②「インタビュー、アセスメント」 ■	1	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	教科書や配布資料を再読し、理解を深める。	1.5
7	ソーシャルワークの展開技法③「面接技術とその応用」 ■	1	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	教科書や配布資料を再読し、理解を深める。	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	ソーシャルワークの展開技法④「グループワーク（集団援助技術）」 ■	1	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	教科書や配布資料を再読し、理解を深める。	1.5
9	ソーシャルワークの展開技法⑤「アウトリーチ」 ■	1	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	教科書や配布資料を再読し、理解を深める。	1.5
10	ソーシャルワークの展開技法⑥「エコロジカル・アプローチ、エンパワメント・アプローチ、ストレングス・モデル」 ■	1	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	教科書や配布資料を再読し、理解を深める。	1.5
11	家族支援の実際①「家族の課題、家族理解の変遷」 ■	2	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	教科書や配布資料を再読し、理解を深める。	1.5
12	家族支援の実際②「家族理解の変遷、家族支援の方法」 ■	2	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	教科書や配布資料を再読し、理解を深める。	1.5
13	コミュニティワーク①「コミュニティワークの意義」 ■	1	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	教科書や配布資料を再読し、理解を深める。	1.5
14	コミュニティワーク②「地域における精神保健福祉の向上」 ■	1	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	教科書や配布資料を再読し、理解を深める。	1.5
15	総括	1,2	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	教科書や配布資料を再読し、理解を深める。	1.5

合計時間（予習・復習）

46

備考

・受講するにあたっては、2 年次までに履修できる精神保健福祉士指定科目（精神保健福祉の原理Ⅰ・Ⅱ、精神障害者リハビリテーション論、現代の精神保健の課題と支援Ⅱなど）を履修済みであることが望ましい。

・授業中に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

ソーシャルワークの理論と方法（精神）Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Theory and Method of Social Work（in Mental Health）Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWP306

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：社会福祉コース選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥 浩丈

科目に関連した実務経験

精神保健福祉士として精神科病院勤務、就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務、（現在、非常勤として）臨床心理オフィスのスタッフ、産業保健総合支援センターでのメンタルヘルス対策・両立支援促進員、等

履修を必須とする資格

精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①第一に、精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人を取り巻く環境や社会を概括し、こうした人々への差別や偏見を除去し、共生社会を実現するための諸活動を認識する。第二に、政策や制度、関係行政や地域住民に働きかける方法を具体化する。第三に、精神保健福祉援助の事例（集団や地域に関する事例を含む）を活用し、精神保健福祉士としての思考と援助過程における理論と実践について考察を深める。終局的に、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括

的援助に求められる価値・知識・技術を理解する。

②授業は講義形式で行い、授業毎にリアクションペーパーを提出してもらう。復習は、資料を必ず確認し、現場で求められる価値、知識、技法を説明できるようにすること。

到達目標

- 1 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。■
- 2 精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。■
- 3 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。■
- 4 精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。■

使用教材

最新・精神保健福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法【精神専門】日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（中央法規出版） ISBN978-4-8058-8257-3

テーマに合わせて、視聴覚教材の活用を行う場合がある。

評価方法

定期試験 80 %、その他（出席＋リアクションペーパー席）20 %で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

質問事項、疑問点等に関しては、次の授業で回答する。

オフィスアワー

火曜 2 時限（303 研究室）

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（方針等説明）		不要	0	教員から説明があった点や、今後の授業方針を確認する。	1
2	ソーシャルアクション①「ソーシャルアクションの基本的視点」	3	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	授業で扱った内容を復習する。	1.5
3	ソーシャルアクション②「地域における体制整備」 ■	3	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	授業で扱った内容を復習する。	1.5
4	ソーシャルアクション③「政策提言・政策展開」	3	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	授業で扱った内容を復習する。	1.5
5	チームアプローチ①「連携の意義と目的」 ■	1	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	授業で扱った内容を復習する。	1.5
6	チームアプローチ②「多職種・多機関連携」「チームビルディング」 ■	1	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	授業で扱った内容を復習する。	1.5
7	チームアプローチ③「チームの形態と特徴」 ■	1	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	授業で扱った内容を復習する。	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	ソーシャル・アドミニストレーション①「組織運営」 ■	2	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	授業で扱った内容を復習する。	1.5
9	ソーシャル・アドミニストレーション②「マネジメント」 ■	2	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	授業で扱った内容を復習する。	1.5
10	ソーシャル・アドミニストレーション③「人材確保・人材育成」 ■	2	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	授業で扱った内容を復習する。	1.5
11	精神保健福祉分野における実践展開①「学校・教育分野」	4	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	授業で扱った内容を復習する。	1.5
12	精神保健福祉分野における実践展開②「産業分野」 ■	4	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	授業で扱った内容を復習する。	1.5
13	精神保健福祉分野における実践展開③「司法分野」	4	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	授業で扱った内容を復習する。	1.5
14	精神保健福祉分野における実践展開④「災害分野」	4	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	授業で扱った内容を復習する。	1.5
15	総括	1,2,3,4	テキストの当該箇所を読んでおくこと。	1.5	授業で扱った内容を復習する。	1.5

合計時間（予習・復習）



46

備考



- ・受講するにあたっては、2 年次までに履修できる精神保健福祉士指定科目（精神保健福祉の原理Ⅰ・Ⅱ、精神障害者リハビリテーション論、現代の精神保健の課題と支援Ⅱなど）を履修済みであることが望ましい。
- ・授業中に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



精神障害リハビリテーション論

MYカモクに追加

英文名：Psychiatric Rehabilitation

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWP307

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：社会福祉コース選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小沼 聖治

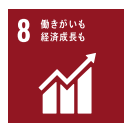
科目に関連した実務経験

精神保健福祉士として地域の障害福祉サービス等事業所で実務経験あり。

履修を必須とする資格

精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

- ・精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できるよう基礎知識を養う。
- ・精神障害リハビリテーションの知識を援助場面で活用できるよう基礎知識を養う。
- ・精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解する。

②講義の実施方法

- ・精神保健福祉に関するニュースやトピック等がある場合にはそれに言及することもある。
- また、実際の現場で何が生じ、何が行われているのかについても適宜紹介していきたい。

到達目標 ↑

- 1.精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。■
- 2.精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。■
- 3.精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。■

使用教材 ↑

最新精神保健福祉士養成講座3 精神障害リハビリテーション論（中央法規）
ISBN 978-4-8058-8254-2
このほか、適宜資料を配付する。

参考文献 ↑

NHK福祉系テレビ番組、DVD、インターネット動画等を用いる場合もある。

評価方法 ↑

定期試験＝60%、講義の参加姿勢＝40%

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

フィードバックや質問等は随時、直接またはメール等で受け付ける。

オフィスアワー ↑

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@） ↑

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス（講義予定、評価方法等の説明）	1	本科目のシラバスに目を通す	2h	本科目を履修するか否かの意思を固める。	1h
2	精神障害リハビリテーションとソーシャルワークとの関係■	1	教科書の該当ページに目を通す	1.5h	ソーシャルワーカーから見た精神障害リハビリテーションについて自分なりにまとめる	1.5h
3	精神障害者リハビリテーションの理念、歴史、定義、基本原則	1	精神障害者リハビリテーションについて自分なりに調べてみる	1.5h	精神障害者リハビリテーションの定義をまとめる	1.5h
4	精神障害リハビリテーションの対象■	1	教科書の該当ページに目を通す	1.5h	精神障害リハビリテーションの対象となる者の表を作成する	1.5h
5	チームアプローチ	1	チームアプローチについて調べてまとめる■	1.5h	精神保健福祉士としての自分が医療チームにて精神障害リハビリテーションプログラムをやる際の注意点をまとめる	1.5h
6	地域及びリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義■	1	リカバリーの概念について調べる	1.5h	リカバリー支援の視点から見た精神障害リハビリテーションについて自分なりにまとめる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	精神障害リハビリテーションのプロセス ■	2	教科書の該当ページに目を通す	1.5h	授業で習ったプロセスに沿った実際の場面をいろいろとイメージしてみる	1.5h
8	医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション ■	2	精神障害者リハビリテーションがどのような機関で行われているか調べる	1.5h	各リハビリテーションの特徴を表にする	1.5h
9	医学的リハビリテーションプログラム ■	3	教科書の該当ページに目を通す	1.5h	それぞれのプログラムを表にまとめ、簡素化して暗記できるようにする	1.5h
10	職業的リハビリテーションプログラム ■	3	教科書の該当ページに目を通す	1.5h	それぞれのプログラムを表にまとめ、簡素化して暗記できるようにする	1.5h
11	社会的リハビリテーションプログラム ■	3	教科書の該当ページに目を通す	1.5h	それぞれのプログラムを表にまとめ、簡素化して暗記できるようにする	1.5h
12	教育的リハビリテーションプログラム ■	3	教科書の該当ページに目を通す	1.5h	それぞれのプログラムを表にまとめ、簡素化して暗記できるようにする	1.5h
13	家族支援プログラム ■	3,4	精神保健福祉領域において行われている「家族支援プログラム」を調べる	1.5h	授業で1番興味深かった「家族支援プログラム」についてまとめる	1.5h
14	精神障害リハビリテーションで用いられる手法・依存症のリハビリテーションプログラム ■	4	精神障害リハビリテーションで用いられる手法・依存症のリハビリテーションについて調べてまとめる	1.5h	精神障害リハビリテーションの手法、自助グループの役割、自助グループでのリハビリテーションプログラムについてまとめる	1.5h
15	精神障害リハビリテーション論の総括・振り返り ■	1,2,3,4	これまでの授業を振り返り、要点を再確認する	6h	期末試験対策と復習	2h

合計時間（予習・復習）

50h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

精神保健福祉制度論

MYカモクに追加

英文名 : Systems for Mental Health and Welfare

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWP308

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 社会福祉コース選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

山田 竜一

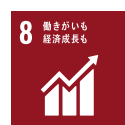
科目に関連した実務経験

自治体立精神科病院で22年間の実践経験がある。

履修を必須とする資格

精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL(課題 解決型学 習)	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- 1.精神保健福祉法及び精神障害者への医療・支援に関連した制度について学ぶ。
- 2.教科書に沿って進めながら、各制度とその制度ごとの関連性についてしっかりと理解を深める。
- 3.精神保健福祉に関するニュースやトピック等がある場合にはそれに言及することもある。また、視聴覚教材を使って、実際の現場で何が生じ、何が行われているのかについても適宜紹介していく。

到達目標



- 1.精神障害者に関する法制度の体系について理解する。
- 2.精神保健福祉法・医療観察法等の現行法・制度について正しく理解し、現行法・制度の限界と課題を意識する。
- 3.制度と関連した精神保健福祉士の役割を理解する。
- 4.生活支援制度の概要を理解し、適切な支援のあり方について事例を通して検討する。

使用教材



最新 精神保健福祉士養成講座4 精神保健福祉制度論 中央法規出版

参考文献



図解でわかるソーシャルワーク 中央法規出版、15歳からの社会保障 日本評論社

評価方法



出席回数と授業の終わりに行なうリアクションペーパーの割合を50%、期末試験の成績が50%で総合評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



リアクションペーパーの内容について、翌週の授業の冒頭にまとめてフィードバックする。

オフィスアワー



質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	精神障害者に対する法律の体系	1	不要	0h	精神障害者に関する制度・施策について一覧にまとめる	1.5h
2	精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割	1,2,3	精神保健福祉法の入院形態について調べる	1.5h	精神保健福祉士の役割について各自の考えをまとめる	2h
3	医療観察法制度の概要	1,2,3	医療観察制度の概要を調べる	2h	精神保健参与員の守秘義務についてまとめる	1.5h
4	医療観察法制度における精神保健福祉士の役割	2,3	医療観察法制における治療・支援の在り方について調べる	1.5h	社会復帰調整官の職務についてまとめる	2h
5	精神障害者における医療に関する課題	1,2,3	措置入院制度について調べる	1.5h	措置入院制度の抱える課題について、自身の考えをまとめる	1.5h
6	相談支援制度と精神保健福祉士の役割	1,3,4	精神保健福祉士が勤務する地域支援機関には、どのようなところがあるか調べる	1.5h	相談支援事業所における精神保健福祉士の仕事についてまとめる	1.5h
7	居住支援制度と精神保健福祉士の役割	3,4	精神障害者の居住支援制度を調べる	1.5h	グループホームでの支援事例から、精神保健福祉士の役割をイメージする	1.5h
8	就労支援制度と精神保健福祉士の役割	3,4	ジョブコーチについて調べる	1.5h	精神障害者の就労支援施策を整理し、課題をまとめる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	精神障害者の生活支援制度に関する課題	1,3,4	アウトリーチ支援について調べる	1.5 h	精神障害者の生活支援制度に関する課題をまとめる	1.5 h
10	生活困窮者自立支援制度と精神保健福祉士の役割	3,4	生活保護制度のセーフティネット機能について調べておく	1.5 h	ハウジングファーストについて調べてまとめる	1.5 h
11	低所得者対策と精神保健福祉士の役割	3,4	教科書の該当頁を読んでおく	1.5 h	低所得にいたる背景について調べ、自分の考えをまとめる	1.5 h
12	精神障害者の経済的支援制度に関する課題	1,3,4	障害年金制度について調べる	1.5 h	精神障害者の経済的支援制度をまとめる	1.5 h
13	「違法薬物使用障害の措置入院患者」事例を用いて、現行法制度の活用を検討する	1,2,3,4	教科書または配布資料による事例を読んでおく	1.5 h	支援事例からわかったことと、それに対する自身の考えをまとめる	1.5 h
14	「長期入院患者の退院支援事例」事例を用いて、現行法制度の活用を検討する	1,2,3,4	教科書または配布資料による事例を読んでおく	1.5 h	支援事例からわかったことと、それに対する自身の考えをまとめる	1.5 h
15	まとめと振り返り	1,2,3,4	これまで学習した精神障害者に関する制度・施策の限界と課題をまとめる	1.5 h	自身が今後必要と思われる精神障害への支援法・制度をイメージしてみる	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

視聴覚教材を使用する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

ソーシャルワーク演習（精神）Ⅰ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Social Work（in Mental Health）Ⅰ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWP309

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：社会福祉コース選択

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥 浩丈、池田 朋広、上原 徹、江島 智子

科目に関連した実務経験

【白鳥】精神保健福祉士として精神科病院、就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所の勤務経験があり、現在非常勤として臨床心理オフィスのスタッフ、産業保健総合支援センターでのメンタルヘルス対策・両立支援促進員、等での実践を行う

【池田】精神保健福祉士として大学病院等で20年以上の実務経験があり、現在は非常勤として保護観察所や薬物依存症回復支援施設で実践を行っている

【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験 30年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている

【江島】精神保健福祉士として大学附属精神科病院（常勤）、精神科診療所（非常勤）への勤務経験がある

履修を必須とする資格

精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人の困難や希望などを的確に把握し、取り巻く状況や環境を含めて理解する。その理解を踏まえ、ソーシャルワークの展開に向けた精神保健福祉士の専門性の基礎を獲得する。具体的には、精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人に活用できる諸制度、福祉サービスについて、その概念と利用要件や手続きを学び、精神保健福祉の現場で求められる価値・知識・技法を習得する。

②授業は演習形式で行う。グループワークを中心に行うため、遅刻は厳禁とする。復習は、返却された資料を必ず確認し、長期休暇や実習直前にも行い、技術として活用できるようにすること。

到達目標



- 1 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。■
- 2 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。■
- 3 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。■
- 4 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。
- 5 精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。

使用教材



「最新・精神保健福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習〔精神専門〕」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（中央法規出版） ISBN978-4-8058-8258-0

毎回の授業時に適宜レジュメを配付する。

参考文献



テーマに合わせて、文献等の紹介を予定している。

評価方法



活発な議論・活動への貢献度(60%)、レポート課題等（40%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜返却を予定している。履修者は返却された資料を必ず復習すること。

オフィスアワー



質問及び学習相談には、担当教員が授業時間前もしくは終了後に応じる。その他、メールでも受け付ける。

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（方針等説明、グループ学習におけるルール説明等）、グループ分け等		不要	0	初回授業において指導教員から説明があった点、今後の授業方針の確認	1
2	自己覚知「社会的不利の理解」	1,2	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
3	自己覚知「グリーフワーク」	1,2,3	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	基礎的技能 「面接技法」 ■	1,2,3	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
5	基礎的技能 「記録技法」 ■	1,2,3	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
6	基礎的技能 「支援計画の作成」 ■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
7	事例検討 「社会的排除」 ■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
8	事例検討 「地域生活支援」 ■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
9	事例検討 「就労・雇用」 ■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
10	事例検討 「退院支援・地域移行」 ■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
11	事例検討 「ピアサポート」 ■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
12	事例検討 「ひきこもり・家族支援」 ■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
13	事例検討 「認知症」 ■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
14	事例検討 「アウトリーチ」 ■	1,2,3,4,5	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
15	討論、総括	1,2,3,4,5	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	2	討論した内容を踏まえ、自らの考えなどを指定様式に記入する。	1

合計時間（予習・復習）

30

備考

- ・受講にあたっては、3年前期までに履修できるすべての「精神保健福祉士指定科目」を履修済みであることが望ましい。
- ・演習科目のため、活発な議論・活動に積極的に参加する学生が望ましい。
- ・授業中に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。
- ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
- ・オンライン授業を行う場合には、資料画像などを用いた動画および音声により講義や事例検討を行う。
- ・予習、復習時間は最低限必要な時間を表示するが、期間中は指示されたことや学習したことを確認整理するなどの自習で補完が必要である。

■：実務経験に基づく内容を示す。

ソーシャルワーク演習（精神）Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Social Work（in Mental Health）Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWP310

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：社会福祉コース選択

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥 浩丈、池田 朋広、上原 徹、江島 智子

科目に関連した実務経験

【白鳥】精神保健福祉士として精神科病院、就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所の勤務経験があり、現在非常勤として臨床心理オフィスのスタッフ、産業保健総合支援センターでのメンタルヘルス対策・両立支援促進員、等での実践を行う

【池田】精神保健福祉士として大学病院等で20年以上の実務経験があり、現在は非常勤として保護観察所や薬物依存症回復支援施設で実践を行っている

【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験 30年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている

【江島】精神保健福祉士として大学附属精神科病院（常勤）、精神科診療所（非常勤）への勤務経験がある

履修を必須とする資格

精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①第一に、精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を概括し、政策や制度、関係行政や地域住民に働きかける実践方法をイメージできる。第二に、精神保健福祉士の実践場面において展開されるソーシャルワークの価値・知識・技法を学ぶ。第三に、精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む）を活用し、精神保健福祉士としての思考と援助過程における理論と実践について考察を深める。終局的に、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的援助のありかたを実践的に習得する。

②授業は演習形式で行う。グループワークを中心に行うため、遅刻は厳禁とする。復習は、返却された資料を必ず確認し、長期休暇や実習直前にも行い、技術として活用できるようにすること。

到達目標

- 1.精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。■
- 2.精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。■
- 3.精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。■
- 4.精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。
- 5.精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。

使用教材

「最新・精神保健福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習〔精神専門〕」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（中央法規出版） ISBN978-4-8058-8258-0
毎回の授業時に適宜レジュメを配付する。

参考文献

テーマに合わせて、文献等の紹介を予定している。

評価方法

活発な議論・活動への貢献度(60%)、レポート課題等(40%)で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜返却を予定している。履修者は返却された資料を必ず復習すること。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、担当教員が授業時間前もしくは終了後に応じる。その他、メールでも受け付ける。

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（方針等説明、グループ学習におけるルール説明等）、グループ分け等	1	不要	0h	初回授業において指導教員から説明があった点、今後の授業方針の確認	1h
2	「ソーシャルワーク演習（精神）Ⅰ」の振り返り	1,2	「ソーシャルワーク演習（精神）Ⅰ」で学んだ内容についてレポートにまとめる。	1h	グループワークの結果を考察する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	社会資源 「情報収集、整理①」 ■	1,2	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1h	授業で扱った内容を復習する。	1h
4	社会資源 「情報収集、整理②」 ■	1,2	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1h	授業で扱った内容を復習する。	1h
5	社会資源 「発表」	1,2,3	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1h	授業で扱った内容を復習する。	1h
6	事例検討 「協議会の活用・調整・開発」 ■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1h	授業で扱った内容を復習する。	1h
7	事例検討 「ケアマネジメント」 ■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1h	授業で扱った内容を復習する。	1h
8	事例検討 「精神科救急」 ■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1h	授業で扱った内容を復習する。	1h
9	事例検討 「アルコール依存症」 ■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1h	授業で扱った内容を復習する。	1h
10	事例検討 「発達障害者」 ■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1h	授業で扱った内容を復習する。	1h
11	事例検討 「児童虐待」 ■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1h	授業で扱った内容を復習する。	1h
12	事例検討 「触法障害者」 ■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1h	授業で扱った内容を復習する。	1h
13	多職種連携 「模擬ケア会議①」 ■	1,2,3,4,5	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1h	授業で扱った内容を復習する。	1h
14	多職種連携 「模擬ケア会議②」 ■	1,2,3,4,5	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1h	授業で扱った内容を復習する。	1h
15	討論、総括	1,2,3,4,5	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	2h	討論した内容を踏まえ、自らの考えなどを指定様式に記入する。	1h

合計時間（予習・復習）

30

備考

- ・受講にあたっては、「ソーシャルワーク演習（精神）Ⅰ」を履修済みであること。
 - ・演習科目のため、活発な議論・活動に積極的に参加する学生が望ましい。
 - ・授業中に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。
 - ・予習、復習時間は最低限必要な時間を表示するが、期間中は指示されたことや学習したことを確認整理するなどの自習で補完が必要である。
 - ・オンライン授業を行う場合には、資料画像などを用いた動画および音声により講義や事例検討を行う。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

ソーシャルワーク演習（精神）Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Social Work（in Mental Health）Ⅲ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWP311

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：社会福祉コース選択

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥 浩丈、池田 朋広、上原 徹、江島 智子

科目に関連した実務経験

【白鳥】精神保健福祉士として精神科病院、就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所の勤務経験があり、現在非常勤として臨床心理オフィスのスタッフ、産業保健総合支援センターでのメンタルヘルス対策・両立支援促進員、等での実践を行う

【池田】精神保健福祉士として大学病院等で20年以上の実務経験があり、現在は非常勤として保護観察所や薬物依存症回復支援施設で実践を行っている

【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験 30年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている

【江島】精神保健福祉士として大学附属精神科病院（常勤）、精神科診療所（非常勤）への勤務経験がある

履修を必須とする資格

精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①第一に、「ソーシャルワーク実習」および「ソーシャルワーク実習（精神）」を経験した学生が、理論と実践の相互関係、自らの傾向、関心をまとめ、卒業後のキャリアパスを明確にする。第二に、精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人に必要な関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームアプローチのコーディネートスキルを涵養する。第三に、精神保健福祉士に共通する原理である、「社会的復権と権利擁護」、「自己決定」、「当事者主体」、「社会正義」、「ごく当たり前の生活」を実践的に考察し、体系的な相談援助事例を通じて、総合的かつ包括的な相談援助を理解する。終局的に、精神保健福祉士としての職業アイデンティティを構築する意義、さらに社会福祉専門職としての社会的責務を理解し、行動ができる基盤の獲得が目標となる。

②授業は演習形式で行う。グループワークを中心に行うため、遅刻は厳禁とする。復習は、返却された資料を必ず確認し、長期休暇や実習直前にも行い、技術として活用できるようにすること。

到達目標



- 1 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。■
- 2 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。■
- 3 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。■
- 4 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。
- 5 精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。

使用教材



「最新・精神保健福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習〔精神専門〕」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（中央法規出版）ISBN978-4-8058-8258-0
毎回の授業時に適宜レジュメを配付する

参考文献



テーマに合わせて、文献等の紹介を予定している。

評価方法



活発な議論・活動への貢献度(60%)、レポート課題等(40%)で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜返却を予定している。履修者は返却された資料を必ず復習すること。

オフィスアワー



質問及び学習相談には、担当教員が授業時間前もしくは終了後に応じる。その他、メールでも受け付ける。

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（方針等説明、グループ学習におけるルール説明等）、グループ分け等		不要	0	初回授業において指導教員から説明があった点、今後の授業方針を確認する。	1
2	事例検討「精神科病院」（精神保健福祉法等）■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	事例検討「障害福祉サービス事業所」（障害者総合支援法等）■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
4	事例検討「障害者虐待」（障害者虐待防止法等）■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
5	事例検討「医療観察病棟」（医療観察法等）■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
6	事例検討「経済的支援」（生活保護制度、障害年金制度等）■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
7	事例検討「就労支援」（障害者雇用促進法等）■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
8	事例検討「高齢の精神障害者」（介護保険法、老人福祉法、高齢者虐待防止法等）	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
9	事例検討「児童・思春期」（児童福祉法、児童虐待防止法等）■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
10	事例検討「依存症」（アルコール健康障害対策基本法等）■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
11	事例検討「自殺」（自殺防止対策基本法等）■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
12	事例検討「当事者活動」■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
13	事例検討「成年後見制度」■	1,2,3,4	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
14	事例検討「普及啓発活動」■	1,2,3,4,5	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	授業で扱った内容を復習する。	1
15	討論、総括	1,2,3,4,5	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1	討論した内容を踏まえ、自らの考えなどを指定様式に記入する。	2

合計時間（予習・復習）



30

備考



- ・受講にあたっては、「ソーシャルワーク演習（精神）Ⅱ」を履修済みであること。
- ・演習科目のため、活発な議論・活動に積極的に参加する学生が望ましい。
- ・授業中に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。
- ・予習、復習時間は最低限必要な時間を表示するが、期間中は指示されたことや学習したことを確認整理するなどの自習で

補完が必要である。

- ・オンライン授業を行う場合には、資料画

印刷 

ソーシャルワーク実習指導（精神）Ⅰ

MYカモクに追加

英文名：Guidance to Social Work Practicum（in Mental Health）Ⅰ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWP312

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：社会福祉コース選択

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥浩丈、池田 朋広、上原 徹、江島 智子

科目に関連した実務経験

【白鳥】精神保健福祉士として精神科病院、就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所の勤務経験があり、現在非常勤として臨床心理オフィスのスタッフ、産業保健総合支援センターでのメンタルヘルス対策・両立支援促進員、等での実践を行う

【池田】精神保健福祉士として大学病院等で20年以上の実務経験があり、現在は非常勤として保護観察所や薬物依存症回復支援施設で実践を行っている

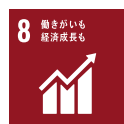
【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験 30年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている

【江島】精神保健福祉士として大学附属精神科病院（常勤）、精神科診療所（非常勤）への勤務経験がある

履修を必須とする資格

精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①講義の目標

- ・精神保健福祉援助実習を行う医療分野及び施設分野に関する基本的な知識を整理することができる。
- ・実習の心構えや実習の動機を明確化し、実習テーマ検討、実習課題の決定、実習計画案の作成を行う。
- ・精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解、実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（精神保健福祉士法及び個人情報保護法を含む）など、実習に向けた具体的な準備を始める。
- ・精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れ、障害や支援の理解を深める。

②講義の実施方法

- ・基本は演習形式で授業を行うが、必要に応じて講義形式にて行うこともある。レポートやリアクションペーパーの内容を踏まえ、適宜内容を補足する。視聴覚教材を使用する。

到達目標



1. ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。
2. 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。■
3. ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。■
4. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。■
5. 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。■

使用教材



「最新 精神保健福祉士養成 8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習[精神専門]」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（中央法規出版）ISBN978-4-8058-8259-7
資料等は適宜、授業で配布する。

参考文献



適宜参考文献を示す予定である。

評価方法



演習の活発な議論・活動への貢献度（50%）、自分の担当のレジュメづくりやグループなどでの発表（50%）、などで総合的に評価します。ただし、演習形式での授業なので、欠席や遅刻の多い学生には20%を超えた比重で（30%程度までの）成績評価の減点をする場合があります。単位取得には、無断欠席がないことなど付帯条件があるため、ガイダンス時に必ず確認すること。

課題・評価に対するフィードバック方法



提出を求めるレポートや報告書の草稿、発表ファイルについては、各自に校正やコメントを加えた上で返却する。履修者は返却された資料を復習すること。

オフィスアワー



質問及び学習相談には、担当教員が授業時間前もしくは終了後に応じる。その他、メールでも受け付ける。

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、グループ分け、個別指導等（ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義）	1	不要	0	初回授業において指導教員から説明があった点、今後の授業方針を確認する。	1

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
2	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解の確認（精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解）■	1,2,3	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	グループ学習に関するルール確認、グループ内の役割確認、その他	1
3	精神保健医療福祉の利用者に関する基本的な理解の確認（実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解）■	1,2,3	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	説明を聞いてわからなかった専門用語を確認する。	1
4	精神科医療機関と関連問題（精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験）■	1,2,3	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	説明を聞いてわからなかった専門用語を確認する。	1
5	精神保健と関連問題■	1,2,3	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	説明を聞いてわからなかった専門用語を確認する。	1
6	障害者関係施設と関連問題■	1,2,3	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	説明を聞いてわからなかった専門用語を確認する。	1
7	行政関係機関と関連問題■	1,2,3	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	説明を聞いてわからなかった専門用語を確認する。	1
8	現場体験学習及び見学実習	1,2,4	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	グループ担当者間で割り当てられた役割に沿ったまとめをする。	1
9	グループ学習・グループ発表①	2,3,4	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	他グループの発表を思い出し、自分たちの発表に活かせる手法を検討する。	1
10	精神保健福祉領域のアセスメントの方法■	1,2,3,4	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	説明を聞いてわからなかった専門用語を確認する。	1
11	アセスメントに基づくプランニングの方法■	1,2,3,4	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	説明を聞いてわからなかった専門用語を確認する。	1
12	グループ学習・グループ発表②	1,4,5	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	他グループの発表を思い出し、自分たちの発表に活かせる手法を検討する。	1
13	精神保健福祉援助介入と評価方法①■	1,2,3,4	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	講義内容を受けて、討論に際して各自で準備を進める。	1
14	精神保健福祉援助介入と評価方法②■	1,2,3,4	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	講義内容を受けて、討論に際して各自で準備を進める。	1
15	まとめと討論	1,2,3,4,5	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	討論した内容について、各自で感じたことなどを指定様式に記入する。	2

合計時間（予習・復習）



備考



- ・精神保健福祉士国家試験受験資格の取得希望者は必修。履修するためには、必須単位取得済など、付帯条件がある。予め「履修ガイド」を熟読し、必要な単位がすでに取れているか各自で確認すること。
 - ・予習、復習時間は最低限必要な時間を表示するが、期間中は指示されたことや学習したことを確認整理するなどの自習で補完が必要である。
 - ・履修登録、各指導教員のオフィスアワー、連絡方法は、初回授業（ガイダンス）時に直接案内される。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

ソーシャルワーク実習指導（精神）Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Guidance to Social Work Practicum（in Mental Health）Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWP313

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：社会福祉コース選択

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性
- 1 基礎的知識力
- 1 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 2 学際的な視点から取り組む力
- 2 応用・実践する能力
- 3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥浩丈、池田 朋広、上原 徹、江島 智子

科目に関連した実務経験

【白鳥】精神保健福祉士として精神科病院、就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所の勤務経験があり、現在非常勤として臨床心理オフィスのスタッフ、産業保健総合支援センターでのメンタルヘルス対策・両立支援促進員、等での実践を行う

【池田】精神保健福祉士として大学病院等で20年以上の実務経験があり、現在は非常勤として保護観察所や薬物依存症回復支援施設で実践を行っている

【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験 30年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている

【江島】精神保健福祉士として大学附属精神科病院（常勤）、精神科診療所（非常勤）への勤務経験がある

履修を必須とする資格

精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

- ・実習を行う医療分野及び施設分野に関する応用的な知識を深めることができる。
- ・実際に配属された実習機関や施設に関する情報を収集し、各自が実行可能な実習計画書を作成できる。
- ・実習に向けて必要となる知識や技術を、個別指導や集団指導を通して身につける。
- ・事前訪問を実施し、そこでの指導内容の説明をもとに具体的な準備を主体的に進められる。

②講義の実施方法

- ・基本は演習形式で授業を行うが、必要に応じて講義形式にて行うこともある。レポートやリアクションペーパーの内容を踏まえ、適宜内容を補足する。視聴覚教材を使用する。

到達目標

1. ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。
2. 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。■
3. ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。■
4. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。■
5. 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。■

使用教材

「最新 精神保健福祉士養成 8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習[精神専門]」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（中央法規出版）ISBN978-4-8058-8259-7
4月ガイダンスで各自に配布される「実習ノート」「実習の手引き」は必携。

参考文献

適宜資料などの配布や、DVD 教材も利用する。

評価方法

個別の実習課題や実習計画書の作成状況（50％）、演習での活発な議論・活動への貢献度（30％）、個別訪問を通じた実習準備（20％）などで総合的に評価します。演習形式での授業なので、遅刻の多い学生には20％を超えた比重で（30％程度の）成績評価の減点をする場合があります。学内実習運営規定に準拠し、健康問題や気象状況など相応の理由なく1回でも欠席した場合は、実習参加資格（単位）が得られません。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出を求めるレポートや報告書の草稿、発表ファイルについては、各自に校正やコメントを加えた上で返却する。履修者は返却された資料を復習すること。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、担当教員が授業時間前もしくは終了後に応じる。その他、メールでも受け付ける。

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、配属先確認とオリエンテーションの実施	1,2	実習指導Ⅰで課された課題を仕上げる。	0	初回ゼミにおいて指導教員から説明があった点、今後の授業方針を確認する。	1
2	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解の再確（実習先で必要とされる精神保健福祉士	1,2	授業で指示された内容を確認	1	説明を聞いてわからなかった専門用語を	1

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	としてのソーシャルワークに係る専門的知識と技術に関する理解) ■		し、予習する。		確認する。	
3	精神保健医療福祉の利用者に関する基本的な理解の再確認 ■	1,2	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	説明を聞いてわからなかった専門用語を確認する。	1
4	精神保健福祉士の職業倫理と法的責務 ■	1,2,5	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	説明を聞いてわからなかった専門用語を確認する。	1
5	実習配属先の施設・機関・事業者等に関する概要の説明と確認（実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（精神保健福祉士法及び個人情報保護法の理解を含む。） ■	1,2,3	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	説明を聞いてわからなかった専門用語を確認する。	1
6	実習配属先の施設・機関・事業者等に関する概要についての情報収集と指導① ■	1,2	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	説明を聞いてわからなかった専門用語を確認する。る。	1
7	実習配属先の施設・機関・事業者等に関する概要についての情報収集と指導② ■	1,2	自分の実習配属先について確認し、質問を準備する。	1	グループ担当者間で割り当てられた役割に沿った準備、設定をする。	1
8	実習配属先の施設・機関・事業者等の事前訪問に関する発表	1,2	自分の実習配属先について詳細を詰める。	1	他グループの発表を思い出し、自分の実習に活かせる手法を検討する。	1
9	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解	1,4,5	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	説明を聞いてわからなかった専門用語を確認する。	1
10	精神保健福祉領域のアセスメントの方法 ■	1,2	自分の実習内容について確認し、詳細を詰める。	1	他グループの発表も思い出し、自分の実習に活かせる手法を検討する。	1
11	実習計画書の作成指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成）	1,2	自分の計画について確認と修正を行う。	1	他の発表も思い出し、自分の実習に活かせる手法を検討する。	1
12	実習計画書の完成	1,2	自分の計画について再度確認を行う。	1	自分の計画に活かせる事項を検討する。	1
13	実習先との実習計画書に関する協議	1,2,4,5	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	協議を受けて、討論に際して各自で準備を進める。	1
14	実習直前オリエンテーション（巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）についての説明）	1,2,3,4,5	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	講義内容を受けて、討論に際して各自で準備を進める。	1
15	まとめと討論	1,2,3,4,5	授業で指示された内容を確認し、予習する。	1	討論した内容について、各自で感じたことなどを指定様式に記入する。	2

備考



精神保健福祉士国家試験受験資格の取得希望者は必修。履修するためには、必須単位取得済など、付帯条件がある。予め「履修ガイド」を熟読し、必要な単位がすでに取れているか各自で確認すること。

予習、復習時間は最低限必要な時間を表示するが、期間中は指示されたことや学習したことを確認整理するなどの自習で補完が必要である。

履修登録、各指導教員のオフィスアワー、連絡方法は、初回授業（ガイダンス）時に直接案内される。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

ソーシャルワーク実習指導（精神）Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Guidance to Social Work Practicum（in Mental Health）Ⅲ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWP314

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：社会福祉コース選択

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥浩丈、池田 朋広、上原 徹、江島 智子

科目に関連した実務経験

【白鳥】精神保健福祉士として精神科病院、就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所の勤務経験があり、現在非常勤として臨床心理オフィスのスタッフ、産業保健総合支援センターでのメンタルヘルス対策・両立支援促進員、等での実践を行う

【池田】精神保健福祉士として大学病院等で20年以上の実務経験があり、現在は非常勤として保護観察所や薬物依存症回復支援施設で実践を行っている

【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験 30年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている

【江島】精神保健福祉士として大学附属精神科病院（常勤）、精神科診療所（非常勤）への勤務経験がある

履修を必須とする資格

精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法



実習での自己覚知や学びのリアクションをミニレポートとして提出

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①講義の目的

- ・精神保健福祉援助実習で得た体験を共有し、実習記録や課題の整理を行うことを通して、精神保健福祉士として必要となる専門的技術の確立を目指す。
- ・実習報告会を計画、準備、実施し、実習の総括を行う。
- ・個別・集団指導をとおして、各自が精神保健福祉士として自己に求められる課題を考察して報告する。
- ・実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括報告書を提出する。

②講義の実施方法

- ・各回において、前半は課題やテーマについて概要を説明し、後半はグループワークやプレゼンテーション、質疑応答、報告書の自主作成といった形式で進める。

到達目標



1. ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。
2. 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。■
3. ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。■
4. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。■
5. 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。■

使用教材



「最新 精神保健福祉士養成 8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習[精神専門]」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（中央法規出版）ISBN978-4-8058-8259-7

4月の実習ガイダンスで配布される「実習ノート」「実習の手引き」は必携。

参考文献



補足資料等は適宜、授業で配布する。昨年度の実習報告書も目を通しておくことが望ましい。

評価方法



実習報告会でのプレゼンテーション貢献度（50%）、実習報告書の完成度（50%）、などで総合的に評価します。ただし演習形式での授業なので、遅刻の多い学生には20%を超えた比重で（30%程度までの）成績評価の減点をする場合があります。学内実習運営規定に準拠し、健康問題や気象状況など相応の理由なく1回でも無断欠席した場合は単位が得られません。

課題・評価に対するフィードバック方法



提出を求めるレポートや報告書の草稿、発表ファイルについては、各自に校正やコメントを加えた上で返却する。履修者は返却された資料を復習し、指導教官と完成に向けたやりとりをすること。

オフィスアワー



質問及び学習相談には、担当教員が授業時間前もしくは終了後に応じる。その他、メールでも受け付ける。

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	巡回指導（訪問指導、スーパービジョン） ■	1,2	それまでの実習内容、記録などをまとめる	1	指導教員から説明があった点、今後の方針をまとめる	1

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
2	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理①■	1,2	授業での指示内容を確認して予習する。	1	グループ学習に関するルール確認、グループ内の役割確認、その他	1
3	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理②■	1,2	授業での指示内容を確認して予習する。	1	グループ学習に関するルール確認、グループ内の役割確認、その他	1
4	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理③■	1,2,5	授業での指示内容を確認して予習する。	1	グループ担当者間で割り当てられた役割に沿った準備、設定をする。	1
5	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理④■	1,2,3	自分の実習内容について確認し、内容の詳細を詰める。	1	他グループの説明を聞いてわからなかった専門用語を確認する。	1
6	実習総括レポート（報告書原稿）の作成①	1,2	自分の報告書について確認し、内容を検討する。	1	他メンバーの報告も思い出し、自分の報告に活かせる手法を検討する。	1
7	実習総括レポート（報告書原稿）の作成②	1,2	自分の報告書について確認し、内容を検討する。	1	他メンバーの報告も思い出し、自分の報告に活かせる手法を検討する。	1
8	実習総括レポート（報告書原稿）の作成③	1,2	自分の報告書について確認し、内容を検討する。	1	他メンバーの報告も思い出し、自分の報告に活かせる手法を検討する。	1
9	実習総括レポート（報告書原稿）の作成④	1,4,5	報告書の内容について再度確認し、詳細を詰める。	1	自分の報告書を完成させる。	1
10	実習報告会準備①	1,2	自分の実習内容について確認し、詳細を詰める。	1	他グループの発表も思い出し、自分たちに活かせる手法を検討する。	1
11	実習報告会準備②	1,2	自分たちの発表について確認し、メンバーと討議しておく。	1	他グループの発表も思い出し、自分たちに活かせる手法を検討する。	1
12	実習報告会準備③	1,2	自分たちの発表について再度確認し、討論しておく。	1	自分たちの発表を完成する。	1
13	実習報告会（実習評価全体総括会）	1,3,4,5	授業での指示内容を確認して予習する。	1	報告会を受けて、討論されたことに際して各自で考察を進める。	1
14	実習報告会の振り返り	1,2,3,4,5	授業での指示内容を確認して予習する。	1	ふりかえりの内容を受けて、各自が自己覚知を深める。	1
15	まとめと討論	1,2,3,4,5	授業での指示内容を確認して予習する。	1	討論した内容について、各自で感じたことなどを指定様式に記入する。	1

合計時間（予習・復習）



30

備考



精神保健福祉士国家試験受験資格の取得希望者は必修。プレゼンテーションに関しては、学生が自主的自立的に協働して役割を遂行することが求められる。

予習、復習時間は最低限必要な時間を表示するが、期間中は指示されたことや学習したことを確認整理するなどの自習で補完が必要である。

履修登録、各指導教員のオフィスアワーや連絡方法は、初回授業時に直接案内される。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

ソーシャルワーク実習（精神）

MYカモクに追加

英文名：Field Study in Social Work（in Mental Health）

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWP315

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：社会福祉コース選択

単位数：4単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥浩丈、池田 朋広、上原 徹

科目に関連した実務経験

【白鳥】精神保健福祉士として精神科病院勤務、就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務、（現在、非常勤として）臨床心理オフィスのスタッフ、産業保健総合支援センターでのメンタルヘルス対策・両立支援促進員、等

【池田】精神保健福祉士として大学病院等で 20 年以上の実務経験があり、現在は非常勤として保護観察所や薬物依存症回復支援施設で実践を行っている

【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験 30 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている

履修を必須とする資格

精神保健福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

学生は、精神科病院等の病院での実習において、患者への個別支援を経験するとともに次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。ソーシャルワークに係る専門的知識と技術の理解に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得する。精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題についてソーシャルワーク実習を行う実習先において調査し具体的に把握する。

実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。以上をもって、クライアントの社会的復権、権利擁護を行う実践者として「職場実習」「職種実習」「精神保健福祉ソーシャルワーク実習」という各過程で研鑽を積む。

到達目標

1. 受診・入院・退院援助、地域定着移行支援の実際を理解できる（職場実習）■
2. デイケアやグループワーク業務、生活支援が実践できる（職種実習）■
3. 就労、在宅、教育その他社会生活上の助言や援助ができる（職種実習）■
4. 経済的問題、家族問題の調整をはかることができる（ソーシャルワーク実習）■
5. 地域連携活動の業務を担うことができる（ソーシャルワーク実習）■
6. クライアントのリカバリーを支援し、社会参加の機会を創出する（ソーシャルワーク実習）■

使用教材

全員に配布する「実習の手引き」、「実習ノート」、中央法規による「精神保健福祉援助実習指導・実習」を参考書として用いる（精神保健福祉士養成講座9）

評価方法

実習先からの評価票、連絡報告、実習指導教員による評価、実習報告会での報告レジュメ、集大成として作成される「実習報告書」の内容をもとに総合的に行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

実習後に提出が課される「実習ノート」は、実習指導教員による最終チェックにコメントを付して返却される。「実習報告書」は冊子印刷の後、実習生全員に配布される。

オフィスアワー

各自に指導担当教員が割り振られ、実習巡回指導や帰校日指導を行う。

メールアドレス（#→@）

授業で提示する。

授業計画表

基本的な実習時間数は210 時間（目安27 日間）だが、すでにソーシャルワーク実習Ⅰ及びⅡを修了した者は60 時間免除され150 時間（目安20 日間）となる。精神科医療機関での実習、障害福祉サービス事業所等での実習の二本立てとなる。実習は、規定の要件を満たした実習指定施設（医療機関、障害福祉サービス事業所等）における配属実習で、規定の要件を満たした実習指導職員の下で行う。実習は、基本的に事前学習で作成した「実習計画書」等に沿って展開する。規定の要件を満たした実習指導担当教員は、実習期間中、巡回指導や帰校日等を通して連絡調整、実習中の個別指導を十分に行う。

①学生は、精神科病院等の病院での実習において、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。

ア 受診前や入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助

イ 退院又は地域移行・地域定着支援に向けた、患者及びその家族への相談援助

ウ 入院患者と外来患者及びそれらの家族への多職種連携による支援

エ 病院外の関係機関・団体及び地域住民との連携を通じたソーシャルワーク

②学生は、精神科診療所での実習において患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。

ア 受診前や治療中の患者及びその家族への相談援助

イ 日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助

ウ 外来患者及びそれらの家族への多職種連携による支援

エ 地域の精神科病院や関係機関・団体及び地域住民との連携を通じたソーシャルワーク

③学生は、障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。

ア 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体・住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き

合い方などの円滑な人間関係の形成

イ 利用者理解と相談支援ニーズの把握及び相談支援計画の作成

ウ 利用者やその関係者（家族・友人・近隣住民等）との相談支援関係の形成

エ 利用者やその関係者（家族・友人・近隣住民等）への権利擁護及び相談支援（エンパワメントを含む。）とその評価

オ 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする相談支援におけるチームアプローチへの参加

カ 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務の意味の考察と遵守

キ 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定の遵守と組織の一員としての役割と責任への自覚

ク 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の観察

合計時間（予習・復習）



16

備考



実習は各機関によるプログラムに従って進み、各日の修了時刻前には振り返りの指導がある。

実習は夏季休業中に行われるので、研究室来室などの相談は事前にメールなどで連絡を取ること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



介護の基本 I

MYカモクに追加

英文名 : Foundations of Care I

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWK301

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 介護福祉コース必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

片桐幸司

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○					○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中にリアクションペーパーに対する振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

介護を取り巻く状況を歴史的、制度的な背景を理解して現在求められる介護像を理解する。そのために社会福祉士介護福祉士法、倫理綱領の内容だけでなく、支援を必要とする人の権利擁護を直接支援する専門職としての役割を学ぶ。授業の理解度を確認するため、授業後にリアクションペーパーを提出する。

到達目標

- 1.生活の概念を理解した上で、介護を取り巻く課題を説明できる。
- 2.様々な日常生活場面における介護実践を、根拠に基づき説明する重要性を説明できる。
- 3.自立支援の在り方と安全で安心できる支援の重要性を説明できる。

使用教材

^

介護福祉士養成講座編集委員会編集『介護の基本Ⅰ』 第2版 中央法規出版
この他に必要な資料は授業時に都度配布あるいは指示をする

参考文献

^

特になし

評価方法

^

課題（リアクションペーパー）30％，期末筆記試験70％

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題は講義で解説し、学習目標の到達度を確認する。
期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。

オフィスアワー

^

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

^

k.katagiri#hikarino-sato.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス, 第1章 第1節 介護福祉を取り巻く状況 教材 p 2-20 介護福祉の基本となる理念	1	教科書「介護福祉を取り巻く状況」を確認する	1.5 h	介護ニーズの複雑化や多様性など介護福祉を取り巻く状況について理解する	1.5 h
2	第1章 第2節 介護福祉の歴史 教材 p 21-52	1	教科書「介護福祉の歴史」を確認する	1.5 h	老人福祉法が成立した社会背景を理解する	1.5 h
3	第1章 第2節 介護福祉の歴史 教材 p 21-52	1,2	教科書「介護福祉の歴史」を確認する	1.5 h	介護保険によって規定される介護の範囲を理解する	1.5 h
4	第1章 第3節 介護福祉の基本理念 教材 p 53-67	2,3	教科書「介護福祉士の基本理念」を確認する	1.5 h	介護福祉の基本となる理念を理解する	1.5 h
5	第2章 第1節 社会福祉及び介護福祉法 教材 p 68-76	2,3	教科書「社会福祉士及び介護福祉士法」を確認する	1.5 h	社会福祉及び介護福祉法の概要を理解する	1.5 h
6	第2章 第2節 介護福祉の活動の場と役割 教材 p 77-93	2,3	教科書「介護福祉の活動の場と役割」を確認する	1.5 h	それぞれの場における介護福祉士の役割と機能を理解する	1.5 h
7	第2章 第3節 介護福祉士に求められる役割とその養成 教材 p 94-106 介護福祉士の役割と機能	2,3	教科書「介護福祉士に求められる役割とその養成」を確認する	1.5 h	介護ニーズの変化と介護福祉士に求められる役割を理解する	1.5 h
8	第2章 第4節 介護福祉士を支える団体 教材 p 107-117	2,3	教科書「介護福祉士を支える団体」を確認する	1.5 h	介護福祉士を支える職能団体や養成施設協会のはたらきを理解する	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	第3章 第1節 介護福祉士の倫理 教材 p 118-135	2,3	教科書「介護福祉士会の倫理」を確認する	1.5 h	介護にたずさわる人がもつべき職業倫理を学ぶ	1.5 h
10	第3章 第2節 日本介護福祉会の倫理綱領 教材 p 136-151 介護福祉士の倫理	2,3	教科書「日本介護福祉会の倫理綱領」を確認する	1.5 h	日本介護福祉会の倫理綱領と行動規範を例に、介護福祉の専門性と倫理を理解する	1.5 h
11	第4章 第1節 介護福祉における自立支援 教材 p 151-171 自立に向けた介護	2,3	教科書「介護福祉における自立支援」を確認する	1.5 h	自立支援の具体的な考え方を理解する	1.5 h
12	第4章 第2章 ICFの考え方 教材 p 172-179	2,3	教科書「ICFの考え方」を確認する	1.5 h	ICFにおける生活機能と各因子との相互作用について理解する	1.5 h
13	第4章 第3節 自立支援とリハビリテーション 教材 p 180-197	2,3	教科書「自立支援とリハビリテーション」について確認する	1.5 h	自立支援とリハビリテーションの基本的な考え方について理解する	1.5 h
14	第4章 第4節 自立支援と介護予防 教材 p 198-216	2,3	教科書「自立支援と介護予防」について確認する	1.5 h	自立支援と介護予防の基本的な考え方を理解する	1.5 h
15	まとめ	1,2,3	教科書全体から不明な点を確認し、質問を検討する	1.5 h	介護福祉士に求められる役割と機能を理解し専門職の態度を復習する	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

下線部は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である

印刷 

介護の基本Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Foundations of Care Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK302

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

片桐幸司

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中にリアクションペーパーに対する振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

自立支援を実践するために必要な理念と課題への対応方法について理解する。具体的には、をサービスの特徴、リスク管理、多職種連携、支援者支援の実際を学ぶ。授業の理解度を確認するため、授業後に毎回リアクションペーパーを提出する。

到達目標

- 1.自立支援のために必要なサービスのしくみと概要を説明できる
- 2.介護の実践にともなうリスクの概要を説明できる
- 3.多職種連携の必要性和実際の支援状況について説明することができる
- 4.支援者支援に必要な環境整備の必要性を説明することができる

使用教材 ^

介護福祉士養成講座編集委員会編集『介護の基本Ⅱ』第2版 中央法規
この他に必要な資料は授業時に都度配布あるいは指示をする

参考文献 ^

特になし

評価方法 ^

課題（リアクションペーパー）30％，期末筆記試験70％

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

課題は講義で解説し、学習目標の到達度を確認する。
期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。

オフィスアワー ^

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@） ^

k.katagiri#hikarino-sato.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	「私たちの生活の理解」	1	教科書「私たちの生活の理解」を確認する	1.5h	生活の構成要素，特性を理解する	1.5h
2	「介護福祉を必要とする人たちの暮らし」 介護を必要とする人の理解	1,4	教科書「介護福祉を必要とする人たちの暮らし」を確認する	1.5h	介護福祉を必要とする人たちの多様性を理解する	1.5h
3	「“その人らしさ”と“生活ニーズ”の理解」，「生活のしづらさの理解とその支援」	1,2,4	教科書「“その人らしさ”と“生活ニーズ”の理解」，「生活のしづらさの理解とその支援」を確認する	1.5h	その人らしさ、生活のニーズにおける多様性を理解する。生活のしづらさ，家族介護者の支援について理解する	1.5h
4	「利用者の生活を支えるしくみ」，「生活を支えるフォーマルサービスとは」 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ	1,2,4	教科書「利用者の生活を支えるしくみ」，「生活を支えるフォーマルサービスとは」を確認する	1.5h	地域共生社会、地域包括ケアシステム、フォーマルサービスを理解する	1.5h
5	「生活を支えるインフォーマルサービスとは」，「地域連携」	1,2,4	教科書「生活を支えるインフォーマルサービスとは」，「地域連携」を確認する	1.5h	インフォーマルサービス、地域連携の意義と目的を理解する	1.5h
6	「介護における安全の確保」，「リスクマネジメントとは何か」 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1,4	教科書「介護における安全の確保」，「リスクマネジメントとは何か」を確認する	1.5h	セーフティーマネジメント、リスクマネジメントの重要性を理解する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	「感染症対策」	1,4	教科書「感染症対策」を確認する	1.5h	感染、感染症対策に必要な知識を理解する	1.5h
8	「多職種連携・協働の必要性」 協働する多職種の役割と機能	2,3,4	教科書「多職種連携・協働の必要性」を確認する	1.5h	多職種連携・協働の必要性を理解する	1.5h
9	「多職種連携・協働に求められる基本的な能力」	2,3,4	教科書「多職種連携・協働に求められる基本的な能力」を確認する	1.5h	課題解決に対する多職種の視点と受容が必要であることを理解する	1.5h
10	「保健・医療・福祉職の役割と機能」	1,2,3,4	教科書「保健・医療・福祉職の役割と機能」を確認する	1.5h	協働する多職種の専門性と役割、機能を理解する	1.5h
11	「多職種連携・協働の実際」	1,2,3,4	教科書「多職種連携・協働の実際」を確認する	1.5h	専門職連携実践の内容と実践タイプを理解する	1.5h
12	「健康管理の意義と目的」 介護従事者の安全	1,2,3,4	教科書「健康管理の意義と目的」を確認する	1.5h	働く人の健康や生活を守る法制度について理解する	1.5h
13	「こころの健康管理」	1,2,3,4	教科書「こころの健康管理」を確認する	1.5h	ストレスとこころの健康との関係・こころの病気について理解する	1.5h
14	「身体の健康管理」, 「労働環境の整備」	1,2,3,4	教科書「身体の健康管理」, 「労働環境の整備」を確認する	1.5h	介護従事者の身体の健康障害の要因を理解する	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4	教科書、レジュメ及び資料から、これまでの講義内容や不明瞭な箇所を確認する。	1.5h	教科書、レジュメ及び資料から、これまでの講義内容を習得する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

下線部は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である

印刷 

介護の基本Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Foundations of Care Ⅲ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK303

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

内田 幸子

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○								○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中に過去の国家試験問題を解き、質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

介護を要する人たちが、その人らしく生活していくことができるよう、潜在能力を引き出し、自立を目指せるような生活支援の考え方を理解し、基礎的な知識の習得をめざす。

介護福祉士として利用者の生活支援をしていくうえで必要となる、家事支援（衣生活、住生活）を行うための知識を習得する。

家政学の観点から衣生活の支援、住生活の支援について基本指定教科書の内容に沿って、基本的な知識を学ぶ。

授業の進め方は、到達目標を達成できるよう、板書により詳しく解説、必要に応じてプリント配布、パワーポイントによる講義を進める。また、国家試験の過去問トレーニングを行い、理解度を確認し、解説して知識の定着を図る。

到達目標 ^

- 1.自立に向けた介護の意義と方法について理解できる。
- 2.介護を必要とする人を理解し、介護を必要とする人の生活を支えるしくみを理解できる。
- 3.家事を自立的に行うことを支援するための基礎的な知識・技術を理解できる。

使用教材 ^

適宜プリントを配布する
教科書「介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」介護福祉士養成講座編集委員会（中央法規）ISBN978-4-8058-8395-2

参考文献 ^

参考図書「福祉のための家政学」中川英子著（建帛社）ISBN978-4-7679-3364-1

評価方法 ^

定期試験80%、授業貢献度20%で評価する 総合評価60%以上を合格とする

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

定期試験後に掲示で正解を示す

オフィスアワー ^

火曜日4限（505研究室）

メールアドレス（#→@） ^

uchida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス 家事援助のための知識	1	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する	1.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	1.5h
2	衣生活の基本知識	1,2	教科書該当ページに目を通す	1.5h	衣生活の意義（衣生活とは、装うことの意味）について理解する	1.5h
3	被服素材の種類と特徴	1,2	配布プリントに目を通す	1.5h	被服素材の種類と特徴について理解する	1.5h
4	被服の洗濯	1,2	教科書該当ページに目を通す	1.5h	被服の洗濯について理解する	1.5h
5	高齢者に適した衣服の選択	1,2	配布プリントに目を通す	1.5h	高齢者に適した衣服の選択について理解する	1.5h
6	障害者に適した衣服の選択	1,2	配布プリントに目を通す	1.5h	障害者に適した衣服の選択について理解する	1.5h
7	着やすくて心地よい被服・ユニバーサルデザインと衣服	1,2	教科書該当ページに目を通す	1.5h	着やすくて心地よい被服・ユニバーサルデザインと衣服について理解する	1.5h
8	居住環境の整備の意義と目的	1,3	教科書該当ページに目を通す	1.5h	居住環境の整備の意義と目的について理解する	1.5h
9	快適な居住環境	1,3	。配布プリントに目を通す	1.5h	快適な居住環境について理解する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	生活空間と介護	1,3	配布プリントに目を通す	1.5h	生活空間と介護について理解する	1.5h
11	居住環境とアセスメント	1,3	教科書該当ページに目を通す	1.5h	居住環境とアセスメントについて理解する	1.5h
12	住宅改修の留意点と制度	1,3	教科書該当ページに目を通す	1.5h	住宅改修の留意点と制度について理解する	1.5h
13	安心して快適な生活の場づくり	1,3	教科書該当ページに目を通す	1.5h	安心して快適な生活の場づくりについて理解する	1.5h
14	家庭経営、家計の管理の介護	1,2,3	教科書該当ページに目を通す	1.5h	家庭経営、家計の管理の介護について理解する	1.5h
15	まとめ及び学習到達度の確認	1,2,3	教科書該当ページに目を通す	1.5h	衣生活、住生活・についての生活支援の知識を習得する	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

印刷 

介護の基本IV

MYカモクに追加

英文名：Foundations of Care IV

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK304

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

河野 敦子

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テストに対して、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

高齢者のくらしの実際（食生活と家庭経営、生活感、生活様式等）の多様性等を理解する。また、自分自身の生活を理解するための科学的な基礎知識や、高齢者・障害者の生活を理解するための科学的な基礎知識を習得することを目標とする。授業は、必要事項を板書する。必要に応じて資料を配布。また、グループワークを行う。

到達目標

- 1.介護福祉士が食生活支援をする上で必要な知識について、その概要を説明できる。
- 2.家庭生活の営みについて説明できる。
- 3.食文化と食生活の変化について説明できる。
- 4.主な栄養素の種類と消化・吸収について説明できる。

- 5.食品の分類、食事バランスガイド、衛生、購入・保存について説明できる。
- 6.調理の基本（調理法、調理器具、食器）および食品の調理性について説明できる。
- 7.高齢者・障害者の身体変化および食生活と栄養について説明できる。

使用教材 ↑

講義ごとに資料を配布する。

最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 介護福祉士養成講座編集委員会編集（中央法規）

評価方法 ↑

定期試験70%、小テスト30%

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

試験までに小テストを3回行い、その解答および解説を実施し理解を深める。

オフィスアワー ↑

授業の前後に質問は受け付けます。

メールアドレス（#→@） ↑

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、家庭生活の理解	1	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	1h	家族の定義、日本の家庭生活の変化について理解する。	1h
2	家庭を取り巻く経済活動	2	家庭生活を営む上で必要な資源は何か、調べておく（教科書ⅠP.251～254に目を通す）。	1h	高齢者や障害のある人の家庭生活の構成要素を理解する。	1h
3	食生活の基本知識	3	食文化が作られる条件について、調べておく。	1h	食生活の意義、食文化や食生活の変化を確認し、介護者としての食の支援留意すべき点について理解する。	1h
4	栄養素の消化と吸収	4	5大栄養素とは何か、調べておく。	1h	主な栄養素の種類と消化・吸収について理解する。	1h
5	食品の分類、献立の立て方	5	高齢者の食事の注意点を調べておく（教科書ⅠP.227～231に目を通す）。	1h	食品成分表、6つの基礎食品、食事バランスガイドについて理解する。 小テスト①に向けて復習をする。	2h
6	食品の衛生、小テスト①	5	調理時の衛生管理について、注意点を調べておく（教科書P.231、232に目を通す）。	1h	食品の変質と食中毒について理解する。	1h
7	食品の購入と保存、小テスト①解説	5	身近にある食品の表示について、理解を深めておく。	1h	食品の購入選択、食品の表示、保存について理解する。	1h
8	調理の基本	6	基本的な調理方法や味付けなどについて調べておく。	1h	調理の準備、調理操作、調理器具・設備について理解する。	1h
9	食品の調理性	6	各食品の調理方法の違いをまとめておく。	1h	食品ごとの調理における特性を理解する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					小テスト②に向けて復習をする。	
10	高齢者の身体機能と栄養、小テスト②	7	教科書Ⅱ第1節P.74～78に目を通す。	1h	加齢に伴う身体機能の変化と栄養について理解する。	1h
11	高齢者の食事と調理、小テスト②解説	7	教科書Ⅱ第2節P.79～83に目を通す。	1h	食品、調理形態による高齢者への配慮について理解する。	1h
12	高齢者・障がい者の介護と食生活	7	教科書Ⅱ第2節P.84～99に目を通す。	1h	高齢者や障害のある人への食事における調理形態の配慮、食器の配慮について理解する。	1h
13	高齢者の疾病と食事	7	高齢期の身体的特徴を調べておく。	1h	高齢期になりやすい疾病と、その予防や対応について理解する。 小テスト③に向けて復習をする。	2h
14	食生活と健康、小テスト③	7	生活習慣病について調べておく。	1h	健康づくりの3要素と、生活習慣病予防のための食生活のポイントについて理解する。	1h
15	介護を必要とする人の生活を支えるサービス（仕組み）の現状と課題、小テスト③解説	7	教科書Ⅱ第3節P.100～105に目を通す。	1h	食生活に関する施策や高齢者・障がい者を支援する社会的ネットワークについて理解する。	1h

合計時間（予習・復習）

33h

備考

記載した予習・復習時間では、単位習得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である
オンライン授業の場合、小テストをレポート課題（毎回）に変更する。

印刷 

介護の基本 V

MYカモクに追加

英文名 : Foundations of Care V

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWK305

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 介護福祉コース必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 1 豊かな人間性
- 1 基礎的知識力
- 1 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 2 学際的な視点から取り組む力
- 2 応用・実践する能力
- 3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

佐川祥吾

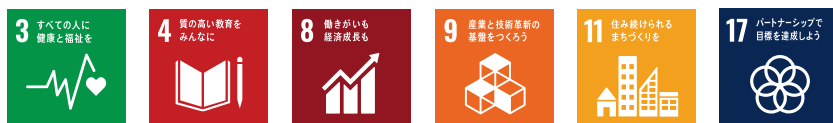
科目に関連した実務経験

介護福祉士として特別養護老人ホームに20年間、訪問介護及び居宅介護に2年間勤務

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

介護現場における介護テクノロジー（ICTや介護ロボット）の活用について、介護福祉士の立場から検討する場合、主たる目的として人材不足を補うためではなく、ケアの質を向上させる道具であることを前提に考えたい。そのためには機器を使用する介護福祉士が現在行われているケアの課題と改善策を把握し、実践できる能力が必要である。つまり、機器が自動的に介護の質を向上させるものではないことを念頭に置くことが重要である。

本講義では、介護テクノロジーと福祉用具機器全般に関することを取り扱う。まず前半に介護福祉士が目指すケアの質向上と介護テクノロジーおよび福祉機器の関係について国の施策や先行事例を学ぶ。後半では実際の運用方法と課題を学ぶ。

②講義の実施方法

講義による学びと、実践事例をもとにした介護過程の展開をグループワークを通して学ぶ。

到達目標

- 1. 福祉用具機器と介護ロボットの導入に関する国の施策を概説することができる
- 2. 人材不足への対応と介護の質向上,二つの課題に対応する意義を理解する
- 3. 非接触型睡眠センサーマットの活用方法と実践での効果と課題について理解する ■
- 4. コミュニケーションロボットの活用方法と実践での効果と課題について理解する ■
- 5. LIFE（科学的介護情報システム）の活用方法と実践での効果と課題について理解する

評価方法

期末試験 100%

課題・評価に対するフィードバック方法

講義内で作成した課題やレポートに対し、コメントを付けて返却をする。

オフィスアワー

講義終了後に対応可能

メールアドレス（#→@）

sagawasyougo # gmail.com

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション 国がめざす介護テクノロジーの活用と介護福祉士の役割と機能	1.2	自身が日常的に触れているテクノロジーは何か探る	0.5	講義内容の復習	0.5
2	介護用具の発達過程と用途の範囲 福祉用具ヒヤリハット事例集	1.2	実習施設先では、どのような福祉用具があったかを振り返る	0.5	講義内容の復習 （福祉用具のメリットとデメリット）	0.5
3	介護テクノロジーと介護助手との効率面での比較検討	1.2	事前配布資料の一読	0.5	講義内容の復習 （介護テクノロジーの導入効果）	0.5
4	介護テクノロジー具体例①夜間見守り 介護従事者の安全	1.2	介護福祉士の倫理について自己学習	0.5	講義内容の復習 （夜間見守り機器）	0.5
5	介護テクノロジー具体例②移乗支援 （装着型・非装着型）、排泄支援、 協働する多職種の役割と機能	1.2	資料（直前講義の際に配布）の一読	0.5	講義内容の復習 （移乗支援、排泄支援）	0.5
6	介護テクノロジー具体例③介護業務支援 介護を必要とする人の生活を支えるしくみの理解	1.2	資料（直前講義の際に配布）の一読	0.5	講義内容の復習 （業務、記録）	0.5
7	まとめ 介護テクノロジーと介護用具の発達過程と今後の展開、介護を必要とする人の生活を支えるしくみの理解	1.2	資料（直前講義の際に配布）の一読	0.5	講義内容の復習 （介護テクノロジーの今後）	0.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	眠りscanによる実践事例① ■	3	眠りscan資料の一読	0.5	講義内容の復習 眠りscanのメリットデメリット	0.5
9	眠りscanによる実践事例② ■	3	自身の眠りデータを記録する	0.5	講義内容の振り返り データに基づいた良質な眠り	0.5
10	眠りscanによる実践事例③ ■	3	眠りSCANの研究論文（直前講義の際に配布）の一読		講義内容の復習 眠りSCANを用いた介護計画	0.5
11	コミュニケーションロボットによる実践事例① ■	4	コミュニケーションロボット資料（直前講義の際に配布）の一読	0.5	講義内容の復習 コミュニケーションロボットのメリットデメリット	0.5
12	コミュニケーションロボットによる実践事例② ■	4	コミュニケーションロボット研究論文（直前講義の際に配布）の一読	0.5	講義内容の復習 コミュニケーションロボットを用いた介護計画	0.5
13	LIFE（科学的介護情報システム）による実践事例① 協働する多職種 の役割と機能	5	LIFE（科学的介護情報システム）資料（直前講義の際に配布）の一読	0.5	講義内容の復習 LIFE（科学的介護情報システム）のメリットデメリット	0.5
14	LIFE（科学的介護情報システム）による実践事例② 協働する多職種 の役割と機能	5	LIFE（科学的介護情報システム）資料（直前講義の際に配布）の一読	0.5	講義内容の復習 LIFE（科学的介護情報システム）のデータを基にした介護計画	0.5
15	LIFE（科学的介護情報システム）による実践事例③	5	LIFE（科学的介護情報システム）資料（直前講義の際に配布）の一読	0.5	講義内容の復習 LIFE（科学的介護情報システム）のデータを基にした介護計画と多職種協働	0.5

合計時間（予習・復習）

15時間

備考

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

印刷 

介護の基本VI

MYカモクに追加

英文名：Foundations of Care VI

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK306

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

原田 欣宏、片桐 幸司、堀口 美奈子、古郡 理重、萩原 好人

科目に関連した実務経験

原田：介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務（経験）

堀口：介護福祉士として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）

片桐：特別養護老人ホームの介護業務を経て施設長（現在）

古郡：小規模多機能型居宅介護事業所の管理者（現在）

萩原：居宅介護支援事業所の介護支援専門員（現在）

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

介護福祉士として生活支援を行う対象者の危機や障害への予測と対応が必要である。人権擁護、健康の維持向上、幸福感の追求は誰しもが得べき権利であって、とりわけ支援を必要とする人には専門職としてこれらのことも支援を行う必要がある。本講義では施設や事業所のリスクマネジメントの実際を複合的に理解し、権利擁護、幸福追求権への支援の在り方について学ぶ。

授業は、教員が準備した資料等を使用し、講義等を行う。

到達目標 ↑

- 1.様々な生活局面にあるリスクの存在を理解することができる ■
- 2.アセスメントに基づき実際の解決につなげるまでのプロセスを理解することができる
- 3.介護福祉士倫理綱領にもとづくリスクマネジメントの方法を理解することができる

使用教材 ↑

授業時に資料を随時配布

参考文献 ↑

適宜授業時に紹介する

評価方法 ↑

期末試験100%

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

期末試験後に出題意図を説明する

オフィスアワー ↑

原田：火曜1限

ほかの担当教員は授業時に提示する

メールアドレス（#→@） ↑

harada#takasaki-u.ac.jp

ほかの担当教員は授業時に提示する

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション, リスク管理の範囲と目的 ■	1,3	「介護の基本Ⅰ」教科書にある該当箇所を読む	1.5 h	リスクの可視化, ケアの質評価, 法制度での対応の範囲について整理する	1.5 h
2	リスク管理の方法、介護福祉士の役割と機能 ■	2,3	介護実習で学んだアセスメントの方法を確認する	1.5 h	マニュアルの意義と限界, ケアの質可視化, 予防と事故対応の違い, 評価の利用方法について整理する。	1.5 h
3	リスク管理の場面1－転倒防止（情報収集・アセス） ■	1,3	身体機能の原因とケアの方法について、これまで学んだことを整理する。	1.5 h	ADL評価, 施設ケア（環境整備, 社会資源）, 専門職によるケアについて整理する	1.5 h
4	リスク管理の場面1－転倒防止（計画） ■	2,3	これまで他の科目で学んだ環境整備の計画と実践方法を整理する	1.5 h	ケアの質, 家族等への説明責任, 社会的責務について整理する	1.5 h
5	リスク管理の場面2－誤飲・誤嚥（情報収集・アセス） ■	1,3	嚥下機能と身体機能の低下によるリスクを生活支援技術の教科書などで確認する	1.5 h	嚥下機能に合わせたケアの展開方法を整理する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	リスク管理の場面 2－誤飲・誤嚥（計画）■	2,3	これまで学んだ嚥下機能に合わせたケアの展開方法を整理する。	1.5h	身体機能の低下に伴うリスクに応じたケアの展開方法について整理する。	1.5h
7	リスク管理の実践 1 ケアマネジャー（情報収集・アセス）■	1,3	独居高齢者や障害者の生活リスクをこれまで学んだ教科書などで確認する	1.5h	リスクを回避する介護福祉士の役割について整理する。	1.5h
8	リスク管理の実践 1 ケアマネジャー（計画）■	2,3	本人や家族が考えるニーズの範囲について確認する。	1.5h	訪問介護の特徴と生活の質を高めリスクを軽減する視点を整理する。	1.5h
9	リスク管理の実践 2 小規模多機能型（情報収集・アセス）■	1,3	小規模多機能型居宅介護とほかのサービスを比較し特徴を理解する。	1.5h	生活歴を踏まえた生活支援の実践方法とサービス提供の体制を整理する。	1.5h
10	リスク管理の実践 2 小規模多機能型（計画）■	2,3	小規模多機能型居宅介護の特徴や制度化された背景を整理する。	1.5h	三つの支援方法と地域福祉の連携による効果を整理する。	1.5h
11	運営上のリスク 1 施設ケア（業務改革とリスク管理）■	1,3	実習を通して学んだ施設の業務改善への取り組みを確認する。	1.5h	施設ケアの研修体系や継続的な学習の意義を整理する。	1.5h
12	運営上のリスク 1 施設ケア（ケアの質向上とリスクマネジメント）■	2,3	施設職員が受講できる研修について調べて整理する。	1.5h	施設職員の資質向上と意欲を高める取り組みの意義について整理する。	1.5h
13	事業運営上のリスク 2－行政の役割①認可、指定、指導	1,3	介護保険サービスにおける行政の認可、指定、指導の権限範囲について調べる	1.5h	法的な根拠をもって事業所をチェックできることの利点をまとめる。	1.5h
14	事業運営上のリスク 2－行政の役割②事故報告書の役割	2,3	各市町村の介護保険のサービス提供時に発生した事故等の報告に関する実施要領等を確認する	1.5h	事故報告書を作成する意義を整理する	1.5h
15	まとめ	1,2,3	これまで取り扱った事例をすべて確認する	1.5h	施設管理者から見たリスク管理の流れを整理する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

印刷 

生活支援技術 I

MYカモクに追加

英文名 : Practice Living support Technique in Care I

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWK307

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 介護福祉コース必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

堀口 美奈子

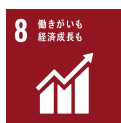
科目に関連した実務経験

介護福祉士として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①介護は、どのような状態の人であっても、その人の自立や自律を尊重しつつ潜在能力を引き出し、その人らしく生活できるよう支援する活動である。そこで本科目では、演習を通して介護を必要とする人の状況に合わせた介護技術について学び、根拠に基づいた介護を提供できる能力を身に付けることを目標とする。

②授業では、授業回に関する講義の他、事例などを踏まえた演習を行う。演習では個人ワークの他、グループワークを行い、相互作用による学習の定着を図る。

到達目標



- 1.利用者のニーズに応じた基礎的な介護技術を実践できる。■
- 2.実践する介護技術について、その根拠を自分の言葉で説明できる。■
- 3.利用者と介護者にとって、安全安楽に配慮した介護を実践できる。■
- 4.利用者との信頼関係構築やチームケアに必要な対人関係能力が獲得できる。

使用教材



生活支援技術Ⅰ第2版・介護福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版・2022年・2,200円税別
生活支援技術Ⅱ第2版・介護福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版・2022年・2,200円税別
教科書は、授業時演習テーマに沿った部分の学習に使用。その他、適宜レジュメを配布する。

評価方法



授業ごとの取り組み（活動および授業内課題）40%、提出物の充実度（各レポート）60%

課題・評価に対するフィードバック方法



提出を求めるレポートは、適宜コメント等をつけて返却する。質問やフィードバック等は、随時、直接またはメール等にて受け付ける。

オフィスアワー



月曜3限

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、生活支援の理解、自立に向けた家事の介護 ①、自立に向けた居住環境の整備 ①	1,2,3	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する	1.5h	今後の授業内容を確認し、授業で取ったノートを読み返す	1.5h
2	休息・睡眠の介護および自立に向けた居住環境の整備②■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
3	自立に向けた移動の介護①（人に触れるということ・体位変換）■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
4	自立に向けた移動の介護②（体位変換）および自立に向けた居住環境の整備③■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
5	自立に向けた移動の介護③（起き上がり、立ち上がり、移乗）■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
6	自立に向けた移動の介護④（起き上がり、立ち上がり、移乗）■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
7	自立に向けた移動の介護⑤（移乗）■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	自立に向けた移動の介護⑥（移動）■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
9	自立に向けた移動の介護⑦（移動）■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
10	自立に向けた排泄の介護■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
11	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①（部分浴）および自立に向けた身じたくの介護②（整容）■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
12	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②（入浴）■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
13	自立に向けた入浴・清潔保持の介護③（入浴）■	1,2,3,4	事前に配布するレジュメをよく読み、授業内容を把握する	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
14	自立に向けた家事の介護②、福祉用具の意義と活用■	1,2,3,4	事前に配布するレジュメをよく読み、授業内容を把握する	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
15	介護技術総合演習・まとめ■	1,2,3,4	前期に行った介護技術項目に関する教科書、配付物を読み返す	1h	検討内容について、各自で感じたことなどを指定様式に記入する	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業準備や後片付け、使用教室の掃除は、生活を支える介護を学ぶ授業の一環として、共同で実施する。事前準備は、演習時間を確保するため、授業開始前に完了するよう設定する（詳細説明は、初回に行う）。

予習・復習についての時間や内容は参考程度であり、実践に臨める力を習得するためには、繰り返しの練習が有用となる。自由時間を活用し、授業内で行った演習について復習することを推奨する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

印刷 

生活支援技術Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Practice Living support Technique in Care Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK308

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

堀口 美奈子

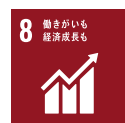
科目に関連した実務経験

介護福祉士として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①介護は、どのような状態の人であっても、その人の自立や自律を尊重しつつ潜在能力を引き出し、その人らしく生活できるよう支援する活動である。そこで本科目では、演習を通して介護を必要とする人の状況に合わせた介護技術について学び、根拠に基づいた介護を提供できる能力を身に付けることを目標とする。

②授業では、授業回に関する講義の他、事例などを踏まえた演習を行う。演習では個人ワークの他、グループワークを行い、相互作用による学習の定着を図る。

到達目標



- 1.多様な生活場面に応じた介護技術を、基礎をふまえて適切に実践できる。■
- 2.実践する介護技術について、その根拠を自分の言葉で説明できる。■
- 3.利用者とは介護者にとって、安全安楽に配慮した介護を実践できる。■
- 4.利用者との信頼関係構築やチームケアに必要な対人関係能力を獲得する。

使用教材



生活支援技術Ⅰ第2版・介護福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版・2022年・2,200円税別
生活支援技術Ⅱ第2版・介護福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版・2022年・2,200円税別
教科書は、授業時演習テーマに沿った部分の学習に使用。その他、適宜レジュメを配布する。

評価方法



授業ごとの取り組み（活動および授業内課題）40%、提出物の充実度（各レポート）60%

課題・評価に対するフィードバック方法



提出を求めるレポートは、適宜コメント等をつけて返却する。質問やフィードバック等は、随時、直接またはメール等にて受け付ける。

オフィスアワー



月曜3限

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、前期内容振り返り	1,2,3	シラバス内容、前期内容の確認	1.5h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクション	1.5h
2	自立に向けた食事の介護および自立に向けた家事の介護 ■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
3	自立に向けた身じたくの介護 （口腔ケア、感染症予防）■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
4	自立に向けた身じたく介護の実践的展開 ■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
5	自立に向けた移動介護の実践的展開 ■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
6	自立に向けた食事介護の実践的展開 ■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
7	自立に向けた移乗介護の実践的展開 ■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
8	自立に向けた排泄介護の実践的展開 ■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	自立に向けた睡眠の介護の実践的展開 ■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
10	人生の最終段階における介護① ■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
11	人生の最終段階における介護② ■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
12	基礎介護技術総合演習	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
13	自立に向けた居住環境の整備と介護技術総合演習① (事例その1) ■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
14	自立に向けた居住環境の整備と介護技術総合演習② (事例その2) ■	1,2,3,4	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1h	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2h
15	まとめ	1,2,3,4	後期に行った介護技術項目に関する教科書、配付物を読み返す	1h	検討内容について、各自で感じたことなどを指定様式に記入する	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業準備や後片付け、使用教室の掃除は、生活を支える介護を学ぶ授業の一環として、共同で実施する。事前準備は、演習時間を確保す

るため、授業開始前に完了するよう設定する（詳細説明は、初回に行う）。

予習・復習についての時間や内容は参考程度であり、実践に臨める力を習得するためには、繰り返しの練習が有用となる。

自由時間を活用し、授業内で行った演習について復習することを推奨する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

印刷 

生活支援技術Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Practice Living support Technique in Care Ⅲ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK309

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

内田 幸子

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

介護を要する人たちがその人らしく生活していくことができるよう、潜在能力を引き出し、自立を目指せるような生活支援の考え方を理解し、家政学の観点から家事支援（衣生活、住生活）を行うための知識と技術を、実習・演習を通して身につける。授業の進め方、到達目標を達成できるようグループワークによる演習のほか、現場における実践力を身につけられるよう衣生活実習、住生活実習を行う。演習・実習内容に沿ったレポートを課す。

到達目標

- 介護を要する人たちの自立に向けた身じたくの介護に必要な知識と技術を習得できる。
- 介護を要する人たちの自立に向けた居住環境の整備に必要な知識と技術を習得できる。

3.自立に向けた家事の介護に必要な知識と技術を習得できる。

使用教材

適宜プリントを配布する

教科書「介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」介護福祉士養成講座編集委員会（中央法規）ISBN978-4-8058-8395-2

参考文献

参考図書「福祉のための家政学実習」中川英子著（建帛社）ISBN978-4-7679-3605-5

評価方法

授業実践30%、製作品20%、レポート50%により評価する 総合評価60%以上を合格とする

課題・評価に対するフィードバック方法

製作品、レポートは評価して返却する

オフィスアワー

火曜日4限（505研究室）

メールアドレス（#→@）

uchida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス 家事支援の意義と目的 自立に向けた家事の介護	1	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する	1h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する	1.5h
2	家庭経営・家計の管理の介護	1,2,3	配布プリントに目を通す	1h	家計管理に関する演習課題についてグループワークして発表する	1.5h
3	衣服の手入れと管理①（洗濯実習）	1,2	配布プリントに目を通す	1h	衣服の基本的な洗濯方法を身につけ、レポートを作成する	1.5h
4	衣服の手入れと管理②（しみぬき、アイロンがけ）	1,2	配布プリントに目を通す	1h	衣服のしみぬき、アイロンがけの技術を身につけ、レポートを作成する	1.5h
5	縫製の基礎①手縫いの方法、ボタンつけ、スナップつけ	1,2	教科書該当ページを読む	1h	手縫いの方法、ボタンつけ、スナップつけの技術を身につける	1.5h
6	縫製の基礎②ミシン縫い、三つ折り縫い、マジックテープつけ、ゴムとおし	1,2	教科書該当ページを読む	1h	ミシン縫い、三つ折り縫い、マジックテープつけ、ゴムとおしの技術を身につける	1.5h
7	高齢者のための衣服（寝具、寝巻き、紙おむつ）	1,2	配布プリントに目を通す	1h	高齢者のための衣服について理解し、レポートを作成する	1.5h
8	障害者のための衣服（衣服の工夫事例）	1,2	配布プリントに目を通す	1h	障害者のための衣服について理解し、レポートを作成する	1.5h
9	快適な室内環境（温熱環境、照明、騒音、換気）	1,3	配布プリントに目を通す	1h	快適な室内環境（温熱環境、照明、騒音、換気）について理解する	1.5h
10	住まいの維持と管理（室内の整理整頓・掃除・衛生管理）	1,3	配布プリントに目を通す	1h	住まいの維持と管理について理解し、レポートを作成する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	高齢者の住環境整備の手順とコーディネート（グループワークによる事例検討）	1,3	配布プリントに目を通す	1h	高齢者の住環境整備の手順の進め方を理解する	1.5h
12	住宅改修（グループワークによる事例検討）	1,3	配布プリントに目を通す	1h	住宅改修の事例検討を通して症例別住環境整備を理解し、レポートを作成する	1.5h
13	防犯と防災（一人暮らしの危険、地震と火災時の対処）	1,3	配布プリントに目を通す	1h	防犯と防災（一人暮らしの危険、地震と火災時の対処）について理解する	1.5h
14	福祉住環境マップの作成（グループワークによるマップ作成）	1,3	配布プリントに目を通す	1h	福祉住環境マップの作成を通してバリアフリーの街づくりを考える	1.5h
15	家庭経営、家計の管理の介護	1,2,3	配布プリントに目を通す	1h	家庭経営、家計の管理の介護について理解する	1.5h

合計時間（予習・復習）



22.5h

備考



記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

印刷



生活支援技術Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Practice Living support Technique in Care Ⅳ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK310

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性
- 1 基礎的知識力
- 1 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 2 学際的な視点から取り組む力
- 2 応用・実践する能力
- 3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

河野 敦子

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

最終実習では、班ごとに献立を考え実習を行う

毎回課題に対してコメントを付し返却、実習中に振り返りを行い実習に活かす

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①介護福祉士として高齢者の自立に向けた食の支援をする上で必要な調理の基礎について、実習を通して習得することを目標とする。また、高齢者・障害者のための献立作成を行い、その内容を実習することで、実践力を養うことを目標としている。

②始めに、調理ポイントのデモンストレーションを行った上で、授業を展開する。

到達目標

- 1.衛生に留意し、安全に調理ができる。
- 2.日常の基本的な調理ができる。

3.日常の基本的な献立をたてることができる。

使用教材 ^

授業でレジユメを配布する。

評価方法 ^

筆記試験30%、実技試験20%、レポート30%、実習への積極性20%

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

レポートは毎回コメントをつけて返却する。

オフィスアワー ^

連絡手段は初回授業時に提示する。

メールアドレス（#→@） ^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（授業の進め方、実習室の使い方、計量、包丁の扱い方、レポートの書き方） 重量・廃棄量の測定	1	シラバスの内容を読んで授業目標などを理解しておく。	1h	授業内容のレポートを作成し、提出する。	1h
2	基本の調理（和風1）：ご飯、豚肉の生姜焼き、ポテトサラダ、みそ汁	1,2	ご飯の炊き方、だしの種類とだし汁の取り方について調べておく。	1h	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1h
3	基本の調理（和風2）：ひじきごはん、ほうれん草のごま和え、沢煮椀、さつま芋の茶巾	1,2	味つけご飯の作り方、野菜の茹で方、和え物の作り方について調べておく。 乾燥食品の取り扱いについて調べておく。	1h	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1h
4	基本の調理（和風3）：さつま芋ご飯、筑前煮、酢の物、すまし汁	1,2	煮物の作り方、合わせ酢について調べておく。	1h	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1h
5	基本の調理（洋風1）：サフランライスとインディアンカレー、サラダ	1,2	ソース（ルー）の調理について調べておく。	1h	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1h
6	基本の調理（中華1）：中華ちまき、トマトの卵炒め、ワンタンスープ、杏仁豆腐	1,2	もち米の扱い方について確認しておく。蒸し料理について調べておく。	1h	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1h
7	基本の調理（和風4）：ちらし寿司、青菜のお浸し、豚汁	1,2	すし飯の作り方について調べておく。	1h	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1h
8	軟菜食：全がゆ、かぶら蒸し、白和え、かきたま汁、いもち	1,2	かゆの炊き方と種類について、軟菜食について調べておく。	1h	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1h
9	介護食（アラカルト）：フレンチトースト、卵とじうどん、マッシュポテト、ブラマンジェ	1,2	咀嚼、嚥下機能の低下に伴う食事作りについて調べておく。	1h	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	郷土食（麺）：おっきりこみ（手打ち麺）、茶わん蒸し、白玉団子	1,2	鍋物料理と調理、郷土料理について調べておく。	1h	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1h
11	行事食1：グラタン、サラダ、チョコマフィン	1,2	クリスマス料理の意味について調べておく。	1h	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1h
12	行事食2：松風焼き、栗きんとん、紅白なます、雑煮	1,2	おせち料理の意味について調べておく。	1h	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1h
13	高齢者のための献立の作成	1,2	高齢者の栄養、嗜好に合う献立について調べておく。	1h	献立1食分を完成させ提出する。	1h
14	自主献立の実習、実技テスト	1,2,3	自主献立の手順を確認しておく。 実技テストに向けて、包丁の練習をしておく。	1h	実施内容のレポートを作成し、提出する。	1h
15	自主献立のまとめ、筆記試験	1,2,3	実施献立について改善点をまとめておく。	1h	実施内容の改善点をまとめ、レポートを作成し、提出する。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

印刷 

生活支援技術Ⅴ

MYカモクに追加

英文名：Practice Living support Technique in Care Ⅴ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK311

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

松沼 記代

科目に関連した実務経験

社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、デイサービスセンターで3年6か月経験

社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、グループホームで1年間経験

社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、大学在職中に介護予防教室の運営8年間経験

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○	○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

Cラーニングを使用したアンケートへの回答に対するフィードバック

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

介護の実践場面で尊厳を支えるケアを具現化するために、利用者の生活の楽しみや生きがいを支えるレクリエーションサービスの方法について学修する。また、対象者別の支援方法について理解する。

授業は、学生が介護現場で利用者の自立・生きがい支援を行う上で必要な理論や方法、技術を獲得できるように、テーマに応じて講義・演習を行う。

到達目標

- 1.社会福祉及び介護実践におけるレクリエーションの意義と概要及び支援の方法を理解する。■
- 2.福祉レクリエーション支援の方法と技術を理解できる。■
- 3.福祉レクリエーションワーカーの役割を理解できる。■
- 4.福祉レクリエーション支援の方法と技術を習得できる。■
- 5.福祉レクリエーションの課題について理解 f できる。■

使用教材

配布資料

参考文献

『楽しさの追求を支える理論と支援の方法』～理論に根ざした福祉レクリエーション支援の方法～（2014年度第2刷版）

評価方法

定期試験（40％）、レポート課題（30％）、授業参加度（30％）で評価する。総合評価60％以上を合格点とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポート課題にはコメントを付けて返却する。定期試験は配布資料の内容から出題し、持込み可とする。

オフィスアワー

授業の前後の時間。
質問や意見は、メールからでも随時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

k-matsunuma#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	介護サービスにおける尊厳を支えるケアと福祉レクリエーションのあり方①■ 休息・睡眠の介護、生活支援の理解	1	介護サービスにおけるレクリエーションの実情を確認する。	1h	尊厳支えるケアとレクリエーションの位置づけを整理する。	1h
2	介護サービスにおける尊厳を支えるケアと福祉レクリエーションのあり方②■	1	介護サービスにおけるレクリエーションの実情を調べる	1h	尊厳支えるケアとレクリエーションの位置づけを整理する	1h
3	福祉レクリエーション支援の理解① 楽しさの追求■	2	日常の中の楽しい活動について調べる。	1h	配布資料の内容を確認し、生活の中に活かす。	1h
4	福祉レクリエーション支援の理解② 楽しさを見通すための方法■	2	日常の中の楽しい活動について調べる。	1h	配布資料の内容を確認し、生活の中に活かす。	1h
5	福祉レクリエーション支援の理解③ 歩み	1,5	レクリエーションが生活の中でどのように活かされているか調べる	1h	レクリエーションの歴史から今後の課題を考える。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	楽しさ追求のための支援の方法① APIEプロセス	1,2	レクリエーションが生活の中でどのように活かされているか調べる。	1h	レクリエーションの歴史から今後の課題を考える。	1h
7	楽しさ追求のための支援の方法② TRサービスモデル 行動変容と自己効力感■	1,2	行動変容と自己効力感について調べる。	1h	行動変容を必要とする課題や自己効力感をもつことの意義を考える。	1h
8	福祉レクリエーション支援の方法 支援者のあり方■	1,2	実践できるレクリエーション活動を考える。	1h	配布資料の内容を確認し、支援する際のポイントを整理する。	1h
9	高齢者の尊厳を支えるための福祉レクの方法① 在宅サービス編■	1,2	高齢者の在宅サービスについて調べる。	1h	高齢者の在宅サービスにおけるレクリエーション支援の方法を確認する。	1h
10	高齢者の尊厳を支えるための福祉レクの方法② 入所施設編■	1,2	高齢者の入所施設におけるレクリエーション支援について調べる。	1h	高齢者の入所施設におけるレクリエーション支援の方法を確認する。	1h
11	高齢者の尊厳を支えるための福祉レクの方法③ 介護予防編■	1,2	高齢者の介護予防の実施機関について調べる。	1h	高齢者の介護予防のレクリエーション支援の方法を確認する。	1h
12	障がい児・者の尊厳を支えるための福祉レクの方法 入所施設編	1,2	障がい児・者の入所施設について調べる。	1h	障がい児・者の入所施設におけるレクリエーション支援の方法を確認する。	1h
13	高齢者入所施設における福祉レク支援の方法と計画① 個別■	2,3,4	第10回で学んだ高齢者入所施設におけるレク支援の方法を確認する。	1h	授業中に考えたレク支援計画を見直し、完成させる。	1h
14	高齢者入所施設における福祉レク支援の方法と計画② グループワーク■	2,3,4	作成した計画を他者に説明できるように準備する。	1h	グループで決定したレクリエーション計画書を整理し、完成させる。	1h
15	高齢者入所施設における福祉レク支援① 準備過程（グループワーク）■	2,3,4	グループで作成したレクリエーション支援計画書を確認する。	1h	準備過程に必要な道具を準備する。	1h
16	高齢者入所施設における福祉レク支援② 準備過程（グループワーク）■	2,3,4	準備過程に必要な道具を準備する。	1h	準備過程に必要な道具を確認し、必要な物を補う。	1h
17	高齢者入所施設における福祉レク支援③ 展開過程（グループワーク）■	2,3,4	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する。	1h	所属するグループや他のグループの支援について評価する。	1h
18	高齢者入所施設における福祉レク支援④ 展開過程（グループワーク）■	2,3,4	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する。	1h	所属するグループや他のグループの支援の中で活用できるものを整理する。	1h
19	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援の方法と計画① 個別■	2,3,4	第9回で学んだ高齢者在宅サービスにおけるレク支援の方法を確認する。	1h	授業中に考えたレク支援計画を見直し、完成させる。	1h
20	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援の方法と計画② グループワーク■	2,3,4	作成した計画を他者に説明できるように準備する。	1h	グループで決定したレクリエーション計画書を整理し、完成させる。	1h
21	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援① 準備過程（グループワーク）■	2,3,4	グループで作成したレクリエーション支援計画書を確認する。	1h	準備過程に必要な道具を準備する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
22	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援② 準備過程（グループワーク） ■	2,3,4	準備過程に必要な道具を準備する。	1h	準備過程に必要な道具を確認し、必要な物を補う。	1h
23	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援③ 展開過程（グループワーク） ■	2,3,4	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する。	1h	所属するグループや他のグループの支援について評価する。	1h
24	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援④ 展開過程（グループワーク） ■	2,3,4	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する。	1h	所属するグループや他のグループの支援の中で活用できるものを整理する。	1h
25	障がい児・者生活介護施設における福祉レク支援の方法と計画（グループワーク）	2,3,4	第12回で学んだ高齢者入所施設におけるレク支援の方法を確認する。	1h	授業中に考えたレク支援計画を見直し、完成させる。	1h
26	障がい児・者生活介護施設における福祉レク支援① 準備過程（グループワーク）	2,3,4	グループで作成したレクリエーション支援計画書を確認する。	1h	準備過程に必要な道具を準備する。	1h
27	障がい児・者生活介護施設における福祉レク支援② 準備過程（グループワーク）	2,3,4	準備過程に必要な道具を準備する。	1h	準備過程に必要な道具を確認し、必要な物を補う。	1h
28	障がい児・者生活介護施設における福祉レク支援③ 展開過程（グループワーク）	2,3,4	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する。	1h	所属するグループや他のグループの支援について評価する。	1h
29	障がい児・者生活介護施設における福祉レク支援④ 展開過程（グループワーク）	2,3,4	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する。	1h	所属するグループや他のグループの支援の中で活用できるものを整理する。	1h
30	まとめ		これまで学習した内容を整理し、福祉レクリエーションの課題について考える。	1h	これまで学習した内容やレク支援におけるポイントを実習等で活かす。	1h

合計時間（予習・復習）

60h

備考

この科目は、1回の授業につき2時限分連続して学習する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

介護過程 I

MYカモクに追加

英文名 : Care Process I

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWK312

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 介護福祉コース必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

原田 欣宏

科目に関連した実務経験

介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務（経験）

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

生活の場で介護がどのように展開されているか、自分が見過ごしてきたことや自然に感じていたことを振り返り、暮らし方や他者との関わりを考察し可視化することで介護過程の基礎を学ぶ。

授業終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出させる。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。

到達目標

- 1.演習内容をもとに他者の意見を聞き、自分の意見を述べることができる。
- 2.生活場面で行われている事象の意味を考察し、文章にまとめることができる。■
- 3.あらゆる生活場面での介護を展開する理由を他者に説明できる。

使用教材

^

川廷宗之・永野淳子「アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック」みらい

参考文献

^

授業時に紹介する

評価方法

^

授業への貢献度30%、課題作成30%、期末試験40%、総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題作成は、授業内で解説を行う。
期末試験後に、問題出題意図を説明する。

オフィスアワー

^

火曜3時限
研究室：1号館5階506

メールアドレス（#→@）

^

harada#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション／考える介護のイメージ（ 介護過程の意義と基礎的理解 ）	1,2	教科書「序章」を読んでおくこと。	1h	生活支援技術Ⅰ（排泄介助）と授業内容の関連を確認する。	0.5h
2	なぜ「考える介護」を展開するのか（ 介護過程の展開の理解 ）	1,2	教科書1章第2節を読んでおくこと。	1h	生活支援技術Ⅰ（排泄介助）と授業内容の関連を確認する。	0.5h
3	状況を観察する■	1,2	教科書1章3・4節を読んでおくこと。	1h	生活支援技術Ⅰ（移動・家事）と授業内容の関連を確認すること。	0.5h
4	聞き取る・聴き取る・他者とのかわり方を確認する・観察結果に基づく背景と展望の推測	1,2	教科書1章5・6節を読んでおくこと。	1h	生活支援技術Ⅰ（コミュニケーション）と授業内容の関連を確認すること。	0.5h
5	自分のものの見方を確認する・問題解決型の思考過程について■	1,2	教科書1章7・8節を読んでおくこと。	1h	高齢者の若いころの生活状況と現在のレクリエーション活動を確認する。	0.5h
6	介護過程全体のプロセス（ 介護過程とチームアプローチ ）	1,2	教科書2章1節を読んでおくこと。	1h	介護過程の7段階について説明できるように、授業内容を振り返る。	0.5h
7	インタビュー＜初めての出会い＞	1,2,3	教科書2章2節を読んでおくこと。	1h	共感、受容と肯定の違いについて説明できるようにまとめる。	0.5h
8	アセスメント1＜情報の収集＞	1,2,3	教科書2章3節を読んでおくこと。	1h	言語・非言語コミュニケーションを通して情報収集する理由をまとめる。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	アセスメント2<情報の統合化> 介護過程とチームアプローチ	1,2,3	教科書2章4節を読んでおくこと。	1h	構成要素間の矢印の方向ごとの関係性について自分の考えをまとめる。	0.5h
10	アセスメント3<課題の分析・明確化>	1,2,3	教科書2章5節を読んでおくこと。	1h	利用者の要望、希望と必要性について分けて説明する意味をまとめる。	0.5h
11	介護目標の設定	1,2,3	教科書2章6節を読んでおくこと。	1h	評価可能で具体的に目標を設定するポイントをまとめる。	0.5h
12	介護計画の立案・実施	1,2,3	教科書2章7・8節を読んでおくこと。	1h	介護計画を実施するために生じる介護者と利用者の思いのずれをまとめる。	0.5h
13	モニタリング・介護記録の作成	1,2,3	教科書2章9節を読んでおくこと。	1h	モニタリングの必要性について説明ができるようにまとめる。	0.5h
14	介護計画の評価	1,2,3	教科書2章10節を読んでおくこと。	1h	介護計画と介護過程の評価する内容の違いをまとめる。	0.5h
15	まとめ	1,2,3	教科書や配布資料を読み、内容と介護過程の意味を再確認する。	1h	演習全体を振り返り、介護過程を展開する理由をまとめる。	0.5h

合計時間（予習・復習）

22.5h

備考

予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

印刷 

介護過程Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Care Process Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK313

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

原田 欣宏

科目に関連した実務経験

介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務（経験）

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

事例を通して介護の理念とスキルに基づく介護過程の展開方法を理解することが出来る。

授業終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出させる。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。またミニレポートやアンケート回答を課す。

到達目標

- 1.事例を通して利用者の希望を把握し、生活課題と支援方法を文章にまとめる考え方を理解ことができる。
- 2.情報の分析、解釈、生活課題、計画の作成に関する基本的な考え方を説明することができる。■
- 3.事例を通して介護福祉士としての理念、価値観、リスクマネジメント、チームケアを実践するための介護過程を展開する方法を説明することができる。

使用教材

↑

川廷宗之・永野淳子「アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック」みらい（2016年）

参考文献

↑

特になし

評価方法

↑

授業への貢献度30%、課題提出30%、期末試験40%、総合評価60%以上を合格とする

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

課題作成は、授業内で解説を行う。期末試験後に、問題出題意図を説明する。

オフィスアワー

↑

火曜3時限
研究室：1号館5階506

メールアドレス（#→@）

↑

harada#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション／介護過程の意義／独居利用者の在宅生活の継続に向けた事例1■	1	第3章第1節を読んでおくこと。	0.5h	事例における利用者と家族の生活課題についてまとめる。	0.5h
2	独居利用者の在宅生活の継続に向けた事例2■	1	第3章第1節を読んでおくこと。	0.5h	誰が読んでもわかりやすい具体的な介護計画に仕上げる。	0.5h
3	介護施設から自宅へ外泊する利用者の事例1	1	第3章第2節を読んでおくこと。	0.5h	事例における利用者と家族の生活課題についてまとめる。	0.5h
4	介護施設から自宅へ外泊する利用者の事例2	1,2	第3章第2節を読んでおくこと。	0.5h	利用者の希望を重視した介護計画を立案しまとめること。	0.5h
5	尊厳を守る介護	1,2,3	第4章第1節を読んでおくこと。	0.5h	利用者の尊厳を守るためにどのような心構えが必要かまとめる。	0.5h
6	価値の問題と介護過程	1,2,3	第4章第2節を読んでおくこと。	0.5h	介護過程の評価の段階で行わなければならないことをまとめること。	0.5h
7	倫理的葛藤と介護過程	1,2,3	第4章第3節を読んでおくこと。	0.5h	倫理的葛藤の向き合い方、解決方法についてまとめること。	0.5h
8	利用者主体の介護過程	1,2,3	第4章第4節を読んでおくこと。	0.5h	他者の性格や好み、こだわりを理解して、適切に説明できるようにまとめる。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	個別化の実践と介護過程	1,2,3	第4章第5節を読んでおくこと。	0.5h	個別化を実践するうえで気を付けることを説明できるようにまとめる。	0.5h
10	自立支援に向けた介護過程 (介護過程とチームアプローチ)	1,2,3	第4章第6節を読んでおくこと。	0.5h	自己決定の自立を実現するための注意点をまとめる。	0.5h
11	人権（権利擁護）と介護過程	1,2,3	第4章第7節を読んでおくこと。	0.5h	利用者を守るために必要な法律について説明できるようにまとめる。	0.5h
12	リスクマネジメントと介護過程	1,2,3	第4章第8節を読んでおくこと。	0.5h	リスクマネジメントにおいて必要な視点をまとめる。	0.5h
13	チームケアの実践と介護過程	1,2,3	第4章第9節を読んでおくこと。	0.5h	チームケアを行う上での課題の解決方法を提案できるようにまとめる。	0.5h
14	多職種連携と介護過程	1,2,3	第4章第10節を読んでおくこと。	0.5h	多職種連携を行う上での介護福祉士の専門性を説明できるようにまとめる。	0.5h
15	まとめ／介護過程の展開（介護過程の展開の理解）	1,2,3	介護過程の展開方法と注意点をこれまでの授業内容から振り返る。	0.5h	介護過程の展開を行うために、現在不足していることをまとめる。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

印刷 

介護過程Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Care Process Ⅲ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK314

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

堀口 美奈子

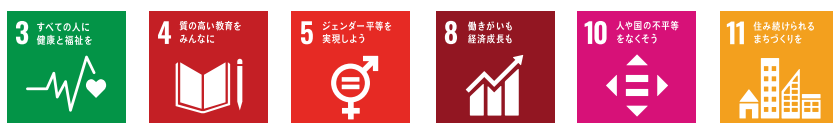
科目に関連した実務経験

介護福祉士として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①介護を必要とする人の「QOL（生活、人生、生命の質）」を高めていくためには、介護過程の計画的な実践が欠かせない。そこで本科目では、介護過程の意義を理解し、根拠に基づく介護が展開できるよう、他の科目で学習した知識や技術を統合し、事例から解決すべき生活上の課題を挙げられるようになることを目標とする。

②授業では、事例を基に、個人ワークやグループワークを実施する。自分でまとめたことの発表や他者意見を聴くことによって、クラスメイトとともに介護過程を展開する力を育てることを目指しているため、遅刻や欠席には注意すること。

到達目標

^

- 1.介護過程の全体像について説明できる。■
- 2.事例について専門的視点を基に情報を収集できる。■
- 3.収集した情報の分析を行うことができる。■
- 4.解決すべき生活上の課題を明確にできる。■
- 5.自分の考えた介護過程について、相手に伝わるよう根拠を示しながら説明できる。
- 6.相手の話を聞き、自分の介護過程に関する思考を深めることができる。

使用教材

^

教科書は使用せず、教員作成資料を基に授業を行う。

評価方法

^

授業での取り組み（活動および授業内課題）40%、提出物の充実度（事例課題シート）60%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

提出を求めるレポートは、適宜コメント等をつけて返却する。質問やフィードバック等は、随時、直接またはメール等にて受け付ける。

オフィスアワー

^

月曜3限

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、介護過程の意義と基本的理解■	1	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する	0.5h	今後の授業内容を確認し、授業で取ったノートを読み返す	0.5h
2	プロセスおよび全体像を踏まえた介護過程とチームアプローチの理解	1	授業で配付する資料を読み、授業内容を把握する	0.5h	授業で取ったノートを読み返し、しっかり復習する	0.5h
3	介護過程の展開の理解：アセスメントの実際 事例Ⅰ①情報収集■	2,5,6	授業で配付するレジュメを読み、授業内容を把握する	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
4	介護過程の展開の理解：アセスメントの実際 事例Ⅰ②情報分析■	3,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
5	介護過程の展開の理解：アセスメントの実際 事例Ⅰ③生活上課題抽出・優先順決定■	4,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.75h
6	介護過程の展開の理解：アセスメントの実際 事例Ⅰ④まとめ■	1,5,6	これまでの演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5h	自分の書いたものと例示を比べる、資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.75h
7	介護過程の展開の理解：アセスメントの実際 事例Ⅱ①情報収集■	2,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	介護過程の展開の理解：アセスメントの実際 事例Ⅱ②生活の様子項目A情報分析 ■	3,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
9	介護過程の展開の理解：アセスメントの実際 事例Ⅱ③生活の様子項目A生活上課題抽出 ■	4,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
10	介護過程の展開の理解：アセスメントの実際 事例Ⅱ④生活の様子項目B情報分析 ■	3,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
11	介護過程の展開の理解：アセスメントの実際 事例Ⅱ⑤生活の様子項目B生活上課題抽出 ■	4,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
12	介護過程の展開の理解：アセスメントの実際 事例Ⅱ⑥生活の様子項目C情報分析 ■	3,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
13	介護過程の展開の理解：アセスメントの実際 事例Ⅱ⑦生活の様子項目C生活上課題抽出 ■	4,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
14	介護過程の展開の理解：アセスメントの実際 事例Ⅱ⑧優先順決定・まとめ ■	1,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5h	自分の書いたものと例示を比べる、資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
15	まとめ ■	1,2,3,4,5,6	介護過程のアセスメントについて理解できたか自己評価する	0.5h	自己評価の結果不十分な所は再度学習する	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

授業時の配布資料は、積み重ねた思考過程を示すものであるため、出席の際は忘れずに持参する。
予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位取得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。
■：実務経験に基づく内容を示す。
太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

印刷 

介護過程Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Care Process Ⅳ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK315

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

堀口 美奈子

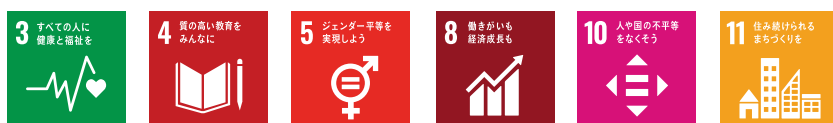
科目に関連した実務経験

介護福祉士として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①介護を必要とする人の「QOL（生活の質、生命の質）」を高めていくためには、介護過程の計画的な実践が欠かせない。そこで本科目では、事例を通して介護過程の展開過程（アセスメント、介護計画の作成、実施、評価）を学び、根拠に基づく介護実践を提供できる能力を身につけることを目標とする。

②授業では、事例を基に、個人ワークやグループワークを実施する。自分でまとめたことの発表や他者意見を聴くことによって、クラスメイトとともに介護過程を展開する力を育てることを目指しているため、遅刻や欠席には注意すること。

到達目標



1. 介護過程の展開過程を具体的に説明できる。■
2. 事例について専門的視点を基にアセスメントを行える。■
3. 解決すべき生活上の課題を明確にできる。■
4. 根拠に基づく介護計画を立案し、実施や評価について説明できる。■
5. 自分の考えた介護過程について、相手に伝わるよう根拠を示しながら説明できる。■
6. 相手の話を聞き、自分の介護過程に関する思考を深めることができる。■

使用教材



教科書は使用せず、教員作成資料を基に授業を行う。

評価方法



授業での取り組み（活動および授業内課題）40%、提出物の充実度（事例課題シート）60%

課題・評価に対するフィードバック方法



提出を求めるレポートは、適宜コメント等をつけて返却する。質問やフィードバック等は、随時、直接またはメール等にて受け付ける。

オフィスアワー



月曜3限

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、介護過程Ⅲ振り返り、 介護過程の意義と基礎的理解 ■	1	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する	0.5h	今後の授業内容を確認し、授業で取ったノートを読み返す	0.5h
2	介護過程とチームアプローチ および 介護過程の展開の理解 事例Ⅰ①情報収集■	2,5,6	授業で配付する資料を読み、授業内容を把握する	0.5h	授業で取ったノートを読み返し、しっかり復習する	0.5h
3	介護過程の展開の理解 事例Ⅰ②情報分析■	2,5,6	授業で配付するレジメを読み、授業内容を把握する	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
4	介護過程の展開の理解 事例Ⅰ③分析検討■	2,3,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5h	自分の記述と例示を比べる、資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
5	介護過程の展開の理解 事例Ⅰ④計画作成■	4,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
6	介護過程の展開の理解 事例Ⅰ⑤計画検討■	4,5,6	これまでの演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5h	自分の書いたものと例示を比べる、資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
7	介護過程の展開の理解 事例Ⅰ⑥実施・評価■	1,4,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
8	介護過程の展開の理解 事例Ⅰ⑦まとめ■	1,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	介護過程とチームアプローチ および介護過程の展開の理解 事例Ⅱ①情報収集 ■	2,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめる	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
10	介護過程の展開の理解 事例Ⅱ②情報分析 ■	2,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめる	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
11	介護過程の展開の理解 事例Ⅱ③分析検討	2,3,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめる	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
12	介護過程の展開の理解 事例Ⅱ④計画作成 ■	4,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめる	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
13	介護過程の展開の理解 事例Ⅱ⑤計画検討 ■	4,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめる	0.5h	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
14	介護過程の展開の理解 事例Ⅱ⑥実施・評価 ■	1,4,5,6	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめる	0.5h	自分の記載と例示を比べる、資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5h
15	まとめ ■	1,2,3,4,5,6	介護過程の一連の思考過程について理解できたか自己評価する	0.5h	自己評価の結果不十分な所は再度学習する	0.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



授業時の配布資料は、積み重ねた思考過程を示すものであるため、出席の際は忘れずに持参する。
予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位取得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。
■：実務経験に基づく内容を示す。
太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

印刷

介護過程Ⅴ

MYカモクに追加

英文名：Care Process Ⅴ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK316

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

原田 欣宏

科目に関連した実務経験

介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

実習の経験を踏まえて、専門職として実践的な「介護過程の展開」とは何かを理解し、必要なスキルを身につける。他職種との連携における介護福祉士の役割を自覚する。

授業はグループワークを中心に実施する。

到達目標

- 1.アセスメントに基づいた介護過程の展開方法を説明することができる
- 2.グループワークで他者の意見を理解してアセスメント用紙にまとめることができる
- 3.介護過程とチームアプローチの実際と実践方法を説明することができる
- 4.本人、家族の意向をふまえながら立案する介護計画の課題について理解することができる■

使用教材

^

授業時に資料を配布する

評価方法

^

授業参加度20%、レポート40%、定期試験40%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題作成は、授業内で解説を行う。期末試験後に問題の出題意図を説明する。

オフィスアワー

^

火曜1時限
研究室：1号館5階506

メールアドレス（#→@）

^

harada#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション・介護過程とチームアプローチの実際とはなにか【 介護過程とチームアプローチ 】	1,2,3	介護過程Ⅲ・Ⅳまでの授業内容を読み返す。	0.5h	他の教科で学んだ「多職種連携」「チームアプローチ」に関することと、授業内容を整理する。	0.5h
2	事例①「医療ニーズのある独居男性への支援」 アセスメント【 介護過程の意義と基礎的理解 】	1,2,3	高血圧に関するケアの方法について確認すること。	0.5h	授業での議論を踏まえてアセスメントの内容を整理する。	0.5h
3	事例①「医療ニーズのある独居男性への支援」 情報の統合・分析・解釈	1,2,3	住宅改修に関する情報を事前に確認すること。	0.5h	授業での議論を踏まえて情報の統合・分析・解釈の文章を整理すること。	0.5h
4	事例①「医療ニーズのある独居男性への支援」 目標・サービス内容【 介護過程の展開の理解 】 ■	1,2,3,4	脳梗塞後遺症に対する生活リハビリの方法を確認すること。	0.5h	授業での議論を踏まえて目標・サービス内容の文章を整理すること。	0.5h
5	事例②「老健退所後の意欲を喚起する支援」 アセスメント	1,2,3	老人保健施設で実施可能なケア内容を確認すること。	0.5h	授業での議論を踏まえてアセスメントの内容を整理する。	0.5h
6	事例②「老健退所後の意欲を喚起する支援」 情報の統合・分析・解釈	1,2,3	短下肢装具を利用する人のケアについて確認すること。	0.5h	授業での議論を踏まえて情報の統合・分析・解釈の文章を整理すること。	0.5h
7	事例②「老健退所後の意欲を喚起する支援」 目標・サービス内容■	1,2,3,4	興味関心のあることに取り組むための環境整備について情報を確認すること。	0.5h	授業での議論を踏まえて目標・サービス内容の文章を整理すること。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	事例③「在宅復帰のための本人と家族への支援」 アセスメント	1,2,3	排泄に関する医療介護両面のケアについて確認すること。	0.5h	授業での議論を踏まえてアセスメントの内容を整理する。	0.5h
9	事例③「在宅復帰のための本人と家族への支援」 情報の統合・分析・解釈	1,2,3	施設の生活環境を整える方法について確認する。	0.5h	授業での議論を踏まえて情報の統合・分析・解釈の文章を整理すること。	0.5h
10	事例③「在宅復帰のための本人と家族への支援」 目標・サービス内容■	1,2,3,4	在宅に向けた生活動作の支援方法を確認する。	0.5h	授業での議論を踏まえて目標・サービス内容の文章を整理すること。	0.5h
11	事例④「帰宅願望への支援」アセスメント	1,2,3	転倒防止に向けた生活環境の整備方法について確認すること。	0.5h	授業での議論を踏まえてアセスメントの内容を整理する。	0.5h
12	事例④「帰宅願望への支援」統合・分析・解釈	1,2,3	脳梗塞後遺症と大腸がんの医学的管理について確認すること。	0.5h	授業での議論を踏まえて情報の統合・分析・解釈の文章を整理すること。	0.5h
13	事例④「帰宅願望への支援」目標・サービス内容■	1,2,3,4	本人と介護者の意向にずれがあるときの支援について整理する。	0.5h	授業での議論を踏まえて目標・サービス内容の文章を整理すること。	0.5h
14	まとめ① アセスメントの実際	1,2,3,4	事例①～④において検討したアセスメントで残された課題を整理する。	0.5h	授業での議論を踏まえてアセスメントを実践するときのポイントを整理する。	0.5h
15	まとめ② 統合・分析・解釈の実際	1,2,3,4	事例①～④において検討した情報の統合・分析・解釈で残された課題を整理する。	0.5h	利用者ニーズと現実の生活を統合するポイントを整理する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

事例検討の進行に合わせて要点を説明する。他者の意見を取り入れながら、より良いケアの提供を目指す姿勢が重要である。

予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

印刷 

介護総合演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Guidance of practice care training I

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWK317

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 介護福祉コース必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

原田 欣宏、堀口 美奈子、富田 俊

科目に関連した実務経験

原田 : 介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務（経験）

堀口 : 介護福祉士として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）

富田 : 看護師として病院に勤務（経験）

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①介護実習 I にむけて、必要な技術と知識を修得する。また、介護福祉士になるために必要な自己の課題を明確にし、自分で学ぶ力を培う。実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーションなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学修とする。介護総合演習につ

いては、知識と技術の統合を目指すため、実習と組み合わせての学修とする。

②授業は、教員が作成した資料等を使用し、講義やグループワークを行う。また個別指導では、配属先施設等の資料に基づいて個別の学習目標を設定し、介護実習Ⅰにて活用する。

到達目標

1.基本的な介護の知識・技術・倫理を理解し、具体的な介護につながる過程を説明できる。■
2.介護実習Ⅰの目的や目標を理解し、実習で学ぶことを具体的に説明できる。
3.現場に活かせる記録等の書き方や作成の方法を説明できる。■
4.自己の課題を明確にし、現場実践に基本的なコミュニケーションについて説明できる。■

使用教材

学科作成の実習の手引き、教員作成資料

評価方法

学習態度40%（授業中、グループ演習時の態度）
課題の理解度30%（授業時の演習、課題に対する理解度）
提出物30%（個人票、誓約書など必要書類の内容及び提出状況）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出を求めるレポートは、適宜コメント等をつけて返却する。質問やフィードバック等は、随時、直接またはメール等にて受け付ける。

オフィスアワー

原田：火曜3時限506研究室
堀口：月曜3時限502研究室
富田：月曜2時限504研究室

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、実習全体の理解	1,2	介護福祉士の専門性について確認する。	0.5h	当日の講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。	0.5h
2	知識と技術の統合（介護実習施設の機能及び役割の理解）■	1,2	実習対象施設・利用者に関する制度やサービスについて調べる。	0.5h	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5h
3	知識と技術の統合（介護実習施設の機能及び役割の理解）■	1,2	実習対象施設・利用者に関する制度やサービスについて調べる。	0.5h	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5h
4	知識と技術の統合（介護実習施設利用者・家族の理解）■	1,2	実習施設利用者の生活背景について調べる。	0.5h	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5h
5	知識と技術の統合（介護実習施設利用者・家族の理解）■	1,2	実習施設利用者の生活背景について調べる。	0.5h	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5h
6	知識と技術の統合・介護実践の科学的探求（実習記録の意義や記載方法の理解）■	1,2,3	実習の手引きや配布資料から実習記録の位置付けや内容を確認する。	0.5h	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	知識と技術の統合・介護実践の科学的探求（実習記録の意義や記載方法の理解）■	1,2,3	実習の手引きや配布資料から実習記録の位置付けや内容を確認する。	0.5h	授業の内容を復習、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5h
8	知識と技術の統合・介護実践の科学的探求（実習記録の意義や記載方法の理解）■	1,2,3	違和感のあった過去の事例を確認し、プロセスレコードを作成する。	0.5h	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5h
9	知識と技術の統合・介護実践の科学的探求（実習記録の意義や記載方法の理解）■	1,2,3	実習記録の書き方を学習するために、日常の1日の記録を作成する。	0.5h	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5h
10	知識と技術の統合・介護実践の科学的探求（実習記録の意義や記載方法の理解）■	1,2,3	実習の手引きや配布資料から実習記録の位置付けや内容を確認する。	0.5h	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5h
11	知識と技術の統合・介護実践の科学的探求（介護実習Ⅰの目標、課題の明確化：個別指導①）	2,3,4	自己の課題を明確化し、目標を含む個人票、誓約書の下書きを作成する。	0.5h	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5h
12	知識と技術の統合・介護実践の科学的探求（介護実習Ⅰの目標、課題の明確化：個別指導②）	2,3,4	前回授業内容を踏まえ、目標を含む個人票、誓約書の下書きを作成する。	0.5h	個人票・誓約書を完成させ、実習指導室に提出する。必要に応じ担当教員と面談する。	0.5h
13	知識と技術の統合・介護実践の科学的探求（実習記録の意義や記載方法の理解）■	1,2,3	実習の手引きや配布資料から実習記録の位置付けや内容を確認する。	0.5h	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5h
14	知識と技術の統合（実習施設利用者とのコミュニケーションの方法）■	1,4	実習の手引きや配布資料を一読する。	0.5h	実習の手引きを確認する。実習施設で事前オリエンテーションを受ける	0.5h
15	実習ガイダンス	1,2	事前オリエンテーションの内容を教員に報告する。実習内容を確認する。	0.5h	実習の手引きを読み、提出用書類について確認する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位取得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

印刷



介護総合演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Guidance of practice care training Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK318

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

原田 欣宏、堀口 美奈子、富田 俊

科目に関連した実務経験

原田：介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務（経験）

堀口：介護福祉士として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）

富田：看護師として病院に勤務（経験）

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

利用者個別のニーズを理解できる能力をつけるための学修を行う。そのためにアセスメントの実施方法について学ぶ。また、介護実習Ⅰの学びを振り返り、次の実習に向けて介護実習前の介護技術の確認や実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等につい

て、個別の学習到達状況に応じた総合的な学修とする。

授業は、教員が作成した資料等を使用し、講義やグループワークを行う。グループワークを用いて互いに実習の学びを紹介することで学びを深め、教員よりコメントすることで正確な理解につながるように展開する。

到達目標

- 1.利用者やスタッフとのコミュニケーションをより深化したものになるように、ニーズの把握に必要な知識を身に付けることができる
- 2.介護過程の展開をふまえた記録の作成について理解することができる■
- 3.アセスメント用紙の基本的な使い方や意味について理解することができる
- 4.介護実習Ⅱにおける講義目標を理解することができる

使用教材

介護実習の手引き

評価方法

学習態度40%（授業中、グループ演習時の態度）、課題の理解度30%（授業時の演習、課題に対しての理解度）、提出物30%（個人票、誓約書など必要書類の内容及び提出状況）

課題・評価に対するフィードバック方法

課題の意図は提出前に説明する。提出物に関する書き方の指導を行ったうえで提出を求める。

オフィスアワー

原田：火曜3時限506研究室
堀口：月曜3時限502研究室
富田：月曜2時限504研究室

メールアドレス（#→@）

harada#takasaki-u.ac.jp
ほかの担当教員は授業時に提示

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	介護実習Ⅰのまとめ① 日誌■	1,2	介護実習Ⅰで作成した課題を読み返す	0.5h	授業で考えた日誌から報告書に記載する項目について検討する	0.5h
2	介護実習Ⅰのまとめ② プロセスレコード■	1,2	介護実習Ⅰで考えたプロセスレコードについて説明することを準備する	0.5h	授業で考えたプロセスレコードからの学びから報告書に記載する内容を検討する	0.5h
3	介護実習Ⅰのまとめ③ 評価票■	1,2	介護実習Ⅰで学んだことについて報告書に記載する内容を検討する	0.5h	授業で考えた評価票からの指摘を受けて報告書に記載する内容を検討する	0.5h
4	介護実習Ⅰのまとめ④ 報告書（知識と技術の統合）	1,2	報告書を作成する	0.5h	授業中に指摘を受けた箇所を修正する	0.5h
5	介護実習施設の機能及び役割、法的位置づけの理解 ①高齢者施設■	4	他の授業で学んだ内容を調べておく	0.5h	実習施設で働いている職員の役割をまとめる	0.5h
6	介護実習施設の機能及び役割、法的位置づけの理解 ②障害者施設	4	他の事業で学んだ内容を調べておく	0.5h	実習施設で働いている職員の役割をまとめる	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	具体的な介護過程の展開 ① 食事 ■（介護実践の科学的探求）	1,2,3	生活支援技術の該当箇所について読んでおく	0.5h	介護を行う上で関係する職員の役割をまとめる	0.5h
8	具体的な介護過程の展開 ② 排泄 ■	1,2,3	生活支援技術の該当箇所について読んでおく	0.5h	介護を行う上で関係する職員の役割をまとめる	0.5h
9	介護実習Ⅱの目標、課題の明確化①	1,2,3	個人票など、提出物を作成する	0.5h	指導によって修正箇所を考え直す	0.5h
10	介護実習Ⅱの目標、課題の明確化②	1,2,3	個人票など、提出物を作成する	0.5h	指導によって修正箇所を考え直す	0.5h
11	具体的な介護過程の展開 ③ 入浴	1,2,3	生活支援技術の該当箇所について読んでおく	0.5h	介護を行う上で関係する職員の役割をまとめる	0.5h
12	具体的な介護過程の展開 ④ 移動	1,2,3	生活支援技術の該当箇所について読んでおく	0.5h	介護を行う上で関係する職員の役割をまとめる	0.5h
13	実習中の対応困難の場面 討議① 認知症ケア	1,2,3	認知症ケアについて、ほかの科目で学んだことを見直す	0.5h	実際にどのような声かけを行うか、考えてまとめる	0.5h
14	実習中の対応困難の場面 討議② 寝たきり	1,2,3	脳梗塞後遺症、糖尿病に関するケアの注意点を他の教科で学んだことを確認する	0.5h	実際にどのような声かけを行うべきか、考えてまとめる	0.5h
15	実習直前ガイダンス	1,2,3,4	実習先として配属された事業所の概要を実習指導室などにある資料で確認する	0.5h	実習で行う課題について確認し、必要な資料と教科書を準備しておく	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

個別指導では、配属先施設等の資料に基づいて個別の学習目標を設定し、介護実習Ⅱにて活用する。

予習・復習の時間については、直前ガイダンス前までに自己学習で補填すること。

■：実務経験に基づく内容を示す

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

印刷 

介護総合演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Guidance of practice care training Ⅲ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK319

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

原田 欣宏、堀口 美奈子、富田 俊

科目に関連した実務経験

原田：介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務

堀口：介護福祉士として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務

富田：専門看護師として急性期病院に勤務

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①介護実習Ⅱを振り返り、介護計画や対象者についての理解を深める。介護実習Ⅲにむけて、必要な技術と知識を修得する。また、介護福祉士になるために必要な自己の課題を明確にし、自分で学ぶ力を培う。実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーションなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開能力等について

て、個別の学習到達状況に応じた総合的な学修とする。介護総合演習については、知識と技術の統合を目指すため、実習と組み合わせての学修とする。

②レジュメや資料等を参考に講義、グループ演習や討議を行う。また配属施設の資料をもとに施設特性や、学生個人の実習目標を設定し、介護実習Ⅲに活用する。

到達目標

1. 介護実習Ⅱを振り返り、利用者特性を理解した上で、ニーズの差異を説明できる。■
2. 介護実習Ⅱを振り返り、個々の利用者に応じた介護方法を説明できる。■
3. 介護実習Ⅱの報告書を記載し、自己とクライアントの関わりを考察することができる。■
4. 模擬事例を通し、利用者に応じた介護計画を立案、実施、評価、修正できる。■
5. 介護実習Ⅲにおける目的を理解し、自己目標を明確化することができる。■
6. 介護実習Ⅲの進行を理解し、不足する知識を補うことができる。■

使用教材

学科作成の実習の手引き、レジュメ及び資料を配布する。

評価方法

- ①報告書40%（介護実習Ⅱの報告書について評価する）
- ②課題提出30%（誓約書、個人目標、授業内での課題を評価する）
- ③授業貢献度30%（グループ演習や授業への参加度を評価する）

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・介護実習Ⅱにおいて、施設評価及び自己評価をもとに、面談し、個々の学生の課題を抽出する。
- ・介護実習Ⅲの事前指導において、個々の学生の興味や課題を踏まえ、目標や課題を明確化する。
- ・演習において、提出された課題には授業を通してコメントを返し、内容を共有する。グループ討議を通して、多角的な思考を養えるようにフィードバックする。

オフィスアワー

原田：火曜3時限506研究室
堀口：月曜3時限502研究室
富田：月曜2時限504研究室

メールアドレス（#→@）

直前ガイダンス等で、各担当教員からアナウンスする。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、介護実践の科学的探求（介護実習Ⅱまとめ①プロセスレコードの共有、自己知覚及び事故課題の理解、報告書の作成について）	1,2,3	施設評価及び自己評価を踏まえ、介護実習Ⅱをフィードバックする。実習報告書の様式と記載内容を確認する。	0.5h	介護実習Ⅱをフィードバックし、自己知覚及び課題を理解する。実習報告書を記載する。	0.5h
2	介護実践の科学的探求（介護実習Ⅱまとめ②プロセスレコードの共有、自己知覚及び事故課題の理解、報告書の作成について）	1,2,3	グループ討議から、利用者特性やニーズの差異を学ぶ。実習報告書を記載する。	0.5h	利用者特性を理解した上でニーズの差異や、個々に応じた介護方法を理解する。実習報告書を記載する。	0.5h
3	介護実践の科学的探求（介護実習Ⅱまとめ③プロセスレコードの共有、自己知覚及び事故課題の理解、報告書の作成について）	1,2,3	プロセスレコードから、利用者特性、ニーズの差異や抽出方法を学ぶ。実習報告書を記載する。	0.5h	利用者特性を理解した上でニーズの差異や、個々に応じた介護方法を理解する。実習報告書を記載する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	介護実践の科学的探求（介護実習Ⅱまとめ④プロセスレコードの共有、自己知覚及び事故課題の理解、報告書の作成について）	1,2,3	プロセスレコードから、利用者特性、ニーズの差異や抽出方法を学ぶ。実習報告書を記載する。	0.5h	利用者特性を理解した上でニーズの差異や、個々に応じた介護方法を理解する。実習報告書を記載する。	0.5h
5	帰校日指導	1,2	利用者特性を理解した上でニーズの差異や、個々に応じた介護方法を理解する	0.5h	実習日誌及び課題の習熟度を補完する	0.5h
6	知識と技術の統合（介護計画の実施状況・評価・考察の概要）■	4	レジュメ及び資料を精読する。実習の手引きにおける実施・評価・考察を精読する。	0.5h	介護計画における実施・評価・考察の必要性和概要を理解する	0.5h
7	知識と技術の統合（介護計画の「実施状況」について）■	4	模擬事例の実施状況を精読する	0.5h	介護計画における実施状況概要を理解する	0.5h
8	知識と技術の統合（介護計画の「評価/考察」について）■	4	模擬事例の実施状況を精読する	0.5h	介護計画における評価/考察を理解する	0.5h
9	知識と技術の統合（介護計画の「実施と結果」について）■	4	模擬事例の実施と結果を精読する	0.5h	介護計画における実施と結果を理解する	0.5h
10	知識と技術の統合（介護計画の「実施と結果」について）■	4	模擬事例の実施と結果を精読する	0.5h	介護計画における実施と結果を理解する	0.5h
11	知識と技術の統合（介護実習Ⅲ事前指導①個人目標及び課題の立案）	5,6	介護実習Ⅱにおける自己の課題を活用し介護実習Ⅲの目標を立案する	0.5h	介護実習Ⅲにおける個人目標及び課題を立案する	0.5h
12	知識と技術の統合（介護実習Ⅲ事前指導②個人目標及び課題の明確化）	5,6	介護実習Ⅲの目標を明確化する	0.5h	介護実習Ⅲにおける個人目標及び課題を明確化する	0.5h
13	知識と技術の統合（介護過程の展開における〈実施と結果〉について）■	3	介護過程の展開における〈実施と結果〉について、模擬事例を精読する	0.5h	介護過程の展開における〈実施と結果〉について理解する	0.5h
14	知識と技術の統合（介護過程の展開についてのまとめ）■	4,5	介護過程の展開について模擬事例を精読する	0.5h	介護過程の展開について理解をする	0.5h
15	介護実習Ⅲ直前ガイダンス	4,5,6	事前オリエンテーションの内容を教員に報告する。実習内容を確認する。	0.5h	実習の手引きを読み、提出書類について確認する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

■：実務経験に基づく内容を示す。

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たない分は各自で補完すること。

印刷



介護総合演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Guidance of practice care trainingⅣ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK320

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

堀口 美奈子、原田 欣宏、富田 俊

科目に関連した実務経験

原田：介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務（経験）

堀口：介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）

富田：看護師として病院に勤務（経験）

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①将来、幅広く福祉の分野で活躍できる専門職になるためには、学内での学習と介護実習における学びを総合的に振り返り、主体的に考えて介護福祉を実践できる力の獲得が求められる。そこで本科目では、介護実習Ⅲの実習期間中に学生による学内学習日を設け、実習を振り返りながら、介護計画や実践について理解を深める。また、介護実習Ⅲ終了後、実習で展

開した介護実践を客観的に振り返り、自己の介護観を養うとともに、学習効果を総合的にまとめて発表することで介護福祉に関する研究姿勢を学ぶことを目標とする。

②プロセスレコードや事例検討によって実習を振り返りながら事例に関する研究を行い、まとめた研究を介護事例検討発表会で報告する。

到達目標

- 1.利用者の状況に応じた介護福祉士としての関わりを思考できる。■
- 2.自分の学びを整理し、理論に結び付けて説明することができる。■
- 3.他者の学びについて理解し、自分の体験と比較検討することができる。■
- 4.自分の考えや学びの結果について、他者に分かりやすく説明できる。
- 5.学びを分析し、福祉実践における今後の課題を見いだすことができる。■
- 6.これまでの学びと自己評価から、自己の介護観を明確にすることができる。■

使用教材

介護実習の手引き、教員作成資料、介護実習Ⅲで作成した介護計画や実習記録

評価方法

学習態度30%（授業中、グループ演習時の態度）

課題の理解度30%（授業時の演習、課題に対する理解度）

提出物40%（実習報告書など必要書類の内容及び提出状況）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出を求めるレポートは、適宜コメント等をつけて返却する。質問やフィードバック等は、随時、直接またはメール等にて受け付ける。

オフィスアワー

原田：火曜3時限506研究室

堀口：月曜3時限502研究室

富田：月曜2時限504研究室

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	帰校日指導	1,2,3,4	介護実習Ⅲで作成した介護計画や実習記録等を整理する	0.5h	演習内容の確認、介護計画・記録の書き方等の見直し	0.5h
2	知識と技術の統合 介護実習Ⅲまとめ①（グループワークその1）■	1,2	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	0.5h	演習内容の確認	0.5h
3	知識と技術の統合 介護実習Ⅲまとめ②（グループワークその2、個人面談その1）■	1,2,3,4	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	0.5h	演習内容の確認	0.5h
4	知識と技術の統合 介護実習Ⅲプロセスレコード①（グループワークその1、個人面談その2）■	1,2,3,4,5	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	0.5h	演習内容の確認、全体討議後の要点をまとめておく	0.5h
5	知識と技術の統合 介護実習Ⅲプロセスレコード②（グループワークその2、個人面談その3）■	1,2,3,4,5	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	0.5h	演習内容の確認、全体討議後の要点をまとめておく	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	介護実践の科学的探究 事例研究の方法	1,2,4,5	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	0.5h	演習内容の確認、関連事項等のサーチ、事例研究の検討	0.5h
7	介護実践の科学的探究 事例研究①（介護実習事例に基づく研究その1） ■	1,2,3,4,5,6	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5h	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5h
8	介護実践の科学的探究 事例研究②（介護実習事例に基づく研究その2） ■	1,2,3,4,5,6	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5h	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5h
9	介護実践の科学的探究 事例研究③（介護実習事例に基づく研究その3） ■	1,2,3,4,5,6	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5h	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5h
10	介護実践の科学的探究 事例研究④（介護実習事例に基づく研究その4） ■	1,2,3,4,5,6	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5h	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5h
11	介護実践の科学的探究 事例研究⑤（介護実習事例に基づく研究その5） ■	1,2,3,4,5,6	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5h	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5h
12	介護実践の科学的探究 事例研究⑥（介護実習事例に基づく研究その6） ■	1,2,3,4,5,6	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5h	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5h
13	介護実践の科学的探究 事例研究⑦（介護実習事例に基づく研究その7） および事例研究発表準備 ■	1,2,3,4,5,6	自分の研究内容について詳細をつめる、自分の発表方法を検討する	0.5h	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容、発表方法の見直し	0.5h
14	介護実践の科学的探究 「介護事例検討発表会」①（事例研究内容の発表その1）	1,2,3,4,5,6	自分でまとめた事例について目を通しておく	0.5h	演習内容の確認、振り返り	0.5h
15	介護実践の科学的探究 「介護事例検討発表会」②（事例研究内容の発表その2）	1,2,3,4,5,6	自分でまとめた事例について目を通しておく	0.5h	演習内容の確認、振り返り	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位取得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

印刷 

介護実習 I

MYカモクに追加

英文名 : Practice Care Training I

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWK321

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 介護福祉コース必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 実習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

原田 欣宏、堀口 美奈子、富田 俊

科目に関連した実務経験

原田 : 介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務（経験）

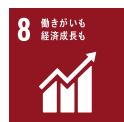
堀口 : 介護福祉士として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）

富田 : 看護師として病院に勤務（経験）

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①実習をととして、施設の概要や利用者の特性、職員の役割、介護福祉の専門性、記録類の意義について学修する。また、実際の体験から見えた自己の特性や課題について理解する。

②介護福祉士として求められる生活支援技術やコミュニケーション等を実践し、1日の出来事を実習日誌等にまとめ、考察する。また、実習全体のまとめとして実習レポートを作成する。

到達目標

- 1.施設や事業所の概要と特徴、介護職員の役割を説明できる。■
- 2.利用者の生活環境や個別性、特性について説明できる。■
- 3.利用者とコミュニケーションを積極的に図ることができる。■
- 4.介護福祉士に必要な技術（コミュニケーション、介助）を実施できる。■
- 5.毎日の実習を振り返り、自己の課題や介護観を明確にすることができる。■
- 6.1日の出来事を実習日誌等にまとめ、考察することができる。記録の意義を説明することができる。■

使用教材

学科作成の実習の手引き

評価方法

実習課題40%（日誌、レポートなどの記録）

介護実習評価票30%（施設からの評価票）

教員評価30%（手引きの「1.目的、2.目標、3.具体的目標と内容」に関する巡回指導時の口頭報告内容）

課題・評価に対するフィードバック方法

巡回指導の際に、記載された記録物を基に実習内容を振り返り、課題・評価に対して口頭でフィードバックを実施する。また、介護総合演習Ⅱの授業内で実習を振り返りながら、口頭指導を行う。

オフィスアワー

原田：火曜3時限506研究室

堀口：月曜3時限502研究室

富田：月曜2時限504研究室

メールアドレス（#→@）

直前ガイダンス等で、各担当教員からアナウンスする。

授業計画表

実習期間は12日間（96時間）として実施する。

到達目標に向けて、実習施設の実習指導者によって立案される実習計画により、以下の点を実施する。

- 1) **介護過程の実践的展開**方法を学ぶ。■
- 2) **多職種協働の実践**を学ぶ。■
- 3) **地域における生活支援の実践**を学ぶ。■
- 4) 実習施設の概要と特徴について理解する。■
- 5) 介護福祉職員の業務内容を理解する。■
- 6) 利用者の生活環境について理解する。■
- 7) 利用者の個性や特性について理解する。■
- 8) コミュニケーションを行うことの効果や意味を学ぶ。■
- 9) 生活支援技術の原則に沿った介助を学ぶ。■
- 10) 介護関係の記録の様式について学ぶ。■
- 11) 利用者のプライバシーの保護、守秘義務の重要性について学ぶ。■
- 12) 介護福祉士としての自己の課題を明確にする。■

【予習】介護総合演習Ⅰおよび関連科目を参考に、実習中の疑問点を見直す。

【予習時間】 期間中適宜

【復習】日誌に記載しながら、不明な点を教科書などで確認する。

【復習時間】 期間中適宜

備考

質問などは実習巡回指導時のほか、メールなどを活用して行う。詳細は直前ガイダンスにて説明する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

介護実習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Practice Care Training Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK322

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：4単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

原田 欣宏、堀口 美奈子、富田 俊

科目に関連した実務経験

原田：介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務（経験）

堀口：介護福祉士として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）

富田：看護師として病院に勤務（経験）

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①利用者の障害のレベルによるニーズの違いや利用者の特性を理解するとともに、個々に応じた支援技術を理解する。

②この授業は現場実習のため、学生は実習先の指導者に対して積極的に質問を行い、日誌の作成、プロセスレコード、アセスメント用紙の作成などの課題を作成する。なお不明な点や学習の進め方について巡回指導時に教員より指導を受ける。

到達目標



- 1.実習施設の環境や概況を理解する。■
- 2.介護職員の1日の業務内容や実習施設の社会的役割について理解する。■
- 3.利用者と積極的に交流を図り、コミュニケーション技術を修得する。■
- 4.高齢者や障害（児）者の特徴を理解した上で、個々に応じた介護技術を修得する。■
- 5.利用者のニーズを把握するためのアセスメントについて理解する。■
- 6.障害者の自立支援と社会資源の活用について理解する。■
- 7.介護職員間及び他の専門職種との連携について理解する。■
- 8.施設における記録の実際について学び、記録の意義について理解する。■
- 9.介護者のあり方及び自己の学習課題を理解する。■

使用教材



介護実習の手引き

評価方法



- ①実習課題（日誌、レポートなどの記録）40%
- ②介護実習評価票（施設からの評価票）30%
- ③教員評価（手引きの「1.目的、2.目標、3.具体的目標と内容」に関する巡回指導時の口頭報告内容）30%
合計60%以上で単位認定を行う

課題・評価に対するフィードバック方法



介護総合演習Ⅲの授業内で実習を振り返りながら口頭指導を行う。

オフィスアワー



質問及び学習相談には、実習巡回指導時のほか、実習前後にも応じる。

メールアドレス（#→@）



原田harada#takasaki-u.ac.jp

堀口horiguchi-m#takasaki-u.ac.jp

富田tomita-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



実習期間は22日間（176時間）として実施する。

到達目標に向けて、実習施設の実習指導者によって立案される実習計画により、以下の点を実施する。

- 1）施設種別の特性や周辺環境を理解する ■（**地域における生活支援の実践**）
- 2）利用者の施設での生活の理解、介護職員の業務と役割、施設の社会的役割、家族や家族会への対応について学ぶ ■（**多職種協働の実践**）
- 3）利用者の話への傾聴、表情や仕草の観察からニーズの把握、利用者の個性の違いの理解と、聴覚障害、視覚障害、運動障害等のある利用者とのコミュニケーション技術を修得する ■
- 4）利用者の障害の程度に応じた環境整備の理解と援助技術の修得を学ぶ ■
- 5）利用者の身体的状態、利用者の心理的状況、社会的環境・関係の把握する方法を学ぶ ■（**介護過程の実践的展開**）
- 6）障害者の自立への過程や発達保障の視点と人権尊重、自立支援、地域ボランティア、自立生活福祉用具の給付や貸与の制度について理解する ■
- 7）介護職員間及び他の専門職種との連携を理解する ■

【予習】介護総合演習Ⅱおよび関連科目を参考に、実習中の疑問点を見直す。

【予習時間】 期間中適宜

【復習】日誌に記載しながら、不明な点を教科書などで確認する。

【復習時間】 期間中適宜

合計時間（予習・復習）



-

備考



質問などは実習巡回指導時のほか、メールなどを活用して行う。詳細は直前ガイダンスにて説明する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

印刷 

介護実習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Practice Care Training Ⅲ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK323

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：4単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性
- 1 基礎的知識力
- 1 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 2 学際的な視点から取り組む力
- 2 応用・実践する能力
- 3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

原田 欣宏、堀口 美奈子、富田 俊

科目に関連した実務経験

原田：介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務（経験）

堀口：介護福祉士として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）

富田：専門看護師として急性期病院に勤務（経験）

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①介護実習を通して、知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。国家資格に求められる資質、技能、倫理、自己課題等、総合的に対応できる能力を身につける。

②配属された施設において、介護が必要な人々の生活に介入する。様々な技術や知識を習得したことを、実習日誌にまと

め、考察する。特定の対象者をもとに必要な情報を収集する。収集した情報からアセスメントをおこない生活課題を抽出し、目標と介護計画を立案する。立案した介護計画を実践し、目標の達成度や計画の修正等の評価をおこない、レポートにまとめる。また、実習全体のまとめとして実習レポートを作成する。

到達目標



1. 個々の生活リズムや個性を理解し、説明できる。■
2. 様々な生活の場において個別ケアの必要性を理解し、説明できる。■
3. 利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割を理解し経験できる。■
4. 利用者の課題を明確にするために、利用者のニーズに沿った介護計画を作成できる。■
5. 介護計画実施後の評価、および評価から再アセスメントした計画を導くことができる。■
6. 一連の介護過程の展開から、他科目で学習した知識や技術を総合し、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得できる。■

使用教材



学科作成の実習の手引き

評価方法



- ① 実習課題（日誌、レポートなどの記録）40%
 - ② 介護実習評価票（施設からの評価票）30%
 - ③ 教員評価（手引きの「1.目的、2.目標、3.具体的目標と内容」に関する巡回指導時の口頭報告内容）30%
- 合計60%以上で単位認定を行う

課題・評価に対するフィードバック方法



巡回指導・帰校日指導の際に、記載された記録物もと実習内容を振り返り、課題・評価に対し口頭でフィードバックを実施する。また、介護総合演習Ⅳの授業内で実習を振り返りながら、口頭指導を行う。

オフィスアワー



原田：火曜3時限506研究室
堀口：月曜3時限502研究室
富田：月曜2時限504研究室

メールアドレス（#→@）



直前ガイダンス等で、各担当教員からアナウンスします。

授業計画表



実習期間は24日間（192時間）として実施する。

到達目標に向けて、実習施設の実習指導者によって立案される実習計画により、以下の点を実施する。

- 1) 介護過程の実践的展開方法を学ぶ。■
- 2) 多職種協働の実践を学ぶ。■
- 3) 地域における生活支援の実践を学ぶ。■
- 4) 実習施設の概要と特徴について理解する。■
- 5) 介護福祉職員の業務内容を理解する。■
- 6) 利用者の生活を理解し、抱えている問題やできることを把握する。■
- 7) 高齢者や障害（児）者の特徴を理解した上で、個々に応じた生活支援技術について理解する。■
- 8) 障害者の自立支援と社会資源の活用について理解する。■
- 9) 認知症高齢者の特性を理解し、支援の方法を習得する。■
- 10) 介護福祉士としてのあり方および事故の学習課題を確認する。■

【予習】実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認

【予習時間】期間中適宜

【復習】実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ
報告会用資料準備

【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



備考



質問などは実習巡回指導時のほか、メールなどを活用して行う。詳細は直前ガイダンスにて説明する。

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

医療的ケア論 I

MYカモクに追加

英文名：Theory of Medical Care I

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK324

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

富田 俊

科目に関連した実務経験

専門看護師として急性期病院での経験を有す

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中にリアクションペーパーに対する振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などを習得する。喀痰吸引・経管栄養に必要な人体の構造と機能、急変状態に対応するための基礎知識を学ぶ。医療的ケアに必要な観察力や異常

を察知する能力、医療職員との連携を理解する。

②使用教材を要約した内容について事例を交え説明する。講義終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出する。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。

到達目標 ↑

- 1.医療的ケアとは何かを理解し、制度の概要や、「社会福祉士及び介護福祉士法」改正との関連を理解できる。
- 2.医療的ケアにおける安全な療養生活の必要性やリスクマネジメントの考え方を理解できる。■
- 3.医療的ケアにおける感染予防及び清潔保持の必要性や消毒と滅菌の概念を理解できる。■
- 4.医療的ケアにおける呼吸器系の解剖、生理を正しく理解し、喀痰吸引の技術を理解できる。■
- 5.医療的ケアにおける消化器の解剖、整理を理解し、経管栄養の技術を理解できる。■
- 6.医療的ケアにおいる状況に応じた医療職員との連携と緊急時の対応を理解できる。■

使用教材 ↑

教科書：中央法規出版社 最新 介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」 第2版

この他に必要な資料は授業時に配布する

参考文献 ↑

特になし

評価方法 ↑

課題（リアクションペーパー）30％，期末筆記試験70％

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

課題は講義で解説し、学習目標の到達度を確認する。

期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。

オフィスアワー ↑

月曜2時限 （504研究室）

メールアドレス（#→@） ↑

tomita-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	医療的ケア概論 〈医療的ケアとは・医療的ケアについて〉	1,2	教科書第1章第1節〈医療的ケアとは・医療的ケアについて〉を確認する	1.5h	医療的ケアについて整理する	1.5h
2	医療的ケア概論 〈喀痰吸引制度・医療的ケアと喀痰吸引等の背景〉を確認する	1,2,4,5	教科書第1章第1節〈喀痰吸引制度・医療的ケアと喀痰吸引等の背景〉を確認する	1.5h	喀痰吸引制度・医療的ケアと喀痰吸引等の背景を整理する	1.5h
3	医療的ケア概論/安全な療養生活 ■	2,3,4,5	教科書第1章第1節〈その他の制度〉・第2節〈喀痰吸引や経管栄養の安全な実施〉を確認する	1.5h	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施についてする整理する	1.5h
4	安全な療養生活 ■	2,3	第1章第2節〈喀痰吸引や経管栄養の安全な実施〉を整理する	1.5h	第2節〈喀痰吸引や経管栄養の安全な実施〉を理解する	1.5h
5	安全な療養生活 ■	2,3	第1章第2節〈救急蘇生〉を確認する	1.5h	第1章第2節〈救急蘇生〉を理解する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	清潔保持と感染■	2,3	第1章第3節〈感染予防・介護福祉職の感染予防〉を確認する	1.5h	感染予防・介護福祉職の感染予防を理解する	1.5h
7	清潔保持と感染■	2,3	第1章第3節〈療養環境の清潔、消毒法・消毒と滅菌〉を確認する	1.5h	療養環境の清潔、消毒法・消毒と滅菌を理解する	1.5h
8	健康状態の把握■	2,6	第1章第4節〈身体、精神の健康・健康状態を知る項目〉を確認する	1.5h	身体、精神の健康・健康状態を知る項目を理解する	1.5h
9	健康状態の把握■	2,6	第1章第4節〈急変状態〉を確認する	1.5h	急変状態を理解する	1.5h
10	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論〈呼吸のしくみとはたらき〉■	2,4	第2章第1節〈呼吸のしくみとはたらき〉を確認する	1.5h	呼吸のしくみとはたらきを理解する	1.5h
11	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論〈いつもと違う呼吸状態〉■	2,6	第2章第1節〈いつもと違う呼吸状態〉を確認する	1.5h	いつもと違う呼吸状態を理解する	1.5h
12	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論〈喀痰吸引とは〉■	2,3,4	第2章第1節〈喀痰吸引とは〉を確認する	1.5h	喀痰吸引を理解する	1.5h
13	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論〈人工呼吸器と吸引〉■	2,3,4	第2章第1節〈人工呼吸器と吸引〉を確認する	1.5h	人工呼吸器と吸引を理解する	1.5h
14	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論〈子どもの吸引について〉	2,3,4	第2章第1節〈子どもの吸引について〉を確認する	1.5h	子どもの吸引について理解する	1.5h
15	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論〈吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応〉■	1,2,3,4	第2章第1節〈吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応〉を確認する	1.5h	吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応を理解する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



医療的ケア論Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Theory of Medical CareⅡ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK325

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

富田 俊

科目に関連した実務経験

専門看護師として急性期病院での経験を有す

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○			○			○	

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中にリアクションペーパーに対する振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などを習得する。喀痰吸引・経管栄養に必要な人体の構造と機能、急変状態に対応するための基礎知識を学ぶ。医療的ケアに必要な観察力や異常

を察知する能力、医療職員との連携について理解を深める。

②使用教材を要約した内容について事例を交え説明する。講義終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出する。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。

到達目標 ↑

- 1.医療的ケアとは何かを理解し、制度の概要や、「社会福祉士及び介護福祉士法」改正との関連を理解できる。
- 2.医療的ケアにおける安全な療養生活の必要性やリスクマネジメントの考え方を理解できる。■
- 3.医療的ケアにおける感染予防及び清潔保持の必要性や消毒と滅菌の概念を理解できる。■
- 4.医療的ケアにおける呼吸器系の解剖、生理を正しく理解し、喀痰吸引の技術を理解できる。■
- 5.医療的ケアにおける消化器の解剖、整理を理解し、経管栄養の技術を理解できる。■
- 6.医療的ケアにおいる状況に応じた医療職員との連携と緊急時の対応を理解できる。■

使用教材 ↑

教科書：中央法規出版社 最新 介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」 第2版

この他に必要な資料は授業時に都度配布あるいは指示をする

参考文献 ↑

特になし

評価方法 ↑

課題（リアクションペーパー）30％，期末筆記試験70％

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

課題は講義で解説し、学習目標の到達度を確認する。

期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。

オフィスアワー ↑

月曜2時限 （504研究室）

メールアドレス（#→@） ↑

tomita-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論〈呼吸器系の感染と予防・事後の安全確認〉■	2,3,4	第2章第1節〈呼吸器系の感染と予防・事後の安全確認〉を確認する	1.5h	呼吸器系の感染と予防・安全確認を理解する	1.5h
2	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論〈急変、事故発生時の対応と事前対策〉■ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順（高齢者及び障害児、者の喀痰吸引手順解説）■	2,3,4	第2章第1節〈急変、事故発生時の対応と事前対策〉を確認する 第2章第2節〈高齢者及び障害児、者の喀痰吸引手順解説〉を確認する	1.5h	第2章第1節〈急変、事故発生時の対応と事前対策〉を理解する 第2章第2節〈高齢者及び障害児、者の喀痰吸引手順解説〉を整理する	1.5h
3	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順〈高齢者及び障害児、者の喀痰吸引手順解説〉■	2,3,4	第2章第2節〈高齢者及び障害児、者の喀痰吸引手順解説〉を整理する	1.5h	第2章第2節〈高齢者及び障害児、者の喀痰吸引手順解説〉を理解する	1.5h
4	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順〈吸引の技術と留意点〉	2,3,4	第2章第2節〈吸引の技術と留意点〉を確認する	1.5h	吸引の技術と留意点を理解する	1.5h
5	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順〈喀痰吸引にとも	2,3,4	第2章第2節〈喀痰吸引にとも	1.5h	喀痰吸引にともなうケアを理解する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	なうケア》■					
6	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順〈報告及び記録〉■	2,3,4,6	第2章第2節〈報告及び記録〉を確認する	1.5h	報告及び記録を理解する	1.5h
7	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順〈まとめ〉■ 高齢者および障害児・者の経管栄養概論〈消化器系のしくみとはたらき〉■	1,2,3,4,5,6	第2章第2節を確認し自己の不明点を明確にする 第3章第1節〈消化器系のしくみとはたらき〉を確認する	1.5h	喀痰吸引実施手順における自己の不明点を理解する 消化器系のしくみとはたらきを理解する	1.5h
8	高齢者および障害児・者の経管栄養概論〈消化・吸収とよくある消化器症状〉■	2,3,5	第3章第1節〈消化・吸収とよくある消化器症状〉を確認する	1.5h	消化・吸収とよくある消化器症状を理解する	1.5h
9	高齢者および障害児・者の経管栄養概論〈経管栄養とは〉■	2,3,5	第3章第1節〈経管栄養とは〉を確認する	1.5h	経管栄養とは、を理解する	1.5h
10	高齢者および障害児・者の経管栄養概論〈注入内容に関する知識・経管栄養実施上の留意点〉■	2,3,5	第3章第1節〈注入内容に関する知識・経管栄養実施上の留意点〉を確認する	1.5h	注入内容に関する知識・経管栄養実施上の留意点を理解する	1.5h
11	高齢者および障害児・者の経管栄養概論〈子どもの経管栄養・経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意〉■	2,3,5	第3章第1節〈子どもの経管栄養・経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意〉を確認する	1.5h	子どもの経管栄養・経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意を理解する	1.5h
12	高齢者および障害児・者の経管栄養概論〈経管栄養に係る感染と予防〉■	2,3,5	第3章第1節〈経管栄養に係る感染と予防〉を確認する	1.5h	経管栄養に係る感染と予防を理解する	1.5h
13	高齢者および障害児・者の経管栄養概論〈経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認〉■	2,3,5,6	第3章第1節〈経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認〉を確認する	1.5h	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認を理解する	1.5h
14	高齢者および障害児・者の経管栄養概論〈急変・事故発生時の対応と事前対策〉■ 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順〈経管栄養で用いる用具・器材のしくみ、清潔の保持〉■	2,3,4,5,6	第3章第1節〈急変・事故発生時の対応と事前対策〉を確認する 第3章第2節〈経管栄養で用いる用具・器材のしくみ、清潔の保持〉を確認する	1.5h	急変・事故発生時の対応と事前対策を理解する 経管栄養で用いる用具・器材のしくみ、清潔の保持を整理する	1.5h
15	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順〈経管栄養で用いる用具・器材のしくみ、清潔の保持〉■	2,3,4	第3章第2節〈経管栄養で用いる用具・器材のしくみ、清潔の保持〉を整理する	1.5h	経管栄養で用いる用具・器材のしくみ、清潔の保持を理解する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である

■：実務経験に基づく内容を示す。

医療的ケア論Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Theory of Medical CareⅢ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK326

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性
- 1 基礎的知識力
- 1 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 2 学際的な視点から取り組む力
- 2 応用・実践する能力
- 3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

富田 俊、白井 昭裕

科目に関連した実務経験

富田俊：専門看護師として急性期病院での経験を有す

白井昭裕：訪問看護ステーションの管理者として勤務、医療的ケア教員の経験を有す

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○			○			○	

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中にリアクションペーパーに対する振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などを習得する。喀痰吸引・経管栄養に必要な人体の構造と機能、急変状態に対応するための基礎知識を学ぶ。医療的ケアに必要な観察力や異常を察知する能力、医療職員との連携について理解を深める。
- ②使用教材を要約した内容について事例を交え説明する。講義終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出する。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。5回目以降の講義は、医療的ケアにおける吸引・経管栄養についてシミュレーターを用いて演習を実施する。

到達目標

- 1.医療的ケアとは何かを理解し、制度の概要や、「社会福祉士及び介護福祉士法」改正との関連を理解できる。
- 2.医療的ケアにおける安全な療養生活の必要性やリスクマネジメントの考え方を理解できる。■
- 3.医療的ケアにおける感染予防及び清潔保持の必要性や消毒と滅菌の概念を理解できる。■
- 4.医療的ケアにおける消化器の解剖、整理を理解し、経管栄養の技術を理解できる。■
- 5.医療的ケアにおける状況に応じた医療職員との連携と緊急時の対応を理解できる。■
- 6.医療的ケアにおける感染予防及び清潔保持の必要性や消毒と滅菌の概念を理解し、実践できる。■
- 7.医療的ケアにおける呼吸器系の解剖生理を正しく理解し、喀痰吸引の技術を理解し、実践できる。■
- 8.医療的ケアにおける消化器の解剖、整理を理解し、経管栄養の技術を理解し、実践できる。■
- 9.医療的ケアにおける状況に応じた医療職員との連携と緊急時の対応を理解し、実践できる。■

使用教材

教科書：中央法規出版社 最新 介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」 第2版
この他に必要な資料は授業時に配布する

参考文献

特になし

評価方法

課題（リアクションペーパー）30％，期末筆記試験30％，授業態度40％

課題・評価に対するフィードバック方法

課題は講義で解説し、学習目標の到達度を確認する。
期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。

オフィスアワー

月曜2時限 （504研究室）

メールアドレス（#→@）

tomita-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順 〈経管栄養の技術と留意点〉 ■	1,2,3,4	第3章第2節〈経管栄養の技術と留意点〉を確認する	1.5h	経管栄養の技術と留意点を理解する	1.5h
2	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順 〈経管栄養に必要なケア〉 ■	2,3,4	第3章第2節〈経管栄養に必要なケア〉を確認する	1.5h	経管栄養に必要なケアを理解する	1.5h
3	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順 〈記録及び報告〉 ■	2,3,4,5	第3章第2節〈記録及び報告〉を確認する	1.5h	記録及び報告について、理解する。経管栄養の実施手順の不明点を明確にする	1.5h
4	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順 〈まとめ〉	1,2,3,4,5	救急蘇生法の手引きを確認する。経管栄養の実施手順	1.5h	経管栄養の実施手順の不明点を理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	め〉 ■ 心肺蘇生演習 ■		の不明点を明確にする。		救急蘇生を演習し、自己の課題を見出す。	
5	喀痰吸引（口腔，鼻腔，気管）/経管栄養(胃ろう，経鼻経管栄養)の演習 ■	6,7,8,9	各演習項目の実施手順を確認する	1.5h	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする	1.5h
6	喀痰吸引（口腔，鼻腔，気管）/経管栄養(胃ろう，経鼻経管栄養)の演習 ■	6,7,8,9	各演習項目の実施手順を確認する	1.5h	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする	1.5h
7	喀痰吸引（口腔，鼻腔，気管）/経管栄養(胃ろう，経鼻経管栄養)の演習 ■	6,7,8,9	各演習項目の実施手順を確認する	1.5h	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする	1.5h

合計時間（予習・復習）



21h

備考



- ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たない分は各自で補完すること。
- ・太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



医療的ケア演習

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Medical Care

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWK327

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：介護福祉コース必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性
- 1 基礎的知識力
- 1 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 2 学際的な視点から取り組む力
- 2 応用・実践する能力
- 3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

富田 俊、白井 昭裕

科目に関連した実務経験

富田俊：専門看護師として急性期病院での経験を有す

白井昭裕：訪問看護ステーションの管理者として勤務、医療的ケア教員の経験を有す

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○			○	

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中にリアクションペーパーに対する振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職の連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。
- ②医療的ケアにおける吸引・経管栄養についてシミュレーターを用いて演習を実施する。

到達目標 ↑

- 1.医療的ケアにおける感染予防及び清潔保持の必要性や消毒と滅菌の概念を理解し、実践できる。■
- 2.医療的ケアにおいて呼吸器系の解剖生理を正しく理解し、喀痰吸引の技術を理解し、実践できる。■
- 3.医療的ケアにおいて消化器の解剖、整理を理解し、経管栄養の技術を理解し、実践できる。■
- 4.状況に応じた医療職員との連携と緊急時の対応を理解し、実践できる。■

使用教材 ↑

教科書：中央法規出版社 最新 介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」 第2版

この他に必要な資料は授業時に配布する

参考文献 ↑

特になし

評価方法 ↑

課題（リアクションペーパー）30％，演習の取り組み状況30％，演習の合格基準の到達度40％

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

課題は講義で解説し、学習目標の到達度を確認する。

期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。

オフィスアワー ↑

月曜2時限 （504研究室）

メールアドレス（#→@） ↑

tomita-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	喀痰吸引（口腔，鼻腔，気管）/経管栄養(胃ろう，経鼻経管栄養)の演習■	1,2,3,4	各演習項目の実施手順を確認する	1.5h	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする	1.5h
2	喀痰吸引（口腔，鼻腔，気管）/経管栄養(胃ろう，経鼻経管栄養)の演習■	1,2,3,4	各演習項目の実施手順を確認する	1.5h	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする	1.5h
3	喀痰吸引（口腔，鼻腔，気管）/経管栄養(胃ろう，経鼻経管栄養)の演習■	1,2,3,4	各演習項目の実施手順を確認する	1.5h	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする	1.5h
4	喀痰吸引（口腔，鼻腔，気管）/経管栄養(胃ろう，経鼻経管栄養)の演習■	1,2,3,4	各演習項目の実施手順を確認する	1.5h	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする	1.5h
5	喀痰吸引（口腔，鼻腔，気管）/経管栄養(胃ろう，経鼻経管栄養)の演習■	1,2,3,4	各演習項目の実施手順を確認する	1.5h	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする	1.5h
6	喀痰吸引（口腔，鼻腔，気管）/経管栄養(胃ろう，経鼻経管栄養)の演習■	1,2,3,4	各演習項目の実施手順を確認する	1.5h	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする	1.5h
7	喀痰吸引（口腔，鼻腔，気管）/経管栄養(胃ろう，経鼻経管栄養)の演習■	1,2,3,4	各演習項目の実施手順を確認する	1.5h	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	習■		る		る	
8	喀痰吸引（口腔，鼻腔，気管）/経管栄養（胃ろう，経鼻経管栄養）の演習■	1,2,3,4	各演習項目の実施手順を確認する	1.5h	自己の演習を振り返り、手順を見直す	1.5h

合計時間（予習・復習）

↑

24h

備考

↑

- ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たない分は各自で補完すること。
- ・「演習」の回数は次のとおりとすること。
喀痰吸引：口腔 5 回以上、鼻腔 5 回以上、気管カニューレ内部 5 回以上
経管栄養：胃ろう又は腸ろう 5 回以上、経鼻経管栄養 5 回以上
- ・講義規定回数で演習項目を終了しない場合、補講を実施する。
- ・**太字**は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



ケアマネジメント論

MYカモクに追加

英文名 : Care Management Theory

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWA301

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

河村 俊一

科目に関連した実務経験

社会福祉士として地域包括支援センター 4 年（経験）

介護支援専門員として居宅介護支援事業所 2 年（経験）

生活相談員・施設ケアマネジャー（社会福祉士・介護支援専門員）として特別養護老人ホーム等 8 年（経験）

社会福祉士として医療機関における相談業務 5 年、認知症初期集中支援チーム員 5 年（経験）

代表理事（社会福祉士）非営利型一般社団法人として地域活動及び成年後見業務 10 年（現在）

代表取締役として障がい福祉サービス事業を運営（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テストやレポートに対してコメントを付して返却する。

授業中に振り返りや質疑応答を受ける時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

ケア実践におけるマネジメントは、介護保険制度を機にその必要性が重要視されている。マネジメントの基本的な理解とケアマネジメントの仕組みと視点について学びを深め、実際の実践場面を通じてその取り組みについて理解を深めることができる。将来の相談援助業務において実践的なマネジメント視点を持つことができる。授業については、具体的な事例や現状の課題などを含め、仕組みだけでなく、支援活動における視点などを踏まえて進めていく。

到達目標 ↑

- 1 事例を通じてマネジメントの必要性を理解することができる。
- 2 他分野におけるマネジメントの活用とケアマネジメントのあり方を理解できる。
- 3 相談支援課程におけるケアマネジメントの実践について説明することができる。
- 4 生活や社会に起こる課題を事例を通じて学び、ケアマネジメントの必要性を説明することができる。

使用教材 ↑

「人間行動理解」で磨くケアマネジメント実践力 中央法規出版

参考文献 ↑

「看護覚え書」（新装版）フロレンス・ナイティンゲール 著 小玉香津子・尾田葉子 訳 2019年10月発行
「マネジメント 基本と原則」（エッセンシャル版）ピーター・ドラッカー著 上田惇生/編訳 ダイヤモンド社

評価方法 ↑

課題70%、出席状況、受講姿勢30% 総合評価で60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

課題は、提出期限後に授業内にて解説を行う。

オフィスアワー ↑

講義における質問、相談は授業前後にも受け付ける。
予習等で確認が必要な場合は、メールにて相談を受け付ける。

メールアドレス（#→@） ↑

初回の講義ガイダンスの際に案内する。

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、ケアマネジメントとは何か。■	1	他の教科で学んだ「ケアマネジメント」などの用語が出ている箇所を確認する。	1.5h	ケアマネジメントの定義について整理する。	1.5h
2	多用されるマネジメントについて	1、2	どのような分野でマネジメントが使用されているか調べる。	1.5h	多分野で活用されているマネジメントとケアマネジメントについて整理する。	1.5h
3	対人援助職に必要な基本的な姿勢・知識・スキル■	1	テキストに目を通す。	1.5h	対人援助職に要求される力について理解できる。	1.5h
4	自己覚知、自分を知ること■	1、4	テキストに目を通す。	1.5h	自己覚知について理解し、自己受容、他者受容、自分の考え方を理解できる。	1.5h
5	職業倫理と価値観■	1、4	職業倫理についての解釈を調べる。	1.5h	ケアマネジャーに求められる職業倫理と考え方を理解できる。	1.5h
6	暮らしから考えるマネジメントの視点■	1、2	人の暮らしの構成要素、生活行動について調べる。	1.5h	ケアマネジメントの機能、ニーズとディマンドを理解できる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	ケアマネジメントにおけるコーディネーション力■	1、2	医療、福祉専門職とその職種の役割を調べる。	1. 5h	援助的関係性において、連携、協働、実践について理解できる。	1. 5h
8	面接のプロセス、統合的アセスメント■	1、4	テキストに目を通す。	1. 5h	面接における段階的アプローチのポイントについて理解できる。	1. 5h
9	アセスメント等における面接のあり方■	1、 2、4	テキストに目を通す。	1. 5h	面接時における注意点や配慮すべき内容について理解できる。	1. 5h
10	ケアマネジメントの過程① ケアマネジメントの仕組みと事例■	1、4	テキストに目を通す。	1. 5h	事例を通じて、ケアマネジメントの支援段階を理解できる。	1. 5h
11	ケアマネジメントの過程② アセスメント情報、解決すべき課題の整理、プラン作成■	1、 3、4	介護保険制度におけるケアプラン作成の流れについて確認する。	1. 5h	アセスメントに必要な情報や視点、課題への視点について理解できる。	1. 5h
12	ケアマネジメントの過程③ モニタリング、再アセスメント■	1、 3、4	介護保険サービス利用における課題等について情報収集を行う。	1. 5h	モニタリング、再アセスメントにおける視点を理解できる。	1. 5h
13	事例から理解するケアマネジメント（介護者負担軽減と家庭環境の変化）■	1、4	テキストに目を通す。	1. 5h	世帯構成やライフステージが及ぼす生活への影響について理解できる。	1. 5h
14	事例から理解するケアマネジメント（虐待事例）■	1、 3、4	高齢者虐待防止法等関連する法律について情報収集する。	1. 5h	虐待事例へのケアマネジメント視点について理解できる。	1. 5h
15	まとめ・振り返り	1、 2、 3、4	これまでの講義、配布資料等の読み返し。	1. 5h	講義内容で扱った事例等を再度見直し、自らの視点の変化を確認する。	1. 5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

講義内容や制度等で不明な点や質問がある場合は、授業中に質問を受け、その場で考えていく又は回答をしていくような進め方でいきますので、積極的な授業参加を期待します。講義にて配布した資料は各自ファイリングしておくことをお勧めします。

可能な限り、実際の事例などを用いたマネジメントに係る視点や関連する社会保障制度などについても理解を深めていきます。

印刷



リハビリテーション論

MYカモクに追加

英文名：Studies in Rehabilitation

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWA304

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

解良 武士

科目に関連した実務経験

理学療法士として、大学病院および急性期総合病院（経験）、非常勤理学療法士として慢性期病院勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①リハビリテーションチームの一員として、介護を必要とする対象者の特徴や特性に関する知識を身につけるとともに、リハビリテーションの視点を持って介護を提供する実践能力を修得する。

②前半の関連する疾病と障害との理解の内容については、代表的な障害を引き起こす疾病について事前学習していただいた上で、ICFによる障害像の分析により理解を深める。後半は、4号館実習室においてリハビリテーション関連の知識・技能に関する実技・実演を実施する。

到達目標

- 1.リハビリテーションの概念や介護を必要とする対象者の特性を述べることができる。
- 2.リハビリテーションの視点を持った介護技術を実施してみせることができる。■
- 3.リハビリテーションの視点を持った介護技術についての意見を示すことができる。■

使用教材

配布資料

参考文献

指定なし

評価方法

以下の項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。
提出物・グループワーク等（50点）、筆記試験（50点）

課題・評価に対するフィードバック方法

課題発表に対して講義中に随時フィードバックする

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

kera#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	リハビリテーションの概念とリハビリテーションモデル	1	リハビリテーションの概念を調べておく。	1.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5h
2	障害の概念とICFを用いた障害構造の理解	1	ICFの概念について調べておく。	1.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5h
3	リハビリテーションチームとリハビリテーション関連職種 ■	1	リハビリテーションチームを構成する専門職種について調べておく。	1.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5h
4	ADLとQOL ■	2	代表的なADL項目について調べておく。	1.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5h
5	リハビリテーションの対象となる疾患と障害の理解（中枢神経疾患） ■	2	脳卒中片麻痺、パーキンソン病、脊髄損傷、ALSの各疾患についてその概略・障害に調べておく。	1.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5h
6	リハビリテーションの対象となる疾患と障害の理解（運動器疾患） ■	2	大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、腰椎圧迫骨折、腰部脊柱管狭窄症についての概略・障害に調べておく。	1.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5h
7	リハビリテーションの対象となる疾患と障害の理解（内科的疾患） ■	2	糖尿病、心筋梗塞、慢性閉塞性肺疾患、腎臓病についての概略・障害に調べておく。	1.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5h
8	リハビリテーションの対象となる疾患と障害の理解（老年期障害と廃用症候群） ■	2	フレイル、サルコペニア、認知症、尿失禁の概略・障害に調べておく。	1.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	ひとの姿勢と動作のとらえ方 ■	2, 3	姿勢とは何か、意味を調べてくる。	1.5 h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 h
10	褥瘡とポジショニング ■	2, 3	褥瘡について調べておく。	1.5 h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 h
11	ひとの動きと動作介助 ■	2, 3	寝返りや立ち上がり場面での動作介助法について調べておく。	1.5 h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 h
12	運動療法（ストレッチ、筋力増強運動など） ■	2, 3	これまでに行ったことがあるストレッチ、筋トレを書き留めておく	1.5 h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 h
13	歩行補助具・車椅子 ■	2, 3	歩行補助具、補装具にはどのようなものがあるのかを下調べする。	1.5 h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 h
14	福祉用具とその活用 ■	2, 3	福祉用具にはどのようなものがあるのかを下調べする。	1.5 h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 h
15	まとめ	1,2,3	これまでの配布資料を用いて第1～14回の授業内容を概括する。	1.5 h	これまでの配布資料を整理し、授業内容をまとめる。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

グループワーク（プレゼンテーション）を多く行うため、積極的に参加する学生を求めます。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

レクリエーション実技

MYカモクに追加

英文名 : Practical Recreational Activities

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWA305

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大家 千枝子

科目に関連した実務経験

レクリエーション・インストラクター養成講習会講師として、公認指導者養成事業に従事している。
(公益財団法人日本レクリエーション協会公認・群馬県レクリエーション協会主催、2015年度～)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL (課題 解決型学 習)	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○		○		○	○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

人びとの「心を元気にする」ための手助けができるレクリエーション支援の強み（専門性）を理解し、そのための具体的な支援の方法を身につける。

支援の手段として用いるレクリエーション活動を学んだうえで、受講者自身が実際に支援演習を行い、理論と実技の学習成

果を実践力へとつなげる。前半は教員によるレクチャーがベースだが、後半は「心を元気にする」ための理論を実践へと結び付けるため、各自でプログラムを立案し、自分以外の受講生や地域住民を対象にレクリエーション支援を行う。

到達目標

- 1.あたたかくもてなす意識を持ちながら意思疎通を図ることで信頼関係を構築するホスピタリティを理解し、活用することができる。■
- 2.コミュニケーションを段階的に促進することで良好な集団づくりを進めるアイスブレーキングのモデルやプログラムを活用することができる。■
- 3.成功体験によって、仲間との達成感の共有を促し、自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法について理解し、活用することができる。■
- 4.レク支援のプログラムの構造を理解し、学習成果を総合的に生かしたプログラムを立案できる。
- 5.理論と実技の学習成果を生かし、目的・対象に応じた具体的な支援の演習を行うことができる。

使用教材

「基本のアイスブレーキング」、監修 宇田川光雄、公益財団法人日本レクリエーション協会、2014年、2,300円（税別）

参考文献

「楽しさをとおした心の元気づくり」、公益財団法人日本レクリエーション協会、2017年、1,800円（税別）

評価方法

授業や授業期間中の取り組みを反映した実践点35%、レク支援演習65%

課題・評価に対するフィードバック方法

自分以外の履修者による課題や感想、評価を知ることが学生相互の刺激になるため、C-Learningやコメントシートを使ってフィードバックする。ただし最終課題は返却する予定はないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

oie#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、さまざまな現場でのレク支援について理解を深める（視聴覚教材使用）	1,2,3,4	シラバスの内容を読んで講義目標などを理解する。	0.5h	到達目標、学位記授与方針、成績評価方法などを確認する。	0.5h
2	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ	1,2,3,4	これまでの自身が受けてきたレク支援を振り返る。	0.5h	ホスピタリティやアイスブレーキングの方法や展開方法について復習する	0.5h
3	良好な集団づくりの方法・アイスブレーキング	1,2,3,4	配布された資料に目を通しておく。	0.5h	C-Learningに回答する。	0.5h
4	自主的、主体的に楽しむ力を高めるレクリエーション活動の展開方法	1,2,3,4	配布された資料に目を通しておく。	0.5h	C-Learningに回答する。	0.5h
5	モデル・プログラムの習得（プログラムを立案する際の見本を体験する）	1,2,3,4	配布された資料に目を通しておく。	0.5h	C-Learningに回答する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	レクリエーション活動の習得（4つの柱を中心に個々の活動について学ぶ）	1,2,3,4	配布された資料に目を通しておく。	0.5h	C-Learningに回答する。	0.5h
7	安全管理方法とレク支援演習実施について■	1,2,3,4	配布された資料に目を通しておく。	0.5h	C-Learningに回答する。	0.5h
8	レクリエーション支援演習の準備プログラムの立案 その1■	1,2,3,4	配布された資料に目を通しておく。	0.5h	抽選でわりあてられた自身のレク支援課題を検討する。	0.5h
9	レクリエーション支援演習の準備プログラムの立案 その2 予行演習	1,2,3,4	企画書・プログラム内容・進行表の作成。	0.5h	企画書・プログラム内容・進行表を作成。担当教員チェックを受ける。	0.5h
10	レクリエーション支援演習の実施 その1	1,2,3,4,5	支援者は予行演習。対象者は事前に連絡された指示に従って準備する。	0.5h	支援者は発表後のプログラム進行表の作成、対象者は評価シートを入力。	0.5h
11	レクリエーション支援演習の実施 その2	1,2,3,4,5	支援者は予行演習。対象者は事前に連絡された指示に従って準備する。	0.5h	支援者は発表後の書類作成、対象者は評価シートを入力。	0.5h
12	レクリエーション支援演習の実施 その3	1,2,3,4,5	支援者は予行演習。対象者は事前に連絡された指示に従って準備する。	0.5h	支援者は発表後の書類作成、対象者は評価シートを入力。	0.5h
13	レクリエーション支援演習の実施 その4	1,2,3,4,5	支援者は予行演習。対象者は事前に連絡された指示に従って準備する。	0.5h	支援者は発表後の書類作成、対象者は評価シートを入力。	0.5h
14	レクリエーション支援演習の実施 その5	1,2,3,4,5	支援者は予行演習。対象者は事前に連絡された指示に従って準備する。	0.5h	支援者は発表後の書類作成、対象者は評価シートを入力。	0.5h
15	レクリエーション支援演習の振り返りとまとめ、授業で学んだことの整理。目標到達度の確認。■	1,2,3,4,5	これまでの授業で学んだこと、自身の支援演習を振り返る。	0.5h	目標到達度の確認。今後のレク支援活動の発展方法を検討する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

【単位修得に必要な時間について】

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

【履修条件】

・この科目は、「レクリエーション論（2年・前期）」を履修していることが望ましい。

・心を元気にする知識と技術を習得して人前に立つことを目指すため、積極的に参加する学生を求める。

【ルール】

次の行為は授業中にしないこと（信頼関係づくりの方法「あたたかくもてなす意識と配慮」の観点より）。

ガムを噛む、② 授業と関係のないスマホ使用、③ 私語、わがまま、ふざけた態度をとる

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



福祉レクリエーション論

MYカモクに追加

英文名：Welfare and Recreation

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWA306

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

松沼 記代

科目に関連した実務経験

社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、デイサービスセンターで3年6か月経験

社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、グループホームで1年間経験

社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、大学在職中に介護予防教室の運営8年間経験

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○			○	

「その他」のアクティブラーニング実施方法

Cラーニングを試用したアンケートへの回答に対するフィードバック

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

社会福祉実践におけるレクリエーションは、利用者や参加者の喜びや生きがいと深く結びつき、日常のQOLの向上に欠かせないものであることを理解する。また、福祉レクリエーションがどのような分野で応用されているか理解する。

授業は、学生が福祉の現場や相談機関、地域で利用者の自立・生きがい支援を行う上で必要な理論や方法、技術を獲得できるように、講義や演習を行う。

到達目標

- 1.社会福祉・医療・保健分野でのレクリエーション・サービスの意義について説明できる。■
- 2.レクリエーションの歴史、課題について説明できる。■
- 3.福祉レクリエーションワーカーの役割について説明できる。■
- 4.福祉レクリエーションの実践方法について説明できる。■

使用教材

資料を毎回配布する。

参考文献

『楽しさの追求を支える理論と支援の方法』～理論に根ざした福祉レクリエーション支援の方法～
(2014年度第2刷版)

評価方法

筆記試験（80％）、レポート（15％）、授業参加度（5％）で評価する。総合評価60％以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートにはコメントを付けて返却する。
定期試験の前に出題の範囲や意図を提示する。

オフィスアワー

授業の前後の時間。質問や意見はメールからも、随時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

k-matsunuma#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	福祉レクリエーションとは① 意義と目的 ■	1	福祉施設におけるレクリエーションの実情を確認する。	1h	当日の講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。	1h
2	福祉レクリエーションとは② 歩み ■	1,2	レクリエーションが生活の中でどのように活かされているか調べる。	1h	レクリエーションの歴史から今後の課題を考える。	1h
3	福祉レクリエーション支援の理解① 楽しさの追求 ■	1,2	日常の中の楽しい活動について調べる。	1h	配布資料の内容を確認し、生活の中に活かす。	1h
4	福祉レクリエーション支援の理解② 楽しさを見通すための方法 ■	1,3	日常の中の楽しい活動について調べる。	1h	配布資料の内容を確認し、生活の中に活かす。	1h
5	福祉レクリエーション支援の理解③ 支援者のあり方 ■	1,3	実践できるレクリエーション活動を考える。	1h	配布資料の内容を確認し、支援する際のポイントを整理する。	1h
6	楽しさ追求のための支援の方法① APIEプロセス ■	1,3	レクリエーションが生活の中でどのように活かされているか調べる。	1h	配布資料の内容を確認し、支援する際のポイントを整理する。	1h
7	楽しさ追求のための支援の方法② TRサービスモデル ■	1,2,3,4	北米のレクリエーション支援の現状について調べ	1h	我が国へのTRサービスの応用について考える。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			る。			
8	楽しさ追求のための支援の方法 ③ 行動変容と自己効力感	3,4	行動変容と自己効力感について調べる。	1h	行動変容を必要とする課題や自己効力感をもつことの意義を考える。	1h
9	高齢者を対象にした福祉サービスでの実践例① デイサービスセンター・小規模多機能型施設 ■	3,4	高齢者の在宅サービスについて調べる。	1h	高齢者の在宅サービスにおけるレクリエーション支援の方法を確認する。	1h
10	高齢者を対象にした福祉サービスでの実践例② 特別養護老人ホーム ■	3,4	高齢者の入所施設におけるレクリエーション支援について調べる。	1h	高齢者の入所施設におけるレクリエーション支援の方法を確認する。	1h
11	高齢者のためのレクリエーション体験	3,4	高齢者の集団レクリエーション支援について調べる。	1h	高齢者の集団レクリエーション支援の方法を確認する。	1h
12	高齢者を対象にした福祉サービスでの実践例③ 介護予防プログラム ■	3,4	生活習慣病や認知症の予防のためのプログラムについて調べる。	1h	介護予防のためのレクリエーション支援の在り方について考える。	1h
13	児童を対象にした福祉サービスでの実践例（障害児童を中心に）	3,4	児童の福祉サービスについて確認する。	1h	障害児入所・通所施設におけるレクリエーション支援の方法を確認する。	1h
14	障害者を対象とした福祉レクリエーション支援の実践例	3,4	障害者を対象としたレクリエーション支援について調べる。	1h	病院でレクリエーション支援を実践する上での方法と課題を整理する。	1h
15	まとめ	1,2,3,4	これまで学んだレクリエーション支援の内容と課題について確認する。	1h	レクリエーションが生活にどのように活かされるか考える。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

レクリエーション支援の演習授業の際は、会場を福祉実習室とする。
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自補完すること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

福祉レクリエーション援助論

MYカモクに追加

英文名：Welfare and Assistance in Recreation

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWA307

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高橋 紀子

科目に関連した実務経験

元(財)日本レクリエーション協会指導部 現東京レクリエーション協会公認講師・専門委員

東京都社会福祉士会 豊島区社会福祉士会 会長

東京都社会福祉士会 ぱあとなあ 会員 成年後見 未成年後見

未成年 高齢児童 不登校 発達障害に関する支援活動

地域密着型デイサービス介護職員

特別養護老人ホーム・デイサービスでのレクリエーション支援

障がい者施設でのレクリエーション療法

精神科デイケアでのレクリエーション療法

障害者スポーツ指導員 介護予防指導員として関連施設等での支援

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①福祉ニーズを有する人々が生きがいをもって生活できるように、個々の障害やニーズにあったレクリエーションを援助するための知識や方法を修得する。
- ②授業は、実際にレクリエーションを実践するなど体験学習を中心に進める。

到達目標 ↑

- 1.福祉レクリエーション援助の意義や方法を理解する。
- 2.実際の援助場面で対象者に合わせた活動の支援を行うことができる。■
- 3.支援の方法について多職種・他職種と連携して支援することができる。■

使用教材 ↑

随時資料を配布する。

参考文献 ↑

随時授業内等で提示

評価方法 ↑

定期試験50%、レポート（5回）50%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

レポートについては、随時フィードバックをおこなう。定期試験の後、振り返りまとめを行う。

オフィスアワー ↑

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@） ↑

takahashi.noriko#lvnw.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	福祉レクリエーション援助の専門性	1	レクリエーションとは何かについて、今までの復習をする	1.5 h	福祉レクリエーション援助の専門性について理解する	1.5 h
2	福祉レクリエーション援助の目的	1	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 h	援助の目的について復習しておくこと。	1.5 h
3	生きがい支援－生活習慣の視点から	1,2	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 h	生きがいとはなにか生活習慣の視点とはどのようなことか、授業中での振り返りと学びを深めておくこと	1.5 h
4	福祉レクリエーション援助過程 アセスメントの方法■	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 h	アセスメントをする上での福祉職としての知識を深めておくこと。心身機能・身体構造および支援に対する姿勢について。	1.5 h
5	福祉レクリエーション援助計画の方法■	1,2	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 h	対象者に即した援助計画とは何かについて、担当部分について理解を深めておくこと。	1.5 h
6	福祉レクリエーション援助の実施方法■	1,2	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 h	福祉レクリエーション援助の実施方法とは何が大切か理解を深めておくこと。	1.5 h
7	個別レクリエーションのための方法	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調	1.5 h	対象に合わせた援助の実施方法の目的・目標とはどのようなものか、その	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			べておくこと。		支援の配慮について理解を深めておくこと。	
8	グループレクリエーション援助の意義と効果	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5h	集団を介した個別援助について理解を深めておくこと。	1.5h
9	グループレクリエーション援助計画の方法と実践	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5h	集団を介した個別援助について計画について配慮する点等理解を深めておくこと。	1.5h
10	福祉レクリエーションの評価の方法 ■	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5h	援助の評価方法について復習し自らの課題について調べてくること。	1.5h
11	レジャーカウンセリングとレジャーエデュケーションの発展	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5h	生きがい支援・レジャー支援・レジャー教育について、講義内容と資料を確認し理解を深めてくること。	1.5h
12	レジャーエデュケーションの実践例	1,2	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5h	対象者に合わせたレジャー教育について理解を深めてくること。	1.5h
13	福祉レクリエーション援助と社会資源の活用	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5h	社会資源について挙げ、他に何かないか確認してくること。	1.5h
14	福祉レクリエーション援助におけるイベントプログラムの考え方と活用方法	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5h	施設・地域のイベントの必要性について理解し活用方法について考察する。	1.5h
15	まとめ	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5h	福祉レクリエーション援助の必要性和目的等について理解を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

福祉レクリエーション援助技術

MYカモクに追加

英文名 : Social Work in Welfare and Recreation

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWA308

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高橋 紀子

科目に関連した実務経験

元(財)日本レクリエーション協会指導部 現東京レクリエーション協会公認講師・専門委員

東京都社会福祉士会 豊島区社会福祉士会 会長

東京都社会福祉士会 ぱあとなあ 会員 成年後見 未成年後見

未成年 高齢児童 不登校 発達障害に関する支援活動

地域密着型デイサービス介護職員

特別養護老人ホーム・デイサービスでのレクリエーション支援

障がい者施設でのレクリエーション療法

精神科デイケアでのレクリエーション療法

障害者スポーツ指導員 介護予防指導員として関連施設等での支援

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①福祉レクリエーション活動の実践について理解し、援助に必要な「活動分析」や「活動アレンジ」の技術、及びコミュニケーションスキルを身につける。また、福祉レクリエーションの援助過程におけるアセスメント・計画・実践・評価の方法を修得する。
- ②授業は、実際にレクリエーションを実践するなど体験学習を中心に進める。

到達目標 ↑

- 1.医療・福祉現場でレクリエーションを活用するために必要な「活動分析」や「活動アレンジ」ができる。
- 2.コミュニケーションスキルを修得し、対人援助にレクリエーション活動支援を応用することができる。
- 3.福祉レクリエーション援助過程における個別及び集団のアセスメント、計画、実践、評価ができる。■

使用教材 ↑

随時資料を配布する。

参考文献 ↑

授業内で随時提示する

評価方法 ↑

ロールプレイ50%、レポート（5回）50%で評価する。 総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

レポートおよびロールプレイについて 随時フィードバックを行う。

オフィスアワー ↑

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@） ↑

takahashi.noriko#lvnw.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の開発とアレンジ ①レクリエーション財の考え方・捉え方	1,2	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5h	レク財について理解し、レク財について調べておくこと。	1.5h
2	福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の開発とアレンジ ②レクリエーション財分類 ③福祉レクリエーション援助に既存のレクリエーション財をどのように効果的にいかすか	1,2	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5h	レク財の分類とレク財の持つ効果について理解を深めておくこと。	1.5h
3	レクリエーション活動分析の考え方と方法 ①活動分析の必要性 ②活動分析の視点	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5h	活動分析について理解を深めておくこと。	1.5h
4	レクリエーション活動分析の考え方と方法 ③活動分析の方法 ④活動分析をどのように活用するか	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5h	効果ある福祉レク支援を展開するうえでの活動分析について理解を深めておくこと。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	個人の心身状況に対応したレクリエーション財の選択・開発・アレンジ	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 h	対象の理解、疾病の理解を深めた上でのレク財の選択の必要性について理解を深めておく。	1.5 h
6	事例から学ぶレクリエーション財提供の方法	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 h	各事例に即したレク財の選択、展開方法等について理解を深めておくこと。	1.5 h
7	福祉レクリエーション援助のための対人援助技術を学ぶ	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 h	対人支援に関する方法について理解を深めておくこと。	1.5 h
8	援助者のためのコミュニケーション技法について体得する	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 h	コミュニケーション技術についての理解を深めておくこと。	1.5 h
9	ホスピタリティトレーニング	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと	1.5 h	気配り配慮等について理解を深め自己覚知をおこなう	1.5 h
10	様々な療法を知る	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 h	対象者に大切な様々な療法についての理解と他の職種の理解を深める。	1.5 h
11	福祉レクリエーション援助の実際■ ①老人保健施設の入所者に対するレクリエーション支援について ②特別養護老人ホームの入居者に対するレクリエーション支援について ③デイケアにおけるレクリエーション支援について ④デイサービスにおけるレクリエーション支援について	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 h	場面における福祉レクリエーション援助についての理解を深める。	1.5 h
12	福祉レクリエーション援助の実際■ ⑤知的障害者施設におけるレクリエーション支援について ⑥児童施設におけるレクリエーション支援について ⑦地域等におけるボランティアとしてのレクリエーション支援について	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 h	場面における福祉レクリエーション援助についての理解を深める。	1.5 h
13	福祉レクリエーション援助の実際■ ⑧支援案を作成する	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 h	支援案作成を完成させる。	1.5 h
14	福祉レクリエーション援助の実際■ ⑨援助の実際を体験する	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 h	支援の実際についての振り返りを行い自ら分析評価を行う。	1.5 h
15	福祉レクリエーション援助の実際■ ⑩振り返りを行い次へのステップとする ⑪まとめ	1,2,3	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 h	福祉レクリエーション援助に関する必要性と理解を深める。	1.5 h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

障害のある人を取り巻く環境

MYカモクに追加

英文名 : Environment surrounding people with disabilities

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWA309

学年 : 3年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

根岸 洋人

科目に関連した実務経験

高崎市障害者虐待対策協議会会長（現在）

高崎市社会福祉審議会委員（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

障害者福祉の理念、諸外国との比較、問題点に焦点を当てて授業を行う。「障害者福祉」で取り上げた内容をさらに深めていくためにひとつひとつの項目に焦点をあて、各論的に構成する。本授業では様々な問題についてトピック的に取り上げ、毎回テーマが変更するような90分完結型の講義で学修していく。

授業は講義形式で進める。パワーポイント及び映像資料を使用する。履修人数によっては学生に発言を求めることがある。

到達目標

- 1.障害のある人々を取り巻く環境を理解しその問題点や課題を指摘できる■
- 2.積極的に授業に参加し、障害のある人をめぐる問題に対して、自分自身の意見をまとめ、発表することができる

使用教材

↑

プリント配布

参考文献

↑

授業中に指示する

評価方法

↑

期末試験（論述形式）80%、C-Learningによる授業参加20%

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

C-Learningを通して行う

オフィスアワー

↑

金曜5限 507研究室

メールアドレス（#→@）

↑

negishi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	障害表記	1,2	2年次の必修科目である障害者自立支援制度の内容をふりかえる	1h	障害者の差別表現について文献、ネット等で調べる	1h
2	障害理解の到達点	1,2	自身の中高生時代の道德教育について振り返る	1h	障害者を取り上げた絵本、映像などを探し視聴してみる	1h
3	権利を守る制度■	1,2	他教科で学んでいる権利擁護に関する制度を復習しておく	1h	障害者の権利が侵害されている事例を新聞記事等で探してみる	1h
4	障害者と犯罪	1,2	犯罪白書などの統計を事前に見ておく	1h	地域生活定着支援センターなどの制度を整理しておく	1h
5	障害者の地域生活■	1,2	生活のしづらさに関する調査を読む	1h	地域で暮らすことのメリット、デメリットについて自分自身の考えをまとめる	1h
6	問題行動への対応	1,2	心理学や行動分析などの他教科の学習内容を復習しておく	1h	PDCAサイクルを基にした行動変容について調べてみる	1h
7	障害者と家族	1,2	障害者家族による手記などの書籍を読んでみる	1h	保育や看護などの視点から障害者家族の支援をどう捉えているか確認する	1h
8	障害者ときょうだい	1,2	必要なし	0h	授業で紹介する書籍を読む	1h
9	障害者の余暇支援	1,2	児童館での障害児の受け入れ状況について調べてみる	1h	障害者が余暇のために使える公的制度について調べる	1h
10	障害者とスポーツ	1,2	パラリンピックの種目にどのようなものがあるか調べまとめておく	1h	障害者スポーツのイベント等に参加してみる	1h
11	重症心身障害児	1,2	児童福祉法の重症心身障害児施設について調べておく	1h	重症心身障害児のQOLについて自身の考えをまとめる	1h
12	出生前診断	1,2	近年導入された出生前診断についてネット・新聞記事などを調べる	1h	出生前診断についての自分自身の考えをまとめる	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	発達障害とその支援	1,2	他の授業で学習している発達障害の定義、障害特性についてふりかえる	1h	大人の発達障害者が抱えている問題について整理する	1h
14	老障介護	1,2	日本の高齢化率、老老介護についてインターネット等で調べておく	1h	老障介護問題を解決するためには何が必要か、自身の考えをまとめる	1h
15	障害と多様性	1,2	これまでの授業内容を振り返り、多様性について考えておく	1h	多様性と障害に関する参考文献を読む	1h

合計時間（予習・復習）



29h

備考



障害のある人について学ぶにあたって、実際に障害のある人と関わりを持つことは非常に大切です。春休み等を利用してボランティア等に参加してください。最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完してください。

本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、G P Aの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にC A Pのカウントには含めない。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



スクールソーシャルワーク論

MYカモクに追加

英文名 : School Social Work

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWA310

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 1 豊かな人間性
- 1 基礎的知識力
- 1 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 2 学際的な視点から取り組む力
- 2 応用・実践する能力
- 3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高木 政代

科目に関連した実務経験

統括スクールソーシャルワーカーとして教育委員会に勤務（経験）
ソーシャルワーク・アドバイザーとして教育委員会に勤務（現在）
足立区こども計画審議会委員（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①スクールソーシャルワークについて、その沿革からそれが必要とされる背景、視点、機能および役割などとともにスクールソーシャルワークの実践モデルや具体的な支援方法について取り上げ、体系的に学び理解できるようになる。
- ②スクールソーシャルワーク概論について、資料や映像を用い、授業を行う。

到達目標

- 1.スクールソーシャルワークの概念を述べることができる。
- 2.今日の学校教育現場が抱える課題とその実態について述べることができる。
- 3.学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性、さらにチーム学校の一員として求められる役割について述べるができる。
- 4.スクールソーシャルワークの支援方法について自分の考えを示すことができる。■

使用教材

^

講義に必要な教材・資料は適宜プリントし配布する。

参考文献

^

- ・『スクール[学校]ソーシャルワーク論』 社団法人日本社会福祉士養成校協会
門田光司・富島喜揮・山下英三郎・山野則子 中央法規 2012
 - ・「新スクールソーシャルワーク論」 山下英三郎他編著 学苑社 2012
- その他、授業時に適宜紹介する

評価方法

^

成績評価

- ①学期末レポートによる評価（70%） 尚、追再試は実施しない。
- ②毎回の授業時に課すレポートまたは小テスト・姿勢等による評価（30%）

その他の評価

- ①授業開講数の2/3以上を出席することにより、成績の評価対象とする。
- ②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届出（添付書類）を提出すれば出席扱いとする。
尚、15分以上の遅刻は欠席とみなす。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

リアクションペーパー等による質問や意見については授業の中で回答するなど、随時、学生にフィードバックする。

オフィスアワー

^

質問及び学習相談等は、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス/スクールソーシャルワークとは	1,2,3,4	授業の全体構成、シラバスの講義目標や内容に目を通し、理解する。	2h	講義内容、到達目標、成績評価の方法などを確認する。	1h
2	学校の概要（教育制度と学校組織）	1,3	学校組織や教員の役割、関連法について下調べを行う。	1h	資料を用いて授業内容を再確認する。	2h
3	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢①不登校、非行、児童虐待、子どもの貧困 ■	1,2	子どもたちが直面している不登校、非行、児童虐待、子どもの貧困について下調べを行う。	1h	資料を用いて授業内容を再確認する。	2h
4	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢②外国籍の就学、学習障害、特別支援教育、その他 ■	1,2	発達障害、特別支援教育やマイノリティの子どもの実態について調べる。	1h	資料を用いて授業内容を再確認する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	スクールソーシャルワークの価値・倫理	1,3	スクールソーシャルワークの価値・倫理また子どもの権利条約および児童福祉法について下調べを行う。	1h	資料を用いて授業内容を再確認する。 次回、小テストのため第1回～第5回の内容を復習しておく。	2h
6	アメリカや諸外国及び日本のスクールソーシャルワークの発展過程の概要	1,3	アメリカ等での発展過程、日本での発展過程について調べる。	1h	資料を用いて授業内容を再確認する。	2h
7	スクールソーシャルワークの実践プロセス■	3,4	アセスメント、プランニング、モニタリング等、援助の実行について下調べを行う。	1h	資料を用いて授業内容を再確認する。	2h
8	スクールソーシャルワークの実践モデル①■	3,4	実践モデル（システム理論やエコロジカルモデル等）について下調べを行う。	1h	資料を用いて授業内容を再確認する。	2h
9	スクールソーシャルワークの実践モデル②■	3,4	実践モデル（エンパワメントやストレングスモデル）について下調べを行う。	1h	資料を用いて授業内容を再確認する。	2h
10	ミクロレベルのスクールソーシャルワーク①■	3,4	個別支援方法（ミクロレベル）について下調べを行う。	1h	資料を用いて授業内容を再確認する。	2h
11	ミクロレベルのスクールソーシャルワーク②■	3,4	集団支援方法（ミクロレベル）について下調べを行う。	1h	資料を用いて授業内容を再確認する。	2h
12	メゾレベルのスクールソーシャルワーク①■	3,4	チームアプローチ、ケース会議について調べる。	1h	資料を用いて授業内容を再確認する。 次回、小テストのため第6回～第12回を復習しておく。	2h
13	メゾレベルのスクールソーシャルワーク②■	3,4	家庭・地域との協働支援、要保護児童対策地域協議会について調べる。	1h	資料を用いて授業内容を再確認する。	2h
14	マクロレベルのスクールソーシャルワーク	3,4	日本におけるスクールソーシャルワーカー活用事業について調べる。	1h	資料を用いて授業内容を再確認する。	2h
15	スクールソーシャルワーカーとスーパービジョン■	1,2,3,4	スーパービジョンについて調べる。	1h	資料を用いて授業内容を再確認する。これまでの授業内容をまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ：実務経験に基づく内容を示す。
- ・オンラインで授業を実施する場合、成績評価は、初回授業時に提示する。

印刷



医療ソーシャルワーク論

MYカモクに追加

英文名 : Social Work in Health Service

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWA311

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

中井 正江

科目に関連した実務経験

群馬県内の高度急性期医療機関で医療ソーシャルワーカーとして勤務している。
妊産婦から高齢者と幅広い患者やその家族の心理的・社会的・経済的な問題解決の援助を行っている。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①保健医療分野で社会福祉を実践する職種として「医療ソーシャルワーカー」の存在が挙げられる。しかし、保健医療分野（特に病院）では医師、看護師をはじめとする業務独占国家資格者による医療モデルが未だに主流であり、その中で名称独占の「社会福祉士」「精神保健福祉士」が患者・家族の生活モデルに視点をおいた支援を行うためには、それなりの知識と技術、考え方が必要である。本講では将来「医療ソーシャルワーカー」という職業を視野に入れている学生に、最低限理解

しておいてもらいたい基礎的内容を学んでもらうことを目的とする。

②授業は、前期開講の講義「保健医療と福祉」で使用する同名のテキストをより具体的に現場でどのように活用するか、「図解でわかるソーシャルワーク」も用いて解説していく。特に重要な部分はその都度スライドを作成・表示し、ノートに書き写してもらう。また、その他必要な補足資料などはプリントして教室で配布する。

到達目標 ↑

- 1. 医療ソーシャルワークの歴史を理解する。
- 2. 医療ソーシャルワーカーの倫理と価値、業務を理解する。
- 3. 傷病から生ずる生活問題について理解する。
- 4. 医療ソーシャルワーカーに必要な医学的知識等を理解する。
- 5. 連携、チーム医療について理解する。
- 6. 医療ソーシャルワーカーの支援技術について理解する。

使用教材 ↑

「保健医療と福祉」（前期の講義で使用したもの）
「図解でわかるソーシャルワーク」

参考文献 ↑

授業の中で随時紹介する

評価方法 ↑

- 以下の項目で評価を行い、100 点中 60 点以上を獲得した場合を合格とする。
- 1. 期末試験（筆記）による評価 100%
- その他の評価
- 1. 授業開講数の 2/3 以上の出席で評価対象とする。
（但し、実習・忌引き等は届け出により出席扱いとする。）
 - 2. 正当な理由無く 15 分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
 - 3. リモート授業の場合は各回のレポート提出を出席扱いとする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

授業の中で質問時間を設けるなど随時フィードバックを行う。

オフィスアワー ↑

出講日の授業終了時において、質問及び学習相談を受ける。

メールアドレス（#→@） ↑

初回授業時に提示する

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス（医療ソーシャルワーカーの業務紹介並びに授業の進め方等を確認）	1,2,3,4,5	教材の該当箇所を読む	1h	医療ソーシャルワーカーの全体的イメージを確認する。	1h
2	医療における社会保障政策の動向	1,5	教材の該当箇所を読む	1h	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	1h
3	医療ソーシャルワークの成立過程と今後の課題	1,3,5	教材の該当箇所を読む	1h	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	1h
4	医療ソーシャルワークの倫理と価値	1,2,3	教材の該当箇所を読む	1h	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	家族の理解と生活機能障害	2,3,4	教材の該当箇所を読む	1h	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	1h
6	必要な医学的知識と傷病の理解	2,3,4,5	教材の該当箇所を読む	1h	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	1h
7	連携とチーム医療	2,4,5	教材の該当箇所を読む	1h	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	1h
8	診療報酬とソーシャルワーク	1,4,5	教材の該当箇所を読む	1h	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	1h
9	面接技術①	1,2,4,6	教材の該当箇所を読む	1h	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	1h
10	面接技術②（演習含む）	1,2,4,6	教材の該当箇所を読む	1h	教科書と授業内容と授業内容と演習を振り返り、講義内容を理解する。	1h
11	アセスメント①	2,3,4,5,6	教材の該当箇所を読む	1h	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	1h
12	アセスメント②（演習含む）	2,3,4,5,6	教材の該当箇所を読む	1h	教科書と授業内容と演習を振り返り、講義内容を理解する。	1h
13	ソーシャルワーク記録と実践事例検討	2,3,4,5	教材の該当箇所を読む	1h	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	1h
14	実践に必要な社会制度	2,3,4,5	教材の該当箇所を読む	1h	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	1h
15	医療ソーシャルワーカー業務のまとめ	1,2,3,4,5,6	教材の該当箇所を読む	1h	医療ソーシャルワークについての理解を深める。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



こども論

MYカモクに追加

英文名：Theory of Child

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWA312

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大川 健次郎

科目に関連した実務経験

市区町村社会福祉協議会（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①こども論では、社会が子どもをどのように捉えてきたか、子どもの持つ権利とは何かについて学び、その上で、子育て、子育てを支援するための具体的な施策を取り上げて、その現状を把握し、その課題・あり方について考察できるようにする。支援を必要とする子ども・家族に対する援助についても学習する。

②授業は資料を配布し、それを使用して要点をまとめていく。支援を必要とする子ども・家族に対する援助についても学習する。

到達目標

- 1.社会が子どもをどのように捉えてきたのかを理解できる。
- 2.子どもの権利について理解できる。
- 3.子どもの権利条約について説明できる。
- 4.子どもの自立について理解できる。■

使用教材

^

講義時に必要な資料を配布する

参考文献

^

講義時に指示する

評価方法

^

定期試験80% 授業参加貢献度20%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

授業参加度をミニレポートで測る。ミニレポートにコメントをつけて返却し学生にフィードバックする

オフィスアワー

^

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。研究室508

メールアドレス（#→@）

^

okawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	子ども観（古代・中世）	1	古代の児童救済事業について調べてくること	1.5h	聖徳太子の行った事業についての理解、律令における子どもの位置づけについて理解する	1.5h
2	子ども観（近世・近代）	1	江戸時代における子どもの問題について調べてくること	1.5h	近世における児童保護についての理解、明治維新と子どもの生活について理解する	1.5h
3	子ども観（大正から戦前まで）	1	資本主義社会における子どもの問題について調べてくること	1.5h	学制頒布、徴兵制による子どもへの影響について理解する	1.5h
4	子ども観（戦後から高度経済成長まで）	1	戦後の荒廃時における子どもの問題について調べてくること	1.5h	工業化が進む中での子どもの生活について理解する	1.5h
5	子ども観（高度経済成長から1970年代まで）	1	高度経済成長がもたらした子どもの生活のマイナス面について調べてくること	1.5h	地域共同体という基盤が不在となった時の家族関係と子どもの生活について理解する	1.5h
6	子ども観（1980年代から現在まで）	1	国際家族年が社会に与えた影響について調べてくること	1.5h	我が国の少子化対策について理解する	1.5h
7	権利概念について	2	自然法的規範説と実定法的規範説について調べてくること	1.5h	フランス人権宣言、アメリカ独立宣言における権利概念、対立の調整概念について理解する	1.5h
8	受動的権利	2	受動的権利の概念について調べてくること	1.5h	受動的権利と社会権的特質の関係について理解する	1.5h
9	能動的権利	2	能動的権利の概念について調べてくること	1.5h	能動的権利と自由権的特質の関係について理解する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	子どもの権利の特質	2	ホワイトハウス会議宣言について調べてくること	1.5 h	受動的権利の限界と能動的権利の位置づけについて理解する	1.5 h
11	子どもの権利条約	2,3	子どもの権利条約の特徴について調べてくること	1.5 h	子どもの権利条約が採択されるまでの歴史、ウェルビーイング概念について理解する	1.5 h
12	子どもの権利を擁護する	2,3	アドボカシー概念について調べてくること	1.5 h	子どもゆえの権利擁護の必要性、施設職員とアドボカシーの思いのすれ違いについて理解する	1.5 h
13	子どもの権利ノート	2,3	子どもの権利ノートとは何か調べてくること	1.5 h	子どもの権利ノート配布の必要性、役割、特徴について理解する	1.5 h
14	子どもの自立とは何か	4	自分が考える「子どもの自立」とは何か整理してくること	1.5 h	日本における子どもの自立概念を理解する	1.5 h
15	子どもの自立支援■	4	動的調和的共生とは何か調べてくること	1.5 h	自立支援のために必要と不可欠なことを理解する	1.5 h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



カウンセリング論

MYカモクに追加

英文名：Counseling

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWA313

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

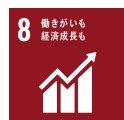
担当教員

角野 善司

科目に関連した実務経験

カウンセラーとして臨床心理センターに勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①カウンセリング・心理療法の理論・歴史・方法に関する知識を修得する。さらに、カウンセラーに求められるクライアントへの関わりについて学び、考察を深める。

②授業期間全体を通じた授業の進め方： 1年後期「心理学」（人間理解科目）での学修内容を基礎として進める。基本的に、毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、取り組んでもらいたい。対面授業は、難解な箇所に関する追加的な解説に重点を置く。また、理解を深めるために必要に応じて視聴覚教材を活用する。授業後には、復習課題に取り組むとともに、授業での学修を基に考察を深め、小レポートを作成し、提出することを求める。

到達目標

- 1.各学派のカウンセリング・心理療法に関する諸概念を説明できる。■
- 2.カウンセリングの視点を利用者支援に活用できる。■

使用教材

^

加藤伸司ほか「新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック 17 心理学と心理的支援」ミネルヴァ書房 2022年
2,800円+税
※人間理解科目「心理学」においても使用。

評価方法

^

毎回の課題・小レポート45%（3点×15回）、学期末筆記試験30%、学期末レポート25%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

毎回の課題・小レポートは授業時に、学期末筆記試験・レポートは事後に講評解説の機会を設ける。

オフィスアワー

^

初回授業時に告知するとともに、研究室ドアに掲出する（8号館405室）

メールアドレス（#→@）

^

zsumino#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	カウンセリングの目的、対象、方法■	1,2	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。	1.5h	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末試験・レポートに向けた学修を始める。	1.5h
2	ピアカウンセリングの目的、方法■	1,2	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5h	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末試験・レポートに向けた学修を重ねる。	1.5h
3	カウンセリングとソーシャルワークとの関係■	1,2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
4	心理療法の概要と実際（1）精神分析■	1,2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
5	心理療法の概要と実際（2）来談者中心療法■	1,2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
6	心理療法の概要と実際（3）行動療法・認知行動療法■	1,2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
7	心理療法の概要と実際（4）家族療法■	1,2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
8	心理療法の概要と実際（5）ブリーフ・サイコセラピー■	1,2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
9	心理療法の概要と実際（6）遊戯療法■	1,2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	心理療法の概要と実際 (7) 心理劇 ■	1,2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
11	心理療法の概要と実際 (8) 動作療法 ■	1,2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
12	心理療法の概要と実際 (9) SST（生活技能訓練） ■	1,2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
13	心理療法の概要と実際 (10) 福祉現場におけるセラピューティック・アクティビティ ■	1,2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
14	心理療法の概要と実際 (11) その他の心理療法 ■	1,2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
15	まとめ ■	1,2	これまでの学修内容を振り返る。	1.5h	最終回授業も含め、これまでの学修内容を振り返る。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・各福祉士の国家試験で頻出の範囲である。履修して、しっかりと学修してほしい。
- ・人間理解科目「心理学」を履修済であることを前提に授業を進める。
- ・仮に諸事情により対面での学期末筆記試験の実施ができない場合には、成績評価にあたっての配点は以下のとおりとする： 毎回の課題・小レポート75%（5点×15回）、学期末レポート25%
- ・■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

トータルボディトレーニング

MYカモクに追加

英文名：Total Body Training

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWA314

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

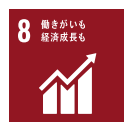
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大家 千枝子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

基本的な運動プログラム作成の知識や機器の活用方法を学び、トレーニングを実践する。また運動前後のストレッチングや機器を使わないレジスタンストレーニングの方法を身につける。

身体組成やエアロバイク、パワーマックスによる測定結果、ウェルラウンドの強度と回数などのデータは各自に用意されたファイルで管理する。授業終了時には、振り返りとして記録カードへ記入が必要とされ、ファイルごと提出してもらう。

到達目標

1. 機器の名称、使い方やエネルギー消費量の算出方法などについて理解し、説明できる。
2. 前後の体操を含めて、自分に合った適切な負荷（強度や回数）を選んでトレーニングできる。
3. 自分の健康・体力について関心・興味をもち、自らすすんでフィットネス活動を実践できる。
4. 授業の性質や履修者の中での個人の役割を理解、意識し、行動できる。
5. トレーニングの効果を実感できる（体力の向上、筋肉量・体脂肪量の調節、精神面など）。

使用教材

プリントを適宜配布する。

参考文献

参考文献を適宜紹介する。

評価方法

授業ごとの取り組み（記録を含む）70%、半期間のトレーニング成果15%、最終日のテスト15%

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回の授業後にフィジカルデータファイルの提出を求める。ファイルの中の授業記録カードに付したコメントやスタンプは必ずチェックすること。授業期間中に使用したフィジカルデータファイルについては、希望するものには返却する。ただし、試験期間終了日までに自ら取りに来ること。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

oie#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・ループリックの作成	3,4	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	0.5 h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	0.5 h
2	体組成測定、体力テスト（1回目）	3,4	測定項目を確認し、暴飲暴食や寝不足を控える。	0.5 h	測定項目とそれらの正しい測定方法、測定機器の使い方を復習して覚える。	0.5 h
3	結果の評価、機器の正しい使用方法	1,2,3,4	配布された資料に目を通しておく。	0.5 h	体組成と体力の結果から、自身の生活を見直し、健康的な生活を心がける。	0.5 h
4	ウォーキング・ジョギングと運動前後の体操	1,2,3,4	実施内容を確認し、ウォーキングやジョギングについて調べておく。	0.5 h	学んだストレッチや体操を実践してみる。	0.5 h
5	フリーウエイトでのトレーニング	2,3,4	配布された資料に目を通しておく。	0.5 h	学んだトレーニングを実践してみる。	0.5 h
6	フィットネス機器を使ったトレーニング（基本）	1,2,3,4,5	配布された資料に目を通しておく。	0.5 h	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 h
7	油圧マシンを使ったウェルラウンドエクササイズ（基本）	1,2,3,4,5	配布された資料に目を通しておく。	0.5 h	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 h
8	油圧マシンを使ったウェルラウンドエクササイズ（応用）	1,2,3,4,5	配布された資料に目を通しておく。	0.5 h	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 h
9	運動処方の現状とレジスタンストレーニングの実際	1,2,3,4,5	配布された資料に目を通しておく。	0.5 h	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	フィットネスプログラムの作成と実践	1,2,3,4,5	フィットネスプログラムを検討する。	0.5h	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5h
11	フィットネスプログラムの作成と実践	1,2,3,4,5	フィットネスプログラムを検討する。	0.5h	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5h
12	体組成・体力測定（2回目）	3,4	フィットネスプログラムを検討する。	0.5h	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5h
13	フィットネスプログラムの作成と実践	1,2,3,4,5	フィットネスプログラムを検討する。	0.5h	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5h
14	ウォーキング（大学周辺）または他のエクササイズ体験（TABATAトレーニングなど）	1,3,4	フィットネスプログラムを検討する。	0.5h	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5h
15	確認テストとまとめ（フィジカルデータファイルの提出・ルーブリックを使った自己採点）	1,2,3,4,5	シラバスの内容を読みなおして、目標の到達度を確認する。	0.5h	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



【単位修得に必要な時間について】

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

【履修条件】

ウォーミングアップ時間確保のため、余裕をもって登校し、**遅刻しないでいただきたい。**

準備・後片付けなど積極的な姿勢を求める。

【受講上の注意】

運動に適した服装（ジャージ、Tシャツなど）と**シューズ（屋内）**を着用すること。

（※ジーンズ・普段着での受講は不可。スマホや時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアスなどは外しておく。）

原則として見学は認めない。配慮を必要とする学生は初回ガイダンス終了に申し出ること。

貴重品は各自で管理すること。

【ルール】

授業開始時に、出席をとる。授業終了時には、振り返りとして授業記録カードの提出がある。

次の行為は授業中にしないこと。

①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホの使用

印刷



こころとからだのしくみ I

MYカモクに追加

英文名 : Mind and Body I

科目区分 : 専門展開科目

科目ナンバリング : SWA315

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 社会福祉コース選択/介護福祉コース必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

富田 俊

科目に関連した実務経験

専門看護師として急性期病院での経験を有す

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中にリアクションペーパーに対する振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①「こころとからだのしくみ I」は、介護サービスを実際に提供する際の根拠を学び、理解していくためのものである。介護を必要とする人は増加し、多様化している。これらに応えられる様、基礎を学び、実践に応用できる力を養うことを目標

とする。

②使用教材を要約した内容について事例を交え説明する。講義終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出する。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。

到達目標 ↑

- 1.こころのしくみの基礎概念（人間の基本的欲求・社会的欲求、自己概念と尊厳、学習・記憶・思考感情・動機づけ・適応等）について理解できる。■
- 2.からだのしくみの基礎事項（生命維持・恒常性のしくみ、人体各部の臓器・名称、ボデイメカニクス、関節可動域等）について理解できる。■

使用教材 ↑

中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座11「こころとからだのしくみ」第2版

この他に必要な資料は授業時に都度配布あるいは指示をする

参考文献 ↑

特になし

評価方法 ↑

課題（リアクションペーパー）30％，期末筆記試験70％

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

課題は講義で解説し、学習目標の到達度を確認する。

期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。

オフィスアワー ↑

月曜2時限 （504研究室）

メールアドレス（#→@） ↑

tomita-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・「健康とは何か」	1,2	序章「健康」とは何かを確認する。	1.5h	健康について、生活の質、持続性をふまえて理解する	1.5h
2	「こころのしくみを理解する」	1,2	教科書「こころのしくみを理解する」(P14～P38)を確認する	1.5h	テキストと授業から人間の欲求や自己実現・尊厳について理解する。	1.5h
3	からだのしくみ（身体の構造・機能・細胞）	2	教科書「からだのしくみを理解する」(P42～P49)を確認する	1.5h	からだのしくみ（身体の構造・機能・細胞）について理解する。	1.5h
4	からだのしくみ（脳・神経系）	2	教科書「からだのしくみを理解する」(P49～P53)を確認する	1.5h	からだのしくみ（脳・神経系）について理解する。	1.5h
5	からだのしくみ（感覚器）	2	教科書「からだのしくみを理解する」(P53～P56)を確認する	1.5h	からだのしくみ（感覚器）について理解する。	1.5h
6	からだのしくみ（呼吸器）■	2	教科書「からだのしくみを理解する」(P56～P58)を確認する	1.5h	からだのしくみ（呼吸器）について理解する。	1.5h
7	からだのしくみ（循環器・血液）■	2	教科書「からだのしくみを理解する」(P58～P60, P78～8	1.5h	からだのしくみ（循環器・血液）について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			0)を確認する			
8	からだのしくみ（循環器・血液）■	2	教科書「からだのしくみを理解する」（P58～P60, P78～80）を確認する	1.5 h	からだのしくみ（循環器・血液）について理解する。	1.5 h
9	からだのしくみ（消化器）■	2	教科書「からだのしくみを理解する」（P60～P63）を確認する	1.5 h	からだのしくみ（消化器）について理解する。	1.5 h
10	からだのしくみ（消化器）■	2	教科書「からだのしくみを理解する」（P60～P63）を確認する	1.5 h	からだのしくみ（消化器）について理解する。	1.5 h
11	からだのしくみ（泌尿器）■	2	教科書「からだのしくみを理解する」（P63～P64）を確認する	1.5 h	からだのしくみ（泌尿器）について理解する。	1.5 h
12	からだのしくみ（骨・筋肉・関節）■	2	教科書「からだのしくみを理解する」（P65～P70）を確認する	1.5 h	からだのしくみ（骨・筋肉・関節）を理解する。	1.5 h
13	からだのしくみ（生殖器・内分泌）■	2	教科書「からだのしくみを理解する」（P72～P78）を確認する	1.5 h	からだのしくみ（生殖器・内分泌）について理解する。	1.5 h
14	生命を維持するしくみ■	2	教科書「からだのしくみを理解する」（P81～P86）を確認する	1.5 h	生命を維持するしくみについて理解する。	1.5 h
15	まとめ	1,2	教科書全体から不明な点を確認し、質問を検討する	1.5 h	からだのしくみについて理解する	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

■：実務経験に基づく内容を示す。

社会福祉コースの学生においても、こころとからだのしくみでの学びは、クライアントをより広い視野でとらえることに寄与します。

印刷



こころとからだのしくみⅡ

MYカモクに追加

英文名：Mind and Body Ⅱ

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWA316

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：社会福祉コース選択/介護福祉コース必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

富田 俊

科目に関連した実務経験

専門看護師として急性期病院での経験を有す

履修を必須とする資格

介護福祉士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中にリアクションペーパーに対する振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①「こころとからだのしくみⅡ」は、福祉サービスを実際に提供する際の根拠を学び、知識を習得する科目である。福祉を必要とする人は増加し、多様化している。これらに応えられる様、基礎を学び、実践に応用できる力を養うことを目標とす

る。

②使用教材を要約した内容について事例を交え説明する。講義終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出する。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。

到達目標

1.実践に直接関連する基礎的知識（移動、身じたく、入浴・清潔保持、食事、排泄、睡眠等、利用者の生活・自立支援に必要な介護等）や、機能低下、障害がおよぼす影響、医療職との連携等について理解できる。■

2.死にゆく人のこころとからだのしくみ（「死」の捉え方、終末期から死に至る体の理解、「死」に対するこころの理解、医療職との連携等）について理解できる。■

使用教材

中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座11「こころとからだのしくみ」第2版

この他に必要な資料は授業時に都度配布あるいは指示をする

参考文献

特になし

評価方法

課題（リアクションペーパー）30％，期末筆記試験70％

課題・評価に対するフィードバック方法

課題は講義で解説し、学習目標の到達度を確認する。

期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。

オフィスアワー

月曜2時限 （504研究室）

メールアドレス（#→@）

tomita-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第1節 移動のしくみ（P90～P105）■	1	教科書 第3章 第1節を確認する	1.5h	移動の効果，からだのしくみを理解する	1.5h
2	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が移動に及ぼす影響、第3節 変化の気づきと対応（P106～P117）■	1	教科書 第3章 第2，3節を確認する	1.5h	移動が不自由になると生じる状態、日常の観察ポイントを理解する	1.5h
3	第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第1節 身じたくのしくみ（P118～P136）■	1	教科書 第4章 第1節を確認する	1.5h	身じたくに関連するからだのしくみを理解する	1.5h
4	第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響，第3節 変化の気づきと対応（P137～P153）■	1	教科書 第4章 第2，3節を確認する	1.5h	身じたくを整えることを妨げる要因、観察ポイントを理解する	1.5h
5	第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ 第1節 食事のしくみ（P154～P161）■	1	教科書 第5章 第1節を確認する	1.5h	栄養素とはたらき、摂食の解剖生理、食事の種類を理解する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	第5章 食事に関連したところからだのしくみ■ 第2節 心身の機能低下が食事に及ぼす影響, 第3節 変化の気づきと対応 (P162~P177) ■	1	教科書 第5章 第2, 3節を確認する	1.5h	食事動作に影響する要因の内容, 医療職との連携ポイントを理解する	1.5h
7	第6章 入浴・清潔保持に関連したところからだのしくみ 第1節 入浴・清潔のしくみ (P178~P189) ■	1	教科書 第6章 第1節を確認する	1.5h	心身機能が清潔保持に及ぼす影響について理解する	1.5h
8	第6章 入浴・清潔保持に関連したところからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響, 第3節 変化の気づきと対応 (P190~P213) ■	1	教科書 第6章 第2, 3節を確認する	1.5h	心身機能の低下が及ぼす清潔保持への影響を理解する	1.5h
9	第7章 排泄に関連したところからだのしくみ 第1節 排泄に関連したしくみ (P214~P226) ■	1	教科書 第7章 第1節を確認する	1.5h	排泄に必要な行為、排泄のしくみ・正常を理解する	1.5h
10	第7章 排泄に関連したところからだのしくみ■ 第2節 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響, 第3節 変化への気づきと対応 (P227~P245) ■	1	教科書 第7章 第2, 3節を確認する	1.5h	排泄障害の種類と特徴、タイプ別の対応を理解する	1.5h
11	第8章 休息・睡眠に関連したところからだのしくみ 第1節 休息・睡眠のしくみ (P246~P255) ■	1	教科書 第8章 第1節を確認する	1.5h	休息・睡眠のしくみを理解する	1.5h
12	第8章 休息・睡眠に関連したところからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響, 第3節 変化への気づきと対応 (P256~P269) ■	1	教科書 第8章 第2, 3節を確認する	1.5h	加齢が休息・睡眠に与える影響、睡眠障害の種類と特徴を理解する	1.5h
13	第9章 人生の最終段階のケアに関連したところからだのしくみ■ 第1節 人生の最終段階に関する死のとらえ方 (P270~P280) ■	1,2	教科書 第9章 第1節を確認する	1.5h	終末期のとらえ方、看取りでの尊厳の保持を理解する	1.5h
14	第9章 人生の最終段階のケアに関連したところからだのしくみ■ 第2節 死に対するこころの理解 (P281~P287) ■	1,2	教科書 第9章 第2節を確認する	1.5h	死に直面した心理状況、こころの変化や受け止めたかを理解する	1.5h
15	第9章 人生の最終段階のケアに関連したところからだのしくみ■ 第3節 終末期から危篤状態、死後のからだの理解■ 第4節 終末期における医療職との連携 (P288~P306) ■	1,2	教科書 第9章 第3, 4節を確認する 教科書全体から不明な点を確認し、質問を検討する	1.5h	終末期から死までの身体機能の特徴、死後のからだの変化を理解する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

太字は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。

■：実務経験に基づく内容を示す。

社会福祉コースの学生においても、こころとからだのしくみでの学びは、クライアントをより広い視野でとらえることに寄与します。

印刷 

パラスポーツ論

MYカモクに追加

英文名：Para-Sports Theory

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWA317

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大塚 光彦

科目に関連した実務経験

- ・実務者として、県立身体障害者リハビリテーションセンター（旧称）、県立点字図書館、県立ふれあいスポーツプラザ、県立ゆうあいピック記念温水プールに勤務（経験）
- ・指導員（実習生担当・就労支援担当）として、作業所（就労支援B型）及び地域活動支援センターに勤務（経験）
- ・長野冬季パラリンピック日本代表アルペンスキーチーム技術スタッフとして参加（経験）
- ・日本代表スタッフとして、カナダ国際身体障害者スキー大会に参加（経験）
- ・身体障がい者野球「群馬アトム」チームとして「24時間テレビ」に出演（経験）
- ・高崎市スポーツ推進審議会公募委員（現在）

履修を必須とする資格

初級パラスポーツ指導員

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



講義の目標

パラ（障がい者）スポーツとは、障がいの特性を理解し、一般に親しんでいるスポーツのルールを少し工夫するだけで障がい者（児）のみならず対象者に合わせて、誰にでも楽しく安全に安心して出来るスポーツである。更に東京パラリンピックを契機に、障がい者スポーツに関する報道等は「パラスポーツ」という名称が多様化されて、社会的にも日常化してきており、浸透して来ている。

また、健常者と共にブレイする競技も増え始めている。更にパラリンピックの上部組織である「日本障がい者スポーツ協会」が「日本パラスポーツ協会」に名称変更（2021.10.1付）となる。誰もが楽しめるスポーツとしての魅力を伝え、競技の普及に繋げ、更に健常者と一緒になって進めていくことが共生社会の実現に向けて望ましい。上記を踏まえて、講義においては三障がい（身体・知的・精神）のスポーツに重点を置き、レクリエーションを含めて幅広く知ることにより、基本的な障がいの種類や特徴を学習する。また、パラ（障がい者）スポーツの歴史や制度等、パラリンピック（夏・冬競技）のDVDによる学習と実技も組み入れ、各種パラ競技を知ることにより、指導上の留意点と安全な指導法を習得する。一人でも多くの障がい者またパラスポーツに興味のある健常者にも、パラスポーツの場へ出るキッカケをつくる支援ができるようになることを目指します。

講義の実施方法

パラスポーツの特性に応じた基本的な技術と指導上必要な基礎的な手話（指文字を重点）を習得出来るように進行します。なお、ゲストスピーカーの都合により、講義の順番に変更が生じる場合があります。ゲストスピーカーは元パラリンピック女子車いすバスケットボール選手（銅メダリスト）を予定しています。

到達目標



- 1.障がいの特性に応じたスポーツの指導ができる。■
- 2.対象者に合わせて、楽しく安心して安全に指導できる。■
- 3.キッカゲづくりを支援できる。■
- 4.基本的な技術を習得する。■
- 5.基礎的な手話を習得する。■

使用教材



（公益財団法人） 日本パラスポーツ協会[編]
改訂版 障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2020年改訂カリキュラム対応
・講義時に関係資料（PP補足資料等）及び新聞等関係記事のコピー等を配布

参考文献



- ・アナザー1964 （パラリンピック序章） 著：稲泉 連
- ・NHKテキストテレビ みんなの手話
- ・監修 深海久美子「すぐ使える手話」
- ・著 豊田直子「やさしい手話」

評価方法



成績評価

- 1.講義毎及びミニレポート（C-Learningの「レポート」に記述する方法）による評価（40%）
- 2.ゲストスピーカー1回のミニレポート（C-Learningの「レポート」に記述する方法）による評価（20%）
- 3.筆記試験40%

その他の評価

実習や忌引き等による欠席は届け出（場合により要添付書類）を提出すれば出席扱いとします。
なお、15分以上の遅刻は欠席とみなします。

課題・評価に対するフィードバック方法



「授業ミニレポート」及び「アンケート」・「一言コメント」にある質問や意見については、次回の講義の中で随時取り上げて、学生にフィードバックします。

オフィスアワー



質問などがある者は、講義前後の教室及び非常勤講師控室で対応します。

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回講義時に提示します。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	パラスポーツ競技の紹介（パラリンピック競技夏・冬含む）・その他 ■	1,2,3	教本（P116～117、P123、P158～161）を判読し、国内大会・国際大会の障がい者の代表的な各種競技を確認する。	2h	講義内容・到達目標等を確認し、特別なルール等を理解する。	2h
2	パラスポーツ推進の取り組み（指導者制度・協議会・組織他） ■	1,2,3,5	教本（P30～33）を判読し、目的・役割・指導者制度等の概要を確認する。 （指文字）ア行予習	2h	講義内容・到達目標等を確認して、概要等を理解する。 （指文字）ア行復習	2h
3	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質（役割・心構え・視点） ■	1,2,3,5	教本（P2～5）を判読し、心得・留意点等、求められる資質について確認する。 （指文字）力行	2h	講義内容・到達目標等を確認し、資質について理解する。 （指文字）ア～力行	2h
4	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫（車いす操作方法及び介助方法他）（実技） ■	1,2,3,4,5	教本（P108～117）を判読し、工夫や配慮等、基本的な視点・方法を確認する。 （指文字）サ行	2h	講義内容・到達目標等を確認し、視点・方法等を理解する。 （指文字）ア～サ行	2h
5	各障がいの理解（精神障がい者のスポーツ指導時の留意点） ■	1,2,3,5	教本（P124～127、P210～213）を判読し、精神障がいの種類等を確認する。 （指文字）タ行	2h	講義内容・到達目標等を確認し、指導法を理解する。 （指文字）ア～タ行	2h
6	全国障害者スポーツ大会の概要 ■（事前説明：車いすバスケのルール他）	1,2,3,5	教本（P150～153）を判読し、大会の概要・障害区分・競技規則等を確認する。（次の交流に備え事前にルール等を周知する。） （指文字）ナ行	2h	講義内容・到達目標等を確認し、概要等を理解する。 （指文字）ア～ナ行	2h
7	障がい者との交流（車いすバスケットボール・実技） ■	1,2,3,4,5	教本（P22～23）を判読し、交流の必要性等、意義や価値について確認する。 （※ルール参考：P200～203） （指文字）ハ行	2h	講義内容・到達目標等を確認して必要性を理解する。 （指文字）ア～ハ行	2h
8	パラスポーツの意義と理念について ■	1,2,3,5	教本（P10～13）を判読し、理念（考え方）について確認する。 （指文字）マ行	2h	講義内容・到達目標等を確認し、理念等を理解する。 （指文字）ア～マ行	2h
9	障がいの理解（視覚障がいの伴走・ガイド他）（実技） ■	1,2,3,4,5	教本（P152～153、P171）を判読し、変更・工夫された規則の意味を確認する。 （指文字）ヤ行	2h	講義内容・到達目標等を確認し、伴走方法を	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					理解する。 (指文字) ア～ヤ行	
10	コミュニケーションスキルの基礎 ■	1,2,3,4,5	教本 (P16～21) を判読し、要素や工夫等を確認する。 (指文字) ラ行	2h	講義内容・到達目標等を確認し、要素や工夫等を理解する。 (指文字) ア～ラ行	2h
11	障がいの理解 (身体・知的) (FD実技) ■	1,2,3,4,5	教本 (P159、P184～187) を判読し、競技FDの基本と留意点を確認する。 (指文字) ワ行	2h	講義内容・到達目標等を確認し、指導法を理解する。 (指文字) ア～ワ行	2h
12	各障がいの理解 (聴覚・内部の指導上の留意点) (デフリンピック・パラスポーツDVD) ■	1,2,3,5	教本 (P114～117) を判読し、障がい別各留意事項を確認する。 手話 (50音・数詞)	2h	講義内容・到達目標等を確認し、共通留意事項を理解する。 手話 (50音・数詞)	2h
13	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 (ボッチャ・実技) ■	1,2,3,4,5	教本 (P109、P228～231) を判読し、競技ルール等を確認する。 手話 (50音・数詞)	2h	講義内容・到達目標等を確認し、留意事項を理解する。 手話 (50音・数詞)	2h
14	パラスポーツに関する諸施策	1,2,3,5	教本 (P26～29) を判読し、歴史的発展の経緯・諸施策を調べる。 手話の総集編	2h	講義内容・到達目標等を確認し、諸施策を理解する。 手話の総集編	2h
15	安全管理 ■	1,2,3,4,5	教本 (P42～52) を判読し、スポーツ指導者としての安全配慮義務について確認する。 手話の総集編	2h	講義内容・到達目標等を確認し、安全配慮義務を理解する。 手話の総集編	2h

合計時間 (予習・復習)

60h

備考

■ : 実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

チーム医療アプローチ演習

MYカモクに追加

英文名：Interprofessional Practice

科目区分：応用専門科目

科目ナンバリング：SWA318

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

渡邊秀臣（理学）、倉林しのぶ・梅原里美・小池洋子・茂木佐智子・内田真理子・中川裕・生方敬美（看護）、篠原智行・齊田高介（理学）、大林恭子・青森達・前田恵里・高橋恵美利・高橋雄太・信田智哉・長嶺歩（薬学）、木村憲洋・三澤安利沙（情報）、竹内真理・河原田律子（栄養）、原田欣宏・富田俊・加藤大輔（社会福祉）、内田祥子（子ども教育）

科目に関連した実務経験

*各学科のコア教員のみ

渡邊秀臣（理学）：非常勤医師（整形外科医）として病院に勤務

小池（看護）：看護師として一般病院に勤務（経験）

篠原（理学）：理学療法士として急性期、回復期病院に勤務（経験）。生活期病院に非常勤勤務。

高橋雄太（薬学）：薬剤師として大学病院に勤務（経験）、調剤薬局に非常勤勤務。

木村（情報）：病院経営企画及び診療情報管理にて病院に勤務（経験）

竹内（栄養）：管理栄養士として国立病院機構に勤務（経験）。健大附属クリニック管理栄養士兼務。

加藤（社会福祉）：MSWとしてケアミックス病院に勤務（経験）

内田（子ども教育）：保育者養成校での学外実習の指導（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①より安全で質の高い医療の提供にはチーム医療が欠かせない。その上で最善の医療や福祉を提供することができるよう、チームや多職種連携のあり方や課題、工夫について学び、自身の考えを述べられるようになる。

②グループワークのテーマは事前に座学形式で示す。グループワークのほとんどは複数学科の履修生で構成したグループで行う。最終的に模擬症例に対する最善の医療についてグループの成果物を作成し発表する。

到達目標

1. 多職種間での情報伝達・共有の必要性を理解し、効果的な情報伝達・共有方法について考えを述べられる。■
2. 各専門職の役割と活動について理解し、多職種が連携・協働することの意義を述べられる。■
3. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の連携・協働の必要性を説明できる。■
4. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題を考察できる。■

使用教材

関連する資料を随時配布する。

参考文献

指定なし。

評価方法

1～4回の振り返りシートの記述内容、演習参加への積極性・授業態度40%、5・6回の模擬症例検討内容等20%、7・8回の演習参加への積極性・授業態度および発表内容・発表態度20%、授業後レポート20%

課題・評価に対するフィードバック方法

模擬症例検討ではグループごとに発表し、教室担当の教員がフィードバックする。

オフィスアワー

渡邊（理学）：金曜3限、4号館2階学部長室
小池（看護）：月曜4限、5号館207研究室
篠原（理学）：水曜3限、4号館416研究室
高橋雄太（薬学）：水曜2限、7号館323研究室
木村（情報）：月曜1限、7号館610研究室
竹内（栄養）：木曜2限、1号館308研究室
加藤（社会福祉）：木曜2限、1号館513研究室
内田（子ども教育）：月曜1限、8号館410研究室

メールアドレス（#→@）

渡邊（理学）：watanabe-h#takasaki-u.ac.jp
小池（看護）：koike-y#takasaki-u.ac.jp
篠原（理学）：shinohara-t#takasaki-u.ac.jp
高橋雄太（薬学）：takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp
木村（情報）：norihito#takasaki-u.ac.jp
竹内（栄養）：mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp
加藤（社会福祉）：kato-d#takasaki-u.ac.jp
内田（子ども教育）：uchida-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス/ノンテクニカルスキル【合同】■	1,2,3,4	チーム、チーム医療について調べておく。	1.5h	ノンテクニカルスキルとは何かを整理する。	1.5h
2	効果的なチーム、チーミング【合同】■	1,2,3,4	チーム、チーム医療について調べておく。	1.5h	チーム、チーミングとは何かを整理する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	効果的な情報伝達と共有；実践【合同】 ■	1	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1.5 h	情報伝達と共有方法についての課題を整理する。	1.5 h
4	効果的な情報伝達と共有；グループワーク【合同】 ■	1,2,3,4	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1.5 h	情報伝達と共有方法についての課題と工夫を整理する。	1.5 h
5	チームカンファレンスの目的と方法【各学科】 ■	1,2,3,4	病院の内外で実施されるチームカンファレンスにはどのようなものがあるかを調べておく。	1.5 h	チームカンファレンスのあるべき姿や課題を整理する。	1.5 h
6	模擬症例検討① 模擬症例に対する自職種の役割、アプローチ【各学科】 ■	1,2,3,4	模擬症例の疾病や治療について調べ、自職種の関わり方を考えておく。	1.5 h	模擬症例への自職種の役割、アプローチを整理する。	1.5 h
7	模擬症例検討② 模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチ；グループワーク【合同】 ■	1,2,3,4	模擬症例への自職種の役割、アプローチを他職種に説明する準備をしておく。	1.5 h	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 h
8	模擬症例検討③ 模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチ；発表【合同】 ■	1,2,3,4	発表の準備をしておく。	1.5 h	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

【履修条件】原則、チーム医療アプローチ論を履修していること。

【副専攻対象科目】（生物生産除く）本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム「多職種連携コース」の対象科目である。

副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、GPAの算出や卒業必要対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する、また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

介護ロボット論

MYカモクに追加

英文名：Theory of Nursing Care Robot

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWA319

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

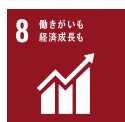
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

未定

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①平成25年、日本の成長戦略を示した「日本再興戦略」が閣議決定され、介護ロボットの開発や普及に向けた事業が全国で推進され、平成29年には、介護ロボットの導入支援・活用推進等を担う「プロジェクトコーディネーター」の必要性が提唱され、福祉現場での配置が進められている。

②本講義では、社会福祉士や介護福祉士が専門性と援助技術を駆使して、「プロジェクトコーディネーター」として果たすべき役割を学び、介護ロボットに関する最新の制度や知識、活用方法等を修得し、実践現場での導入支援・活用推進等を行うことができる能力を身につけることを目指す。

到達目標

1. 専門職が介護ロボットに関する制度や知識、活用方法等を学ぶ必要性を説明できる。
2. 介護ロボットの機能や特徴、導入方法等を分かりやすく説明できる。

- 3.介護ロボットの活用意義をQOL向上の観点から考察し、議論することができる。
- 4.高齢者に限らず、児童や障害者等、幅広い領域での活用可能性を説明することができる。

使用教材 ↑

講義に必要な資料は随時配布する

参考文献 ↑

授業内で随時紹介する。

評価方法 ↑

【評価点】（100点満点）
期末試験（100点）

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

授業課題への取組結果は、次の授業で教員からフィードバックする。

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーションー講義の到達目標、内容、進め方、成績評価等の説明	1	シラバスを読み、講義の目標や内容等を確認する。	1.5h	介護ロボットについてインターネット等で調べる	1.5h
2	人工知能（AI）やロボットに関する基礎知識	1,3,4	第1回の動画を再視聴する	1.5h	人工知能（AI）に関わる動画等を調べて視聴する	1.5h
3	人工知能（AI）の歴史的背景と現在の到達点	1,2,3	第2回の動画を再視聴する	1.5h	身近な人工知能（AI）について調べる	1.5h
4	人工知能（AI）の将来的展望	1,2,3,4	第3回の動画を再視聴する	1.5h	福祉分野における人工知能（AI）の活用について考える	1.5h
5	海外の介護ロボット事情	1,2,3,4	第4回講義の動画を再視聴する	1.5h	授業の感想をまとめる（小レポート）	1.5h
6	最前線の介護ロボット紹介	1,2,3,4	第5回講義の動画を再視聴する	1.5h	福祉分野におけるロボットの活用について考える	1.5h
7	ロボット開発の最前線	1,2,3,4	第6回講義の動画を再視聴する	1.5h	最前線でロボットを開発する人々が何を重要視しているかを考える	1.5h
8	介護ロボットの開発と実践の最前線（1）	1,2,3,4	第7回講義の動画を再視聴する	1.5h	福祉の専門職として介護ロボットをどのように活用すべきかを考える	1.5h
9	介護ロボットの開発と実践の最前線（2）	1,2,3,4	第8回講義の動画を再視聴する	1.5h	福祉の専門職として介護ロボットをどのように活用すべきかを考える	1.5h
10	「コミュニティワーク」の実践におけるロボット・人工知能（AI）の活用	1,2,3,4	第9回講義の動画を再視聴する	1.5h	授業の感想をシートにまとめる（小レポート）	1.5h
11	「ケースワーク」の実践におけるロボット・人工知能（AI）ロボットの活用①	1,2,3,4	第10回講義の動画を再視聴する	1.5h	授業の感想をまとめる（小レポート）	1.5h
12	「ケースワーク」の実践におけるロボット・人工知能（AI）ロボットの活用②	1,2,3,4	第11回講義の動画を再視聴する	1.5h	授業の感想をまとめる（小レポート）	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	「ケースワーク」の実践におけるロボット・人工知能（AI）ロボットの活用③	1,2,3,4	第12回講義の動画を再視聴する	1.5h	授業の感想をまとめる（小レポート）	1.5h
14	介護ロボットの開発と研究 – コミュニケーションロボットの可能性	1,2,3,4	第13回講義の動画を再視聴する	1.5h	授業の感想をまとめる（小レポート）	1.5h
15	講義のまとめ	1,2,3,4	今までの講義動画で最も印象深かった内容を再視聴する	1.5h	授業の感想をシートにまとめる（小レポート）	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

印刷



国際福祉事情

MYカモクに追加

英文名：International Welfare Situation

科目区分：専門展開科目

科目ナンバリング：SWA320

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

2 学際的な視点から取り組む力

2 応用・実践する能力

3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

原田 欣宏、出雲 春明、江島 智子

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①福祉に関わる制度やサービスの提供方法は大きく異なる。各国の歴史や文化の違いを理解しながらも海外の福祉政策や課題を理解することは、我が国の福祉政策や実践の在り方を検討するための基盤となる。

②このため、この講義では主としてヨーロッパ、とくに本学の海外研修派遣先、および受入元の諸国に関する福祉の諸事情について、具体的に状況を紹介していく。

各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はPowerPointにより要点を提示する。

到達目標

- 1.ヨーロッパ（特にドイツ、スイス）の福祉に関する課題を理解することができる。
- 2.日本と諸外国の福祉政策と文化の違いについて比較検討することができる。
- 3.国際交流によって来日する学生に対して日本と外国の福祉課題を比較説明することができる。

使用教材

授業時に資料を配布する

参考文献

授業時に提示する

評価方法

総合評価で60%以上を合格とする。

- 1. 海外移住者とのZoom交流課題作成(30点)
- 2. 海外移住者とのZoom交流での発表と質疑応答（70点）

その他、授業の取り組みや貢献度について10点を限度に加点あるいは減点する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題，レポートは，提出期限後に授業内にて解説を行う。最終プレゼンテーションは，作成過程で指導を行いながら説明する。

オフィスアワー

原田：火曜3時限 研究室：1号館5階506
出雲：日時相談 研究室：1号館5階511

メールアドレス（#→@）

原田 harada#takasaki-u.ac.jp
出雲 izumo-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス／国際交流との関係	1	シラバスを読み、講義目標、到達目標、講義計画などを理解する。	1.5h	授業で扱う各国の概要を確認する。	1.5h
2	ドイツの福祉事情(1)－移民・難民、憲法、東西ドイツ統合、家族政策、貧困	1,2	ドイツの文化（好み、伝統的な行事など）や直面している問題について調べる。	1.5h	ドイツの福祉政策とその背景について整理する。	1.5h
3	ドイツの福祉事情(2)－育児休業、教育	1,2	ドイツの子ども政策について調べる。	1.5h	ドイツと日本の子ども政策について整理、比較する。	1.5h
4	アジアの福祉事情	1,2	アジアにおける高齢化の状況について調べる。	1.5h	アジアにおける労働人口の減少が日本に与える影響について整理する。	1.5h
5	さくらサイエンスプログラム－ベトナム学生との交流	1,2,3	ベトナムの文化（好み、伝統的な行事など）について調べる。	1.5h	ベトナム学生との交流で得た体験を整理し、今後に活かす。	1.5h
6	ドイツの文化－働き方・アートは不要不急か、不可欠か？	1,2	ドイツの文化（ワークライフバランス、ジェンダーギャップなど）について調べる。	1.5h	ドイツにおける労働とアートの位置づけを整理する。	1.5h
7	イギリスの医療福祉事情	1,2	イギリスの社会保障制度について調べる。	1.5h	イギリスの社会保障制度の変容とソーシャルワークの実践について整理する。	1.5h
8	スイスの福祉事情：文化風土、福祉、安楽死政策	1,2	スイスの永世中立国としての位置づけ、安楽死をめぐる近年の議論について調べる。	1.5h	安楽死をめぐる日本とスイスのスタンスの違いを整理する。	1.5h
9	海外居住者との交流準備(1)プレゼン資料の作成	1,2,3	パワーポイントでプレゼンテーションの資料を作成する。あら	1.5h	意見交換した内容を整理する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			はじめ情報収集をしておくこと。			
10	海外居住者との交流準備 (2)プレゼン資料の作成	1,2,3	パワーポイントでプレゼンテーションの資料を作成する。あらかじめ情報収集をしておくこと。	1.5h	意見交換した内容を整理する。	1.5h
11	海外居住者との交流準備 (3)プレゼン資料の作成	1,2,3	パワーポイントでプレゼンテーションの資料を作成する。あらかじめ情報収集をしておくこと。	1.5h	意見交換した内容を整理する。	1.5h
12	海外居住者との交流準備 (4)プレゼンの予行練習	1,2,3	プレゼンテーションの予行練習を行う。資料を完成させておくこと。	1.5h	指導をもとに資料とプレゼンの段取りのブラッシュアップを行う。	1.5h
13	海外居住者との交流準備 (5)プレゼンの予行練習	1,2,3	プレゼンテーションの予行練習を行う。資料を完成させておくこと。	1.5h	指導をもとに資料とプレゼンの段取りのブラッシュアップを行う。	1.5h
14	海外居住者とのZOOM交流会(1)	1,2,3	プレゼンテーションを仕上げ、練習しておく。	1.5h	質疑応答で得た情報を整理する。	1.5h
15	海外居住者とのZOOM交流会(2)	1,2,3	プレゼンテーションを仕上げ、練習しておく。	1.5h	質疑応答で得た情報を整理する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・「さくらサイエンスプログラムーベトナム学生との交流」についてはプログラムの日程によって実施回、曜日、時限が変動するため、決定次第連絡する。
- ・第14、15回は海外居住邦人とZoomでの交流会を実施する。日時については決定次第連絡する。

印刷 

総合演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in Advanced Studies I

科目区分 : 卒業研究及び演習

科目ナンバリング : SWT401

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

安達 正嗣

科目に関連した実務経験

兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①現代の日本社会において、高齢化に関する福祉社会学的ならびに家族社会学的な視点・分析能力の養成は、さまざまな学術分野のみならず、社会福祉・精神保健・介護の現場のなかで重要性を増してきている。本演習では、高齢者福祉のあり方を考えることを通じて、こうした視点・分析能力を身につけることを目指すものである。

②受講生が主体となって、司会と報告者の役割をおこない、教科書の担当章に関する報告者の報告内容・レジюмеをめぐって議論して、担当教員が適宜に助言しながら、教科書の内容の理解を深めるものである。

到達目標

- 1.高齢化の現状と高齢者福祉政策の動向について理解できる。
- 2.高齢社会における課題を明確化して認識することができる。
- 3.受講生が自らの問題意識から研究テーマを発見でき、プレゼンテーションの能力を養うことができる。
- 4.福祉社会学・家族社会学の研究手法（調査方法を含む）を習得できる。■
- 5.ゼミ論を作成することによって、卒論を作成する能力を身につけることができる。

使用教材

日本家政学会編『現代家族を読み解く12章』丸善出版。

参考文献

講義中、適宜指示する。

評価方法

受講生に対する評価の内訳は、演習中の研究課題への取り組みに対する評価（50%）、学期末に提出するレポート（プレ・ゼミ論）の評価（50%）、合計100%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回の報告、提出された学期末レポートについて、コメントをつけて返却して、書き直したレポートを点検する。

オフィスアワー

火曜日5限・6限 510研究室

メールアドレス（#→@）

adachi-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジюмеを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。■

【予習】各回に指示する。

【予習時間】8h

【復習】各回に指示する。

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

報告者が無断欠席をすると、単位が不可となります。必ず、報告者以外の受講生は、質問や意見を述べるのが義務となっています。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in Advanced Studies I

科目区分 : 卒業研究及び演習

科目ナンバリング : SWT401

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

池田 朋広

科目に関連した実務経験

- ①精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として大学病院において21年勤務（経験）
- ②非常勤として精神科クリニックデイケアに4年勤務（経験）
- ③外部講師（精神保健福祉士）として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加（現在）
- ④薬物依存症回復支援施設にて、非常勤プログラム講師（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①おもに薬物使用者を支援の対象として、精神科医療と刑事司法の境界領域におけるソーシャルワーク実践について考えを深めていく。また、支援対象者への介入手段の一つとして、病院や矯正施設等で行なわれる心理社会的治療プログラムや、

精神保健分野における多職種チームアプローチの技法についても、詳しく紹介していく。

基本は演習形式で授業を行うが、外部講師を招いて講義形式にて行うこともある。課外授業やゼミ合宿も含め、授業の進行についてはすべてゼミメンバーで話し合って決める。

②メンタルヘルス領域・司法福祉領域から各自が関心のある分野や課題を選び、研究報告会にむけての具体的なテーマを決める。学期中はゼミ時間を、施設見学や自主的な学習調査に利用し、月1～2回程度進捗状況をゼミで報告する。初回講義で、講義全体（研究活動）のオリエンテーションを行う。

到達目標

- 1.これまでの学習の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学習、知識の獲得することができる。■
- 2.社会福学科研究発表会に向けプレゼンテーション、発表会での報告ができる■

使用教材

必要に応じて指示する。

参考文献

必要に応じて指示する。

評価方法

共同創造を目指した授業展開とする。授業における発言内容（50%）、研究活動への貢献度（50%）を目安に、発表内容も含め総合的に評価する。60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

学生から提出された成果物の内容を修正し、全体に向けて解説する。

オフィスアワー

火曜日3, 4時限 312研究室

メールアドレス（#→@）

ikedata-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

チーム作り。コミュニケーションをとっていき、お互いに意見を言えるような関係性を構築する。

見学を踏まえて、発表内容を決めて、分担して調べたものをゼミで発表する。■

【予習】発表の準備・練習。

【予習時間】8h

【復習】授業で考察したものをまとめる。発表準備・練習を進める。

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

自分から積極的に教員とアポイント（連絡や相談）を取ることができると望ましい。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in Advanced Studies I

科目区分 : 卒業研究及び演習

科目ナンバリング : SWT401

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

永田 理香

科目に関連した実務経験

研修担当者として社会福祉研修実施機関（県社会福祉協議会）に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

現在、福祉人材確保政策において人材育成の重要性が注目され、キャリアパスの策定や人材育成認証評価制度等の取り組みが進められてきている。本演習では、人材育成を組織的な学習・教育活動と捉え、福祉専門職が将来展望を持ちながらキャリアアップできる人材育成のあり方について実践的に学ぶ。

基本的な研究の流れと方法が理解できるよう、個人のニーズに合わせ段階的に演習を進めていく。プレゼンテーションスキルの向上を目指し、スライドの構成・作成方法、発表方法について実践的に指導を行なう。

到達目標

- 1.福祉人材育成の今日的動向について理解できる。■
- 2.福祉人材育成における課題を明確化することができる。■
- 3.研究テーマに基づき研究計画を立案することができる。

使用教材

必要に応じて指示する

参考文献

必要に応じて提示する

評価方法

授業における発言内容（30%）、研究計画の妥当性（30%）、研究活動への貢献度（40%）とし、60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題については、出題した意図について解説を行い、コメントを付け返却を行なう。

オフィスアワー

火曜日3時限と水曜日2時限
（1号館3階309）

メールアドレス（#→@）

メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表

初回到研究活動についてのオリエンテーションを行う■

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 毎1.5h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 毎1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンラインで実施する場合は、別途Cラーニング等で周知する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in Advanced Studies I

科目区分 : 卒業研究及び演習

科目ナンバリング : SWT401

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

原田 欣宏

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①福祉・医療・司法専門職と地域住民との協働による福祉実践を中心としたシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。

②授業では文献や実地調査とグループワーク、ディスカッションを行い、適宜コメントする。

到達目標

1. 現地あるいは文献調査等で得られたデータをもとにしてレポートを作成し、ゼミでの議論を通じて、地域住民が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。

2.ソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。

使用教材

テキストは使用しない

参考文献

適宜文献を指示する

評価方法

①専門分野における演習の取り組み、②課題に取り組むことによる、より専門的な学修、知識の獲得等により評価100%。60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。

オフィスアワー

火曜3時限

研究室：1号館5階506

メールアドレス（#→@）

harada#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

テーマに即したゼミ研究・実践活動

【予習】テーマに即したデータ、参考文献を検索し、整理する。

【予習時間】7.5h

【復習】ゼミ活動を振り返り、情報と課題の整理を行う。

【復習時間】7.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

ゼミの運営は学生が主体的にかつ協力しながら運営することで、学びがさらに深まることを期待しています。

印刷 

総合演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in Advanced Studies I

科目区分 : 卒業研究及び演習

科目ナンバリング : SWT401

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

根岸 洋人

科目に関連した実務経験

高崎市障害者虐待対策協議会会長（現在）

高崎市社会福祉審議会委員（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

障害のある人を取り巻く環境（制度、文化、支援技術等）についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を培う。

授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。授業時間以外での学修や活動を行うことが前提となる。

到達目標

- 1.障害のある人を取り巻く環境について理解することができる ■
- 2.問題点を発見し、課題解決に向けた研究を行うことができる
- 3.自分の取り上げた研究テーマをプレゼンテーションすることができる

使用教材

適宜指示する

参考文献

適宜指示する

評価方法

ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う

オフィスアワー

金曜5限
507研究室

メールアドレス（#→@）

negishi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。 ■

【予習】適宜指示する

【予習時間】8h

【復習】適宜指示する

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in Advanced Studies I

科目区分 : 卒業研究および演習

科目ナンバリング : SWT401

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石坂 公俊

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○	○	○		○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- 「子どもの貧困」をテーマとし、貧困で何が起きているのか、なぜ貧困があるのかを理解する。
- 「子どもの貧困」を背景とした多角的な視点を醸成する。
- フィールドワークに参加しながら、貧困問題などについて自分の目と耳で考える。
「貧困の中でしんどい思いをしている子ども達」、「なぜ貧困があるのか」について中心的に理解する。グループワーク、文献・資料等も活用し、学びを深める方法をとる。

到達目標

- 1.貧困の中で育つ子どもの生活実態を理解することができる。
- 2.「子どもの貧困」をめぐる背景や諸動向を理解することができる。
- 3.社会福祉の関連事象には背景に貧困問題があるかもしれないという感度を持つことができる。

使用教材

必要に応じて指示するが、参考文献などは授業中にも適宜紹介していく。
授業内容によってはDVDなどを視聴する機会も設け、レジュメや参考資料なども配付する。

参考文献

特記事項なし

評価方法

- 1.履修の条件として、子どもの貧困やホームレス問題などに関心のある学生を希望する。
 - 2.ゼミ活動としてフィールドワークへの参加に意欲的な学生を希望する。
- 上記を目安に総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

発表、提出物等に対してコメントする。
必要に応じて面談、個別指導を随時実施する。

オフィスアワー

水曜日4時限
質問はメールでも受け付ける。
(1号館5階503研究室)

メールアドレス（#→@）

kimi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

「子どもの貧困問題」がメインテーマとなる。子どもの貧困の実態、困難を抱えた子どもや家族の「声」を社会に発信し、解決への道筋を考えていく。本講座では将来にわたって、貧困問題に対するアンテナを持ち続けられる支援者を目指す。総合演習Ⅲを履修する4年生と合同で実施する。

【予習】毎回提示する。

【予習時間】8h

【復習】毎回提示する。

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

フィールドワークとして子ども無料学習会、ホームレス配食（聞き取り調査も実施）の活動にも参加が可能となる。さらにゼミ内で国家試験学習も行っていく。それらの取り組みを通じて、教員、ゼミ生同士の相互交流を図ることが主な目的となる。

印刷 

総合演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in Advanced Studies I

科目区分 : 卒業研究及び演習

科目ナンバリング : SWT401

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

堀口 美奈子

科目に関連した実務経験

介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①社会福祉は、ひとりよりみんな、他者とともに生きる＝共生社会のなかで育まれる。そこで本科目では、共生社会の原点である「自己」について知り、社会福祉専門職に求められる「社会福祉を構成するちから」について検討していく。

②授業では、経験学習モデルをベースに、講義の他、事例などを踏まえた演習を行う。演習では個人ワークの他、グループワークを行い、相互作用による学習の定着を図る。

到達目標



- 1.具体的なワークを通して、チームで働く力や前に踏み出す力、考え抜く力を身につけることができる。■
- 2.実践経験から内省的観察を行い、共生社会の構成時に必要となる抽象的概念を抽出、言語化できる。■
- 3.得られた概念を、社会の中での能動的実践に活かすことができる。■
- 4.ワークや他者との交流を通して、自己についての考えを深めることができる。

使用教材



必要に応じて資料の配布、参考書の紹介を行う。

評価方法



実践活動での活発な参加と議論・活動への貢献度40%、提出物の充実度60%

課題・評価に対するフィードバック方法



提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜コメントを付しての返却を予定している。

オフィスアワー



月曜3限 502研究室

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する

授業計画表



初回到授業全体についてのオリエンテーションを行う■

総合演習Ⅲを履修する4年生と合同で実施する。

【予習】適宜指示する

【予習時間】7.5h

【復習】適宜指示する

【復習時間】7.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in Advanced Studies I

科目区分 : 卒業研究及び演習

科目ナンバリング : SWT401

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大川 健次郎

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL(課題 解決型学 習)	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①児童家庭福祉の諸問題を中心に扱う。現在の児童や家庭、女性問題などに焦点を当てて、これまでの大学の講義や演習等で学んだことを、自分の興味範囲を定めて深めて研究することを目的とする。そして、それらを他者に分かりやすく伝える力をつける。また、ゼミ内でお互いに学び合い自分の興味範囲を深めていく。

②授業は、学生の児童家庭福祉に関する問題意識を基に、質疑応答形式で進め、それをゼミとしてまとめていく。

到達目標

- 自分たちの考えを他者に分かりやすく伝える技術を学ぶことができる。
- 他者の学びを、自らの問題としてとらえ、深めることを学ぶことができる。

3.大学卒業後の進路を考え具体的な目標を立てることができる。

使用教材



教科書は使用しないが、ゼミにおいて資料の配布、参考書の紹介などを予定している。

評価方法



研究計画書・発表文書（60%）、他のゼミ生への提案（20%）、ゼミ活動への貢献度（20%）

課題・評価に対するフィードバック方法



研究計画書・発表文書作成段階で、個別指導を実施する。

オフィスアワー



質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。研究室508

メールアドレス（#→@）



okawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



ゼミ内で議論しテーマを設定して、各自問題意識をもってテーマを深めたうえで、ゼミ内で共有する

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 8h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 8h

合計時間（予習・復習）



16h

備考



各自主体的に参加し、協同して、さらなる深い学習となることを期待する。

印刷 

総合演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in Advanced Studies I

科目区分 : 卒業研究および演習

科目ナンバリング : SWT401

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥 浩丈

科目に関連した実務経験

精神保健福祉士として精神科病院勤務、就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務、（現在、非常勤として）臨床心理オフィスのスタッフ、産業保健総合支援センターでのメンタルヘルス対策・両立支援促進員、等

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①メンタルヘルス不調（精神障害を含む）」と「労働・雇用」との関連において生じる諸問題を中心に扱う。
- 文献検索、調査などを通してメンタルヘルス領域に関する理解を深め、実際の支援現場で用いられている専門知識や心理社会的アプローチについて整理する。
 - 「働くこと/働けないこと/働かないこと」の中で人々が体験する困難や精神的危機について本質的な問いを立て、よりよ

い支援のあり方を探求していく力を培う。

②授業はゼミ形式で行う。学生の問題意識をもとに、ゼミ内での報告、発表、対話、討議等により、現場課題や支援の理解を深めていく。

到達目標

1. メンタルヘルス不調者・精神障害者への支援について理解することができる。■
2. 問題・課題を発見し、自身の研究テーマを決め、研究を行うことができる。
3. 研究成果をプレゼンテーションすることができる。

使用教材

必要に応じて指示する

参考文献

必要に応じて指示する

評価方法

ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業内のコメント、議論、研究指導などにより随時学生にフィードバックする。

オフィスアワー

火曜2 時限 （303 研究室）

メールアドレス（#→@）

shiratori # takasaki-u.ac.jp

授業計画表

グループや各自の目標・テーマ等に沿って企画や研究を行い、発表により研究成果を共有しながら進めていく。■

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 8h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in Advanced Studies I

科目区分 : 卒業研究および演習

科目ナンバリング : SWT401

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

出雲春明

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッシ ョン、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○		○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 本ゼミでは、価値観の多様性をテーマに「生きづらさ」をめぐる様々なシチュエーションをとりあげ、考える力と伝える力を高めることを目標とします。

キーワード：無意識の偏見、差別、ジェンダー、マイノリティ、LGBT、QOL、表象文化（映画、小説、広告、CM、ファッションなど）

② 本ゼミでは、学生が自分の興味範囲のなかから課題を設定し、研究発表、議論を行ってもらおう。教員からも適宜、問題提起や情報提供を行います。

到達目標

1. さまざまな価値観の在り方について理解し、説明することができる。
2. 自分の研究テーマを設定し、自らの関心を他者に伝えることができる。
3. 適切に文献等の資料を利用することができる。
4. 自分の考えをまとめることができる。
5. 議論を通じて、考えを深めることができる。

使用教材

ゼミ生の関心に合わせて、資料を配布する。

参考文献

必要に応じて指示する。

評価方法

調査、研究発表などへの貢献度から評価する（100%）。

課題・評価に対するフィードバック方法

ゼミでの研究発表に対して、適宜指導を行う。

オフィスアワー

1号館511研究室

面談希望の場合はC-Learning「連絡・相談」あるいは下記アドレスまで。

メールアドレス（#→@）

izumo-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

近年、「多様性への配慮」「価値観のアップデート」というスローガンのもと、それぞれが「自分らしい生き方」ができる社会が模索されています。しかし、それは容易ではありません。「何を幸せに思うのか」は人それぞれで異なるからです。だから、「こうしておけばいい」というマニュアル思考は躓きのもとになります。それは相手を自分の「想定内」に制限してしまうことであり、相手に対する侮辱や権利侵害につながる場合もあります。

このゼミでは、ニュース、ドキュメンタリー、映画などの表象文化を活用して、なるべく具体的な事例にもとづきながら「生きづらさ」について考えていきます。そのなかで自分にとっての「想定外」に出会い、考えを深めていってほしいと思います。授業形式としてはグループワーク、プレゼンテーション、課外学習を実施します。

合計時間（予習・復習）

45h

備考

日頃から、社会問題に関心を持ち、報道などを見るようにしましょう。

印刷



総合演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in advanced studies I

科目区分 : 卒業研究及び演習

科目ナンバリング : SWT401

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

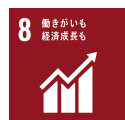
担当教員

樫府 憲太

科目に関連した実務経験

社会福祉士（専門職採用）として生活保護、高齢者福祉、障害者福祉の部署に勤務（合計13年）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①生活保護制度の仕組みや制度を取り巻く社会状況を把握し、今後の制度改善の課題や方向性について考察する。

②文献講読、グループディスカッション、フィールドワーク、グループに分かれての研究・調査等の方法を適宜組み合わせて実施する。

到達目標



1. 「生活保護制度」を切り口にして現代社会の構造やあり方について考察することができる。■
2. 社会福祉・ソーシャルワークを多様な方法、幅広い視点で学び、視野の広い思考を身につける。
3. 研究・調査の初歩的な部分を学び、学士として最低限の知識・技術を備える。

使用教材



適宜提示する。

参考文献



適宜提示する。

評価方法



授業内における課題への取り組み態度、研究・調査に対する意欲、研究成果の内容などを総合的に判断する(100%)。特に学びに対する積極性・主体性は高く評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



授業内の他、メールや対面などで適宜フィードバックを行う。

オフィスアワー



質問及び学習相談には適宜応じる。

メールアドレス（#→@）



narafu#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



文献講読、グループディスカッション、フィールドワーク、グループに分かれての研究・調査等の方法を適宜組み合わせて実施する。■

【予習】適宜提示する。

【予習時間】1.5h

【復習】適宜提示する。

【復習時間】1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



- ・フィールドワーク等、内容によっては科目として定められている日時以外の時間を用いて行うことがある。
 - ・授業の内容や形態は学生の関心に応じて柔軟に変更するので、主体的に参加し、積極的に意見を述べること。
- は実務経験に基づく授業内容であることを示しています。

印刷 

総合演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in Advanced Studies I

科目区分 : 卒業研究および演習

科目ナンバリング : SWT401

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

富田 俊

科目に関連した実務経験

専門看護師として病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○		○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人生の最終段階・終末期・看取りの関する支援、倫理等についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を養う。自身の死生観や人生の最終段階・終末期・看取りに関する価値観を養い、他者の価値観を理解する。

②ゼミ活動を通して授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進め、研究発表会に向けてプレゼンテーション技術や発表方法について実践的に指導する。

到達目標

1. 研究計画に基づき研究活動を展開することができる。■
2. 調査結果を検討し、研究目的に基づいた考察ができる。■
3. 研究の成果を整理し、研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。■

使用教材

必要に応じて指示する

参考文献

必要に応じて指示する

評価方法

演習／課題の取り組み（30％）、ディスカッションにおける発言内容（30％）、研究活動の貢献度（40％）として、60％以上を合格とする

課題・評価に対するフィードバック方法

演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。

オフィスアワー

月曜2時限 （504研究室）

メールアドレス（#→@）

tomita-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

グループや各自の目標・テーマ等に沿って、企画や研究を行い、実践活動や研究成果を共有しながら進めていく。最終的には社会福祉学科研究発表会にて研究成果の発表を行う。■

【予習】毎回指示する

【予習時間】8h

【復習】毎回指示する

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in Advanced Studies I

科目区分 : 卒業研究及び演習

科目ナンバリング : SWT401

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

青木 尚人

科目に関連した実務経験

政令指定都市自治体職員(社会福祉職)として生活保護現業員、知的障害者生活支援施設生活支援員、精神保健福祉相談員の3か所計9年従事。

(社会福祉士、精神保健福祉士取得済)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

本演習では、「行政ソーシャルワーカーのやりがい」に焦点を当てる。行政ソーシャルワーカーは事務とソーシャルワークの両輪で仕事をしている。民間セクターとは異なる構造の中で実践する行政ソーシャルワーカーはどのようにして自分を保ちながら実践をしているのか。ソーシャルワーカーへの聞き取りや、フィールドワークを通じて「やりがいとは何か」を

解明する。

行政での実践をより理解するために、個人の要望に合わせ福祉事務所や児童相談所といった機関と協働する機関にも着目する。個人の取り組みの報告を上達できるようにプレゼンテーションスキルの向上を目指す。レジユメの作成方法や、スライドの構成・作成方法、発表方法について指導する。

フィールドワークでは次の機関に訪問することを検討している。

(福祉事務所、児童相談所、社会福祉協議会、女性自立支援施設、独立型社会福祉士事務所、少年院、東京拘置所など)

到達目標



- 1.行政一般の仕組みが理解できる。■
- 2.行政ソーシャルワーカーの働きがいを理解することができる。■
- 3.自分自身の研究テーマに基づき研究計画を立案し、報告する。

使用教材



必要に応じて指示する

参考文献



必要に応じて提示する

評価方法



授業における発言内容（40%）、研究計画の妥当性（30%）、研究活動への貢献度（30%）を総合して評価する。
(授業中に必ず一度は発言をすること)

課題・評価に対するフィードバック方法



提出された課題については、コメントを付け返却を行なう。

オフィスアワー



適宜行う。

(面談を行う場合は必ず事前にメールにて予約をすること)

メールアドレス（#→@）



aoki-n#takasaki-u.ac.jp

メールを送る際は「学籍番号 氏名」を表題に付けた上で送ること。

授業計画表



初回到研究活動についてのオリエンテーションを行う。

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 毎1.5h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 毎1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



当ゼミはフィールドワーク、文献輪読があるため、連絡、報告、相談は密に行う必要がある。

(無断欠席は単位習得不可となるため、注意すること)

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習 I

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies I

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT401

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

加藤 大輔

科目に関連した実務経験

医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）として病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

医療福祉、医療ソーシャルワーカーの実践についてテーマを設定し、医療ソーシャルワーカーの専門性や役割を理解する。また実践の基盤となる価値、医療・福祉に関する専門知識・援助技術を身に着ける。活動を通じ、企画、研究、プレゼンテーションにかかわる力量を養う。

学生の問題意識を基に文献調査、実践理解を意図した企画などを実施し、学習内容のゼミ内での発表、討議により、理解を深めていく。

到達目標

- 1.医療分野における福祉の役割を理解することができる■
- 2.研究活動の展開について理解することができる
- 3.研究成果をゼミでの討論により整理できる
- 4.研究成果を研究発表会においてプレゼンテーションすることができる

使用教材

必要に応じて指示する

参考文献

必要に応じて指示する

評価方法

ゼミ内での研究発表、活動内容、研究活動への貢献度による総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う

オフィスアワー

火曜4限 5階515研究室

メールアドレス（#→@）

kato-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによっては現任者の実践理解を意図した企画を行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。■

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 8h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習 I

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in Advanced Studies I

科目区分 : 卒業研究及び演習

科目ナンバリング : SWT401

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

一柳大輔

科目に関連した実務経験

コミュニティソーシャルワークの実践主体としての社会福祉協議会に勤務経験有。実務を担当するとともに、ソーシャルワーカーの育成にも従事。現在、行政や社協、学校、団体の計画づくりや実践の企画・評価にも携わっている。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

地域福祉実践を中心としてコミュニティソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。

ゼミの運営は学生が主体的に協力しながら運営する。研究・実践活動は、歴代のゼミの先輩が実践してきた内容＝ふれあ

い・いきいきサロン、大類地域福祉教育の会運営、赤い羽共同募金などの企画・運営・振り返りをベースとする。教員は自身の研究テーマと教育スタンスにより、フィールドの実践やアドバイスを行う。

到達目標

1. 現地演習を通じて、地域住民や団体が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。■
2. 現地演習を通じて、地域団体の運営方法や事業の企画、広報、連絡調整の技術を修得する。■
3. コミュニティソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。■
4. ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。■

使用教材

テキストは使用しない。

参考文献

その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付する。

評価方法

①専門分野における演習の取り組み（40%）、②地域課題への取り組み（30%）、③グループ学習による取り組み（30%）、による専門的な学修、知識の獲得等により評価します（計100%）。

課題・評価に対するフィードバック方法

質問や相談についてはClearningで適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。

オフィスアワー

質問や相談はClearning等で随時受け付けます。

メールアドレス（#→@）

hitotsuyanagi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

地域福祉実践（地域福祉活動に関することなど）の企画、運営、準備、振り返り、研究を行う。社会福祉学科研究発表会等において研究成果を発表する。■（該当到達目標：1,2,3,4）

【予習】実践の準備、検討、資料作成等。

【予習時間】 8h

【復習】実践の振り返り、次の課題への準備等。

【復習時間】 8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

- 授業時間には、授業時の活動のほか地域に向向いて行う実践時間も含む。
 - 国家試験受験の準備や就職活動の支援も適宜行う。
- 講義内容の■は実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅱ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT402

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

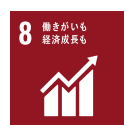
担当教員

安達 正嗣

科目に関連した実務経験

兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

現代の日本社会において、高齢化に関する福祉社会学的ならびに家族社会学的な視点・分析能力の養成は、さまざまな学術分野のみならず、社会福祉・精神保健・介護の現場のなかで重要性を増してきている。本演習では、高齢者福祉のあり方を考えることを通じて、こうした視点・分析能力を身につけることを目指すものである。

受講生が主体となって、司会と報告者の役割をおこない、教科書の担当章に関する報告者の報告内容・レジюмеをめぐって議論して、担当教員が適宜に助言しながら、教科書の内容の理解を深めるものである。

到達目標



- 1.高齢化の現状と高齢者福祉政策の動向について理解できる。
- 2.高齢社会における課題を明確化して認識することができる。
- 3.受講生が自らの問題意識から研究テーマを発見でき、プレゼンテーションの能力を養うことができる。
- 4.福祉社会学・家族社会学の研究手法（調査方法を含む）を習得できる。■
- 5.ゼミ論を作成することによって、卒論を作成する能力を身につけることができる。

使用教材



G・エスピン＝アンデルセン『アンデルセン、福祉を語る』NTT出版

参考文献



講義中、適宜指示する。

評価方法



受講生に対する評価の内訳は、演習中の研究課題への取り組みに対する評価（50%）、学期末に提出するレポート（プレ・ゼミ論）の評価（50%）、合計100%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



毎回の報告、提出された学期末レポートについて、コメントをつけて返却して、書き直したレポートを点検する。

オフィスアワー



火曜日5限・6限 510研究室

メールアドレス（#→@）



adachi-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジюмеを配布して、該当章に関して解説と論評後、質疑応答と議論をする。学期末には、自分の問題関心に基づいてゼミ論を提出する。■

【予習】各回に指示する。

【予習時間】8h

【復習】各回に指示する。

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）



16h

備考



報告者が無断欠席をすると、単位が不可となります。必ず、報告者以外の受講生は、質問や意見を述べるのが義務となっています。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅱ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT402

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

池田 朋広

科目に関連した実務経験

- ①精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として大学病院において21年勤務（経験）
- ②非常勤として精神科クリニックデイケアに4年勤務（経験）
- ③外部講師（精神保健福祉士）として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加（現在）
- ④薬物依存症回復支援施設にて、非常勤プログラム講師（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①おもに薬物使用者を支援の対象として、精神科医療と刑事司法の境界領域におけるソーシャルワーク実践について考えを深めていく。また、支援対象者への介入手段の一つとして、病院や矯正施設等で行なわれる心理社会的治療プログラムや、

精神保健分野における多職種チームアプローチの技法についても、詳しく紹介していく。

基本は演習形式で授業を行うが、外部講師を招いて講義形式にて行うこともある。課外授業やゼミ合宿も含め、授業の進行についてはすべてゼミメンバーで話し合って決める。

②メンタルヘルス領域・司法福祉領域から各自が関心のある分野や課題を選び、研究報告会にむけての具体的なテーマを決める。学期中はゼミ時間を、施設見学や自主的な学習調査に利用し、月1～2回程度進捗状況をゼミで報告する。初回講義で、講義全体（研究活動）のオリエンテーションを行う。

到達目標

- 1.これまでの学習の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学習、知識の獲得することができる。■
- 2.社会福学科研究発表会に向けプレゼンテーション、発表会での報告ができる■

使用教材

必要に応じて指示する。

参考文献

必要に応じて指示する。

評価方法

共同創造を目指した授業展開とする。授業における発言内容（50%）、研究活動への貢献度（50%）を目安に、発表内容も含め総合的に評価する。60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

学生から提出された成果物の内容を修正し、全体に向けて解説する。

オフィスアワー

火曜日3, 4時限 312研究室

メールアドレス（#→@）

ikedata-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

前期に調べて、発表したものをまとめる。全員で発表の振り返りをして、次年度への参考とする。■

【予習】発表の準備・練習。

【予習時間】8h

【復習】授業で考察したものをまとめる。発表準備・練習を進める。

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

自分から積極的に教員とアポイント（連絡や相談）を取ることができると望ましい。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅱ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT402

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

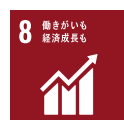
担当教員

永田 理香

科目に関連した実務経験

研修担当者として社会福祉研修実施機関（県社会福祉協議会）に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

現在、福祉人材確保政策において人材育成の重要性が注目され、キャリアパスの策定や人材育成認証評価制度等の取組みが進められてきている。本演習では、人材育成を組織的な学習・教育活動と捉え、福祉専門職が将来展望を持ちながらキャリアアップできる人材育成のあり方について実践的に学ぶ。

基本的な研究の流れと方法が理解できるよう、個人のニーズに合わせ段階的に演習を進めていく。プレゼンテーションスキルの向上を目指し、スライドの構成・作成方法、発表方法について実践的に指導を行なう。

到達目標

- 1.研究計画に基づき研究活動を展開することができる。
- 2.調査結果を検討し、研究目的に基づいた考察ができる。■
- 3.研究の成果を整理し、研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。

使用教材

必要に応じて指示する

参考文献

必要に応じて提示する

評価方法

授業における発言内容（30%）、研究活動への貢献度（40%）、プレゼンテーション（30%）とし、60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題については、出題した意図について解説を行い、コメントを付け返却を行なう。

オフィスアワー

火曜日3時限と水曜日2時限
（1号館3階309）

メールアドレス（#→@）

メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表

初回到研究活動についてのオリエンテーションを行う■

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 毎1.5h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 毎1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンラインで実施する場合は、別途Cラーニング等で周知する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in Advanced Studies Ⅱ

科目区分 : 卒業研究及び演習

科目ナンバリング : SWT402

学年 : 3年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

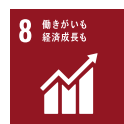
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

原田 欣宏

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①福祉・医療・司法専門職と地域住民との協働による福祉実践を中心としたシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。

②授業では文献や実地調査とグループワーク、ディスカッションを行い、適宜コメントする。

到達目標

1. 現地あるいは文献調査で得られたデータによる演習を通じて、地域住民が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。

- 2.ソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。
- 3.ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。

使用教材

テキストは使用しない

参考文献

適宜文献を指示する

評価方法

①専門分野における演習の取り組み、②課題に取り組むことによる、より専門的な学修、知識の獲得等により評価100%。60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。

オフィスアワー

火曜3時限

研究室：1号館5階506

メールアドレス（#→@）

harada#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

テーマに即したゼミ研究・実践活動

【予習】テーマに即したデータ、参考文献を検索し、整理する。

【予習時間】7.5h

【復習】ゼミ活動を振り返り、情報と課題の整理を行う。

【復習時間】7.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

ゼミの運営は学生が主体的にかつ協力しながら運営することで、学びがさらに深まることを期待しています。

印刷



総合演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅱ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT402

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

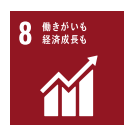
根岸 洋人

科目に関連した実務経験

高崎市障害者虐待対策協議会会長（現在）

高崎市社会福祉審議会委員（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①障害のある人を取り巻く環境（制度、文化、支援技術等）についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を培う。

②授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。授業時間以外での学修や活動を行うことが前提となる。

到達目標

- 1.障害のある人を取り巻く環境について理解することができる ■
- 2.問題点を発見し、課題解決に向けた研究を行うことができる
- 3.自分の取り上げた研究テーマをプレゼンテーションすることができる

使用教材

適宜指示する

参考文献

適宜指示する

評価方法

ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う

オフィスアワー

金曜5限 507研究室

メールアドレス（#→@）

negishi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。 ■

【予習】適宜指示する

【予習時間】8h

【復習】適宜指示する

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅱ

科目区分：卒業研究および演習

科目ナンバリング：SWT402

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石坂 公俊

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○	○	○		○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①1.「子どもの貧困」をテーマとし、貧困で何が起きているのか、なぜ貧困があるのかを理解する。
 2.「子どもの貧困」を背景とした多角的な視点を醸成する。
 3.フィールドワークに参加しながら、貧困問題などについて自分の目と耳で考える。
- ②「貧困の中でしんどい思いをしている子ども達」、「なぜ貧困があるのか」について中心的に理解する。グループワーク、文献・資料等も活用し、学びを深める方法をとる。

到達目標

- 1.貧困の中で育つ子どもの生活実態を理解することができる。
- 2.「子どもの貧困」をめぐる背景や諸動向を理解することができる。
- 3.社会福祉の関連事象には背景に貧困問題があるかもしれないという感度を持つことができる。

使用教材

必要に応じて指示するが、参考文献などは授業中にも適宜紹介していく。
授業内容によってはDVDなどを視聴する機会も設け、レジュメや参考資料なども配付する。

参考文献

特記事項なし

評価方法

履修の条件として、子どもの貧困やホームレス問題などに関心のある学生を希望する。
ゼミ活動としてフィールドワークへの参加に意欲的な学生を希望する。
上記を目安に総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

発表、提出物等に対してコメントする。
必要に応じて面談、個別指導を随時実施する。

オフィスアワー

水曜日4時限
質問はメールでも受け付ける。
(1号館5階503研究室)

メールアドレス（#→@）

kimi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

「子どもの貧困問題」がメインテーマとなる。子どもの貧困の実態、困難を抱えた子どもや家族の「声」を社会に発信し、解決への道筋を考えていく。本講座では将来にわたって、貧困問題に対するアンテナを持ち続けられる支援者を目指す。総合演習Ⅲを履修する4年生と合同で実施する。

【予習】毎回提示する。

【予習時間】8h

【復習】毎回提示する。

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

フィールドワークとして子ども無料学習会、ホームレス配食（聞き取り調査も実施）の活動にも参加が可能となる。さらにゼミ内で国家試験学習も行っていく。それらの取り組みを通じて、教員、ゼミ生同士の相互交流を図ることが主な目的となる。

印刷 

総合演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅱ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT402

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

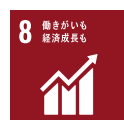
担当教員

堀口 美奈子

科目に関連した実務経験

介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①社会福祉は、ひとりよりみんな、他者とともに生きる＝共生社会のなかで育まれる。そこで本科目では、社会のなかでのフィールドワークや実証研究を通して、前期で学んだ社会福祉専門職に求められる「社会福祉を構成するちから」の理解をより深め、卒後、共生社会で生きる社会人としての力の獲得を目指していく。

②授業では、これまで行ってきた実証研究を発表するための準備を行い、発表する。発表後は、実施内容に関する振り返りを行う。そのほか経験学習モデルをベースに、学生自身の興味関心に応じた個人もしくはグループ学習を行う。

到達目標



- 1.教員と参加学生による関心や問題意識を基に、フィールドワークや実証研究を実践できる。■
- 2.具体的な実践を通して、チームで働く力や前に踏み出す力、考え抜く力を身につけることができる。■
- 3.実践経験から内省的観察を行い、共生社会の構成時に必要となる抽象的概念を抽出、言語化できる。■
- 4.得られた概念を、社会の中での能動的実践に活かすことができる。■
- 5.実践や他者との交流を通して、自己についての考えを深めることができる。
- 6.社会福祉学科研究発表会にて、学生全体でまとめた学習成果をプレゼンテーションできる。

使用教材



必要に応じて資料の配布、参考書の紹介を行う。

評価方法



実践活動での活発な参加と議論・活動への貢献度40%、提出物の充実度60%

課題・評価に対するフィードバック方法



提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜コメントを付しての返却を予定している。

オフィスアワー



月曜3限

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する

授業計画表



初回到授業全体についてのオリエンテーションを行う ■
総合演習Ⅳを履修する4年生と合同で実施する。
【予習】適宜指示する
【予習時間】 7.5h
【復習】適宜指示する
【復習時間】 7.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in Advanced Studies Ⅱ

科目区分 : 卒業研究及び演習

科目ナンバリング : SWT402

学年 : 3年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大川 健次郎

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①児童家庭福祉の諸問題を中心に扱う。現在の児童や家庭、女性問題などに焦点を当てて、これまでの大学の講義や演習等で学んだことを、自分の興味範囲を定めて深めて研究することを目的とする。前期の総合演習の学習内容を踏まえ、それらを他者に分かりやすく伝える力をつける。ゼミ内でお互いに学び合い自分の興味範囲を深めていく。

②授業は、学生の児童家庭福祉に関する問題意識を基に、質疑応答形式で進め、それをゼミとしてまとめていく。

到達目標

- 自分たちの考えを他者に分かりやすく伝える技術を学ぶことができる。
- 他者の学びを、自らの問題としてとらえ、深めることを学ぶことができる。

3.大学卒業後の進路を考え具体的な目標を立てることができる。

使用教材



教科書は使用しないが、ゼミにおいて資料の配布、参考書の紹介などを予定している。

評価方法



研究計画書・発表文書（60%）、他のゼミ生への提案（20%）、ゼミ活動への貢献度（20%）

課題・評価に対するフィードバック方法



研究計画書・発表文書作成段階で、個別指導を実施する。

オフィスアワー



質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。研究室508

メールアドレス（#→@）



okawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



ゼミ内で議論しテーマを設定して、各自問題意識をもってテーマを深めたうえで、ゼミ内で共有する

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 8h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 8h

合計時間（予習・復習）



16h

備考



各自主体的に参加し、協同して、さらなる深い学習となることを期待する。

印刷 

総合演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅱ

科目区分：卒業研究および演習

科目ナンバリング：SWT402

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

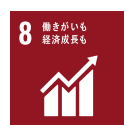
担当教員

白鳥 浩丈

科目に関連した実務経験

精神保健福祉士として精神科病院勤務、就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務、（現在、非常勤として）臨床心理オフィスのスタッフ、産業保健総合支援センターでのメンタルヘルス対策・両立支援促進員、等

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①メンタルヘルス不調（精神障害を含む）」と「労働・雇用」との関連において生じる諸問題を中心に扱う。
- 文献検索、調査などを通してメンタルヘルス領域に関する理解を深め、実際の支援現場で用いられている専門知識や心理社会的アプローチについて整理する。
 - 「働くこと/働けないこと/働かないこと」の中で人々が体験する困難や精神的危機について本質的な問いを立て、よりよ

い支援のあり方を探求していく力を培う。

②授業はゼミ形式で行う。学生の問題意識をもとに、ゼミ内での報告、発表、対話、討議等により、現場課題や支援の理解を深めていく。

到達目標

1. メンタルヘルス不調者・精神障害者への支援について理解することができる。■
2. 問題・課題を発見し、自身の研究テーマを決め、研究を行うことができる。
3. 研究成果をプレゼンテーションすることができる。

使用教材

必要に応じて指示する

参考文献

必要に応じて指示する

評価方法

ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する（100 %）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業内のコメント、議論、研究指導などにより随時学生にフィードバックする。

オフィスアワー

火曜 2 時限（303 研究室）

メールアドレス（#→@）

shiratori # takasaki-u.ac.jp

授業計画表

グループや各自の目標・テーマ等に沿って企画や研究を行い、発表により研究成果を共有しながら進めていく。■

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 8h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅱ

科目区分：卒業研究および演習

科目ナンバリング：SWT402

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

出雲春明

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○		○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 本ゼミでは、価値観の多様性をテーマに「生きづらさ」をめぐる様々なシチュエーションをとりあげ、考える力と伝える力を高めることを目標とします。

キーワード：無意識の偏見、差別、ジェンダー、マイノリティ、LGBT、QOL、表象文化（映画、小説、広告、CM、ファッションなど）

②本ゼミでは、学生が自分の興味範囲のなかから課題を設定し、研究発表、議論を行ってもらう。教員からも適宜、問題提起や情報提供を行います。

到達目標



1. さまざまな価値観の在り方について理解し、説明することができる。
2. 自分の研究テーマを設定し、自らの関心を他者に伝えることができる。
3. 適切に文献等の資料を利用することができる。
4. 自分の考えをまとめることができる。
5. 議論を通じて、考えを深めることができる。

使用教材



ゼミ生の関心に合わせて、資料を配布する。

参考文献



必要に応じて指示する。

評価方法



調査、研究発表などへの貢献度から評価する（100 %）。

課題・評価に対するフィードバック方法



ゼミでの研究発表に対して、適宜指導を行う。

オフィスアワー



1号館 511 研究室

面談希望の場合は C-Learning「連絡・相談」あるいは下記アドレスまで。

メールアドレス（#→@）



izumo-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



近年、「多様性への配慮」「価値観のアップデート」というスローガンのもと、それぞれが「自分らしい生き方」ができる社会が模索されています。しかし、それは容易ではありません。「何を幸せに思うのか」は人それぞれで異なるからです。だから、「こうしておけばいい」というマニュアル思考は躓きのもとになります。それは相手を自分の「想定内」に制限してしまうことであり、相手に対する侮辱や

権利侵害につながる場合もあります。

このゼミでは、ニュース、ドキュメンタリー、映画などの表象文化を活用して、なるべく具体的な事例にもとづきながら「生きづらさ」

について考えていきます。そのなかで自分にとっての「想定外」に出会い、考えを深めていってほしいと思います。授業形式としてはグ

ループワーク、プレゼンテーション、課外学習を実施します。

合計時間（予習・復習）



45h

備考



日頃から、社会問題に関心を持ち、報道などを見るようにしましょう。

印刷



総合演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in advanced studies Ⅱ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT402

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

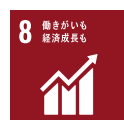
担当教員

樫府 憲太

科目に関連した実務経験

社会福祉士（専門職採用）として生活保護、高齢者福祉、障害者福祉の部署に勤務（合計13年）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①生活保護制度の仕組みや制度を取り巻く社会状況を把握し、今後の制度改善の課題や方向性について考察する。

②文献講読、グループディスカッション、フィールドワーク、グループに分かれての研究・調査等の方法を適宜組み合わせて実施する。

到達目標



1. 「生活保護制度」を切り口にして現代社会の構造やあり方について考察することができる。■
2. 社会福祉・ソーシャルワークを多様な方法、幅広い視点で学び、視野の広い思考を身につける。
3. 研究・調査の初歩的な部分を学び、学士として最低限の知識・技術を備える。

使用教材



適宜提示する。

参考文献



適宜提示する。

評価方法



授業内における課題への取り組み態度、研究・調査に対する意欲、研究成果の内容などを総合的に判断する(100%)。特に学びに対する積極性・主体性は高く評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



授業内の他、メールや対面などで適宜フィードバックを行う。

オフィスアワー



質問及び学習相談には適宜応じる。

メールアドレス（#→@）



narafu#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



文献講読、グループディスカッション、フィールドワーク、グループに分かれての研究・調査等の方法を適宜組み合わせて実施する。■

【予習】適宜提示する。

【予習時間】1.5h

【復習】適宜提示する。

【復習時間】1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



- ・フィールドワーク等、内容によっては科目として定められている日時以外の時間を用いて行うことがある。
 - ・授業の内容や形態は学生の関心に応じて柔軟に変更するので、主体的に参加し、積極的に意見を述べること。
- は実務経験に基づく授業内容であることを示しています。

印刷 

総合演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅱ

科目区分：卒業研究および演習

科目ナンバリング：SWT402

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

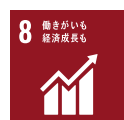
担当教員

富田 俊

科目に関連した実務経験

専門看護師として病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○		○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人生の最終段階・終末期・看取りの関する支援、倫理等についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を養う。自身の死生観や人生の最終段階・終末期・看取りに関する価値観を養い、他者の価値観を理解する。

②ゼミ活動を通して授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進め、研究発表会に向けてプレゼンテーション技術や発表方法について実践的に指導する。

到達目標

1. 研究計画に基づき研究活動を展開することができる。■
2. 調査結果を検討し、研究目的に基づいた考察ができる。■
3. 研究の成果を整理し、研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。■

使用教材

必要に応じて指示する

参考文献

必要に応じて指示する

評価方法

演習／課題の取り組み（30％）、ディスカッションにおける発言内容（30％）、研究活動の貢献度（40％）として、60％以上を合格とする

課題・評価に対するフィードバック方法

演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。

オフィスアワー

月曜2時限 （514研究室）

メールアドレス（#→@）

tomita-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

グループや各自の目標・テーマ等に沿って、企画や研究を行い、実践活動や研究成果を共有しながら進めていく。最終的には社会福祉学科研究発表会にて研究成果の発表を行う。■

【予習】毎回指示する

【予習時間】8h

【復習】毎回指示する

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅱ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT402

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

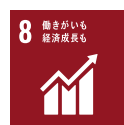
青木 尚人

科目に関連した実務経験

政令指定都市自治体職員(社会福祉職)として、生活保護現業員、知的障害者生活支援施設生活支援員、精神保健福祉相談員の3か所計9年従事。

(社会福祉士、精神保健福祉士取得済)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

本演習では、「行政ソーシャルワーカーのやりがい」に焦点を当てる。行政ソーシャルワーカーは事務とソーシャルワークの両輪で仕事をしている。民間セクターとは異なる構造の中で実践する行政ソーシャルワーカーはどのようにして自分を保ちながら実践をしているのか。ソーシャルワーカーへの聞き取りや、フィールドワークを通じて「やりがいとは何か」を

解明する。

行政での実践をより理解するために、個人の要望に合わせ福祉事務所や児童相談所といった機関と協働する機関にも着目する。個人の取り組みの報告を上達できるようにプレゼンテーションスキルの向上を目指す。レジユメの作成方法や、スライドの構成・作成方法、発表方法について指導する。

フィールドワークでは次の機関に訪問することを検討している。

(福祉事務所、児童相談所、社会福祉協議会、女性自立支援施設、独立型社会福祉士事務所、少年院、東京拘置所など)

到達目標

- 1.行政機関の役割を理解することができる。■
- 2.自分の関心のある領域における行政ソーシャルワーカーの意義を理解する。■
- 3.研究活動の内容を研究発表会で報告し、質疑を受ける。

使用教材

必要に応じて指示する

参考文献

必要に応じて提示する

評価方法

授業における発言内容（40%）、研究計画の妥当性（30%）、研究活動への貢献度（30%）を総合して評価する。
(授業中に必ず一度は発言をすること)

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題については、コメントを付け返却を行なう。

オフィスアワー

適宜行う。

(面談を行う場合は必ず事前にメールにて予約をすること)

メールアドレス（#→@）

aoki-n#takasaki-u.ac.jp

メールを送る際は「学籍番号 氏名」を表題に付けた上で送ること。

授業計画表

初回到研究活動についてのオリエンテーションを行う。

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 毎1.5h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 毎1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

当ゼミはフィールドワークや文献購読を行うため、報告、連絡、相談は密に行う必要がある。

(無断欠席は単位習得不可とする)

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅱ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT402

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

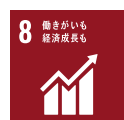
担当教員

加藤 大輔

科目に関連した実務経験

医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）として病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①医療福祉、医療ソーシャルワーカーの実践についてテーマを設定し、医療ソーシャルワーカーの専門性や役割を理解する。また実践の基盤となる価値、医療・福祉に関する専門知識・援助技術を身に着ける。活動を通じ、企画、研究、プレゼンテーションにかかわる力量を養う。

②学生の問題意識を基に文献調査、実践理解を意図した企画などを実施し、学習内容のゼミ内での発表、討議により、理解を深めていく。

到達目標

- 1.医療分野における福祉の役割を理解することができる■
- 2.研究活動の展開について理解することができる
- 3.研究成果をゼミでの討論により整理できる
- 4.研究成果を研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。

使用教材

必要に応じて指示する

参考文献

必要に応じて指示する

評価方法

ゼミ内での研究発表、活動内容、研究活動への貢献度により総合的に評価する（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う

オフィスアワー

火曜4限 5階515研究室

メールアドレス（#→@）

kato-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによっては現任者の実践理解を意図した企画を行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。■

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 8h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習Ⅱ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅱ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT402

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

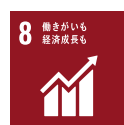
担当教員

一柳大輔

科目に関連した実務経験

コミュニティソーシャルワークの実践主体としての社会福祉協議会に勤務経験有。実務を担当するとともに、ソーシャルワーカーの育成にも従事。現在、行政や社協、学校、団体の計画づくりや実践の企画・評価に携わっている。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

地域福祉実践を中心としてコミュニティソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。

ゼミの運営は学生が主体的に協力しながら運営する。研究・実践活動は、歴代のゼミの先輩が実践してきた内容＝ふれあ

い・いきいきサロン、大類地域福祉教育の会運営、赤い羽共同募金などの企画・運営・振り返りをベースとする。教員は自身の研究テーマと教育スタンスにより、フィールドの実践やアドバイスを行う。

到達目標

1. 現地演習を通じて、地域住民や団体が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。■
2. 現地演習を通じて、地域団体の運営方法や事業の企画、広報、連絡調整の技術を修得する。■
3. コミュニティソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。■
4. ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。■

使用教材

テキストは使用しない。

参考文献

その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付する。

評価方法

①専門分野における演習の取り組み（40%）、②地域課題への取り組み（30%）、③グループ学習による取り組み（30%）、による専門的な学修、知識の獲得等により評価します（計100%）。

課題・評価に対するフィードバック方法

質問や相談についてはClearningで適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。

オフィスアワー

質問や相談はClearning等で随時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

hitotsuyanagi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

地域福祉実践（地域福祉実践に関すること）の企画、運営、準備、振り返り、研究を行う。社会福祉学科研究発表会等において研究成果を発表する。■（到達目標：1.2.3.4）

【予習】実践の準備、検討、資料作成等。

【予習時間】8h

【復習】実践の振り返り、次の課題への準備等。

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

- 授業時間には、授業時の活動のほか地域に向向いて行う実践時間も含む。
 - 国家試験受験の準備や就職活動の支援も適宜行う。
- 講義内容の■は実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅲ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT403

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

安達 正嗣

科目に関連した実務経験

兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①現代の日本社会において、高齢化に関する福祉社会学的ならびに家族社会学的な視点・分析能力の養成は、さまざまな学術分野のみならず、社会福祉・精神保健・介護の現場のなかで重要性を増してきている。本演習では、高齢者福祉のあり方を考えることを通じて、こうした視点・分析能力を身につけることを目指すものである。

②受講生が主体となって、司会と報告者の役割をおこない、教科書の担当章に関する報告者の報告内容・レジюмеをめぐって議論して、担当教員が適宜に助言しながら、教科書の内容の理解を深めるものである。

到達目標

- 1.高齢化の現状と高齢者福祉政策の動向について理解できる。
- 2.高齢社会における課題を明確化して認識することができる。
- 3.受講生が自らの問題意識から研究テーマを発見でき、プレゼンテーションの能力を養うことができる。
- 4.福祉社会学・家族社会学の研究手法（調査方法を含む）を習得できる。■
- 5.卒論を作成する能力を身につけることができる。

使用教材

日本家政学会編『現代家族を読み解く12章』丸善出版。

参考文献

講義中、適宜指示する。

評価方法

受講生に対する評価の内訳は、演習中の研究課題への取り組みに対する評価（50%）、学期末に提出する卒業論文作成に関する評価（50%）、合計100%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回の報告、卒業論文の中間作成に対して、コメントをつけて返却する。

オフィスアワー

火曜日5限・6限

メールアドレス（#→@）

adachi-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジюмеを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。学期末には、卒業論文の中間報告を提出する。■

【予習】各回に指示する。

【予習時間】8h

【復習】各回に指示する。

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

報告者が無断欠席をすると、単位が不可となります。必ず、報告者以外の受講生は、質問や意見を述べるのが義務となっています。

科目「卒業論文」を登録して、単位を取得することが必要です。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅲ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT403

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

池田 朋広

科目に関連した実務経験

- ①精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として大学病院において21年勤務（経験）
- ②非常勤として精神科クリニックデイケアに4年勤務（経験）
- ③外部講師（精神保健福祉士）として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加（現在）
- ④薬物依存症回復支援施設にて、非常勤プログラム講師（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①おもに薬物使用者を支援の対象として、精神科医療と刑事司法の境界領域におけるソーシャルワーク実践について考えを深めていく。また、支援対象者への介入手段の一つとして、病院や矯正施設等で行なわれる心理社会的治療プログラムや、

精神保健分野における多職種チームアプローチの技法についても、詳しく紹介していく。

基本は演習形式で授業を行うが、外部講師を招いて講義形式にて行うこともある。課外授業やゼミ合宿も含め、授業の進行についてはすべてゼミメンバーで話し合って決める。

②メンタルヘルス領域・司法福祉領域から各自が関心のある分野や課題を選び、研究報告会にむけての具体的なテーマを決める。学期中はゼミ時間を、施設見学や自主的な学習調査に利用し、月1～2回程度進捗状況をゼミで報告する。初回講義で、講義全体（研究活動）のオリエンテーションを行う。

到達目標

- 1.これまでの学習の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学習、知識の獲得することができる。■
- 2.社会福学科研究発表会に向けプレゼンテーション、発表会での報告ができる■

使用教材

必要に応じて指示する。

参考文献

必要に応じて指示する。

評価方法

共同創造を目指した授業展開とする。授業における発言内容（50%）、研究活動への貢献度（50%）を目安に、発表内容も含め総合的に評価する。60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

学生から提出された成果物の内容を修正し、全体に向けて解説する。

オフィスアワー

火曜日3, 4時限 312研究室

メールアドレス（#→@）

ikedata-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

見学を踏まえて、発表内容を決めて、分担して調べたものをゼミで発表する。■

【予習】発表の準備・練習。

【予習時間】8h

【復習】授業で考察したものをまとめる。発表準備・練習を進める。

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

自分から積極的に教員とアポイント（連絡や相談）を取ることができると望ましい。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅲ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT403

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

永田 理香

科目に関連した実務経験

研修担当者として社会福祉研修実施機関（県社会福祉協議会）に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

現在、福祉人材確保政策において人材育成の重要性が注目され、キャリアパスの策定や人材育成認証評価制度等の取組みが進められてきている。本演習では、人材育成を組織的な学習・教育活動と捉え、福祉専門職が将来展望を持ちながらキャリアアップできる人材育成のあり方について実践的に学ぶ。

基本的な研究の流れと方法が理解できるよう、個人のニーズに合わせ段階的に演習を進めていく。プレゼンテーションスキルの向上を目指し、スライドの構成・作成方法、発表方法について実践的に指導を行なう。

到達目標

- 1.福祉人材育成の今日的動向について理解できる。■
- 2.福祉人材育成における課題を明確化することができる。■
- 3.研究テーマに基づき研究計画を立案することができる。

使用教材

必要に応じて指示する

参考文献

必要に応じて提示する

評価方法

授業における発言内容（30%）、研究計画の妥当性（30%）、研究活動への貢献度（40%）とし、60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題については、出題した意図について解説を行い、コメントを付け返却を行なう。

オフィスアワー

火曜日3時限と水曜日2時限
（1号館3階309）

メールアドレス（#→@）

メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表

初回到研究活動についてのオリエンテーションを行う■

【予習】 毎回指示する。

【予習時間】 毎1.5h

【復習】 毎回指示する。

【復習時間】 毎1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンラインで実施する場合は、別途Cラーニング等で周知する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅲ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT403

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

原田 欣宏

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッシ ョン、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

福祉・医療・司法専門職と地域住民との協働による福祉実践を中心としたシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。

授業では文献や実地調査とグループワーク、ディスカッションを行い、適宜コメントする。

到達目標

1. 演習を通じて、地域住民が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。
2. 演習を通じて、ソーシャルワーカーのソーシャルアクションに関する企画、広報、連絡調整の技術を修得する。

- 3.ソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。
- 4.ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。

使用教材

テキストは使用しない

参考文献

適宜文献を指示する

評価方法

①専門分野における演習の取り組み、②課題に取り組むことによる、より専門的な学修、知識の獲得、等により評価100%。60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。

オフィスアワー

火曜3時限

研究室：1号館5階506

メールアドレス（#→@）

harada#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

テーマに即したゼミ研究・実践活動

【予習】テーマに即したデータ、参考文献を検索し、整理する。

【予習時間】7.5h

【復習】ゼミ活動を振り返り、情報と課題の整理を行う。

【復習時間】7.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

ゼミの運営は学生が主体的にかつ協力しながら運営することで、学びがさらに深まることを期待しています。

印刷



総合演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅲ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT403

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

根岸 洋人

科目に関連した実務経験

高崎市障害者虐待対策協議会会長（現在）

高崎市社会福祉審議会委員（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

障害のある人を取り巻く環境（制度、文化、支援技術等）についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を培う。

授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。授業時間以外での学修や活動を行うことが前提となる。

到達目標

^

- 1.障害のある人を取り巻く環境について理解することができる ■
- 2.問題点を発見し、課題解決に向けた研究を行うことができる
- 3.自分の取り上げた研究テーマをプレゼンテーションすることができる

使用教材

^

適宜指示する

参考文献

^

適宜指示する

評価方法

^

ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

^

授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う

オフィスアワー

^

金曜5限

メールアドレス（#→@）

^

negishi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。 ■

【予習】 適宜指示する

【予習時間】 8h

【復習】 適宜指示する

【復習時間】 8h

合計時間（予習・復習）

^

16h

備考

^

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅲ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT403

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

堀口 美奈子

科目に関連した実務経験

介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①社会福祉は、ひとりよりみんな、他者とともに生きる＝共生社会のなかで育まれる。そこで本科目では、共生社会の原点である「自己」について知り、社会福祉専門職に求められる「社会福祉を構成するちから」について検討していく。

②授業では、経験学習モデルをベースに、講義の他、事例などを踏まえた演習を行う。演習では個人ワークの他、グループワークを行い、相互作用による学習の定着を図る。

到達目標



- 1.具体的なワークを通して、チームで働く力や前に踏み出す力、考え抜く力を身につけることができる。■
- 2.実践経験から内省的観察を行い、共生社会の構成時に必要となる抽象的概念を抽出、言語化できる。■
- 3.得られた概念を、社会の中での能動的実践に活かすことができる。■
- 4.ワークや他者との交流を通して、自己についての考えを深めることができる。

使用教材



必要に応じて資料の配布、参考書の紹介を行う。

評価方法



実践活動での活発な参加と議論・活動への貢献度40%、提出物の充実度60%

課題・評価に対するフィードバック方法



提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜コメントを付しての返却を予定している。

オフィスアワー



月曜3限 502研究室

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する

授業計画表



初回到授業全体についてのオリエンテーションを行う■

総合演習Ⅰを履修する3年生と合同で実施する。

【予習】適宜指示する

【予習時間】7.5h

【復習】適宜指示する

【復習時間】7.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅲ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT403

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

堀口 美奈子

科目に関連した実務経験

介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①社会福祉は、ひとりよりみんな、他者とともに生きる＝共生社会のなかで育まれる。そこで本科目では、共生社会の原点である「自己」について知り、社会福祉専門職に求められる「社会福祉を構成するちから」について検討していく。

②授業では、経験学習モデルをベースに、講義の他、事例などを踏まえた演習を行う。演習では個人ワークの他、グループワークを行い、相互作用による学習の定着を図る。

到達目標



- 1.具体的なワークを通して、チームで働く力や前に踏み出す力、考え抜く力を身につけることができる。■
- 2.実践経験から内省的観察を行い、共生社会の構成時に必要となる抽象的概念を抽出、言語化できる。■
- 3.得られた概念を、社会の中での能動的実践に活かすことができる。■
- 4.ワークや他者との交流を通して、自己についての考えを深めることができる。

使用教材



必要に応じて資料の配布、参考書の紹介を行う。

評価方法



実践活動での活発な参加と議論・活動への貢献度40%、提出物の充実度60%

課題・評価に対するフィードバック方法



提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜コメントを付しての返却を予定している。

オフィスアワー



月曜3限 502研究室

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する

授業計画表



初回到授業全体についてのオリエンテーションを行う■

総合演習Ⅰを履修する3年生と合同で実施する。

【予習】適宜指示する

【予習時間】7.5h

【復習】適宜指示する

【復習時間】7.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅲ

科目区分：卒業研究および演習

科目ナンバリング：SWT403

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥 浩丈

科目に関連した実務経験

精神保健福祉士として精神科病院勤務、就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務、（現在、非常勤として）臨床心理オフィスのスタッフ、産業保健総合支援センターでのメンタルヘルス対策・両立支援促進員、等

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①メンタルヘルス不調（精神障害を含む）」と「労働・雇用」との関連において生じる諸問題を中心に扱う。
- 文献検索、調査などを通してメンタルヘルス領域に関する理解を深め、実際の支援現場で用いられている専門知識や心理社会的アプローチについて整理する。
 - 「働くこと/働けないこと/働かないこと」の中で人々が体験する困難や精神的危機について本質的な問いを立て、よりよ

い支援のあり方を探求していく力を培う。

②授業はゼミ形式で行う。学生の問題意識をもとに、ゼミ内での報告、発表、対話、討議等により、現場課題や支援の理解を深めていく。

到達目標

1. メンタルヘルス不調者・精神障害者への支援について理解することができる。■
2. 問題・課題を発見し、自身の研究テーマを決め、研究を行うことができる。
3. 研究成果をプレゼンテーションすることができる。

使用教材

必要に応じて指示する

参考文献

必要に応じて指示する

評価方法

ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業内のコメント、議論、研究指導などにより随時学生にフィードバックする。

オフィスアワー

火曜2 時限 （303 研究室）

メールアドレス（#→@）

shiratori # takasaki-u.ac.jp

授業計画表

グループや各自の目標・テーマ等に沿って企画や研究を行い、発表により研究成果を共有しながら進めていく。■

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 8h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅲ

科目区分：卒業研究および演習

科目ナンバリング：SWT403

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥 浩丈

科目に関連した実務経験

精神保健福祉士として精神科病院勤務、就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務、（現在、非常勤として）臨床心理オフィスのスタッフ、産業保健総合支援センターでのメンタルヘルス対策・両立支援促進員、等

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①メンタルヘルス不調（精神障害を含む）」と「労働・雇用」との関連において生じる諸問題を中心に扱う。
- 文献検索、調査などを通してメンタルヘルス領域に関する理解を深め、実際の支援現場で用いられている専門知識や心理社会的アプローチについて整理する。
 - 「働くこと/働けないこと/働かないこと」の中で人々が体験する困難や精神的危機について本質的な問いを立て、よりよ

い支援のあり方を探求していく力を培う。

②授業はゼミ形式で行う。学生の問題意識をもとに、ゼミ内での報告、発表、対話、討議等により、現場課題や支援の理解を深めていく。

到達目標

1. メンタルヘルス不調者・精神障害者への支援について理解することができる。■
2. 問題・課題を発見し、自身の研究テーマを決め、研究を行うことができる。
3. 研究成果をプレゼンテーションすることができる。

使用教材

必要に応じて指示する

参考文献

必要に応じて指示する

評価方法

ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業内のコメント、議論、研究指導などにより随時学生にフィードバックする。

オフィスアワー

火曜2 時限 （303 研究室）

メールアドレス（#→@）

shiratori # takasaki-u.ac.jp

授業計画表

グループや各自の目標・テーマ等に沿って企画や研究を行い、発表により研究成果を共有しながら進めていく。■

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 8h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅲ

科目区分：卒業研究および演習

科目ナンバリング：SWT403

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

出雲春明

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○		○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 本ゼミでは、価値観の多様性をテーマに「生きづらさ」をめぐる様々なシチュエーションをとりあげ、考える力と伝える力を高めることを目標とします。

キーワード：無意識の偏見、差別、ジェンダー、マイノリティ、LGBT、QOL、表象文化（映画、小説、広告、CM、ファッションなど）

②本ゼミでは、学生が自分の興味範囲のなかから課題を設定し、研究発表、議論を行ってもらう。教員からも適宜、問題提起や情報提供を行います。

到達目標

1. さまざまな価値観の在り方について理解し、説明することができる。
2. 自分の研究テーマを設定し、自らの関心を他者に伝えることができる。
3. 適切に文献等の資料を利用することができる。
4. 自分の考えをまとめることができる。
5. 議論を通じて、考えを深めることができる。

使用教材

ゼミ生の関心に合わせて、資料を配布する。

参考文献

必要に応じて指示する。

評価方法

調査、研究発表などへの貢献度から評価する（100％）。

オフィスアワー

1号館511研究室

面談希望の場合はC-Learning「連絡・相談」あるいは下記アドレスまで。

メールアドレス（#→@）

izumo-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

近年、「多様性への配慮」「価値観のアップデート」というスローガンのもと、それぞれが「自分らしい生き方」ができる社会が模索されています。しかし、それは容易ではありません。「何を幸せに思うのか」は人それぞれで異なるからです。だから、「こうしておけばいい」というマニュアル思考は躓きのもとになります。それは相手を自分の「想定内」に制限してしまうことであり、相手に対する侮辱や権利侵害につながる場合もあります。

このゼミでは、ニュース、ドキュメンタリー、映画などの表象文化を活用して、なるべく具体的な事例にもとづきながら「生きづらさ」について考えていきます。そのなかで自分にとっての「想定外」に出会い、考えを深めていってほしいと思います。授業形式としてはグループワーク、プレゼンテーション、課外学習を実施します。

合計時間（予習・復習）

45h

備考

日頃から、社会問題に関心を持ち、報道などを見るようにしましょう。

印刷



総合演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in advanced studies Ⅲ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT403

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

樫府 憲太

科目に関連した実務経験

社会福祉士（専門職採用）として生活保護、高齢者福祉、障害者福祉の部署に勤務（合計13年）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①生活保護制度の仕組みや制度を取り巻く社会状況を把握し、今後の制度改善の課題や方向性について考察する。

②文献講読、グループディスカッション、フィールドワーク、グループに分かれての研究・調査等の方法を適宜組み合わせて実施する。

到達目標



1. 「生活保護制度」を切り口にして現代社会の構造やあり方について考察することができる。■
2. 社会福祉・ソーシャルワークを多様な方法、幅広い視点で学び、視野の広い思考を身につける。
3. 研究・調査の初歩的な部分を学び、学士として最低限の知識・技術を備える。

使用教材



適宜提示する。

参考文献



適宜提示する。

評価方法



授業内における課題への取り組み態度、研究・調査に対する意欲、研究成果の内容などを総合的に判断する(100%)。特に学びに対する積極性・主体性は高く評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



授業内の他、メールや対面などで適宜フィードバックを行う。

オフィスアワー



質問及び学習相談には適宜応じる。

メールアドレス（#→@）



narafu#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



文献講読、グループディスカッション、フィールドワーク、グループに分かれての研究・調査等の方法を適宜組み合わせて実施する。■

【予習】適宜提示する。

【予習時間】1.5h

【復習】適宜提示する。

【復習時間】1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



- ・フィールドワーク等、内容によっては科目として定められている日時以外の時間を用いて行うことがある。
 - ・授業の内容や形態は学生の関心に応じて柔軟に変更するので、主体的に参加し、積極的に意見を述べること。
- は実務経験に基づく授業内容であることを示しています。

印刷 

総合演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅲ

科目区分：卒業研究および演習

科目ナンバリング：SWT403

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

富田 俊

科目に関連した実務経験

専門看護師として病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○		○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人生の最終段階・終末期・看取りの関する支援、倫理等についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を養う。自身の死生観や人生の最終段階・終末期・看取りに関する価値観を養い、他者の価値観を理解する。

②ゼミ活動を通して授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進め、研究発表会に向けてプレゼンテーション技術や発表方法について実践的に指導する。

到達目標

1. 研究計画に基づき研究活動を展開することができる。■
2. 調査結果を検討し、研究目的に基づいた考察ができる。■
3. 研究の成果を整理し、研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。■

使用教材

必要に応じて指示する

参考文献

必要に応じて指示する

評価方法

演習／課題の取り組み（30％）、ディスカッションにおける発言内容（30％）、研究活動の貢献度（40％）として、60％以上を合格とする

課題・評価に対するフィードバック方法

演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。

オフィスアワー

月曜2時限 （514研究室）

メールアドレス（#→@）

tomita-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

グループや各自の目標・テーマ等に沿って、企画や研究を行い、実践活動や研究成果を共有しながら進めていく。最終的には社会福祉学科研究発表会にて研究成果の発表を行う。■

【予習】毎回指示する

【予習時間】8h

【復習】毎回指示する

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅲ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT403

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

青木 尚人

科目に関連した実務経験

政令指定都市自治体職員(社会福祉職)として生活保護現業員、知的障害者生活支援施設生活支援員、精神保健福祉相談員の3か所計9年従事。

(社会福祉士、精神保健福祉士取得済)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

本演習では、「行政ソーシャルワーカーのやりがい」に焦点を当てる。行政ソーシャルワーカーは事務とソーシャルワークの両輪で仕事をしている。民間セクターとは異なる構造の中で実践する行政ソーシャルワーカーはどのようにして自分を保ちながら実践をしているのか。ソーシャルワーカーへの聞き取りや、フィールドワークを通じて「やりがいとは何か」を

解明する。

行政での実践をより理解するために、個人の要望に合わせ福祉事務所や児童相談所といった機関と協働する機関にも着目する。個人の取り組みの報告を上達できるようにプレゼンテーションスキルの向上を目指す。レジユメの作成方法や、スライドの構成・作成方法、発表方法について指導する。

フィールドワークでは次の機関に訪問することを検討している。

(福祉事務所、児童相談所、社会福祉協議会、女性自立支援施設、独立型社会福祉士事務所、少年院、東京拘置所など)

到達目標



- 1.行政一般の仕組みが理解できる。■
- 2.行政ソーシャルワーカーの働きがい理解することができる。■
- 3.自分自身の研究テーマに基づき研究計画を立案し、報告する。
- 4年次の最後にはパワーポイントを用いた研究報告会を実施する。

使用教材



必要に応じて指示する

参考文献



必要に応じて提示する

評価方法



授業における発言内容（40%）、研究計画の妥当性（30%）、研究活動への貢献度（30%）を総合して評価する。
(授業中に必ず一度は発言をすること)

課題・評価に対するフィードバック方法



提出された課題については、コメントを付け返却を行なう。

オフィスアワー



適宜行う。

(面談を行う場合は必ず事前にメールにて予約をすること)

メールアドレス（#→@）



aoki-n#takasaki-u.ac.jp

メールを送る際は「学籍番号 氏名」を表題に付けた上で送ること。

授業計画表



初回に研究活動についてのオリエンテーションを行う。

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 毎1.5h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 毎1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



当ゼミはフィールドワークや文献輪読を行うため、報告、連絡、相談は密に行う必要がある。

(無断欠席は単位習得不可とする)

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅲ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT403

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

加藤 大輔

科目に関連した実務経験

医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）として病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

医療福祉、医療ソーシャルワーカーの実践についてテーマを設定し、医療ソーシャルワーカーの専門性や役割を理解する。また実践の基盤となる価値、医療・福祉に関する専門知識・援助技術を身に着ける。活動を通じ、企画、研究、プレゼンテーションにかかわる力量を養う。

学生の問題意識を基に文献調査、実践理解を意図した企画などを実施し、学習内容のゼミ内での発表、討議により、理解を深めていく。

到達目標 ^

- 1.医療分野における福祉の役割を理解することができる ■
- 2.研究活動の展開について理解することができる
- 3.研究成果をゼミでの討論により整理できる
- 4.研究成果を研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。

使用教材 ^

必要に応じて指示する

参考文献 ^

必要に応じて指示する

評価方法 ^

ゼミ内での研究発表、活動内容、研究活動への貢献度により総合的に評価する（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う

オフィスアワー ^

火曜4限 5階515研究室

メールアドレス（#→@） ^

kato-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによっては現任者の実践理解を意図した企画を行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。■

- 【予習】 毎回指示する
- 【予習時間】 8h
- 【復習】 毎回指示する
- 【復習時間】 8h

合計時間（予習・復習） ^

16h

備考 ^

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習Ⅲ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅲ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT403

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

一柳大輔

科目に関連した実務経験

コミュニティソーシャルワークの実践主体としての社会福祉協議会に勤務経験有。実務を担当するとともに、ソーシャルワーカーの育成にも従事。現在、行政や社協、学校、団体の計画づくりや実践の企画・評価に携わっている。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①地域福祉実践を中心としてコミュニティソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。

②ゼミの運営は学生が主体的に協力しながら運営する。研究・実践活動は、歴代のゼミの先輩が実践してきた内容＝ふれあ

い・いきいきサロン、大類地域福祉教育の会運営、赤い羽共同募金などの企画・運営・振り返りをベースとする。教員は自身の研究テーマと教育スタンスにより、フィールドの実践やアドバイスを行う。

到達目標

1. 現地演習を通じて、地域住民や団体が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。■
2. 現地演習を通じて、地域団体の運営方法や事業の企画、広報、連絡調整の技術を修得する。■
3. コミュニティソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。■
4. ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。■

使用教材

テキストは使用しない。

参考文献

その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付する。

評価方法

①専門分野における演習の取り組み（40%）、②地域課題への取り組み（30%）、③グループ学習による取り組み（30%）、による専門的な学修、知識の獲得等により評価する（計100%）。

課題・評価に対するフィードバック方法

質問や相談についてはClearningで適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。

オフィスアワー

質問や相談はClearning等で随時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

hitotsuyanagi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

地域福祉実践（地域福祉実践に関することなど）の企画、運営、準備、振り返り、研究を行う。社会福祉学科研究発表会等において研究成果を発表する。■（到達目標：1.2.3.4）

【予習】実践の準備、検討、資料作成等。

【予習時間】 8h

【復習】実践の振り返り、次の課題への準備等。

【復習時間】 8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

- 授業時間には、授業時の活動のほか地域に向向いて行う実践時間も含む。
 - 国家試験受験の準備や就職活動の支援も適宜行う。
- 講義内容の■は実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅳ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT404

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

安達 正嗣

科目に関連した実務経験

兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①現代の日本社会において、高齢化に関する福祉社会学的ならびに家族社会学的な視点・分析能力の養成は、さまざまな学術分野のみならず、社会福祉・精神保健・介護の現場のなかで重要性を増してきている。本演習では、高齢者福祉のあり方を考えることを通じて、こうした視点・分析能力を身につけることを目指すものである。

②受講生が主体となって、司会と報告者の役割をおこない、教科書の担当章に関する報告者の報告内容・レジюмеをめぐって議論して、担当教員が適宜に助言しながら、教科書の内容の理解を深めるものである。

到達目標

- 1.高齢化の現状と高齢者福祉政策の動向について理解できる。
- 2.高齢社会における課題を明確化して認識することができる。
- 3.受講生が自らの問題意識から研究テーマを発見でき、プレゼンテーションの能力を養うことができる。
- 4.福祉社会学・家族社会学の研究手法（調査方法を含む）を習得できる。■
- 5.卒論を作成する能力を身につけることができる。

使用教材

G・エスピン＝アンデルセン『アンデルセン、福祉を語る』NTT出版

参考文献

講義中、適宜指示する。

評価方法

受講生に対する評価の内訳は、演習中の研究課題への取り組みに対する評価（50%）、学期末に提出する卒業論文作成（卒業論文提出を含む）に関する評価（50%）、合計100%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回の報告、卒業論文の中間作成に対して、コメントをつけて返却する。

オフィスアワー

火曜日5限・6限

メールアドレス（#→@）

adachi-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジюмеを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。学期末には、卒業論文を提出する。■

【予習】各回に指示する。

【予習時間】8h

【復習】各回に指示する。

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

報告者が無断欠席をすると、単位が不可となります。必ず、報告者以外の受講生は、質問や意見を述べるのが義務となっています。

科目「卒業論文」を登録して、単位を取得することが必要です。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅳ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT404

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

池田 朋広

科目に関連した実務経験

- ①精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として大学病院において21年勤務（経験）
- ②非常勤として精神科クリニックデイケアに4年勤務（経験）
- ③外部講師（精神保健福祉士）として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加（現在）
- ④薬物依存症回復支援施設にて、非常勤プログラム講師（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①おもに薬物使用者を支援の対象として、精神科医療と刑事司法の境界領域におけるソーシャルワーク実践について考えを深めていく。また、支援対象者への介入手段の一つとして、病院や矯正施設等で行なわれる心理社会的治療プログラムや、

精神保健分野における多職種チームアプローチの技法についても、詳しく紹介していく。

基本は演習形式で授業を行うが、外部講師を招いて講義形式にて行うこともある。課外授業やゼミ合宿も含め、授業の進行についてはすべてゼミメンバーで話し合って決める。

②メンタルヘルス領域・司法福祉領域から各自が関心のある分野や課題を選び、研究報告会にむけての具体的なテーマを決める。学期中はゼミ時間を、施設見学や自主的な学習調査に利用し、月1～2回程度進捗状況をゼミで報告する。初回講義で、講義全体（研究活動）のオリエンテーションを行う。

到達目標

- 1.これまでの学習の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学習、知識の獲得することができる。■
- 2.社会福学科研究発表会に向けプレゼンテーション、発表会での報告ができる■

使用教材

必要に応じて指示する。

参考文献

必要に応じて指示する。

評価方法

共同創造を目指した授業展開とする。授業における発言内容（50%）、研究活動への貢献度（50%）を目安に、発表内容も含め総合的に評価する。60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

学生から提出された成果物の内容を修正し、全体に向けて解説する。

オフィスアワー

火曜日3, 4時限 312研究室

メールアドレス（#→@）

ikedata-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

前期に調べて、発表したものをまとめる。全員で発表の振り返りをする。■

【予習】発表の準備・練習。

【予習時間】8h

【復習】授業で考察したものをまとめる。発表準備・練習を進める。

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

自分から積極的に教員とアポイント（連絡や相談）を取ることができると望ましい。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅳ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT404

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

永田 理香

科目に関連した実務経験

研修担当者として社会福祉研修実施機関（県社会福祉協議会）に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①現在、福祉人材確保政策において人材育成の重要性が注目され、キャリアパスの策定や人材育成認証評価制度等の取り組みが進められてきている。本演習では、人材育成を組織的な学習・教育活動と捉え、福祉専門職が将来展望を持ちながらキャリアアップできる人材育成のあり方について実践的に学ぶ。

②基本的な研究の流れと方法が理解できるよう、個人のニーズに合わせ段階的に演習を進めていく。プレゼンテーションスキルの向上を目指し、スライドの構成・作成方法、発表方法について実践的に指導を行なう。

到達目標

- 1.研究計画に基づき研究活動を展開することができる。
- 2.調査結果を検討し、研究目的に基づいた考察ができる。■
- 3.研究の成果を整理し、研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。

使用教材

必要に応じて指示する

参考文献

必要に応じて提示する

評価方法

授業における発言内容（30%）、研究活動への貢献度（40%）、プレゼンテーション（30%）とし、60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題については、出題した意図について解説を行い、コメントを付け返却を行なう。

オフィスアワー

火曜日3時限と水曜日2時限
（研究室：1号館3階309）

メールアドレス（#→@）

メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表

初回到研究活動についてのオリエンテーションを行う■

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 毎1.5h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 毎1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンラインで実施する場合は、別途Cラーニング等で周知する。
最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名 : Seminar in Advanced Studies Ⅳ

科目区分 : 卒業研究及び演習

科目ナンバリング : SWT404

学年 : 4年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

原田 欣宏

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①福祉・医療・司法専門職と地域住民との協働による福祉実践を中心としたソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。

②授業では文献や実地調査とグループワーク、ディスカッションを行い、適宜コメントする。

到達目標

1. 現地での演習を通じて、地域住民が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。
2. 現地での演習を通じて、ソーシャルワーカーのソーシャルアクションに関する企画、広報、連絡調整の技術を修得する。
3. ソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。

- 4.ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。
5.報告書の作成を通して、論理的な文章の作成を行うことができる。

使用教材

テキストは使用しない

参考文献

適宜文献を指示する

評価方法

①専門分野における演習の取り組み、②課題に取り組むことによる、より専門的な学修、知識の獲得、等により評価100%。60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。

オフィスアワー

火曜3時限

研究室：1号館5階506

メールアドレス（#→@）

harada#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

テーマに即したゼミ研究・実践活動

【予習】テーマに即したデータ、参考文献を検索し、整理する。

【予習時間】7.5h

【復習】ゼミ活動を振り返り、情報と課題の整理を行う。

【復習時間】7.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

ゼミの運営は学生が主体的にかつ協力しながら運営することで、学びがさらに深まることを期待しています。

印刷



総合演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅳ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT404

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

根岸 洋人

科目に関連した実務経験

高崎市障害者虐待対策協議会会長（現在）

高崎市社会福祉審議会委員（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①障害のある人を取り巻く環境（制度、文化、支援技術等）についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を培う。

②授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。授業時間以外での学修や活動を行うことが前提となる。

到達目標

- 1.障害のある人を取り巻く環境について理解することができる ■
- 2.問題点を発見し、課題解決に向けた研究を行うことができる
- 3.自分の取り上げた研究テーマをプレゼンテーションすることができる

使用教材

適宜指示する

参考文献

適宜指示する

評価方法

ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う

オフィスアワー

金曜5限

メールアドレス（#→@）

negishi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。 ■

【予習】適宜指示する

【予習時間】8h

【復習】適宜指示する

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅳ

科目区分：卒業研究および演習

科目ナンバリング：SWT404

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石坂 公俊

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○	○	○		○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①1.「子どもの貧困」をテーマとし、貧困で何が起きているのか、なぜ貧困があるのかを理解する。
2.「子どもの貧困」を背景とした多角的な視点を醸成する。
3.フィールドワークに参加しながら、貧困問題などについて自分の目と耳で考える。
- ②「貧困の中でしんどい思いをしている子ども達」、「なぜ貧困があるのか」について中心的に理解する。グループワーク、文献・資料等も活用し、学びを深める方法をとる。

到達目標

- 1.貧困の中で育つ子どもの生活実態を理解することができる。
- 2.「子どもの貧困」をめぐる背景や諸動向を理解することができる。
- 3.社会福祉の関連事象には背景に貧困問題があるかもしれないという感度を持つことができる。

使用教材

必要に応じて指示するが、参考文献などは授業中にも適宜紹介していく。
授業内容によってはDVDなどを視聴する機会も設け、レジュメや参考資料なども配付する。

参考文献

特記事項なし

評価方法

- 1.履修の条件として、子どもの貧困やホームレス問題などに関心のある学生を希望する。
 - 2.ゼミ活動としてフィールドワークへの参加に意欲的な学生を希望する。
- 上記を目安に総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

発表、提出物等に対してコメントする。
必要に応じて面談、個別指導を随時実施する。

オフィスアワー

水曜日4時限
質問はメールでも受け付ける。
(1号館5階503研究室)

メールアドレス（#→@）

kimi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

「子どもの貧困問題」がメインテーマとなる。子どもの貧困の実態、困難を抱えた子どもや家族の「声」を社会に発信し、解決への道筋を考えていく。本講座では将来にわたって、貧困問題に対するアンテナを持ち続けられる支援者を目指す。総合演習Ⅲを履修する4年生と合同で実施する。

【予習】毎回提示する。

【予習時間】8h

【復習】毎回提示する。

【復習時間】8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

フィールドワークとして子ども無料学習会、ホームレス配食（聞き取り調査も実施）の活動にも参加が可能となる。さらにゼミ内で国家試験学習も行っていく。それらの取り組みを通じて、教員、ゼミ生同士の相互交流を図ることが主な目的となる。

印刷 

総合演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅳ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT404

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

堀口 美奈子

科目に関連した実務経験

介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①社会福祉は、ひとりよりみんな、他者とともに生きる＝共生社会のなかで育まれる。そこで本科目では、社会のなかでのフィールドワークや実証研究を通して、前期で学んだ社会福祉専門職に求められる「社会福祉を構成するちから」の理解をより深め、卒後、共生社会で生きる社会人としての力の獲得を目指していく。

②授業では、これまで行ってきた実証研究を発表するための準備を行い、発表する。発表後は、実施内容に関する振り返りを行う。そのほか経験学習モデルをベースに、学生自身の興味関心に応じた個人もしくはグループ学習を行う。

到達目標

- 1.教員と参加学生による関心や問題意識を基に、フィールドワークや実証研究を実践できる。■
- 2.具体的な実践を通して、チームで働く力や前に踏み出す力、考え抜く力を身につけることができる。■
- 3.実践経験から内省的観察を行い、共生社会の構成時に必要となる抽象的概念を抽出、言語化できる。■
- 4.得られた概念を、社会の中での能動的実践に活かすことができる。■
- 5.実践や他者との交流を通して、自己についての考えを深めることができる。
- 6.社会福祉学科研究発表会にて、学生全体でまとめた学習成果をプレゼンテーションできる。

使用教材

必要に応じて資料の配布、参考書の紹介を行う。

評価方法

実践活動での活発な参加と議論・活動への貢献度40%、研究発表会での事前準備・プレゼンテーション60%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜コメントを付しての返却を予定している。

オフィスアワー

月曜3限

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示する

授業計画表

初回到授業全体についてのオリエンテーションを行う ■
総合演習Ⅳを履修する4年生と合同で実施する。
【予習】適宜指示する
【予習時間】7.5h
【復習】適宜指示する
【復習時間】7.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅳ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT404

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大川 健次郎

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①児童家庭福祉の諸問題を中心に扱う。現在の児童や家庭、女性問題などに焦点を当てて、これまでの大学の講義や演習等で学んだことを、自分の興味範囲を定めて深めて研究することを目的とする。前期の総合演習の学習内容を踏まえ、それらを他者に分かりやすく伝える力をつける。ゼミ内でお互いに学び合い自分の興味範囲を深めていく。

②授業は、学生の児童家庭福祉に関する問題意識を基に、質疑応答形式で進め、それをゼミとしてまとめていく。

到達目標

- 自分たちの考えを他者に分かりやすく伝える技術を学ぶことができる。
- 他者の学びを、自らの問題としてとらえ、深めることを学ぶことができる。

3.大学卒業後の進路を考え具体的な目標を立てることができる。

使用教材

教科書は使用しないが、ゼミにおいて資料の配布、参考書の紹介などを予定している。

評価方法

研究計画書・発表文書（60%）、他のゼミ生への提案（20%）、ゼミ活動への貢献度（20%）

課題・評価に対するフィードバック方法

研究計画書・発表文書作成段階で、個別指導を実施する。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。研究室508

メールアドレス（#→@）

okawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

ゼミ内で議論しテーマを設定して、各自問題意識をもってテーマを深めたうえで、ゼミ内で共有する

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 8h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

各自主体的に参加し、協同して、さらなる深い学習となることを期待する。

印刷 

総合演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅳ

科目区分：卒業研究および演習

科目ナンバリング：SWT404

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

白鳥 浩丈

科目に関連した実務経験

精神保健福祉士として精神科病院勤務、就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務、（現在、非常勤として）臨床心理オフィスのスタッフ、産業保健総合支援センターでのメンタルヘルス対策・両立支援促進員、等

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①メンタルヘルス不調（精神障害を含む）」と「労働・雇用」との関連において生じる諸問題を中心に扱う。
- 文献検索、調査などを通してメンタルヘルス領域に関する理解を深め、実際の支援現場で用いられている専門知識や心理社会的アプローチについて整理する。
 - 「働くこと/働けないこと/働かないこと」の中で人々が体験する困難や精神的危機について本質的な問いを立て、よりよ

い支援のあり方を探求していく力を培う。

②授業はゼミ形式で行う。学生の問題意識をもとに、ゼミ内での報告、発表、対話、討議等により、現場課題や支援の理解を深めていく。

到達目標

1. メンタルヘルス不調者・精神障害者への支援について理解することができる。■
2. 問題・課題を発見し、自身の研究テーマを決め、研究を行うことができる。
3. 研究成果をプレゼンテーションすることができる。

使用教材

必要に応じて指示する

参考文献

必要に応じて指示する

評価方法

ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業内のコメント、議論、研究指導などにより随時学生にフィードバックする。

オフィスアワー

火曜2 時限 （303 研究室）

メールアドレス（#→@）

shiratori # takasaki-u.ac.jp

授業計画表

グループや各自の目標・テーマ等に沿って企画や研究を行い、発表により研究成果を共有しながら進めていく。■

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 8h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅳ

科目区分：卒業研究および演習

科目ナンバリング：SWT404

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

出雲春明

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○		○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 本ゼミでは、価値観の多様性をテーマに「生きづらさ」をめぐる様々なシチュエーションをとりあげ、考える力と伝える力を高めることを目標とします。

キーワード：無意識の偏見、差別、ジェンダー、マイノリティ、LGBT、QOL、表象文化（映画、小説、広告、CM、ファッションなど）

② 本ゼミでは、学生が自分の興味範囲のなかから課題を設定し、研究発表、議論を行ってもらう。教員からも適宜、問題提起や情報提供を行います。

到達目標



1. さまざまな価値観の在り方について理解し、説明することができる。
2. 自分の研究テーマを設定し、自らの関心を他者に伝えることができる。
3. 適切に文献等の資料を利用することができる。
4. 自分の考えをまとめることができる。
5. 議論を通じて、考えを深めることができる。

使用教材



ゼミ生の関心に合わせて、資料を配布する。

参考文献



必要に応じて指示する。

評価方法



調査、研究発表などへの貢献度から評価する（100 %）。

課題・評価に対するフィードバック方法



ゼミでの研究発表に対して、適宜指導を行う。

オフィスアワー



1号館 511 研究室

面談希望の場合は C-Learning「連絡・相談」あるいは下記アドレスまで。

メールアドレス（#→@）



izumo-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



近年、「多様性への配慮」「価値観のアップデート」というスローガンのもと、それぞれが「自分らしい生き方」ができる社会が模索されています。しかし、それは容易ではありません。「何を幸せに思うのか」は人それぞれで異なるからです。だから、「こうしておけばいい」というマニュアル思考は躓きのもとになります。それは相手を自分の「想定内」に制限してしまうことであり、相手に対する侮辱や権利侵害につながる場合もあります。

このゼミでは、ニュース、ドキュメンタリー、映画などの表象文化を活用して、なるべく具体的な事例にもとづきながら「生きづらさ」

について考えていきます。そのなかで自分にとっての「想定外」に出会い、考えを深めていってほしいと思います。授業形式としてはグ

ループワーク、プレゼンテーション、課外学習を実施します。

合計時間（予習・復習）



45h

備考



日頃から、社会問題に関心を持ち、報道などを見るようにしましょう。

印刷



総合演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in advanced studies Ⅳ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT404

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

樫府 憲太

科目に関連した実務経験

社会福祉士（専門職採用）として生活保護、高齢者福祉、障害者福祉の部署に勤務（合計13年）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①生活保護制度の仕組みや制度を取り巻く社会状況を把握し、今後の制度改善の課題や方向性について考察する。
- ②文献講読、グループディスカッション、フィールドワーク、グループに分かれての研究・調査等の方法を適宜組み合わせて実施する。

到達目標



1. 「生活保護制度」を切り口にして現代社会の構造やあり方について考察することができる。■
2. 社会福祉・ソーシャルワークを多様な方法、幅広い視点で学び、視野の広い思考を身につける。
3. 研究・調査の初歩的な部分を学び、学士として最低限の知識・技術を備える。

使用教材



適宜提示する。

参考文献



適宜提示する。

評価方法



授業内における課題への取り組み態度、研究・調査に対する意欲、研究成果の内容などを総合的に判断する(100%)。特に学びに対する積極性・主体性は高く評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



授業内の他、メールや対面などで適宜フィードバックを行う。

オフィスアワー



質問及び学習相談には適宜応じる。

メールアドレス（#→@）



narafu#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



文献講読、グループディスカッション、フィールドワーク、グループに分かれての研究・調査等の方法を適宜組み合わせて実施する。■

【予習】適宜提示する。

【予習時間】1.5h

【復習】適宜提示する。

【復習時間】1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



- ・フィールドワーク等、内容によっては科目として定められている日時以外の時間を用いて行うことがある。
 - ・授業の内容や形態は学生の関心に応じて柔軟に変更するので、主体的に参加し、積極的に意見を述べること。
- は実務経験に基づく授業内容であることを示しています。

印刷 

総合演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅳ

科目区分：卒業研究および演習

科目ナンバリング：SWT404

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

富田 俊

科目に関連した実務経験

専門看護師として病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○		○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人生の最終段階・終末期・看取りの関する支援、倫理等についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を養う。自身の死生観や人生の最終段階・終末期・看取りに関する価値観を養い、他者の価値観を理解する。

②ゼミ活動を通して授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進め、研究発表会に向けてプレゼンテーション技術や発表方法について実践的に指導する。

到達目標

1. 研究計画に基づき研究活動を展開することができる。■
2. 調査結果を検討し、研究目的に基づいた考察ができる。■
3. 研究の成果を整理し、研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。■

使用教材

必要に応じて指示する

参考文献

必要に応じて指示する

評価方法

演習／課題の取り組み（30％）、ディスカッションにおける発言内容（30％）、研究活動の貢献度（40％）として、60％以上を合格とする

課題・評価に対するフィードバック方法

演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。

オフィスアワー

月曜2時限 （514研究室）

メールアドレス（#→@）

tomita-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

グループや各自の目標・テーマ等に沿って、企画や研究を行い、実践活動や研究成果を共有しながら進めていく。最終的には社会福祉学科研究発表会にて研究成果の発表を行う。■

【予習】毎回指示する

【予習時間】毎8h

【復習】毎回指示する

【復習時間】毎8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅳ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT404

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

青木 尚人

科目に関連した実務経験

政令指定都市自治体職員(社会福祉職)として、生活保護現業員、知的障害者生活支援施設生活支援員、精神保健福祉相談員の3か所計9年従事。

(社会福祉士、精神保健福祉士取得済)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

本演習では、「行政ソーシャルワーカーのやりがい」に焦点を当てる。行政ソーシャルワーカーは事務とソーシャルワークの両輪で仕事をしている。民間セクターとは異なる構造の中で実践する行政ソーシャルワーカーはどのようにして自分を保ちながら実践をしているのか。ソーシャルワーカーへの聞き取りや、フィールドワークを通じて「やりがいとは何か」を

解明する。

行政での実践をより理解するために、個人の要望に合わせ福祉事務所や児童相談所といった機関と協働する機関にも着目する。個人の取り組みの報告を上達できるようにプレゼンテーションスキルの向上を目指す。レジユメの作成方法や、スライドの構成・作成方法、発表方法について指導する。

フィールドワークでは次の機関に訪問することを検討している。

(福祉事務所、児童相談所、社会福祉協議会、女性自立支援施設、独立型社会福祉士事務所、少年院、東京拘置所など)

到達目標



- 1.行政機関の役割を理解することができる。■
 - 2.自分の関心のある領域における行政ソーシャルワーカーの意義を理解する。■
 - 3.研究活動の内容を研究発表会で報告し、質疑を受ける。
- 4年次の最後にはパワーポイントを作成して自分自身の研究報告を行う。

使用教材



必要に応じて指示する

参考文献



必要に応じて提示する

評価方法



授業における発言内容（40%）、研究計画の妥当性（30%）、研究活動への貢献度（30%）を総合して評価する。
(授業中に必ず一度は発言をすること)

課題・評価に対するフィードバック方法



提出された課題については、コメントを付け返却を行なう。

オフィスアワー



適宜行う。

(面談を行う場合は必ず事前にメールにて予約をすること)

メールアドレス（#→@）



aoki-n#takasaki-u.ac.jp

メールを送る際は「学籍番号 氏名」を表題に付けた上で送ること。

授業計画表



初回に研究活動についてのオリエンテーションを行う。

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 毎1.5h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 毎1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



当ゼミはフィールドワーク、文献輪読を行うため、報告、連絡、相談は密に行う必要がある。
(無断欠席は単位習得不可とする)

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅳ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT404

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

加藤 大輔

科目に関連した実務経験

医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）として病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①医療福祉、医療ソーシャルワーカーの実践についてテーマを設定し、医療ソーシャルワーカーの専門性や役割を理解する。また実践の基盤となる価値、医療・福祉に関する専門知識・援助技術を身に着ける。活動を通じ、企画、研究、プレゼンテーションにかかわる力量を養う。

②学生の問題意識を基に文献調査、実践理解を意図した企画などを実施し、学習内容のゼミ内での発表、討議により、理解を深めていく。

到達目標

- 1.医療分野における福祉の役割を理解することができる■
- 2.研究活動の展開について理解することができる
- 3.研究成果をゼミでの討論により整理できる
- 4.研究成果を研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。

使用教材

必要に応じて指示する

参考文献

必要に応じて指示する

評価方法

ゼミ内での研究発表、活動内容、研究活動への貢献度により総合的に評価する（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う

オフィスアワー

火曜4限 5階515研究室

メールアドレス（#→@）

kato-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによっては現任者の実践理解を意図した企画を行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。■

【予習】 毎回指示する

【予習時間】 8h

【復習】 毎回指示する

【復習時間】 8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



総合演習Ⅳ

MYカモクに追加

英文名：Seminar in Advanced Studies Ⅳ

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT404

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

一柳大輔

科目に関連した実務経験

コミュニティソーシャルワークの実践主体としての社会福祉協議会に勤務経験有。実務を担当するとともに、ソーシャルワーカーの育成にも従事。現在、行政や社協、学校、団体の計画づくりや実践の企画・評価に携わっている。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①地域福祉実践を中心としてコミュニティソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。

②ゼミの運営は学生が主体的に協力しながら運営する。研究・実践活動は、歴代のゼミの先輩が実践してきた内容＝ふれあ

い・いきいきサロン、大類地域福祉教育の会運営、赤い羽共同募金などの企画・運営・振り返りをベースとする。教員は自身の研究テーマと教育スタンスにより、フィールドの実践やアドバイスを行う。

到達目標

1. 現地演習を通じて、地域住民や団体が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。■
2. 現地演習を通じて、地域団体の運営方法や事業の企画、広報、連絡調整の技術を修得する。■
3. コミュニティソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。■
4. ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。■

使用教材

テキストは使用しない。

参考文献

その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付する。

評価方法

①専門分野における演習の取り組み（40%）、②地域課題への取り組み（30%）、③グループ学習による取り組み（30%）、による専門的な学修、知識の獲得等により評価する（計100%）。

課題・評価に対するフィードバック方法

質問や相談についてはClearningで適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。

オフィスアワー

質問や相談はClearning等で随時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

hitotsuyanagi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

地域福祉実践（地域福祉実践に関することなど）の企画、運営、準備、振り返り、研究を行う。社会福祉学科研究発表会等において研究成果を発表する。■（到達目標：1.2.3.4）

【予習】実践の準備、検討、資料作成等。

【予習時間】 8h

【復習】実践の振り返り、次の課題への準備等。

【復習時間】 8h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

- 授業時間には、授業時の活動のほか地域に向かいに行く実践時間も含まれます。
 - 国家試験受験の準備や就職活動の支援も適宜行います。
- 講義内容の■は実務経験に基づく内容を示めています。

印刷 

卒業研究（卒業論文）

MYカモクに追加

英文名：Seminars in Graduation Studies

科目区分：卒業研究及び演習

科目ナンバリング：SWT405

学年：4年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：4単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性

1 基礎的知識力

1 問題解決能力・コミュニケーション能力

1 学際的な視点から取り組む力

5 応用・実践する能力

1 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

学科教員

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①卒業研究は、4年間の講義や現場実習等の成果の集大成として、学生が自分で選択した分野に関わるテーマについてさらに深く研究し、その成果をまとめるものである。その過程を通じ、社会福祉の専門職として求められる研究能力や課題解決・改善能力を身につける。

②各自が研究テーマを設定し、研究計画を立案、文献検索や調査、フィールドワーク等さまざまな過程を経て、最終的には研究結果を論文としてまとめる。担当教員は適宜その内容についてレポート、あるいは口頭で発表、報告により論文作成に必要な指導を行う。

到達目標

- 1.社会福祉分野における課題を発見することができる。
- 2.発見した課題に対し研究計画を立案することができる。
- 3.立案した研究計画に基づき、課題についてさまざまな手法を用いて探求することができる。
- 4.研究の結果を論文としてまとめることができる

使用教材

研究の過程で適時指示する。

参考文献

研究の過程で随時紹介する。

評価方法

研究の過程で行う報告30%、提出された論文70%

課題・評価に対するフィードバック方法

研究の過程で随時行う。

オフィスアワー

総合演習Ⅰ～Ⅳと同様

メールアドレス（#→@）

メールアドレスは初回授業時に提示する

授業計画表

自ら選んだテーマをもとに研究計画を立案し、文献調査、フィールドワーク、アンケート調査に必要な準備と実施、評価、考察、結論をまとめ、論文を執筆する。

【予習】論文を執筆する過程に合わせて教員から課されたレポートなどを行うとともに、論文の執筆に必要な文献検索、フィールドワークやアンケートに必要な情報の整理を行う。

【予習時間】45h

【復習】授業内で指摘された内容をもとにレポートなどの加筆修正を行うとともに、研究に関連する文献、情報を整理して、論文に必要な情報収集と研究に必要な知識と技術を得る。

【復習時間】45h

合計時間（予習・復習）

90h

備考

履修を希望する学生は事前に担当教員（総合演習の担当教員）へ相談すること。

印刷



生涯学習社会と図書館

MYカモクに追加

英文名：Lifelong Learning Society and Library

科目区分：司書科目

科目ナンバリング：－

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- － 豊かな人間性
- － 基礎的知識力
- － 問題解決能力・コミュニケーション能力
- － 学際的な視点から取り組む力
- － 応用・実践する能力
- － 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

秋山 美和子

科目に関連した実務経験

地方公務員（管理職）として社会教育課、公共図書館に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ゲストスピーカー（司書、公民館主事など）による実践的な学習を実施。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、図書館と学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本について理解できることを目標とする。

②授業は教科書を中心とするが、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジュメに沿って進めていく。また、講義内容に合わせたグループワークまたはディスカッションを行い、課題の提出を求める。

到達目標

^

- 1.社会教育・生涯学習の役割と意義について理解する。■
- 2.生涯学習社会における図書館の役割について理解する。■
- 3.社会教育機関（図書館・博物館・公民館）、社会教育職員、委員等の役割について理解する。■

使用教材

^

馬場祐次朗執筆・編集代表『二訂 生涯学習概論』ぎょうせい ISBN 978-4-324-10464-4

参考文献

^

授業中に提示

評価方法

^

課題・ディスカッション・グループワーク60%、最終レポート・プレゼンテーション20%、授業貢献度等20%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

各授業終了時に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。

オフィスアワー

^

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

メールアドレス（#→@）

^

メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、社会教育、生涯教育、生涯学習について	1	シラバス、教科書の「はじめに」～第1章1を読んでおく。	1h	社会教育、生涯教育、生涯学習の違いについて理解し、説明できるようにする。	2h
2	生涯学習の意義と生涯学習振興施策■	1	教科書第1章2を読んでおく。	1.5h	生涯学習の意義は何か、どのような政策が実施されているのを理解する。	1.5h
3	生涯学習・社会教育の意義と特質■	1,2	教科書第2章1,2を読んでおく。	1.5h	生涯学習・社会教育に関する法律と国の答申（政策）の変遷を知り、現代社会に何が必要とされているのか理解する。	1.5h
4	生涯学習・社会教育の歴史的展開	1,2,3	教科書第2章3,4を読んでおく。	1.5h	生涯学習・社会教育の歴史を踏まえ、生涯学習社会における社会教育の今日的な意義と課題について理解する。	1.5h
5	生涯学習・社会教育行政の意義と役割■	1,2,3	教科書第2章5～7を読んでおく。	1.5h	生涯学習・社会教育行政を担う国及び地方公共団体の組織と役割について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	生涯学習・社会教育行政に関わる委員・団体■	1,2,3	教科書第2章8,10を読んでおく。	1.5h	生涯学習・社会教育行政の各種委員及び関係団体の役割について理解する。	1.5h
7	社会教育主事の役割と職務	1,3	教科書第2章9を読んでおく。 ゲストスピーカーが勤務する公民館の取組について調べ、ディスカッションできるように準備しておく。	2.5h	社会教育主事（士）、公民館主事の仕事の内容、意義について理解する。	0.5h
8	公民館の役割と機能	1,3	教科書第2章11,12を読んでおく。	1.5h	公民館の役割と機能について理解し、授業で紹介した取組事例についてさらに調べてみる。	1.5h
9	社会教育機関としての図書館の機能と役割■	1,2,3	教科書第2章13を読んでおく。任意の図書館の概要を調べ、発表の準備をしておく。	2h	社会教育機関としての図書館の役割と機能について理解し、授業で紹介され事例についてさらに調べてみる。	1h
10	生涯学習社会における図書館■	1,2,3	図書館における地域の課題解決型事業について調べ、ディスカッションできるように準備をしておく。	2.5h	図書館における読書活動以外の事業について知り、生涯学習社会における図書館の役割について理解する。	0.5h
11	公民館における読書活動■	1,2,3	公民館における読書活動について調べ、発表の準備をしておく。	2h	公民館図書室における読書活動についての理解を深め、公共図書館との連携協力について考える。	1h
12	図書館と他の社会教育機関との連携■	1,2,3	教科書第2章14,15を読んで、図書館と他の社会教育機関との連携について調べ、ディスカッションできるように準備しておく。	2.5h	MLA（博物館・図書館・文書館）連携をはじめとする社会教育機関との連携について理解する。	0.5h
13	生涯学習社会と家庭・学校・地域	1,2,3	教科書第3章を読んでおく。	1.5h	生涯学習社会における家庭・学校・地域の連携について理解し、読書活動の推進について考える。	1.5h
14	最終レポートのプレゼンテーション及びディスカッション	1,2,3	最終レポートを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。 最終レポートは事前に提出し、冊子を作成する。	2.5h	最終レポートについて学生同士でディスカッションした結果を踏まえ、生涯学習についての理解をさらに深める。	0.5h
15	講義のまとめ	1,2,3	教科書、配付資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理しておく。	2h	生涯学習社会における図書館の意義と役割について論述できるようにする。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業における発表、ディスカッションでは、積極的に発言することを期待する。

社会教育施設（図書館、博物館、美術館、公民館など）を積極的に活用して、理解を深めること。

※オンライン（オンデマンド）で授業を行う場合

①教材のデータを授業日の前日までにC-learningに配信する。

②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートをC-learningで提出する。

③レポートの提出をもって「出席」とする。

■：実務経験に基づく内容を示す。

図書館概論

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Librarianship

科目区分 : 司書科目

科目ナンバリング : -

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 豊かな人間性
- 基礎的知識力
- 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 学際的な視点から取り組む力
- 応用・実践する能力
- 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

秋山 美和子

科目に関連した実務経験

地方公務員（管理職）として公共図書館に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①図書館情報学の入門として、図書館の歴史、社会的意義、機能、役割、組織の運営、図書館の課題と展望までを概観し、図書館とは何かを理解できるようにする。

②授業は教科書を中心とするが、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジュメに沿って進めていく。また、講義内容に合わせたグループワークまたはディスカッションを行い、課題の提出を求める。

到達目標

^

- 1.図書館の社会的意義、機能、役割等について論述できるようにする。■
- 2.図書館の歴史から将来展望までを、社会の変化に合わせて理解する。■
- 3.図書館の組織と運営について理解する。■

使用教材

^

高山正也・岸田和明編著『改訂 図書館概論』樹村房 ISBN 978-4-88367-271-4

参考文献

^

今まど子[ほか]編著『図書館情報学基礎資料 第5版』樹村房 ISBN 978-4-88367-386-5

評価方法

^

課題レポート2回40%、最終レポート・プレゼンテーション30%、授業貢献度等30%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

各授業終了時に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次の講義で解説する。

オフィスアワー

^

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

メールアドレス（#→@）

^

メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、図書館の社会的意義	1	シラバス、教科書の監修者の言葉から1章1,2までを読んでおく。	1h	図書館の社会的意義について理解する。	2h
2	図書館の歴史（西洋・日本）	1,2	教科書第1章3を読んでおく。	1.5h	図書館の歴史と社会の変化を、関連づけて考えられるようにする。	1.5h
3	図書館の情報資源■	1,3	教科書第2章1,2を読んでおく。	1.5h	図書館の情報資源を知り、図書館の機能とサービスの基本的な考え方について理解する。	1.5h
4	図書館サービス（1）パブリックサービス■	1,3	教科書第2章3を読み、図書館の利用者サービスについて調べ、発表の準備をしておく。	2h	利用者への直接サービス（パブリックサービス）について理解する。図書館を利用し、確認してみる。	1h
5	図書館サービス(2)テクニカルサービス■	1,3	教科書第2章4を読んでおく。	1.5h	直接サービス（パブリックサービス）を支える間接的な業務（テクニカルサービス）について理解する。	1.5h
6	図書館の自由に関する宣言(1)宣言と図書館員の倫理綱領■	1,2,3	教科書第2章5を読んでおく。	1.5h	図書館の自由に関する宣言等が制定された社会的背景や意義を理解し、図書館員のあるべき姿について考える。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	図書館の自由に関する宣言(2)事例検討 ■	1,2,3	図書館の自由に関する事例を調べ、ディスカッションの準備をしておく。	2.5h	図書館の自由に関する宣言が、図書館業務にどのように関連しているか理解を深める。	0.5h
8	公共図書館 ■	1,2,3	教科書第3章1を読んでおく。自分が興味・関心のある公共図書館について調べ、発表の準備をしておく。	2h	公共図書館の機能と役割について理解する。	1h
9	公共図書館の歴史的展開 ■	1,2,3	教科書第3章2を読んでおく。公共図書館の読書週間の取組について調べ、発表の準備をしておく。	2h	現代における公共図書館の変遷と、図書館改革の動きについて理解する。	1h
10	図書館の職員と組織 ■	1,2,3	教科書第10章1,2読んでおく。	1.5h	図書館の組織及び職員（体制、職務、資質向上に関すること）について理解する。	1.5h
11	図書館の施設・設備 ■	1,2,3	教科書第5章3を読んでおく。施設・設備の点で優れた図書館を調べ、発表の準備をしておく。	2h	実際に公共図書館を訪問して施設・設備について調査し、理解を深める。	1h
12	各種図書館（国立図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館） ■	1,2,3	教科書第4章を読んでおく。大学図書館を利用して概要を把握しておく。	1.5h	各種図書館の特質を知り、各図書館のウェブサイトを利用して理解を深める。	1.5h
13	図書館に関係する機関・団体 ■	1,2,3	教科書第6章を読んでおく。	1.5h	図書館関連団体、その他の関連組織・団体等、出版・取次・書店の制度について理解する。	1.5h
14	最終レポートのプレゼンテーション及びディスカッション	1,2,3	最終レポートを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。最終レポートは事前に提出し、冊子を作成する。	2.5h	最終レポートについて学生同士でディスカッションした結果を踏まえ、テーマについての理解をさらに深める。	0.5h
15	講義のまとめ	1,2,3	教科書、配付資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理しておく。	2h	図書館とは何かを自ら考え、論述できるようにする。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業における発表、ディスカッションでは、積極的に発言することを期待する。
 できるだけ多くの図書館を訪ねたり、インターネットで検索したりして実際に体験してみること。
 ※オンライン（オンデマンド）で授業を行う場合
 ①教材のデータを授業日の前日までにC-learningに配信する。
 ②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートをC-learningで提出する。
 ③レポートの提出をもって「出席」とする。
 ■：実務経験に基づく内容を示す

印刷 

図書館制度・経営論

MYカモクに追加

英文名：Introduction to Library Administration and Management

科目区分：司書科目

科目ナンバリング：－

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- － 豊かな人間性
- － 基礎的知識力
- － 問題解決能力・コミュニケーション能力
- － 学際的な視点から取り組む力
- － 応用・実践する能力
- － 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

秋山 美和子

科目に関連した実務経験

地方公務員（管理職）として公共図書館に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○		○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①司書として必要な図書館に関する法律、自治体行政の制度・図書館政策について学ぶ。また、「図書館学は実学である」という視点に立ち、できる限り実際の図書館の状況を交えながら図書館経営の考え方、職員、施設・設備等の経営資源、サービス計画、調査と評価、管理形態等について解説する。

②授業は、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジュメに沿って進めていく。本講義では使用教材を指定しな

いが、参考文献として提示された資料については積極的に活用して学習を進めること。また、講義内容に合わせたグループワークまたはディスカッションを行い、課題の提出を求める。公共図書館でフィールドワークを実施する。

到達目標

- 1.図書館に関する法制度、自治体行政の制度・政策について理解する。■
- 2.図書館の理念を踏まえ、それが実際の図書館の運営にどのように反映されているか理解する。■
- 3.図書館職員の職務を学び、経営的な視点を身につける。■

参考文献

糸賀雅児・葉袋秀樹編集『図書館制度・経営論』樹村房 ISBN 978-4-88367-202-8
今まど子[ほか]編著『図書館情報学基礎資料 第5版』樹村房 ISBN 978-4-88367-386-5

評価方法

課題レポート2回40%、最終レポート・プレゼンテーション30%、授業貢献度等30%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

各授業終了時に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

メールアドレス（#→@）

メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、図書館における制度と経営■	1		0h	図書館における制度と経営を学ぶ必要性を理解する。	3h
2	図書館制度の概観■	1,2	図書館関係の法体系について調べておく。	1.5h	図書館関係法規の体系等を理解する。	1.5h
3	図書館に関する法制度（1）日本国憲法、教育基本法、社会教育法■	1,2	「日本国憲法」の基本的人権に関する条文及び「教育基本法」、「社会教育法」を読んでおく。	1.5h	図書館法の上位法を理解する。	1.5h
4	図書館に関する法制度（2）図書館法■	1,2	「図書館法」を読んでおく。	1.5h	図書館関係法規と図書館法の関係について確認し、図書館の役割と機能について理解する。	1.5h
5	読書活動に関する法制度■	1,2	「子ども読書活動推進法」及び「文字活字文化振興法」を読み、公共図書館で行われている事例を調べてディスカッションできるように準備する。	2.5h	子どもの読書活動の推進に関する法規等の成立過程及びその意義を理解する。	0.5h
6	図書館サービス及び経営関係の法制度■	1,2	「著作権法」の該当箇所及び「公共サービス基本法」を読んでおく。	1.5h	図書館サービスや経営に関連した法規を理解する。著作権法については、ICTの進展と関連づけて考えられるようにする。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	図書館の組織と職員 ■	1,2,3	図書館の職員に関する記事を取り上げ、関連する文献・資料などで調べ、ディスカッションの準備をしておく。	2.5h	図書館を運営していくための組織、職員体制、職員の役割について理解する。	0.5h
8	図書館長の役割 ■	1,2,3	図書館長論に関する資料を読み、ディスカッションの準備をしておく。	2.5h	図書館長論を参考に、図書館経営における館長の役割について考える。	0.5h
9	図書館の管理形態の多様化 ■	1,2,3	任意の公共図書館の管理形態について調べ、発表の準備をしておく。	2h	図書館の管理形態の多様化について理解する。	1h
10	図書館と指定管理者制度	1,2,3	指定管理者制度を導入している図書館について調べ、ディスカッションの準備をしておく。	2.5h	図書館の管理形態の多様化により、図書館サービスがどのように変化したかを理解する。	0.5h
11	公共図書館以外の図書館（1）国立図書館、学校図書館	1,2,3	「国立国会図書館法」「学校教育法」「学校図書館法」を読んでおく。	1.5h	国立図書館及び学校図書館の意義と役割について理解する。	1.5h
12	公共図書館以外の図書館（2）大学図書館、専門図書館	1,2,3	専門図書館の種類について調べておく。	1.5h	大学図書館及び専門図書館の意義と役割について理解する。	1.5h
13	日本の出版・流通・書店	1,2,3	日本の出版・流通・書店の課題について調べ、ディスカッションの準備をしておく。	2.5h	日本の出版・流通・書店の課題が、図書館とどのように関連するのか理解する。	0.5h
14	最終レポートのプレゼンテーション及びディスカッション	1,2,3	最終レポートを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。	2.5h	ディスカッションした結果を踏まえ、テーマについての理解をさらに深める。	0.5h
15	講義のまとめ	1,2,3	配付資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理しておく。	2h	図書館の制度・経営論について自ら考え、論述できるようにする。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業における発表、ディスカッションでは、積極的に発言することを期待する。

できるだけ多くの図書館を訪ねたり、インターネットで検索したりして実際に体験してみること。フィールドワークには積極的に参加すること。

※オンライン（オンデマンド）で授業を行う場合

- ①教材のデータを授業日の前日までにC-learningに配信する。
- ②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートをC-learningで提出する。
- ③レポートの提出をもって「出席」とする。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷 

図書館情報技術論

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Library Service Technology

科目区分 : 司書科目

科目ナンバリング : -

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 豊かな人間性
- 基礎的知識力
- 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 学際的な視点から取り組む力
- 応用・実践する能力
- 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田村 拓郎

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○			○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①近年の情報機器の多様化や進歩には目覚ましいものがある。図書館においてもCD、DVD、コンピュータソフトなどの多様なメディアやコンピュータに代表される各種の情報機器が整備されてきている。また、これらの図書館資料にネットワーク情報資源を加えて、図書館情報資源としてとらえる必要がある。図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説し、利用法について学修する。

②授業では、教員が各回の内容を教材や実演を通じて説明し、学生は指示された課題を実施しファイルにまとめて提出する。

到達目標

- 1.図書館業務やサービスに必要な、情報機器やコンピュータシステムの知識を習得できる。
- 2.実際にコンピュータ等を利用し検索などができる。

使用教材

『図書館情報技術論』 二村健・齋藤ひとみ 編著 学文社 2012年

評価方法

課題提出状況（70%）、学習姿勢（30%）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題発表を行い、受講生同士の質疑応答を行なう。

オフィスアワー

火曜日3, 4限
(研究室1号館6階604)

メールアドレス（#→@）

tamura-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義全体のガイダンス		シラバスを確認しておく。	0h	講義内容・到達目標・学位授与方針・成績評価方法などを理解する。	0.5h
2	コンピュータとネットワークの基礎	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	0.5h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
3	LANの構成、プロトコル	1	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
4	コンピュータシステムの管理	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	0.5h	授業の課題の再確認を行い、発表の準備をする。	1h
5	データベースの仕組み	1	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
6	図書館業務システムの仕組み	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
7	図書館における情報技術活用の現状	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
8	電子資料	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
9	電子資料の管理技術	1	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
10	電子図書館とデジタルアーカイブ	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
11	情報技術と社会	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
12	インターネットと図書館	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
13	最新の情報技術と図書館	1	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	Web2.0とLibrary 2.0	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
15	展望、まとめ	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	4h

合計時間（予習・復習）

42.5h

備考

予習・復習の時間は参考程度であり、自らの習熟状況をふまえ各自で補完すること。

印刷



図書館サービス概論

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Library Services

科目区分 : 司書科目

科目ナンバリング : -

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 豊かな人間性
- 基礎的知識力
- 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 学際的な視点から取り組む力
- 応用・実践する能力
- 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

秋山 美和子

科目に関連した実務経験

地方公務員（管理職）として公共図書館に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①図書館サービスの意義と理念を踏まえて歴史的な変遷を概観し、現状の課題を理解した上で今後の図書館サービスのあり方について考察する。

②授業は教科書を中心とするが、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジュメに沿って進めていく。また、講義内容に合わせたグループワークまたはディスカッションを行い、課題の提出を求める。

到達目標

↑

- 1.公立図書館が行っているサービスの意義を理解する■
- 2.図書館サービスの歴史的経緯と背景を理解する■
- 3.図書館サービスの基本を理解する■

使用教材

↑

高山正也[ほか]編著『図書館サービス概論』樹村房　ISBN 978-4-88367-294-3

参考文献

↑

今まど子[ほか]編著『図書館情報学基礎資料　第5版』樹村房　ISBN 978-4-88367-386-5

竹内慈編訳『図書館のめざすもの　新版』日本図書館協会　ISBN 978-4-8204-1410-0

評価方法

↑

課題・ディスカッション・グループワーク70%、授業貢献度等30%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

各授業終了時に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。

オフィスアワー

↑

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

メールアドレス（#→@）

↑

メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、図書館のめざすもの	1,3	シラバス、教科書の監修者の言葉から序文までを読んでおく。	1.5h	「図書館のめざすもの」を理解する。	1.5h
2	図書館サービスの意義と理念■	1,2,3	教科書第1章を読んでおく。	1.5h	図書館サービスの理念について理解し、図書館サービスの高度化について考察する。	1.5h
3	公共図書館サービスの変遷(1)1945年～1970年代	1,2,3	教科書第2章1,2を読み、日野市立図書館について調べ、ディスカッションできるように準備しておく。	2.5h	戦後の復興から『市民の図書館』の時代までの公共図書館サービスの変遷を理解する。	0.5h
4	公共図書館サービスの変遷(2)1980年代～現代■	1,2,3	教科書2章3,4,5を読み、武雄市立図書館について調べ、ディスカッションできるように準備しておく。	2.5h	社会の変化に伴う公共図書館サービスの変遷と現代的な課題について理解する。	0.5h
5	図書館サービスとコンプライアンス■	1,3	教科書第3章を読み、最近の図書館に関わる著作権法改正の動向について調べておく。	2h	知識のデジタル化・オープン化とコンプライアンスについて理解する。	1h
6	資料提供サービス■	1,3	教科書第4章を読み、図書館で各種サービスを利用してディスカッションできるように準備しておく。	2.5h	資料提供サービスを体験的に理解する。	0.5h
7	情報提供サービス■	1,3	教科書第5章を読み、国立国会図書館ウェブサイトを利用してみ	1.5h	情報サービスの種類と内容について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			る。			
8	図書館サービスの協力と連携(1)図書館間の協力・連携■	1,3	教科書第6章を読んでおく。	1.5h	図書館間におけるさまざまな連携事例について理解する。	1.5h
9	図書館サービスの協力と連携(2)他機関との協力・連携■	1,3	図書館と他機関との協力・連携の事例について調べ、ディスカッションできるように準備しておく。	2.5h	図書館と他機関が連携することにより、図書館サービスの向上につながることを理解する。	0.5h
10	先進的な図書館サービス(1)海外	1,3	先進的な図書館サービス(世界)を調べ、発表できるように準備しておく。	2.5h	発表された事例をさらに調べ、理解を深める。	0.5h
11	先進的な図書館サービス(2)国内■	1,3	先進的な図書館サービス(日本)を調べ、発表できるように準備しておく。	2.5h	発表された事例をさらに調べ、理解を深める。	0.5h
12	課題解決支援■	1,3	教科書第7章を読み、課題解決支援サービスの実践例を調べ、ディスカッションできるように準備しておく。	2.5h	実践事例をさらに調べ、理解を深める。	0.5h
13	図書館の利用に困難のある人へのサービス(障害者・高齢者)■	1,3	教科書第8,9章を読んでおく。	1.5h	図書館利用に困難を抱える人の特性を理解し、図書館サービスのあり方について考察する。	1.5h
14	利用者とのコミュニケーション■	1,3	教科書第10章を読んでおく。	1.5h	さまざまな状況での利用者とのコミュニケーションのあり方について理解する。	1.5h
15	図書館サービスの課題と展望■	1,2,3	教科書第11章を読んでおく。	1.5h	図書館サービスの今日的な課題に対する理解を深め、展望について考察する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業における発表、ディスカッションでは、積極的に発言することを期待する。
 できるだけ多くの図書館を訪ねたり、インターネットで検索したりして実際に体験してみること。
 ※オンライン（オンデマンド）で授業を行う場合
 ①教材のデータを授業日の前日までにC-learningに配信する。
 ②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートをC-learningで提出する。
 ③レポートの提出をもって「出席」とする。
 ■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

情報サービス論

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Information Services

科目区分 : 司書科目

科目ナンバリング : -

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 豊かな人間性
- 基礎的知識力
- 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 学際的な視点から取り組む力
- 応用・実践する能力
- 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

秋山 美和子

科目に関連した実務経験

地方公務員（管理職）として公共図書館に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①図書館における情報サービスの意義を理解し、情報サービスの種類と方法、情報資源、図書館利用教育、発信型情報サービスを理解する。

②授業は教科書を中心とするが、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジュメに沿って進めていく。実際の図書館における情報サービスを想定して、インターネット上の情報資源と図書館のレファレンス資料を用いて課題を解く。随時グループワーク、ディスカッションを行い、課題への理解を深める。

到達目標



- 1.図書館における情報サービスの意義を理解する■
- 2.情報サービスの種類と内容を理解する■
- 3.各種情報源の特徴と利用法を理解する■
- 4.レファレンスサービスの実際を理解する■
- 5.図書館利用教育や発信型情報サービスの意義を理解する■

使用教材



竹之内禎編著『情報サービス論』学文社 ISBN978-4-7620-3318-6

参考文献



山口真也〔ほか〕編著『情報サービス論』ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-08258-2

山崎久道編『情報サービス論』樹村房 ISBN978-4-88367-295-0

長澤雅男〔ほか〕共著『問題解決のためのレファレンスサービス 改訂版』日本図書館協会 ISBN978-4-8204-2305-8

評価方法



課題、制作物70%、授業貢献度等30%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



各授業終了後に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。

オフィスアワー



質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

メールアドレス（#→@）



メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス 情報社会と図書館の情報サービス■	1	シラバス、教科書第1章を読んでおく。	1h	情報社会における図書館の情報サービスの意義と役割について理解する。	2h
2	図書館における情報サービスの種類■	1,2	教科書第2章を読んでおく。	1.5h	直接サービス、間接サービス、課題異解決型の情報サービスについて理解する。	1.5h
3	図書館における情報サービスの理論的展開■	1,2	教科書第3章を読んでおく。	1.5h	図書館における情報サービスの捉え方の変遷を理解する。	1.5h
4	レファレンスサービスの理論と実践■	2,4	教科書第4章を読んでおく。	1.5h	参考業務の業務構成と参考質問の類型を理解する。	1.5h
5	レファレンスサービスの実際■	2,4	教科書第5章を読んで、「発想ひまわり」の活用の仕方について理解しておく。	1.5h	「発想ひまわり」を活用した情報資源へのアクセスの方法を理解する。	1.5h
6	各種情報資源の特質と利用法(1)情報メディア・文献を探す■	1,2,3	教科書第7章を読んでおく。	1.5h	情報メディア・文献調査の種類と特性を理解して活用できるようにする。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	各種情報資源の特質と利用法(2)論文・記事を探す■	1,2,3	教科書第8章を読んでおく。	1.5h	論文・記事調査の種類と特性を理解して活用できるようにする。	1.5h
8	各種情報資源の特質と利用法(3)事項・事実を探す■	1,2,3	教科書第9章を読んでおく。	1.5h	事項・事実調査の種類と特性を理解して活用できるようにする。	1.5h
9	情報検索サービスの理論と方法	1,2,3	教科書第6章を読んでおく。	1.5h	論理演算子とトランケーションについて理解する。	1.5h
10	各種情報源の評価と解説・組織化■	1,2,3,4	教科書第10,11章を読んでおく。	1.5h	レファレンスブックの評価と解説、組織化の意義と役割について理解する。	1.5h
11	発信型情報サービスの意義と方法(1)ソーシャルメディアを活用した発信型情報サービス■	1,2,5	教科書第12章を読み、ソーシャルメディアを活用した発信型情報サービスを体験して、ディスカッションの準備をしておく。	2h	ソーシャルメディアを活用した発信型情報サービスの種類と特性について理解する。	1h
12	発信型情報サービスの意義と方法(2)ライブラリーナビ■	1,2,5	ライブラリーナビ作成の準備をしておく。	2h	ライブラリーナビを作成し、情報サービスへのアクセス方法を発信する意義を理解する。	1h
13	図書館利用教育と情報リテラシーの育成(1)図書館利用案内■	1,2,5	教科書第14章を読み、「図書館利用案内」作成の準備をしておく。	2.5h	「図書館利用案内」の意義と活用方法について理解する。	0.5h
14	図書館利用教育と情報リテラシーの育成(2)オリエンテーションプログラム■	1,2,5	「図書館利用案内」を活用したオリエンテーションプログラムの発表の準備をしておく。	2.5h	図書館における図書館利用教育と情報リテラシー育成を理解する。	0.5h
15	情報サービスにかかわる知的財産権の基礎知識■	1,2,3,4,5	教科書第13章を読んでおく。	1.5h	知的財産権、パブリックドメインについて理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業における発表、ディスカッションでは、積極的に発言することを期待する。

図書館のさまざまな情報資源を実際に活用して、理解を深めること。

※オンライン（オンデマンド）で授業を行う場合

①教材のデータを授業日の前日までにC-learningに配信する。

②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートをC-learningで提出する。

③レポートの提出をもって「出席」とする。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



児童サービス論

MYカモクに追加

英文名：Library Service for Children

科目区分：司書科目

科目ナンバリング：－

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- － 豊かな人間性
- － 基礎的知識力
- － 問題解決能力・コミュニケーション能力
- － 学際的な視点から取り組む力
- － 応用・実践する能力
- － 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小柳 聡美

科目に関連した実務経験

学校図書館司書として公立小中学校に勤務（現在）
教務職員として進学塾に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①児童サービス（対象は乳幼児からヤングアダルトまで）の概要と意義、担当者の専門的職務、歴史的変遷と発展内容、児童資料の特色と選択、発達と学習への「読書」の役割、児童コレクションの形成と管理、さらにヤングアダルトサービスの概要と資料の特色を認識する。

②生涯学習の一環としての児童サービスの重要性を理解するとともに、どのようにすれば子ども達に読書の楽しさと喜びを

伝えられるかについて学ぶ科目です。特に各自がオリジナルの図書館案内を作成することによって、児童サービスの内容を認識でき、キャリアプランへの構築へと繋がります。

到達目標 ↑

- 1.公共図書館における児童サービスの重要性を理解する。
- 2.児童資料の類型について理解し、選択・評価できる。
- 3.公共図書館を利用する児童のニーズを理解し、対応できる能力を身につける。■
- 4.子どもと本を結びつけることの重要性を理解し、援助できる。

使用教材 ↑

『児童サービス論 新訂版』JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ6 堀川照代 編著
(日本図書館協会) ISBN9784820419099

参考文献 ↑

『児童サービス論』JAL図書館情報学テキストシリーズⅢ6 堀川照代 編著 (日本図書館協会) ISBN9784820413158

評価方法 ↑

筆記試験60%、オリジナル図書館案内（児童向け）の作成及び読み聞かせ発表30%、授業への参加態度10%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。なお詳しい評価基準は、初回講義時に提示する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

提出物は講義内で発表時間を設け、講評する。
筆記試験の意図は、第1回の講義で説明する。

オフィスアワー ↑

質問には講義開始前もしくは終了後に教室等で応じます。

メールアドレス（#→@） ↑

連絡手段は初回に提示します。

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	児童サービスの概要と意義		シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。 なぜ司書資格を取得しようと考えたか、という点を交えて自己紹介が出来るようにしておく。	1.5h	教科書p.9～p.18を読む。	1.5h
2	児童サービス担当者の専門的職務	1	教科書p.19～p.35に目を通す。	1.5h	児童サービス担当者の専門性を理解する。 教科書p.254～p.261を読む。	1.5h
3	児童資料の類型	1,2	教科書p.36～p.38に目を通す。	1.5h	児童資料の形態と内容を理解する。	1.5h
4	児童資料の特色と選択1 絵本の種類とグレード	1,2	教科書p.39～p.44に目を通す。	1.5h	学んだ種類の絵本を、図書館等で探し、読む。	1.5h
5	児童資料の特色と選択2 児童文学・創作児童文学、昔話・伝承文学、詩	1,2	教科書p.45～p.54に目を通す。	1.5h	紹介された作品の中から1作品を選び、読む。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	児童資料の特色と選択3 ノンフィクション、レファレンスブック	1,2	教科書p.55～p.75に目を通す。	1.5h	レファレンスブックとは何か理解する。 図書館においてレファレンスブックの位置を確認する。	1.5h
7	児童資料の特色と選択4 児童資料の出版と流通	1,2	児童資料に限らず、現在の出版と流通について調べておく。	1.5h	児童資料の出版と流通について理解する。	1.5h
8	児童資料の特色と選択5 児童コレクションの形成と評価	1,2	教科書p.76～p.88に目を通す。	1.5h	児童コレクションの形成について理解し、評価できるようにする。	1.5h
9	児童サービスの業務1 資料提供サービス	1,3,4	教科書のp.89～p.94に目を通す。	1.5h	資料提供サービスについて理解する。	1.5h
10	児童サービスの業務2 情報サービス	1,3	教科書のp.95～p.100に目を通す。	1.5h	情報サービスについて理解する。	1.5h
11	児童サービスの業務3 乳幼児サービス	1,3	教科書のp.173～p.185に目を通す。	1.5h	乳幼児サービスについて理解する。	1.5h
12	児童サービスの方法・技術（読み聞かせとストーリーテリング）■	1,3,4	教科書のp.154～p.177に目を通す。	1.5h	次週、読み聞かせの実践で使用する絵本（1～3冊）と、ストーリーテリングしてみたい作品を選ぶ。	1.5h
13	絵本読み聞かせ指導■	1,4	選んだ絵本、作品を読む練習をする。	1.5h	読み聞かせの方法について理解する。	1.5h
14	ヤングアダルトサービスの概要と資料の特色	1,3	教科書p.186～p.204に目を通す。	1.5h	ヤングアダルトサービスとは何か理解する。	1.5h
15	まとめ 児童サービス 対象者向けオリジナル 図書館案内の提出・発表	1,3	図書館案内の作成。	1.5h	全講義の振り返り。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

可能であれば近隣の公共図書館を訪問し、現在の児童サービスの現状を実際に見聞すること。
基本的にはシラバスの順序に従って教科書を用い、講師オリジナルの内容説明資料や読み聞かせ実践資料を配信する。連絡・相談にも随時応じる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

情報サービス演習

MYカモクに追加

英文名：Practicum of Information Retrieval

科目区分：司書科目

科目ナンバリング：－

学年：3年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：4単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- － 豊かな人間性
- － 基礎的知識力
- － 問題解決能力・コミュニケーション能力
- － 学際的な視点から取り組む力
- － 応用・実践する能力
- － 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

秋山 美和子、田村 拓郎

科目に関連した実務経験

(秋山) 地方公務員（管理職）として公共図書館に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①「情報サービス論」の理論を基に情報サービスの設計から評価に至る各種の業務（レファレンスツールの選択、レファレンスプロセスの構築）や発信型情報サービスの評価等を体験し、実践的な能力を養成する。
- ②使用教材は指定せず、講義毎に配付するレジュメや参考資料に沿って進めていく。情報検索の課題についてはグループワークで発表、ディスカッションを行う。課された制作物については、プレゼンテーションを行い、意見交換する。この過程を通して、利用者の情報ニーズに即した図書館の情報サービスのあり方を理解し、実践できるようにする。

到達目標

^

- 1.情報サービスの設計とレファレンスコレクションの構築等の準備を理解する。■
- 2.情報検索の技法を理解し、インターネット情報を活用する。■
- 3.質問に対する検索と回答(質問分析と情報源の選択)をする。■
- 4.レファレンス質問をめぐる図書館利用者とのコミュニケーションを想定する。■
- 5.発信型情報サービスを行う。■
- 6.情報サービスの評価を行う。■

参考文献

^

原田智子『三訂 情報サービス演習』樹村房 ISBN978-4-88367-337-7
長澤雅男[ほか]共著『レファレンスブックス 選び方・使い方 四訂版』日本図書館協会 ISBN：978-4-8204-2001-9

評価方法

^

(秋山) 演習問題・制作物70%、授業貢献度等30%で評価する。
(田村) 毎回の課題80%、講義中の質疑応答等20%
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

(秋山) 各授業終了後に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。
(田村) 課題発表を行い、受講生も含めた質疑応答等を行う

オフィスアワー

^

(秋山) 質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。
(田村) 月曜日4,5限（研究室1号館6階604）

メールアドレス（#→@）

^

(秋山) メールアドレスは初回授業時に提示する。
(田村) tamura-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、前期講義の説明	1,2,3,4,5,6		0h	授業の課題に取り組み、発表資料を作成する。	3h
2	情報検索の方法(1) ウェブページ、ウェブサイト■	2,3	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題に取り組み、発表資料を作成する。	2h
3	情報検索の方法(2) 図書、新聞記事、雑誌記事■	2,3	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題に取り組み、発表資料を作成する。	2h
4	情報検索の方法(3) 言葉・事柄・統計■	2,3	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題に取り組み、発表資料を作成する。	2h
5	情報検索の方法(4) 歴史・日時・地理・地名・地図■	2,3	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題に取り組み、発表資料を作成する。	2h
6	情報検索の方法(5) 人物・企業・団体■	2,3	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題に取り組み、発表資料を作成する。	2h
7	情報検索の方法(6) 法令・判例・知的財	2,3	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題に取り組み、発表資料を作成する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	産系情報 ■					
8	レファレンスプロセスの検討 ■	1,2,3,4	レファレンス事例を調べ、質問のテーマを考えておく。	1h	レファレンスプロセスを考え、レファレンスツールを選択して発表資料を作成する。	2h
9	レファレンスプロセスの発表 ■	1,2,3,4,6	レファレンスプロセスの発表、ディスカッションのための準備をしておく。	2.5h	ディスカッションした結果を踏まえ、発表内容のふりかえりを行い、レファレンスプロセスについて理解を深める。	0.5h
10	発信型情報サービス(1)パスファインダーの意義 ■	1,5	発信型情報サービスの種類について調べておく。	2h	パスファインダーの意義について理解する。	1h
11	発信型情報サービス(2)パスファインダーの作成・評価 ■	1,5,6	パスファインダー作成のための準備をしておく。	2h	パスファインダーの作成・評価を通して、発信型情報サービスについて理解を深める。	1h
12	発信型情報サービス(3)POPの意義 ■	1,5	書店等に出向き、POPの役割、効果を調べておく。	2h	POPの役割、効果について理解する。	1h
13	発信型情報サービス(3)POPの作成・評価 ■	1,5,6	POP作成のための準備をしておく。	2h	POPの作成・評価を通して、発信型情報サービスについて理解を深める。	1h
14	発信型情報サービス(5)リンク集 ■	1,5,6	各種リンク集を調べておく。	1.5h	リンク集の意義と課題について理解する。	1.5h
15	講義のまとめ	1,2,3,4,5,6	配付資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理しておく。	2h	各種のレファレンスツールを適切に選択・活用し、情報サービスが行えるようにする。	1h
16	ガイダンス 後期講義説明	1,2,3,4,5,6	特になし	0h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
17	Web検索の概要	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
18	Webによる情報の収集1	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
19	Webによる情報の収集2	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
20	Webによる情報の収集3	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
21	論文検索の概要	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
22	論文検索	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
23	論文検索の実際1	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
24	論文検索の実際2	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
25	論文検索の実際3	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
26	論文検索のまとめ1	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
27	論文検索のまとめ2	1,2	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
28	情報サービスの現状	1,2,3,4	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
29	新しい発信型情報サービス	1,2,3,4,5	課題の発表の準備をする。	1h	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2h
30	講義のまとめ	1,2,3,4,5,6	課題の発表の準備をする。	1h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	3h

合計時間（予習・復習）

90h

備考

この科目は「情報サービス論」を履修していなければ受講できません
この科目は課題提出等で基本的なパソコンの操作が必要です。各自で習得しておいてください。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

図書館情報資源概論

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Library Information Resources

科目区分 : 司書科目

科目ナンバリング : -

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 豊かな人間性
- 基礎的知識力
- 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 学際的な視点から取り組む力
- 応用・実践する能力
- 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小柳 聡美

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①高度情報化社会の進展に伴い、図書館環境も大きく変わりつつある。ここでは、印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源について、類型と特質、選択・収集・保存等、図書館業務に必要な情報資源に関する知識の基本について理解できることを目標にする。

②授業では、テキストを単元ごとに読解し要約する。随時、図書館に関連する資料やニュースを紹介していく。

到達目標

- 1.多様化する図書館情報資源（印刷メディア）の有効活用を考えることができる。
- 2.多様化する図書館情報資源（非印刷メディア）の有効活用を考えることができる。

3.多様化する図書館情報資源（電子メディア）の有効活用を考えることができる。

使用教材

『図書館情報資源概論 新訂版』JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ8 馬場俊明 編著
(日本図書館協会) ISBN9784820418085

評価方法

筆記試験60%、授業時間内発表及び提出物30%、授業参加態度10%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。なお詳しい評価基準は、初回講義時に提示する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出物は講義内で発表時間を設け、講評する。
筆記試験の意図は、第1回の講義で説明する。

オフィスアワー

質問には講義開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回到に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	図書館情報資源概論について	1,2,3	シラバスを読んで、講義の目標などを理解する。	1.5h	UNIT 0を読み、図書館情報資源概論の学習計画を立てる。	1.5h
2	図書館情報資源の意義	1,2,3	教科書のUNIT 1～4に目を通す。	1.5h	図書館情報資源の定義と類型について理解する。	1.5h
3	印刷資料の類型と特質1	1	教科書のUNIT 5に目を通す。	1.5h	図書の特質を理解する。	1.5h
4	印刷資料の類型と特質2	3	教科書のUNIT 6～8に目を通す。	1.5h	雑誌・新聞等の特質を理解する。	1.5h
5	非印刷資料の類型と特質	3	教科書のUNIT 9～12に目を通す。	1.5h	各資料の特質を理解する。	1.5h
6	電子資料の類型と特質	3	教科書のUNIT 13～17に目を通す。	1.5h	電子メディアの特質を理解する。	1.5h
7	図書館情報資源と図書館の自由	1,2	教科書のUNIT 27～30に目を通す。	1.5h	表現の自由と検閲の問題を理解する。	1.5h
8	蔵書論	1,2	教科書のUNIT 31に目を通す。	1.5h	蔵書概念について理解する。	1.5h
9	蔵書論	1,2	教科書のUNIT 32～34に目を通す。	1.5h	蔵書の収集方針から更新までについて理解する。	1.5h
10	収集と選択	1,2	教科書のUNIT 35に目を通す。	1.5h	選書の意義について理解する。	1.5h
11	収集と選択	3	教科書のUNIT 36～38に目を通す。	1.5h	様々な選書論について理解する。	1.5h
12	蔵書管理	1,2,3	教科書のUNIT 39～43に目を通す。	1.5h	蔵書評価ができるように、基本知識を身につける。	1.5h
13	資料の組織化	1,2,3	教科書のUNIT 44～47に目を通す。	1.5h	資料組織化のための業務について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	書庫管理	1,2,3	教科書のUNIT 48～50に目を通す。	1.5h	蔵書点検の意義について理解する。	1.5h
15	まとめ・学習の整理と展望	1,2,3	キーワードについて確認する。	1.5h	近未来の図書館構想も視野に入れて理解を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



基本的にはシラバスの順序に従って教科書を用い、講師オリジナルの内容説明資料を配信する。連絡・相談にも随時応じる。

印刷



情報資源組織論

MYカモクに追加

英文名 : Introduction to Library Information Resources Organization

科目区分 : 司書科目

科目ナンバリング : -

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 豊かな人間性
- 基礎的知識力
- 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 学際的な視点から取り組む力
- 応用・実践する能力
- 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

秋山 美和子

科目に関連した実務経験

地方公務員（管理職）として公共図書館に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①情報資源の組織化の意義と内容を理解して説明することができ、実際の組織化業務に役立てられるようにする。
- ②授業は教科書を中心とするが、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジюмеに沿って進めていく。また、課題に合わせたグループワークまたはディスカッションを行い、講義内容の理解を深める。確認テストにより理解度を確認する。

到達目標



- 1.情報資源を組織化する意義と内容を理解して説明できるようにする。■
- 2.情報資源の組織化についての理論を理解し、実際の業務に役立てられるようにする。■

使用教材



榎本裕希子[ほか]著『情報資源組織論』学文社 ISBN978-4-7620-2889-2

参考文献



『日本目録規則 2018年版』日本図書館協会 ISBN978-4-8204-1814-6
『日本目録規則 1987年版改訂3版』日本図書館協会 ISBN978-4-8204-0602-7
もりきよし原著『日本十進分類法 新訂10版』日本図書館協会 ISBN978-4-8204-1413-1
もりきよし原著『日本十進分類法 新訂10版簡易版』日本図書館協会 ISBN978-4-8204-1807-8
『基本件名標目表 第4版』日本図書館協会 ISBN978-4-8204-2400-0

評価方法



課題・確認テスト70%、授業貢献度等30%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



各授業終了時に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。

オフィスアワー



質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

メールアドレス（#→@）



メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス 情報資源組織化の意義と理論	1	教科書第1章を読んでおく。	1.5h	情報資源の組織化の意義と図書館における情報資源組織化について理解する。	1.5h
2	書誌コントロールの標準化	1,2	教科書第2章を読んでおく。	1.5h	書誌コントロールの機能と標準化について理解する。	1.5h
3	書誌記述法■	1,2	教科書第3章を読んでおく。	1.5h	目録の種類、目録法、目録規則について理解する。	1.5h
4	日本目録規則（1）NCR2018年度版■	1,2	教科書第4章を読んでおく。	1.5h	NCR2018年版の概要について理解する。	1.5h
5	日本目録規則（2）書誌階層構造、属性の記録、アクセスポイント■	1,2	教科書第5章を読んでおく。	1h	書誌階層構造と記述のタイプ、体現体の属性の記録（図書）について理解する。	2h
6	主題分析の意義と考え方■	1,2	確認テストの準備のため、教科書第1章～第5章と配布資料を再確認しておく。教科書第6章を読んでおく。	2.5h	主題組織法と統制語について理解する。	0.5h
7	主題分析と索引法■	1,2	教科書第7章を読んでおく。	1.5h	索引法と主な統制語（シソーラス、件名標目表）について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	基本件名標目表 ■	1,2	教科書第8章を読んでおく。	1.5h	基本件名標目表の構成と件名規程について理解する。	1.5h
9	主題分析と分類法 ■	1,2	教科書第9章を読んでおく。	1.5h	図書館における分類について理解する。	1.5h
10	日本十進分類法 ■	1,2	教科書第10章を読んでおく。	1h	確認テストのため第6章から第10章までの教科書と配布資料を読み、復習しておく。	2h
11	書誌情報の作成と流通 ■	1,2	教科書第11章を読んでおく。	1.5h	MARC、書誌ユーティリティについて理解する。	1.5h
12	書誌情報の提供 ■	1,2	教科書第12章を読んでおく。	1.5h	OPACの管理と運用方法について理解する。	1.5h
13	ネットワーク資源と多様な情報資源の組織化 ■	1,2	教科書第13,14章を読んでおく。	1h	ネットワーク情報資源と多様な情報資源の組織化について理解する。	2h
14	課題と展望	1,2	確認テストの準備のため、第11章から第14章までの教科書と配布資料を再確認しておく。教科書第15章を読んでおく。	1.5h	情報資源組織の課題と展望について理解する。	1.5h
15	講義のまとめ	1,2	教科書、配付資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理しておく。	2h	情報資源の組織化の意義と内容を理解して、実際の組織化業務に役立てられるようにする。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業における発表、ディスカッションでは、積極的に発言することを期待する。
 実際に図書館を利用して資料の排架の様子、図書の請求記号の情報、OPACの検索結果の情報などを調べてみる。
 ※オンライン（オンデマンド）で授業を行う場合
 ①教材のデータを授業日の前日までにC-learningに配信する。
 ②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートをC-learningで提出する。
 ③レポートの提出をもって「出席」とする。
 ■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

情報資源組織演習

MYカモクに追加

英文名：Library Information Resources Organization Practice

科目区分：司書科目

科目ナンバリング：－

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：4単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- － 豊かな人間性
- － 基礎的知識力
- － 問題解決能力・コミュニケーション能力
- － 学際的な視点から取り組む力
- － 応用・実践する能力
- － 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

秋山 美和子

科目に関連した実務経験

地方公務員（管理職）として公共図書館に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①「情報資源組織論」の理論を基に情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

②各授業の前半は、教科書及び配付資料を使って要点をまとめ説明する。後半は、演習問題の検討をし、提出を求める。総合演習問題では、演習問題の解答をグループで発表し合い、内容を検討した上で、提出を求める。この過程を通して利用者の立場に立った資料・情報探索のニーズを考え、図書館のあり方を考える。項目ごとに確認テストを行う。

到達目標

- 『日本目録規則』に準拠し情報資源の書誌データの作成をする。■
- 『日本十進分類法』と『基本件名標目表』に準拠し、主題分析と分類作業・統制語彙の適用を行う。■

使用教材

宮沢厚雄著『目録法キイノート』（樹村房） ISBN978-4-88367-260-8

宮沢厚雄著『分類法キイノート』（樹村房） ISBN978-4-88367-343-8

参考文献

『日本目録規則 2018年版』（日本図書館協会） ISBN978-4-8204-1814-6

もりきよし原著『日本十進分類法 新訂10版』（日本図書館協会） ISBN978-4-8204-1413-1

もりきよし原著『日本十進分類法 新訂10版簡易版』（日本図書館協会） ISBN978-4-8204-1807-8

『基本件名標目表 第4版』（日本図書館協会） ISBN978-4-8204-2400-0

もりきよし著『日本著者記号表』（日本図書館協会） ISBN4-8204-7402-2

評価方法

演習問題・確認テスト70%、授業貢献度等30%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

各授業終了時に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

メールアドレス（#→@）

メールアドレスは初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、目録の意義、目録の種類■	1	教科書『目録法キイノート』第1章を読んでおく。	1h	目録の種類と書誌の種類をまとめる。	2h
2	日本目録規則■	1	教科書『目録法キイノート』第2章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	書誌事項のエリアを把握する。記述の情報源の優先順を理解する。	0.5h
3	タイトルと責任表示 (1) タイトル関連表示、並列タイトル、責任表示■	1	教科書『目録法キイノート』第3章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	責任表示の役割の種類を理解する。	0.5h
4	タイトルと責任表示 (2) 部編名、別タイトル、複数責任表示■	1	教科書『目録法キイノート』第4章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	部編名、別タイトル、複数作品を収録する図書の記述を理解する。	0.5h
5	タイトルと責任表示に関する総合演習問題■	1	教科書『目録法キイノート』第5章の演習問題を解き、発表の準備をしておく。	3.0h		0h
6	版表示、出版・頒布等の事項■	1	教科書『目録法キイノート』第6章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	版と刷、出版地の記述を理解する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	形態、注記、ISBN ■	1	教科書『目録法キイノート』第7章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	形態、注記、標準番号の記述を理解する。	0.5h
8	単行書に関する総合演習問題 ■	1	教科書『目録法キイノート』第8章の演習問題を解き、発表の準備をしておく。	3.0h		0h
9	書誌単位（1）出版形態、書誌単位、多冊ものの書誌記述 ■	1	教科書『目録法キイノート』第9章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	単行(基礎)単位と集合単位の記述を理解する。	0.5h
10	書誌単位（2）シリーズもの・セットもの、2層の書誌階層 ■	1	教科書『目録法キイノート』第10章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	シリーズものとセットものの記述を理解する。	0.5h
11	3層の書誌階層（1）集合・基礎・構成の書誌階層 ■	1	教科書『目録法キイノート』第11章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	単行（基礎）単位、集合単位、構成単位の3層の記述を理解する。	0.5h
12	3層の書誌階層（2）下位シリーズが加わった書誌階層 ■	1	教科書『目録法キイノート』第12章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	本シリーズと下位シリーズの構造の記述を理解する。	0.5h
13	書誌単位に関する総合演習問題 ■	1	教科書『目録法キイノート』第13章を読んで演習問題を解き、発表の準備をしておく。	3.0h		0h
14	目録法に関する総合演習問題 ■	1	確認テストの準備として第1章～13章までの授業内容を復習し、教科書『目録法キイノート』第14章を読んで演習問題を解いておく。	3h		0h
15	見出し項目の選出と編成 ■	1	教科書『目録法キイノート』第15章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	見出し項目の選出、表記、編成の記述について理解する。	0.5h
16	ガイダンス、分類記号の位置づけ、主題分析(1)分類記号付与の基本手順 ■	2	教科書『分類法キイノート』第1,2章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	主要な図書館分類法と『日本十進分類表』（本表）の見方を理解する。	0.5h
17	主題分析(2)本表（細目表）と階層構造 ■	2	教科書『分類法キイノート』第3章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	階層構造と本表（細目表）の見方を理解する。	0.5h
18	主題分析(3)主題の特定と相関索引 ■	2	教科書『分類法キイノート』第4章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	相関索引、分類記号付与、列举型項目の省略について理解する。	0.5h
19	補助表(1)形式区分 ■	2	教科書『分類法キイノート』第5章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	補助表、形式区分を理解する。	0.5h
20	補助表(2)地理区分・海洋区分 ■	2	教科書『分類法キイノート』第6章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	地理区分、日本地方区分、海洋区分を理解する。	0.5h
21	補助表(3)言語区分・言語共通区分 ■	2	教科書『分類法キイノート』第7章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	言語区分、言語共通区分を理解する。	0.5h
22	補助表(4)文学共通区分・地域的論述の細区分・その他の固有補助表 ■	2	教科書『分類法キイノート』第8章を読んで演習問題を解いておく。	2.5h	文学共通区分(固有補助表)と、地域的論述の細区分（固有補助表）、その他の固有補助表を理解する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
2 3	補助表に関する総合演習問題 ■	2	教科書『分類法キイノート』第9章の演習問題を解き、発表の準備をしておく。	3h		0h
2 4	分類規程(1)複数主題（対等と相互作用） ■	2	教科書『分類法キイノート』の第10章を読んで演習問題を解いておく。	2.5 h	複数主題（対等と相互作用）の分類規程を理解する。	0.5 h
2 5	分類規程(2)複数主題（重点処置）と原著作・関連著作 ■	2	教科書『分類法キイノート』の第11章を読んで演習問題を解いておく。	2.5 h	複数主題（重点処置）と原著作・関連著作の分類規程を理解する。	0.5 h
2 6	分類規程(3)伝記 ■	2	教科書『分類法キイノート』の第12章を読んで演習問題を解いておく。	2.5 h	伝記の分類規程を理解する。 分類法の心得25選を理解する。	0.5 h
2 7	分類規程に関する総合演習問題 ■	2	教科書『分類法キイノート』第13章の演習問題を解き、発表の準備をしておく。	3h		0h
2 8	分類法に関する総合演習問題 ■	2	確認テストの準備として第16回～第27回授業の内容を復習し、教科書『分類法キイノート』第14章の演習問題を解いておく。	3h		0h
2 9	請求記号 ■	2	教科書『分類法キイノート』第15章の演習問題を解いておく。任意の公共図書館の請求記号と排架場所について調べ、発表できるように準備しておく。	2.5 h	請求記号の中の分類記号、図書記号、補助記号、別置記号を理解する。	0.5 h
3 0	目録法・分類法のまとめ	1,2	教科書、配付資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理しておく。	2h	情報資源組織化に関する知識と技術を身につけ、実際に組織化できるようにする。	1h

合計時間（予習・復習）

90h

備考

この科目は「情報資源組織論」を履修していなければ受講できない。

各章の演習問題を解いて授業に臨むこと。

※オンライン（オンデマンド）で授業を行う場合

①教材のデータを授業日の前日までにC-learningに配信する。

②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートをC-learningで提出する。

③レポートの提出をもって「出席」とする。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

図書館サービス特論

MYカモクに追加

英文名 : Lecture on Library Services

科目区分 : 司書科目

科目ナンバリング : -

学年 : 3年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 豊かな人間性
- 基礎的知識力
- 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 学際的な視点から取り組む力
- 応用・実践する能力
- 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小柳 聡美

科目に関連した実務経験

学校図書館司書として公立小中学校に勤務（現在）
教務職員として進学塾に勤務（経験）

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①司書資格取得必修科目で学んだ内容を実際に司書業務の中に活かすには、カウンターサービス並びにフロアワークに必要なコミュニケーション能力を伸ばすことが不可欠である。特に日本人に固有なノンバーバル・コミュニケーションの理解と将来の超高齢化・少子化を考慮しながらのコミュニケーション能力の育成により、生涯学習としての図書館利用を促せるサ

ービス環境の構築を目指す。
②第2回より、導入で前回の講義内容を400字にまとめて発表してもらう。

到達目標 ↑

- 1.対人業務に必要なコミュニケーション能力を学び、その能力を具体的に修得できる。■
- 2.コミュニケーションの定義を正確に理解する。
- 3.多種多様な利用者に対し、円滑なコミュニケーションが実現できる対応力を身につける。■

使用教材 ↑

なし（講義内で適宜紹介）

参考文献 ↑

『コミュニケーション学入門』大田信男（大修館書店）
ISBN9784469211863

評価方法 ↑

筆記試験60%、授業時間内発表、及び提出物30%、授業参加態度10%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。なお詳しい評価基準は、初回講義時に提示する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

提出物は講義内で発表時間を設け、講評する。
筆記試験の意図は、第1回の講義で説明する。

オフィスアワー ↑

質問には講義開始前もしくは終了後に教室等で応じます。

メールアドレス（#→@） ↑

連絡手段は初回に提示します。

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コミュニケーションの必要性	1,2	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。 なぜ司書資格を取得しようと考えたか、という点を交えて自己紹介が出来るようにしておく。	2h	コミュニケーションとは何かを理解する。	2h
2	ノンバーバル・コミュニケーションのメッセージ性	1,2	ノンバーバル・コミュニケーションのメッセージ性について考える。	2h	バーバル・コミュニケーション、ノンバーバル・コミュニケーションとは何か理解する。	2h
3	マス・コミュニケーションと社会	1	マス・コミュニケーションと社会について考える。	1.5h	マス・コミュニケーション、マス・メディアとは何か理解する。	2h
4	若者文化とコミュニケーション	1,3	若者文化とコミュニケーションについて考える。	1.5h	（現在「若者」である）自分にとっての若者文化とは何か考察する。	2h
5	図書館サービスとコミュニケーションの関係	1	図書館における自身の「コミュニケーション」体験について発表できるように準備しておく。	1.5h	図書館において必要なコミュニケーションとは何か考察する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	カウンターサービスとフロアワークの目的と意義 ■	1	カウンターサービスとフロアワークについて考える。	1.5h	カウンターサービス、フロアワークとは何か、違いも含めて理解する。	1.5h
7	情報化の進展と図書館サービス	1	図書館サービスにおける情報の進展について考える。	2h	図書館における情報化の必要性について理解する。	2h
8	「モノ」と「コト」に付けられた「名前」	1	なぜ「名前」をつけるのか、について考える。	2h	全講義の振り返り。	2h

合計時間（予習・復習）



29h

備考



キーワード：「ノンバーバル・コミュニケーション」「フロアワーク」「カウンターサービス」「生涯学習」
基本的にはシラバスの順序に従って教科書を用い、講師オリジナルの内容説明資料を配信する。連絡・相談にも随時応じる。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



図書館情報資源特論

MYカモクに追加

英文名 : Lecture on Library Information Resources

科目区分 : 司書科目

科目ナンバリング : -

学年 : 3年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 豊かな人間性
- 基礎的知識力
- 問題解決能力・コミュニケーション能力
- 学際的な視点から取り組む力
- 応用・実践する能力
- 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小柳 聡美

履修を必須とする資格

司書

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①「図書館情報資源概論」で学んだ内容をさらに発展的に学習し理解を深める観点から、図書館情報資源に関する領域の課題を選択し、高度化・多様化する利用者のニーズに応えられることを目標にする。

②授業では、テキストを単元ごとに読解し要約する。随時、図書館に関連する資料やニュースを紹介していく。

到達目標

- 1.各分野の情報資源の特性を知る。
- 2.各分野の情報資源にアクセスできる。

使用教材

『図書館情報資源概論 新訂版』JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ8 馬場俊明 編著
(日本図書館協会) ISBN9784820418085 (前期「図書館情報資源概論」から継続使用)

評価方法

筆記試験60%、授業時間内発表及び提出物30%、授業参態度10%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。なお詳しい評価基準は、初回講義時に提示する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出物は講義内で発表時間を設け、講評する。
筆記試験の意図は、第1回の講義で説明する。

オフィスアワー

質問には講義開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	資料特論（灰色文献）	1,2	教科書UNIT 18に目を通す。	2h	灰色文献にアクセスし、理解を深める。	2h
2	資料特論（政府刊行物）	1,2	教科書UNIT 19に目を通す。	1h	政府刊行物にアクセスし、理解を深める。	1.5h
3	資料特論（地域資料）	1,2	教科書UNIT 20に目を通す。	1h	地域社会分野の情報資源にアクセスし、理解を深める。	1.5h
4	人文・社会科学分野の情報資源	1,2	教科書UNIT 21に目を通す。	1h	人文・社会科学分野の情報資源にアクセスし、理解を深める。	1.5h
5	自然科学・技術分野の情報資源	1,2	教科書UNIT 22に目を通す。	1h	自然科学・技術分野の情報資源にアクセスし、理解を深める。	1.5h
6	出版流通システム	1,2	教科書UNIT 23～26に目を通す。	1.5h	出版流通システムについて、理解を深める。	1.5h
7	NIE（教育に新聞を！）の活動報告	1,2	新聞を読む。	1.5h	新聞記事をスクラップにまとめることについて、理解を深める。	1.5h
8	まとめ・筆記試験	1	キーワードについて確認する。	2h	全講義を振り返る。	2h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

基本的にはシラバスの順序に従って教科書を用い、講師オリジナルの内容説明資料を配信する。連絡・相談にも随時応じる。

印刷 

